

江別市

西野幌12遺跡

一道立野幌総合運動公園用地内埋蔵文化財発掘調査報告書一

昭和63年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

例　　言

1 この報告書は北海道立野幌総合運動公園用地内における埋蔵文化財発掘調査のうち西野幌12遺跡に関するものである。

2 調査は、北海道教育委員会の指示により、北海道住宅都市部の委託を受けて、財團法人北海道埋蔵文化財センターが実施した。本書に記載の出土資料は北海道教育委員会が保管する。

3 本書の編集は調査部調査第一課が担当した。各章の執筆は I 谷島由貴、II 谷島由貴、III-1・2 高橋和樹、IV の H-5・P-214~222・TP-11 を工藤義衛、小ピットを高橋和樹、フレイク・チップ集中・焼土、その他の造構については、各調査担当者の造構日誌等に基づき谷島由貴が概要を記し、造構出土遺物のうち土器は高橋和樹、石器は谷島由貴が分担した。V-1 高橋和樹、V-2 谷島由貴、V-3 工藤義衛、VI 花岡正光（調査第四課）。

4 造構の実測は園部亜佐子・木下昭仁・中村芳子・南出洋子・和田千恵子・桂島キヨ子・田中（波川）静江・須貝尚樹・佐々木亜貴・鍋島直久ほか、各担当調査員がおこなった。遺物の写真は菊池恵人が担当した。造構図などのトレースは村上明美、遺物の実測・トレースは山田真理子・木下昭仁・小林晴美・鍋島直久、遺物の復元・拓本・集計・図版作成等は中嶋政子・小川順子・小島栄子、石器材質の肉眼的鑑定は、調査第四課花岡正光が行った。

5 造構の表記については、以下に示す記号を用い、確認順に番号を付した。

堅穴住居跡：H　　土壇・土壙墓：P　　Tピット：TP

実測図の縮尺は以下のとおりである。

堅穴住居 1:60 & 1:40、土壇 1:40、Tピット 1:40、炉跡 1:40

土器実測図・拓影 1:3、石器 1:2（一部の礫石器は1:4）、土製品・石製品 1:2

6 調査にあたっては次の機関や人々の指導ならびに協力をいただいた。（順不同・敬称略）
北海道教育委員会、江別市教育委員会、北海道開拓記念館、札幌市教育委員会、赤石慎三、赤松守雄、天野哲也、石川直章、石橋孝夫、石本省三、稻垣和幸、上野秀一、右代啓視、内山真澄、浦辻栄治、上屋真一、遠藤龍歟、大井晴男、大島直行、大谷敏三、大野 享、加藤邦雄、金子浩昌、木村英明、北沢 実、工藤 繁、久保 泰、後藤秀彦、古原敏弘、斎藤 健、佐藤一夫、佐藤訓敏、佐藤隆広、澤 四郎、柴田信一、杉浦重信、瀬川拓郎、園部真幸、高橋正勝、田中源一、田村俊之、田部 淳、谷岡康孝、土屋周三、鶴丸俊明、手塚 順、寺崎康史、百々幸雄、豊原照司、直井孝一、中村 齊、西 幸隆、西本豊弘、野村 崇、羽賀憲二、林 謙作、平川善祥、増川栄一、松下 亘、松田 猛、松野康弘、松谷純一、三浦孝一、三野紀雄、宮夫靖夫、森 広樹、山田悟郎、矢吹俊男、横山英介、吉崎昌一、吉田玄一、渡辺秀一、渡辺俊一

目 次

例言

I 調査の概要	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査のあらまし	2
II 遺跡の位置と環境	8
III 発掘調査の方法	12
1 調査区の設定	12
2 層序	12
3 遺物の分類	16
1) 土器	16
2) 石器	17
3) 土製品・石製品	17
IV 造構	18
1 繩文早期の造構	18
2 繩文中期の造構	35
3 繩文晩期の造構	135
4 縦縄文期の造構	154
5 時期不明の造構	220
6 Tピット	225
7 炉跡	226
8 小ピット・柱穴	228
9 フレイク・チップ集中	253
10 焼土	258
V 発掘区出土の遺物	270
1 土器	270
2 石器	323
3 土製品・石製品	390
付編 明赤褐色土について	399
西野幌12遺跡で採取された白色火山灰について	401
西野幌12遺跡の土器の胎土分析について	403
結語	411
引用・参考文献	412



空中写真

国土地理院発行のHO-81-1 C9-28を使用した。

(白枠内：道立野幌総合運動公園用地)

I 調査の概要

1. 調査要項

事業名 北海道立野幌総合運動公園用地内埋蔵文化財発掘調査
事業委託者 北海道住宅都市部
事業受託者 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
遺跡名 西野幌12遺跡（北海道教育委員会登載番号：A-02-106）
所在地 江別市西野幌497-1番地ほか
調査年度・調査面積・調査期間

調査年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度
調査期間	10月1日 3月31日	7月1日 3月31日	5月9日 3月31日	5月24日 3月31日	8月20日 3月31日	5月7日 3月31日	8月24日 平成元年 3月31日
調査対象面積	3,500m ²	6,213m ²	5,064m ²	7,754m ²	4,550m ²	2,287m ²	943m ²

2. 調査体制

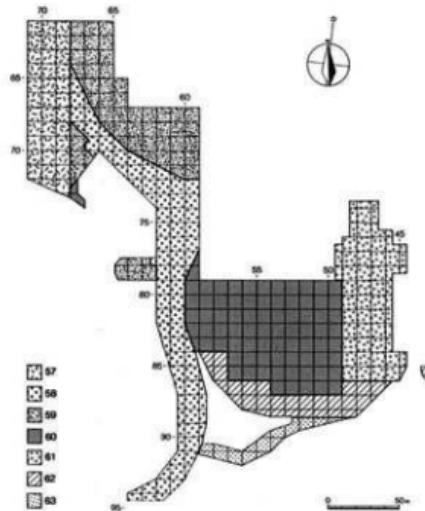
調査年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度
理事長	浅井理一郎	中村 龍一	中村 龍一	中村 龍一 5月25日まで 植村 敏	植村 敏 6月1日から 澤 宣彦	植村 敏 6月25日まで 澤 宣彦	澤 宣彦
専務理事		山本 慎一	山本 慎一	山本 慎一	山本 慎一	山本 慎一	山本 慎一 5月30日まで 永田 春男
常務理事		藤本 英夫	藤本 英夫	藤本 英夫	藤本 英夫	藤本 英夫	竹田 邦雄
業務部長	皆川 富三	横田 直成	横田 直成	間宮 道男	間宮 道男	間宮 道男	伊藤 庄吉
調査部長	藤本 英夫	竹田 烈雄	竹田 烈雄	中村 福彦	中村 福彦	中村 福彦	中村 福彦
発掘担当者	種市 幸生	種市 幸生	種市 幸生	種市 幸生	田才 程彦	高橋 和樹	高橋 和樹
文化財 保護主事	増川 栄一	佐川 俊一	高橋 和樹	田才 程彦	田中 哲郎	葛西 智義	谷島 由貴
	浦辻 栄治	佐川 俊一		田口 尚			
			佐藤 和雄				
嘱 托		葛西 智義	森岡 健治	寺崎 康史	皆川 洋一	谷島 由貴	工藤 義衛
			寺崎 康史				

3. 調査のあらまし

北海道住宅都市部は、1989年開催予定の第44回国民体育大会（はまなす国体）に向けて、昭和56年10月、江別市西野幌に63.7haにおよぶ総合運動公園の建設計画を策定した。この計画に伴い昭和57年度から、同公園の造成工事に着手する運びとなった。用地内には下学田遺跡などが周知されていることから、昭和56年10月、住宅都市部と北海道教育委員会は埋蔵文化財保護のための事前協議を行った。その結果、道教委が所在確認調査（表面踏査）を実施し、工事計画区域内に8ヶ所の包藏地（西野幌11遺跡・西野幌12遺跡・西野幌13遺跡・西野幌14遺跡・西野幌15遺跡・西野幌16遺跡・西野幌17遺跡・下学田遺跡）の分布することが確認された。道教委は所在確認調査にもとづき範囲確認調査を昭和57年度・58年度・60年度の3度にわたり実施した。調査方法は対象面積の1%を掘開することを基本とし、必要に応じてトレンチ調査を併用した。この結果をもとに再度、両者が協議を行い、現状保存の困難なものについて記録保存調査を昭和57年度から行うに至った。発掘調査は、道教委の指示により昭和57年度以降、住宅都市部の委託を受けて財團法人北海道埋蔵文化財センターが実施する運びとなった。

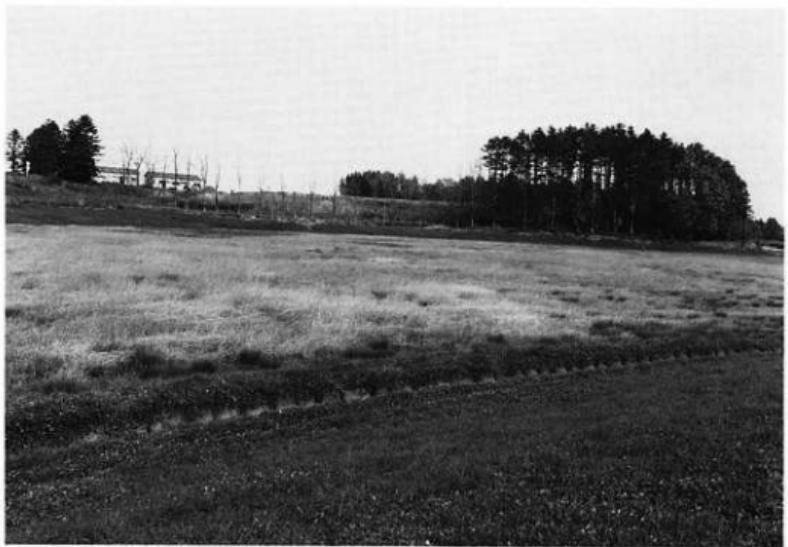
西野幌12遺跡は登載当初、西野幌12遺跡と西野幌17遺跡の別な2つの遺跡であった。しかし、昭和58年度に北海道教育委員会が実施した範囲確認調査の結果、両遺跡は一つの広がりであることが判明し、以来西野幌12・17遺跡と仮称してきた。昭和61年度、道教委と遺跡名称について協議の結果、西野幌12遺跡として統合された。遺跡の範囲は51,165m²であった。

本遺跡は昭和57年度以来、毎年発掘調査が継続されてきた。7年間の調査面積は30,311m²におよぶ。検出された遺構は堅穴住居跡4軒、住居跡状造構4基、土壙211基、Tピット11基、炉跡1基、小ピット・柱穴409個、フレイク・チップ集中47ヶ所、焼土が約786m²である。土器・石器などの総出土点数は543,125点である。昭和57・58年度は園路になる区域を3,500m²と6,213m²の調査が行われた。59年度の調査は硬式野球場用地の一部5,064m²を行った。60年度からは軟式野球場用地の調査を継続して行い、60年度7,754m²、61年度4,550m²、62年度2,287m²、63年度は補助園路943m²の調査を実施した。





遺跡遠景 N→S



遺跡遠景 S→N



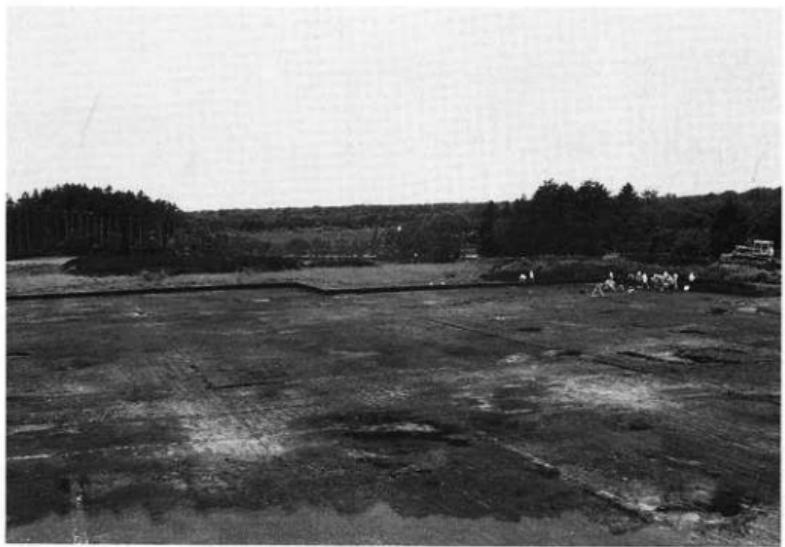
昭和57年度の調査



昭和58年度の調査



昭和59年度の調査



昭和60年度の調査



昭和61年度の調査



昭和62年度の調査



昭和63年度の調査



遺跡の遠景(昭和62年度)

II 遺跡の位置と環境

西野幌12遺跡は、石狩平野の南東部、半島状に北側に向けて突出した野幌丘陵の東北部に位置する。札幌市内を貫流する豊平川と支笏湖に端を発して石狩川へと注ぐ千歳川に挟まれた丘陵で、標高50~100mの南北を軸とする背斜構造を持つ。このうち狹義には野津幌川と裏の沢川を結ぶ線以北が野幌丘陵と呼ばれている。本遺跡は丘陵の東側に「下学田面」と区分され、表層は元野幌粘土層に覆われている平坦面の縁辺に立地する。東側は沖積平野に面した標高18~30mの東に緩く傾斜した台地で、多くの湧水があり小沢により複雑に開析されている。そのような小流が本遺跡の西から南へ通り、更に北上して同様な小河川「筋違川」と合流し早苗別川となり、江別太付近で千歳川に流れ込んでいる。旧夕張川との合流点から下流、石狩川との合流点である江別太に至る間の千歳川は河川改修以前は江別川と称されていた。ここでは河川がしばしば氾濫し、その流域には南北に長い低湿な泥炭原野である野幌原野が広がっていた。野幌の名の由来は永田方正氏の『北海道蝦夷語地名解』では、アイヌ語「ヌブル・ヲチ」(いつも湯っている処)とし、知里真志保氏の昭和29年版『駅名の起源』では、アイヌ語「ヌブ・オル・オ・ベッ」(野中の川)という二つの解がある。山田秀三氏は後者を取り、元来の位置を野津幌川の辺としている。また、早苗別川(サノユベ)について山田氏は北埋調報25「西野幌11遺跡」に寄せられた見解において、*sana-yupe-ot* (otは下略) で〔浜(石狩川畔)〕の方にある・江別川]であろうとしている。

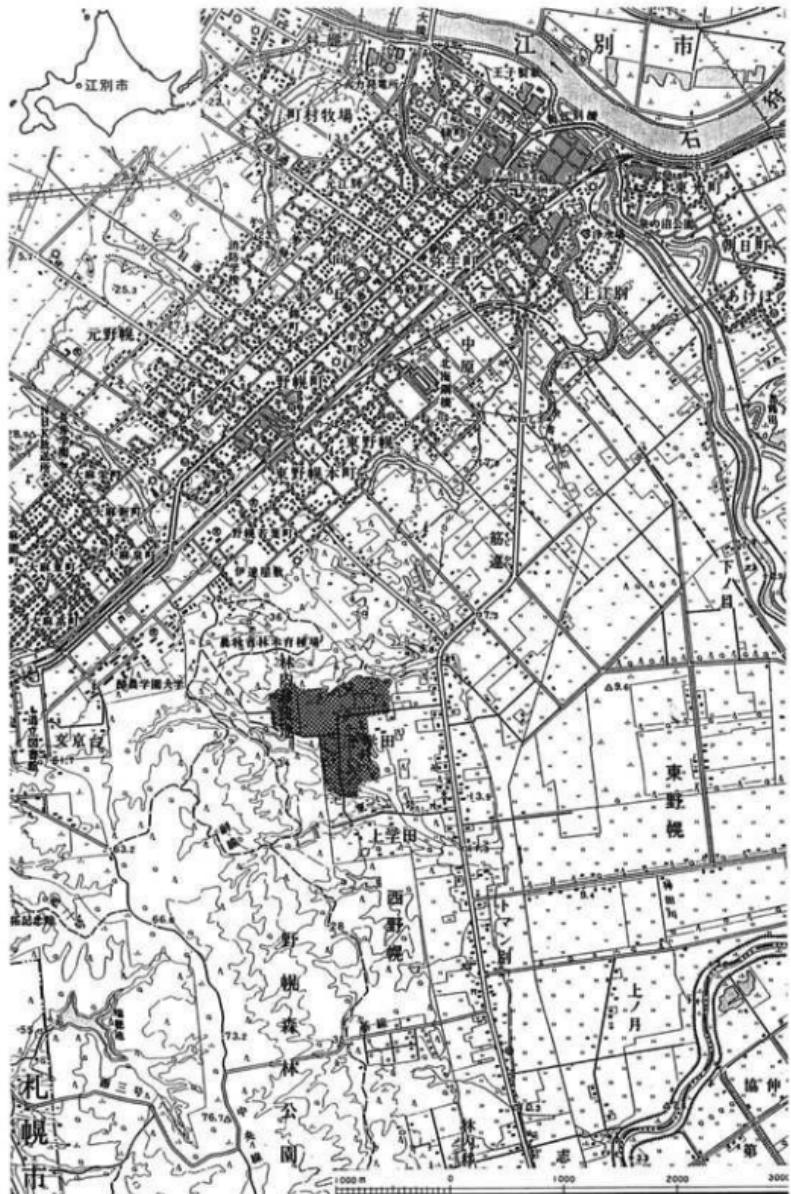
石狩平野から勇払平野に到る石狩一苫小牧低地帯は、風の通り道となりこの辺りの平均気温は札幌での測定よりやや低い。また、初夏には太平洋側から千歳川の川筋を通り霧が流れ込んでくる。野幌丘陵はトドマツを主体とする針葉樹林・針広混交林が広がり、冷温帶と亜寒帶との接点にある原始性の強い平地林として有名であり500種以上の植物がみられる。また、動物相も豊富で国の天然記念物クマゲラなど多数の野生動物が生息している。このうち20.4km²が昭和43年に道立自然公園野幌森林公園に指定された。

付近は、古来から日本海と太平洋を結ぶルートと、石狩川を通り内陸部に到るルートの分岐点にあたる。このため野幌丘陵は、先史時代には南と北の文化圏の接点になっていた重要な地点にといえよう。丘陵の周辺、及び複雑に開析された沢のそばに多数の遺跡が存在している。

道立野幌総合運動公園用地内の遺跡には、北東部に西野幌11遺跡、北部に西野幌13遺跡、北西部に下学田遺跡、西部に西野幌14遺跡、中央部南側に西野幌12遺跡(本遺跡)、東側に西野幌15遺跡、南部に西野幌16遺跡がある。何れも沢に面した台地の縁辺部に立地する。本遺跡は沢を挟んで西野幌15遺跡・西野幌16遺跡と相対する位置にあたる。

野幌には明治22年頃より北越殖民社が入植をはじめた。下学田は明治26、7年頃に入植があり、同時期、江別村学田地(小学校用地)に編入され、下学田・上学田の地名が現在も残っている。

遺跡の現況は西側と南東側が林地で、中央は草地である。草地部分は耕作により北側が削平され南側は凹凸が均されて平坦にされていた。



道立野幌総合運動公園用地の位置図

(この図は国土地理院発行 5万分の1地図「江別」を複製・加筆したものである)

III 発掘調査の方法

1. 調査区の設定

道立野幌総合運動公園予定地には、道々江別一恵庭線と、道々野幌運動公園線の交点を基点とする直交座標が設定されており、これに基づいて40m毎のメッシュをかけた1:2,500地形図が発行されている。これが埋蔵文化財関係の協議や調査に際しても原図となつたことは、既刊の報告書にも触れたとおりであり（北埋文1986、1988）、7年間に亘る西野幌12遺跡の発掘調査区も、この座標系に従つて設定した。すなわち、真北に $6^{\circ}15'$ 西偏する南北方向では、工事用のSP400を調査区の0、西方に10m移動したSP410を1と順次読みかえ、東西方向については、工事用のR440を0と決め、南方10mのR430を1、RとLの境界は44、L10を45という具合に定めた。グリッド名は、南北方向の番号を先に、東西方向のそれを後につづけて命名することにした。例えば、SP1080、L170の

交点が発掘区の68-61杭となり、この杭を北東の一隅にもつ10m区画が68-61区である。調査の際はさらに5×5m毎に4分割し、北東部の小グリッドから順に逆時計まわりにa～dと呼称して作業を進めた。また、柱穴などの記録や遺物の取り上げには、必要に応じて、図のように北東端の00から南西端の99に至る、1×1m毎の100分割した区画を利用した。なお、当地での磁針方位は、ほぼ西偏 $8^{\circ}30'$ であり、地形図等には、星印の真北と、Mを付した磁北とを併せて表示している。

2. 層序

野幌総合運動公園用地内の遺跡群における基本的な層序は、既刊の報告書でも述べたように（北埋文1988）、相互に本質的な一致が認められ、以下の大別した4つの層からなる。

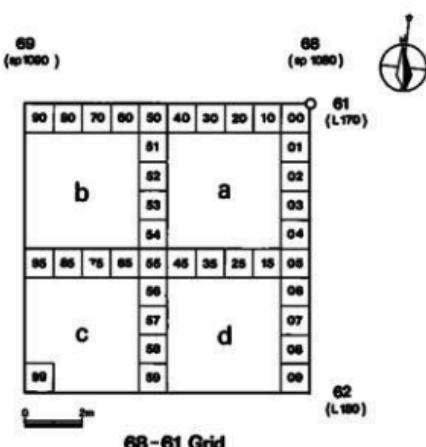
I層　表土（耕作土）

II層　黒色土（主要な遺物包含層で、造構の掘り込み面もこの層にあると判断される）

III層　褐色粘質土（漸移層）

IV層　黄褐色粘土（支笏輕石流堆積物起源の元野幌層と呼ばれる地層の一部）

西野幌12遺跡では、7年の調査期間中に、折り込みの土層断面図の左下の位置図に太線で示した部分について、それぞれ断面実測を実施した。層堆積は場所によって若干の相違があり、



68-61 Grid

それぞれ細分したが、基本層序に大差はない。南北方向の54ラインを丘陵上的一般的な例として、また一直線ではないが、56—92杭を挟む東西方向のラインを、層が厚く重なる沢地形の代表例として掲載し、以下に層名を列記する。なお、II層黒色土中に、赤褐色の焼土層が濃密に介在する地区が少なからず認められたが、焼土層については、後章で具体的に報告する。

- I層 (I a) 暗褐色の耕作土。黄褐色粘土粒や黒色土粒などを混在させる。
I b層 やややわらかな黄茶褐色土。傾斜地に堆積した表層土である。
I c層 傾斜地にみられる表層土で、色調がやや不整に変化する褐色土。
II層 黒色土。焼土を介在させたり、やや粘質の強い暗褐色土に変わるものもある。谷部分などでは、焼土主体のII b層を境に、上方のII a層と下のII c層とに分層できる。なお、II層直上に稀に残る火山灰については、後章で触れる。
II a-1層 やや黄褐色がちな褐色土。比較的短期間に内に再堆積した土層らしい。
II a-2層 やや暗茶褐色がちな褐色土。
II a-3層 二次的に流れ込んだ焼土粒の含有が多い、赤茶褐色がちな褐色土。
II a-4層 II a-2層とほぼ同一な褐色土で、一部に暗黃褐色砂質土の混在がみられる。
II a-5層 黄茶褐色がちな褐色土。焼土粒や木炭粒、土器片などの遺物をやや多量に混在させる。部分的に特に黄褐色がちな色調を呈する所がある。
II a-6層 暗灰茶褐色がちな褐色土。炭粒や赤橙褐色焼土粒を点在させ、遺物の包含も多い。黄灰色粘土の小ブロックを介在せるところもみられる。
II b-1層 暗赤茶褐色土。厚さ1cm弱の真黒色炭層を介在させる、赤茶褐色焼土がちな土層。土器片などの混在も認められる。
II b-2層 暗灰茶褐色土。若干の炭粒や少量の黄褐色粘土粒が点在している。
II b-3層 暗赤茶褐色砂質土。砂質状の焼土粒を混合する、やや堅くしまった土層。
II c-1層 やや暗灰褐色がちな、粘性に富んだ黑色土。上部に遺物が点在する。
II c-2層 暗灰色がちな黒褐色粘質土。
III層 (III a) 褐色粘質土。堅くしまりがちな漸移層。氷楔に関連するらしい、暗灰褐色がちな汚れがつづく部分も少なからず認められる。
III b層 灰褐色粘質土。谷部分に厚く堆積した漸移層で、より粘性に富んでいる。
III c層 黄褐色粘質土。基盤の粘土層の上部が、暗褐色や黒褐色がちにシミ状に汚れた感じの層で、堅くしまっている。
IV層 淡黄褐色粘土。やや砂質がちで、粘性が強い。
- 以上のはか、実測図中に示した焼土や風倒木に伴う擾乱層、そして下記の擾乱層がみられた。
- A層 ごく最近の人為的な擾乱穴を埋める土層で、耕作土と黄褐色粘土が主体。
B層 木の根による擾乱層で暗褐色土主体。下方ほどボソボソとやわらかい。
C層 より古い木の根などによる擾乱層。黒色土主体で、下方ほど褐色がち。
D層 地下水の影響で変質したらしい、灰褐色がちの砂っぽくやわらかな粘土層。

3. 遺物の分類

1) 土器

土器の分類は野幌総合運動公園用地内におけるこれまでの調査と同様、基本的に、大麻Ⅰ遺跡（北埋文1981）や吉井の沢の遺跡群（北埋文1982）など、江別市内の調査、報告例における分類基準に従った。縄文時代草創期のⅠ群土器および縄文時代に属するⅣ群土器は、西野幌12遺跡では検出されていない。

〈Ⅰ群〉 縄文時代早期に属する土器群

a 類 貝殻腹縁压痕文、条痕文のある土器群

b 類 縄文、燃糸文、結条体压痕文、組紐压痕文、貼付文等のある土器群

本遺跡の出土資料は、b-2類に細分されるコッタロ式に相当するものが主体である。

〈Ⅱ群〉 縄文時代前期に属する土器群

a 類 縄文尖底土器群

b 類 円筒土器下唇式、植苗式、大麻V遺跡出土資料などに相当するもの

〈Ⅲ群〉 縄文時代中期に属する土器群

a 類 円筒土器上唇式に相当するものなど前半期のもの

b 類 a 類に後続する土器群で、b-1、b-2、b-3類に細分される。

b-1 類 天神山式に相当するもの

b-2 類 柏木川式およびそれに併行するもの

b-3 類 北箇式および煉瓦台式に相当するもの

〈Ⅳ群〉 縄文時代後期に属する土器群

a 類 余市式、手稻砂山式、入江式などに相当するもの

b 類 ウサクマイC式、船泊上唇式、手稻式、続潤式に相当するもの

c 類 堂林式に相当するもの

〈Ⅴ群〉 縄文時代晩期に属する土器群

a 類 大洞B、BC式に相当するもの

b 類 大洞C₁、C₂式に相当するもの

c 類 大洞A式などに相当するもの、タンネトウL式に類するもの

〈V群〉 続縄文時代の土器群

続縄文時代初頭の資料から後北式の後半期のものまでみられる

2) 石器

石器の分類は器種別の分類をおこない記号による細分は行っていない。剥片石器には石鎌、ポイントまたはナイフ、ドリル、つまみ付ナイフ、スクレイパー類の他に、U・Rフレイク (utilized flake と retouched flake) などがある。礫石器には石斧、敲石、くぼみ石、すり石、北海道式石冠、石錘、石鎌、砥石、石皿、台石などがある。この他、石核 (コア)、剥片・碎片 (フレイク・チップ)、原石などがある。'一覧表中の石器石材については、次の略称を用いた。

And.	(Andesite)	安山岩	Aga.	(Agate)	めのう
Aga-Sh.	(Agatized-Shale)	めのう質頁岩	Bas.	(Basalt)	玄武岩
Cla.	(Clay slate)	粘板岩	Che.	(Chert)	チャート
Gab.	(Gabbro)	斑櫻岩	Gne.	(Gneiss)	片麻岩
Gra.	(Granite)	花崗岩	Gr. Po.	(Granite Porphyry)	花崗斑岩
Ha-Sh.	(Hard-Shale)	硬質頁岩	Mud.	(Mudstone)	泥岩
Obs.	(Obsidian)	黒曜石	Per.	(Peridotite)	橄欖岩
Phy.	(Phyllite)	千枚岩	Por.	(Porphyrite)	玢岩
Qua.	(Quartzite)	珪岩	Rhy.	(Rhyolite)	流紋岩
Sa.	(Sandstone)	砂岩	Sa. Mud.	(Sandy Mudstone)	砂質泥岩
Sch.	(Schist)	片岩	Ser.	(Serpentinite)	蛇紋岩
Sh.	(Shale)	頁岩	Si. Sh.	(Silicious Shale)	珪質頁岩
Si. Tu.	(Silicious Tuff)	珪質凝灰岩	Tu.	(Tuff)	凝灰岩

3) 土製品・石製品

土製品には土器片を利用した有孔・無孔の円盤、三角形土製品、土玉、棒状土製品、焼成粘土塊などがある。

石製品には有孔円盤、玉、垂飾とその未製品、環状石斧などがある。

IV 遺構

本遺跡は昭和57年度以来、毎年発掘調査が継続されてきた。検出された遺構は堅穴住居跡4軒、住居跡状遺構4基、土壇211基、Tピット11基、炉跡1基、小ピット・柱穴409基、フレイク・チップ集中47基、焼土が約786m³である。各年度ごとの検出した遺構数は次のとおりである。57年度、土壇43基、Tピット2基。58年度、堅穴住居跡3軒、住居跡状遺構2基、土壇109基、Tピット6基、炉跡1基、小ピット・柱穴92個、焼土約5m³。59年度、土壇9基、Tピット2基、焼土約6m³。60年度、土壇9基、小ピット・柱穴15個、フレイク・チップ集中12ヶ所、焼土約256m³。61年度、土壇4基、焼土約293.5m³。62年度、住居跡状遺構2基、土壇25基、小ピット・柱穴279個、フレイク・チップ集中31ヶ所、焼土約195m³。63年度、堅穴住居跡1軒、土壇12基、Tピット1基、小ピット・柱穴23個、フレイク・チップ集中4ヶ所、焼土約30m³を検出している。

これらについて、可能な限り時期別、形態別に報告する。各々の遺構は検出順に番号が付されているため、実測図、写真、遺物の注記などにおける混乱を避け、遺構番号の変更は最小限にとどめることにした。そのため、本報告書における遺構の掲載順序は遺構番号とは関係なく、甚だ前後が入り乱れたものとなった。そこでインデックスを兼ねて次の表を参照されたい。

1. 繩文早期の遺構

縩文早期の遺構には、堅穴住居跡1軒(II-3)、土壇3基(P-141・67・99)がある。

番号	掲載頁	時期	遺構名	位 置	平 面 形	確認面(㎝) 長径×短径	底 長径×短径	深さ (㎝)	調査早 期
1		縩文早期	H-3	59-60-89-90	隅 丸 方形	572 562	558 548	17 58	
2		縩文早期	P-141	60-91	円 形	82 80	58 52	12 58	
3		縩文早期	P-67	66-68	楕 円 形	63 55	51 45	9 58	
4		縩文早期	P-99	60-91	不整円形	80 70	95 95	58 58	
5		縩文中期	H-1	59-90	楕 円 形	368 314	324 300	17 58	
6		縩文中期	H-2	59-90	楕 円 形	380 270	346 238	18 58	
7		縩文中期	H-5	57-90-91				30 63	
8		縩文中期	H-4	53-87	円 形	274	256	18 62	
9		縩文中期	P-193	57-85-86	不整円形	200 190	155 180	20 62	
10		縩文中期	P-155	59-91	楕 円 形	290 190	240 154	45 58	
11		縩文中期	P-143	59-86	不整楕円形	250 170	218 146	20 58	
12		縩文中期	P-52	62-73	楕 円 形	166 127	159 120	11 58	
13		縩文中期	P-97	60-79	不 整 形	190 120	155 100	16 58	
14		縩文中期	P-131	59-81	楕 円 形	138 88	120 65	15 58	
15		縩文中期	P-119	59-60-83	楕 円 形	157 106	110 50	20 58	
16		縩文中期	P-123	60-83	不整楕円形	153 112	130 100	10 58	
17		縩文中期	P-190	54-86	楕 円 形	160 100	145 76	17 62	
18		縩文中期	P-152	60-90	楕 円 形	158 107	140 100	17 58	
19		縩文中期	P-184	46-83	不整楕円形	158 110	136 82	22 61	
20		縩文中期	P-126	59-60-86	楕 円 形	138 85	90 60	40 58	
21		縩文中期	P-186	52-87	楕 円 形	128 63	118 55	20 62	
22		縩文中期	P-183	44-84	長 円 形	140 56	126 54	14 61	
23		縩文中期	P-187	57-85	楕 円 形	120 75	45 57	30 62	

遺構一覧表(1)

番号	掲載頁	時期	造構名	位置	平面形	確認面(cm) 長径×短径	裏面(cm) 長径×短径	深さ (cm)	調査年 昭和
24		縄文中期	P-191	57-85	楕円形	95 35	90 30	7	62
25		縄文中期	P-189	58-84	楕円形	85 50	62 24	43	62
26		縄文中期	P-147	59-89	楕円形	85 54	64 38	28	58
27		縄文中期	P-161	59-91	楕円形	120 58	108 50	10	58
28		縄文中期	P-135	60-91	楕円形	150 90	141 75	50	58
29		縄文中期	P-222	56-57-91	楕円形	186 130	172 103	24	63
30		縄文中期	P-220	57-90	不整円形	141	122	14	63
31		縄文中期	P-221	57-90	不整円形	147	126	8	63
32		縄文中期	P-216	57-91	不整円形	112 106		6	63
33		縄文中期	P-217	57-91	楕円形	123 90	58 51	10	63
34		縄文中期	P-218	58-90-91	楕円形	113 79	67 65	10	63
35		縄文中期	P-215	57-91	楕円形	104 72	90 45	17	63
36		縄文中期	P-214	57-91	楕円形	92 51	33 25	10	63
37		縄文中期	P-142	59-85	楕円形	118 93	88 68	42	58
38		縄文中期	P-198	50-88	楕円形	90 70	65 45	40	62
39		縄文中期	P-86	63-71	円形	80 70	55 47	40	58
40		縄文中期	P-185	47-87	円形	103 100	70 67	36	62
41		縄文中期	P-212	50-88	不整円形	141 124	11 90	38	63
42		縄文中期	P-211	52-88	円形	90 87	78 72	20	63
43		縄文中期	P-219	56-57-90-91	円形	128	120 111	105 15	63
44		縄文中期	P-163	66-63	円形	82 71	65 54	17	59
45		縄文中期	P-199	50-88	円形	78 63	57 45	17	62
46		縄文中期	P-200	50-88	卵形	100 76	86 68	15	62
47		縄文中期	P-117	60-82-83	円形	100 92	89 81	15	58
48		縄文中期	P-132	61-82	円形	78 78	64 58	16	58
49		縄文中期	P-188	57-84	不整円形	45 39	31 25	5	62
50		縄文中期	P-144	59-86	円形	82 80	77 72	10	58
51		縄文中期	P-148	59-89	楕円形	112 85	98 70	9	58
52		縄文中期	P-162	59-60-91	楕円形	94 70	63 50	8	58
53		縄文中期	P-136	60-91	不整円形	71 62	47 40	12	58
54		縄文中期	P-84	64-70	楕円形	190 47	180 35	7	58
55		縄文中期	P-194	57-85	楕円形	68 44	45 32	10	62
56		縄文中期	P-92	61-79	楕円形	69 52	51 34	16	58
57		縄文中期	P-111	59-88	楕円形	88 60	45 28	22	58
58		縄文中期	P-172	59-82	円形	66 62	41 39	20	60
59		縄文中期	P-173	59-82	円形	35 30	20 18	13	60
60		縄文中期	P-113	60-82	円形	51 43	41 35	19	58
61		縄文中期	P-109	61-82	円形	62 61	56 50	20	58
62		縄文中期	P-124	60-83	円形	48 42	44 39	20	58
63		縄文中期	P-127	60-84	円形	56 45	48 41	12	58
64		縄文中期	P-145	60-85	円形	50 43	35 28	15	58
65		縄文中期	P-137	59-85	円形	38 30	26 23	15	58
66		縄文中期	P-140	59-85	円形	45 38	33 27	13	58
67		縄文中期	P-154	59-86	円形	45 42	38 27	20	58
68		縄文中期	P-157	58-86	円形	53 42	44 33	20	58
69		縄文中期	P-159	60-81	円形	43 42	32 30	20	58
70		縄文中期	P-125	60-83	円形	43 43	36 34	19	58
71		縄文中期	P-192	57-84	円形	45 40	34 30	15	62
72		縄文中期	P-196	55-87	円形	42 38	30 28	7	62
73		縄文中期	P-197	56-86	円形	45 42	37 30	7	62
74		縄文中期	P-195	55-87	円形	53 47	40 34	12	62
75		縄文中期	P-206	50-88	溝状	77 13	78 6	28	62

造構一覧表(2)

番号	掲載頁	時期	造構名	位 置	平 面 形	確認面(cm) 長径×短径	底 面(cm) 長径×短径	深さ(cm)	調査年度 昭和
76		縄文中期	P-204	50-88	溝 状	92 14	85 8	14	62
77		縄文中期	P-205	50-88	溝 状	88 15	80 8	14	62
78		縄文中期	P-209	54-86	溝 状	91 32	74 11	26	62
79		縄文中期	P-207	54-86	溝 状	96 14	90 8	13	62
80		縄文中期	P-208	54-86	溝 状	100 38	85 11	27	62
81		縄文中期	P-201	54-87	溝 状	87 21	84 11	17	62
82		縄文中期	P-202	54-87	溝 状	86 19	70 11	13	62
83		縄文中期	P-203	54-87	溝 状	90 32	73 24	15	62
84		縄文中期	P-210	55-88	溝 状	53 22	38 13	18	62
85		縄文中期	P-213	51-88	溝 状	82 42	61 25	24	63
86		縄文晚期	P-181	58-83	円 形	59 50		19	61
87		縄文晚期	P-134	59-82	楕 円 形	69 52	40 35	31	58
88		縄文晚期	P-158	59-85	円 形	58 48	42 28	20	58
89		縄文晚期	P-121	60-83	円 形	61 52	56 47	31	58
90		縄文晚期	P-150	59-89	円 形	38 33	25 22	12	58
91		縄文晚期	P- 96	60-77	円 形	72 70	41 40	18	58
92		縄文晚期	P- 95	60-77	楕 円 形	62 52	44 36	9	58
93		縄文晚期	P- 94	60-77	円 形	70 62	28 22	22	58
94		縄文晚期	P- 93	60-77	楕 円 形	74 55	57 35	10	58
95		縄文晚期	P- 90	59-60-78	円 形	47 46	25 23	8	58
96		縄文晚期	P-129	59-81	円 形	70 68	59 52	10	58
97		縄文晚期	P-130	59-81	円 形	75 73	50 47	19	58
98		縄文晚期	P-103	60-81-82	円 形	107 89	92 68	22	58
99		縄文晚期	P-114	60-8 2	円 形	106 105	90 67	23	58
100		縄文晚期	P-175	59-83	円 形	35 33	13	20	60
101		縄文晚期	P-174	59-83	円 形	73 72	48 45	12	60
102		統 縄 文	P- 26	70-68	円 形	136 124	100 96	51	57
103		統 縄 文	P- 50	66-67	楕 円 形	80 52	68 40	12	58
104		統 縄 文	P- 81	64-70	円 形	80 73	60 58	30	58
105		統 縄 文	P- 22	69-68	円 形	130 120	108 95	58	57
106		統 縄 文	P- 21	70-69-70	円 形	145 142	102 98	50	57
107		統 縄 文	P- 23	70-70	円 形	142 130	105 133	52	57
108		統 縄 文	P- 28	70-70	不整 円 形	138 116	80 72	21	57
109		統 縄 文	P-166	66-64	円 形	75 75	58 52	7	59
110		統 縄 文	P- 2	68-65	円 形	73 71	60 56	15	57
111		統 縄 文	P- 32	70-65	円 形	61 56	48 44	12	57
112		統 縄 文	P- 29	68-65	円 形	82 80	64 68	20	57
113		統 縄 文	P- 30	69-65	円 形	65 64	60 46	17	57
114		統 縄 文	P- 5	69-66	円 形	64 60	51 43	20	57
115		統 縄 文	P- 33	69-70-66	円 形	80	75	32	57
116		統 縄 文	P- 10	70-67	円 形	125 120	76 72	55	57
117		統 縄 文	P- 11	70-67	円 形	135 128	107 94	46	57
118		統 縄 文	P- 12	70-67	円 形	90 80	71 66	25	57
119		統 縄 文	P- 14	69-66	円 形	135 125	80 50	53	57
120		統 縄 文	P- 15	69-66-67	円 形	110 98	76 50	45	57
121		統 縄 文	P- 16	69-67	円 形	103 100	90 72	22	57
122		統 縄 文	P- 20	70-67	円 形	111 105	80 65	55	57
123		統 縄 文	P- 34	70-67	円 形	110 102	70 64	34	57
124		統 縄 文	P- 37	70-67	円 形	135 127	103 91	30	57
125		統 縄 文	P- 27	70-68	円 形	120 103	100 100	20	57
126		統 縄 文	P- 8	70-68	円 形	89 80	53 48	25	57
127		統 縄 文	P- 38	70-69	円 形	105 97	82 59	26	57

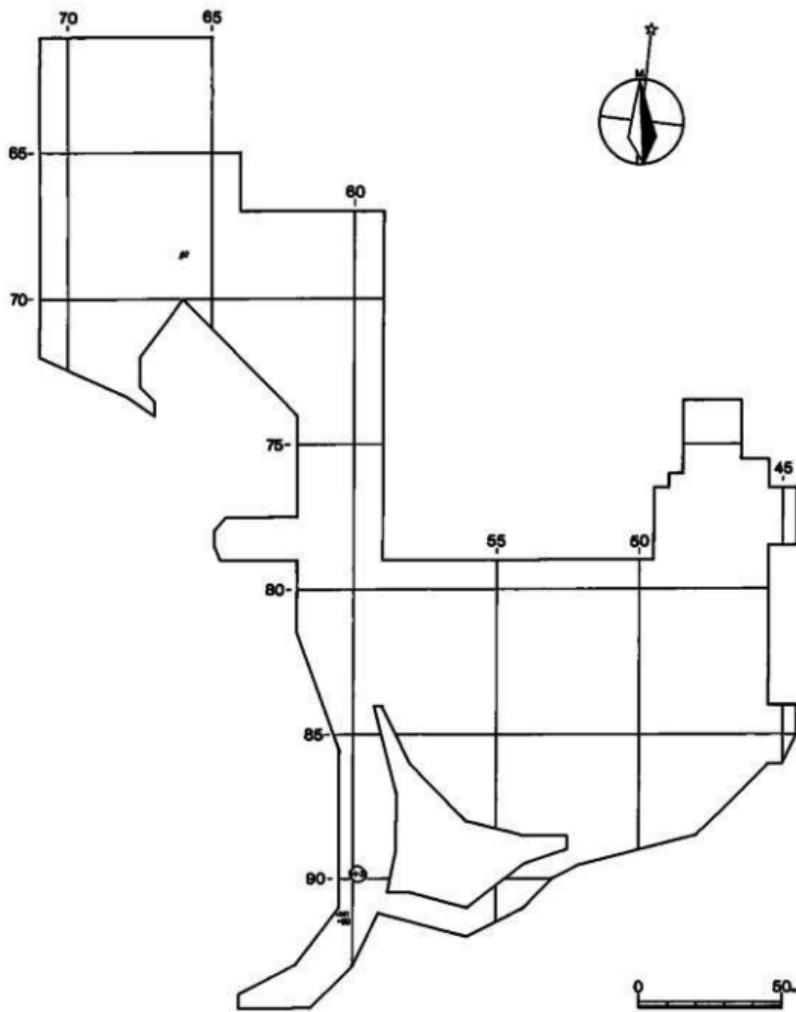
造構一覧表(3)

番号	掲載頁	時期	遺構名	位置	平面形	確認面(cm) 長径×短径	底面(cm) 長径×短径	深さ (cm)	調査年 昭和
128		統繩文	P-39	70-69	円 形	121	100	95	85
129		統繩文	P-56	67-66	円 形	60	58	42	40
130		統繩文	P-63	67-67	円 形	86	78	73	64
131		統繩文	P-66	66-68	円 形	93	85	75	65
132		統繩文	P-48	65-69	円 形	90	80	60	50
133		統繩文	P-49	64-69	円 形	73	71	63	62
134		統繩文	P-167	65-63	不整形	95		85	15
135		統繩文	P-164	66-63	円 形	85	76	70	54
136		統繩文	P-165	66-63	梢円形	82	63	63	50
137		統繩文	P-1	68-64	円 形	63	56	48	45
138		統繩文	P-31	68-65	円 形	104	90	74	62
139		統繩文	P-3	68-65	円 形	90	90	72	67
140		統繩文	P-9	68-66	円 形	116	107	100	90
141		統繩文	P-6	69-66	円 形	69	65	62	59
142		統繩文	P-7	69-66	円 形	76	67	64	59
143		統繩文	P-13	70-66	円 形	68	67	49	45
144		統繩文	P-45	70-67	円 形	80	78	67	52
145		統繩文	P-43	68-67	円 形	112	90	88	63
146		統繩文	P-17	68-67	円 形	68	65	54	50
147		統繩文	P-18	68-67	円 形	76	73	66	64
148		統繩文	P-19	68-67	円 形	80	80	70	60
149		統繩文	P-41	68-67	円 形	82	73	72	53
150		統繩文	P-42	68-67	円 形	83	82	68	66
151		統繩文	P-24	68-67	円 形	93	85	84	77
152		統繩文	P-25	69-68	不整円形	83	74	65	55
153		統繩文	P-36	70-68	円 形	67	62	48	43
154		統繩文	P-54	67-66	円 形	95	91	53	50
155		統繩文	P-55	67-66	円 形	76	67	70	55
156		統繩文	P-57	67-66	梢円形	76	60	54	48
157		統繩文	P-58	66-66	円 形	66	62	60	50
158		統繩文	P-53	67-65	円 形	93	89	53	52
159		統繩文	P-60	66-67	円 形	60	53	49	38
160		統繩文	P-101	61-69	梢円形	135	98	112	87
161		統繩文	P-51	66-67	円 形	94	91	73	73
162		統繩文	P-61	66-67-67	円 形	77		56	20
163		統繩文	P-62	66-67	円 形	84	78	70	60
164		統繩文	P-170	64-67	円 形	78	69	68	55
165		統繩文	P-169	64-67-68	円 形	78	67	65	52
166		統繩文	P-64	66-67	円 形	71	65	54	47
167		統繩文	P-171	64-66	不整円形	54	52	48	40
168		統繩文	P-68	66-69	円 形	71	69	57	55
169		統繩文	P-72	66-68	円 形	85	82	49	49
170		統繩文	P-69	65-69	円 形	68	68	55	50
171		統繩文	P-47	65-69	円 形	95	83	82	72
172		統繩文	P-76	65-69	円 形	75	70	49	38
173		統繩文	P-82	65-69	円 形	85	75	51	45
174		統繩文	P-78	64-69	円 形	69	60	44	40
175		統繩文	P-85	64-69	梢円形	64	51	53	43
176		統繩文	P-79	65-69	円 形	90	78	78	65
177		統繩文	P-44	64-70	円 形	80	72	61	55
178		統繩文	P-40	64-70	円 形	78		56	46
179		統繩文	P-75	65-70	円 形	75	69	59	53

遺構一覧表(4)

番号	掲載頁	時期	遺構名	位置	平面形	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ(cm)	調査年度 昭和
						確認面	底面	長径	短径		
180		統繩文	P-80	65-70	円 形	78	72	69	64	32	58
181		統繩文	P-73	65-70	円 形	67	64	53	52	15	58
182		統繩文	P-91	64-70	円 形	68	61	50	40	15	58
183		統繩文	P-83	64-70	円 形	67	64	59	59	9	58
184		統繩文	P-156	64-70	円 形	78	70	55	50	25	58
185		統繩文	P-102	60-81	円 形	102	96	78	68	37	58
186		統繩文	P-104	60-81	円 形	85	76	70	64	20	58
187		統繩文	P-106	60-82	円 形	80	75	58	54	40	58
188		統繩文	P-107	60-82	円 形	98	92	73	68	43	58
189		統繩文	P-108	61-82	円 形	90	80	66	58	15	58
190		統繩文	P-112	60-82	円 形	85	85	70	68	25	58
191		統繩文	P-115	60-82	円 形	83	79	64	62	20	58
192		統繩文	P-116	60-83	円 形	95	91	70	63	22	58
193		統繩文	P-120	60-83	円 形	77	71	59	52	19	58
194		統繩文	P-118	60-83	円 形	85	80	75	65	30	58
195		統繩文	P-122	60-85	円 形	90	88	77	75	24	58
196		統繩文	P-138	59-85	円 形	58	51	34	32	6	58
197		統繩文	P-71	65-69	楕円形	112	78	80	40	32	58
198		統繩文	P-4	70-65	楕円形	92	70	70	56	11	57
199		統繩文	P-35	70-67-68	卵形	68	60	54	40	18	57
200		統繩文	P-59	66-67-67	卵形	70	65	54	46	13	58
201		統繩文	P-65	66-67	楕円形	74	58	58	45	10	58
202		統繩文	P-77	65-68	楕円形	115	77	91	62	22	58
203		統繩文	P-70	66-68-69	椭円形	60	52	38	32	30	58
204		統繩文	P-46	65-69	楕円形	75	61	68	45	12	58
205		統繩文	P-87	65-69-70	楕円形	63		43		10	58
206		統繩文	P-74	65-70	円 形	85	70	60	48	9	58
207		統繩文	P-105	60-82	楕円形	87	70	60	53	20	58
208		統繩文	P-139	59-85	楕円形	65	49	50	35	10	58
209		統繩文	P-133	61-82	円 形	80	72	91	81	32	58
210			P-128	59-83	円 形	46	40	30	25	23	58
211			P-180	59-81	円 形	45	45	25	23	27	60
212			P-176	59-83	円 形	40	37	13	11	13	60
213			P-178	59-81	円 形	60	55	35	32	23	60
214			P-177	59-81	円 形	51	49	31	29	11	60
215			P-168	65-66	不整円形	76	68	60	60	10	59
216			P-160	59-90	楕円形	68	56	40	35	7	58
217			P-110	59-85	円 形	63	55	52	50	8	58
218			P-179	58-82	円 形	60	57	44	42	17	60
219			P-182	45-84	楕円形	125	92	50	42	40	61
220		繩文	TP-8	59-88	小判形	114	59	82	40	71	58
221		繩文	TP-9	59-89	小判形	132	83	108	35	133	58
222		繩文	TP-11	57-90	小判形	120	88	106	40	97	63
223		繩文	TP-1	70-68	溝 状	205	40	198	17	71	57
224		繩文	TP-2	69-69	溝 状	222	29	220	16	50	57
225		繩文	TP-7	66-71	溝 状	178	49	183	20	78	59
226		繩文	TP-6	63-78	溝 状	232	48	248	20	80	59
227		繩文	TP-4	61-81-82	溝 状	310	55	315	16	82	58
228		繩文	TP-5	60-90	溝 状	210	49	180	16	80	58
229		繩文	TP-3	59-90	溝 状	210	26	200	5	85	58
230		繩文	TP-10	59-90-91	溝 状	214	14	214	10	70	58
231		繩文	炉跡	60-90	楕円形	63	48	41	32	10	58

遺構一覧表(5)



縄文早期の遺構位置図

H-3

調査区南側の59-89区に位置する。隅丸方形を呈し、中央に直径約1mを測る円形の浅い付属ピットを有する。床面はⅣ層に掘込まれている。主柱穴と考えられる東・南・西の小ピットの間隔は約2.5mだが、北側のものはやや西によっており等間隔をなさない。炉は検出されなかった。土器は中央のピットに集中して約140片遺存していたほか、床面の北西側に約40片、南東側に約80片が見出された。いずれもⅠ群b-2類に属する土器で、色調は一般に黄赤褐色がち、比較的薄手で焼成は堅緻である。1は沈線文をもつ口縁片で、口唇部にも刻みが1つ残されており、裏面には貝殻条痕文がみられる。2~4の口唇部には、縄による刻みが加えられている。5~12は刻みのある細めの貼付文が付された胴部破片。13は摩耗のためはっきりしないが口縁部と思われる。22の底部内面には小さな突起がある。このような突起の縄文早期の類例は、登別市川上B造跡に求められる(北埋文1983)。2~4、8~23、26が中央のピット出土、他は床面。23は頁岩を素材にしたつまみ付ナイフで床面から出土した。中央が欠損している。つまみ部と刃部の重さは各々1.4gと2.1gである。他に黒曜石剝片が2点出土した。

P-141

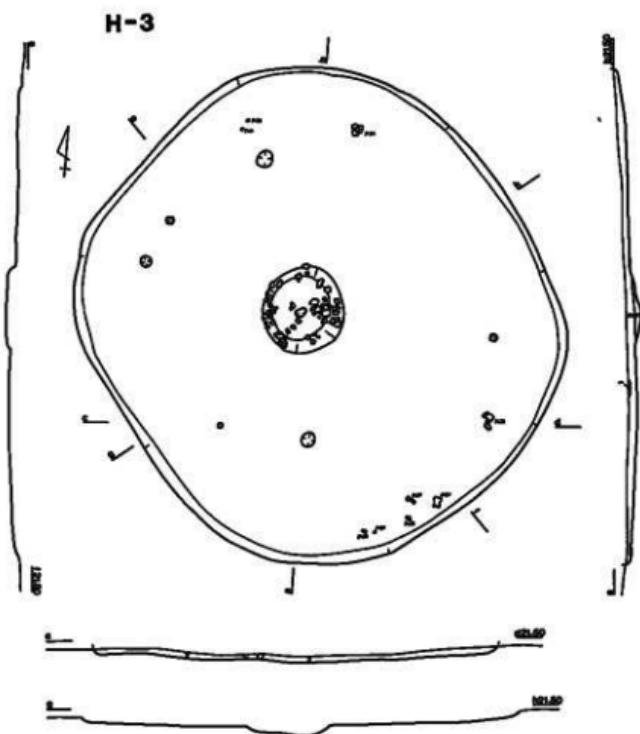
H-3の南南東に約12m離れた60-91区に位置する。墳底はⅣ層の上面に掘込まれている。ピットの周囲から同一個体の土器が出土したことや、南側に柱穴様の小ピットが検出されたことなど、H-3と同様な中央部に付属ピットを持つ堅穴住居跡であった可能性も考えられる。その場合、床面はⅢ層中にあったと思われる。出土した土器はいずれもⅠ群b-2類に属するもので、その数816点程。1~4は2本のやや太めの貼付文をめぐらせた口縁片で、貼付文および口唇上には縄による刻みが加えられている。5~13の貼付文も縄による刻みを有し、4~6の口唇上の刻みは棒状工具によるもの。14~16には細めの、刻みのある貼付文が付加されている。17~19には斜位の、20~22には羽状縄文の境界に配された横位の縄端による刺突文列がみられる。24~32には結合条痕文が加えられている。33~34は羽状縄文を地文とする胴部片。35~39は外側へやや張り出す形状の平底の底部片で、35には短縄文がみられる。40は有孔円盤の未成品で、ボタン状の貼瘤が付された土器片を利用し、表と裏の両側から穿孔を加えているが貫通はしていない。49は厚みのある黒曜石のRフレイク。他に黒曜石剝片が17点出土した。

P-67

調査区の北側、66-68区に位置する。上部は風倒木痕により搅乱を受けている。表面の摩耗したⅠ群b-2類の土器片が検出された事や、掘込みの深いことなどから縄文早期の土壌と推定したが、周囲に統縄文期の土壌の多い地区であり、確実ではない。

P-99

P-141の南約2mの60-91区で検出された。墳底部の大きい袋状である。覆土の上部からⅢ群の土器が出土している。1~4は、斜行縄文を地文とする土器の胴部片で、1には半截竹管を利用した継位の押引文が、2には平窓的な工具による、やや左下がりの刺突文列がみられる。他に黒曜石剝片1点、疊9点が出土した。

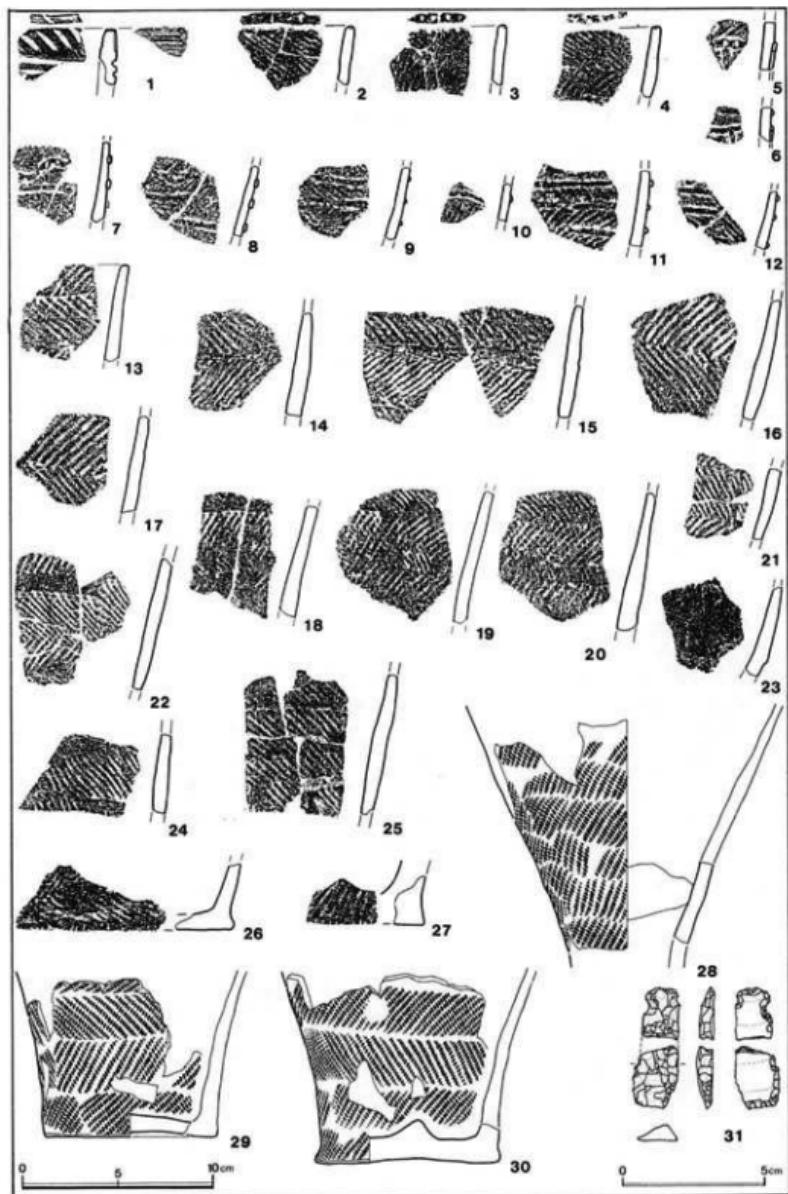




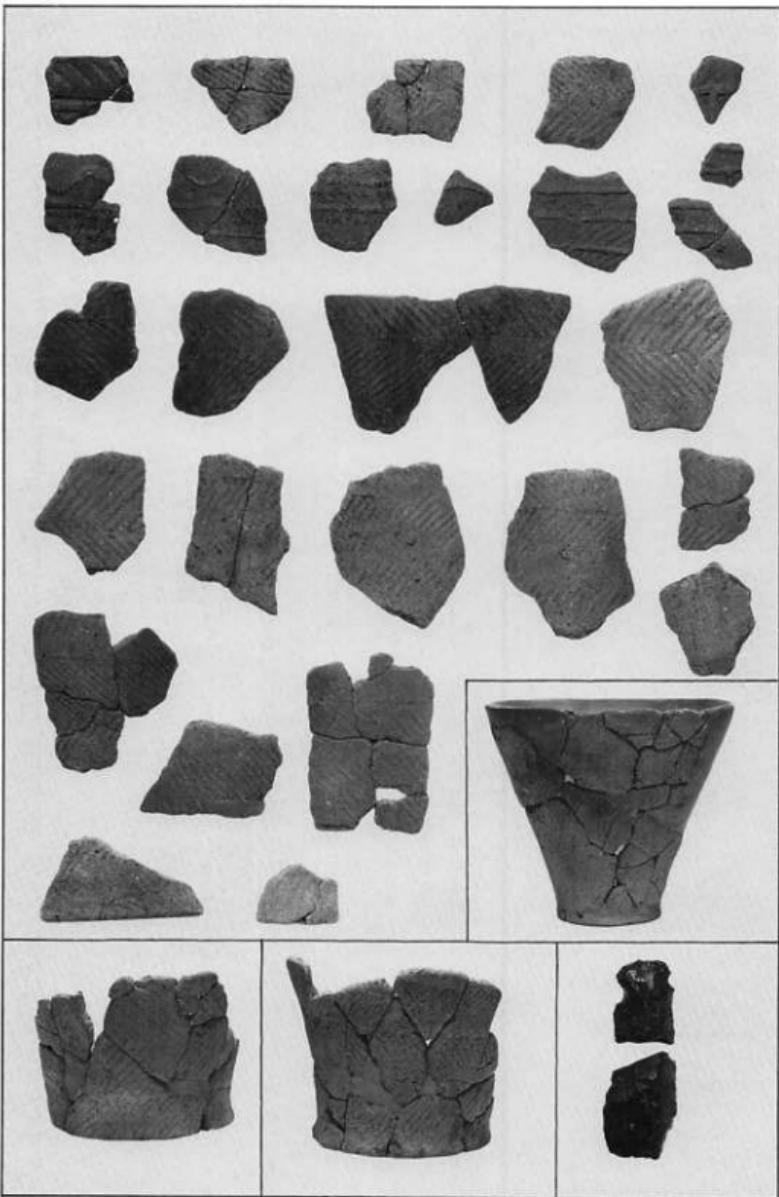
H—3



土器出土状况

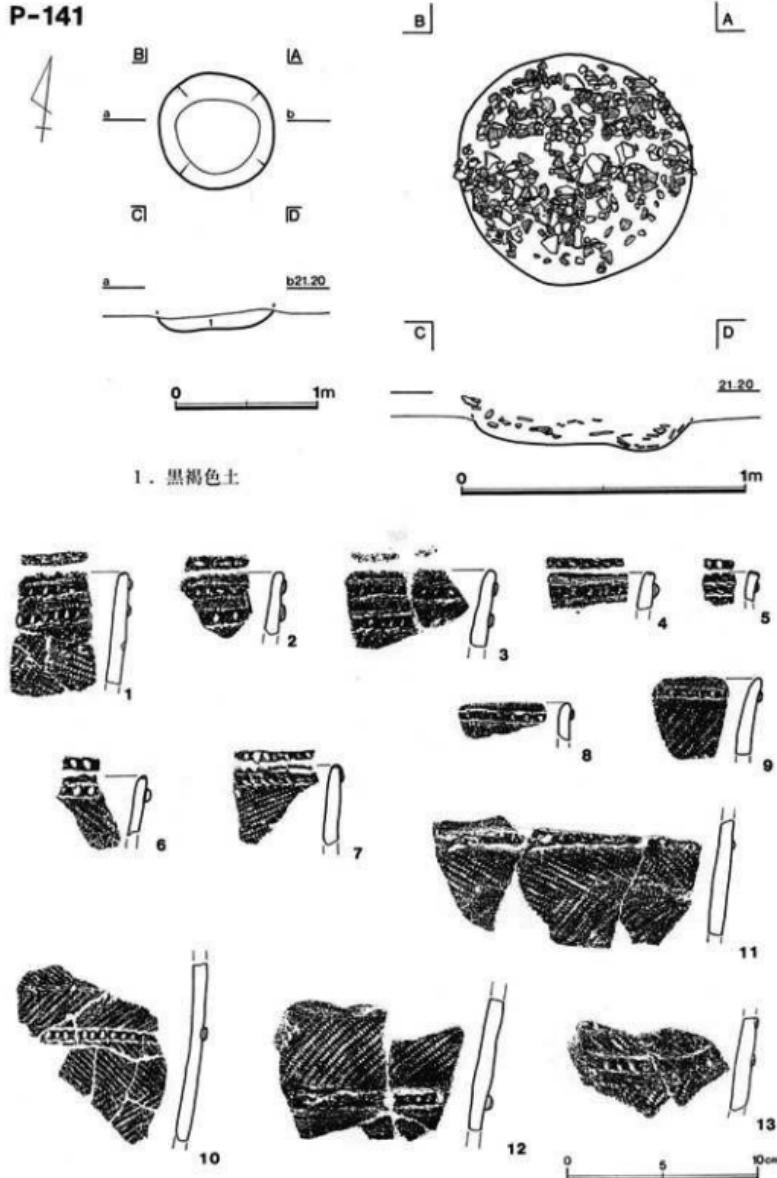


H—3 の出土遺物



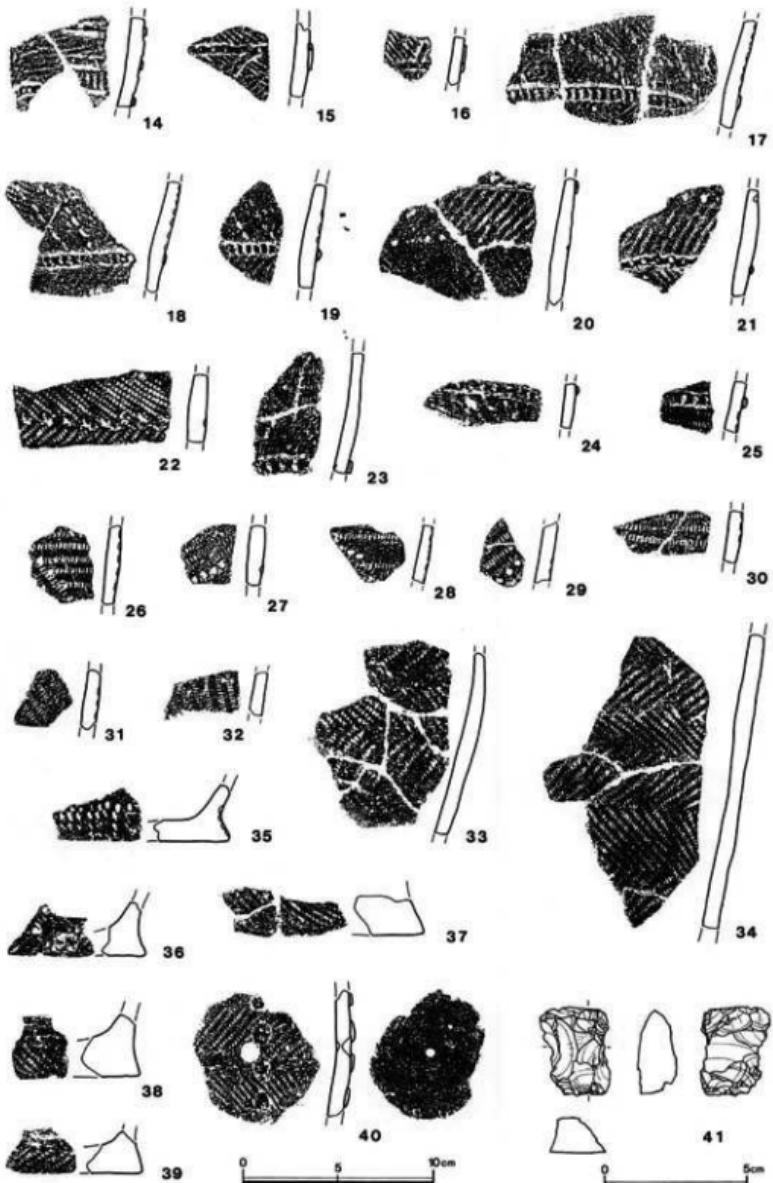
H-3 の出土遺物

P-141



P-141

29



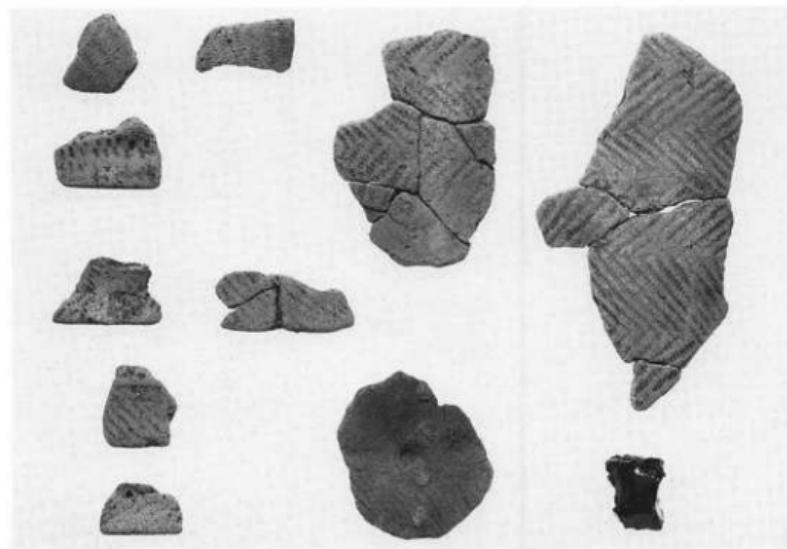
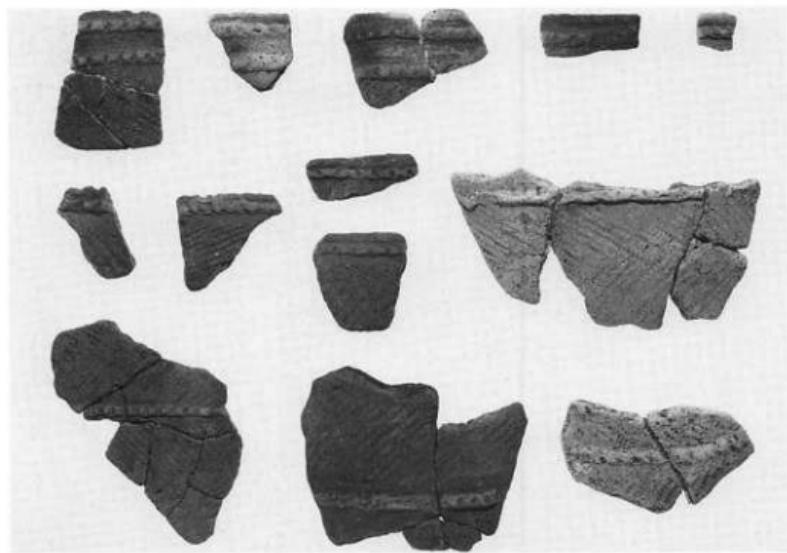
P-141の出土遺物



P—141土器出土状况

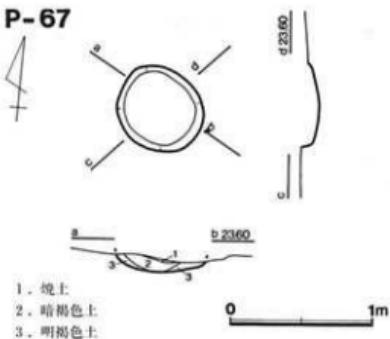


P—141完掘

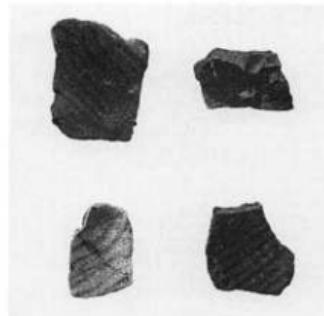
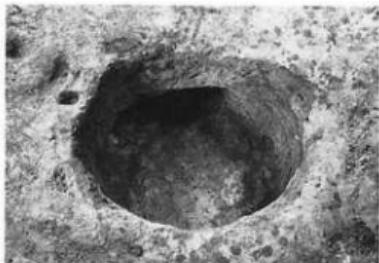
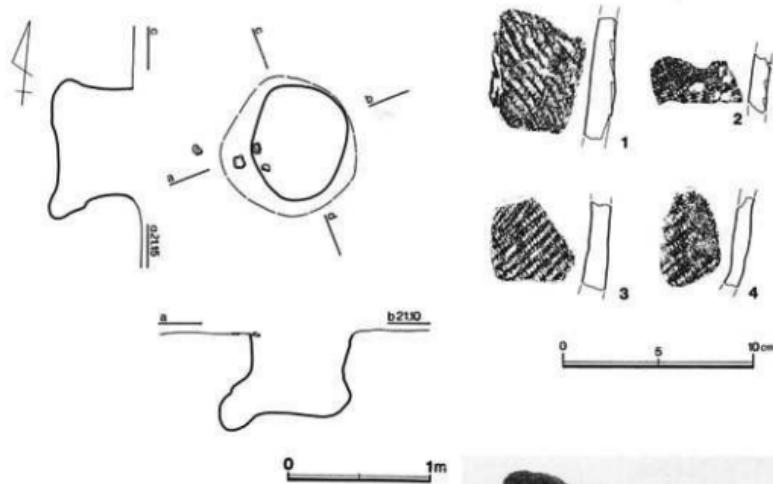


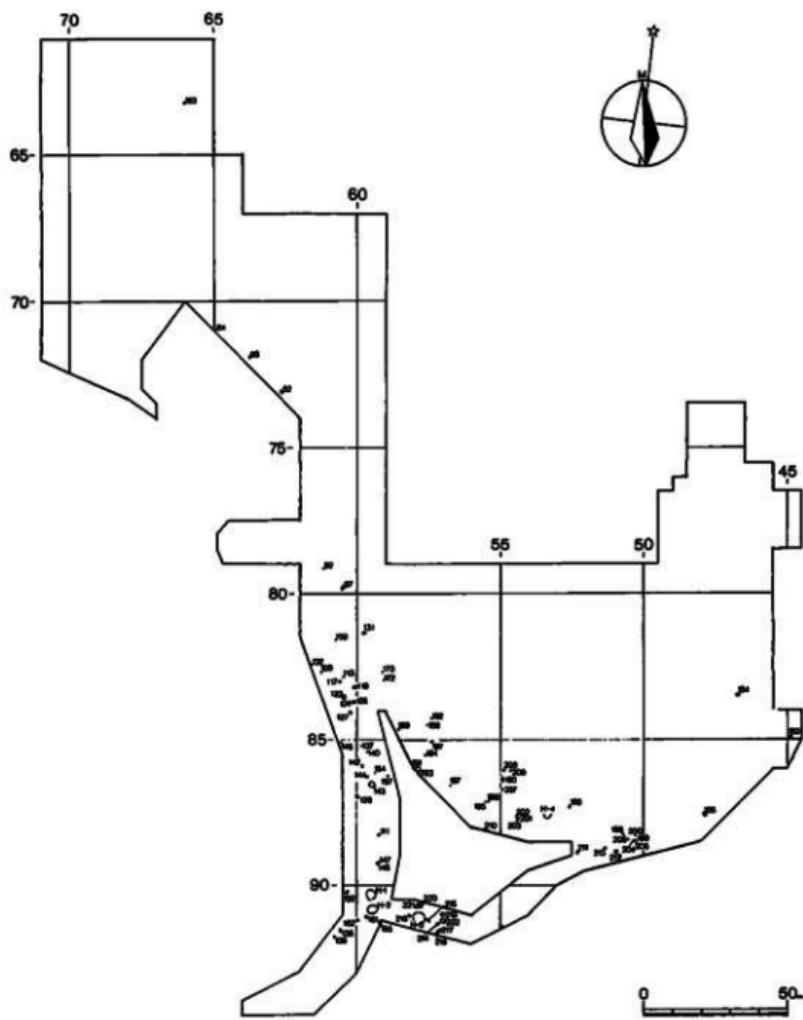
P-141の出土土器

P-67



P-99





縄文中期の造構位置図

2. 綱文中期の造構

縄文中期の造構には、竪穴住居跡3軒、住居跡状造構4基、土壙72基などがある。これらの造構は、構造や形態、規模などの差に基づいて序列を決めた。

竪穴住居跡にはH-1・2・5があり、調査区の南側、台地の南西端部に位置する。他の造構も含め、検出はⅢ層中またはⅣ層の上面に至って行われたものがおおい。そのため、壁の上半は検出の遅れや耕作により失われているものが大半である。また、掘込みが浅く床面・底面がⅣ層に至らないものもあったと考えられる。

住居跡状造構にはH-4・P-143・155・193がある。径2~3mの浅い皿状を呈し、炉を持たない。柱穴は検出が少なく、上屋についても不明な点が多い。H-4以外は土器・石器など遺物が豊富に出土し作業場跡と推定される。

土壙は調査区の中央部から南に多く分布する。平面形が梢円形（長径と短径の比が1.3以上）のものと円形のものはほぼ半数ずつあり、他に細長く溝状を呈する土壙が11基ある。前者には、掘込みが浅く横断面形の皿状を呈するものがある。

平面形が梢円形または、やや長い不整形を呈し、長径が約1m以上の土壙には、P-52・97・131・119・123・190・152・184・126・186・183・187・161・135・222・220・221・216・217・218・215・214（造構一覧表番号12~23・27~38・51）がある。P-126・187・135・142・198の横断面形はポール状または、鍋底状になるもの。他は浅い皿状であった。P-119・123・152・184・126・221は覆土上部に焼土が堆積している。

平面形が円形を呈し、直径が約80cm以上の土壙には、P-86・185・212・211・219・163・199・200・117・132・144（造構一覧表番号39~48・50）がある。P-86・185・212の断面形はポール状または、鍋底状であるが、他は浅い皿状を呈している。

平面形が梢円形または、やや長い不整形を呈し、長径が約1m以下の小型の土壙には、P-191・189・147・162・136・84・194・92・111（造構一覧表番号24~26・52~57）がある。P-189・147・92・111の横断面形はポール状であるが、他は浅い皿状を呈している。

平面形が円形を呈し、直径が約60cm以下の小型の土壙には、P-188・172・173・113・109・124・127・145・137・140・154・137・140・154・157・159・125・192・196・197・195（造構一覧表番号49・58~74）がある。P-127・157・196・197・195は掘込みが浅く、断面形は皿状を呈する。P-145・154の被底は一方に傾斜している。他はポール状または、鍋底状を呈している。

P-201~210・213（造構一覧表番号75~85）は長径1~0.5m・短径0.4~0.1mの細長い溝状を呈し、覆土の状態は大半が自然堆積である。確認面はⅢ層又はⅣ層上面である。被底はⅣ層中に掘り込まれている。P-208・209は焼土帯に位置し、覆土上部に焼土が落ち込んでいた。この2基は焼土が形成される前に構築されている。形態は小型のTピット様である。しかし、小型で掘込みが浅すぎるため、構築目的が落し穴とは考え難い。Ⅳ層の粘土を採取するために掘られたことなどが考えられる。

以下、造構一覧表の順に報告する。

H-1

調査区南側の沢に挟まれた台地、59-90区に位置する。平面形は長軸が北西を向く梢円形を呈する。掘込み面はⅡ層中にあったと思われるが耕作により捉えられない。床面はⅣ層に掘り込まれている。北側の壁は一部風倒木痕により搅乱を受けている。北東側の床面からフレイク・チップが多量に検出された。中央のピットは覆土に焼土化した土を僅かに含み炭化した胡桃などの炭化物が検出されていることから炉と推定される。南西側の小ピットからは炭化物と焼骨様のものが検出されている。H-1からは約180点の土器片が検出されており、その90%近くがⅢ群b-1類に属するものである。1は南側の床面直上から一括出土した、Ⅲ群b-1類の復元土器で、全周の半分程と底部が欠失している。胴半部がふくらむ深鉢形を呈し、現存2個の口縁突起の下には橋状把手が連結している。突起や把手を取り巻いて、貼付帯と、先の細く丸い棒状工具による連続刺突文が配されており、口縁部の内面にも繩文が施されている。2~5、18は覆土出土のb-1類土器で、2~4には、半截竹管を引いた押引文が2段ずつ残されている。6~17、19は覆土中に見出されたⅢ群b-3類土器で、6には円形刺突文と押引文がめぐり、7は無文小型の口縁片。8・9には結束第一種のある羽状繩文が、12~14には綾絞文がみられる。19には文様であろうか、ぞんざいに突き引いた痕が2個残されている。20~27は石器。黒曜石を素材にしている。20~22は菱形のもの、23~26は有茎のもの、27は下半が欠損しており形態は不明である。25は焼けている。20・22~24は床面出土、21・25~27は覆土から出土した。28~30はポイントまたはナイフ。黒曜石を素材にしている。29・30は基部破片。31・32はスクレイバーで黒曜石を素材にしている。33・34は石斧。泥岩を素材にしている。34は破片を再加工しているもの。35・36はU・Rフレイク。黒曜石を素材にしている。各々の重さは20-0.8g、21-0.7g、22-1.1g、23-0.7g、24-0.4g、25-0.5g、26-1.0g、27-0.3g、28-1.0g、29-3.6g、30-3.2g、31-5.1g、32-4.8g、33-6.4g、34-3.6g、35-6.0g、36-4.2g。他に黒曜石剝片2,771点、泥岩・片岩剝片52点、礫11点が出土した。

H-2

H-1の南側約2m離れて検出された。梢円形を呈し、長軸方向は東南東を向く。南西側に厚さ約5cmの焼土があり、炉と考えられる。この焼土の上部には木炭が多く出土した。北東壁際の床面直上から土器が出土している。これを接合、復元したのが1で、口縁部の半分以上が欠失している。推定口径19.2cm、器高26.7cm、底径10.2cm程の比較的単純な器形の深鉢形土器。ほぼ平坦な口唇上には、半截竹管による押引文が刻まれ、口縁部には、小さくやや不整な形状の円形刺突文が加えられている。器面はかなり摩耗しており、繩文の判然としない部分も多いが、地文は単節の斜行繩文らしい。胎土には多量の砂礫が含まれている。2は1と同一の口縁片。3は円形刺突文の一部が残存する口頭部の破片で、地文は結束第一種のある羽状繩文。4は1と同一地点の出土品で、器面は摩耗しているが、縱横の押引文が観察できる。5は繩文のある破片。いずれもⅢ群b-3類土器で、3・5は覆土出土。6は安山岩を用いた台石。両面に円錐状の使用痕がみられる。重さは1,560g。他に黒曜石剝片24点と礫3点が出土した。

H-5

調査区の南寄り57-90・91区に位置している。早苗別川に注ぐ大きな沢に面した南向きの斜面で、すぐ北側には、TP-11、P-220、221、東側にはP-215が、さらに20mほど北には中期前葉頃と思われる住居跡、H-1が検出されている。厚さ5~10cmの表土を取り除くと多量の土器片とともに汚れた焼土が検出されたため、グリッドと平行に幅1mのトレンチをいれ、Ⅲ層の上面でプランを確認した。東側は風倒木によって壊されている。汚れた焼土は上屋を覆った土が焼け落ちたものと思われ、床面にはさらに純粋な焼土と炭化材が拡がっていた。上面形は斜面のため南側の穴が不明であったが、焼土と炭化材の分布から見てほぼ円形と推測される。壁は、北側しか残っておらず、ゆるやかにたちあがり細い壁柱穴がみられる。床面はⅢ層からⅡ層にかけて造られており、あまり堅くなく斜面に沿ってゆるやかに傾斜している。また、黒曜石および珪岩のフレイク・チップが散乱し、細かい炭化物で汚れていた。中央に深さ3cmほどの浅いピットが検出されたが、焼土はみられなかった。柱穴は、主柱穴と推測される深いものが二つ、號から1m程離れたほぼ対称的な位置にあり、中に炭化材が残っていた。柱穴付近から北壁に伸びている炭化材は、住材と思われる。住居跡の南側で小型の土器、西側には砥石と石斧が並んで出土している。炭化材は北側に特に多くまた、保存状態もよく、大きさ5~8cmの棒状と幅20cm前後で板状を呈する二つのタイプがみられた。樹種については依頼中だか同定未了である。住居跡の時期は縄文中期末葉と推測されるが、炭化材のC¹⁴による絶対年代は4080±120BPという数字がでている。1、2は、Ⅲ群b-3類土器で口縁が外反し胴部がふくれる器形である。底部は少し外に張り出す。胎土に少量の纖維を含み、焼きは、やわらかい感じである。口縁部に四つの小突起を持ち口唇に刻みが加えられる。器面には結束第一種羽状縄文が施されている。内外面の調整は、粗く特に内面下部は爪の痕が残っている。2は、斜め下方から棒状工具による刺突が加えられている。3~9は、Ⅲ群b類土器である。羽状縄文、4~5は、LR縄文が施文されている。6は、LR縄文の上から線格が施文されている。7~9は、いずれも底部である。7は、刺突列がめぐらしく8は、無文。9は、結束第一種の羽状縄文が施文されている。10は、ポイント、11~12は、スクレイバーで、いずれも黒曜石製である。13~15は、石斧である。12は、縦長の泥岩の薄片を素材とし、一部石面が残っている。14は、後端を欠き、両側縁に擦痕が見られる。15は、中央部で二つに折れ刃部がつぶれており、やはり両側縁に擦痕がみられる。16は、14の石斧と並んで出土した砥石で、四面が使用されている。17は、たたき石で半分に割れている。18はくぼみ石で両面に敲打痕がみられる。19~20は、砂岩製の台石である。

H-4

調査区中央のやや南寄り、53-87区に位置する。検出が遅れたため北側の形状は不明であるが、ほぼ円形であったと推定される。掘込はⅢ層にあり、床面はⅢ層である。炉は検出されていない。南東側の覆土上部にフレイク・チップ集中がある。西側壁際の覆土から土器片が出土した。1は径の小さな竹管状の工具による円形刺突文を2段めぐらせ、その間に付した隆帯を押引き状の刺突文列で刻む口縁片。2~3には斜行縄文があり、3は結束第一種によるもの。1はⅢ群b-2類、他はb-3類と思われる。他に礫1点、黒曜石刺片40点、片岩刺片5点が出土した。

P-193

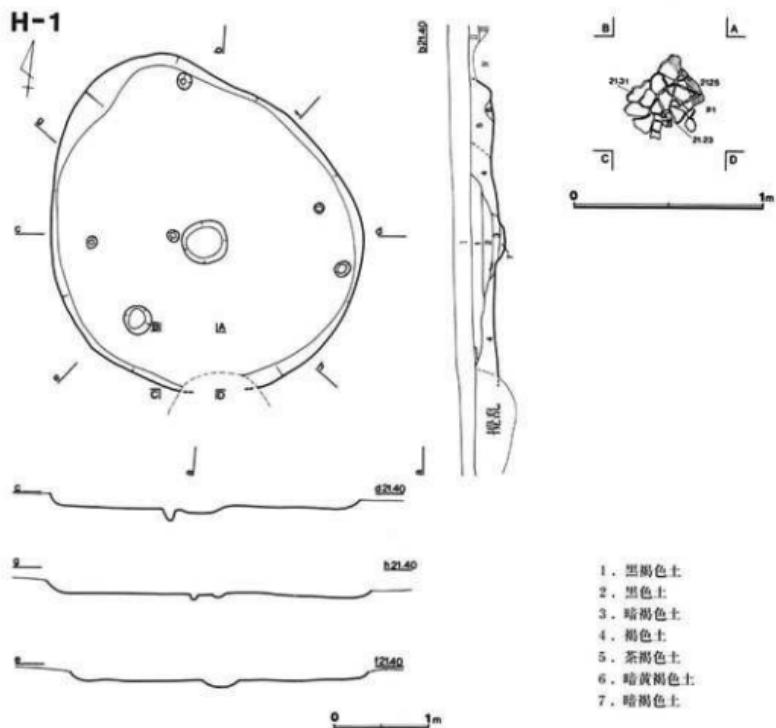
57-85・86区に位置する。西側のP-191を切っている。東側は道路の側溝により搅乱を受けている。覆土から100点を超える土器片が出土した。1・2は、摩耗の進んだⅢ群a類の破片。6～9は、円形刺突文をもつⅢ群b-3類の口縁部。7には押引き的な刺突文列が加えられている。10・11は小型薄手のもの。12・13は、低い陸帯に連続刺突が刻まれる土器で、13はⅢ群b-2類に属するもの。14～16は、結束第一種や第二種のみられるⅣ群b-3類の胴部片。18・19は平底の底部片。3～5は、縦線文をもつⅣ群a類の口縁片で、5の縦線文原体は結節部を有する。20はポイントまたはナイフの基部破片。黒曜石を素材にしている。重さは7.2g。21～23はドリル。珪質頁岩を素材にしている。刺片の一端に錐部を作りだしている。21の重さは1.2g。22は1.3g。23は3g。24は砥石の破片で、3点が接合している。砂岩を用い、重さは194g。他に黒曜石刺片107点、頁岩刺片9点、片岩または泥岩刺片36点、礫34点が出土した。

P-155

H-2の南東3mの59-91区に位置する。覆土から150点以上の土器片が出土している。1以外は全てⅢ群b-3類に属し、器面の摩耗した例が少なくない。1は刻みのある貼付文が密に並ぶⅠ群b-2類の胴部片。2は南側で一括出土した口縁片で、2種類以上の工具を利用した押引文が口縁部と口唇上をめぐっている。3～5はやや小型の口縁片。6・7は口縁部に肥厚帯のみられないもの。8～10は断面三角状の肥厚帯を有する例で、8には都合4段の押引文がある。11・15・16では結束第二種の回転押捺がみられる。17～20は平底の底部。21～23はポイントまたはナイフの破片。黒曜石を素材にしている。21の重さは1.9g。22は4g。23は30.1g。24・25はドリル。刺片に錐部を作りだしている。24は珪岩を素材にし、重さは0.6g。25の素材は珪質頁岩、重さは1.4g。26はつまみ付ナイフ。硬質頁岩を素材にし、重さは5.5g。27は石斧破片。泥岩を素材にし、ベッキングによる整形がみられる。重さは390.4g。28は四石。安山岩を用い、重さは323.3g。29は砥石破片。a面右側に2条の溝と中央にやや浅い数条の溝がみられる。砂岩を素材にし、重さは18.8g。床面から検出した。他は覆土から検出されている。他に礫14点、黒曜石刺片90点、めのう刺片2点、片岩または泥岩刺片23点が出土した。

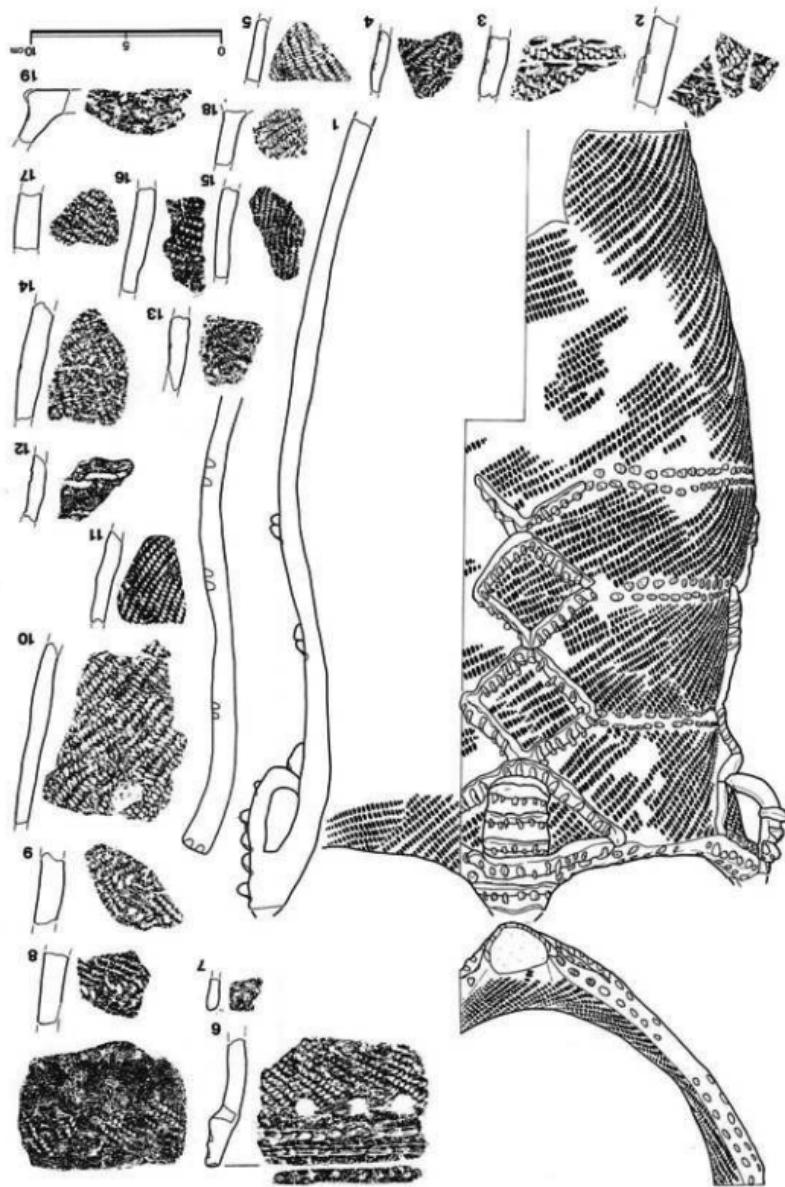
P-143

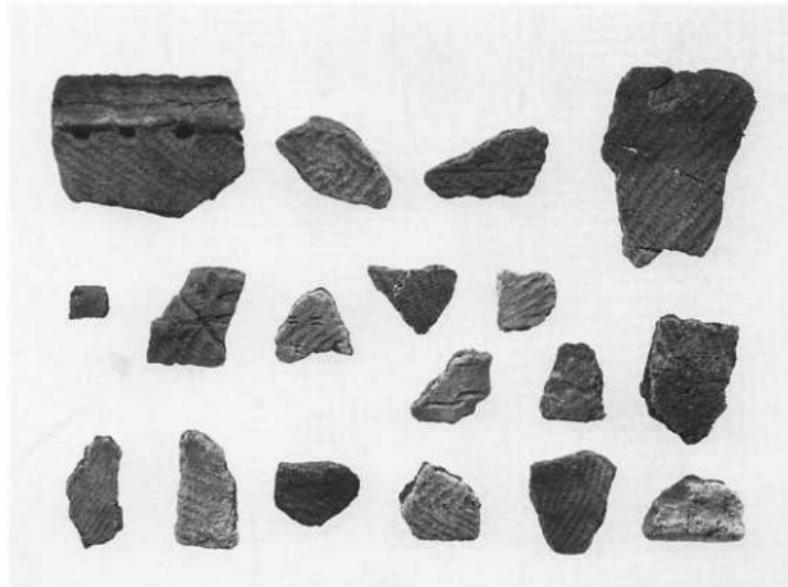
調査区中央の西南西、59-86区に位置する。壇底はやや丸味のある皿状を呈する。出土遺物は中央部に廣く分布している。覆土は自然埋没状態を示す。覆土から60点余りの土器片が出土している。斜位の沈線文がみられるⅢ群b-1類の4以外は、Ⅲ群b-3類に属するもので、摩耗した破片が少なくない。1～3は、押引きや連続する刺突が刻まれた口縁片。5・7には結束第二種が、6には平窓の押引きがある。11は2本単位の擦糸文。16は石錐。b面に1次刺離面を残している。重さは1.4g。17～20はポイントまたはナイフ。17の重さは4.3g。18～20は基部破片。重さは18が4.9g、19が9.4g、20が7.6g。21はエンドスクリイバー。a面に原石面を残している。重さは5.5g。16～21は黒曜石を素材にしている。22は石斧破片。片岩を素材にしている。重さは60.3g。他に礫8点と、黒曜石刺片125点、片岩または泥岩刺片12点が出土した。



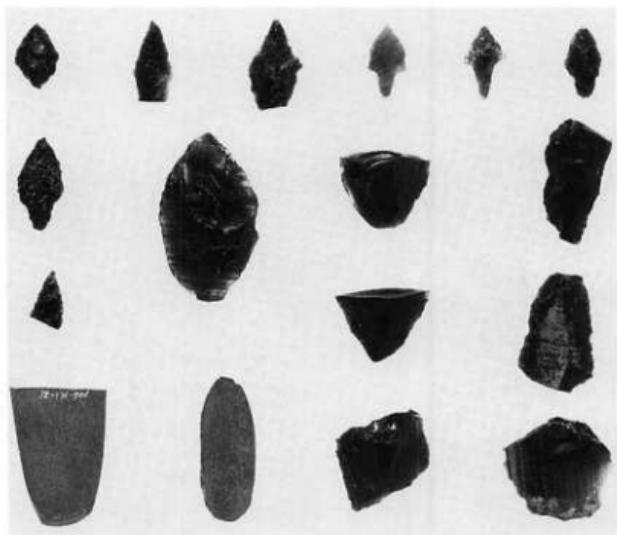
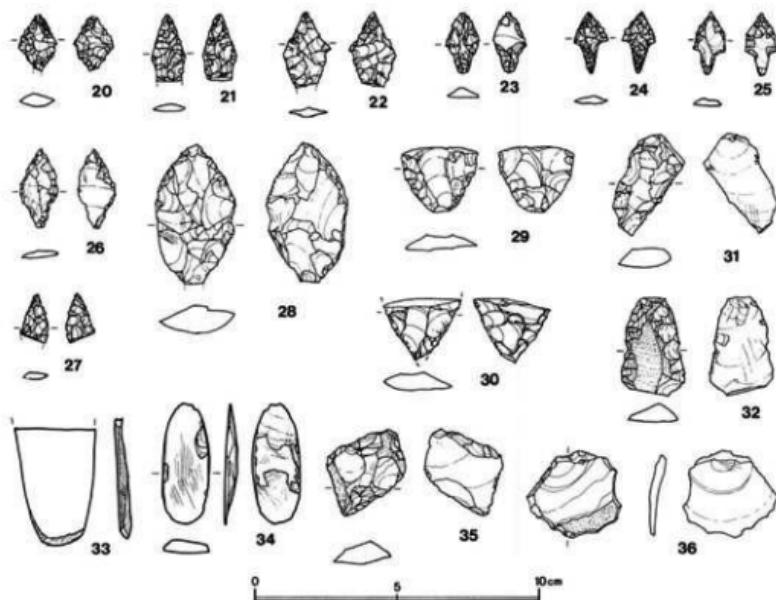
H-1

H-1の出土土器



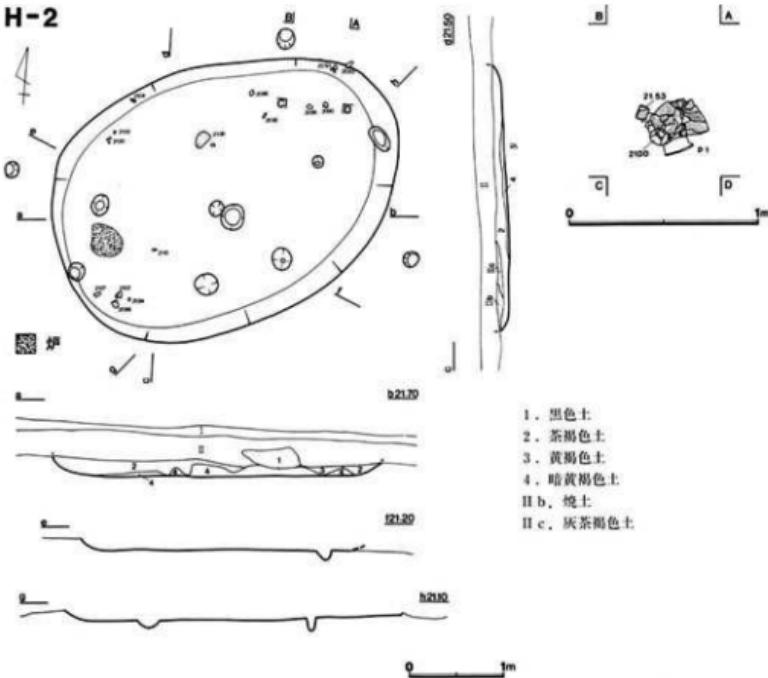


H-1の出土土器



H-1の出土石器

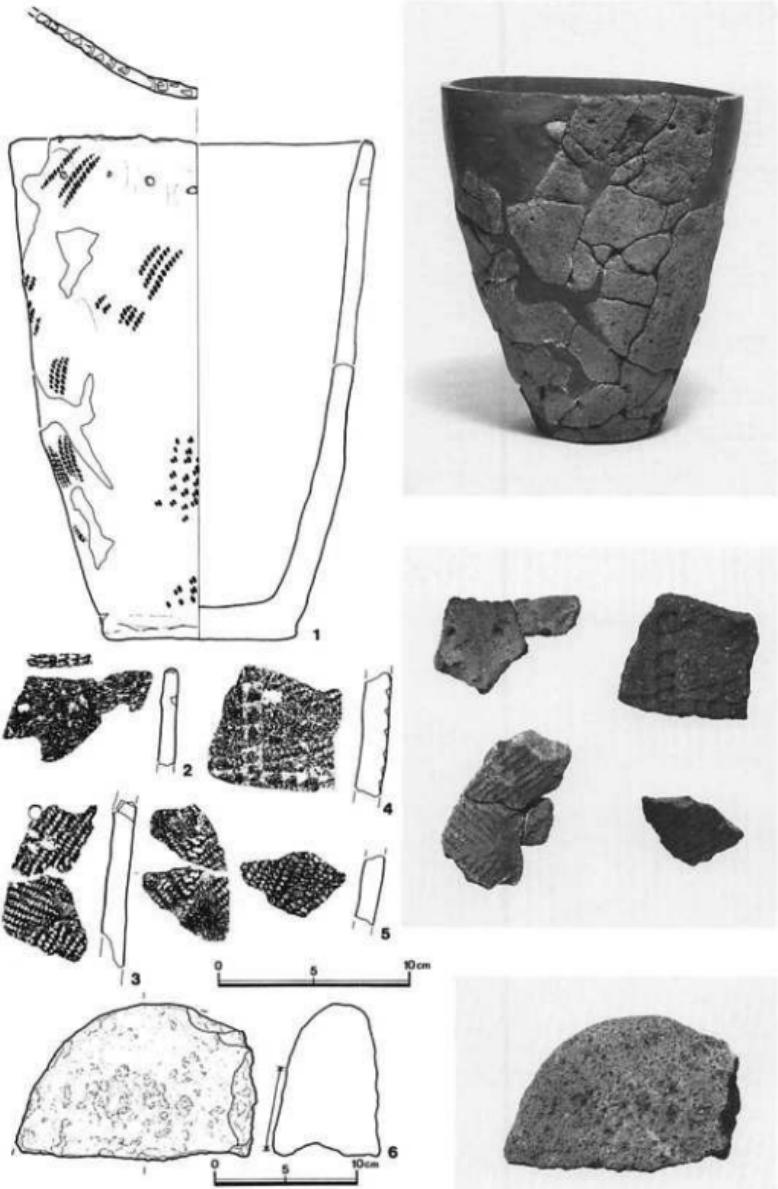
H-2



1. 黑色土
2. 茶褐色土
3. 黄褐色土
4. 暗黄褐色土
II b. 红土
II c. 灰茶褐色土



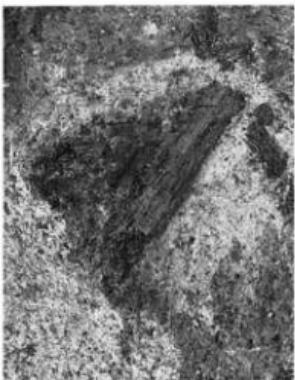
H-2

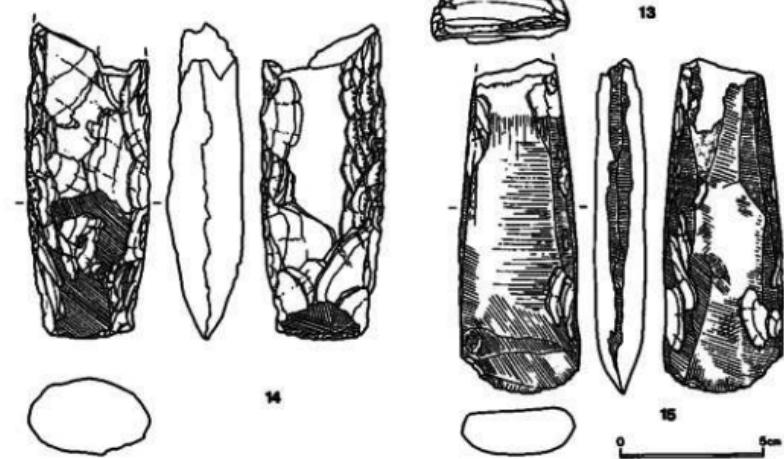
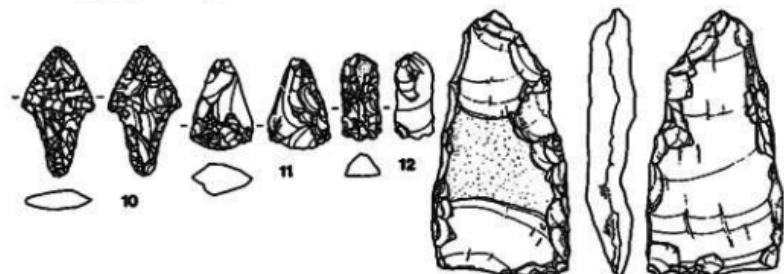
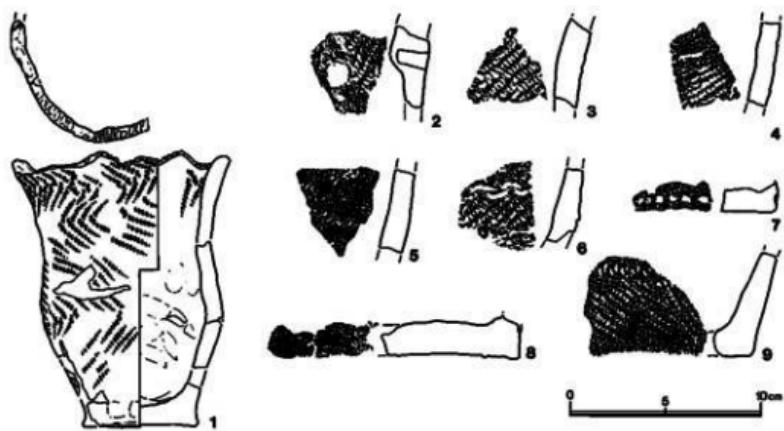


H-2の出土遺物

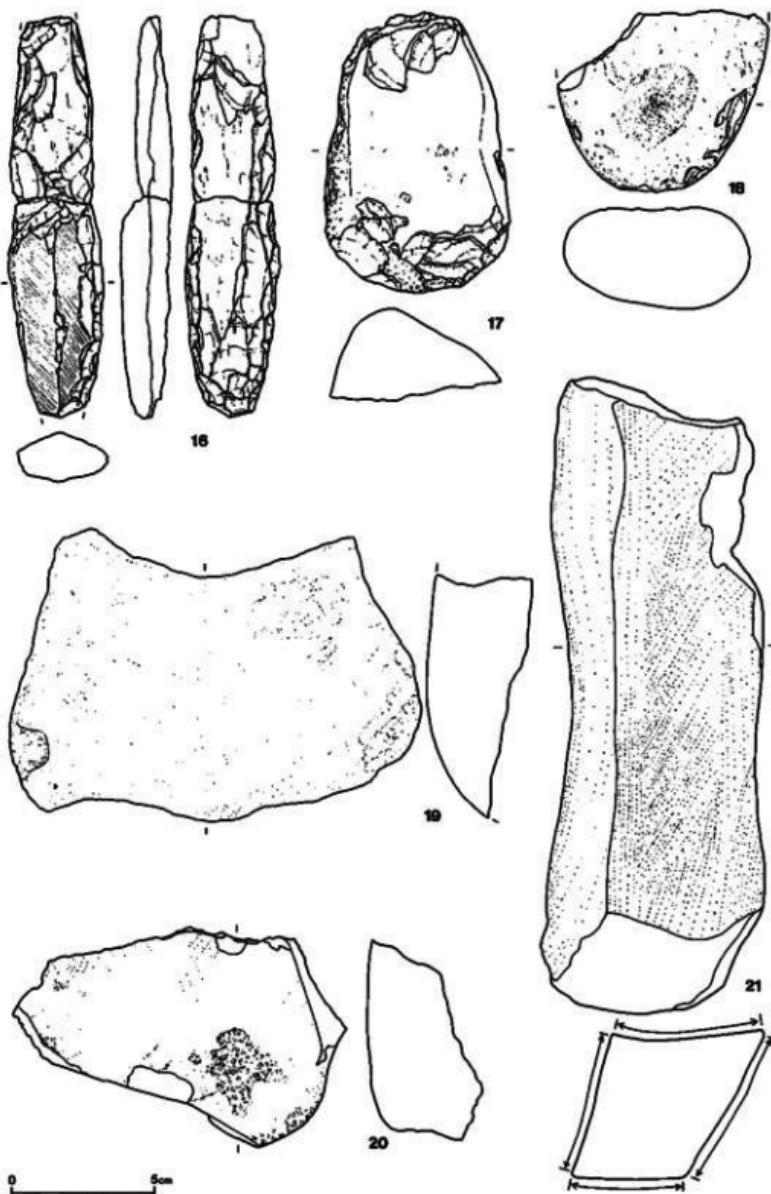


1. 赤褐色土(焼土を含む)
2. 褐色土(木炭・粘土粒を含む)
3. 黒色土
4. 暗褐色土
5. 黒色土・炭化物

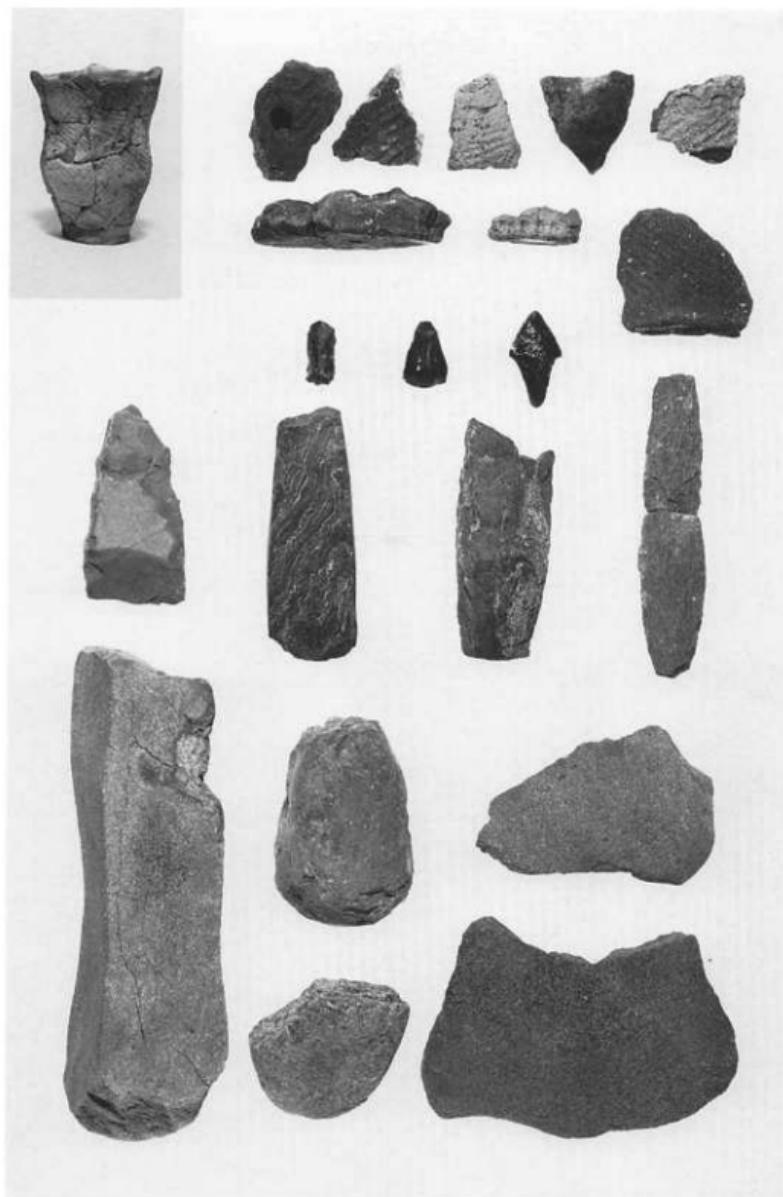




H-5の出土遺物

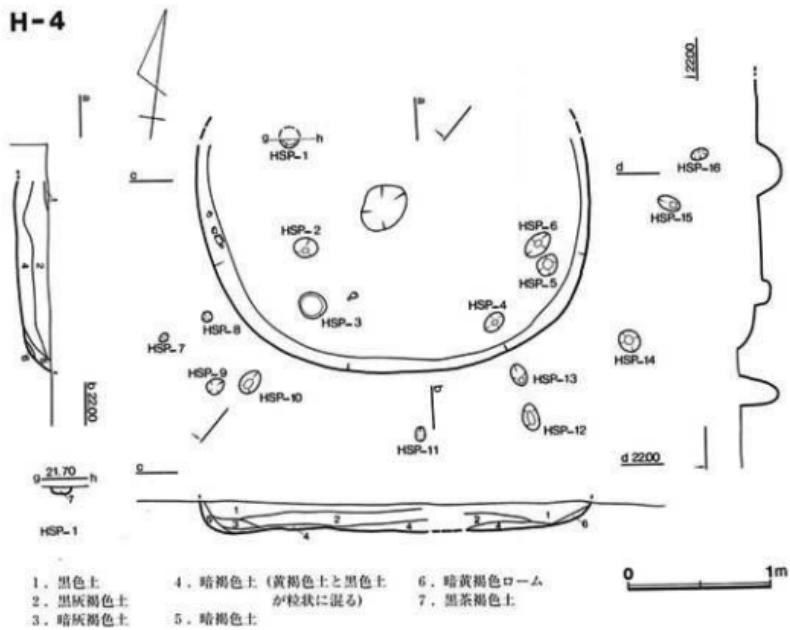


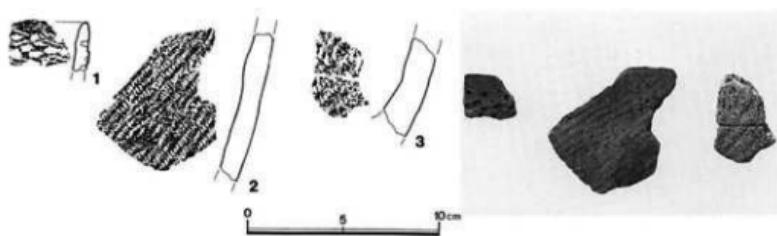
H-5の出土石器



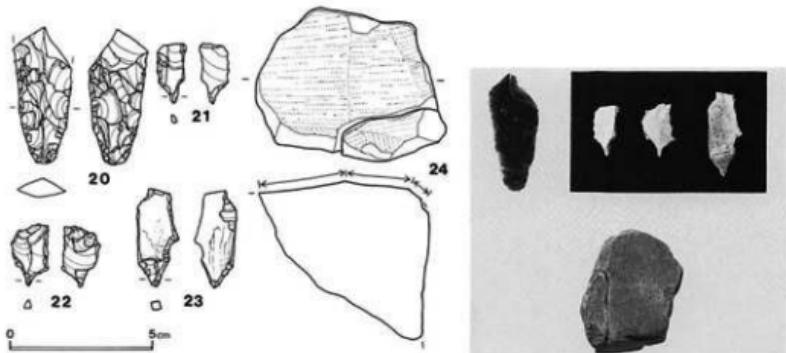
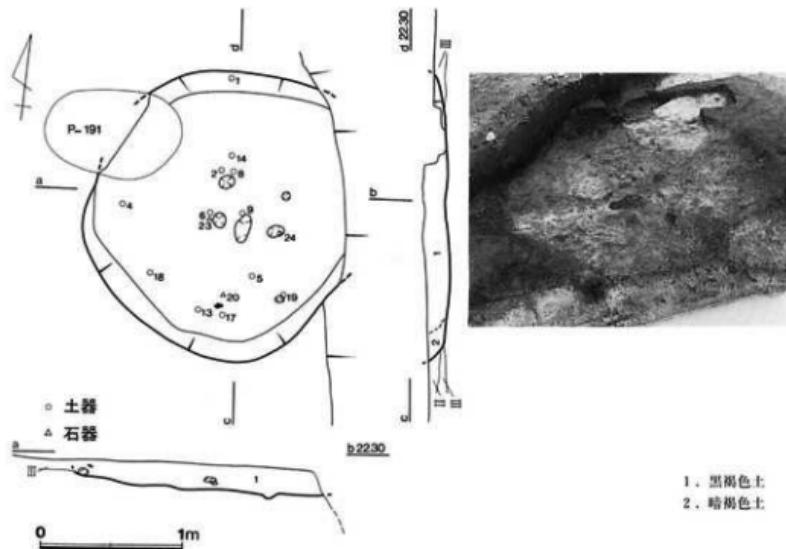
H-5 の出土遺物

H-4

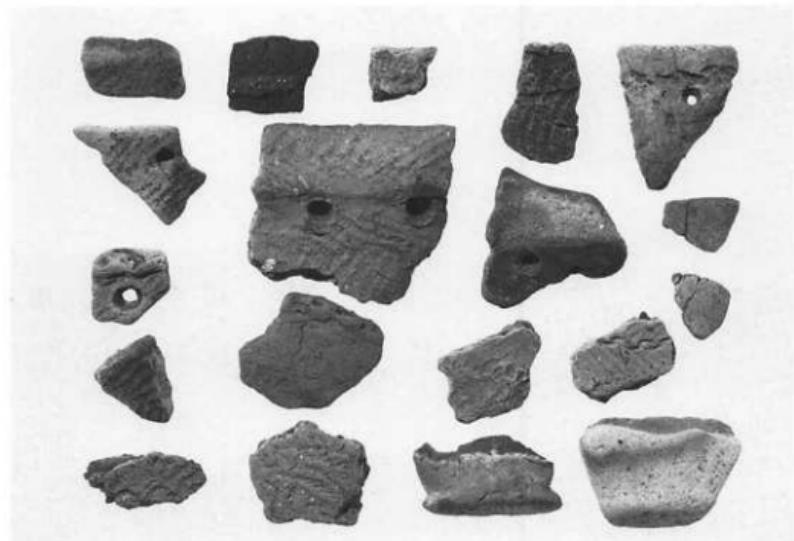
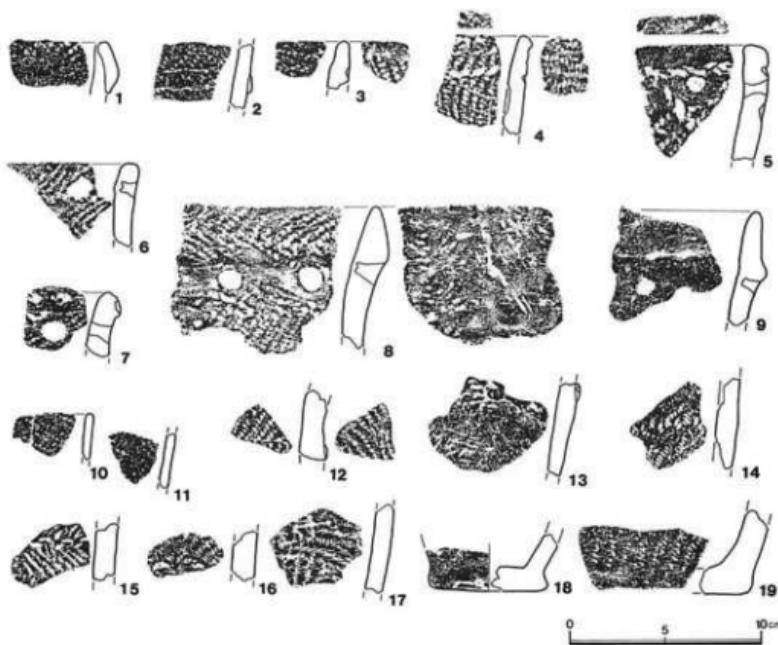




P-193

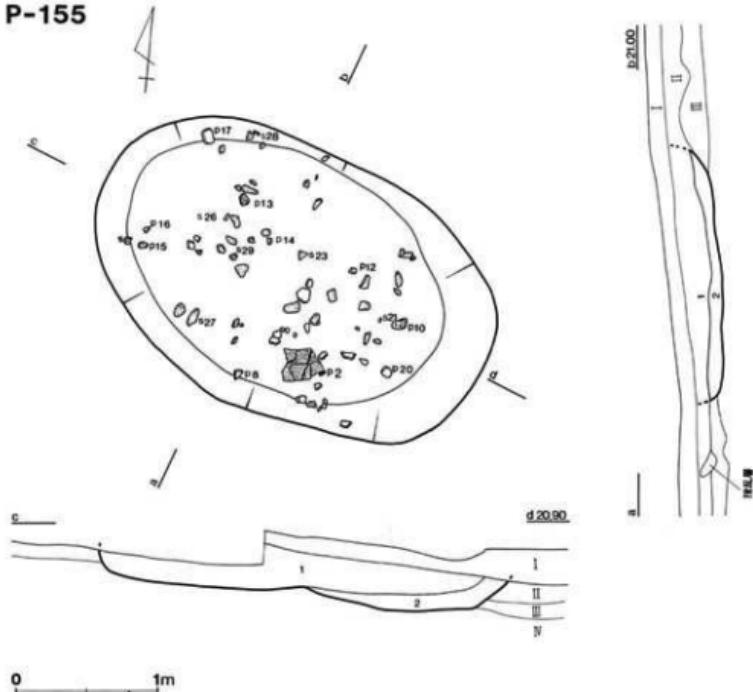


H-4 出土遺物・P-193



P-193の出土土器

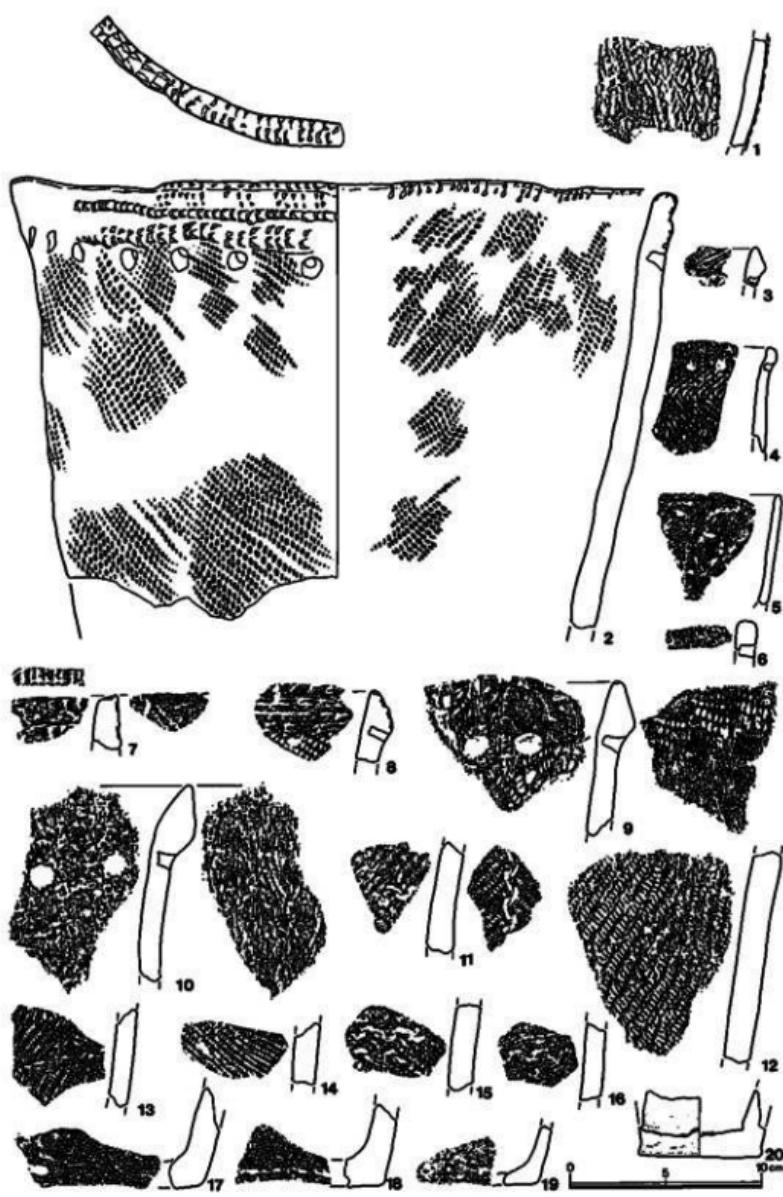
P-155



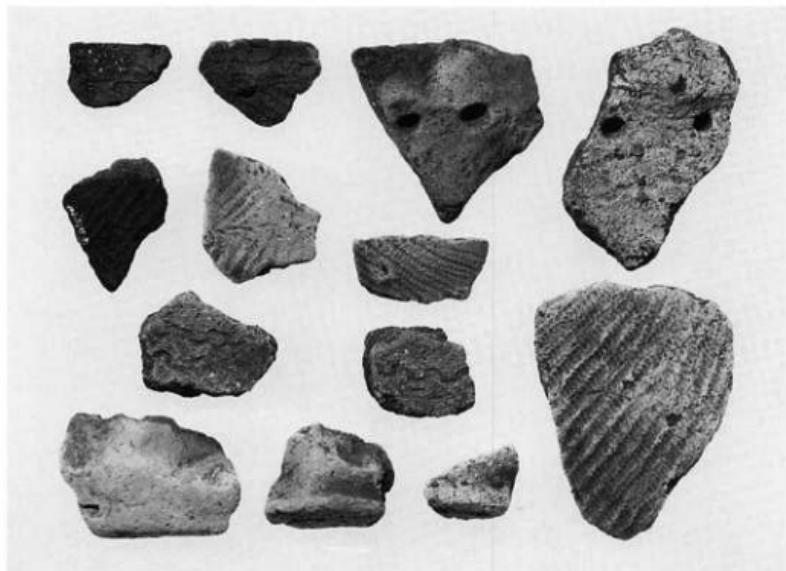
1. 黑褐色土
2. 暗茶褐色土



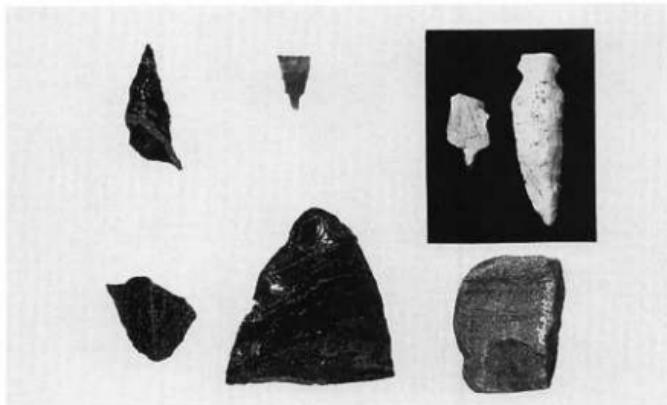
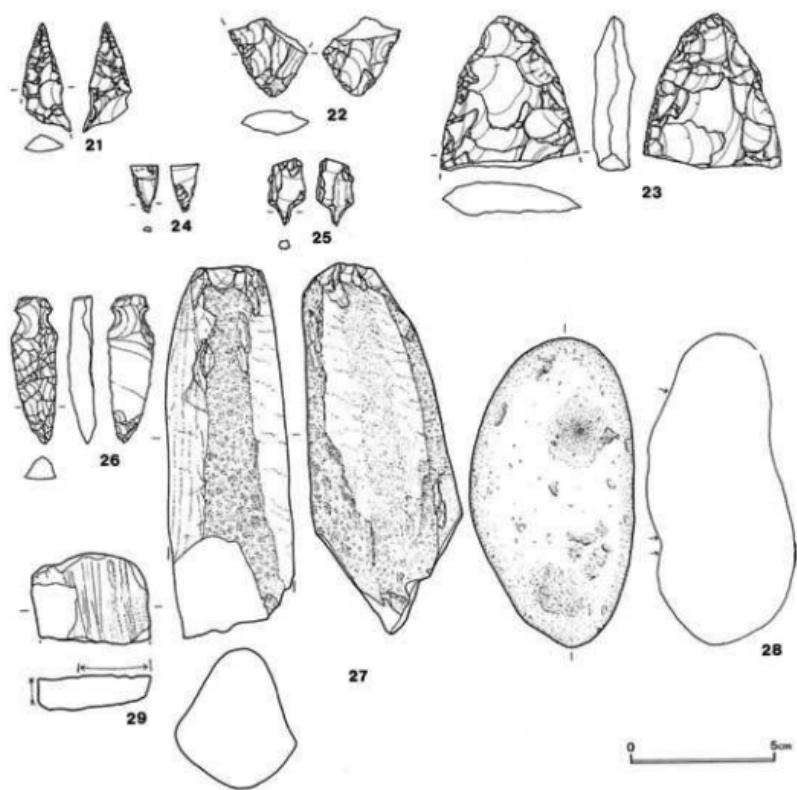
P-155



P-155の出土土器



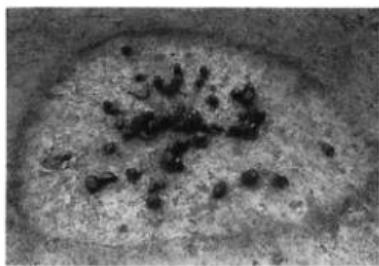
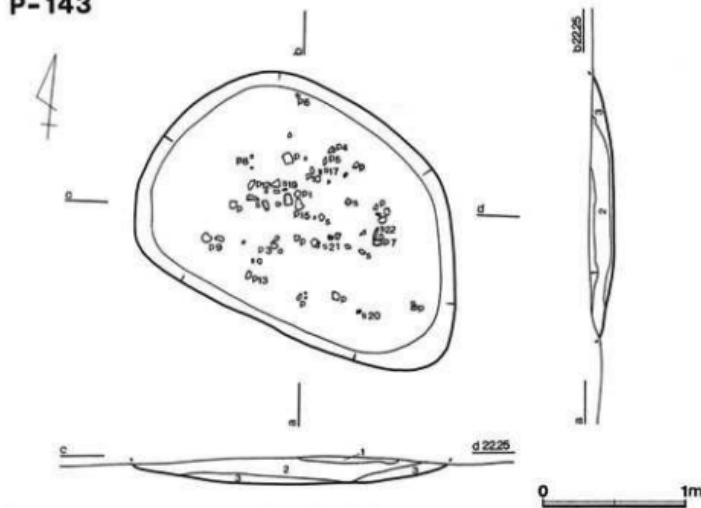
P-155の出土土器



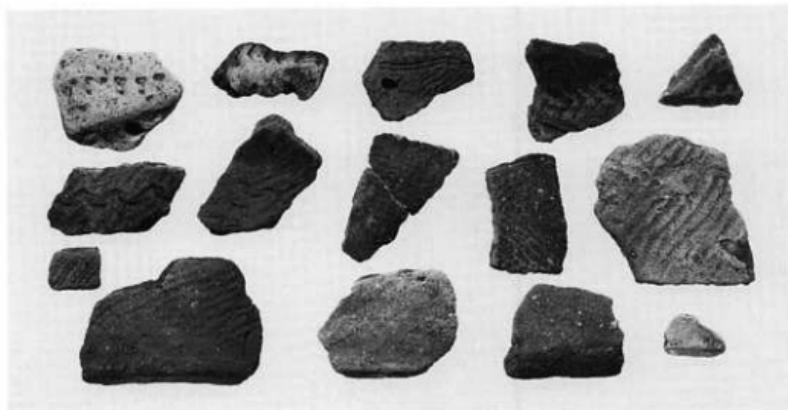
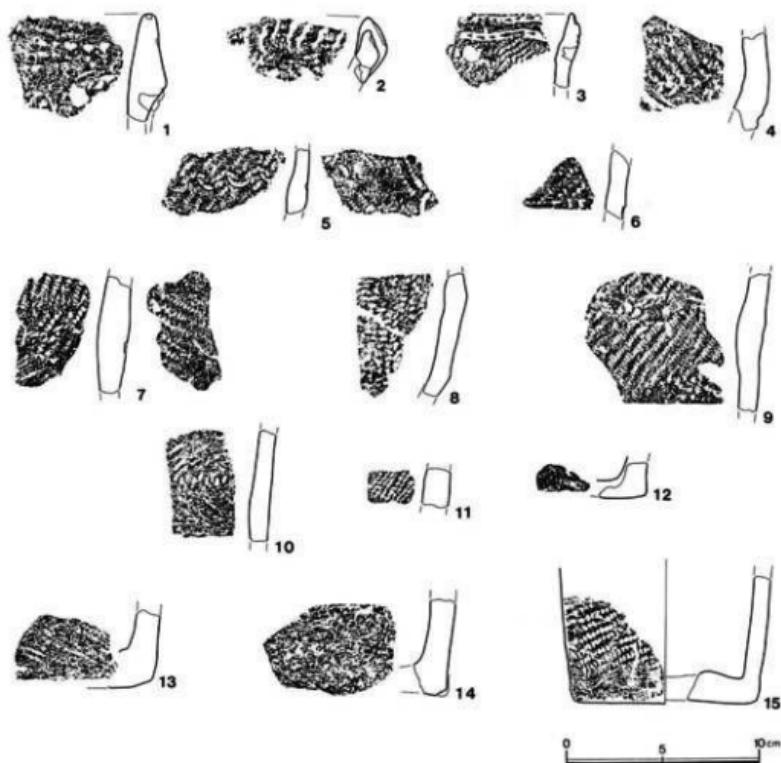
P-155の出土石器



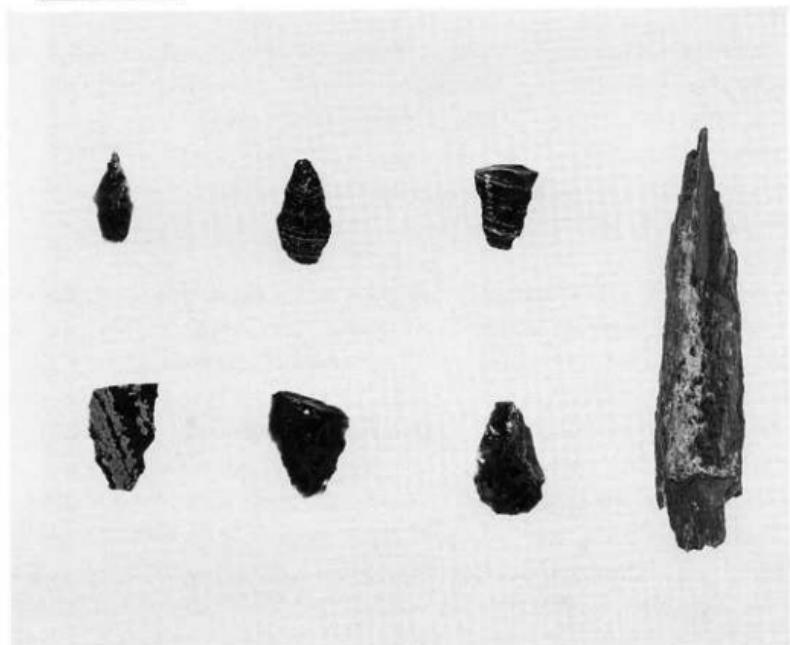
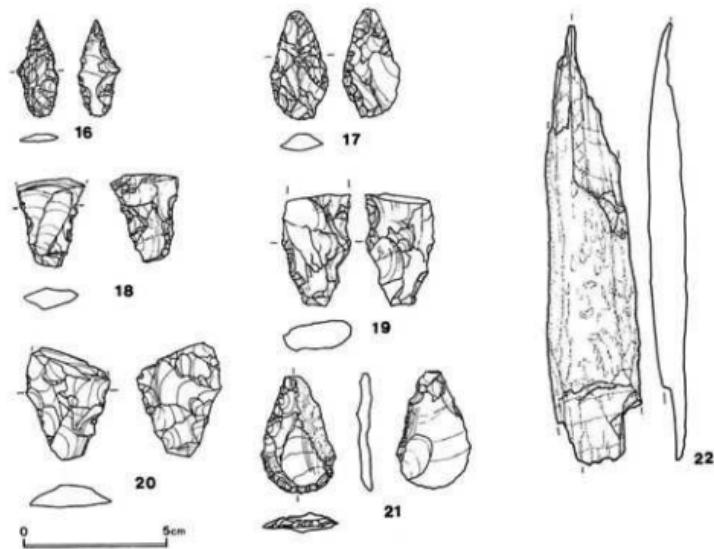
P-143



1. 黒色土(粒状)
2. 暗褐色土
3. 黄褐色土



P-143の出土土器



P-143の出土石器

P-52

小さな沢に向かう傾斜地の62-73区に位置する。墳底はやや凹凸のある皿状である。墳底から20点余のⅢ群b-3類土器が出土。1は肥厚帯には弧状の刺突文が密に刻まれ、3には縦や斜めの押引文がみられる。4は石斧破片。片岩を素材にしている。片面は焼けてやや赤化している。重さは119.4g。他に礫1点、黒曜石剝片11点、片岩または泥岩剝片26点が出土した。

P-97

調査区の中央西側、60-79区に位置する。墳底は南側がやや低い。1は肥厚帯に円形の刺突文を並べたもの。2・3は薄手で、肩部に隆起状の高まりがあり、縄線文が押捺されている。4には3条の縄線文がみられる。6には平窓による連続刺突文がめぐり、7の底面は再利用され、叩かれて凹んでいる。4はⅢ群b-2類、他はb-3類。8は石斧破片。片岩を素材にし、打ち欠きとベッキングにより成・整形している。重さは498.5g。他に礫が2点検出されている。

P-131

調査区中央西側、59-81区に位置する。覆土上部に焼土がみられた。1~3は、覆土から採集されたⅢ群b-3類土器の胴部破片。1には単節の斜行縄文が施されている。2・3は小片で、地文がみられない。黄茶褐色がちで、胎土に多量の砂を含む。4は石斧。粘板岩の幅平縁を素材とし、その周囲を研磨して成・整形している。重さは126.4g。他に礫が2点検出された。

P-119

調査区の中央西側、59-60-83区に位置する。確認面に焼土を検出した。覆土からⅢ群b-3類を主体とする土器片が出土。1は口唇や内面にも縄文があり、肥厚帯に2段の押引文がめぐるもの。2はⅢ群b-2類に属する口縁片で、半截竹管の押引きと綾絡文とがみられる。3・4は胴部片。5・6の底部片は、摩耗が進んでいる。7は石斧破片。泥岩を素材に打ち欠きと研磨により成・整形している。重さは43.2g。8は砥石破片。砂岩を素材にし、重さは86g。9は使用痕のある黒曜石剝片。重さは3.1g。他に礫1点と黒曜石剝片6点を検出している。

P-123

P-119の南東3.5m、59-60-83区に位置する。覆土上部に焼土が堆積していた。1はⅢ群b-2類の口縁片で、貼付帯と押引き状の刻みがあり、縦位の貼付帯は剥落している。2・3には無節の斜縄文と綾絡文がみられる。他に礫1点と黒曜石剝片9点、泥岩剝片4点が出土した。

P-190

調査区中央のやや南寄り、54-86区に位置する。墳底はやや凹凸がある。覆土から40点近くのⅢ群b-3類に属する土器片が出土している。器面が摩耗し、文様の不明瞭な例が少なくない。1・2は裏面にも縄文があり、3~5には綾絡文が加えられている。10はやや薄手の胴部片。11には、底面への移行部に沈線がみられ、意図的な施文と思われる。12は石斧破片。千枚岩を素材にして打ち欠きにより整形している。重さは29.2g。13は凹石。安山岩を用いている。重さは82.2g。14・15は砥石。砂岩を素材にしている。14は中央と北側底面のものが接合した。重さは194.6g。15の重さは64g。他に礫9点、黒曜石剝片46点、片岩剝片4点が出土した。

P-152

H-1の西6m、60-90区に位置する。覆土の南西側から焼土を検出した。柱穴状の小ピットを2基、壇底の北東と南西の中寄りに検出した。覆土から30点近くの土器片が出土。大部分はⅢ群b-3類に属するもので、多くは裏面にも縄文が施文されている。1・2の肥厚帯には押引文があり、1は口唇部にも押引きが加えられた痕跡が残されている。3は口縁部に密な刻みが並ぶもの。4・5の格子状に配された貼付帯には、押引きがみられる。6はⅠ群b-2類の破片と思われる。他に礫3点、黒曜石剝片5点、硬質頁岩剝片1点、片岩剝片2点が出土した。

P-184

調査区の東側、46-83区に位置する。覆土上部に焼土がみられた。覆土から4点のⅢ群b-3類土器が検出されている。1は口縁肥厚帯部の破片で、肥厚帯と口唇上に半截竹管による押引文がめぐらしく、内面にも縄文がある。2・3は縄文の施された胴部片。4の地文は結束第二種をもつ原体を回転押捺したもの。5は使用痕のある黒曜石剝片。重さは2.2g。

P-126

P-143の南西5m、59・60-86区に位置する。覆土上部に焼土がのる。1は縄線文の付された口縁片。2は貼付文の交点に小さな刺突をもつもの。4は胎土や焼成が1に近く、7の表裏には不規則に縄文が重ねられている。1・4・7はⅣ群a類らしい。他に礫が4点検出した。

P-186

調査区中央のやや南寄り、52-87区に位置する。H-4から東南東に6m離れている。覆土の上位に炭化物が分布し、中位には黒曜石剝片がまとまって検出された。総数237点、重さ88.6gをはかる。大きなものは重さ6.8gある。覆土から18点のⅢ群b-3類土器が出土。器面の摩耗した例が少なくない。1は口唇上に押引文が、2の肥厚帯には2段の押引文がある。6には結束第一種のある羽状縄文がみられる。7・8は石斧破片。7は泥岩を素材にし、打ち欠きによる成形が行われている。重さは87.2g。8は片岩を素材にベッキングと研磨による成・整形が行われている。重さは27.1g。他に礫が3点、めのう剝片が1点、片岩剝片3点が出土した。

P-183

調査区の最も東に検出された遺構である。44-84区に位置する。遺物は出土していない。

P-187

57-85区に位置する。東側は道路の側溝による擾乱を受けている。平面形は梢円を呈すると推定される。覆土から土器片が7点出土。1・2は表面の摩耗が進んだ口縁片で、1には2条の縄線文がみられる。3も摩耗のため不明瞭だが、単節の斜行縄文の一部が残る胴部片である。4は有茎の石鎧。黒曜石を素材にしている。尖端と茎が欠損している。重さは1.6g。5は北海道式石冠の上部破片と考えられる。素材は安山岩を用い、側面はベッキングにより整形、上端部は研磨がみられる。重さは28g。他に礫1点、黒曜石剝片6点、片岩剝片3点が出土した。

P-191

57-85-86区に位置する。東側半分はP-193に切られている。覆土から140点以上の土器が得

られている。大部分はⅢ群b-3類に属する破片だが、器面の摩耗が進んだもの、小さくて図示に耐えないものが多い。1・2は断面三角状の肥厚帯をもつ口縁片で、2には結束第一種のある羽状縄文がみられる。3・4は肥厚帯のない口縁片。3では口唇にも縄文が施され、はっきりしないが4の内面にも縄文があるらしい。5には辛うじて押引文が残っている。6~9には結束第一種のある羽状縄文がみられる。10・11・14・15には斜行縄文が、12には羽状縄文がある。16・17は無文らしい。18は厚手で表裏に縄文がある。20~22は底部片。19は整形や一部に残る縄文の印象からV群c類と思われる。23はドリル。素材は珪質頁岩で、断面三角形になる棒状剣片を用い、錐部を作出している。重さは0.4g。24はつまみ付ナイフ。黒曜石を素材にしている。a面と左側面に原石面を残した厚い剣片を用いている。重さは20.3g。他に礫が26点、黒曜石剣片220点、頁岩剣片8点、めのう剣片7点、片岩または泥岩剣片62点が出土した。

P-189

調査区中央の58-84区に位置する。覆土から上は風倒木痕によると推定される焼土を含む擾乱層である。1は貼付帶とその縁を刻む爪形状や円形の刺突文が密に配された口縁突起部。2・3は押引文をもつ口縁片で、かすかだが3の口唇部にも押引きが残されている。4・5は円形刺突文が残る破片。9・10には、結束第一種の羽状縄文がある。14の表裏に残る痕は意図的な文様ではない。1はⅢ群b-1類に、他はb-3類に属するもの。16は円錐形の土製品。17はポイントまたはナイフの基部破片。素材は黒曜石。重さは1.4g。18は凹石。安山岩を用い、重さは281.5g。19は北海道式石冠の破片と考えられる。素材は安山岩。重さは16g。20は砥石の破片。砂岩を用い、重さは25.8g。他に礫が63点、黒曜石剣片16点、片岩9点が出土した。

P-147

P-148に隣接した59-89区に位置する。南側の壁際覆土から礫を1点検出した。

P-161

H-2から南西に1m離れた59-91区に位置する。底はほぼ平坦。南東側の底から4の土器が出土した。1は薄手で、黄赤褐色がちな色調を呈するⅠ群b-2類土器の小破片である。2は灰黒褐色を呈し、斜行縄文がみられる。3は裏にも縄文が施された鋸部片。4は結束第一種のある羽状縄文が地文となるもの。5は平底の底部片。2~5はⅢ群d-3類。6はつまみ付ナイフ。珪質頁岩を素材にしている。重さは3.4g。7・8はスクレイパー。素材は黒曜石。7は縦長剣片を用い、右側刃はややコンケイブした刃部を作り出している。重さは23.2g。8は上部に原石面を残した横長剣片を用いている。重さは7.8g。9は北海道式石冠の破片と考えられる。安山岩を素材にしている。重さは14.6g。他に黒曜石剣片が14点検出されている。

P-135

調査区南西、60-91区に位置する。南西に2m離れてP-136がある。1~3は覆土出土のⅢ群b-3類土器。1は口唇上にも縄文があり、左下の丸い凹みは新しい傷痕。2・3は摩耗や剝落のあるもので、3では内面にも縄文がみられる。4はスクレイパー。黒曜石を素材に、全周に刃部を作り出している。重さは7.8g。他に黒曜石剣片18点、片岩剣片3点が出土した。

P-222

調査区の南側56・57-91区に位置する。梢円形を呈し、壠底は平坦である。**Ⅱ層**を除去した段階で黒褐色の落ちこみがあり、それを取り囲むように現状に暗黄褐色土が堆積していることから検出された。付近の土壤の堆積状況とはまったく違っており、遺物は出土していない。

P-220

調査区の南側56-90区に位置する。不整円形を呈しP-221と切りあっている。壠底には凹凸があり、中央部に薄く、比較的あざやかなオレンジ色の焼土が見られた。1~4は、**Ⅲ群b-3類土器**、5~10は**Ⅲ群b類土器**である。11は、黒曜石、12は、珪岩のフレイクである。13は石斧の破片で敲打痕がある。

P-221

調査区の南側57-90区に位置する。不整円形を呈しP-220と切りあっている。壠底は凹凸があり立ち上がりは不明瞭である。1は、口縁部の繩文がすり消されている。5は黒曜石製のスクレイパーで、熱を受けて表面が白くなっている。

P-216

調査区の北側57-90区に位置する。不整形をなし壠底に凹凸があり立ち上がりは不明瞭である。1は、平縁で口唇に繩文が施文されている。3は、ポイント、4は、フレイクコアでいずれも黒曜石製である。5は、砥石。6はくぼみ石の破片である。

P-217

調査区の北側57-90区に位置する。不整形をなし壠底に凹凸があり立ち上がりは不明瞭である。1~6は、**Ⅲ群b類土器**である。7は、石斧片で泥岩製である。8は白色の繩で凝灰岩ではないかと思われるが、付近の地層にはこのような繩は存在しない。なお同様の繩について胎土分析を試みた。結果については胎土分析の項を参照されたい。

P-218

調査区の南側58-90・91区に位置する。卵形を呈し、立ち上がりはゆるやかで皿状をなす。石斧が1点出土している。

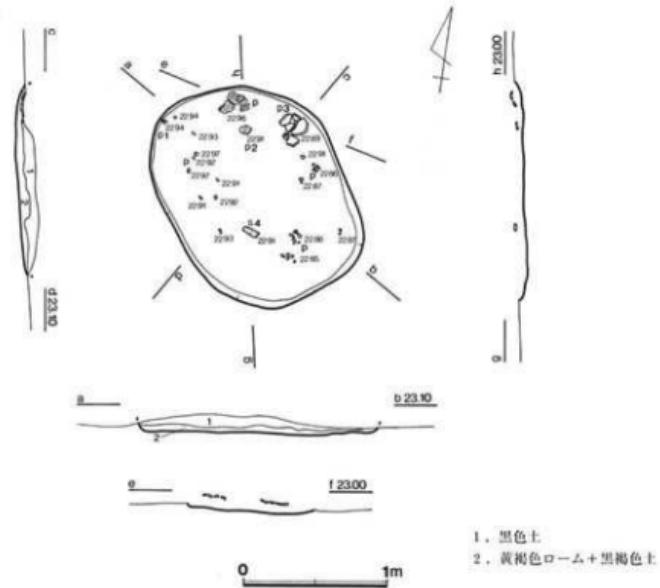
P-215

調査区の南側57-91区に位置する。梢円形を呈し立ち上がりはゆるやかで皿状をなす。**Ⅲ群d類土器**が出土している。

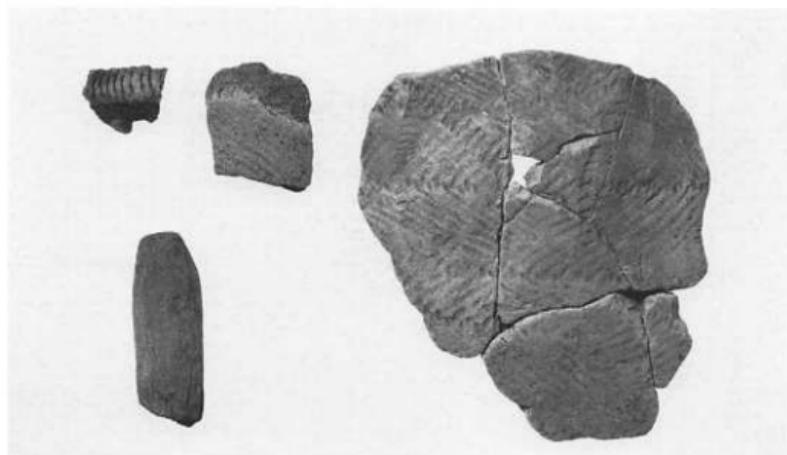
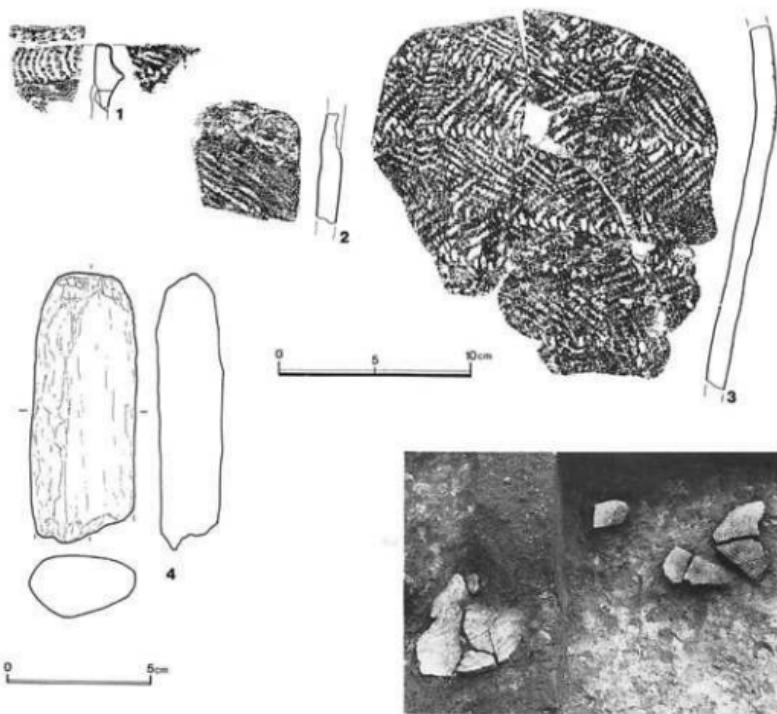
P-214

調査区の南側57-91区に位置する。梢円形を呈し立ち上がりはゆるやかで皿状をなす。壠底の直上から**Ⅲ群b類土器**の胴部大片が出土している。1は、器面が橙褐色を呈し胎土に纖維を含む器面には結束第一種の羽状繩文が施文されている。内面には横位の調整痕が見られる。2は無文で縦と横に刺突列が施文されている。形状、規模、長軸の方向などはP-215と同一でありなんらかの関係が考えられる。

P- 52



P-52

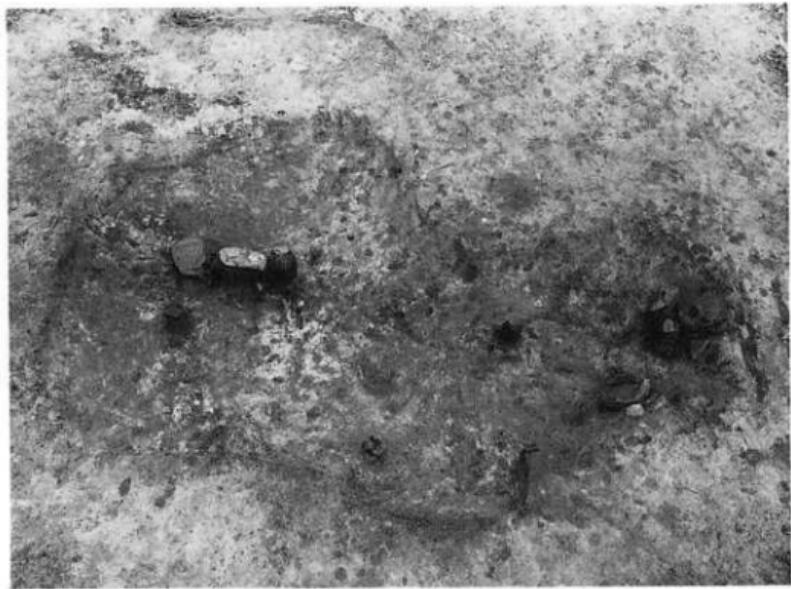


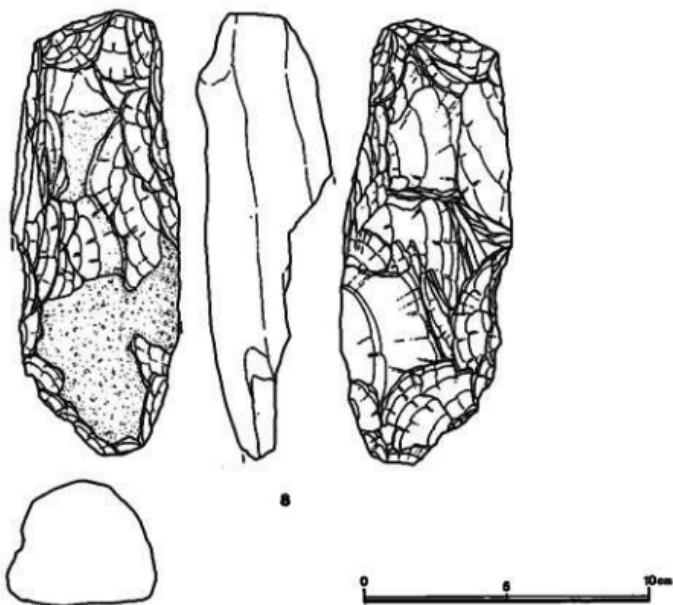
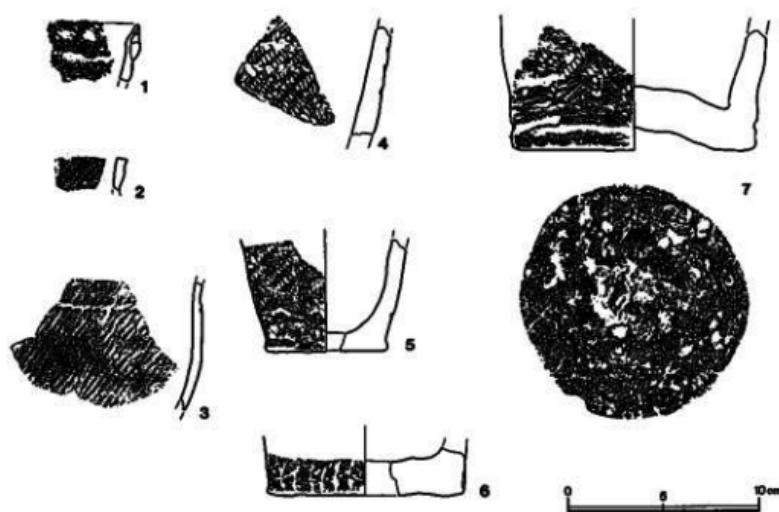
P-52の出土遺物

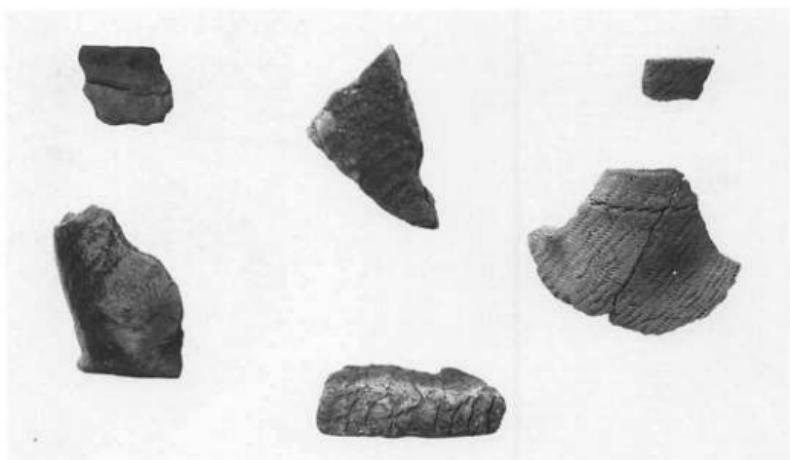
P-97



1. 黑褐色土
2. 茶褐色土

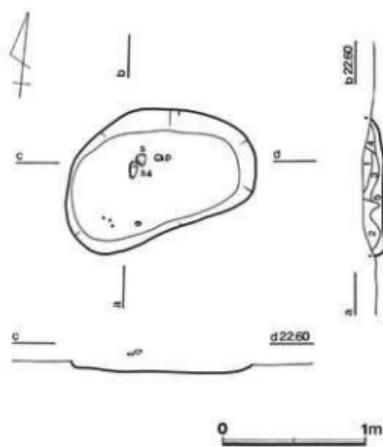




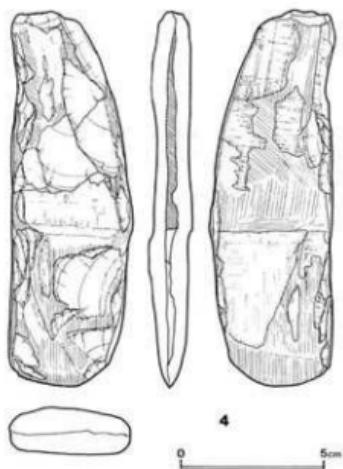
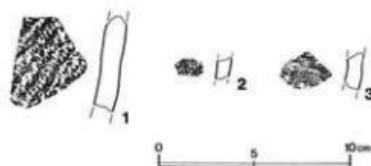


P-97の出土遺物

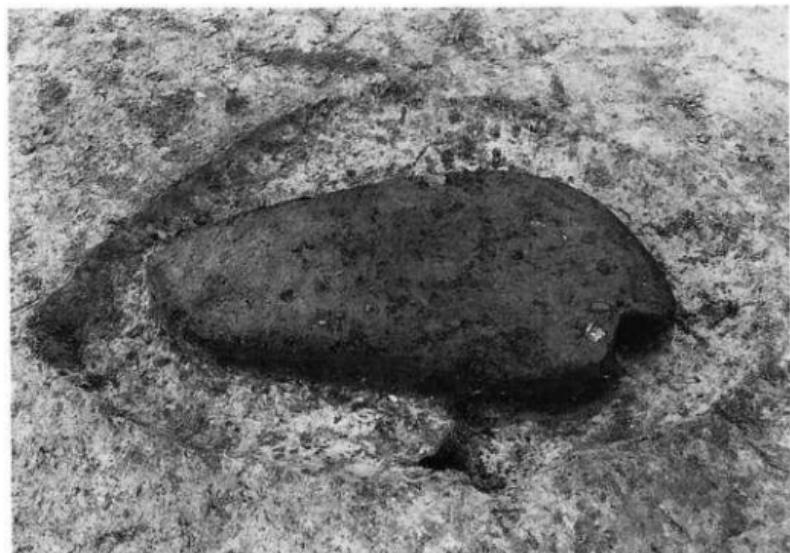
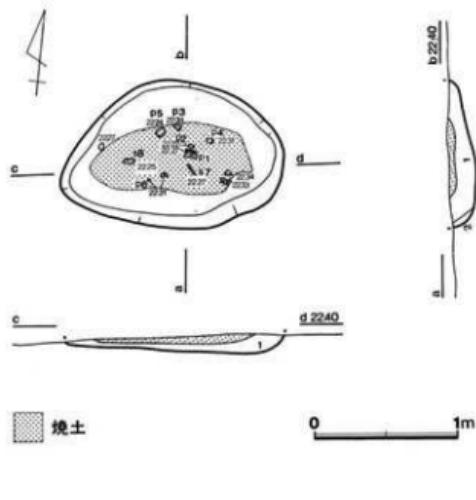
P-131



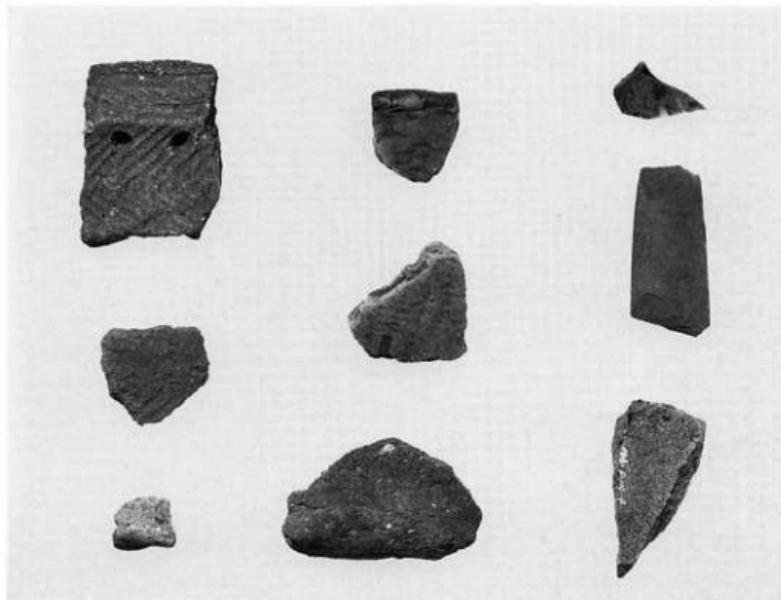
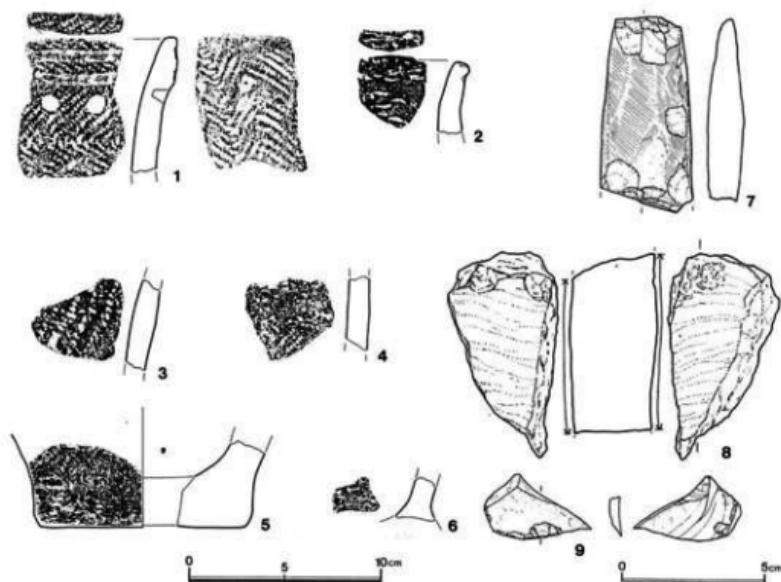
1. 红土
2. 黑色土
3. 暗褐色土
4. 黑色土
5. 暗褐色土(ローム混じり)



P-119

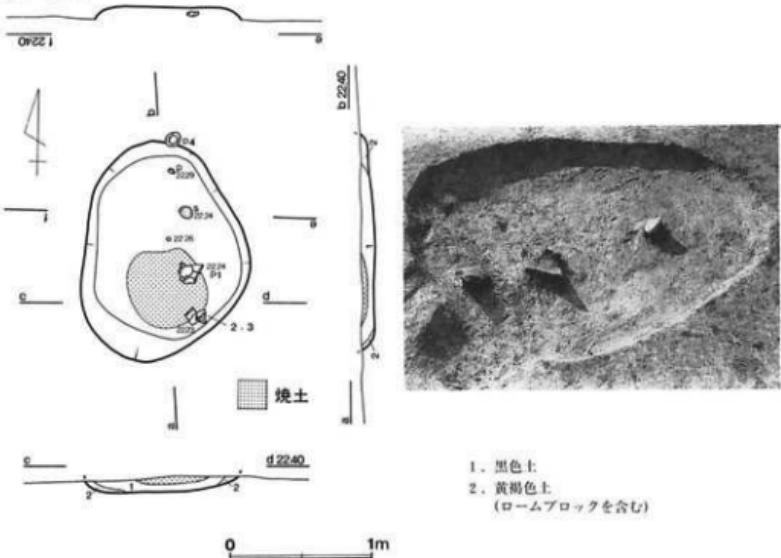


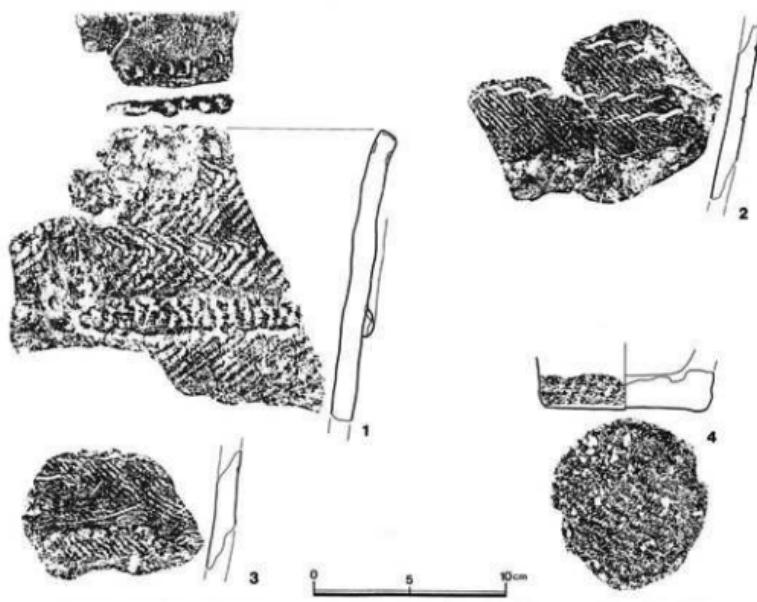
P-119



P-119の出土遺物

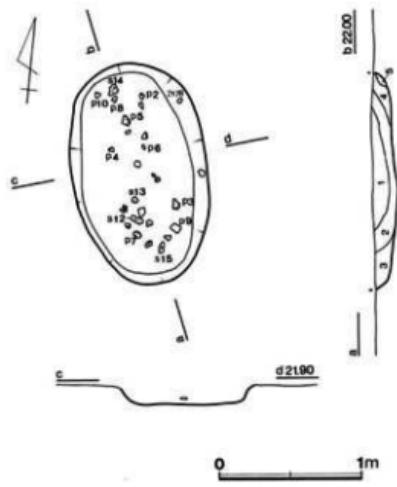
P-123





P-123の出土土器

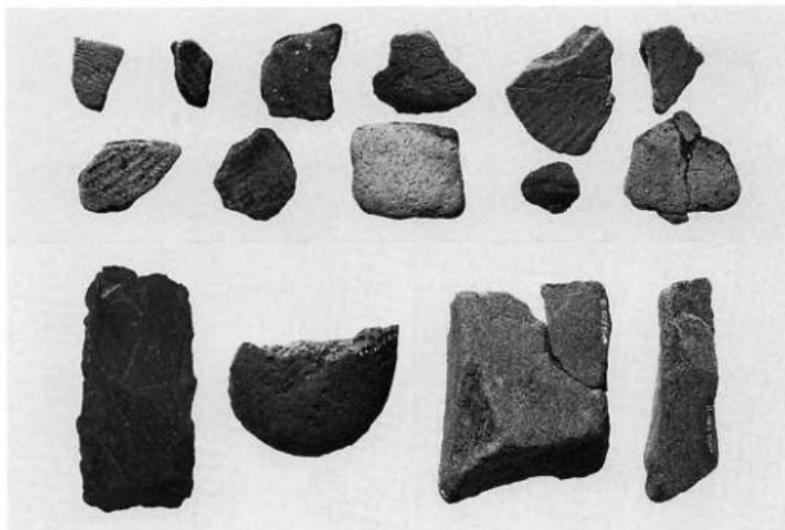
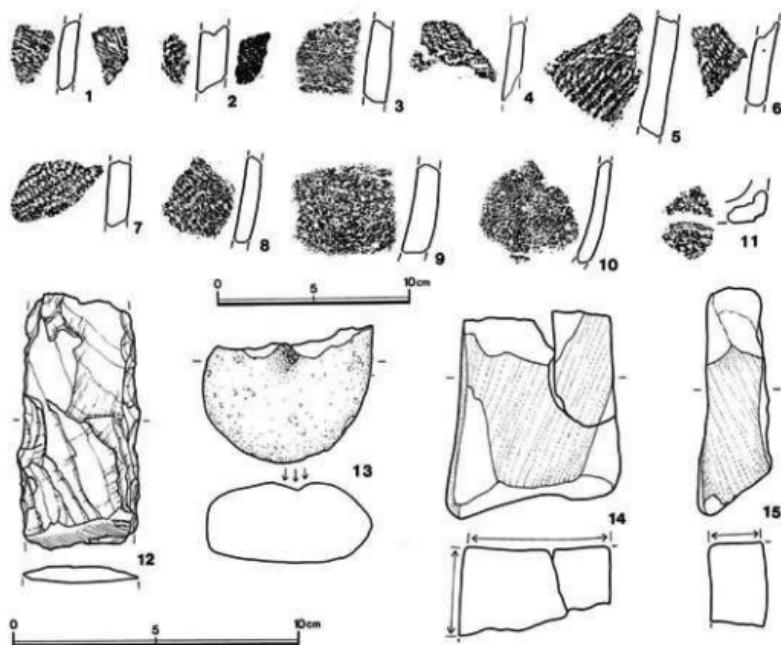
P-190



1. 暗褐色土
2. 黑褐色土
3. 黑色土
4. 黄棕色土
5. 黑褐色土

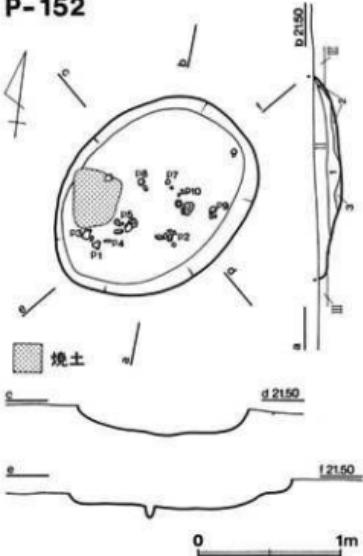


P-190



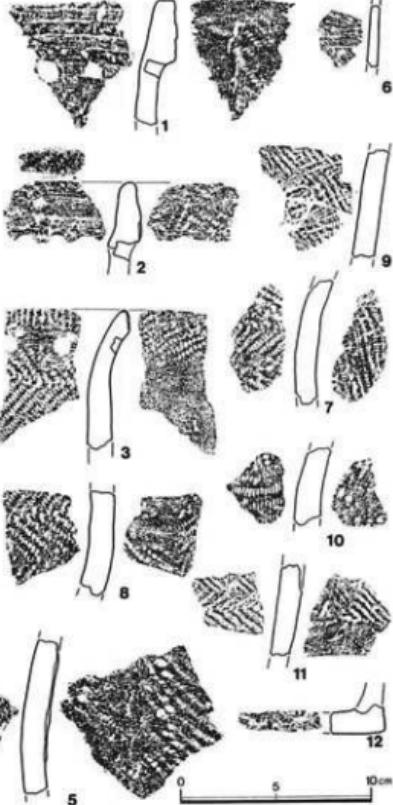
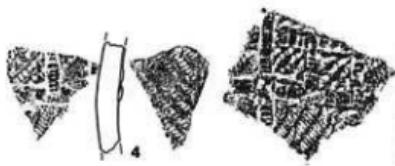
P-190の出土遺物

P-152

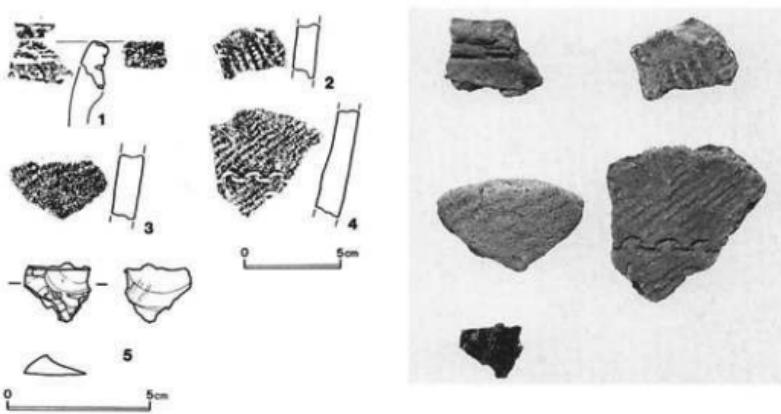
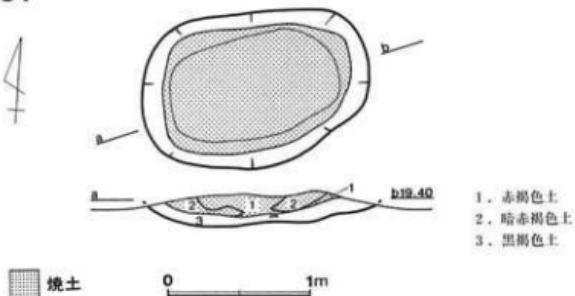


1. 黒褐色土
(ロームまじり)
2. 暗褐色土

3. 茶褐色土
(焼上がまじる)

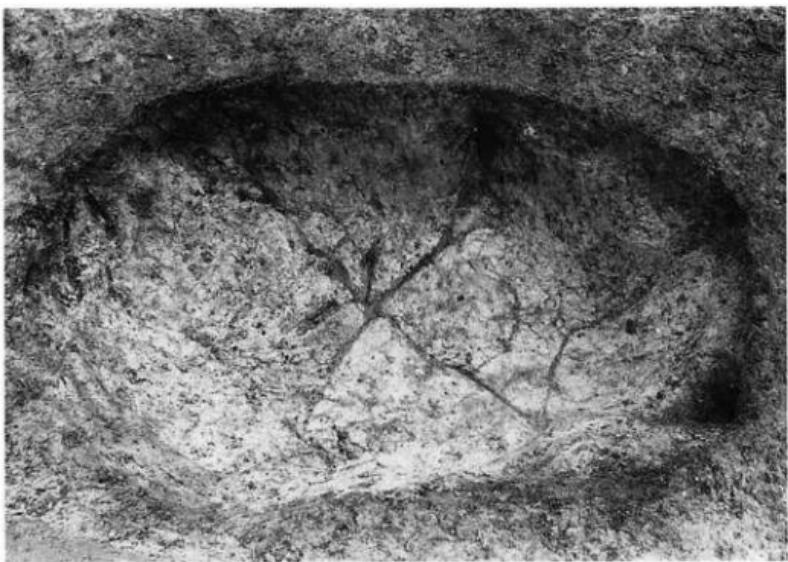
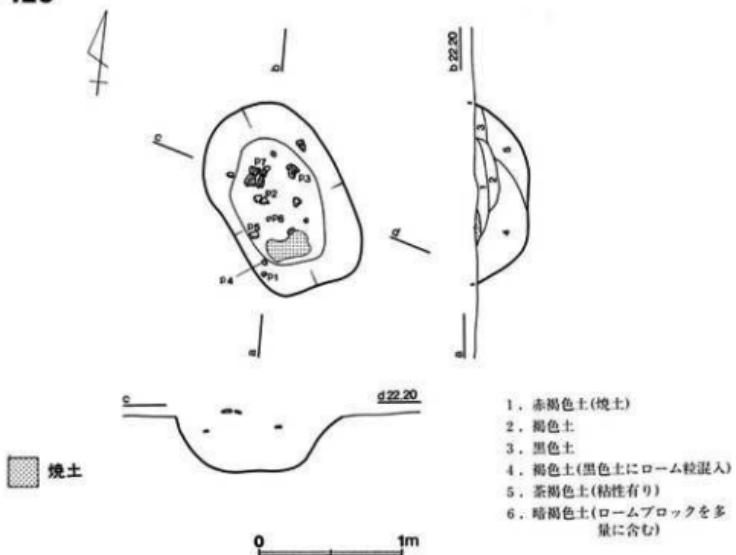


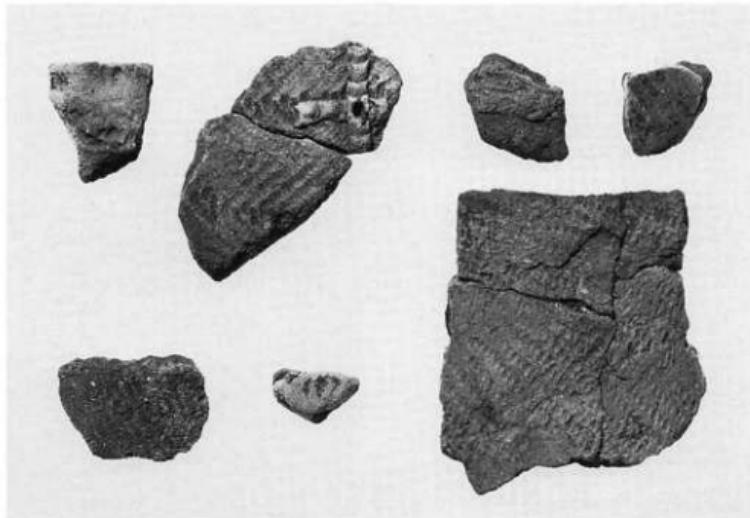
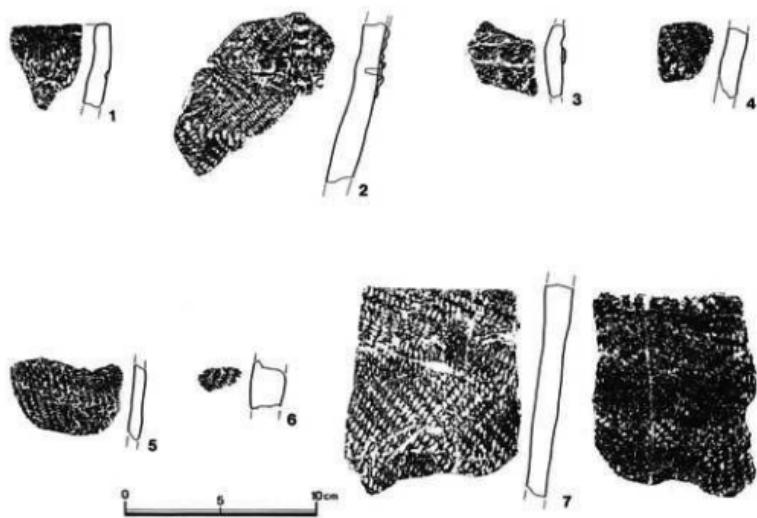
P-184



P-184

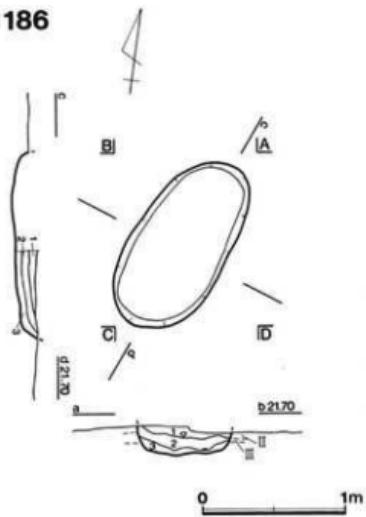
P-126





P-126の出土土器

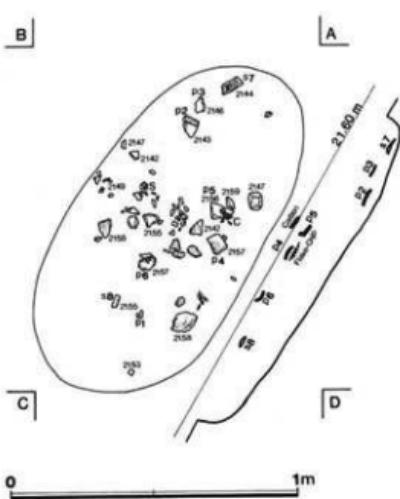
P-186



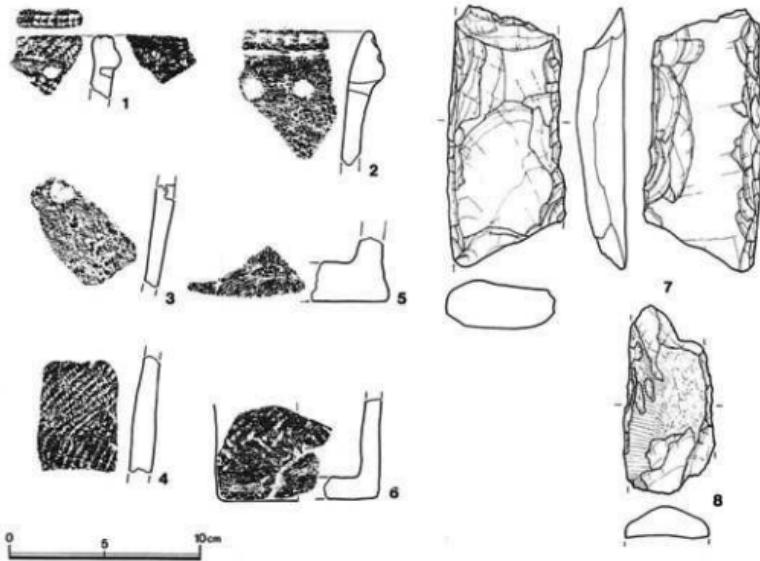
1. 暗茶褐色土(中央に炭化物が入る)

2. 深褐色土

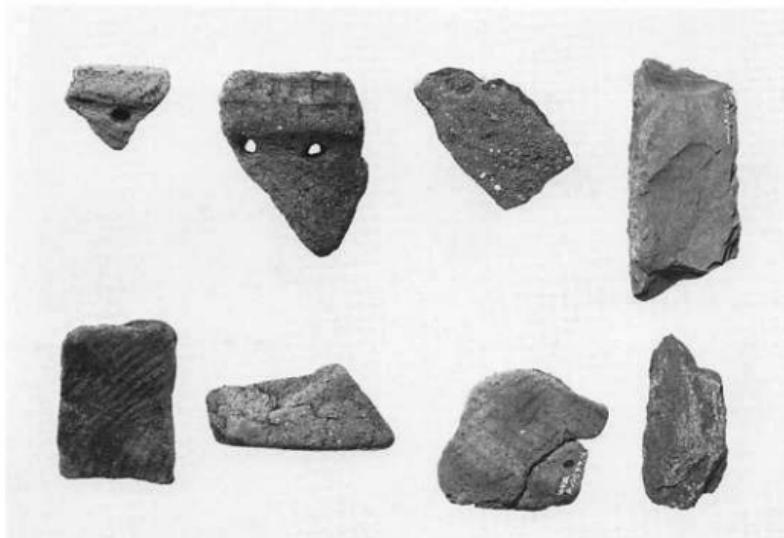
3. 暗褐色土



P-186

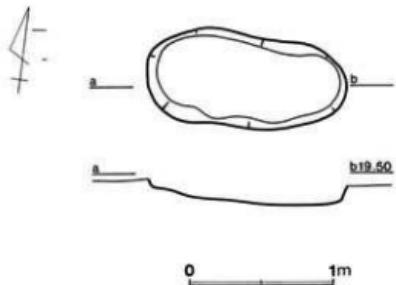


0 5 10cm

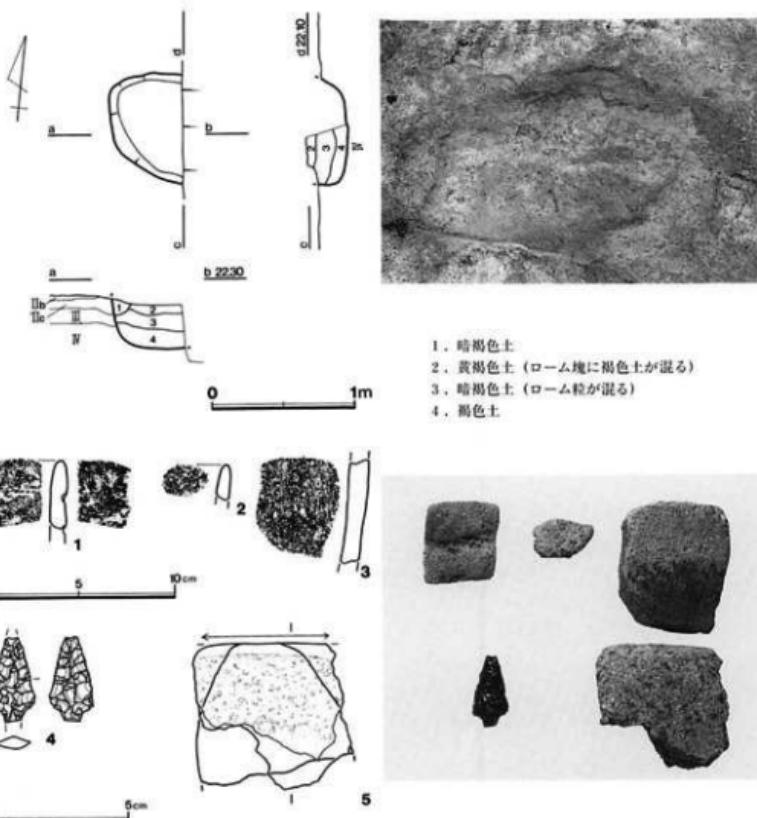


P-186の出土遺物

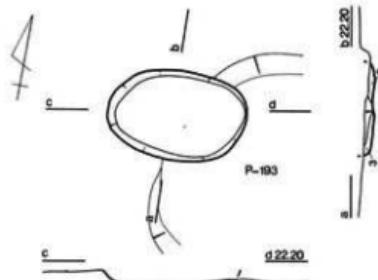
P-183



P-187



P-191

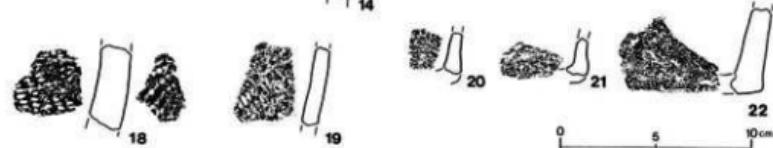
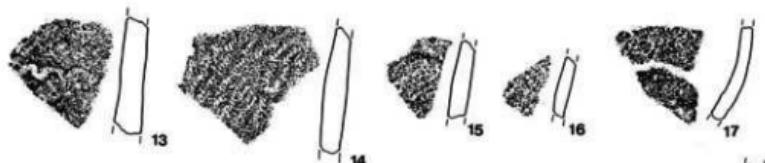


0 1m

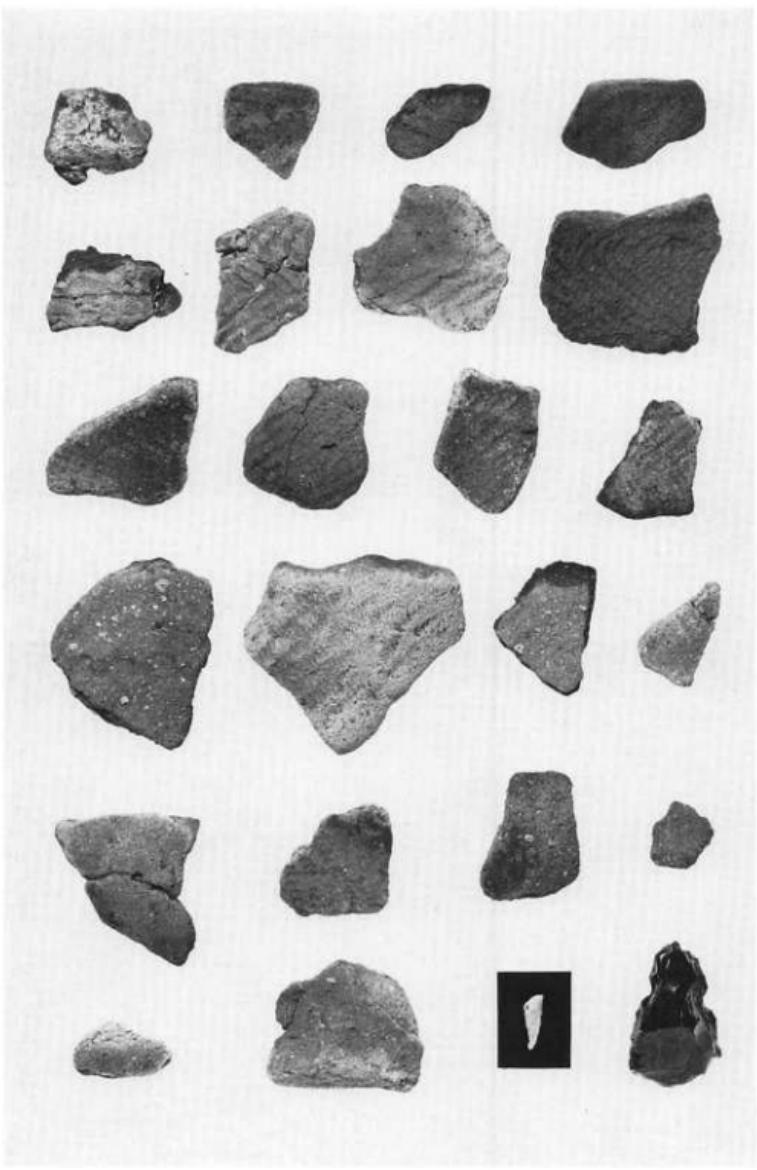
1. 暗褐色土(ローム少量を含む)
2. 褐色土(まだら)



0 5cm

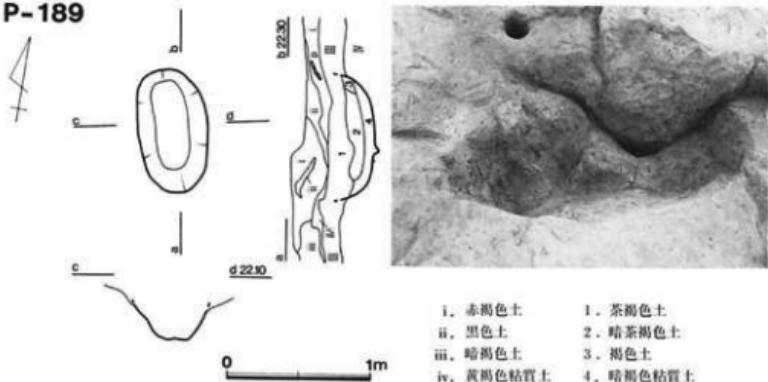


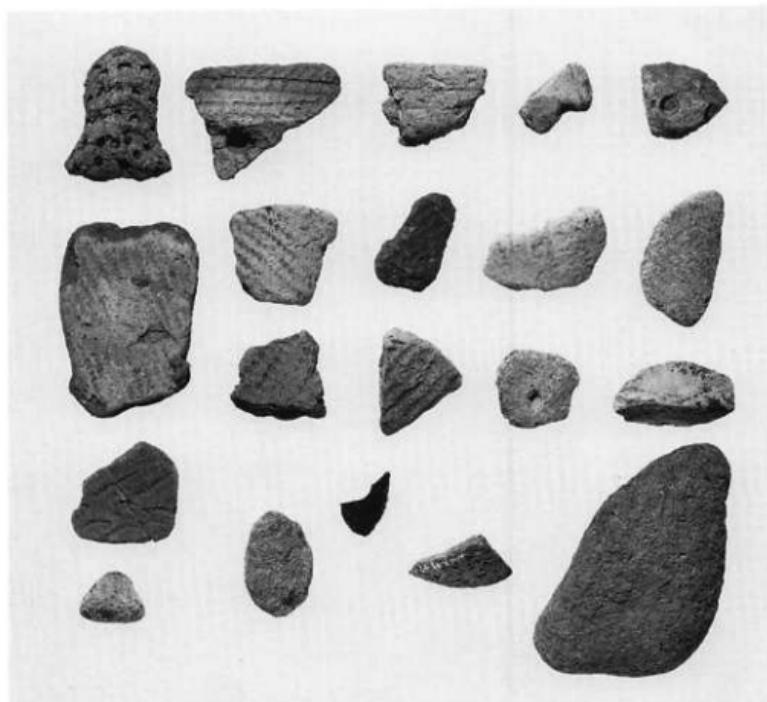
0 5 10 cm



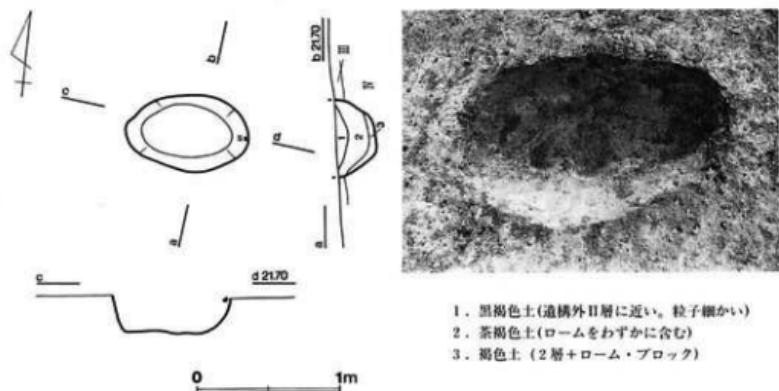
P-191の出土遺物

P-189





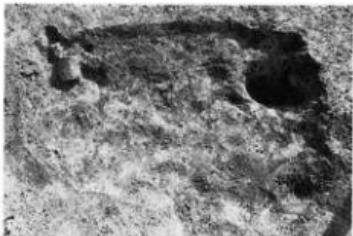
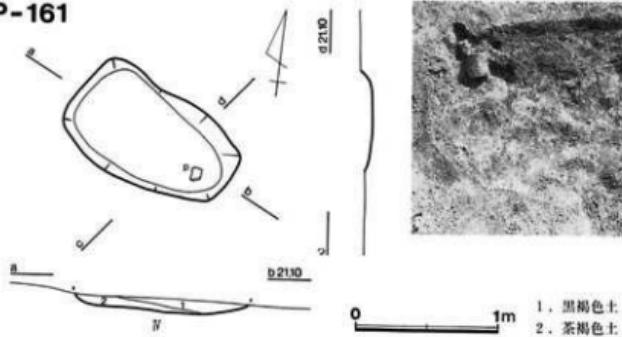
P-147



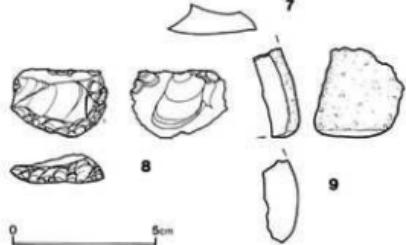
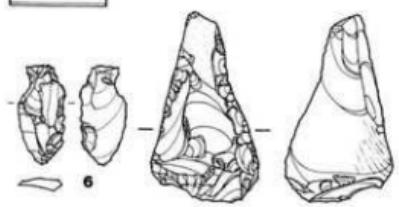
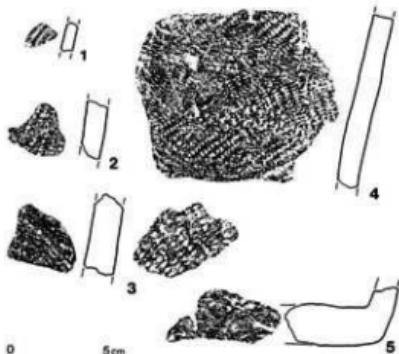
1. 黒褐色土(追構外口層に近い。粒子細かい)
2. 茶褐色土(ロームをわずかに含む)
3. 褐色土(2層+ローム・ブロック)

P-189の出土遺物・P-147

P-161

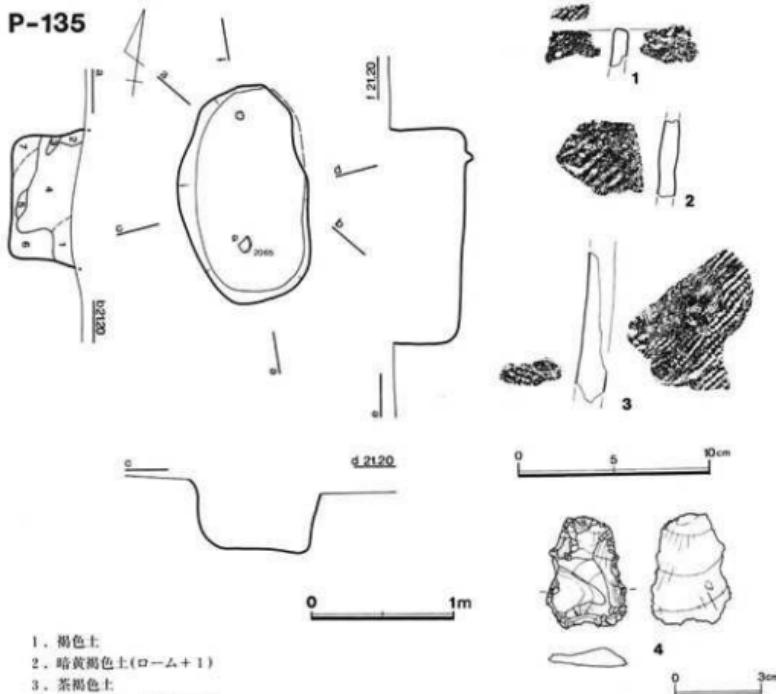


- 1. 黑褐色土
- 2. 茶褐色土



P-161

P-135

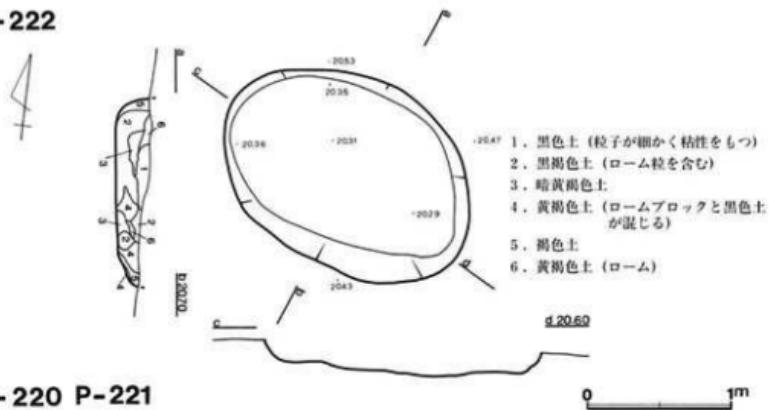


1. 褐色土
2. 暗黄褐色土(ローム+1)
3. 茶褐色土
4. 褐色土+ロームブロック
5. 明黄褐色土
6. 赤褐色土
7. 黄褐色土

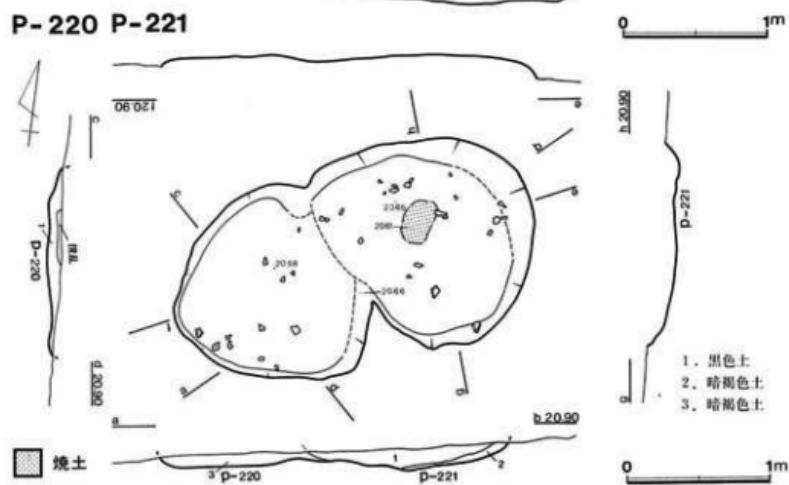


P-135

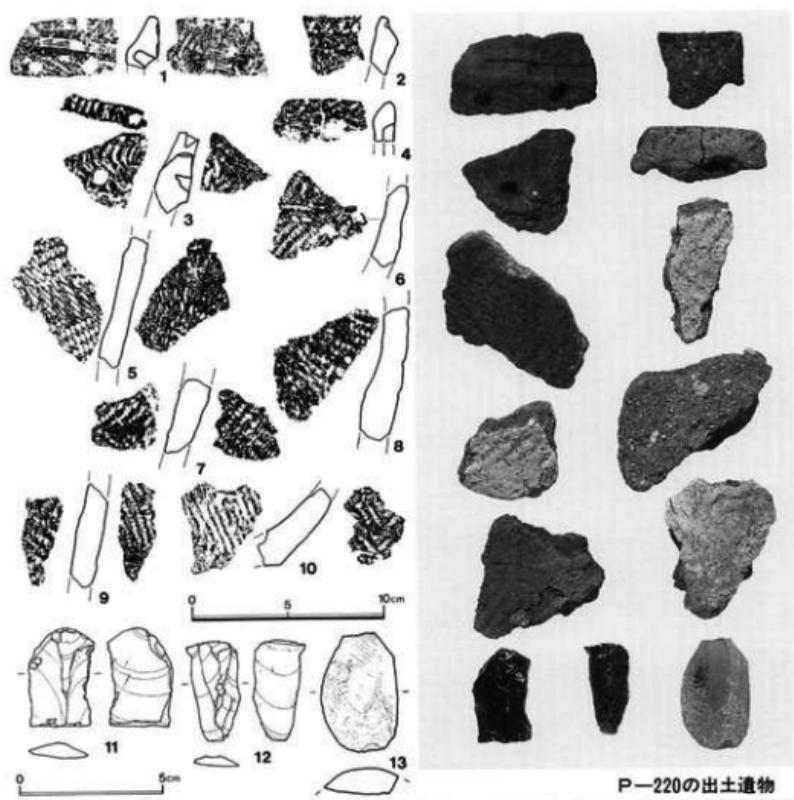
P-222



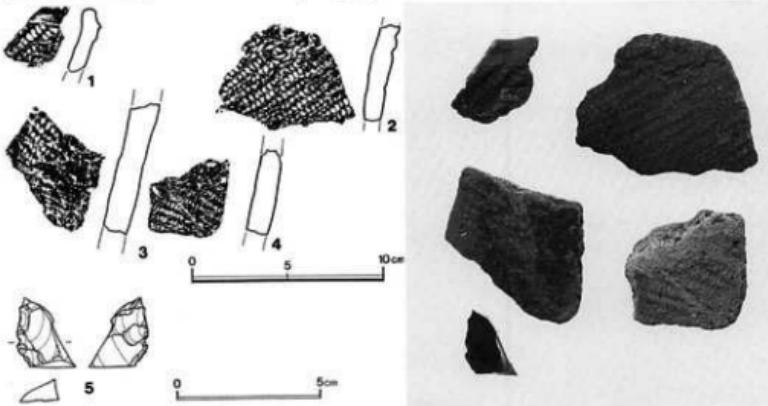
P-220 P-221



P-222 • P-220 • P-221

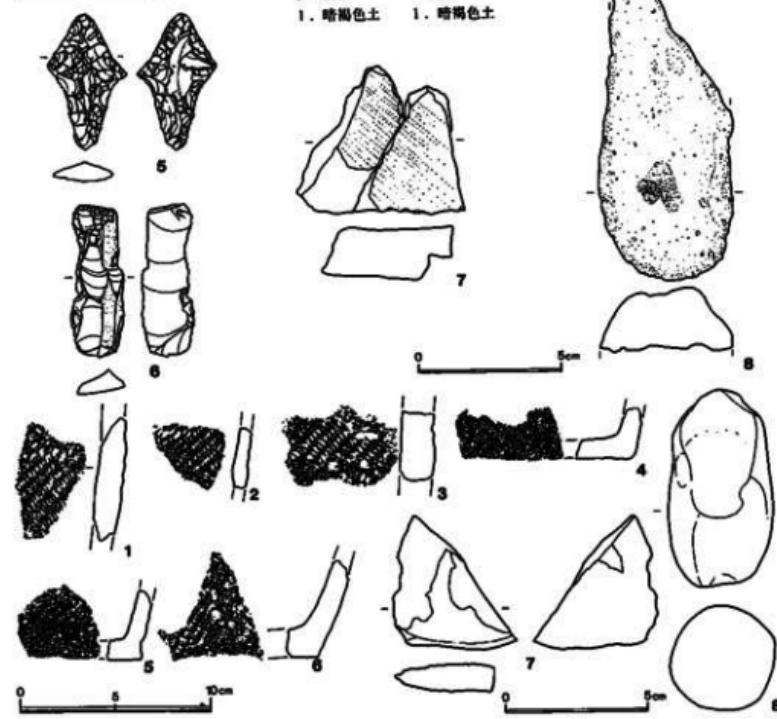
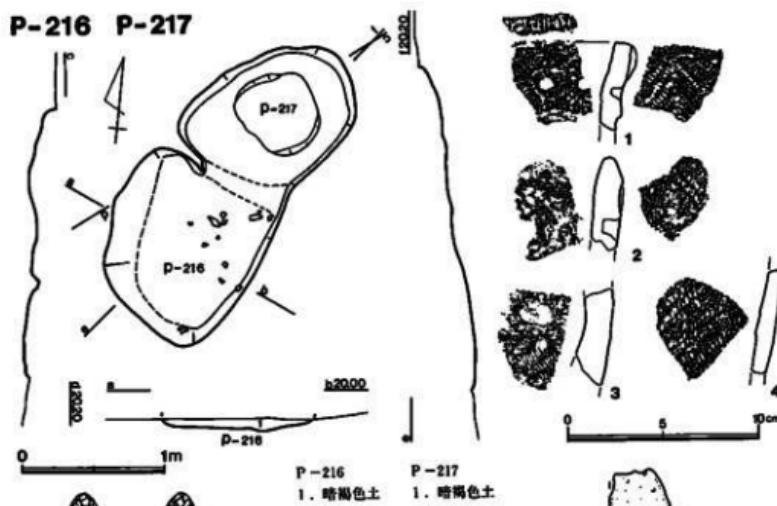


P-220の出土遺物

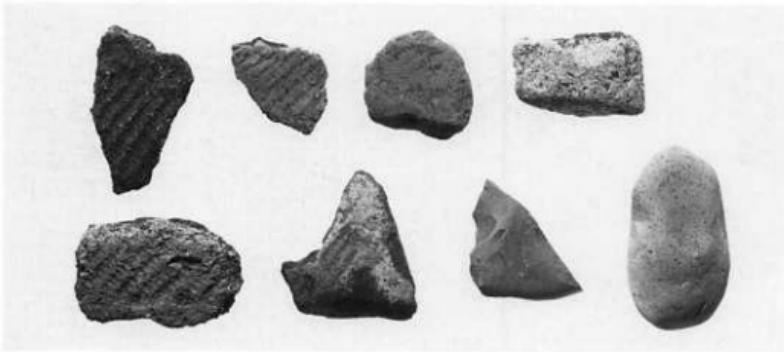


P-221の出土遺物

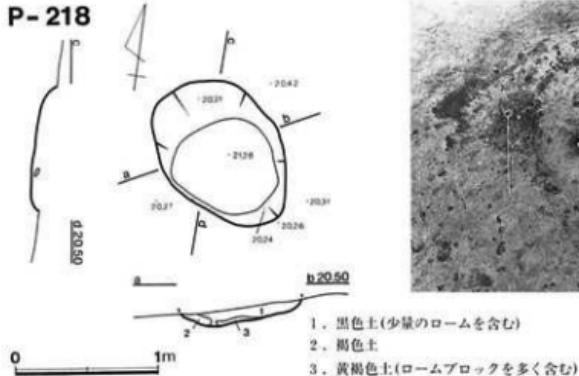
P-216 P-217



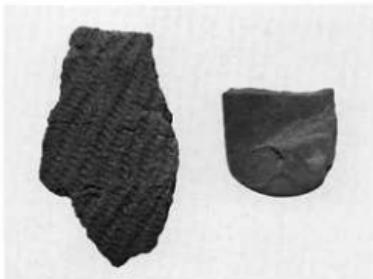
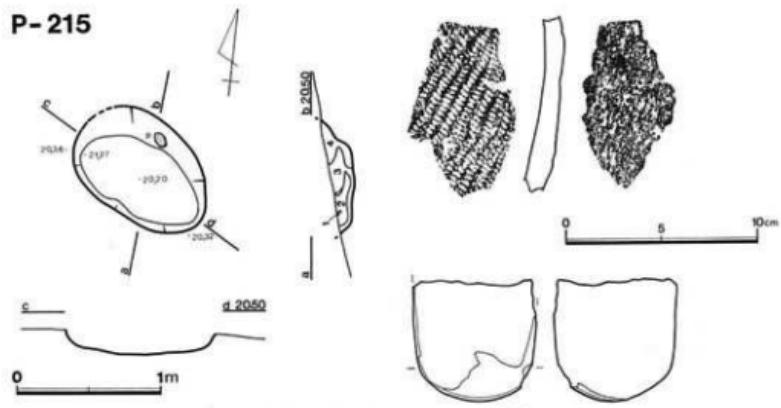
P-216 • P-217



P-218

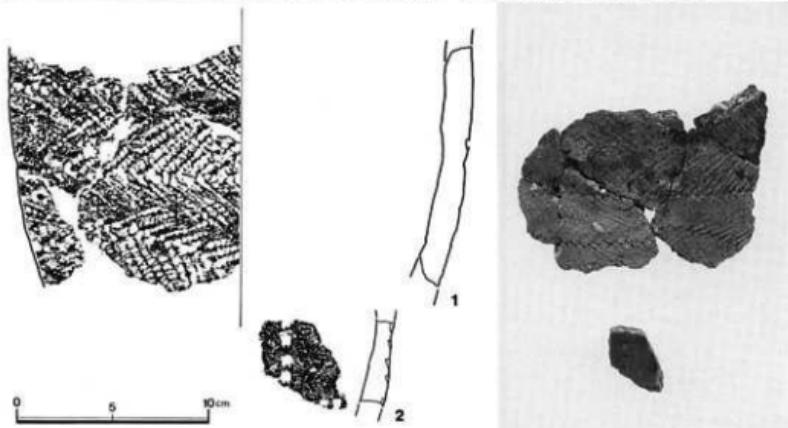
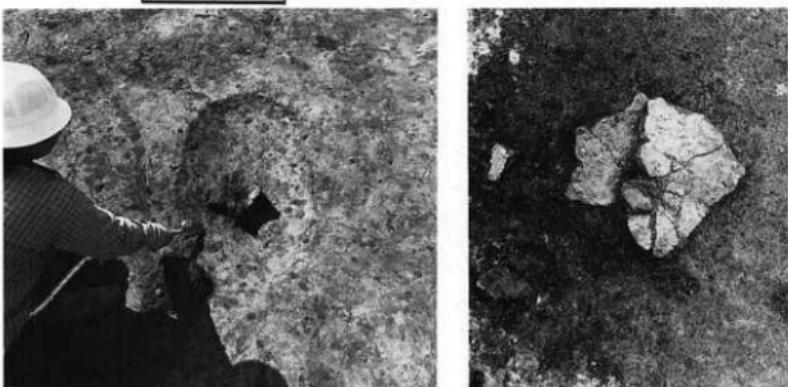
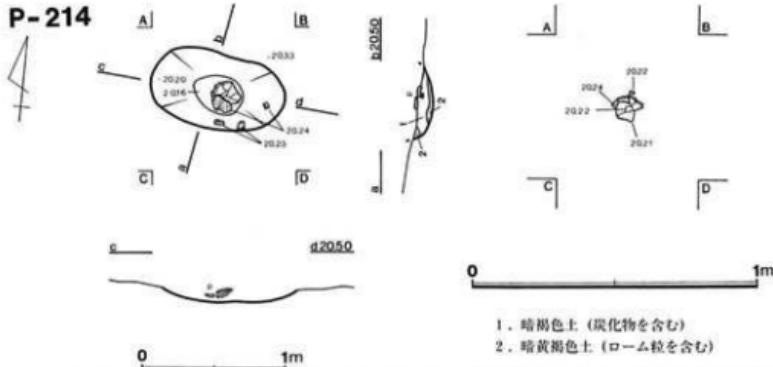


P-215



1. 黒色土
2. 暗褐色土
3. 湖褐色土
4. 暗褐色土

P-214



P-142

調査区の中央からやや西寄りの59-89区に位置する。覆土からⅢ群b-1類の土器が一個体、横倒しに押しつぶされた状態で検出された。復元された1は、4つの突起部を有するゆるやかな波状口縁の深鉢形土器で、胴半部がわずかにふくらみ、口縁部が小さく外反している。器高32.4cm、口径22cm程。平底で底径は11.4cm。全体に損耗が進み、口縁部から胴半部にかけて、外壁部が大きく剝落したりしている。色調は黄赤褐色で、胎土に多量の砂礫が含まれている。内面は丁寧に調整されており、一面に付着した炭化物のため黒褐色を呈している。突起部および口縁部肥厚帯には、短刻線が密に刻まれている。突起下の上下が二叉に分れる貼付帯は、半截竹管の内面圧痕文に刻まれており、肋骨状に配された平行沈線文が連結している。地文は複節の斜行繩文。2は摩耗の著しいⅢ群a類の口縁片で、肥厚帯に波状の貼付文がめぐるもの。他に礫と黒曜石剝片3点が出土した。

P-198

調査区中央の南側、50-88区に位置する。墳底は丸味を持つボール状を呈する。覆土から石皿2点、そのうち北側にある石皿の斜め上部から石斧1点、墳底から一個体の土器が横倒しに押しつぶされた状態で出土した。1は粉々に小さく割れて遺存していた一括土器を復元したもので、底径5.2cmを測る平底から体部が直立状にひらく、やや細身の深鉢形土器の下半部である。色調は黄灰褐色で、焼成は良好、胎土に纖維が含まれている。地文は単節の斜行繩文。整形や内面調整がやや粗いⅢ群b-3類土器。2は石斧。素材は泥岩を用い、打ち欠きと研磨による成・整形がみられる。刃部の欠けた綾線は摩耗しており使い込まれたものであろう。重さは73.8g。3・4は石皿。安山岩を用い、側面・下面にベッキングによる成・整形がみられる。3の重さは25kg、4は13kg。

P-86

調査区北西側の63-71区に位置し、他の中期の造構と離れている。覆土から土器と黒曜石剝片が各1点出土した。1は平範状工具による押引文が2段みられるⅢ群b-3類土器の胴部破片。

P-185

調査区南東側、47-87区の沢に面した緩い斜面に位置する。墳底は古い風倒木痕により不明瞭である。3は墳底から、他は覆土から検出された。いずれもⅢ群b-3類土器で、1は肥厚帯のほか口唇上にも押引きを刻むもの。2には結束第一種の羽状繩文が、3には綾繩文がある。

P-212

50-88区に位置する。平面形は梢円で墳底は北側が深く南側は緩やかに立ち上がる。遺物は

覆土上部から検出した。摩耗のため不明瞭だが1の地文は、結束第一種のある羽状縄文らしい。2も摩耗の進んだ底部片。整形の印象から1はⅢ群b-3類、2はⅢ群a類と推定される。3は凹石。砂岩の角礫を用い、重さは324.2g。4は黒曜石の石核。重さは14.8g。

P-211

調査区中央の南側、52-88区に位置する。皿状を呈する。遺物は検出していない。

P-219

調査区の南側56-57-90-91区に位置する。略円形をなし立ち上がりははっきりしている。P-222と検出状況、土層がよく似ておりなんらかの関係が考えられる。遺物は出土していない。

P-163

66-63区に位置し、検出された遺構の最北端にある。他の縄文中期の遺構から離れている。皿状を呈し、墳底は平坦である。周囲の土壇が統縄文期のものであることから、この土壇も同時期の可能性がある。覆土の下位から土器片が出土した。1はⅢ群b-3類のやや摩耗した胴部片で、地文は結束のある原体を利用したもの。他に礎2点、片岩削片2点が出土した。

P-199

調査区の南東50-88区に位置する。P-206に切られている。皿状を呈し、墳底はやや凹凸がある。遺物は検出していない。

P-200

P-199の2.5m北側に検出した。墳底はやや凹凸のある浅い皿状を呈する。1は覆土から採集されたⅢ群b-3類と思われる土器片で、かなり摩耗が進んで文様が判断としないが、器面には単節の斜行縄文が残り、裏にも縄文が施された痕跡を留める。2は焼成粘土塊。3・4は石礎。黒曜石を素材にしている。3は尖頭部破片。重さは0.8g。4は墳底の2cm上の覆土から尖頭部を上に斜めに立った状態で検出した。尖頭部左側に再生の痕がみられる。重さは2g。

P-117

中央部の60-82-83区に位置する。皿状を呈する。南西側の墳底から白色粘土塊が出土した。遺物は覆土から検出された。いずれもⅢ群b-3類土器の破片で、1の肥厚帯には縄文が、口唇には短刻線様の刻みがある。2・3は摩耗した胴部片で、2には押引文と継続文がみられる。

P-132

調査区中央の西側、61-82区に位置する。遺物は墳底近くの覆土から出土した。

1・2はともに摩耗の進んだ胴部片。1は胎土にやや多くの繊維を含むもので、裏にも縄文がみられる。2には単節の斜行縄文がある。Ⅲ群b-3類であろう。3は片岩を素材にした石斧破片。打ち欠きと研磨により成・整形している。側辺に原石面が残っている。重さは29.3g。4はたたき石。砂岩を用いている。重さは70.8g。他に礫2点、黒曜石剝片1点が出土した。

P-188

P-192の南西約2.5m、57-84区に位置する。墳底は丸味を帯びている。1は凹石。墳底から検出した。安山岩を用いている。扁平な疊の両面と右側部に叩き痕がみられる。下半は欠損している。重さは120g。他に礫を11点検出した。

P-144

P-143の北東に約1.5m離れた59-86区に位置する。墳底は平坦である。確認面から土器が出土した。1・2はⅢ群b-3類の胴部、底部片。摩耗しているが単節の斜行縄文がみられる。

P-148

59-89区に位置し、P-147に隣接して検出された。覆土から小礫が1点出土した。

P-162

調査区の南西、59-60-91区にあり、H-2から南西に約2m離れている。墳底は南側が低く掘り込まれている。覆土から9点の土器片が検出された。損耗が進んで文様の不明瞭な例が多い。1~4はⅠ群b-2類に属するもので、1の口唇には太い刻みが加えられている。3・4は短縄文のある底部片。5は赤褐色がちな色調を呈し、複節の縄文がみられるⅢ群b-1類の破片。6~8はⅢ群b-3類の胴部片で、7には結束第二種の回転押捺が加えられており、内面に縄文が施された8つの器表面は、剝落して現存しない。9はドリル。めのう剝片の一端に錐部を作り出している。重さは1g。10はスクレイバー。黒曜石を素材に、左側邊から下辺に連続したノッチがみられる。重さは2.8g。11は石斧破片。片岩を素材にしている。重さは42.8g。12は黒曜石石核。重さは21.5g。他に黒曜石剝片5点、片岩剝片1点が出土した。

P-136

検出された造構の中で最も南西側の60-91区に位置する。墳底は丸味を帯びている。1は表裏に縄文と、押引き的な沈線がみられる。1・2ともに覆土出土のⅢ群b-3類土器。他に黒曜石剝片3点が出土した。

P-84

調査区の北西、64-70区に位置する。統縄文期のP-156に切られている。墳底の近くから土

器の底部破片などがまとめて出土した。1～4は同一個体。推定口径26.6cmの深鉢形土器で、ほぼ平縁の口縁の4カ所に小さな突起がみられる。突起には垂直方向の小さな割突が加えられている。口縁部肥厚帯には爪形状の連続刺突文が2段めぐり、口唇上には平窓による押引文が刻まれている。肥厚帯下の円形刺突文列の直下にも平窓を突き引いた押引文が2段重ねられている。地文は結束第一種のある単節の斜行繩文らしく、内面にも施文がみられる。5は別個体の胴部片で、裏には横位の調整痕が残されている。6は9.6×9.0cm程の平底の底部で、底面には繩を渦巻状に押捺したかのような圧痕がみられる。他に黒曜石剝片を1点検出した。

P-194

P-193の北東約4mの57-85区に位置する。1はドリルまたは刺突器。珪質凝灰岩を素材にしている。両面に加工を施し、上部につまみ状の加工を施している。重さは4.8g。2・3は石斧破片。泥岩を素材にして打ち欠きによる整形がみられる。2の重さは77.6g。3は98.2g。4は凹石。安山岩を用い、表面は焼けている。重さは159.8g。5は北海道式石冠の破片。玢岩を素材にしている。重さは114.6g。6は砥石破片。砂岩を用いて両面に擦り痕がみられる。重さは29.2g。他に礫を5点検出した。

P-92

調査区の中央部の61-97区で検出された。墳底は丸味がある。覆土上部から土器片がまとまって検出された。1は断面三角形の肥厚帯をめぐらせ、その上に半裁竹管による刻線状の連続刺突を加えた口縁片で、口唇部内面に繩による刻みがみられる。地文には結束第二種の回転押捺がある。2は口縁にやや幅広の貼付帯を横環させ、その上に2条、口唇上に1条の繩線文を加えたもので、円形刺突文列の下にも、現存3段の繩線文がみられる。3～5は2と同一の胴部片らしい。いずれもⅢ群b-3類土器。6・7は使用痕・加工痕のある黒曜石剝片。6の重さは1.8g。7は6.9g。他に礫1点、黒曜石剝片1点が出土した。

P-111

南側の59-88区に位置する。墳底は丸味を持つ。覆土上部やや南寄りの位置から検出された1は、表裏とも無文の破片で、色調は黄茶褐色。胎土に砂が多い。Ⅲ群b-3類と思われる。2は使用痕・加工痕のある黒曜石剝片。重さは9.8g。他に礫2点、黒曜石剝片70点が出土した。

P-172

調査区の中央部59-82区に位置する。確認面より石鐵・剝片が出土している。墳底部に遺物はない。1は石鐵。黒曜石剝片の形を活かし周辺部に調整を加えている。重さは0.4g。2は使用痕・加工痕のある黒曜石剝片。重さは4.5g。他に礫1点、黒曜石剝片8点が出土した。

P-173

P-172の北約2mに位置する。確認面より石鎚が出土している。墳底部に遺物はない。1は石鎚。横剥ぎの黒曜石剣片を素材にしている。重さは1.4g。他に黒曜石剣片3点が出土した。

P-113

P-117の北東に約1m離れた60-82区に位置する。1~5は覆土から得られた土器片で、灰褐色がちな色調を呈している。1は2条の縄線文がめぐる口縁片で、口唇上や内面にも縄文が施されている。4にも3条の縄線文が現存している。IV群a類と思われる。6は北海道式石冠破片。玢岩を素材にしている。重さは34.5g。他に礫を7点検出した。

P-109

調査区の中央部西側、61-82区に位置する。墳底及び覆土から礫9点を検出した。

P-124

60-83区に位置する。墳底は平坦で、西側の壁は垂直に立ち上る。東側はP-125に切られている。覆土から礫24点、片岩剣片1点が出土した。

P-127

P-124の南約3m、60-84区に位置する。墳底は平坦。確認面から礫6点が出土した。

P-145

調査区中央部の南西側、60-85区に位置する。覆土及び墳底から礫24点が出土した。そのうち、1は石皿破片。安山岩を用いている。重さは950g。

P-137

59-85区に位置し、P-145の西に約7m離れて検出された。1は北海道式石冠の側面と掠り面を残した破片。砂岩を素材にしている。重さは132.2g。他に、覆土及び墳底から礫23点が出土した。

P-140

P-137の南東に約2.5m離れて位置する。墳底から覆土にかけて礫8点を検出した。これらの礫のうち、1は凹石の破片。安山岩を用いており、半球状の使用痕がみられる。重さは193.4g。2・3は北海道式石冠の破片。2は砂岩を素材にしている。掠り面にはひび割れがみられる。重さは401.6g、3は玢岩を素材にし、掠り面と側面を残している。重さは104.3g。

P-154

P-145の南東に約15m離れた、59-86区に位置する。墳底は北西側が低く傾斜している。1は覆土から1点だけ採集された土器片で、摩耗が著しく、角がとれて丸い。地文などは不明で、輪積みの境目らしい線が観察できる。2~4は北海道式石冠の破片。2は安山岩を用い、重さは379.2g。3は玢岩を用いたもので擦り面と側面を残している。重さは51.9g。4は砂岩を用い、擦り面を残している。重さは41g。他に礫22点、黒曜石と泥岩剝片1点が出土した。

P-157

58-86区に位置する。墳底はややくぼんでいる。覆土及び墳底から礫13点が出土した。

P-159

調査区の中央部、60-81区に位置する。ポール状を呈する。1は覆土から検出されたⅢ群b-3類土器の胴部片で、表裏に単節の斜行縄文が施されている。器面は黄赤褐色、裏面は黄灰褐色を呈し、胎土には砂礫のほか若干の繊維が含まれている。他に覆土から礫16点が出土した。

P-125

60-83区に位置する。西側はP-124を切っている。墳底は平坦である。1は墳底近くの覆土下部に見出されたⅢ群b-3類土器。黄灰色を呈する重厚、堅硬な胴部の破片で、表裏に結束第一種のある羽状縄文原体を回転させた地文が施文されている。他に礫2点が出土した。

P-192

調査区中央部の57-84区に位置する。墳底はやや丸味を帯びている。覆土から礫6点が出土した。

P-196

調査区中央部の南側、55-87区に位置する。墳底は平坦で浅い皿状を呈する。遺物は検出していない。

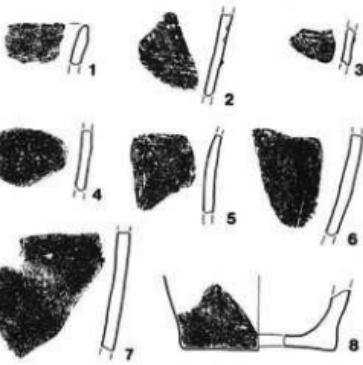
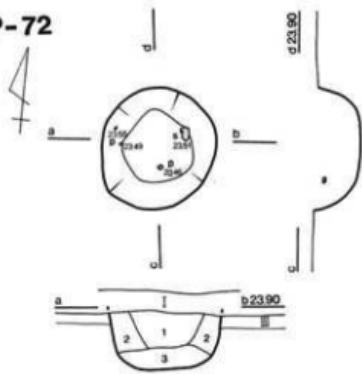
P-197

中央部のやや南側、56-86区に位置する。1は覆土下部出土の円形剝突文を有するⅢ群b-3類土器。結束第二種の結束部が口縁部肥厚帯の下縁をめぐり、口唇にも縄文がある。2は石斧破片。泥岩を素材に、刃部の剝離したものである。重さは4.7g。他に礫2点が出土した。

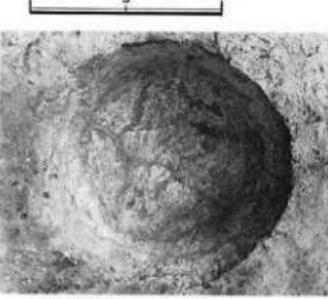
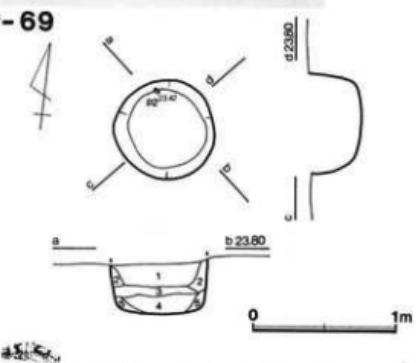
P-195

西側約20cmにP-196が隣接している。墳底はやや丸味がある。遺物は検出していない。

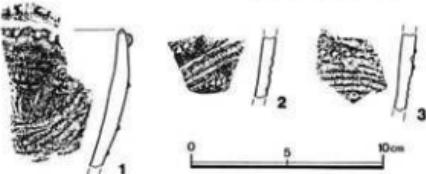
P-72



P-69

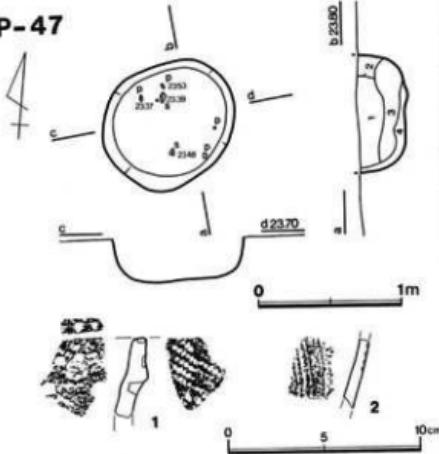


1. 黑色土
2. 暗褐色土
3. 黄褐色土
4. 黑色土
5. 黄色土



P-72 • P-69

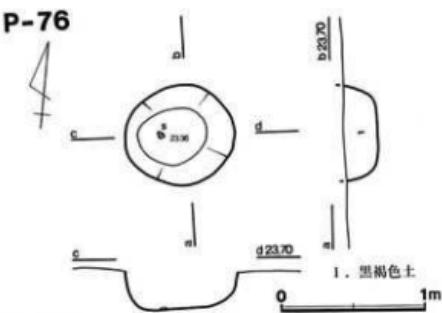
P-47



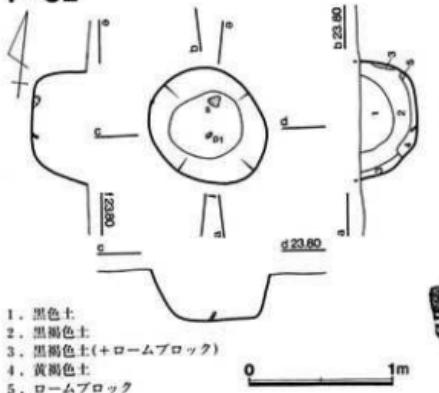
1. 黒褐色土 (バラバラしている)
2. 黒褐色土 (ロームブロック含む)
3. 黒褐色土 (1層より色が濃い)
4. 黄褐色土



P-76



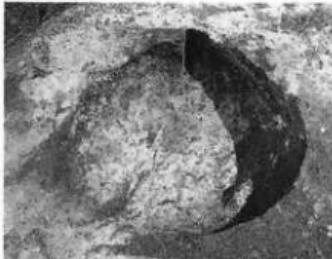
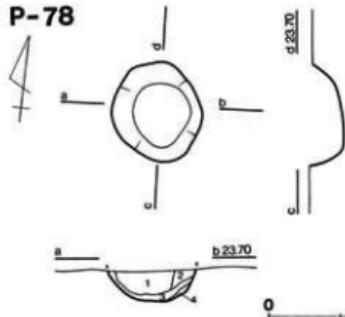
P-82



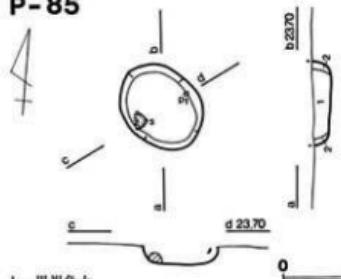
1. 黒色土
2. 黒褐色土
3. 黒褐色土(+ロームブロック)
4. 黄褐色土
5. ロームブロック

P-47 · P-76 · P-82

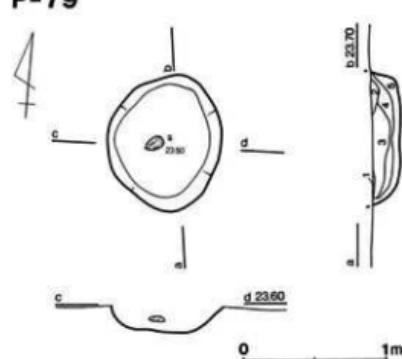
P-78



P-85

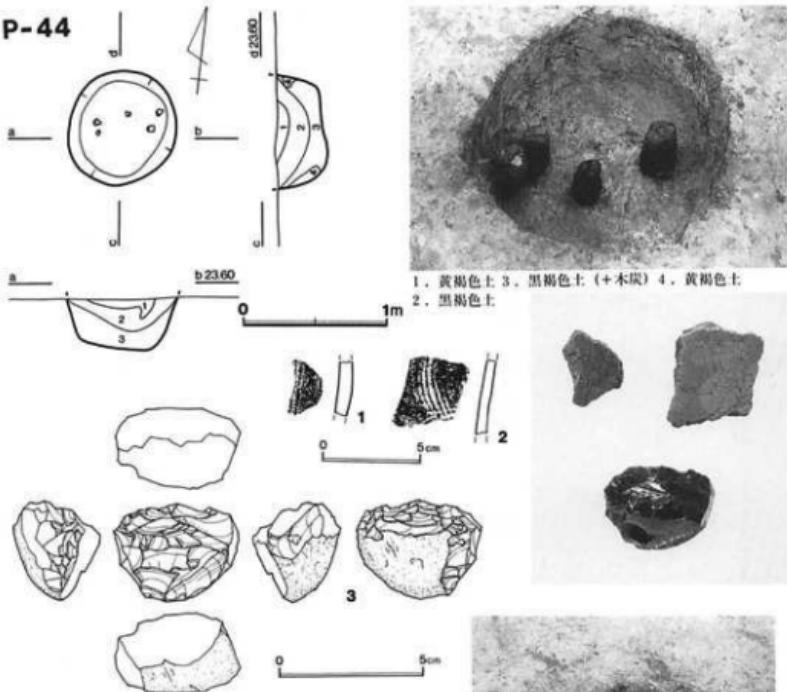


P-79

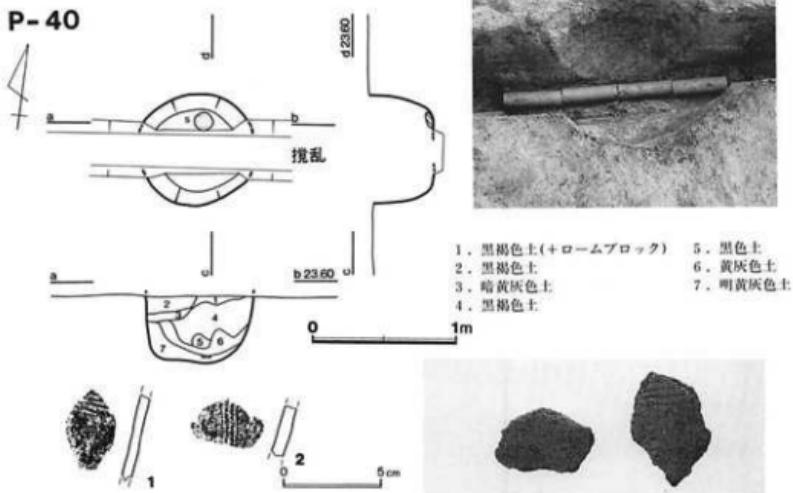


1. 暗褐色土
2. 掘乱
3. 黒色土
4. 黒色土 + ローム
5. 黄褐色土

P-44

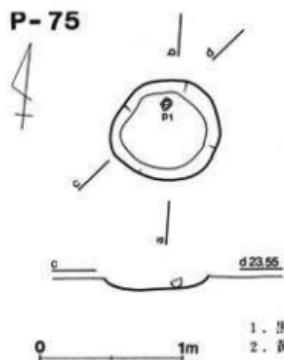


P-40



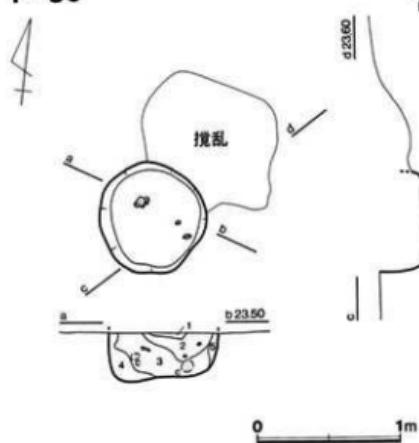
P-44 • P-40

P-75

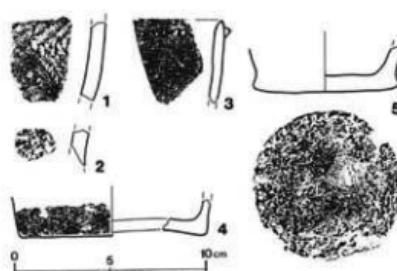


1. 黑褐色土
2. 黄褐色土

P-80

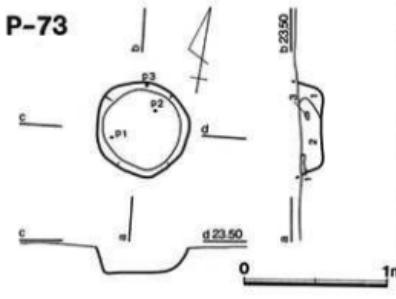


1. 黄褐色土
2. 黑色土
3. 黑褐色土
4. 明黑褐色土
5. 暗黄褐色土

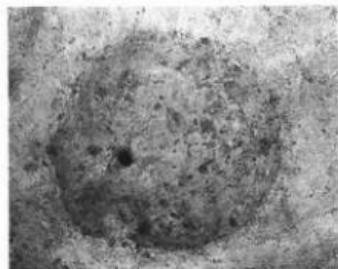
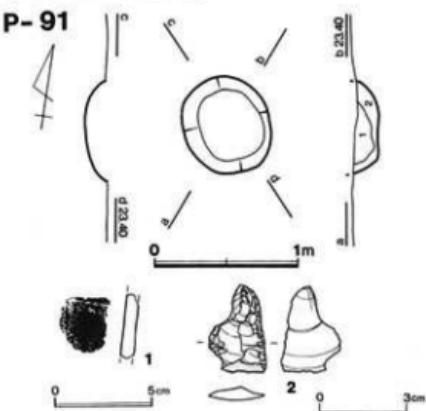


P-75 • P-80

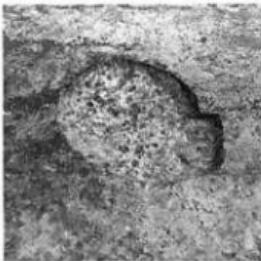
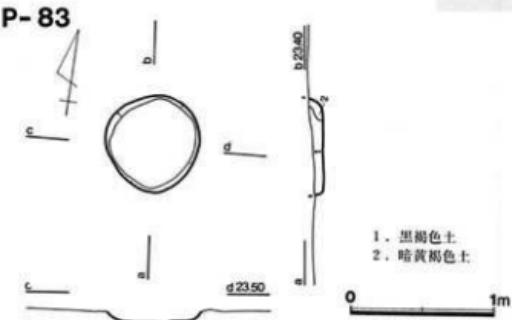
P-73



P-91

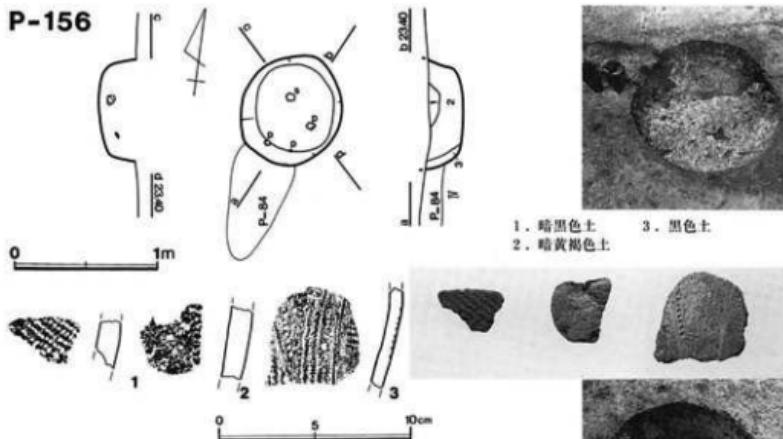


P-83

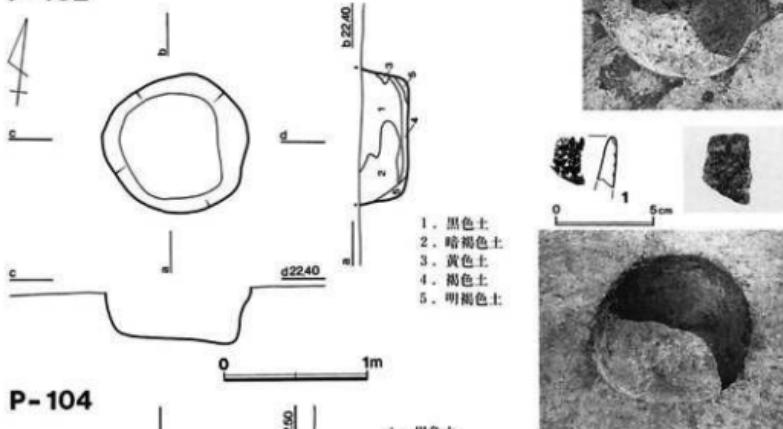


P-73 • P-91 • P-83

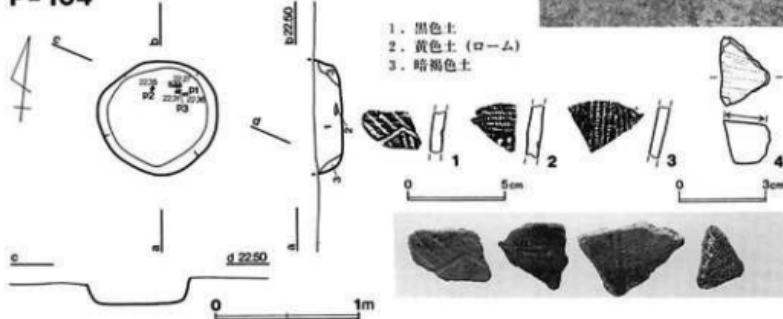
P-156



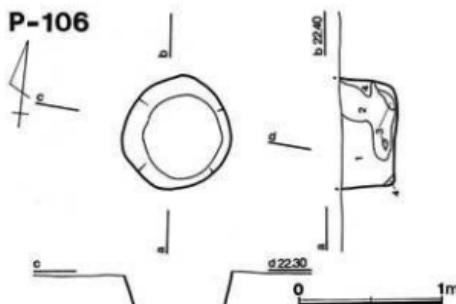
P-102



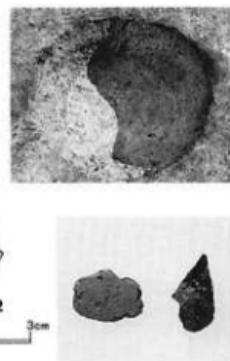
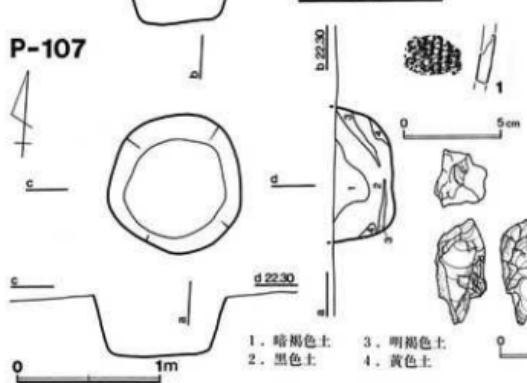
P-104



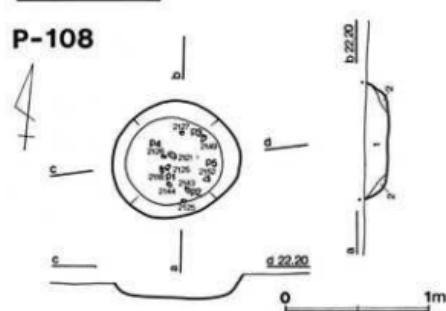
P-106

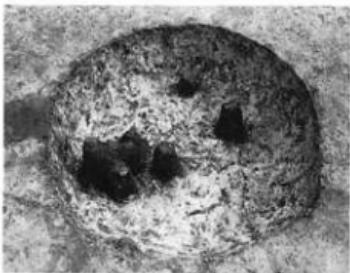
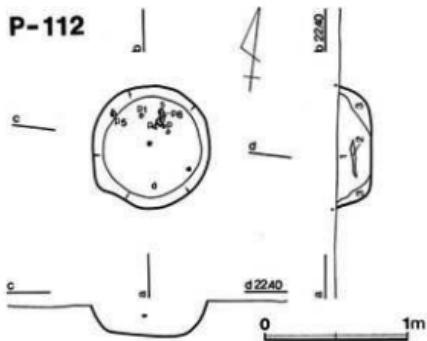


P-107

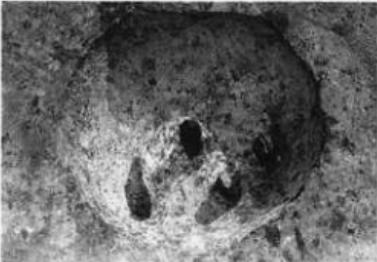
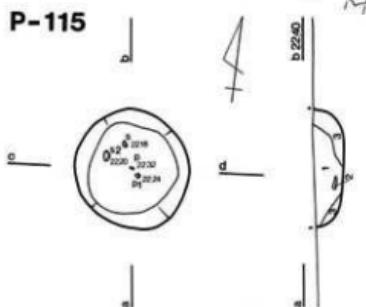
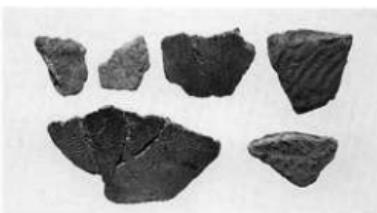
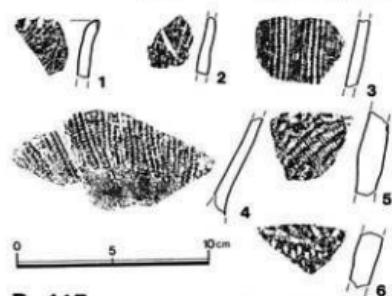


P-108

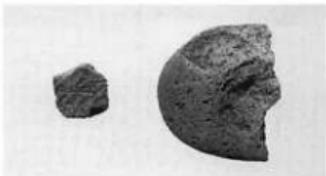
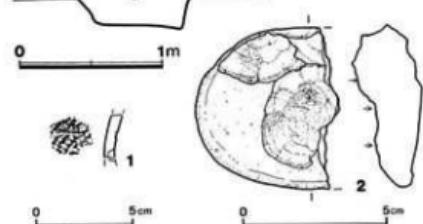




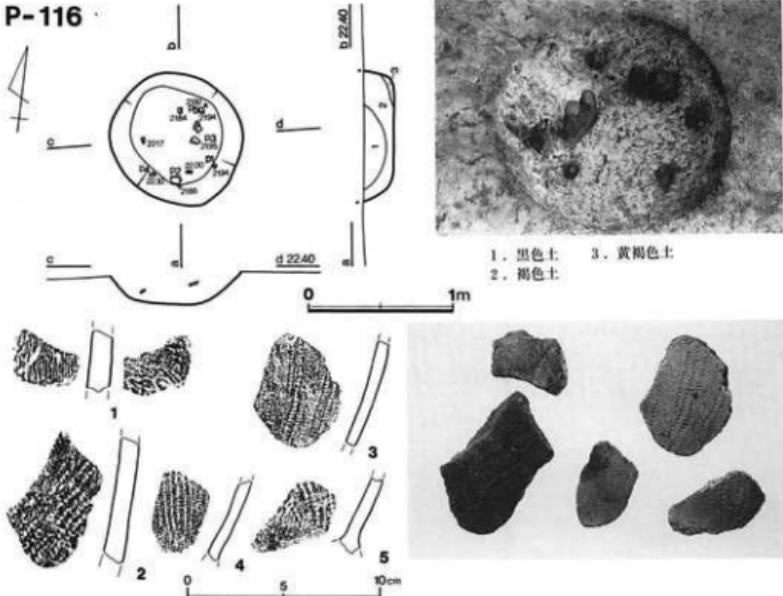
1. 黑色土 3. 暗褐色土
2. 棕色土



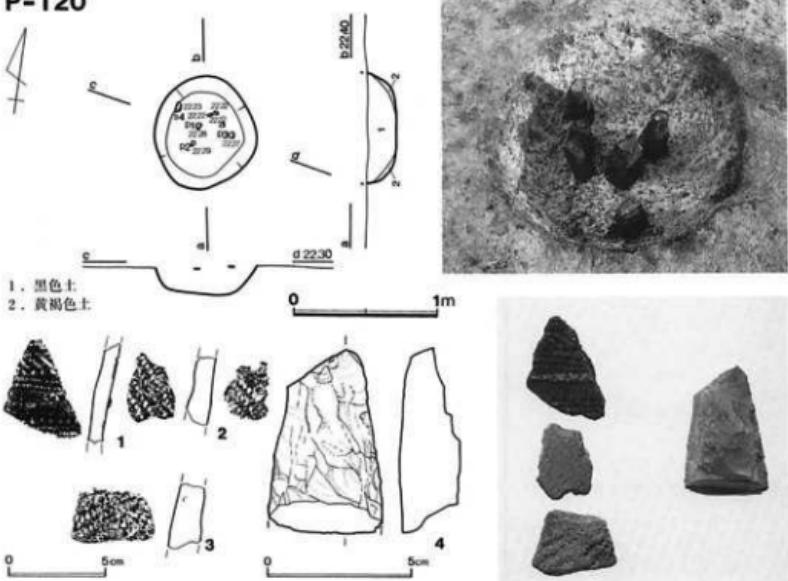
1. 黑色土
2. 黄色土
3. 棕色土



P-116

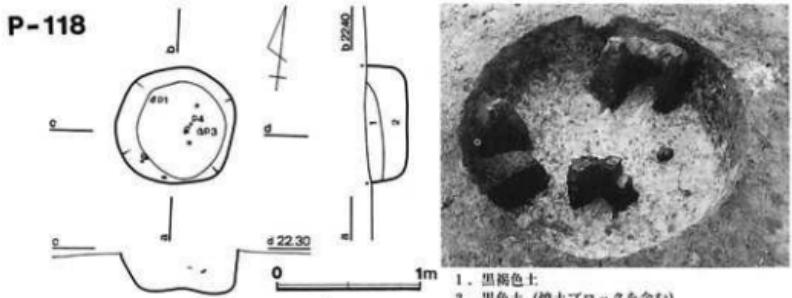


P-120

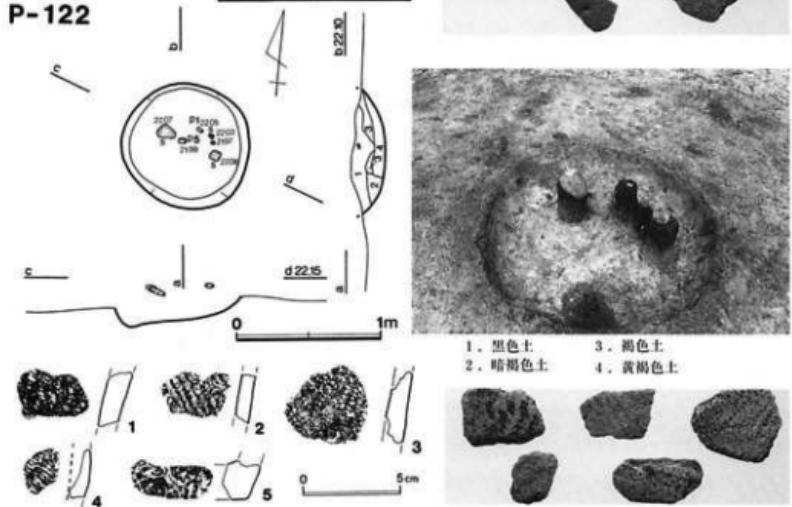


P-116 • P-120

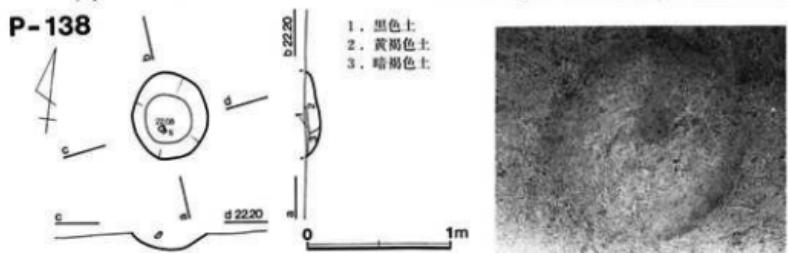
P-118



P-122



P-138



P-118 • P-122 • P-138

P-71

調査区北西部の65-69区に位置する。やや括れた梢円形を呈する。坡底は西側が深くなり壁との境は不明瞭である。土層の堆積状態などから、P-77と共に風倒木痕とも考えられる。

P-4

調査区北西部の70-65区に位置する。坡底は平坦である。覆土に炭化物を含む。1は覆土から検出されたVI群土器の破片で、表面は剥落、裏面も摩耗している。胎土には砂礫の含有が多く、纖維も含まれている。他に礫2点と黒曜石剝片1点が出土した。

P-35

70-67・68区に位置する。坡底は北側が深くやや傾斜する。覆土から5点のVI群土器の破片が検出された。1は薄手で、図の上方がさらにすぼまっており、口唇部に近い破片か、或は注口部の一部らしい。小さく刻まれた三角列点文がみられる。2は弧状の微隆起線文に区画された帶縄文と三角列点文がある、やや丸くふくらむ胴部片。3・4には微隆起線文に縁どられた帶縄文が残されている。5は無文の胴部片で、器面は丁寧に調整されている。3~5の裏面には黒色炭化物が付着している。他に覆土から礫1点が出土した。

P-59

66-67-67区に位置し、東側にP-60が隣接する。坡底は中央が窪む浅い皿状を呈する。遺物は全て覆土から検出した。1~4はVI群土器の破片で、1は弧状を呈する波状縁の一部で、口唇部と口縁直下をめぐる貼付帯に密に刻みが加えられている。器面には現存3段の横帶縄文が施されている。2も口唇部と貼付帯に刻みが加えられた口縁片で、横位および縱位の帶縄文を施し、さらに弧状の微隆起線文や帶縄文、縱位の三角列点文などを付加している。3・4も微隆起線文に区画された帶縄文を直状、弧状に配し、三角列点文を刻んだもの。いずれも丁寧な内面調整がみられる。他に黒曜石剝片2点が出土した。

P-65

66-67区に位置し、南東約50cmにP-64がある。坡底は平坦で浅い皿状を呈する。覆土の北東部などから21点のVI群土器が検出されている。1~4は同一個体と思われる口縁片で、口縁が弧状を呈するもの。口唇には平底状工具を連続して押圧した刻みが加えられており、波頂部にはやや長く引いた押圧がみられる。口縁直下には刻みのある貼付帯がめぐっており、波頂下には逆V字状の微隆起線文が連結している。2には微隆起線文を伴う縱位の帶縄文が施され、塗彩された赤色顔料の一部が残存している。4には横帶縄文に重ねた縱位の帶縄文があり、補修孔が穿っている。5~7は微隆起線文に区画された帶縄文と三角列点文が配された胴部片。8は平底の胴下半部で、横位および縱位の帶縄文が施文されている。他に礫1点が出土した。

P-77

65-68区に位置する。P-71と同様にやや括れた梢円形を呈し、坡底の東側が深くなるなど、風倒木痕と考えられる。

P-70

66-68・69区に位置する。墳底に凹凸がみられる。拓影2が覆土2から、他は覆土1から出土した。1は平縁の口縁片で、口唇には鋭い刻みが加えられている。器面には縦位に配した縄線文と、3段に重ねられた横位の縄線文が押捺されている。原体は単節RLで、地文もこれを回転施文したもの。2はやや幅広くめぐらされた横帯縄文帯の上下に、横位の三角列点文を付加した胴部片。列点文部に塗彩された赤色顔料がわずかに残っている。3は微隆起縫文と三角列点文がみられる小片で、4は薄手の平底片。いずれもVI群土器。他に礫1点が出土した。

P-46

65-69区に位置し、南側にP-47・48がある。1は覆土から得られたVI群土器の破片で、器面にはやや丸味があり、縱走する帯縄文が施文されている。比較的薄手で、焼成堅緻。

P-87

65-69・70区に位置する。墳底は若干凹凸のある浅い皿状を呈し、北東側は小ピットに切られている。遺物は検出していない。

P-74

65-70区に位置し、北側のP-75に隣接する。墳底はやや凹凸のある浅い皿状を呈する。1はやや薄手で焼成堅緻な、VI群土器の小片。器面の摩耗のため、文様などは十分観察できない。

P-105

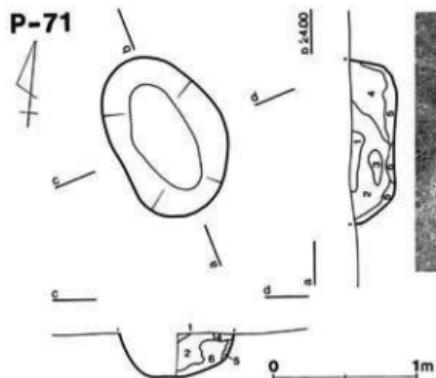
調査区中央部の60-82区に位置する。南北の壁の立ち上がりが不明瞭な浅い皿状を呈する。遺物は全て覆土から検出した。1はVI群土器の胴部片で、上下を横帯縄文に挟まれた、小さな平底状工具による列点文がみられるもの。2は表裏ともに摩耗の進んだ胴部片で、単節の縄文が不明瞭ながら認められる。III群b-3類の破片であろうか。3は石斧破片。泥岩を素材にし研磨により整形している。重さは15.6g。他に礫3点、黒曜石剝片1点が出土した。

P-139

調査区中央部の59-85区に位置し、北北西側のP-138から約1.5m離れている。墳底は凹凸があり、西側は小ピット状に深くなっている。遺物は検出していない。

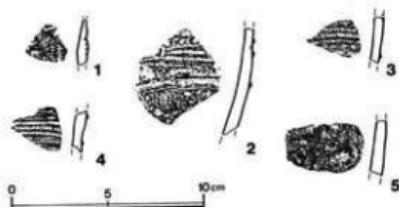
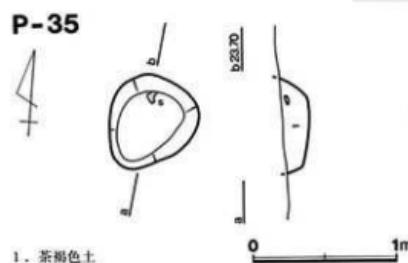
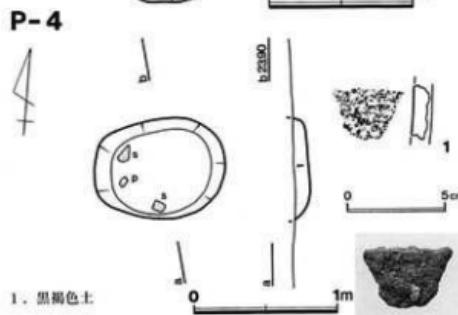
P-133

61-82区に位置する。墳底面が確認面より大きく、壁はオーバーハングした袋状を呈する。土器拓影1は墳底から出土した。1は横帯縄文が2段現存するVI群土器の胴部片で、器面の一部と裏面には黒色炭化物の付着がみられる。2・3は覆土中から検出された、III群b-3類に属すると思われる破片である。2は摩耗のため器面の文様は不明だが、裏面には結束第一種のある羽状縄文がみられる。3は、単節RLの縄文が重ねて施文された胴部片で、内面の調整は粗く、胎土には砂礫のほか、繊維も含まれている。4は墳底から出土したポイントまたはナイフ。黒曜石を素材にしている。重さは42.2g。他に礫と黒曜石剝片、片岩剝片各1点が出土した。



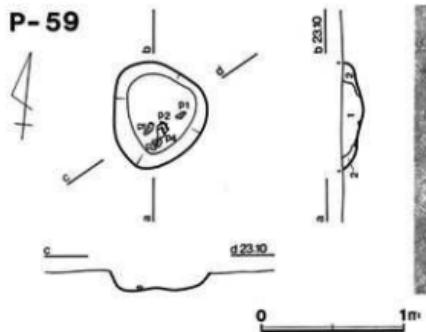
1. 暗赤褐色土
2. 黑褐色土
3. 黑色土

4. 明暗褐色土
5. 暗黄褐色土
6. 黄褐色土

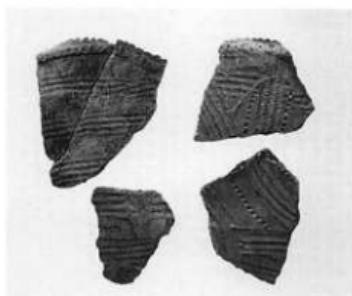
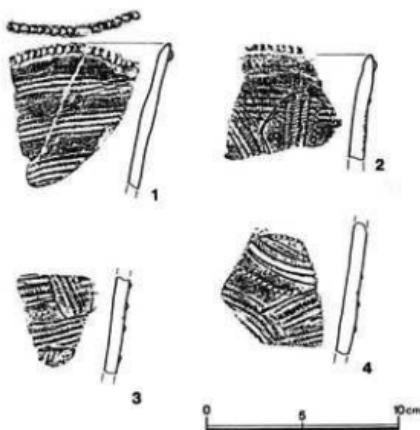


P-71 • P-4 • P-35

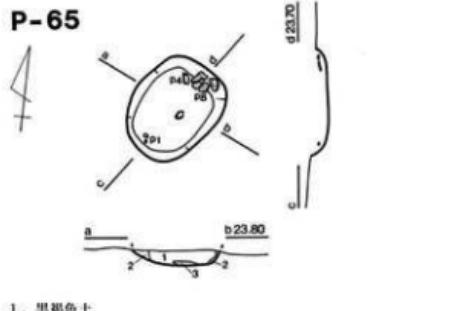
P-59



1. 黑褐色土
2. 黄褐色土



P-65



1. 黑褐色土
2. 明里褐土
3. 黑褐色土(本炭を含む)

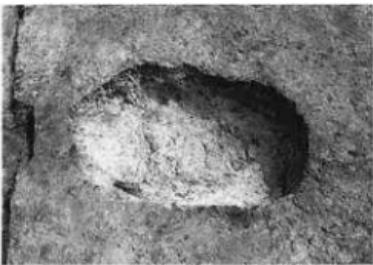
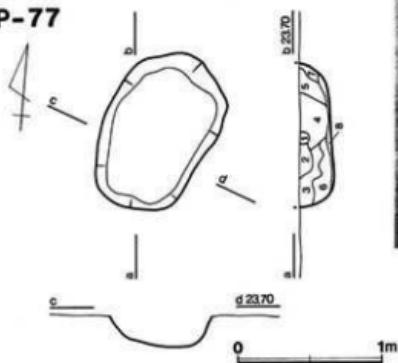


P-59 · P-65



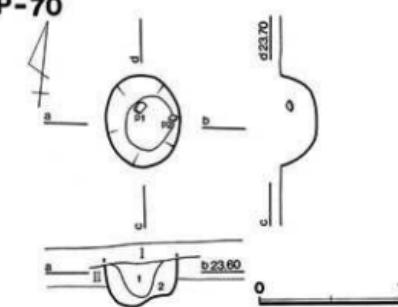
0 5 10 cm

P-77



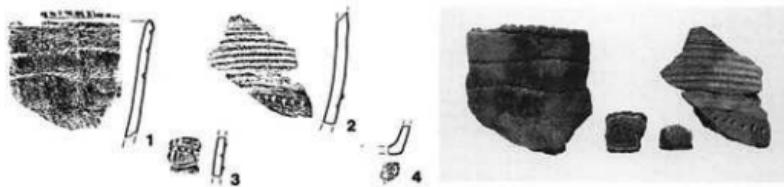
1. 黒色土 4. 暗褐色土 7. 黄褐色土
2. 黑褐色土 5. 茶褐色土 8. 汚れたローム
3. 暗茶褐色土 6. 純黄褐色土

P-70



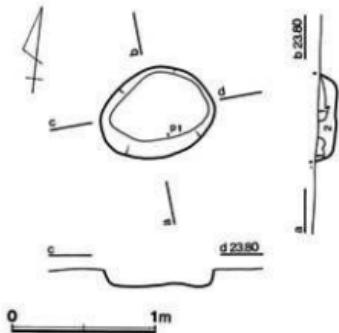
1. 茶褐色土 2. 黒色土

P-65の出土土器・P-77・P-70

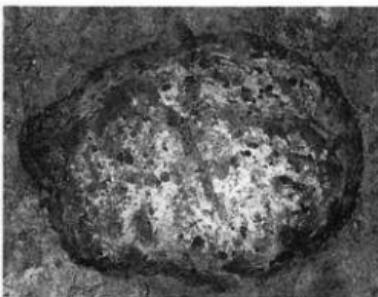


0 5 10cm

P-46



0 1m

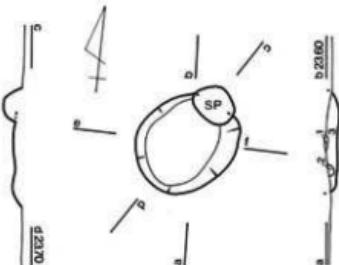


1. 黒褐色土
2. 黄褐色土

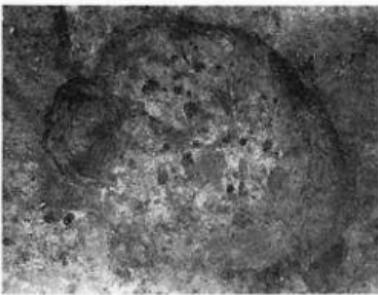


0 5cm

P-87



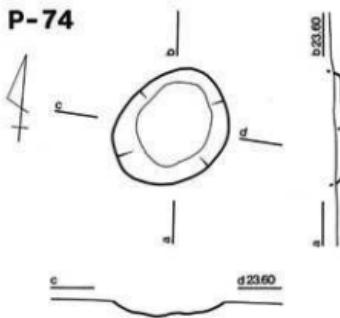
0 1m



1. 黒褐色土
2. ロームブロック
3. 喀茶褐色土

P-70の出土土器・P-46・P-87

P-74

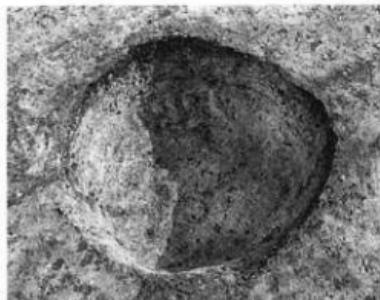
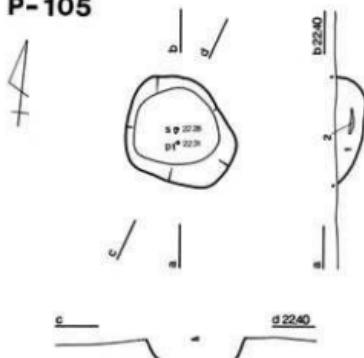


1. 黑褐色土

0 1m



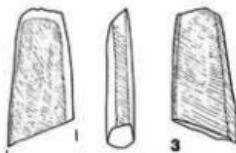
P-105



1. 黑色土

2. 黄色土

0 1m

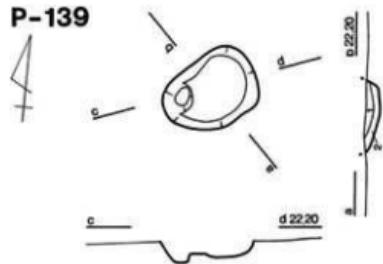


0 5cm

0 5cm

P-74 • P-105

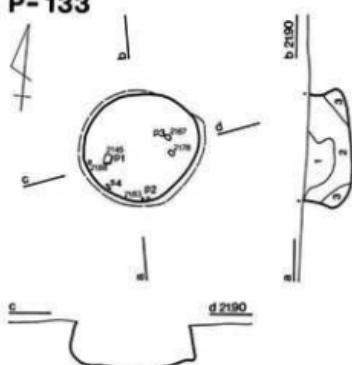
P-139



1. 黑色土

2. 黄褐色土

P-133

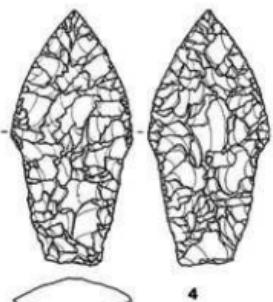


1. 褐色土

2. 黑色土

3. 略褐色土

0 1m



0 5cm



0 5cm

P-139 • P-133

5. 時期不明の遺構

時期不明としたものには、P-128・180・176・178・177・168・160・110・179・182がある。これらは全て遺物を検出していない。土層の堆積状態や形態など、時期を推定しうる材料が少ない。また、包含層の遺物出土状況、周囲の遺構からも時期を特定し難いものである。

小ピット・柱穴と考えられるもの（P-128・180・176）も含んでいる。

P-128

調査区中央部の59-83区に位置する。墳底は丸く、壁は垂直に立ち上がる。

P-180

59-81区に位置する。墳底は丸く、壁は急角度に立ち上がる。覆土1層は、若干のローム粒と炭化物を含んでいる。

P-176

59-83区に位置する。墳底は丸く、壁の立ち上がりが不明瞭な掘り鉢状を呈する。

P-178

59-81区に位置する。断面形は丸く、掘り鉢状を呈する。覆土下半に炭化物を含む。

P-177

59-81区に位置し、南西側はP-131に隣接している。墳底は平坦で浅い皿状を呈する。墳底に炭化物が一面にみられた。

P-168

調査区北西部の65-66区に位置する。墳底は凹凸があり、南西の實際は一段低くなった浅い皿状を呈する。遺物は出土していないが、規模・形状・覆土の状態から統縄文期の土墳の可能性がある。

P-160

調査区南側の59-90区に位置し、南西側のH-2に隣接している。墳底はやや丸味をもち、浅い皿状を呈する。H-2との関係は不明である。

P-110

調査区中央から南側の59-85区に位置する。墳底は平坦で、浅い皿状を呈する。

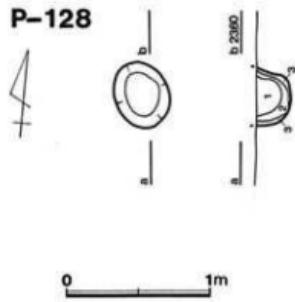
P-179

調査区中央部の58-82区に位置する。墳底は平坦である。壁は墳底との境が丸味を帯び急角度に立ち上がる、皿状を呈する。覆土2層は、径1~2cmのローム粒を多く含む。

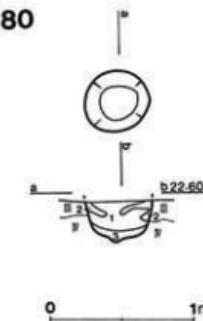
P-182

調査区南東部の沢に面した45-84区に位置する。墳底は丸味のあるボール状を呈する。南西側の壁は皿層との差異が少なく不明瞭である。

P-128



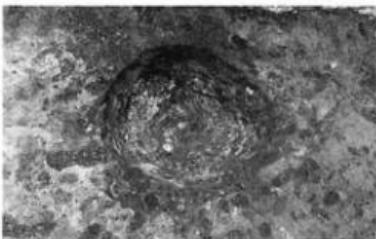
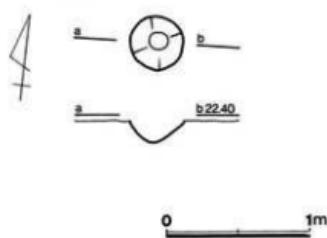
P-180



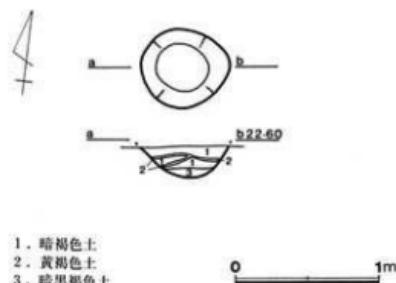
1. 暗褐色粘質土
2. 褐色粘質土
3. 暗黃褐色粘質土

1. 暗褐色土
2. 褐色粘質土
3. 黑色土

P-176

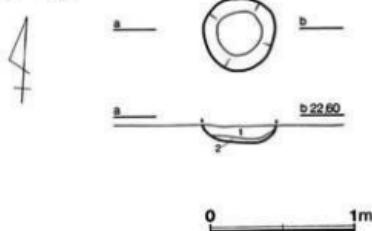


P-178



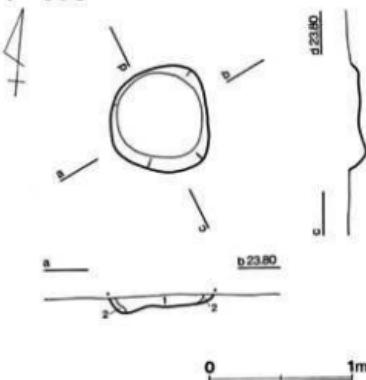
1. 暗褐色土
2. 黄褐色土
3. 暗黑褐色土

P-177



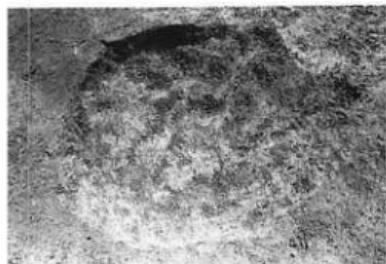
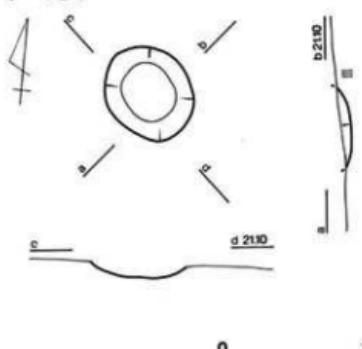
1. 黑色土
2. 炭化物>黑色土

P-168



1. 黑色土
2. 茶褐色土

P-160

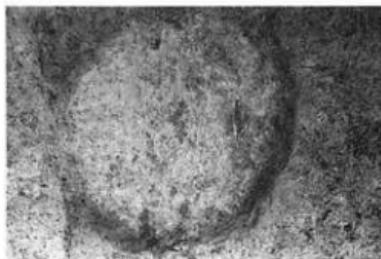
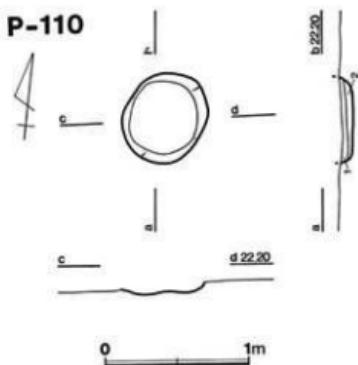


1. 黑褐色土



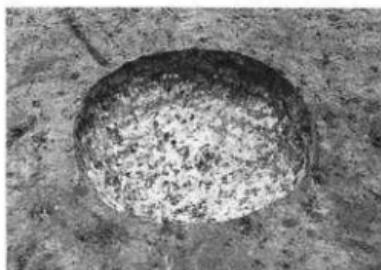
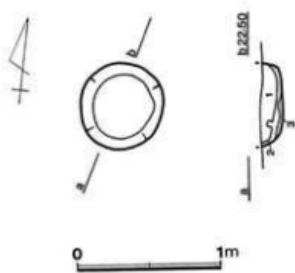
P-177 • P-168 • P-160

P-110



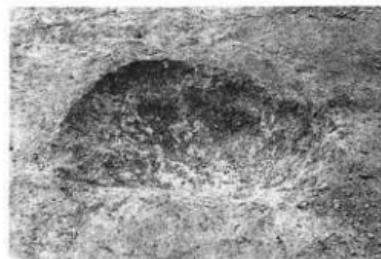
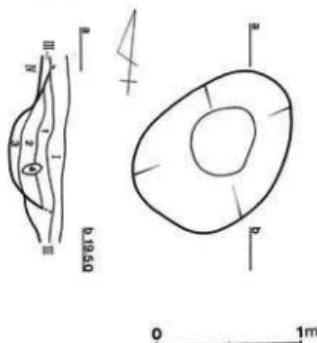
1. 黑色土
2. 黄褐色土

P-179



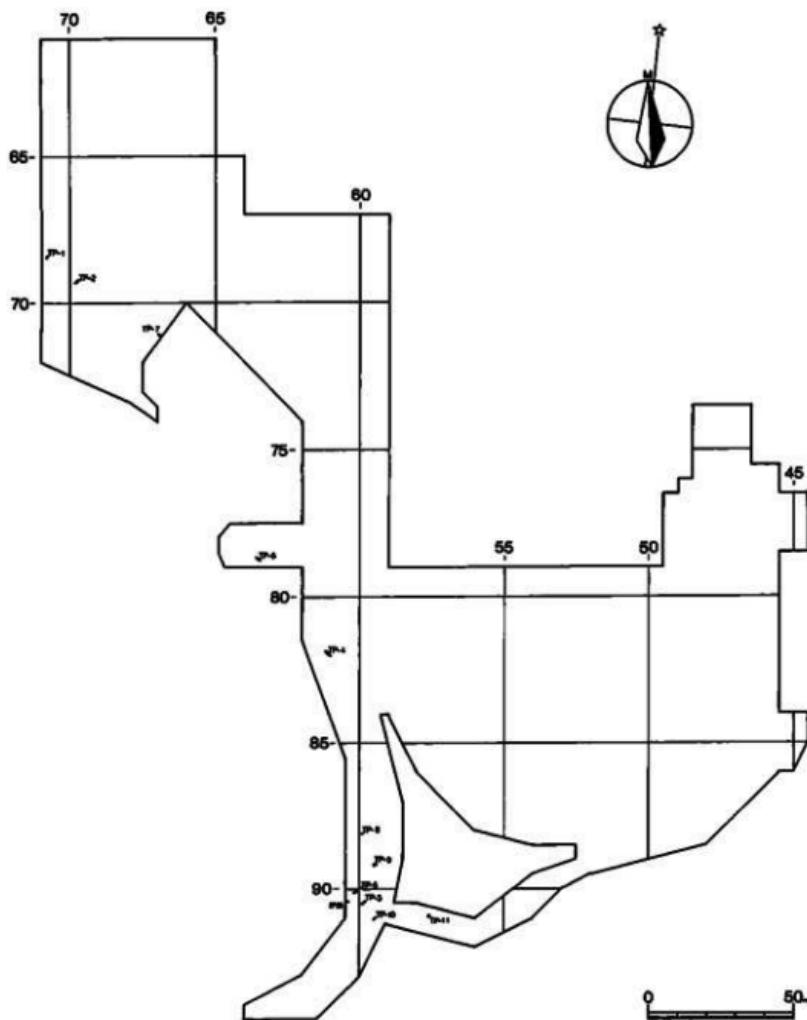
1. 黑色土
2. 黄褐色土
3. 暗褐色土

P-182



1. 黑色土
2. 黑褐色土
3. 暗褐色土
4. 黄褐色土

P-110 • P-179 • P-182



T ピット および 炉跡の位置図

6. Tピット

Tピットは、小判型を呈するもの3基と溝状を呈するもの8基を検出した。小判型を呈するTP-8・9・11は等高線に直交して列を成す。TP-8とTP-9の距離は約11m、TP-9とTP-11の距離は約22mある。この2つの中間の調査区外に、もう1基存在する可能性が強い。溝状を呈するTP-1・TP-2とTP-5・TP-3・TP-10は等高線に直交して列を成している。TP-1とTP-2の距離は約13mである。TP-5・TP-3・TP-10の各々の距離は約4mと6mである。TP-7、TP-6、TP-4は各々、長軸方向に列を成している。しかし距離が約80mと約40m程、離れている。西側の沢状の大きな湿地に面した崖に沿った、各々、列を成すものの1つと考えられる。

TP-8

調査区のやや南より59-88区に位置する。北側壁の上部は擾乱を受けていた。縦断面・横断面共に壇口部が広い台形状で、壇底は横断面が若干丸味を帯び、長軸の両端はやや低い。長軸はN-64°-Eをむく。1は覆土から採集されたⅢ群b-3類土器の胴部片。表裏ともに摩耗が進んで文様は不明である。2は石斧破片。千枚岩を素材に研磨により成形している。重さは62.2g。3は砥石。砂岩を素材に4面を利用している。重さは580g。他に黒曜石剣片13点が出土した。

TP-9

59-89区に位置する。長軸断面は袋状である。壇口部は長軸方向と南西側が崩落により広がっている。長軸はN-48°-Eをむく。1~5は覆土出土の土器片で、5以外はかなり摩耗している。1・3は3~5本単位の沈線文様がみられるⅣ群a類土器で、胎土に多量の砂礫が含有されている。2も砂礫がちな胎土のⅣ群a類の破片だが、文様は観察できない。4は円形刺突文の一部と、貼付文に加えられた小さめの刺突がみられる口頭部片で、単節斜縄文の施された5とともにⅢ群b-3類に属する。6はすり石。安山岩を用いている。重さは385g。7は凹石。素材は安山岩で、重さは147.1g。他に砾2点と黒曜石剣片40点が出土した。

TP-11

調査区の北側、57-90区に位置している。すぐ南側には、H-5が、北側には、P-220.221が位置している。梢円形を呈し、底面は平坦で柱穴などはみられなかった。覆土にH-3でみられた汚れた焼土が堆積しているのが観察された。1は、口縁がやや肥厚し、口縁直下外側からの刺突が施されている。2には突引文が、3には綾縞文が施文されている。4、5は、底部である。6は、砂岩製の砥石で三面が使われている。また、中央に敲打痕がみられる。

TP-1

調査区北西部の70-68区に位置する。横断面は壇底部が確認面より狭くなり、壁面の上部が崩落している。長軸はN-30°-Eをむく。遺物は検出していない。

TP-2

69-69区に位置する。壁は垂直で、壇底部の横断面は丸味をもち細くなる。長軸はN-43°-Eをむく。遺物は検出していない。

TP-7

台地の縁辺部、66-71区に位置する。南東側は調査区外のため確認していない。坡底部の北西端は広がりオーバーハングする。覆土は非常に堅い。長軸方向に緩く傾斜する。長軸はN-45°-Eをむく。遺物は検出していない。

TP-6

台地の縁辺部、63-78区に位置する。坡底部は長軸の両端が広がりオーバーハングする。壁の上部は崩落により広がっている。坡底は北西に緩く傾斜している。長軸はN-70°-Wをむく。1は覆土から検出された平底の底部片。胎土には砂の含有が多い。Ⅲ群b-3類に属するものか。

TP-4

61-81・82区に位置する。北西側の上部は擾乱を受けている。確認面に比べ坡底部は細く、北東側の壁の下部は若干膨らみがある。長軸はN-46°-Wをむく。1は2条の縄線文を押捺し、表裏に同一の原体を回転施文したと思われる縄文のあるⅣ群a類の口縁片。2は摩耗のため不明瞭だが、結束第一種のある斜行縄文が施されたⅢ群b-3類の胴部片。3は砥石破片。砂岩を素材にしている。両面を使用している。重さは8g。他に礫10点と片岩剝片が1点出土した。

TP-5

60-90区に位置する。横断面は上部が崩落により広がり坡底は細く丸味がある。坡底は西南西に緩く傾斜している。長軸はN-58°-Eをむく。1は摩耗の進んだ土器の小片で、文様は判別できない。Ⅲ群b類か。2は垂節。橄欖岩を素材にしている。全周に線刻が施されている。穿孔部に縱方向の条痕がみられ、角に削り落とされた痕がある。重さは57.1g。3は石槍の基部破片。黒曜石を素材にしている。重さは2.6g。他に黒曜石剝片8点と片岩剝片1点が出土した。

TP-3

59-90区に位置する。平面形は中央が細く括れ、壁の上部は崩落により広がっている。坡底の北東側は若干膨らみがある。長軸はN-41°-Eをむく。1-3は覆土出土のⅢ群b-3類土器の破片と思われるもの。1には表裏に縄文があり、2・3の縄文は無筋の原体によるものらしい。いずれも摩耗が進んでおり、文様の十分な觀察は困難である。4は使用痕のある黒曜石剝片。重さは2g。5・6は黒曜石の石核。5は焼けている。重さは9.6g。6は原石面を残している。重さは10.3g。

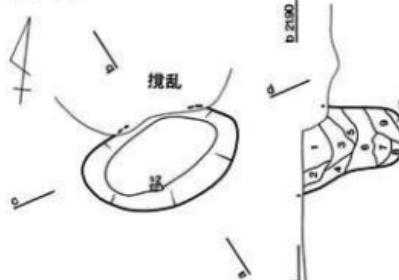
TP-10

59-90・91区に位置する。北東側はH-2を切っている。坡底部は若干膨らみ横断面は丸味がある。長軸はN-35°-Eをむく。遺物は覆土からⅢ群b-3類土器8点、黒曜石剝片10点、片岩又は泥岩剝片が4点出土した。

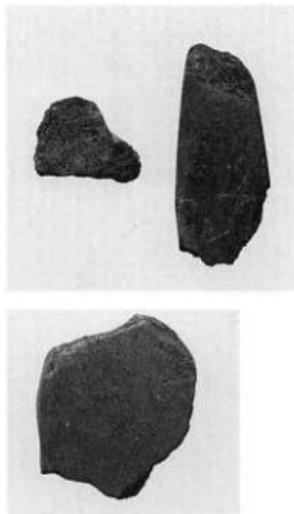
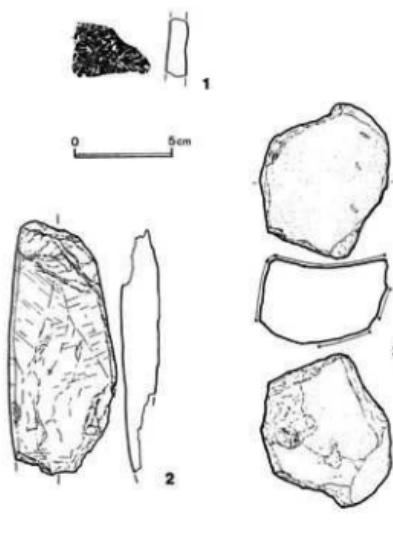
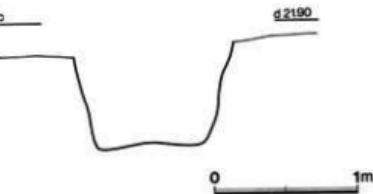
7. 炉跡

調査区の南側60-90区に位置する。平面形は橢円形を呈し、焼土の厚さは10cmを測る。上部は炭化物が検出できず、耕作により削平されている。東側にある堅穴住居跡に伴う屋外炉と考えられるが、遺物が検出できず時期は特定できない。

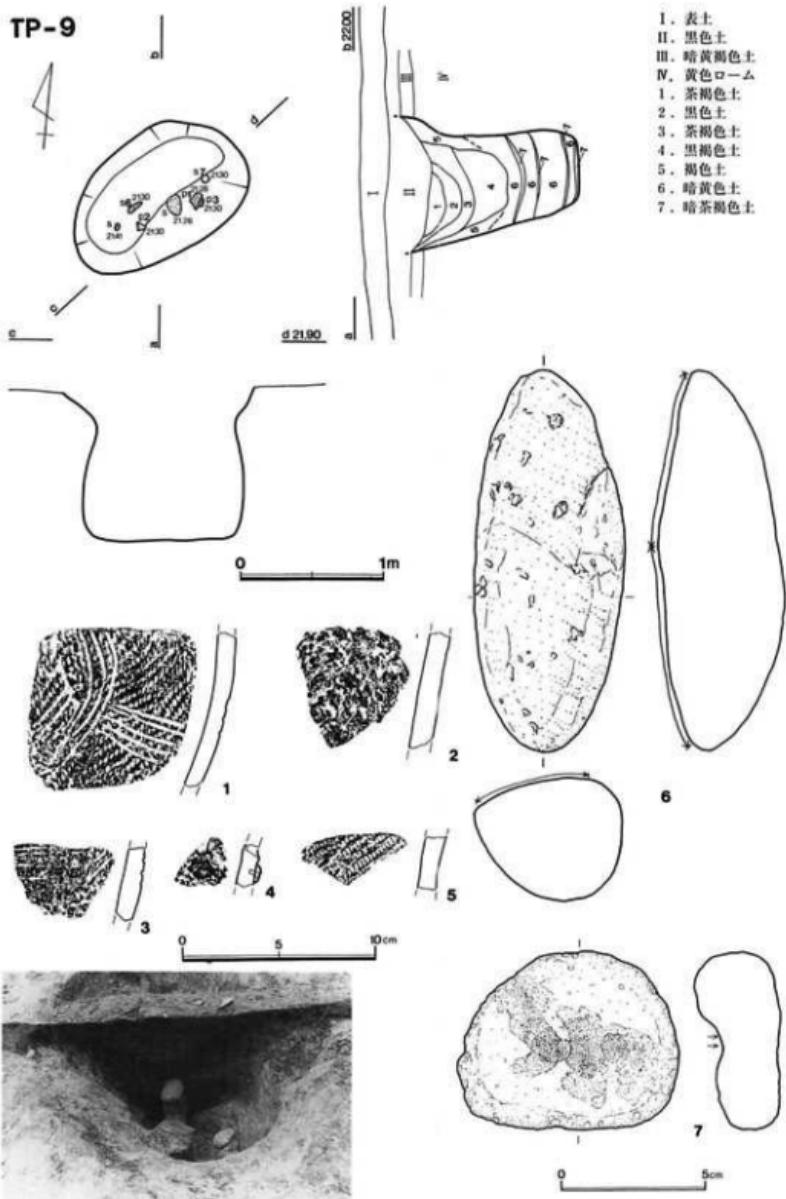
TP-8



- | | |
|---------|----------|
| 1. 暗褐色土 | 6. 茶褐色土 |
| 2. 暗褐色土 | 7. 黄灰色土 |
| 3. 黑色土 | 8. 黄褐色土 |
| 4. 黄褐色土 | 9. 黑色土 |
| 5. 明褐色土 | 10. 黄褐色土 |



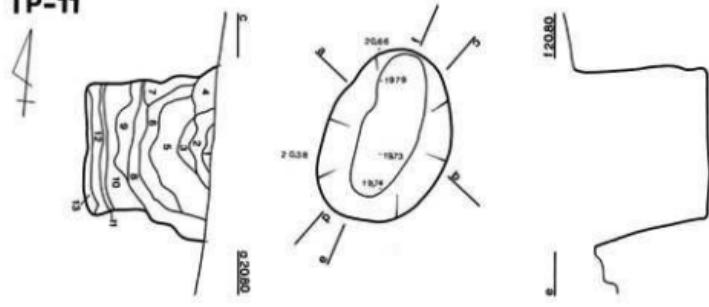
TP-9



TP-9



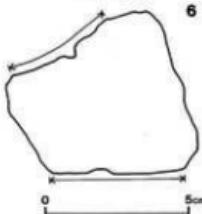
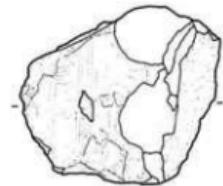
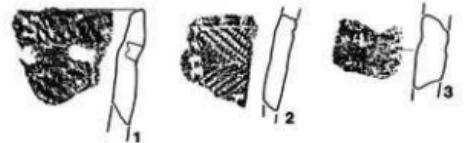
TP-11



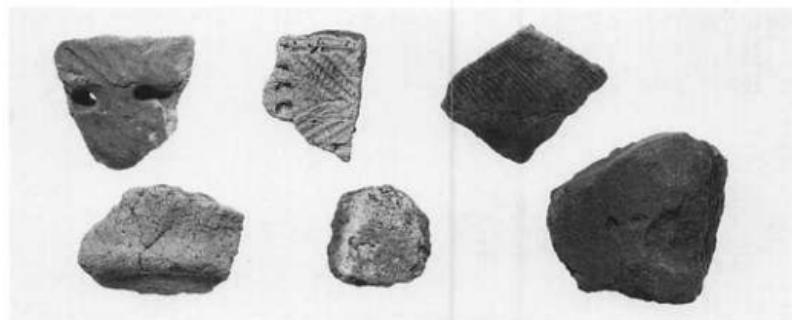
1. 黒褐色土 (焼土含む)
2. 焼土層 + 暗赤褐色土
3. 焼土層 + 赤褐色土
4. 里褐色土
5. 黒褐色土 (ロームを含む)
6. 暗褐色土 (ロームを含む)
7. 黄褐色土 (ロームを含む)

8. 黄褐色土 (ロームをブロック状に含む)
9. 暗黄褐色土 (ロームをブロック状に含む)
10. 黄褐色土
11. 黒褐色土
12. 黄褐色土
13. 黑褐色土 (炭化物を含む)

0 1m

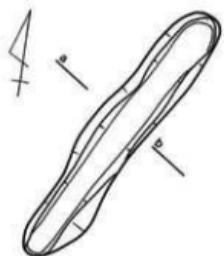


TP-9 の出土遺物・TP-11

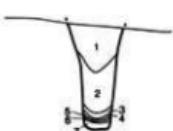


TP-11

TP-1

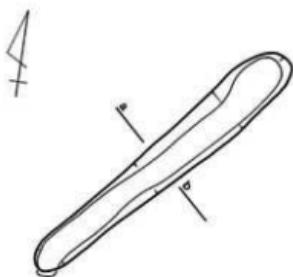


a _____ b 2340

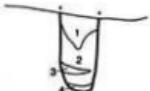


- 1. 黒褐色土
- 2. 黄褐色土
- 3. 黑褐色土
- 4. 黄褐色ローム
- 5. 黑色土
- 6. 黄褐色ローム
- 7. 黑色土

TP-2



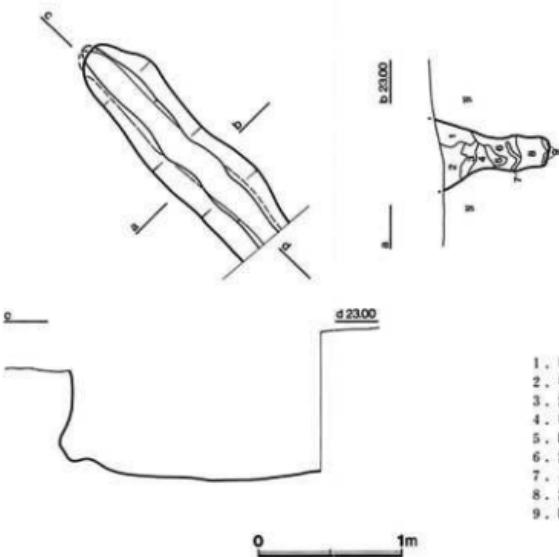
a _____ b 2230



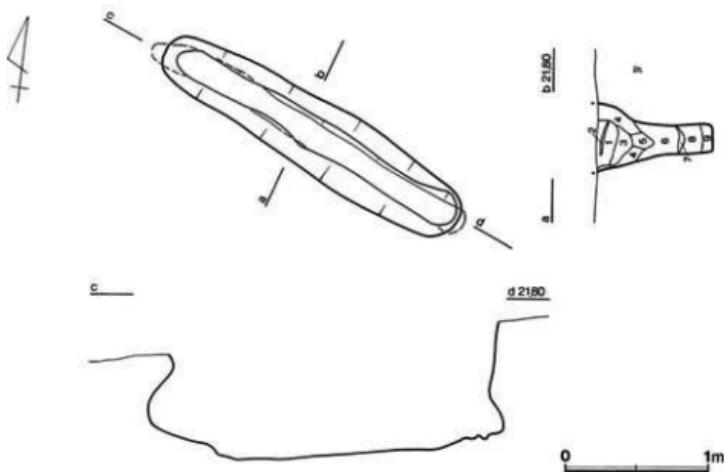
- 1. 黒褐色土(ロームを含む)
- 2. 喻黃褐色土
- 3. 喻茶褐色土
- 4. 黑色土(層上部に粘性有)

0 _____ 1m

TP-7



TP-6



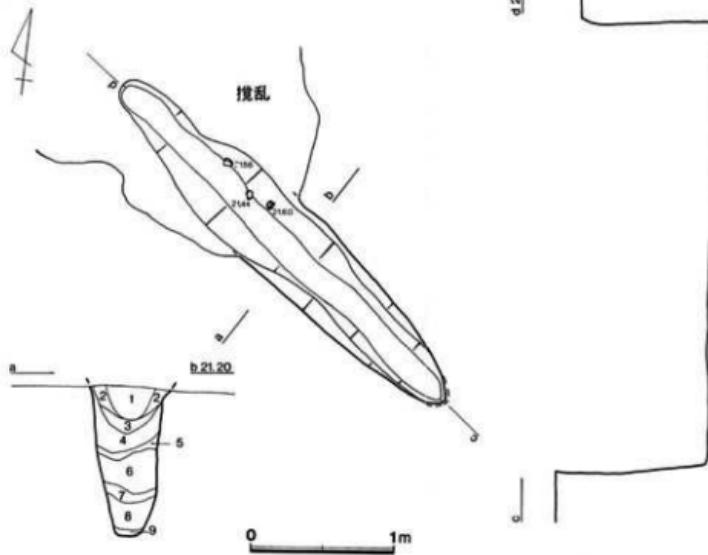
- 1. 暗褐色土
- 2. 黄褐色土
- 3. 谈黑色土
- 4. 褐色土
- 5. 谈黄褐色土
- 6. 黄褐色土
- 7. 黑色土
- 8. 谈黄褐色土
- 9. 黑色土



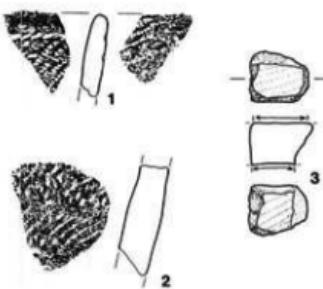
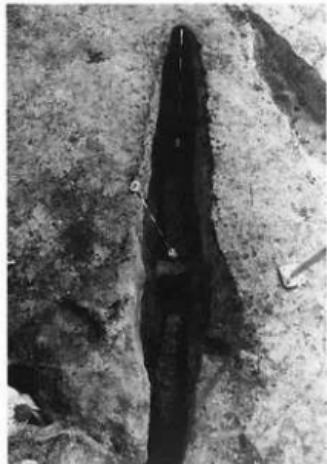
0 5cm



TP-4



1. 黑色土
2. 黑色土>黄褐色土
3. 黑色土<黄褐色土
4. 黄褐色土
5. 暗褐色土
6. 暗黄褐色土
7. 黑色土
8. 黄褐色口—ム
9. 黑色土

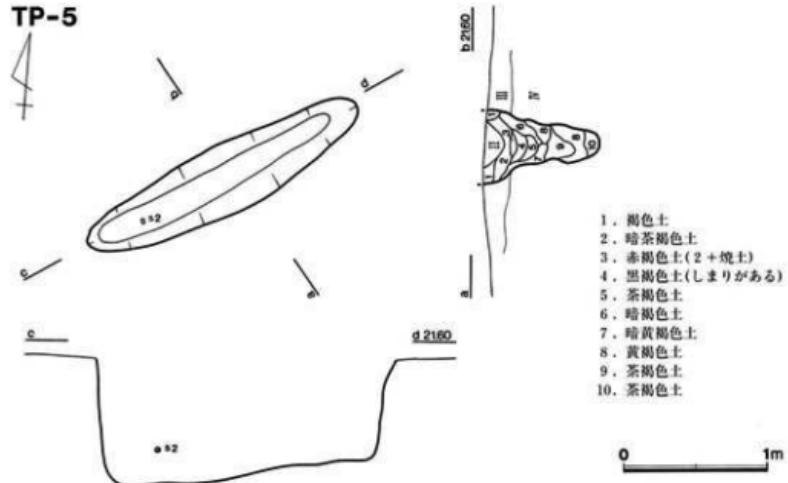


0 5 10 cm 0 3 cm

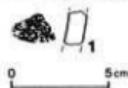


TP-4

TP-5



1. 褐色土
2. 暗茶褐色土
3. 紅褐色土(2+焼土)
4. 黒褐色土(しまりがある)
5. 茶褐色土
6. 暗褐色土
7. 暗黃褐色土
8. 黃褐色土
9. 茶褐色土
10. 茶褐色土



0 5cm



2

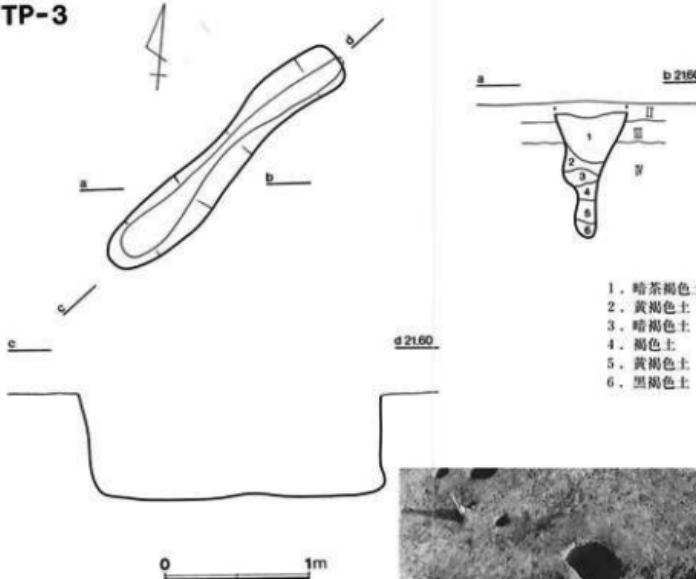


0 5cm

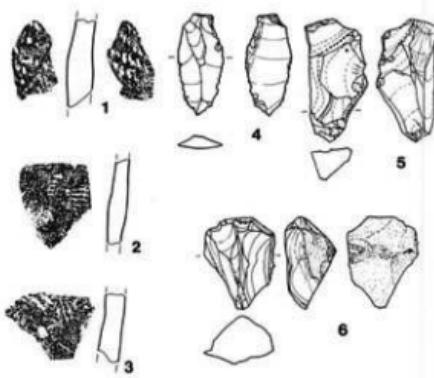


TP-5

TP-3



- 1. 暗茶褐色土
- 2. 黄褐色土
- 3. 暗褐色土
- 4. 棕色土
- 5. 黄褐色土
- 6. 黑褐色土

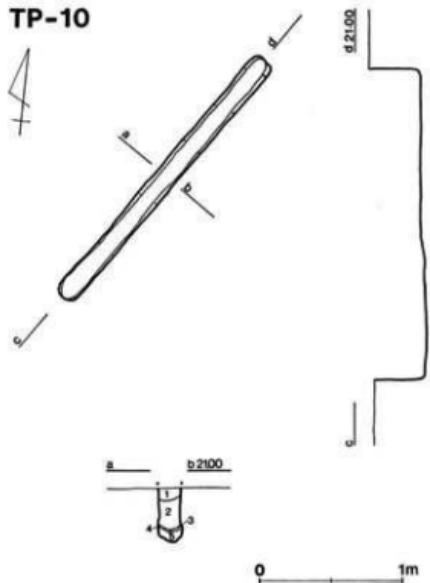


0 5cm 0 5cm

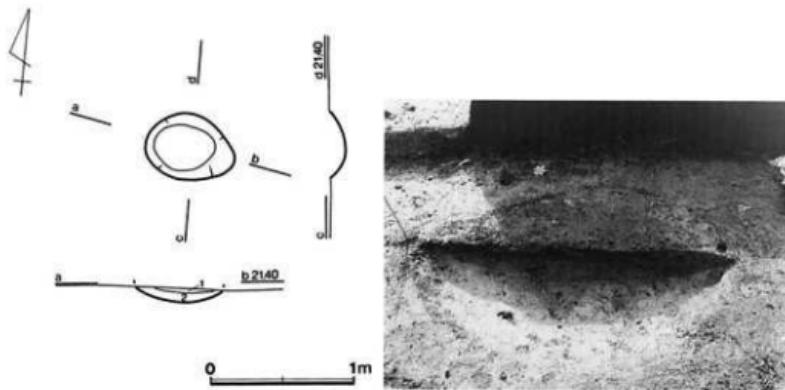


TP-3

TP-10



炉跡



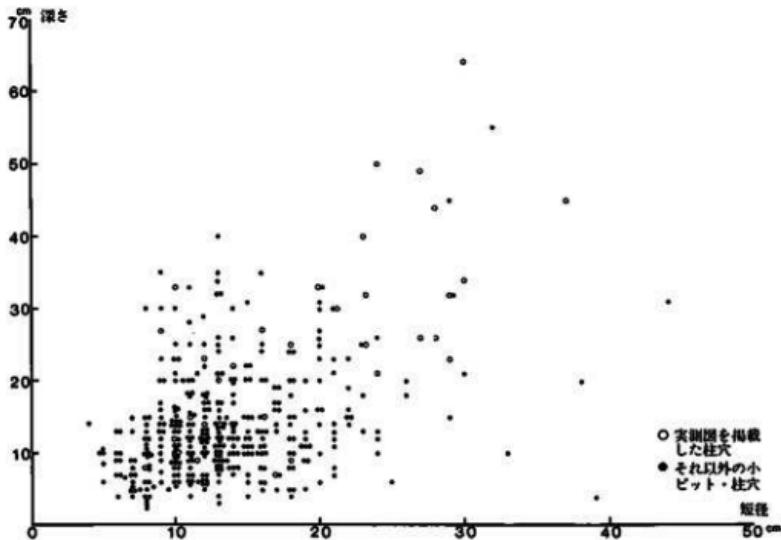
TP-10・炉跡

8. 小ピット・柱穴

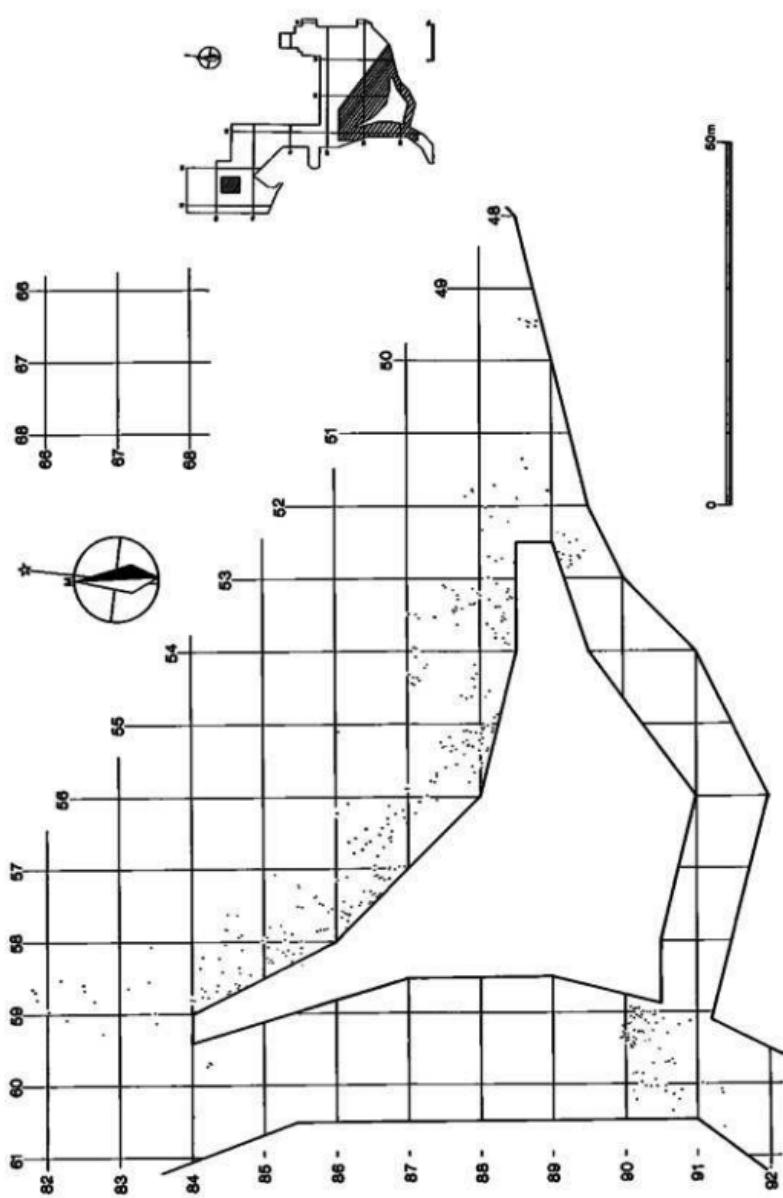
一覧表に概要を示すように、7年間の調査を通じて全部で409個の小ピットや柱穴が検出された。その分布状態は239頁の図のとおりだが、結論的にいうならば、ほぼ他の造構や造物の集中分布域と重なりあっているといえる。柱穴には248頁の図にみられるように、何らかの配列を指摘できそうなケースもあるが、それぞれの構築時期や目的、特定の配列の有無などについては、概して明確な判定を下すことが困難であった。

柱穴には杭の打ち込みによるものや、穴を掘って柱を埋けたものの両者がみられ、形態や覆土の堆積状態、造物や礎の混在する様相などは、必ずしも一様ではない。柱穴の全容を報告することはできないが、249、250頁に本遺跡に見出された柱穴の代表例を図示する。これらの代表例が、浅めの皿状のピットを除けば、さまざまなタイプのものを網羅していることは、小ピットや柱穴の規模を示した下図における、実測図掲載の○印の在り方から、ほぼ了解されよう。柱穴や小ピット出土の遺物は、殆どが覆土に混入したもので、一部を251頁に図示する。

出土遺物の大部分はⅢ群b-3類の土器片である。円形刺突文を有し(1・7・8)、口縁部肥厚帯に押引文のみられる例(8)が多い。地文として結束第一種のある羽状繩文が施されるものが多く(2・5・6・9・12・13・16)、結束第二種をもつもの(15)も少なくない。口縁付近では内面にも繩文がみられる(10)。Ⅲ群b-3類のほか、貼付帯に半截竹管による平行沈線文が加えられたⅢ群b-1類土器(14)なども検出される。全体に摩耗の進んだ破片が多い。



小ビット・柱穴位置図



小ピット・柱穴一覧表(1)

番号	位置 グリッド	置 百分割	No.	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ (cm)	出土遺物
				長径	短径	長径	短径		
1	49-88	37		20	18	18	14	12	
2	49-88	45		13	13	6	4	9	
3	49-88	46	1	26	24	17	14	10	土器×3
4	49-88	46	2	16	14	10	10	11	
5	49-88	49		20	19	15	10	9	
6	49-88	56		21	19	12	11	5	
7	49-88	59		25	20	20	14	14	
8	51-88	36		30	29	25	23	32	刺片×2
9	51-88	37		37	33	23	22	10	刺片×2
10	51-88	46		28	24	17	21	26	土器×2 刺片×3
11	51-88	72		31	(21)	(20)	(16)	31	
12	52-87	73		11	10	5	3	10	
13	52-87	83		7	6	3	3	9	
14	52-88	00		14	13	9	9	11	
15	52-88	23		13	11	5	4	8	
16	52-88	30		19	17	8	7	13	
17	52-88	71		21	20	8	8	16	
18	52-88	72	1	14	13	8	6	8	
19	52-88	72	2	13	10	10	8	13	
20	52-88	74		10	8	3	3	10	
21	52-88	91		(19)	16	(13)	11	15	
22	52-89	41		15	13	5	4	7	
23	52-89	43		19	15	9	6	31	土器×4
24	52-89	52		11	11	1	1	20	刺片×2
25	52-89	60		22	17	14	12	19	刺片×1
26	52-89	61		20	16	7	7	13	
27	52-89	62		21	17	12	11	16	土器×1
28	52-89	63		20	15	9	8	11	
29	52-89	64		18	15	4	4	22	
30	52-89	71		20	20	17	14	12	
31	52-89	72		22	20	13	11	26	
32	52-89	73		25	22	10	7	16	
33	52-89	82	1	22	21	14	11	21	
34	52-89	82	2	16	13	5	5	15	
35	53-87	19		11	10	4	3	6	
36	53-87	29		12	11	(5)	(5)	18	
37	53-87	38		15	15	(6)	(5)	7	
38	53-87	38・39		13	13	(5)	(4.5)	10	
39	53-87	39		13	13	(6)	(5)	9	
40	53-87	47	1	13	11	5	4	20	
41	53-87	47	2	8	8	3	2	13	
42	53-87	48	1	12	11	4	3	9	
43	53-87	48	2	23	22	11	10	14	
44	53-87	50		12	(12)	(9)	(8)	9	
45	53-87	51	1	12	11	8	7	6	
46	53-87	51	2	13	11	7	6	6	
47	53-87	53		10	9	4	3	14	
48	53-87	66		13	12	5	5	12	
49	53-87	90		13	12	5	4	10	
50	53-87	91		14	10	5	5	12	土器×1
51	53-88	03		21	20	16	14	10	
52	53-88	13	1	25	23	12	11	13	土器×1

小ピット・柱穴一覧表(2)

番号	位 グリッド	置 百分割	No.	確認面(cm) 長径×短径	底面(cm) 長径×短径	深さ (cm)	出 土 造 物
53	53-88	13	2	18	17	5	4 17 土器×3
54	53-88	20		13 (10)	6 (4)	6	11
55	53-88	21		19 (7)	12 (11)	18	土器×3
56	53-88	23		17	15	6	6 22
57	53-88	24	1	20	16	6	6 24
58	53-88	24	2	(18) (16)	(11)	(9)	15
59	53-88	42	1	(19) (17)	(6)	(4)	17 土器×1
60	53-88	42	2	(15) (13)	(5)	(4)	18
61	53-88	53	1	13	12	6	6 13
62	53-88	53	2	14	12	5	3 21
63	53-88	53	3	11	9	5	4 9
64	53-88	61		25	23	11	9 18 刺片×1
65	53-88	62		16	15	9	9 12
66	53-88	71		24	21	9	7 14
67	53-88	72		16	14	10	7 22 土器×1 磁石器×2
68	53-88	73		20	16	7	7 13 土器×2
69	53-88	82		30	24	14	12 13
70	53-88	83		22	20	8	8 33 土器×3 刺片×3
71	53-88	93		12 (10)	3	2	11
72	53-88	94		(13) (13)	(9) (7)		9
73	54-86	50		8	7 (3)		4
74	54-86	54		(18)	13 (3)		9
75	54-86	62		6	6 (2)		9
76	54-86	63		(21) (20)	(17) (17)		18
77	54-87	11-01		14	12	4	3 13
78	54-87	22	1	16	14 (3)		7
79	54-87	22	2	11	10 (2)		7
80	54-87	29		20	19 (3)		13 土器×3 刺片×1 磁×2
81	54-87	30	1	20	18 (4)		18
82	54-87	30	2	19	15 (2)		20
83	54-87	31		12	11	8	8 10
84	54-87	38		17	13 (2)		9
85	54-87	39	1	12	9 (2)		15
86	54-87	39	2	12	11 (1)		12
87	54-87	40		13	13 (2)		10
88	54-87	40-41		13	12 (2)		13
89	54-87	41		19	18 (4)		12
90	54-87	42		21	21	7	6 11
91	54-87	49-59		18	15 (2)		15 刺片×2
92	54-87	62	1	19	14 (2)		10
93	54-87	62	2	22	19 6	5	16
94	54-87	67		10	6 (3)		13
95	54-87	68	1	13	12 10	8	14 土器×2 刺片×1
96	54-87	68	2	18	15 (5)		13
97	54-87	72		20	19 (2)		20 刺片×1
98	54-87	73		20	18 8	8	12 刺片×2
99	54-87	81		21	18 6	6	20 刺片×1
100	54-87	82		16	15 (3)		15 土器×1
101	54-87	93		15	12 (4)		12 土器×3 刺片×1
102	54-87	94		(9)	8 (8)		3
103	54-88	51		20	18 (2)		24 土器×1
104	54-88	60		12	11 (1)		15 刺片×1100

小ピット・柱穴一覧表(3)

番号	位 グリッド	面 百分割	面 No.	横絶面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ (cm)	出土 遺物
				横絶面(cm) 長径×短径	底面(cm) 長径×短径	横絶面(cm) 長径×短径	底面(cm) 長径×短径		
105	54-88	82	1	13	12	5	5	18	
106	54-88	82	2	11	9	(1)		13	
107	54-88	91		11	10	(2)		14	土器×1 剣片×1
108	55-86	10		(16)	13	(5)		8	
109	55-86	99		19	16	(12)		35	
110	55-87	15-25		11	10	(2)		25	
111	55-87	17		17	14	10	8	18	剣片×6
112	55-87	18	1	15	13	(2)		24	
113	55-87	18	2	14	13	(2)		21	
114	55-87	19		12	11	(2)		15	
115	55-87	20		13	12	6	5	12	剣片×1
116	55-87	24		15	13	(3)		16	
117	55-87	27		16	13			34	剣片×9
118	55-87	28	1	11	10	(2)		21	
119	55-87	28	2	11	10	(3)		14	
120	55-87	29		25	23	(2)		40	土器×1
121	55-87	34		11	10	(2)		30	剣片×2
122	55-87	35	1	23	11	(1)		28	
123	55-87	35	2	14	13	4	3	21	
124	55-87	36	1	15	12	(1)		29	
125	55-87	36	2	20	18	6	5	20	
126	55-87	38		13	12	(2)		15	
127	55-87	39	1	13	12	(3)		23	土器×3 石槍×1 剣片×1
128	55-87	39	2	15	13	(5)		40	
129	55-87	43		29	27	(14)	(14)	49	土器×1 剣片×2
130	55-87	47		15	13	(3)		25	剣片×1
131	55-87	51		14	13	(2)		14	
132	55-87	51-61	2	31	28	9	9	74	土器×1 剣片×6
133	55-87	56		14	12	7	8	11	剣片×3
134	55-87	63		24	23	15	15	25	
135	55-87	65		25	24	19	16	50	土器×9 剣片×1
136	55-87	69		11	10	(3)		23	
137	55-87	73-74		29	30	20	20	64	石器×1 剣片×23 磁×1
138	55-87	83	1	13	12	(2)		12	
139	55-87	83	2	13	12	(3)		17	
140	55-87	88		10	8	(3)		14	
141	55-88	00	1	14	13	(5)		28	
142	55-88	00	2	22	21	7	6	30	剣片×2 磁×1
143	55-88	00	3	14	12	(3)		22	
144	55-88	00-10		10	9	(2)		20	剣片×2 磁×4
145	55-88	01	1	14	12	9	7	25	
146	55-88	01	2	7	5	(2)		10	
147	55-88	10		16	12	6	6	12	
148	55-88	11	1	9	7	(12)	(10)	15	
149	55-88	11	2	11	9	(7)	6	14	
150	55-88	20	1	15	13	5	4	35	
151	55-88	20	2	12	11	5	3	33	剣片×1
152	55-88	21		(?)	(?)			37	
153	55-88	30	1	8	8	4	3	11	
154	55-88	30	2	(11)	10	(3.5)	(3)	16	土器×1
155	55-88	50		(14)	13	(6)	5	21	
156	56-84	96	1	7	6	3	3	10	

小ピット・柱穴一覧表(4)

番号	位 グリッド	百分割	直 No.	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ (cm)	出 土 遺 物
				確認面(cm) 長径×短径	底面(cm) 長径×短径				
157	56-84	96	2	9	8	4	3	5	
158	56-85	49		15	14	4	4	28	土器×5
159	56-86	01·11		33	26	10	10	18	土器×4 刺片×3 磨×2
160	56-86	17		34	22	11	9	15	
161	56-86	19		24	22	11	10	21	土器×3 刺片×4
162	56-86	20		34	30	13	10	34	土器×2 刺片×7 磨×2
163	56-86	28		27	22	9	6	28	刺片×1
164	56-86	37		40	29	12	9	23	
165	56-86	37	2	25	23	8	8	32	土器×2 刺片×20 磨×5
166	56-86	39	1	23	21	13	11	30	土器×8 刺片×5 磨×1
167	56-86	39	2	17	16	9	8	15	
168	56-86	44		68	44	14	13	31	土器×1 刺片×395 磨×2
169	56-86	46		24	23	9	5	25	土器×1
170	56-86	52		30	28	13	10	26	磨×1
171	56-86	57	1	31	27	12	10	26	
172	56-86	57	2	27	18	7	4	25	
173	56-86	61		18	18	9	8	9	
174	56-86	64	1	32	29	10	9	32	
175	56-86	64	2	11	10	4	4	10	
176	56-86	67		14	13	6	5	14	
177	56-86	72		21	16	8	5	12	
178	56-86	73		15	14	8	7	12	
179	56-86	74		21	16	6	3	8	
180	56-86	76·66		29	(24)	8	7	13	
181	56-86	85		22	20	8	7	25	
182	56-86	9		7	7	4	4	8	
183	56-86	97		17	16	6	5	25	刺片×3
184	56-86	98		10	10	6	6	5	
185	56-86	99		19	17	7	7	16	土器×1
186	56-87	01		41	37	15	12	45	土器×1 石器×3 刺片×5
187	56-87	02		9	9	2	2	35	
188	56-87	03		12	10	2	2	16	刺片×1
189	56-87	21		20	18	10	9	15	土器×1 刺片×1
190	57-84	04		16	13	7	7	14	
191	57-84	05	1	12	12	5	4	10	
192	57-84	05	2	10	10	4	4	11	
193	57-84	05·06		10	9	6	5	6	
194	57-84	06		9	8	8	(7.5)	11	
195	57-84	06·07		11	10	3	3	10	
196	57-84	15		16	14	6	5	17	
197	57-84	17		13	13	5	4	10	
198	57-84	28		17	15	7	6	11	
199	57-84	38		8	8	3	3	4	磨×1
200	57-84	58		11	10	3	2	14	
201	57-84	65		10	9	7	6	10	
202	57-84	66		10	9	5	4	20	
203	57-84	79		11	10	6	5	20	土器×1 磨×2
204	57-84	84		12	11	7	6	10	
205	57-84	86·87		15	14	(7)	7	13	
206	57-84	88	1	9	9	4	3	27	
207	57-84	88	2	13	12	6	5	15	
208	57-84	96		14	13	4	4	12	

小ピット・柱穴一覧表(5)

番号	位 置 グリッド	百分割 No.	確認面(cm) 長径×短径	底面(cm) 長径×短径	深 さ (cm)	出 土 遺 物
209	57-84	99	9	9	4	4
210	57-85	01	20	16	10	9
211	57-85	10	12	10	7	7
212	57-85	24	1 6	6	3	2
213	57-85	24	2 14	13	7	5
214	57-85	37	7	5	3	2
215	57-85	47	1 9	8	4	3
216	57-85	47	2 20	20	9	9
217	57-85	48・49	11	8	4	3
218	57-85	54	11	9	5	5
219	57-85	55	12	11	5	5
220	57-85	59	9	9	4	3
221	57-85	65	13	13	5	4
222	57-85	66	15	13	5	4
223	57-85	68	12	10	5	4
224	57-85	70	13	12	(11)	10
225	57-85	72	17	16	12	9
226	57-85	83	7	7	4	3
227	57-85	87	1 11	11	5	(4)
228	57-85	87	2 12	10	6	5
229	57-85	88	13	12	7	6
230	57-85	90	6	6	3	3
231	57-85	92	20	18	11	10
232	57-85	93	6	5	3	3
233	57-85	95	7	6	2	2
234	57-86	05	9	7	2	2
235	57-86	07	6	5	(2)	9
236	57-86	08	10	10	2	2
237	57-86	10	15	14	8	8
238	57-86	11	8	7	2	2
239	57-86	15	1 25	22	14	13
240	57-86	15	2 10	8	7	5
241	57-86	16	1 8	8	(2)	4
242	57-86	16	2 11	10	8	7
243	57-86	16	3 12	11	4	3
244	57-86	23・33	5	5	(3)	15
245	57-86	24・34	15	14	11	11
246	57-86	35	1 22	20	12	11
247	57-86	35	2 9	8	3	3
248	57-86	35	3 7	7	(2)	7
249	57-86	36	18	17	11	11
250	57-86	41	15	14	7	6
251	57-86	43	14	12	7	6
252	57-86	44	1 13	12	6	5
253	57-86	44	2 8	7	5	4
254	57-86	45	14	13	6	6
255	57-86	53	12	11	7	5
256	57-86	61	13	11	9	8
257	57-86	70	15	13	12	11
258	57-86	81	49	30	22	20
259	57-87	61	10	9	3	2
260	58-81	68	1 19	16	8	7
						11

小ピット・柱穴一覧表(6)

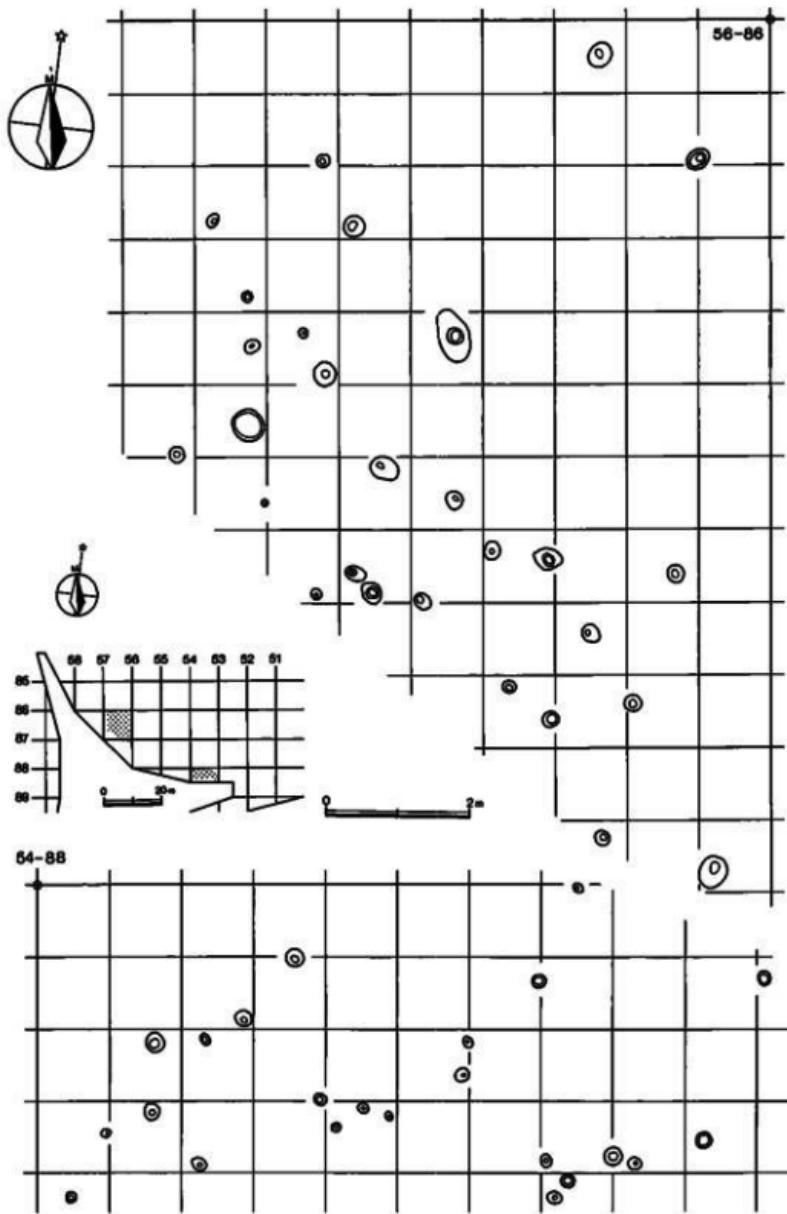
番号	位 グリッド	百分割	No.	縦断面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ (cm)	出土遺物
261	58-81	68	2	14	14	7	7	14	
262	58-81	78		9	9	6	5	13	
263	58-82	42		17	16	10	9	11	
264	58-82	54		15	14	8	8	9	
265	58-82	58		19	17	10	10	14	
266	58-82	86		14	13	9	7	32	
267	58-82	90		21	19	16	13	11	
268	58-83	53		18	16	11	9	8	
269	58-83	61		20	19	11	10	11	
270	58-84	04		8	8	4	3	5	
271	58-84	06・07		11	10	5	3	11	
272	58-84	09		10	10	8	6	11	
273	58-84	17		19	14			20	
274	58-84	23・24		18	17	8	6	7	石斧×1
275	58-84	29		14	13	(5)	(5)	6	
276	58-84	34		10	10	(8)		6	
277	58-84	36		16	14	6	5	8	
278	58-84	43		10	8	5	4	30	
279	58-84	48	1	19	16	8	8	10	
280	58-84	48	2	12	10	2	2	33	
281	58-84	49		11	10	7	6	15	
282	58-84	54		14	4	5	4	18	
283	58-84	56	1	8	7	3	3	5	
284	58-84	56	2	7	7	(5)	(5)	13	
285	58-84	57		8	7	3	2	9	
286	58-84	61・51		9	8	3	3	12	
287	58-84	61・62		6	6	(1)		10	砥石×1 剥片×1
288	58-84	63		10	9	3	2	16	
289	58-84	66		17	16	(10)	(8.5)	27	土器×1
290	58-84	71		9	8	5	4	6	
291	58-84	90	1	8	8	3	2	15	
292	58-84	90	2	7	6	2	2	13	
293	58-84	90	3	21	19	16	15	9	
294	58-85	01		8	7	4	4	6	
295	58-85	07		20	18	10	9	24	土器×2
296	58-85	09		9	9	2	2	6	
297	58-85	12		17	17	13	12	5	
298	58-85	20	1	12	11	10	8	7	
299	58-85	20	2	15	14	(5)	5	26	
300	58-85	21		15	13	8	7	12	剥片×1
301	58-85	23		11	10	8	6	14	
302	58-85	32・31	1	(25)	(23)	8	8	30	
303	58-90	90	1	18	14			30	
304	58-90	90	2	9	8			8	
305	58-90	91	1	16	15			12	
306	58-90	91	2	9	8			10	
307	58-90	93	1	18	17			17	
308	58-90	93	2	12	11			25	
309	59-82	02		24	22	14	12	19	
310	59-82	07		12	11	6	6	20	土器×1
311	59-82	27		16	15	9	8	15	土器×2
312	59-83	42		10	10	4	4	10	

小ピット・柱穴一覧表(7)

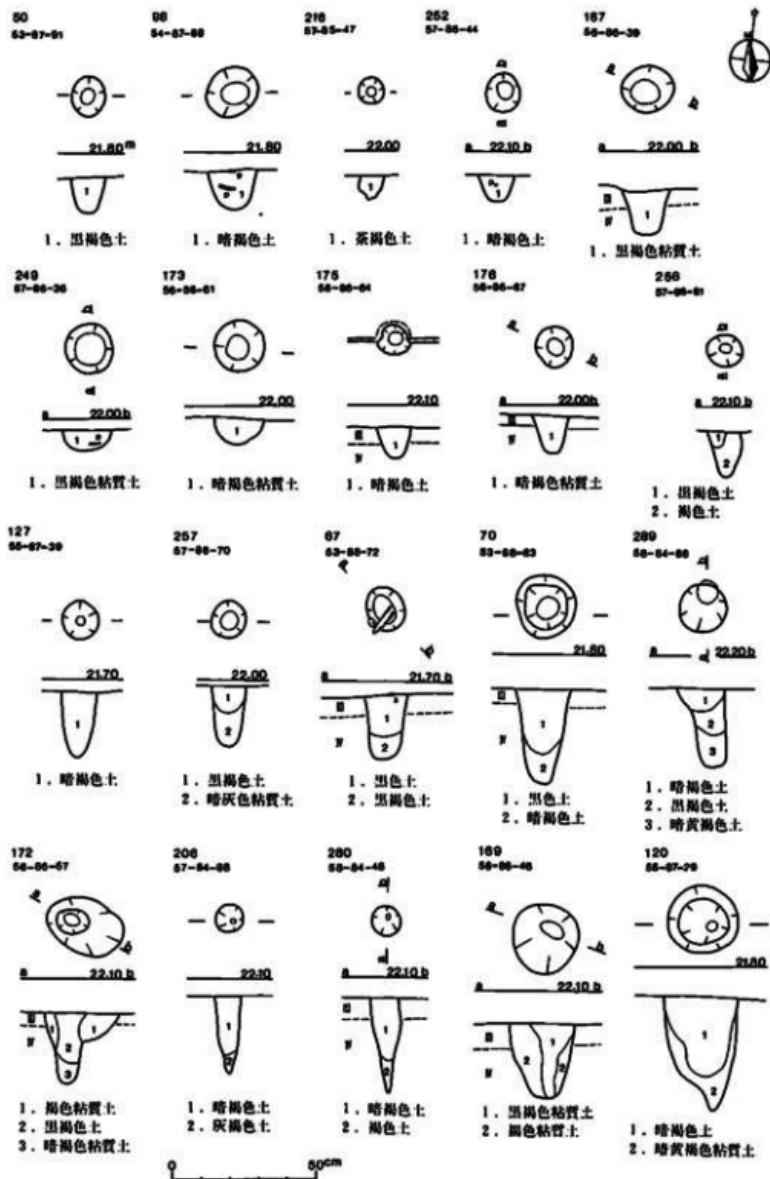
番号	位 グリッド	百分割	面 N _o	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径		深さ (cm)	出土遺物
				27	25	18	17		
313	59-83	94						6	
314	59-89	19		22	13			4	
315	59-89	29	1	14	13			13	
316	59-89	29	2	13	11			9	
317	59-89	39	1	16	16			5	
318	59-89	39	2	18	18			4	
319	59-89	39	3	17	15			10	
320	59-89	49		20	16			6	
321	59-89	79		25	20			23	
322	59-89	89		11	10			7	
323	59-90	00		18	14			8	
324	59-90	01	1	12	10			6	
325	59-90	01	2	9	8			10	
326	59-90	01	3	12	11			15	
327	59-90	02	1	14	12			16	
328	59-90	02	2	8	8			6	
329	59-90	02	3	10	9			17	
330	59-90	02	4	22	21			13	
331	59-90	03	1	12	12			10	
332	59-90	03	2	12	10			12	
333	59-90	05-15		20	18			15	
334	59-90	10	1	18	14			12	
335	59-90	10	2	12	11			7	
336	59-90	11		13	12			10	
337	59-90	12		15	14			12	
338	59-90	13		12	10			9	
339	59-90	14		29	21			23	
340	59-90	16	1	12	10			8	
341	59-90	16	2	34	29			15	
342	59-90	17		13	12			17	
343	59-90	20-30		25	16			13	
344	59-90	21	1	18	13			17	
345	59-90	21	2	9	8			12	
346	59-90	22	1	13	12			6	
347	59-90	22	2	12	10			9	
348	59-90	23		16	13			12	
349	59-90	25	1	9	8			8	
350	59-90	25	2	30	20			30	
351	59-90	26		40	11			14	
352	59-90	30	1	18	16			10	
353	59-90	30	2	19	15			6	
354	59-90	30	3	17	14			10	
355	59-90	31	1	22	21			8	
356	59-90	31	2	12	11			6	
357	59-90	31	3	20	18			5	
358	59-90	32		14	13			8	
359	59-90	32-42		14	12			5	
360	59-90	33		16	14			10	
361	59-90	40	1	21	18			8	
362	59-90	40	2	17	15			4	
363	59-90	40	3	18	17			19	
364	59-90	40	4	16	16			10	

小ピット・柱穴一覧表(8)

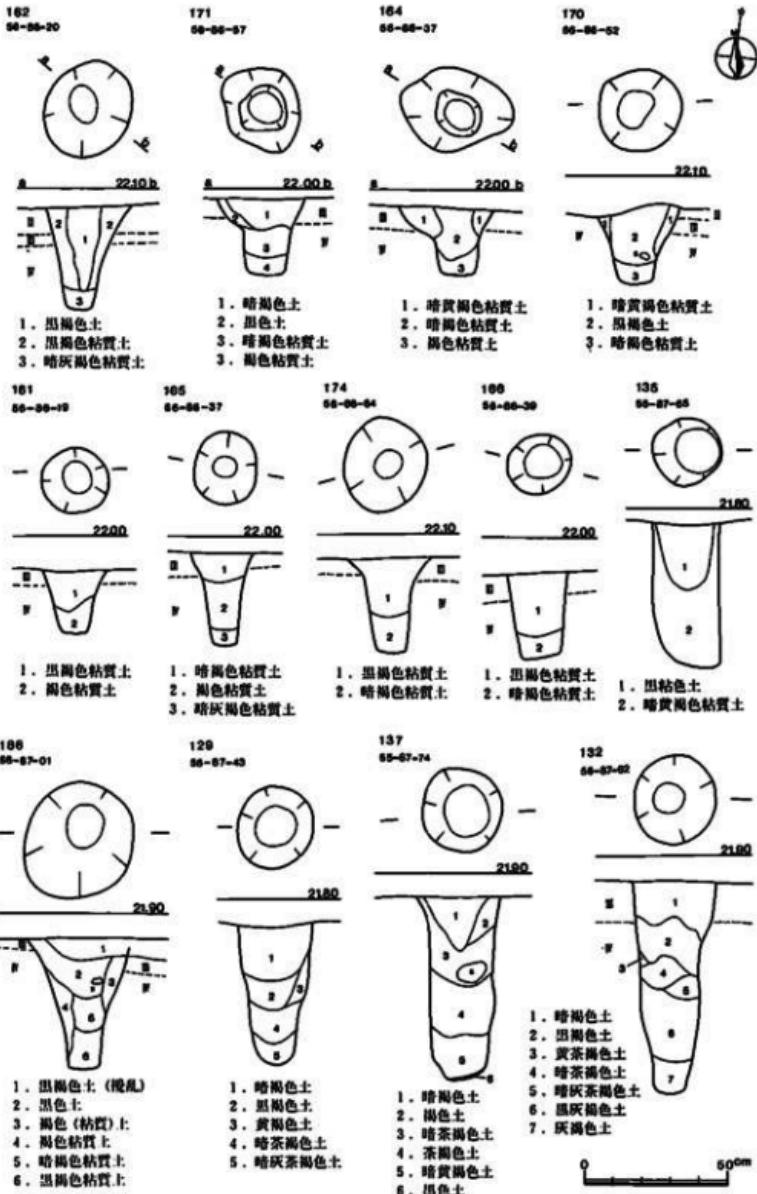
番号	位 グリッド	面 百分割	Na	確認面(cm) 長径×短径		底面(cm) 長径×短径	深さ (cm)	出土遺物
365	59-90	40·41		21	21		12	
366	59-90	41	1	16	15		10	
367	59-90	41	2	17	15		11	
368	59-90	42·52		16	15		20	
369	59-90	64	1	16	15		10	
370	59-90	64	2	16	13		10	
371	59-90	64	3	11	10		16	
372	59-90	65	1	32	26		20	
373	59-90	65	2	11	9		30	
374	59-90	65	3	22	18		14	
375	59-90	70	1	11	10		23	
376	59-90	70	2	12	12		6	
377	59-90	72		13	12		13	
378	59-90	73		14	12		18	
379	59-90	74		15	13		14	
380	59-90	75		10	8		15	
381	59-90	80		15	14		20	
382	59-90	82		14	13		32	
383	59-90	83		13	12		7	
384	59-90	91	1	14	13		11	
385	59-90	91	2	16	14		10	
386	59-90	92		12	12		6	
387	59-90	93	1	26	24		12	
388	59-90	93	2	38	29		45	
389	60-83	04		21	19	7	6	11
390	60-89	09		22	20			27
391	60-89	19		21	18			10
392	60-90	03		16	14			14
393	60-90	04		16	16			10
394	60-90	05		44	32			55
395	60-90	15		24	20			33
396	60-90	34		18	14			14
397	60-91	01		(15)	(12)			40
398	60-91	11		(26)	(25)			63
399	60-91	22		(15)	(14)			10
400	60-91	30		(12)	(10)			31
401	60-91	32		57	38		20	土器×3 刺片×17
402	60-91	43		40	39		4	土器×1
403	60-91	51		(22)	(21)			6
404	66-67	82		19	18			8
405	66-67	83		23	18			5
406	67-66	25·35		20	20			16
407	67-66	47		8	7			9
408	67-66	48		22	21			7
409	67-67	32		12	11			11



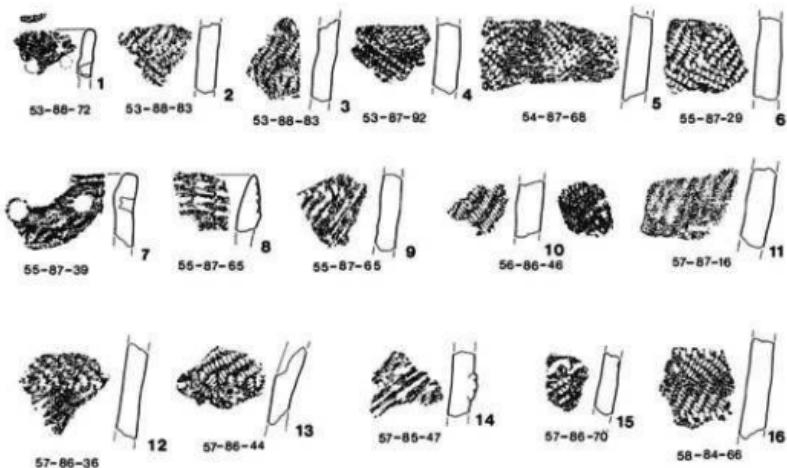
小ピット・柱穴配列図



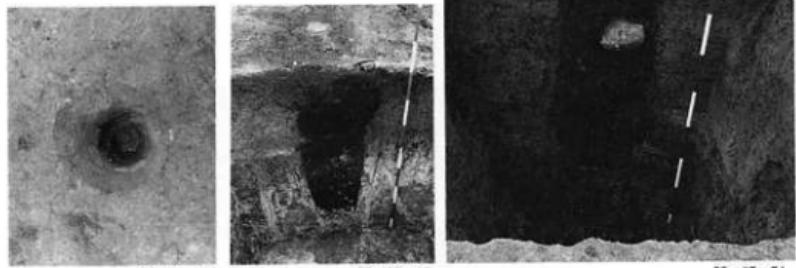
小ピット・柱穴(1)



小ピット・柱穴 (2)



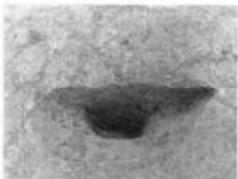
0 5 10 cm



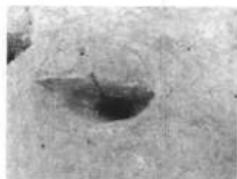
小ピット・柱穴



小ピット配列



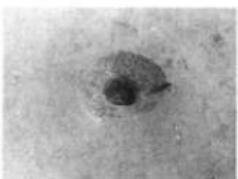
56-86-37 No.1



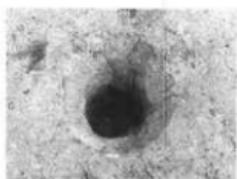
55-86-67



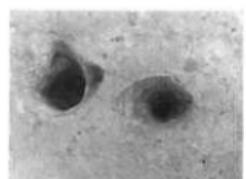
53-88-92 No.1



56-86-37 No.1



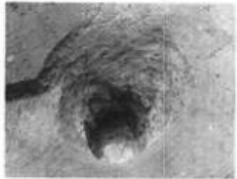
56-86-64



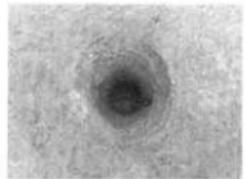
56-86-57 No.2



56-86-19



56-87-01 No.1



56-86-37 No.2

小ピット・柱穴

9. フレイク・チップ集中

黒曜石を素材とするフレイク・チップの集中は47ヵ所がⅡ層中から検出された。総て調査区の南半部に位置し、大半が北西から南東側へ帯状に分布する。

このほか、Ⅰ層中に黒曜石のフレイク・チップが多量に出土した地区が約300m²検出されている。これらの地区は調査区の中央部から東側に分布し、耕作によりⅡ層が殆ど残存しないところである。Ⅱ層中にあったフレイク・チップ集中が耕作で広がったものと推定される。

フレイク・チップ集中の平面形は円形から梢円形を呈し、大きさは約0.2~2mとばらつきがある。層厚は凡そ10cm前後であり、断面観察では人為的な掘込みは認められなかった。

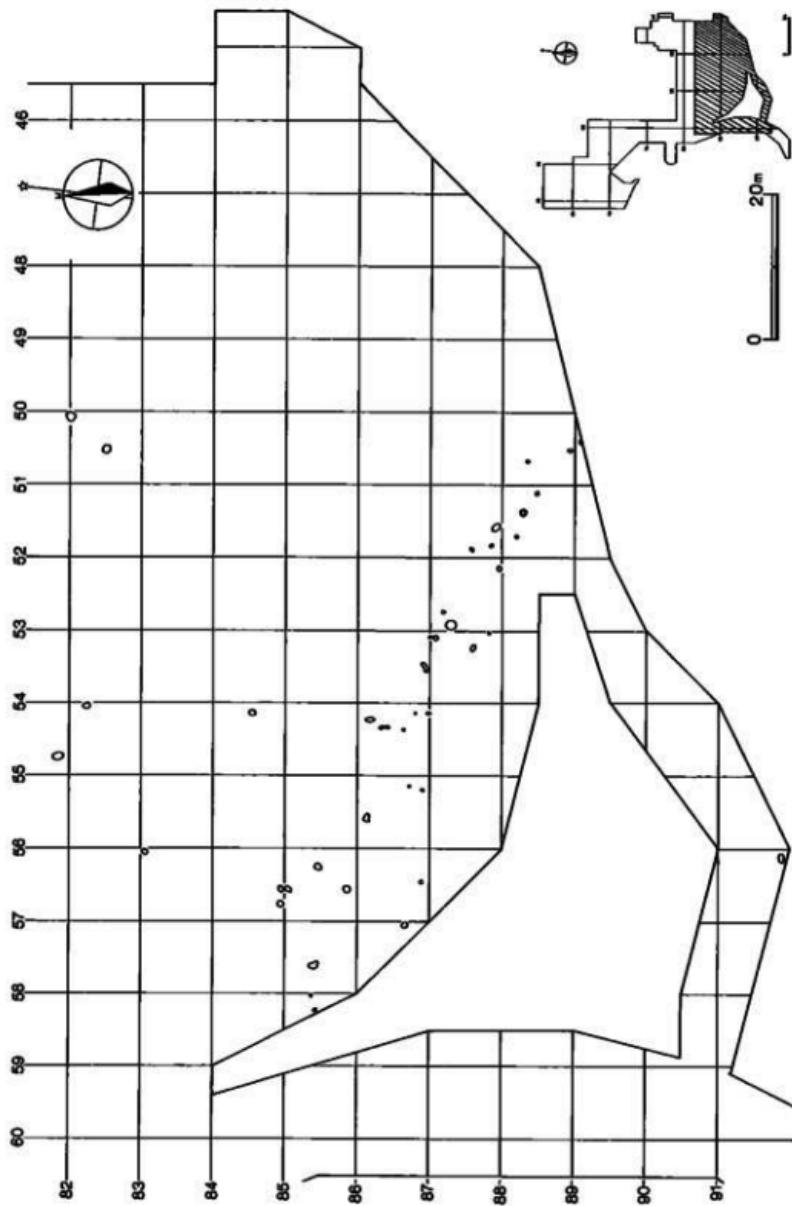
一覧表中の遺物の欄が空白の所は、平面的な範囲は押えてあるが手違いにより遺物の集計が出来なかった。集計できたところについて、各々の集中で出土したフレイク・チップは大きさ(平均重量0.1~1.5g)や量(75~15,000点)に差異があり、簡単な分類を試みた。

平均重量が0.2g以下で数量が2,000点以下(一覧表番号3・9~12・14・19・24~26・30・31・40・42・45・47)と以上(一覧表番号5~7・13・15・32・33・39・41・43)、平均重量が0.3g以上で数量が2,000点以下(一覧表番号1・4・18・27・28・44)と以上(一覧表番号16・34・36・37)、平均重量が1.5gあり数量の少ないものの5タイプに分類できる。この中で平均重量が0.3以上で数量の少ないものはその場で石器の制作が行われていたと推定され得る。また、多量に出土したところは一括して廃棄された可能性が考えられる。この中には加工途中のものが含まれている。フレイク・チップ集中の形成された時期は同一面や周囲の出土遺物などから縄文中期後半と考えられる。また、泥岩・片岩などのフレイク・チップがⅠ層から多量に出土しているが、まとまった出土例はなかった。

256頁に図示したもの(一覧表番号7・8)は石器の制作が行われたと推定される51~87区のフレイク・チップ集中である。約3.5m離れて東と西に2ヵ所ある。東側からは約5,000点のフレイク・チップが出土したが大半はチップである。そこから東側の径2mの範囲の同一面に、たたき石や礫が出土している。西側からは83点のフレイク・チップがA・B・C・D40cm四方の枠内に出土している。このなかには、接合資料1と同一母岩のフレイク・チップと3つの別な母岩から剝離したフレイク・チップがある。出土した遺物のうち、図示した2点にふれる。

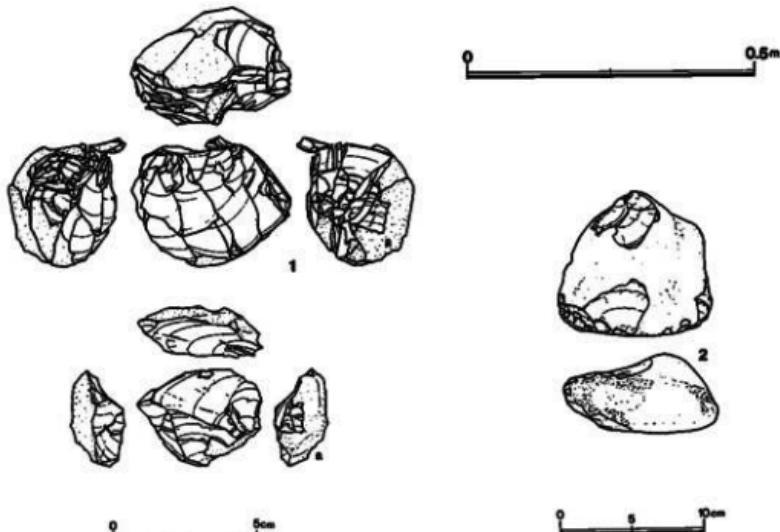
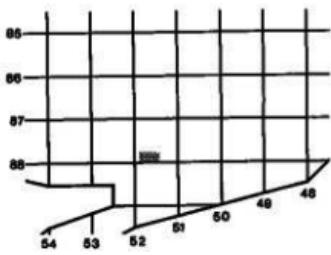
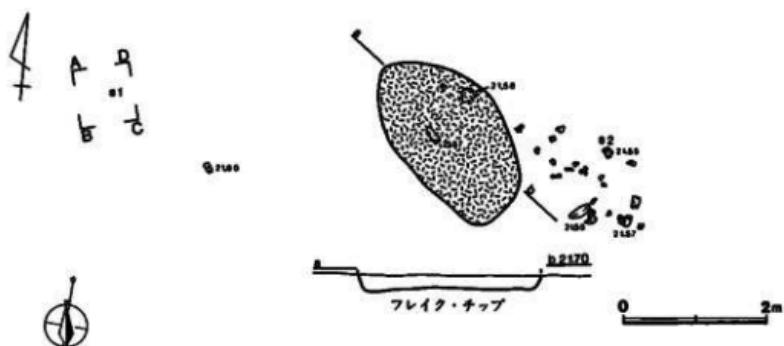
1は亜円礫を用いた同一母岩と思われる約60点のフレイク・チップの内、21点が接合したものである。接合時の大きさは、縦4cm、幅5.4cm、厚さ3.5cm、重さは75.6gを測る。他に図示したものには直接接合しなかったが、3点の縦長剝片が接合している。この3点を含め図の上方を打面に縦長剝片を生産しているようであるが出土していない。次に図の正面左側の縦長剝片4枚を上方から剝離している。右側も同様に5枚取っているが1枚は出土していない。さらに、中央部を取っているがこれも出土していない。その後、打面を右側に転移している。最後にaは礫表皮の残る残核である。2はフレイク・チップ集中の東側約1.2mの同一面で検出された、たたき石である。扁平な砂岩を素材に、大きさは縦10cm、幅10.4cm、厚さ5.1cm、重さ667gを測る。縁辺部に叩き痕がみられ、両面に剝離痕が残っている。

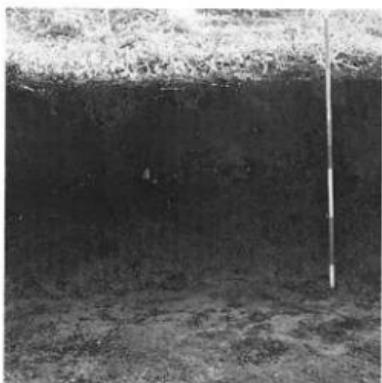
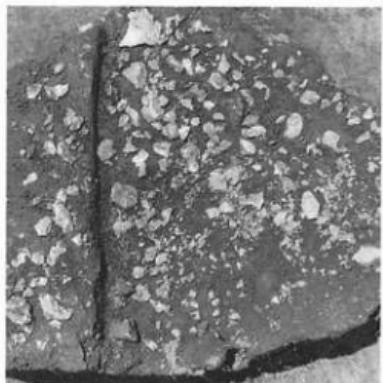
フレイク・チップ集中位置図



フレイク・チップ集中一覧表

番号	位置	百分割	平面形	長径×短径 (cm)	風 面 石 数 量	平均 重量(g)	その他の遺物
1	50-82	00-01	楕円形	186 82	1376	449.8	0.3
2	50-82	45-54-55	楕円形	120 80		-	
3	50-88	59	不整形	50 40	1627	125.8	0.1 Mud-Sch. 刻片×10
4	50-88	63	楕円形	55 30	128	62.6	0.5 土器×1 Mud-Sch. 刻片×1
5	50-89	30-40	円形	65 40	3407	612.8	0.2 土器×7 石斧×1 Mud-Sch. 刻片×524 磨石×2
6	51-87	58-59-68	楕円形	123 53	14588	1535.2	0.1 土器×6 ポイント・ナイフ×4 石斧×1 Mud-Sch. 刻片×34 磨石×1
7	51-87	85-86	不整形	54 53	3983	241.7	0.1 土器×3 ナイフ・ポイント×1 U-Rフレイク×4 Mud-Sch. 刻片×4
8	51-87	88	円形	115 95	84	124.5	1.5 土器×1 U-Rフレイク×1 Mud-Sch. 刻片×1
9	51-88	04-14	不整形	135 116	801	194.1	0.2 土器×7 Mud-Sch. 刻片×9
10	51-88	25-26	円形	24 21	806	159.4	0.2 ナイフ・ポイント×1 Mud-Sch. 刻片×4
11	51-88	33	不整形	85 80	1057	223.2	0.2 土器×24 U-Rフレイク×4 Mud-Sch. 刻片×6
12	51-88	42-43	楕円形	90 78	1060	247.8	0.2
13	52-87	19	不整形	85 75	6890	574.1	0.1 土器×16 ナイフ・ポイント×1 Mud-Sch. 刻片×36
14	52-87	71-72	円形	85 72	397	37.2	0.1 土器×8 Mud-Sch. 刻片×2
15	52-87	84-94	円形	120 85	3787	478.7	0.1 土器×18 U-Rフレイク×6 Mud-Sch. 刻片×12
16	53-86	48-49-59	不整形	184 134	2254	1224.1	0.5
17	53-87	00-01-10-11	卵形	70 60	951	162.0	0.2
18	53-87	08	円形	50 45	75	45.7	0.6 U-Rフレイク×1 Mud-Sch. 刻片×1
19	53-87	26	不整形	95 45	664	95.2	0.1 U-Rフレイク×1
20	54-81	78-79	楕円形	149 98			
21	54-82	02	楕円形	103 85			
22	54-84	15	円形	85 80			
23	54-86	17-18	不整形	170 25			土器×2
24	54-86	21-22	不整形	76 32	1221	203.8	0.2 土器×4 U-Rフレイク×2 Mud-Sch. 刻片×2
25	54-86	33	不整形	60 18	519	62.8	0.1 土器×1 U-Rフレイク×1 Mud-Sch. 刻片×2
26	54-86	34	円形	18 16	102	19.0	0.2 土器×1 Mud-Sch. 刻片×2
27	54-86	36	円形	15 15	125	75.6	0.6
28	54-86-87	10-19	不整形	52 50	308	88.9	0.3 ポイント・ナイフ×2 石斧×1 U-Rフレイク×1
29	54-87	41	楕円形	48 35			
30	55-91	98	円形	26 20	723	62.5	0.1 土器×5 磨石×1 Mud-Sch. 刻片×93
31	55-86	17	楕円形	30 20	1683	28.3	0.0 土器×1 Mud-Sch. 刻片×7
32	55-86	19-29	楕円形	45 20	5121	760.2	0.1 土器×4 ドリル×1 Mud-Sch. 刻片×389
33	55-86	51-61	不整形	135 80	6481	816.1	0.1 土器×54 U-Rフレイク×9 Mud-Sch. 刻片×114
34	56-84	79	円形	28 26	6002	1979.3	0.3
35	56-84	59	円形	81 75			
36	56-85	24	円形	43 36	3327	1662.9	0.5
37	56-85	50	円形	28 23	4786	2663.2	0.6
38	56-85	59	円形	100 96			
39	56-91	18-19	不整形	95 52	5225	286.7	0.1 土器×19 磨石×1 Mud-Sch. 刻片×110
40	56-91	22-23	不整形	40 30	500	49.4	0.1 土器×3 Mud-Sch. 刻片×12
41	56-83	00	楕円形	120 100	2130	38.5	0.0
42	56-86	48-49	円形	20 15	234	29.3	0.1 土器×1 Mud-Sch. 刻片×1
43	57-85	53-54-63-64	不整形	125 85	15083	1794.4	0.1 土器×126 石斧×1 U-Rフレイク×10 Mud-Sch. 刻片×305 磨石×1
44	57-86	06-07	楕円形	84 63	810	314.3	0.4 土器×40 U-Rフレイク×4 Mud-Sch. 刻片×12
45	58-84	61-52-71-72-80	不整形	190 220	497	30.7	0.1 土器×13 Mud-Sch. 刻片×3
46	58-85	03	楕円形	30 15			土器×3
47	58-85	23	不整形	70 35	1361	254.7	0.2 土器×17 U-Rフレイク×2 Mud-Sch. 刻片×9





10. 焼土

本遺跡から総面積約786m²に及ぶ焼土が検出された。焼土は調査区の南半部に多くみられ、平坦面及び傾斜面に分布が認められた。平坦面においては、北西から南東に帯状に数列にわたって分布し、傾斜面では谷地形に沿って流れ込むような分布状態がみられる。層位的には、262頁の断面図に示すように、焼土は黒色土（Ⅱ層）中に存在し、上からやや粒状の黒色土（Ⅱa層）、淡赤褐色土（Ⅱb層上部）、明赤褐色土（Ⅱb層下部）、暗灰褐色土（Ⅱc層）になる。Ⅱb層下部からⅡc層は漸移する。焼土中には細かい炭化物を少量含んでいる。遺物は焼土の上部に多く、下部は少なくなる。遺物の大部分が縄文中期後半のものであることから明確な根拠はないが、焼土の形成年代も、ほぼこの時期に求められるものと推定している。

検出された焼土については一覧表の記載を、鉱物組成などからみた土壤学的侧面については後章の「明褐色土について」を参照されたい。

焼土中に見出された土器については、266頁に代表的な例を図示し、以下に簡単に説明する。全般にⅢ群b-3類に属する破片が多く、摩耗の進んだものが少くない。熱を受けて、淡灰色がちに色調が変化したと推定される例も見受けられるが、確認はない。

1~5は、58-84-b区に分布する焼土から得られたもので、1は弁状突起に貼付文が付加されたⅢ群a類、2は燃糸文のみられるⅣ群a類、3~5はⅢ群b-3類の破片である。

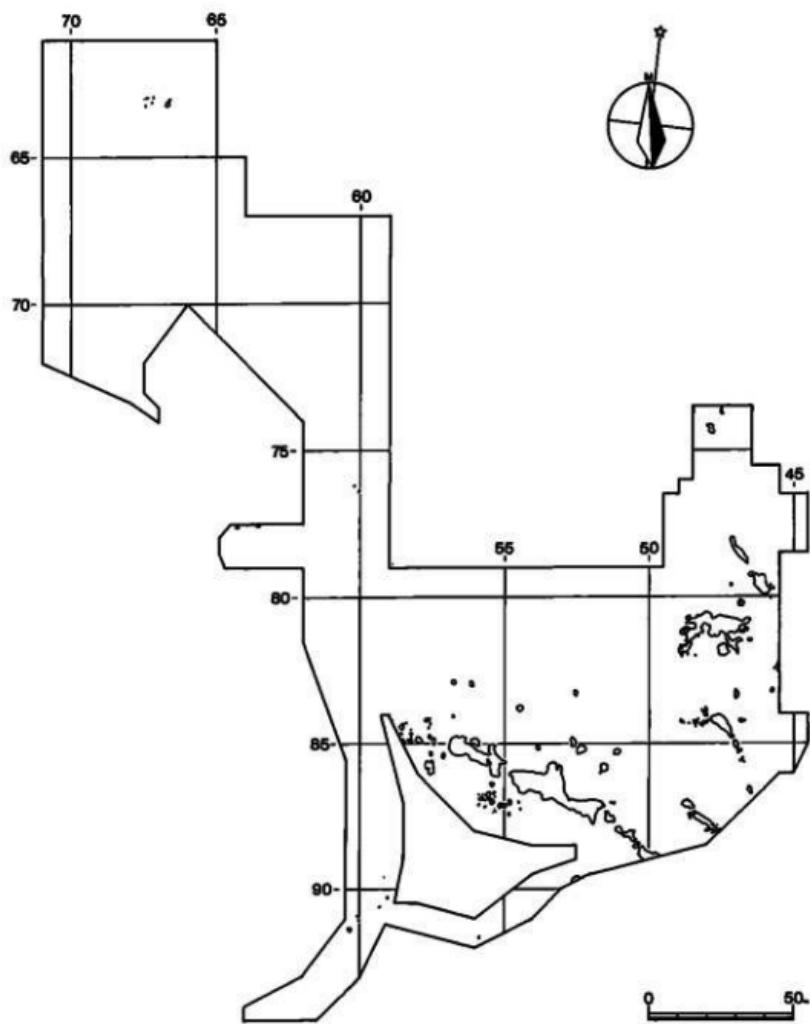
6~8は、57-84-b区の焼土から出土したⅣ群a類土器。1には2条の、2には1条の縄文があり、ともに口唇や裏面にも縄文がみられる。8の地文は結束第一種のある羽状縄文。

9~21は、57-85-b区F-31出土のもの。9は貼付帯と燃糸压痕文がみられるⅢ群a類。10~21はⅢ群b-3類の破片で、10・11は縄文の施された肥厚帯がある口縁で、12・13には押引文が加えられ、14ではさらに斜位の貼付帯が付加されている。15は肥厚のみられない口縁片。16・17は表裏に縄文が施され、18には綾結文がある。19は結束第一種のある羽状縄文が縦位に回転押捺されたもの。16・17・19・20・21など、結束第一種羽状縄文を地文とするものが多い。

22・23は55-86-c・d区に分布するF-44から検出されたⅢ群b-3類土器。22は小さめの円形刺突文列と押引文をもち、23は円形刺突文と肥厚帯上に長く引いた押引文をもつ口縁片。

24~33は51-53-87区一带に分布する焼土から採集されたⅢ群b-3類である。24~27は、円形刺突文と押引文を有する口縁片。他は胴部の破片で、29には綾結文が施され、30には結び目から先がほつれた縄端部の伴走がみられる。31は結束第二種を、32は結束第一種をもつ羽状縄文のあるもの。33の縄文は、結束第二種のある單節羽状縄文原体の結束部以外の燃りがとけた状態の回転押捺痕かと推測される。

34~41は47-84区の斜面に流れ込んだ焼土F-16から検出された土器である。34~38はⅢ群b-3類に属すると思われる胴部片で、34には結束第一種のある羽状縄文が表裏に施され、35の器面には綾結文らしいものが残されている。36には単節の、37には無節の斜行縄文が施文されているようだが、摩耗のため不明瞭である。38はやや薄手の吊耳部の破片で、径5mm程の穴があけられている。39~42はⅥ群土器の破片で、39・40には浅い沈線文様がみられる。41は摩



燒土分布圖

耗の進んだ小片。42は底径3.8cmの小さめの揚底片である。統繩文時代の遺物の混在は、焼土が斜面へと二次的に堆積していく時間の幅を考えるうえで、重視されよう。

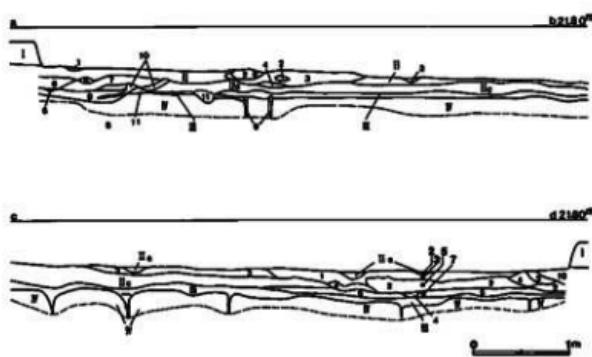
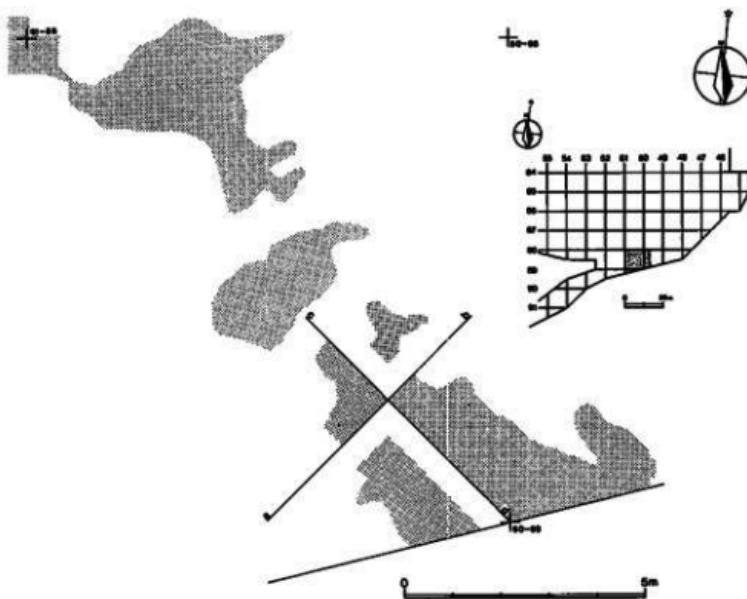
同様に石器は267頁に図示した。石器類で熱を受けたと考えられる変質・変色したものは少ない。図示したものでは6と11が焼けている。1~4はポイントまたはナイフ。黒曜石を素材にしている。1・2は有茎のものである。重さは7.1g、2は6.6g。3は菱型のもの。重さは5.6g。4は狭長なもので、重さは23.6g。5・6はつまみ付ナイフである。5は横型のものである。素材は珪質頁岩で、重さは2.7g。6は縦型のものである。素材はめのうで、重さは10.6g。7~9は石斧。打ち欠きと研磨により製成形している。8の素材は片岩で、他は泥岩である。重さは7が65.6g、8が28.3g、9が46.5gである。10は砥石の破片。両面を使用し、砂岩を素材にしている。重さは51g。11はくぼみ石。両面と端部にたたき痕がみられる。砂岩を素材にし、重さは184.5g。12は北海道式石冠の破片。玢岩を素材にし、重さは133.8g。13は黒曜石の石核。角礫の原石面が残っている。重さは133.8g。

焼土一覧表(1)

位 置	面 横 平方m	出 土 遺 物
45-79	8.0	
45-82	3.0	
45-83	1.5	
46-78	11.0	
46-79	25.0	Obs. 刃片×1
46-80	12.0	
46-81	13.0	
46-83	2.5	石斧×1 磨×1
46-84	3.0	
46-85	4.0	Obs. 刃片×2
46-86	3.0	
47-73	2.0	土器×1
47-74	0.5	土器×2
47-78	6.0	
47-79	1.0	
47-80	29.0	
47-81	55.0	土器×3 Obs. 刃片×2
47-82	1.0	
47-83	1.5	
47-84	28.0	土器×10 ナイフ・ポイント×1 Obs. 刃片×2 磨×2
47-85	1.0	土器×1
47-87	10.0	土器×41 石斧×2 石皿×1 磨×2
47-88	2.0	スクレイパー×1
48-74	0.5	
48-80	24.0	土器×1 Obs. 刃片×5
48-81	36.0	土器×2
48-82	1.0	
48-83	3.0	
48-84	6.0	
48-86	1.5	土器×1

焼土一覧表(2)

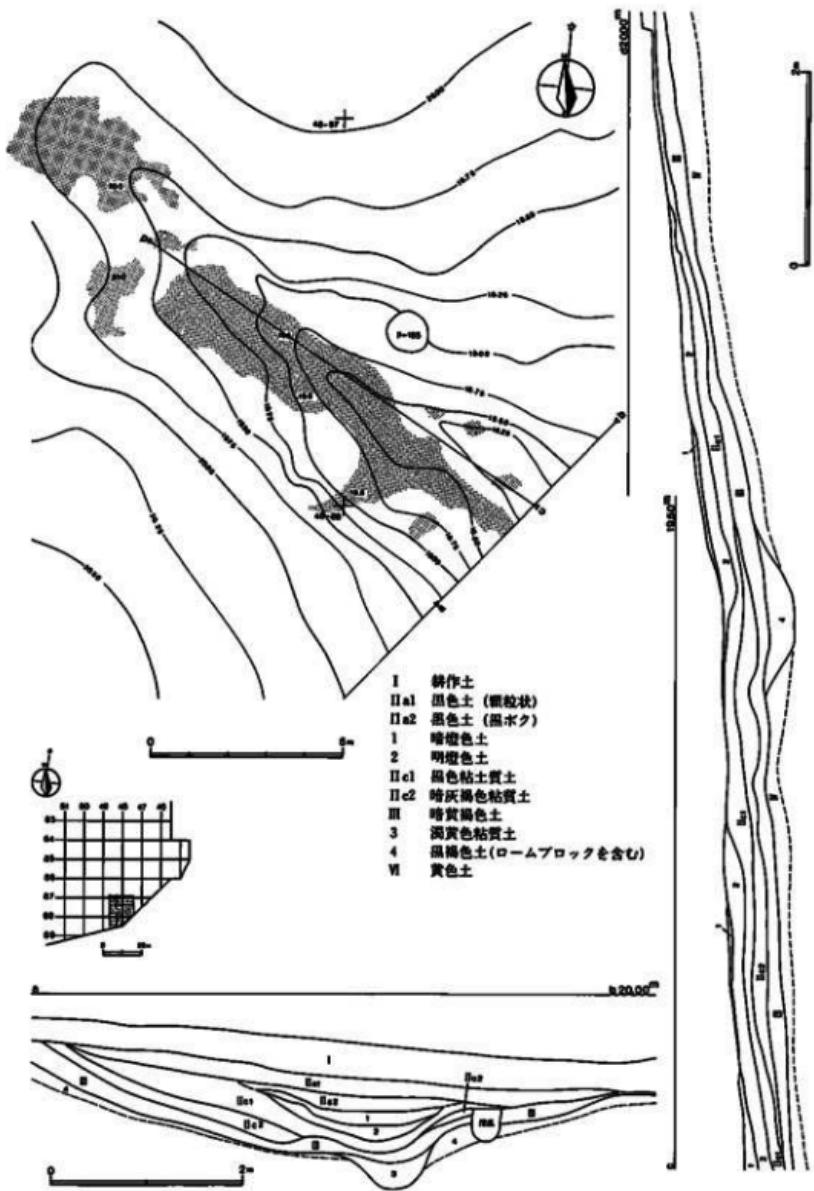
位 置	面 積 平方m	出 土 造 物
48-87	16.0	土器×56 石斧×6 石皿×1 U-Rフレイク×1 Obs.剝片×1 磨石×1 磁×8
49-88	4.0	土器×5 Obs.剝片×3 Mud-Sch.剝片×1
50-81	0.5	
50-82	2.0	
50-87	0.8	土器×4 石斧×1 Obs.剝片×1
50-88	21.0	土器×62 ポイント・ナイフ×1 ドリル×1 スタレイバー×2 磨石×1 Obs.剝片×39 Mud-Sch.剝片×12 磁×5
50-89	1.0	
51-85	11.0	
51-86	3.0	
51-87	30.0	土器×38 ポイント・ナイフ×1 ドリル×1 スタレイバー×2 石斧×3 四石×1 磨石×5 U-Rフレイク×6 Obs.剝片×32 Mud-Sch.剝片×56 磁×17
51-88	3.0	土器×4 Obs.剝片×23
52-83	3.0	
52-84	7.0	
52-85	8.0	
52-86	13.0	
52-87	39.0	土器×71 ポイント・ナイフ×3 ドリル×4 スタレイバー×1 四石×2 磨石×1 U-Rフレイク×10 石核×1 Obs.剝片×208 Mud-Sch.剝片×40 磁×1
52-89	8.0	
53-85	16.0	
53-86	88.0	
53-87	1.0	土器×10 石核×1 磨石×1 Obs.剝片×52 Mud-Sch.剝片×5
54-81	1.5	
54-82	0.7	土器×1 U-Rフレイク×1 Mud-Sch.剝片×2
54-83	3.0	
54-84	0.5	
54-85	4.0	
54-86	43.0	土器×705 石核×3 石斧×3 磨石×1 磨石×5 U-Rフレイク×3 石核×1 Obs.剝片×220 Mud-Sch.剝片×313 磁×1
54-87	4.0	土器×10 石斧×1 U-Rフレイク×2 Obs.剝片×61 Mud-Sch.剝片×4
55-84	1.5	
55-85	45.0	
55-86	9.0	土器×28 ポイント・ナイフ×1 石斧×1 磨石×1 U-Rフレイク×2 Obs.剝片×57 Mud-Sch.剝片×4 磁×7
55-87	6.0	土器×49 磨石×2 U-Rフレイク×2 Obs.剝片×57 Mud-Sch.剝片×18 磁×16
55-91	0.7	
56-82	3.0	土器×20 石斧×1 磨石×1 Obs.剝片×4658 Mud-Sch.剝片×4 磁×10
56-83	0.5	
56-84	14.0	
56-85	40.0	
56-91	0.3	土器×2 Mud-Sch.剝片×3
57-84	9.0	土器×381 石核×1 石斧×1 磨石×1 北海道式石核×2 磨石×1 U-Rフレイク×2 Obs.剝片×159 Mud-Sch.剝片×21 磁×62
57-85	13.0	土器×128 石核×1 石斧×2 四石×1 北海道式石核×1 磨石×1 U-Rフレイク×5 Obs.剝片×109 Mud-Sch.剝片×31 磁×13
58-84	6.0	土器×148 つまみ付ナイフ×2 石斧×1 北海道式石核×2 Obs.剝片×44 Mud-Sch.剝片×12 磁×59
58-90	0.5	土器×4 Obs.剝片×36 Mud-Sch.剝片×2
59-89	0.4	
59-90	0.9	
60-76	1.0	
60-90	0.2	
60-91	2.0	
63-77	1.0	
66-63	3.0	
67-62	1.0	
67-63	0.8	



II	黒色土	6	暗灰黄色土
II a	黒色土(やや粒状)	7	灰黄色土
1	暗赤褐色土	8	暗褐黄褐色土
2	明赤褐色土	9	褐黄褐色土
3	深赤褐色土	10	黑色土(粒状)
4	暗赤褐色土(粒状の赤褐色土を少量含む)	11	暗茶色土
II c	暗灰褐色土		
5	灰黑色土		
III	褐黄褐色土		
IV	黄褐色土		

図2・3・5・7：試料採取位置
(「明褐色上について」参照)

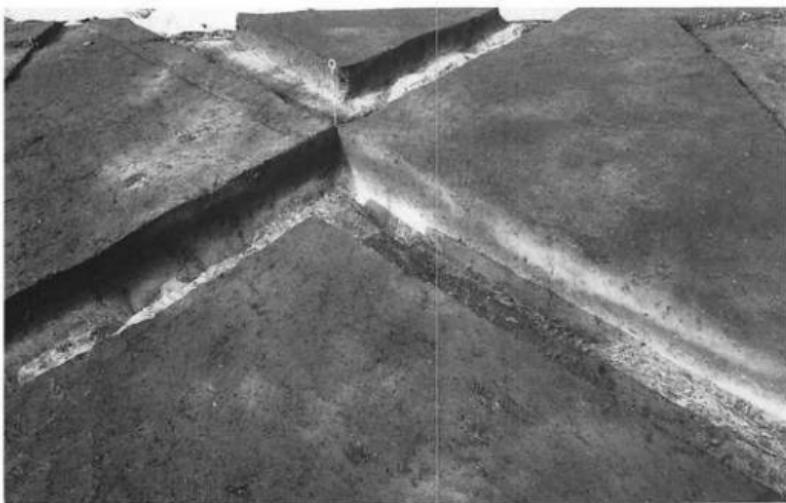
平坦部の焼土



沢の焼土



遺物出土状況



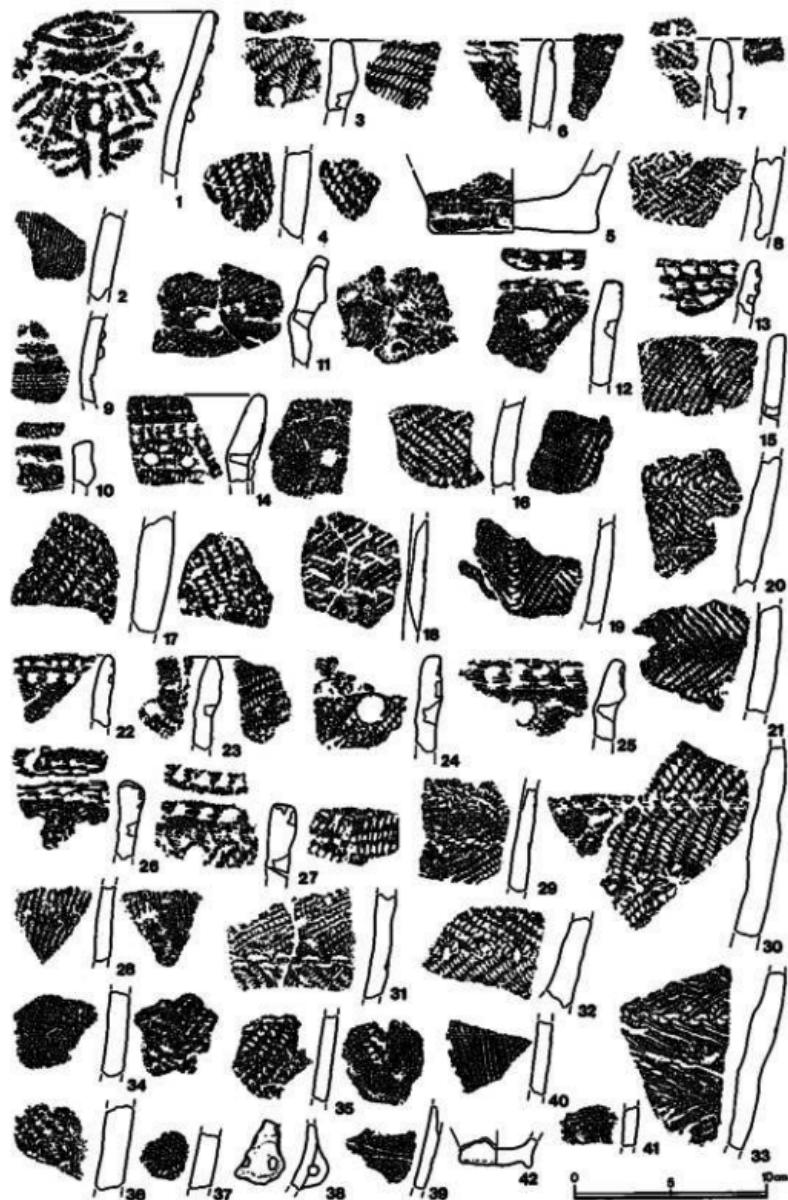
焼土セクション



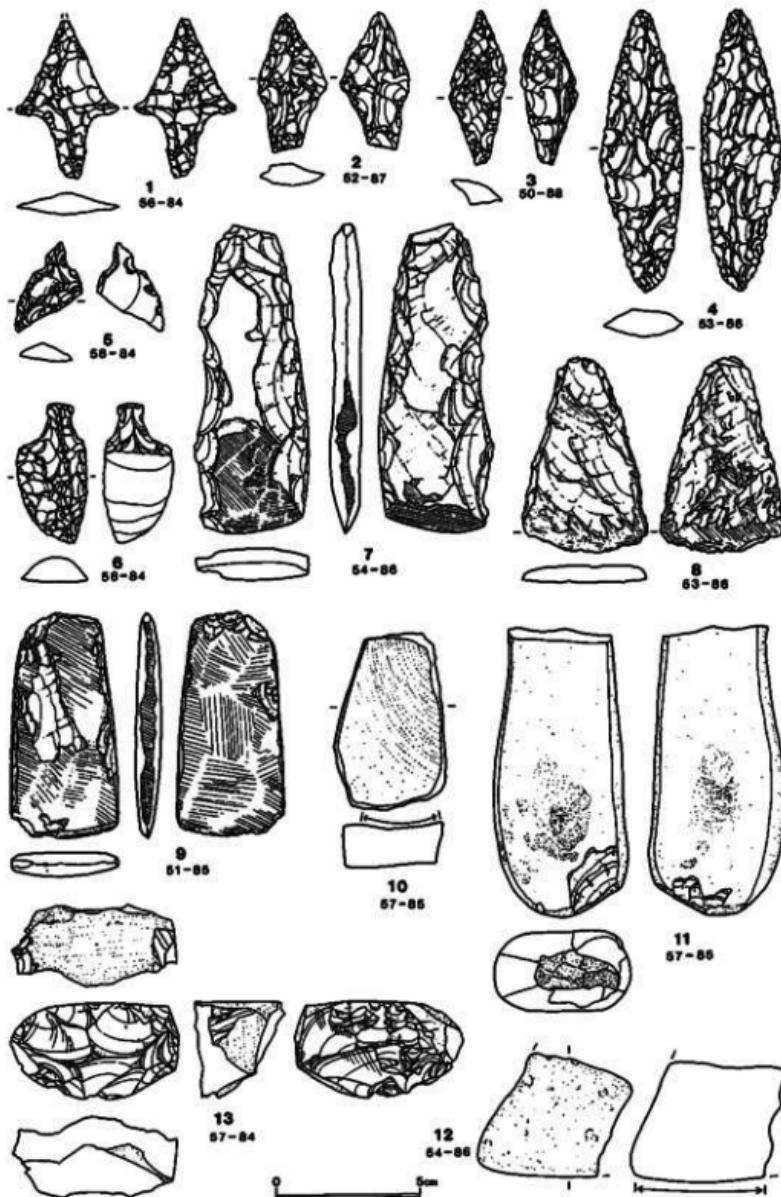
沢の焼土確認面



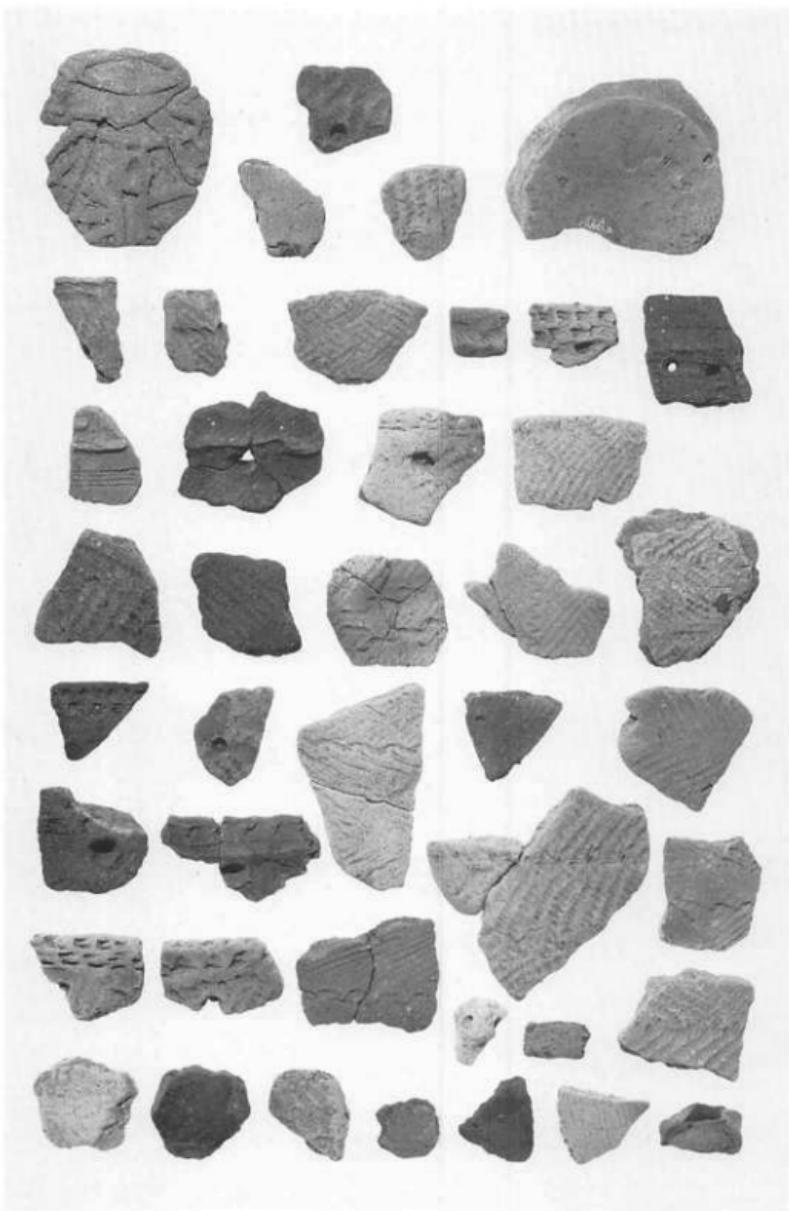
沢の焼土セクション



焼土の出土土器



焼土の出土石器



焼土の出土土器



焼土の出土石器

V 発掘区出土の遺物

1. 土器

7年間の調査を合わせて、造構以外の発掘区からは、100,550点の土器片が検出された。縄文時代早期のI群から統縄文時代のVI群まで各時期の土器がみられるが、80%近くは縄文中期後半のII群b類に属するもので、とりわけb-3類北筒式土器が圧倒的多数を占めている。その他VI群4.5%、V群1.4%、IV群1.1%、III群a類0.5%、I群1.2%などとなっている。

I群a類は1・2の2点のみが確認されている。1は口縁外側に2条の貝殻腹縁文がめぐる口縁片である。1・2の器表には貝殻条痕文がみられる。ともに摩耗が進んでいる。

3~28はI群b-2類コッタロ式に属するもの。H-3、P-141といった造構に関連する遺物が多く、59~60~89~91区付近に特に濃密な分布が認められる。3・4・10は斜位、縦位などに貼付文が密に並列するもの。5は縄端による斜位の刺突文列が無文帯を区画するもの。6~8・9~11~13~16~17~20~24は、貼付帯に縄による刻みを加えたもの。12・14は貼付帯を丸棒状工具で刻むもの。7・15は貼付文のみられないもの。18・19には縦条体压痕文が配されている。21~23は細い貼付文が重ねられたもの。25・26は短縄文のある、27・28は縄文の施された底部片。

29は地文の羽状縄文が底面にも施された平底片で、胎土には纖維が含まれている。胎土、焼成、地文などからP-101出土の土器と同一個体と思われ、II群b類大麻V式に比定されよう。

42~80はIII群a類に属するもので、ほぼ円筒上層d式、或は萩ヶ岡1式土器などとの類縁關係の窺える資料が主体を占める。分布のまとまりは発掘区の数ヶ所に分散している。口縁部に貼付帯を伴った突起や断面三角状の肥厚帯をめぐらせたものが多い。貼付帯は地文に重ねて付加され、貼付文には縦条体压痕文や撚糸文などが施されるが、摩耗が進んで判別できない例が少なくない。口縁部の貼付帯には、42では平底による刺突文列が、44では縄による刺突の刻まれた2個の丸い貼瘤が、45では平行沈線文が配されている。50の貼付文間に半截竹管による、51や56、63、64では平底状工具による連続刺突文が加えられている。57や60、72の貼付文や59には撚りの異なる原体を利用した撚糸文がみられる。61・62には竹管状工具による小さめの円形刺突文が、65には縄端を利用したらしい、やや不整な円形の刺突文が施されている。63~69・70には縦条体压痕文があり、66・67・75・76などの貼付帯は縦条体压痕文もしくは撚糸文によって刻まれている。縦位の貼付帯が付された67の口縁部肥厚帯には、撚糸文のほかC字状の縦条体压痕文が並んでいる。68の肥厚帯や貼付帯には、細く鋭い沈線状の刻みが加えられている。

81~101はIII群b-1類、天神山式土器のグループで、やや古く萩ヶ岡2式に比定されるものも一部含まれる。地文に重ねてやや幅広の貼付帯を付し、これに半截竹管の内面を利用した刺突や突引き、平行沈線文などを添加した例が多い。81の貼付帯には爪形状の刺突が加えられている。86・87には平行沈線文のほか、竹管の外面を引いた縦位の短刻線が並列している。90の貼付帯には縄端による刺突文がみられる。95・96・101の縄文は複節の原体によるもの。

102~132はIII群b-2類に属する土器。b-2類は柏木川式を主体とし、大安在B式やノダ

ップⅡ式など道南部の土器に類縁が求められるものも若干含まれる。102~105には平窓状工具による連続刺突文が、107・108には口唇上や貼付文を含む一面に、円形刺突文が密に加えられており、128や114にも類似の文様構成がみられる。口唇上の円形刺突文は繩線文をもつ109・110にも認められる。繩線文は113・119にも押捺されており、115~117ではさらに環状の貼付文が付加されている。121は小さな刺突を加えた貼付帯を横環させたもので、122には継位の平行沈線文がみられる。123・126・127・129・132などには、平窓や半截竹管による押引文が加えられ、124・125・130・131などには、同様の刺突が刻まれた貼付帯がめぐっている。

133~143にはⅢ群b-3類土器のうち、北筒式とは系統を異にするものなどをまとめた。133~136、139~142は煉瓦台式を含む短刻線文土器（大島・瀬川1982）や、その影響下でつくられたもの。137、138、143は大木糸の土器。143では貼付帯がはね上げぎみに付されている。

出土土器の大半はⅢ群b-3類北筒式に属するもので、その数約69,000点。器形や文様などにはさまざまな変化がみられる。以下にその一部をいくつかのグループに分けて紹介するが、あくまでも記載の便宜を求める結果であり、型式学的な分類を意図するものではない。

144~154は、口縁部に肥厚帯をつくる貼付帯をめぐらせたり、継位や山形、斜位の貼付帯が付加されたもの。口縁部肥厚帯や貼付帯には、押引文や繩文が施されている。継位にも貼付帯がある144は、P-92出土例と同一で、繩線文が重ねて押捺されたもの。149・152の口縁波頂部には垂直の小孔が、147・149・150には肥厚帯下とは別の、小さな円形刺突文がみられる。

155~180、341は、口唇部に密な刻みや深めの押圧が加えられたもの。器形的には、口縁部に肥厚帯のないもの（155・160）、余り顯著ではないものの（176・177）もみられるが、断面三角状に肥厚帯がめぐる例が多い。突起下に貼瘤のあるもの（157）、波頂部などが一段と肥厚するものの（164・165・169）があり、肥厚帯の幅が特に広いもの（159・161~163）もみられる。文様的には、口縁部に連続刺突文や押引文が1~2段みられ、155~159・163~166・170~176・177では、下にもそれらが横位や斜位に加えられている。160~165・176~177では、縫結文などもみられる。

181~208は、口唇部に押引文が加えられ、口縁部に1~3段の押引文や連続刺突文がめぐるもの。口縁部に肥厚帯のあるものが多いが、193・195・206~208のように肥厚帯のない例もある。181・183・196のように突起下や波頂部などが一段と肥厚するものがあり、183には継の押引文が、196では垂直の小孔が加えられている。183・189・193には口縁内側にも横位の、184・192では肥厚帯下にも斜位や文差する押引文が施されている。185には小さな円形刺突文の添加があり、190には肥厚帯の下縁部に横の貫通孔を穿った、小さな把手状の装飾がみられる。

209~222は、口唇部に押引文あるいは連続刺突文が刻まれ、口縁外側に押引文の施文がないもの。223・224のように、沈線風に引いた押圧のあるものも含める。209は突起下に貼瘤があり、小さな円形刺突文列などが配されたもの。211の突起下の刻線は新しい傷痕である。

225~247、339・340・342・344・346は、口唇部に文様がなく、口縁外側に押引文がめぐるもの。口縁部に肥厚帯がめぐる例が多いが、340・344など肥厚帯のないものもある。232・237・339などでは、口縁波頂部に貼瘤があったり、一段と肥厚がみられる。228・231~233では肥厚

帯下の円形刺突文列にも押引文が重ねられるほか、234・339では押引文が斜位や横位に、340では全面に施されている。230の突起下や、339の押引文の交点には、さらに円形刺突文が加えられている。225・238・240・244・245・342には綾縫文などがめぐらっている。

248～272は、口唇部に繩文が施され、口縁外側に1～3列の押引文、或は沈線文がめぐるもの。248・269～272などを除いて、口縁部には肥厚帯があり、249・250・253・254・266には山形の小突起がある。252・253には沈線文の付加が、258・259には斜位の押引文が、260には押引きと小孔を加えた貼付帯がある。綾縫文や結束第二種の回転押捺を伴うものも、少なくない。

273～295、347は口唇部に繩文が施され、口縁外側に押引文がないもの。273～279など、山形の小突起や波状縁を有するものが多く、やや小型の土器では、口縁部に肥厚帯がみられない。地文は結束第一種、二種をもつ羽状繩文や斜繩文の例が多い。綾縫文の付加もみられる。

296～313、345は、口縁外側に押引文がなく、口唇部にも繩文がないか、不明瞭なもの。口縁部に肥厚帯のない例も少くない。地文には、結束第二種のある原体によるものほか、やや特殊な撚糸文のもの（297・307）、無節のもの（311・312）、無文のもの（313）などがある。

314～326は、斜位や縱横の押引文や、押引きや繩文の施された貼付帯をもつ胴部片で、314・317～320、323～325では、交点などに加えられた、小さめの円形刺突文がみられる。327は直前段反撚、329～331は撚糸を軸とする網目状の撚糸文。328・332・333には綾縫文があり、334～336は結束第一種、二種のある原体を縱に回転施文したもの。337・338の底部片には、押引文が加えられている。343、ちょっと戻って30～41もⅢ群b-3類の底部片。30の底面には刻線が、35では葉脈状の圧痕がある。37の底面や内壁部、39・41の底面には繩文がみられる。

349～355はⅣ群a類、横環する貼付帯のある余市式土器で、349には綾縫文の付加がある。他の貼付帯には繩文が施されており、351の貼付文間に磨消しが加えられている。

357～424は綾縫文や撚糸文をもつⅣ群a類土器。600点余りの出土で、分布図に綾縫文系として示したように、調査区の西部中央から南寄りの一帯に多くみられた。深鉢形で、口縁部が内寄り、平縁の口唇上や口縁部内面にも地文が施文される例が多い。胎土には砂礫のほか、纖維も少なからず含まれている。綾縫文は口縁外側に1～3条めぐるが、結束第一種羽状繩文原体の押捺例が稀ではなく、典型的には414などにみられるように、結束部の左右で撚りの方向が異なる場合が多い。結節部の圧痕や繩端の刺突などが加えられた例も認められる。390～392など繩を軸とする附加条あるいは撚糸文的な繩文もみられる。406～413など縦位の綾縫文が刻まれた例も少くない。415の連鎖状の綾縫文にも、結束部の圧痕がみられる。416～424は、細い撚糸を密に巻いた撚糸文が口唇部や内面にも施文される土器で、器形や胎土、焼成などは綾縫文のものと殆ど変わらない。撚糸文は口縁部では横位に、下では縱に施されている。

425～434はⅣ群a類のうち手稲砂山式に比定される土器である。口縁外側をめぐる貼付帯と突起下の押圧の刻まれた貼付帯をもつ425はじめ、平行沈線文をもつもの、繩による刻みがある貼付帯に弧状の沈線文が連結するもの、縦位の沈線文を軸に弧状の沈線文が配されるものなどがある。435～449はⅣ群a類、入江式のグループに含まれるもの。斜格子に沈線を引いたも

の、横位の沈線による区画があり、クランク状の沈線文様が配されるもの、矩形状や長楕円的な沈線文様が重ねられるものなどがある。450~453はIV群 b類土器で、船泊上層式から手桶式までのもの。450・451の無文帶の磨消しは徹底せず、452・453の器面は滑沢である。

454~495はV群 c類、タンネトウ L式にまとめられる土器である。縄文晩期の造構が集中した、調査区の西部中央付近に濃密な分布が認められた。454は丸底の皿形土器の破片で、単節 R Lの施文がある。454・456には短刻線による文様が、壺形の457には貼瘤と平行沈線文がみられる。458・470~472・475は、口唇内面の縄文や縄線文に継の刻みが加えられるもので、458の器面には縄線文と継の沈線文がある。494にも縄線文と斜位の沈線文があり、無文帶の下に貼瘤の配された平行沈線文帯がついている。459~463・495は横位の沈線文と列点文があるので、495の口縁には貫通孔を伴う山形突起と、頂部が凹む低めの突起とが交互にみられる。464~469・473・474は口唇内面や外側に、縄による刻みや縄文をもつもので、465には縄端の刺突が、468・469には蛇行沈線文がある。476~480は平行沈線文などがみられる土器で、481は深い刻みと、縄文の施された陰帯をもつ波状口縁片。484~486の縄文は複節の原体によるもの。491~493は屈折する沈線文や縄文のみられる、丸底的な底部片である。

496~637は続縄文期のⅤ群土器、後北A式など古い段階のものは調査区の南東側と、造構がまとまっていた西南部に多く、後北C₁・D式などは、墓壇が集中する北西部に分布が濃い。

496~505・510は、江別太遺跡のⅢ群土器などに類例が求められる初頭のもの。496・497には継走る縄文が、498~501には撚糸文があり、502は無文。503・510の口唇には刺るような刻みが加えられており、510には刺突文列が2段みられる。504・505は揚底の底部片。

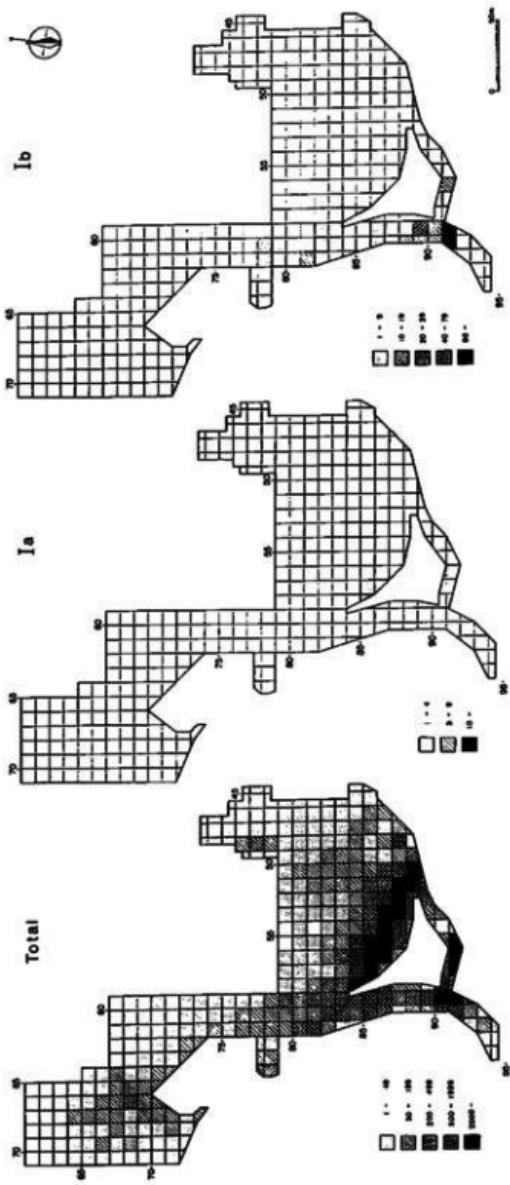
506~509、511~514は、恵山式に属するもの。506・507など口縁内面の屈曲が鋭く古い要素が覗える。508・509には細めの縄線文が押捺されており、511は薄手の鉢形。底は揚底が多い。

515~576は、ほぼ後北A式のグループに含まれるもの。515~520は横帶縄文を伴う平行沈線文に山形状の沈線などが加えられ、無文地に斜位の短刻線が配されるもの。521~525は、横走縄文に重ねて沈線文、刺突文列を施すもの。526~535、537にも平行沈線文や短刻線文のほか、刺突文列がみられる。536・538は短刻線の両端に刺突文が加えられるもの。539には小波状の沈線文が、540には屈折する連続刺突文がみられる。542~558、563は、平行沈線文や短刻線文、刺突文列などが重ねられた土器で、縦位や横位、斜位などの刻みのある貼付帯が付加される例が多い。552・553には赤色塗彩の痕跡が残されている。559~562は太めの沈線が重ねられたもの。564~567は細かく密な刺突文列に縁どられた、菱形状の低い陰帯がみられる。571~576は底部片で、いずれも揚底。574・575の底面は、周縁が二重になっている。

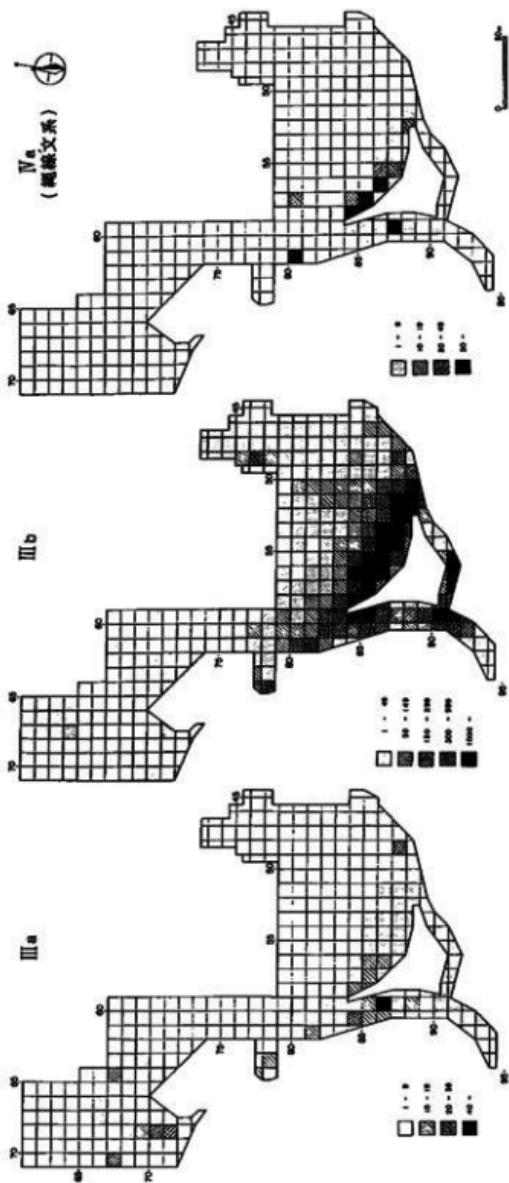
577~581は弥生式系の、薄手の撚糸文土器の破片で、P-169にも類似が見出されている。

582~637は後北C₁・D式土器。刻みが密に加えられた口唇部や口縁外側の貼付帯の下には、582などのように横位、縦位、弧状の帶縄文が施されるが、585などのように微隆起線文や三角列点文を伴う破片がやや多い。592など微隆起線文を、617など三角列点文を欠く個体や部位も少なくない。583は注口部の一部。全般に薄手で、635~637など底部も例外ではない。

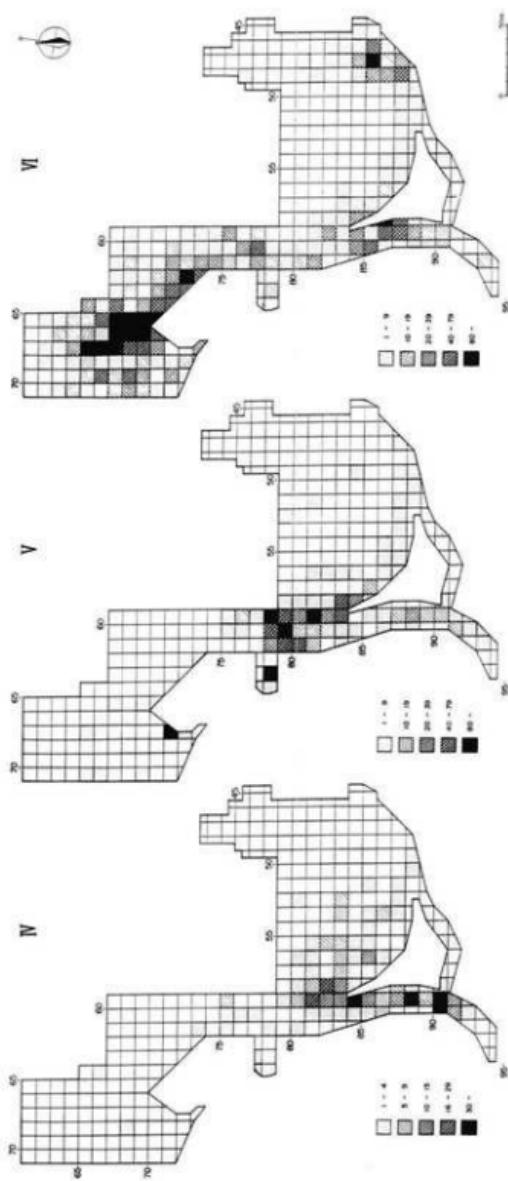
土器時期別分布図(1)

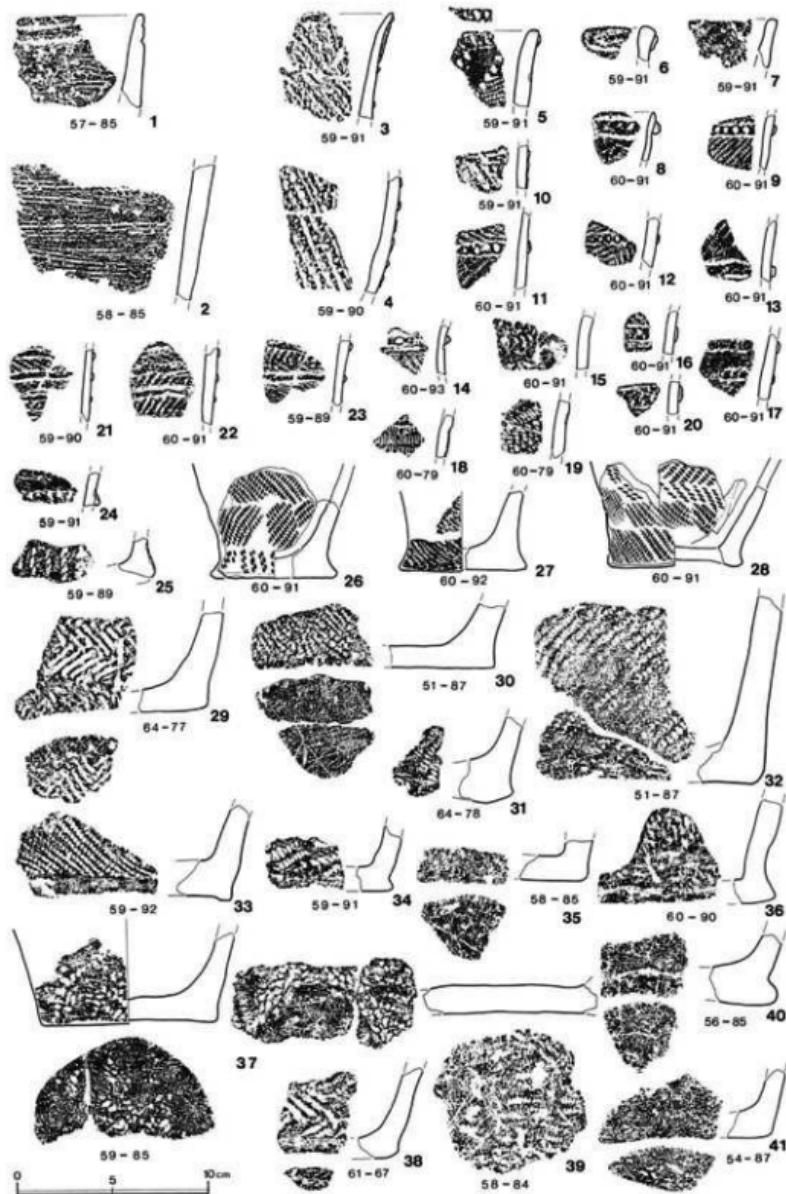


土壤颗粒分布图(2)

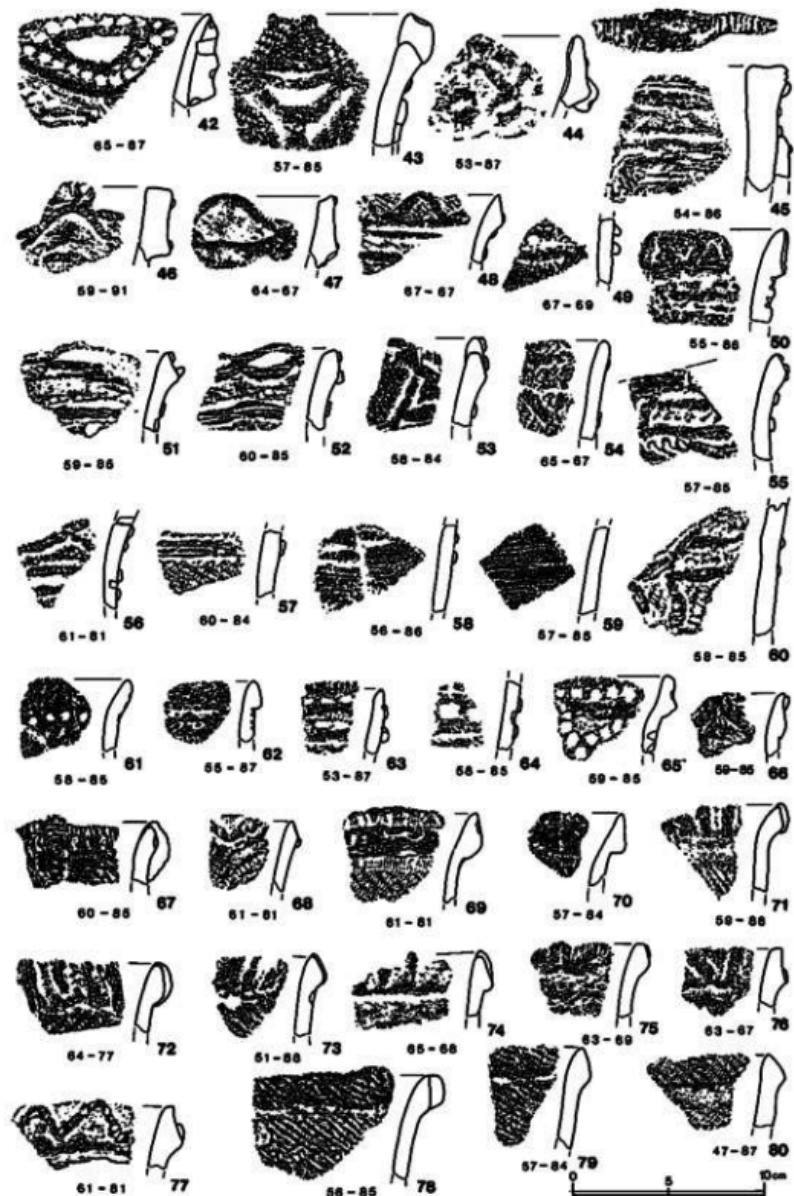


土器跡器別分布図(3)



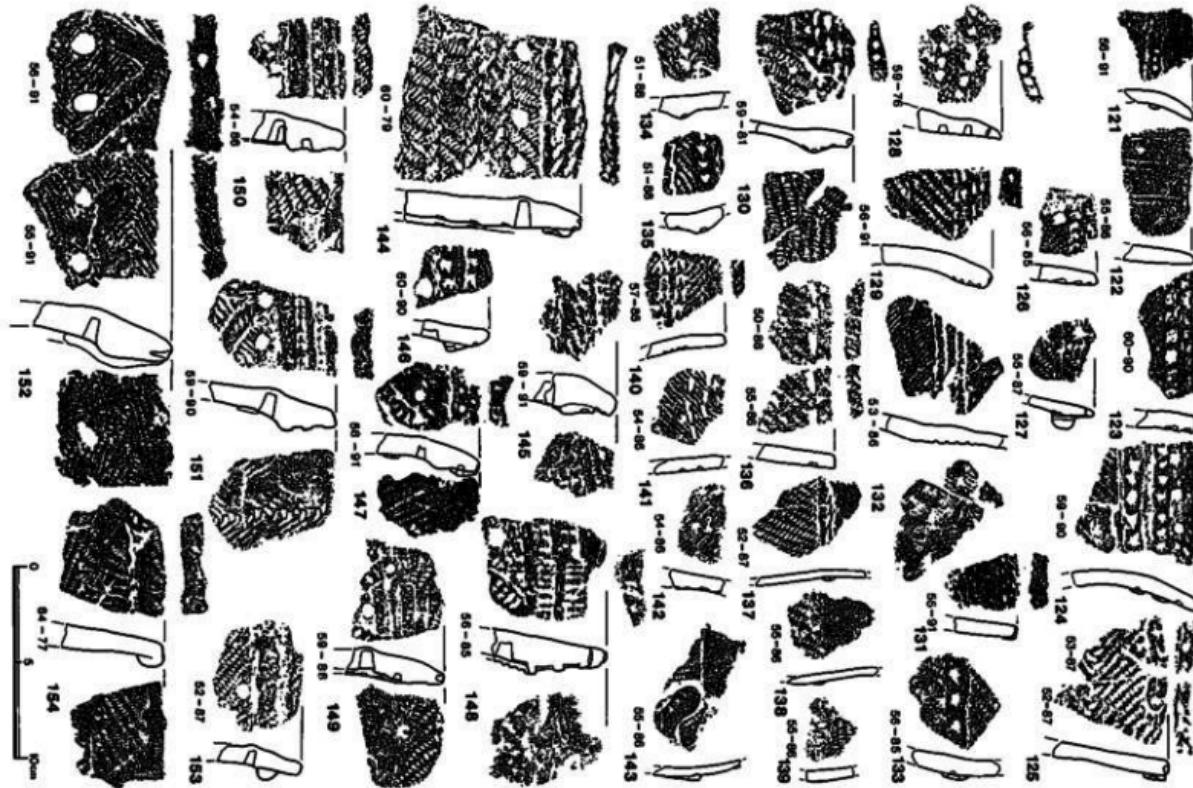


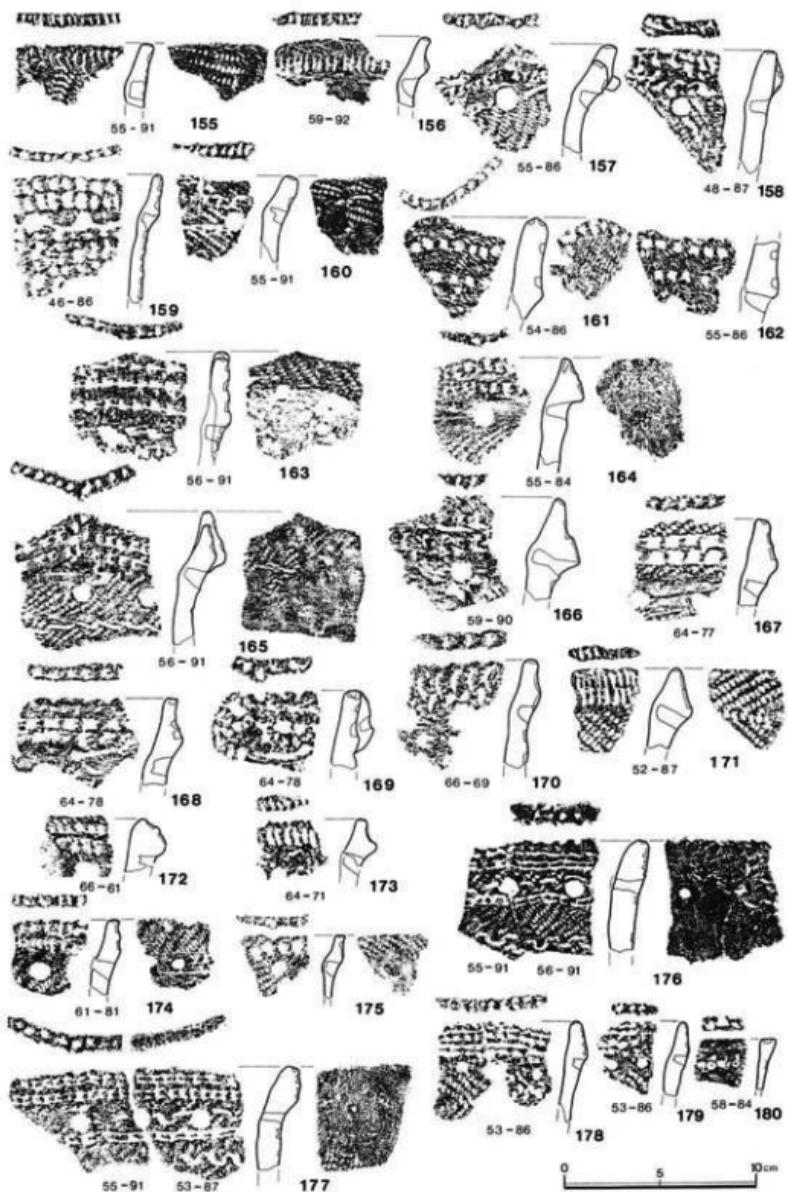
土 器 (1)

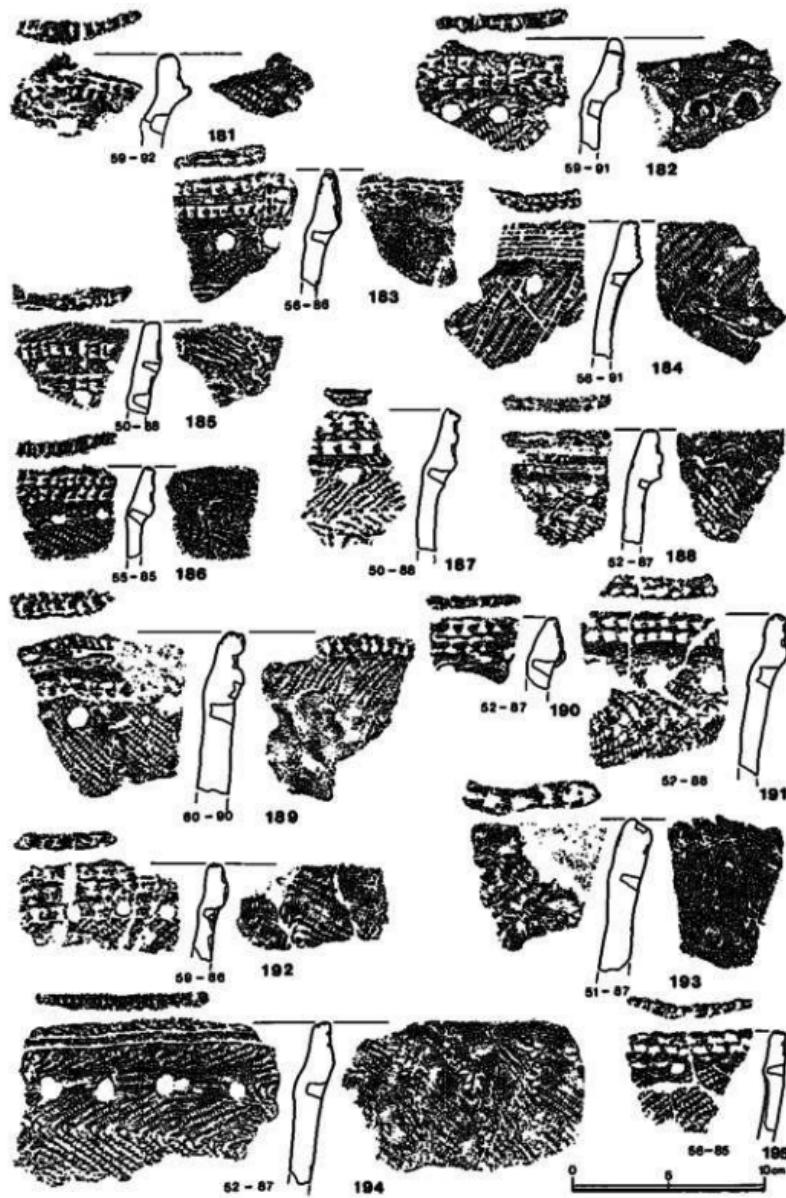


土器 (2)

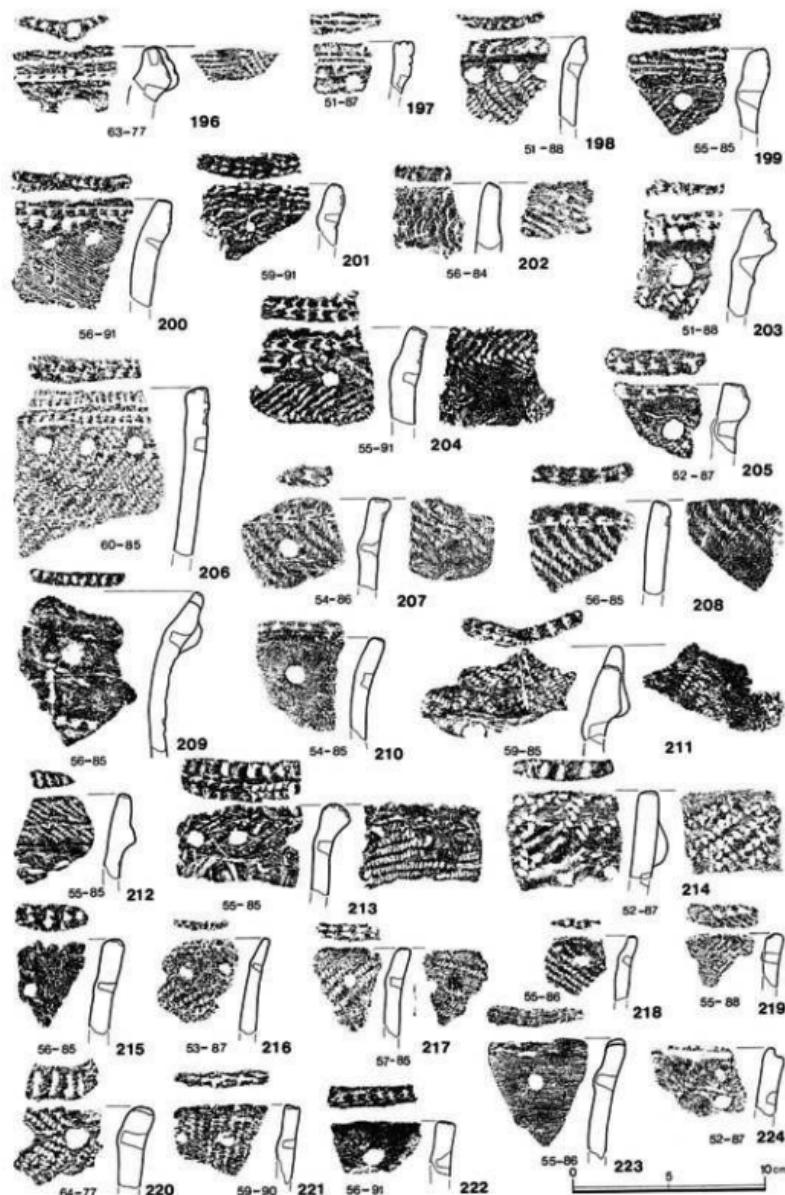


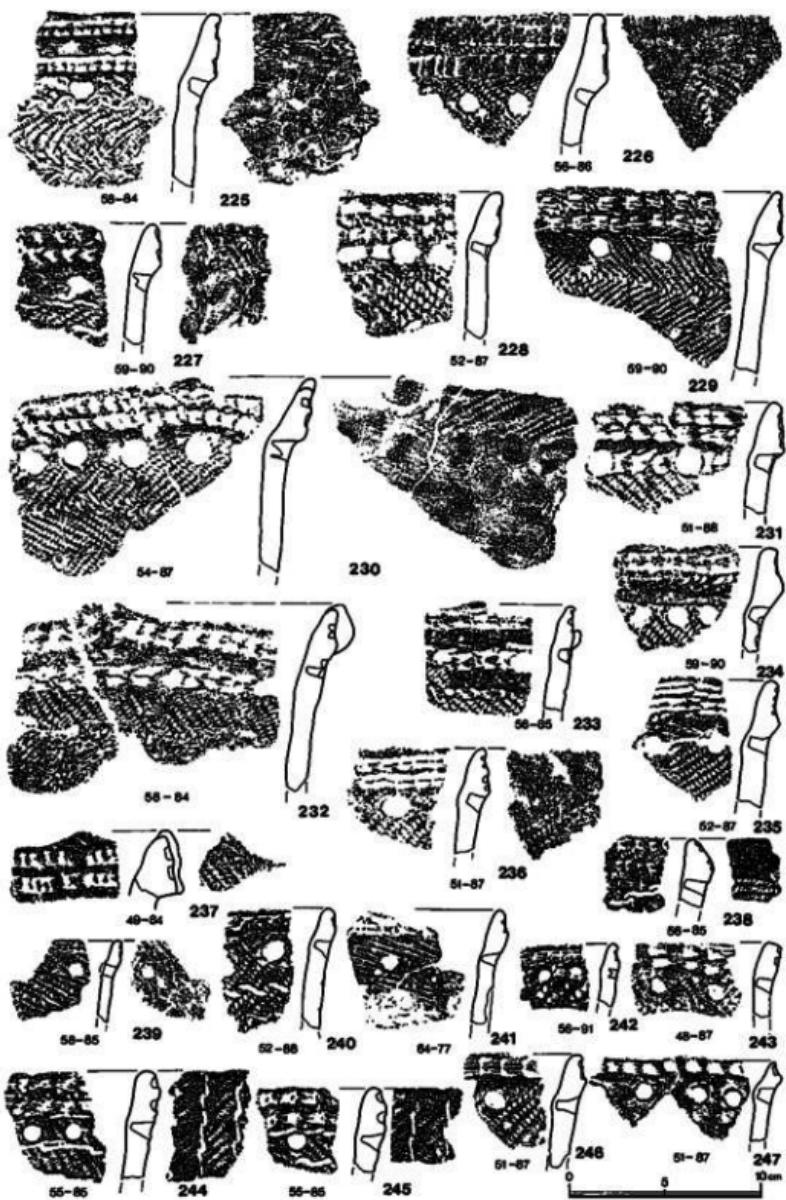




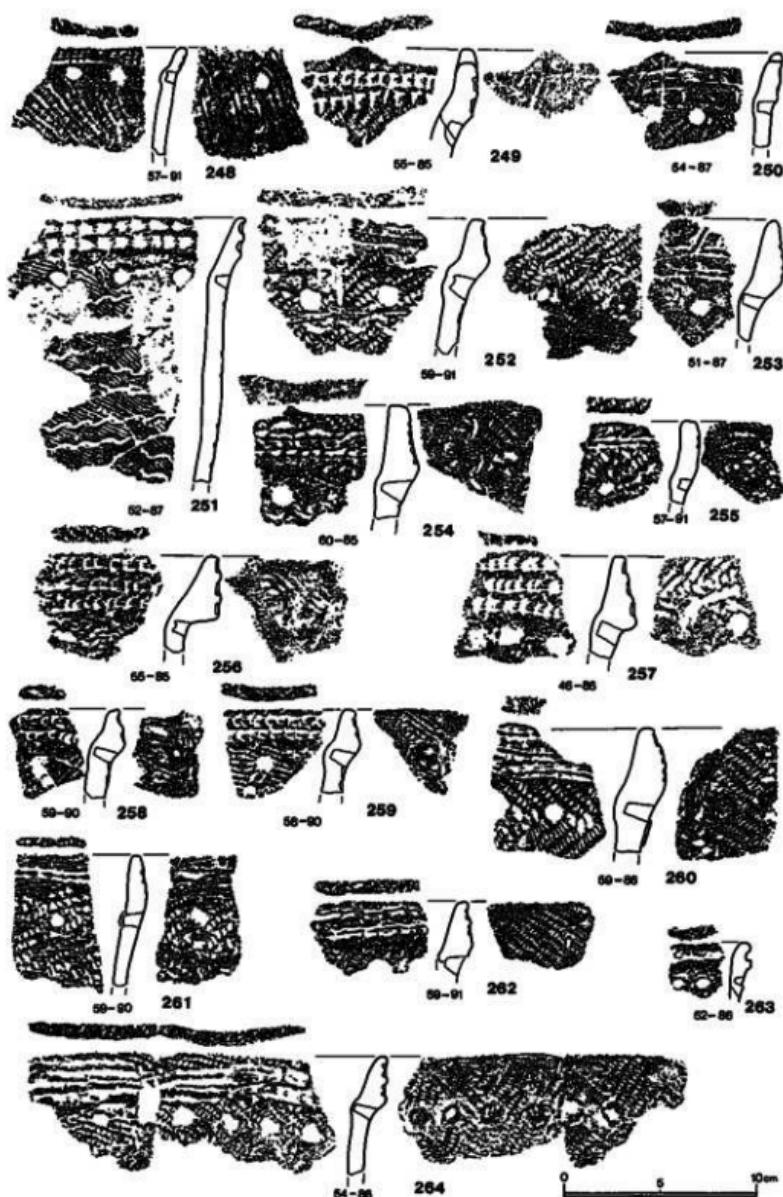


土器(6)

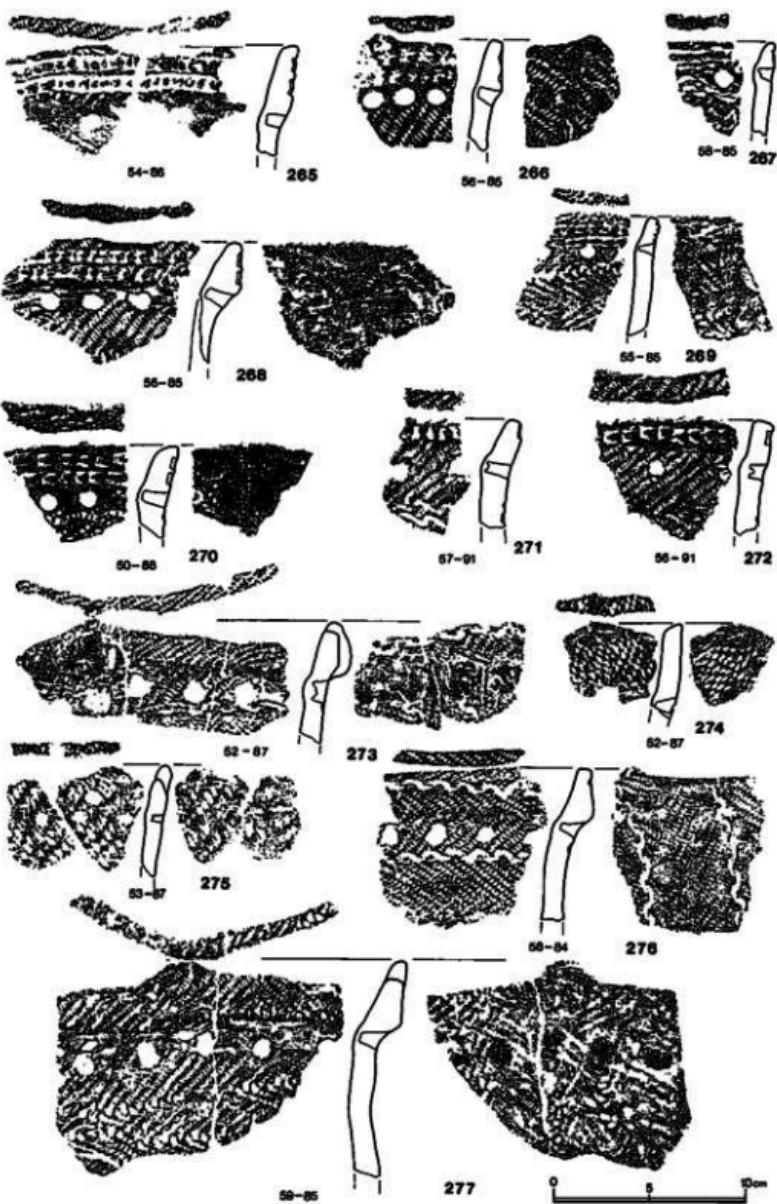


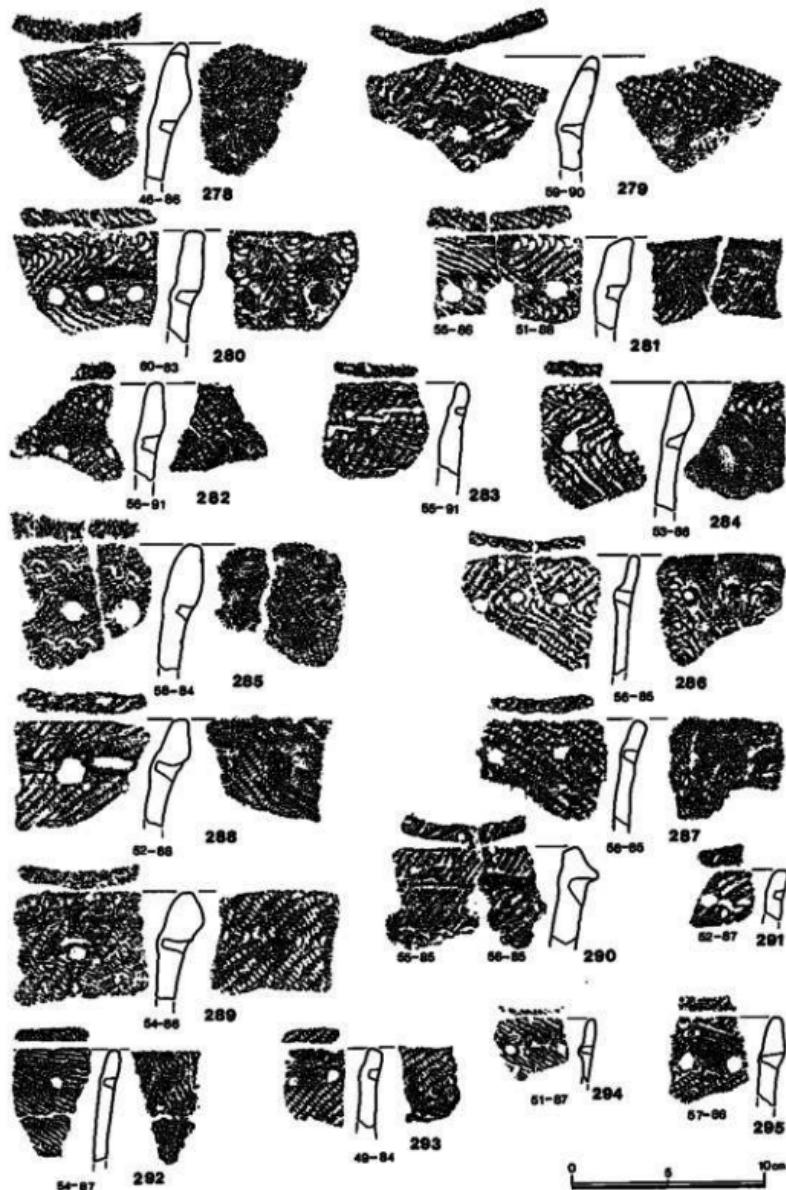


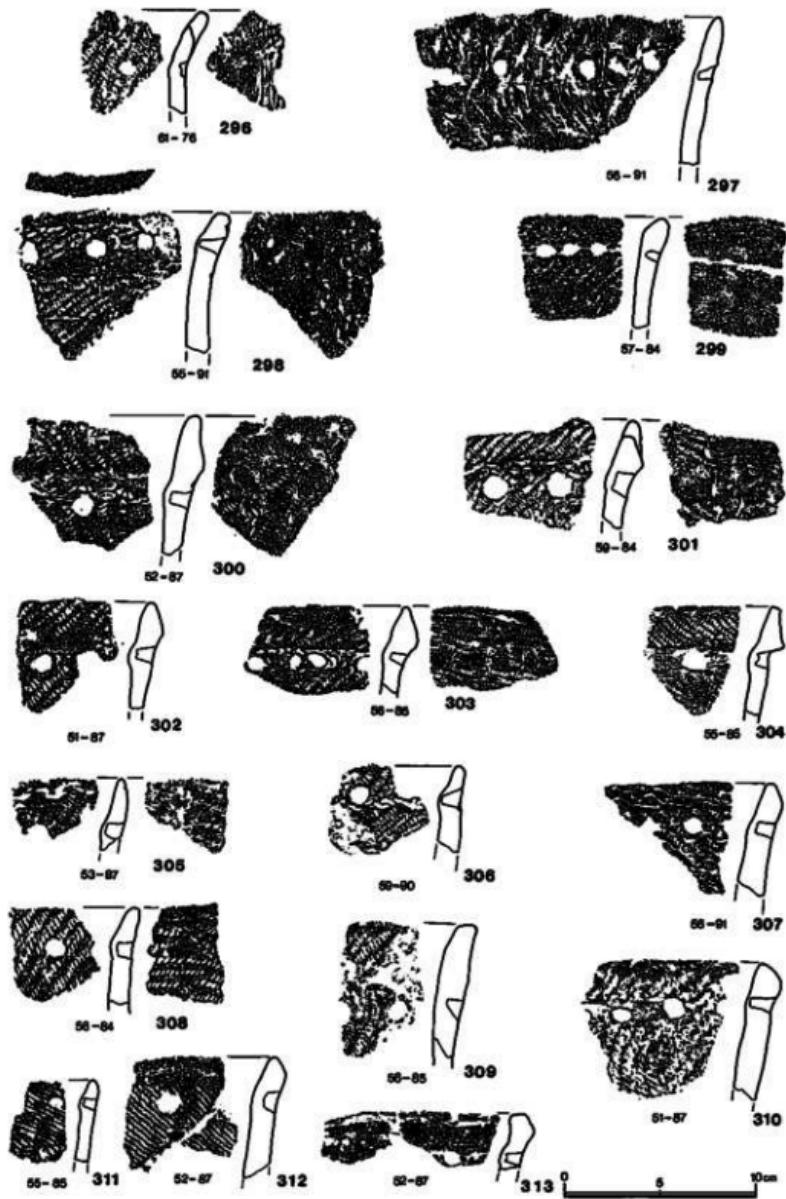
土器 (8)

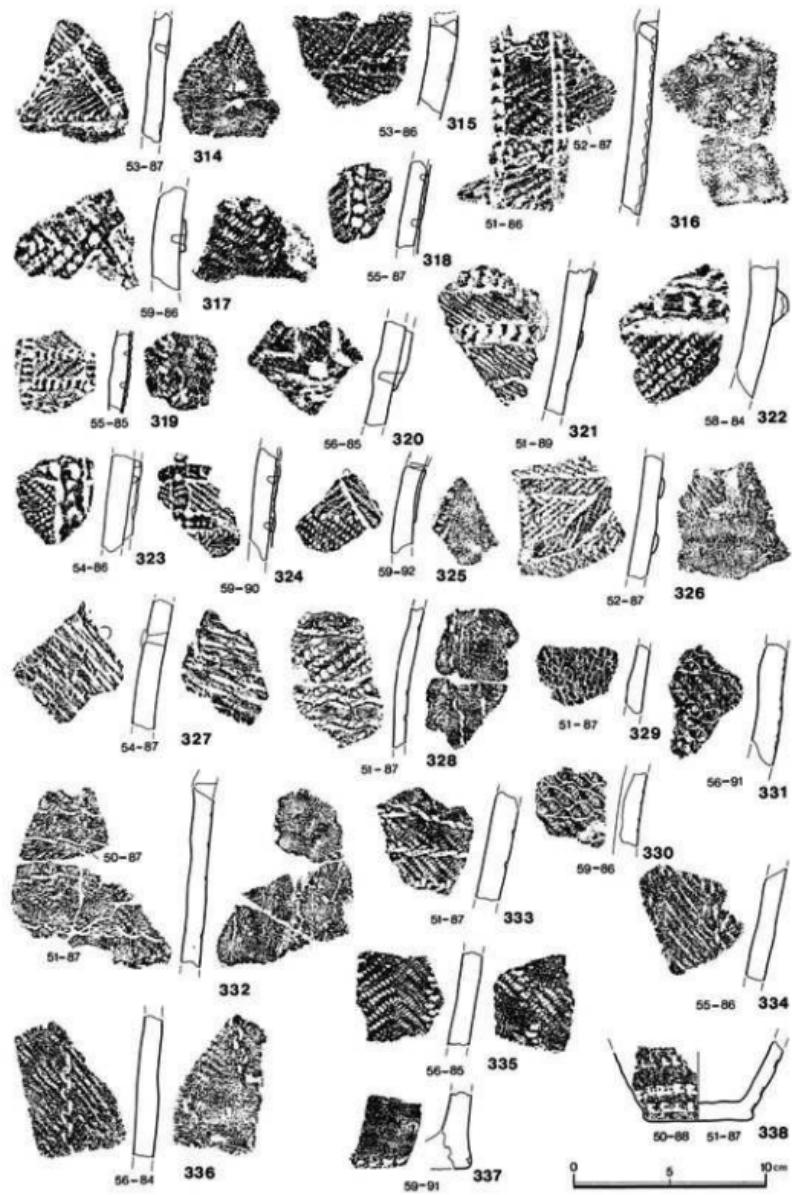


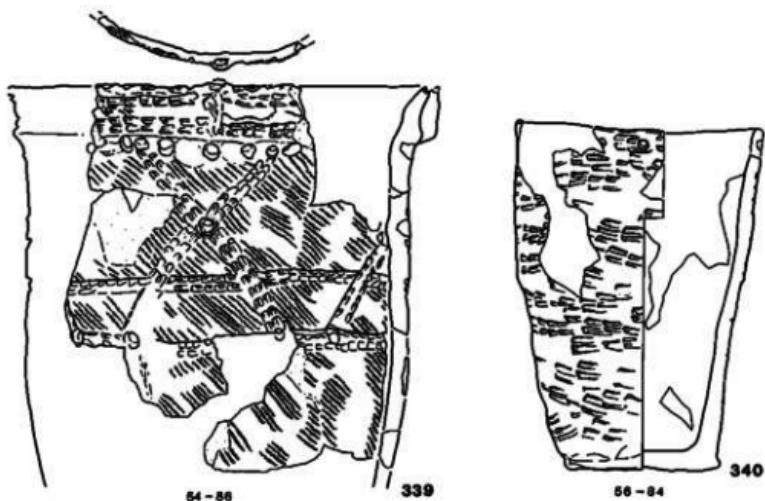
土器 (9)









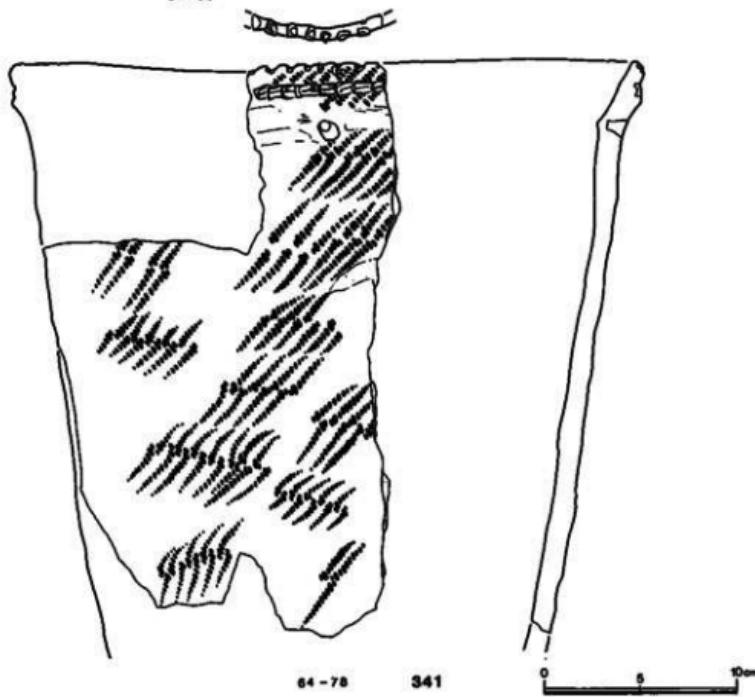


54-86

339

56-84

340

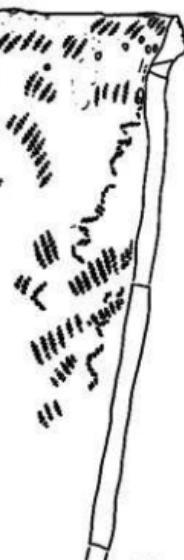


54-78 341

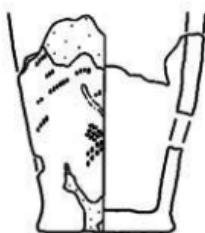
0 5 10cm



60-90

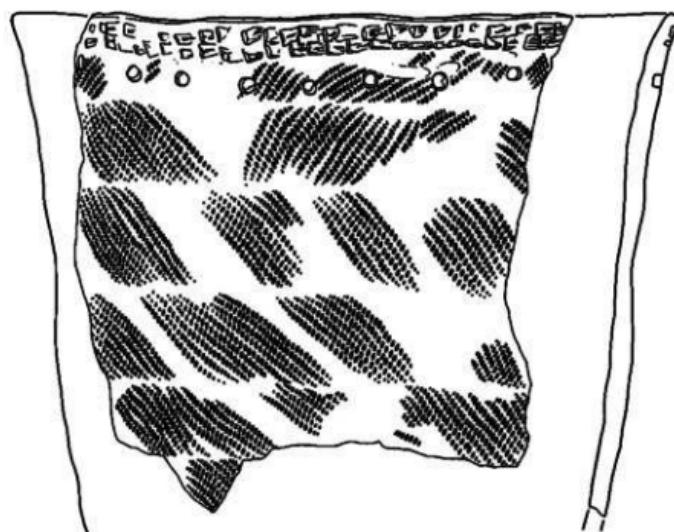


342



64-78

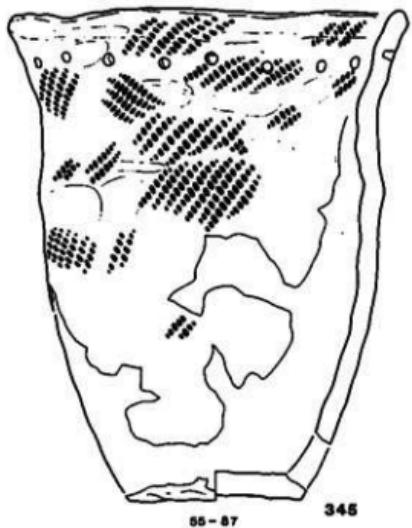
343



60-90

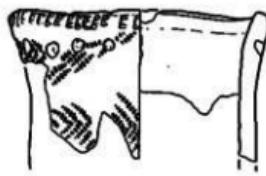
344

A scale bar with markings at 0, 5, and 10 cm.



65-87

345



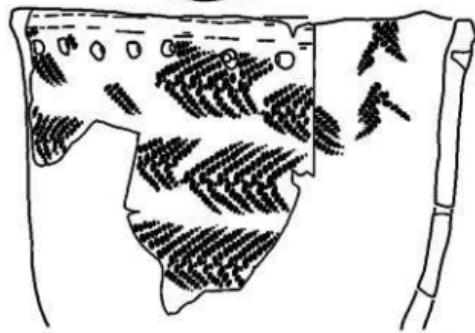
52-87

346



47-87

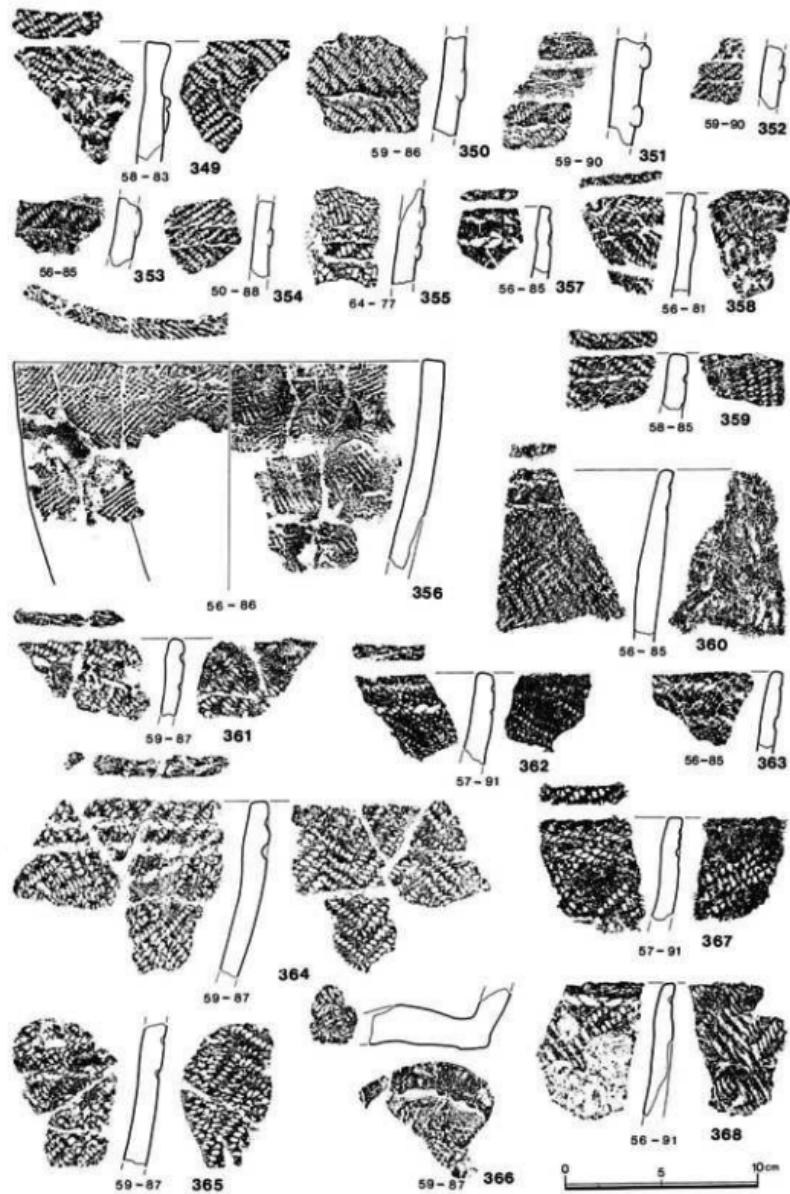
348

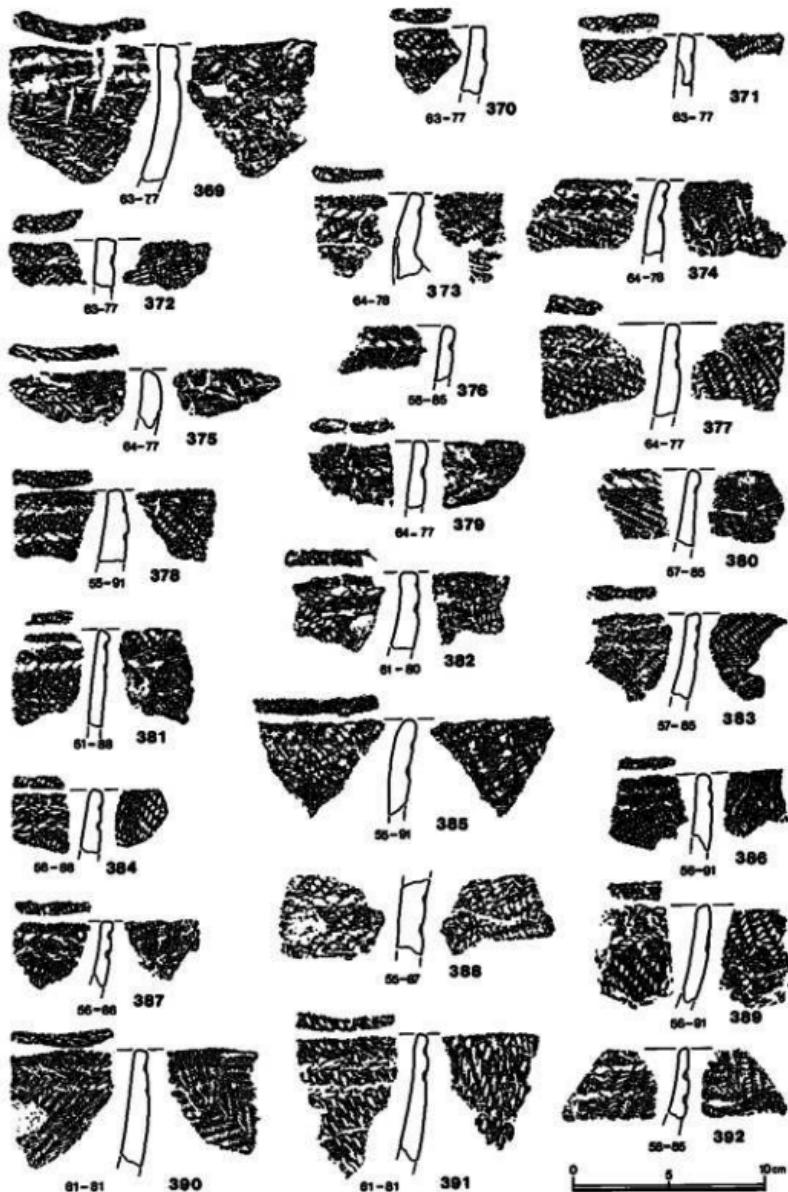


65-85

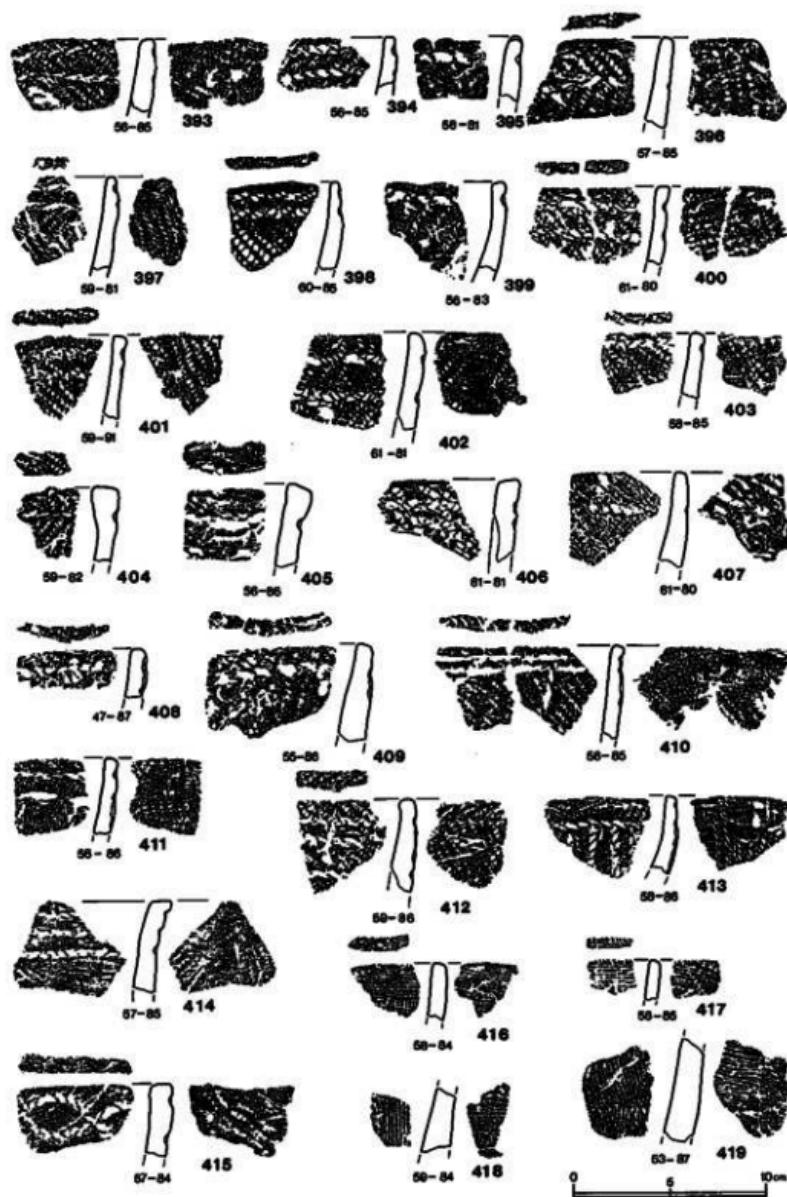
347

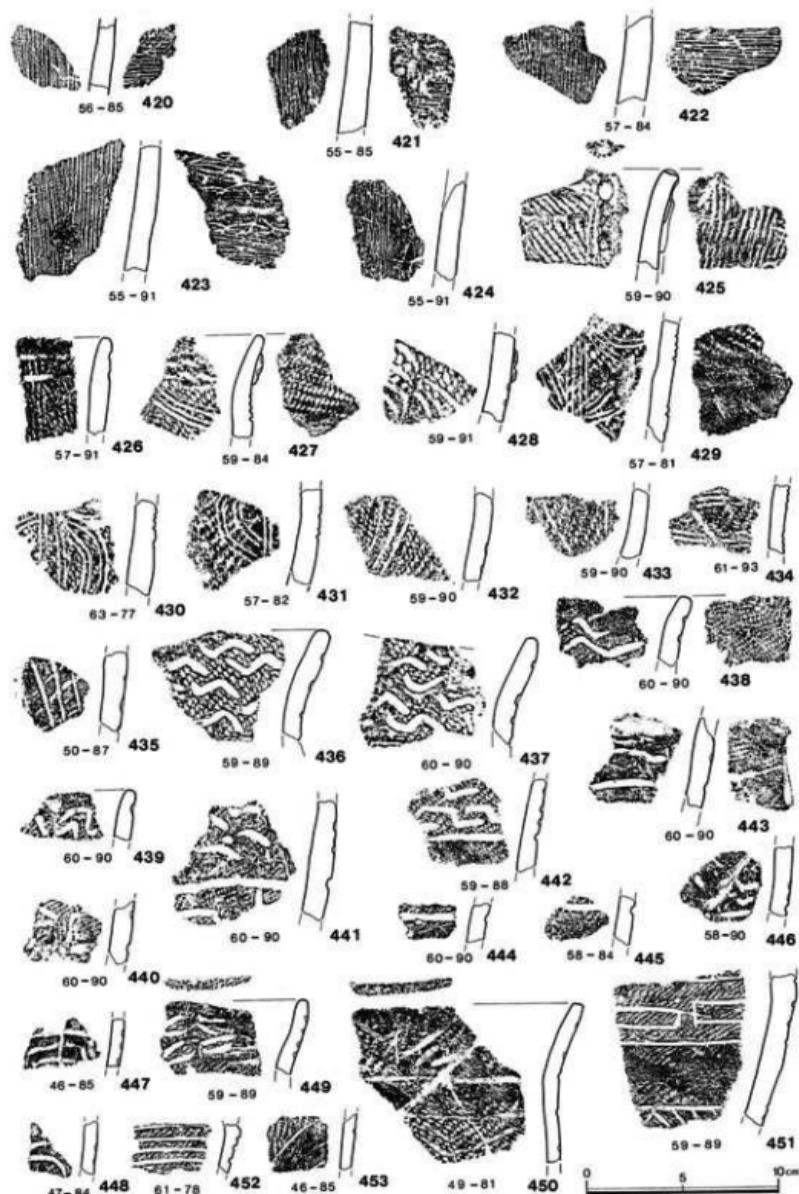
0 5 10 cm

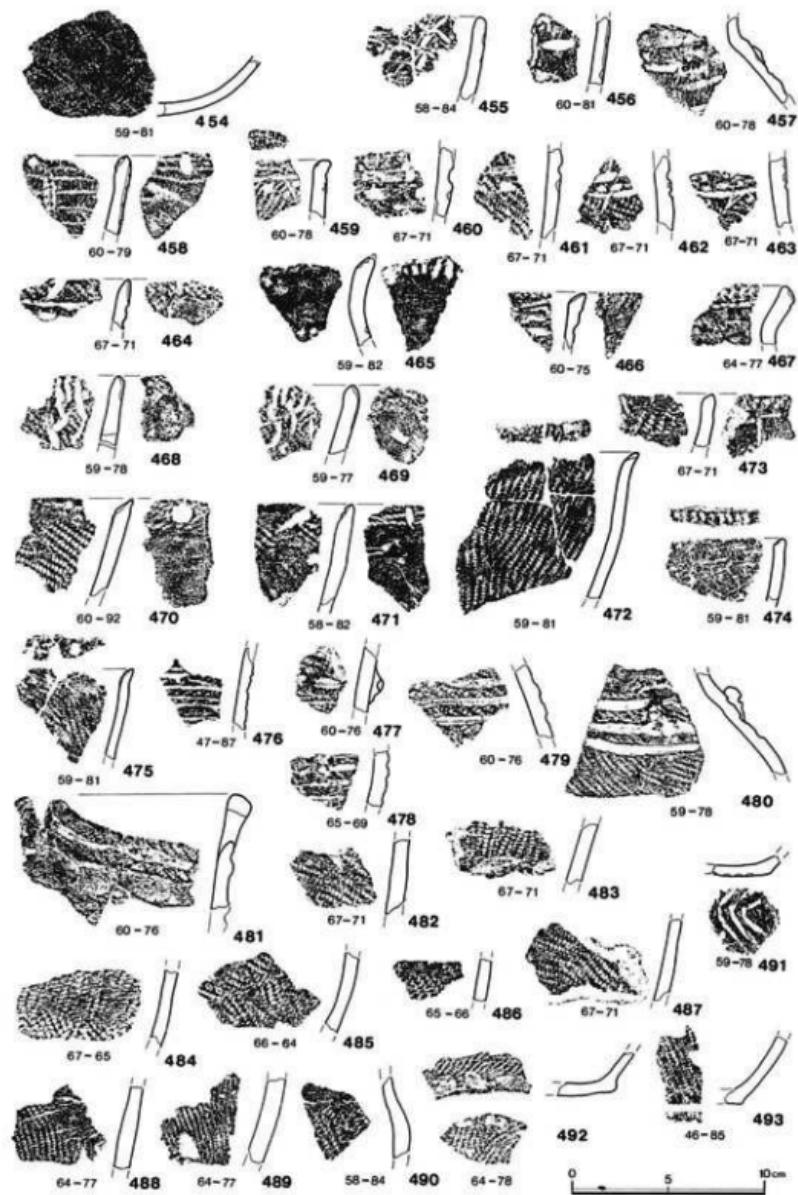




0 5 10cm

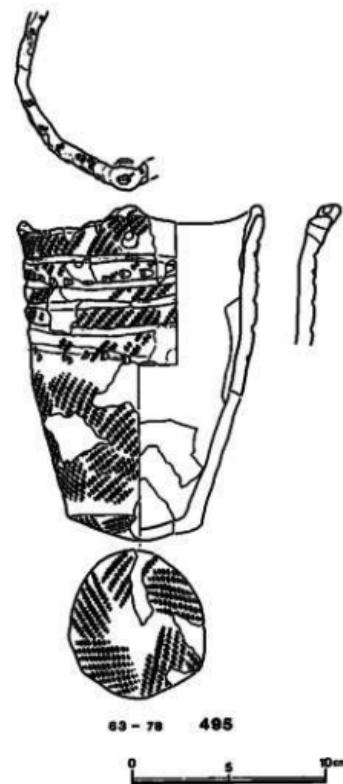




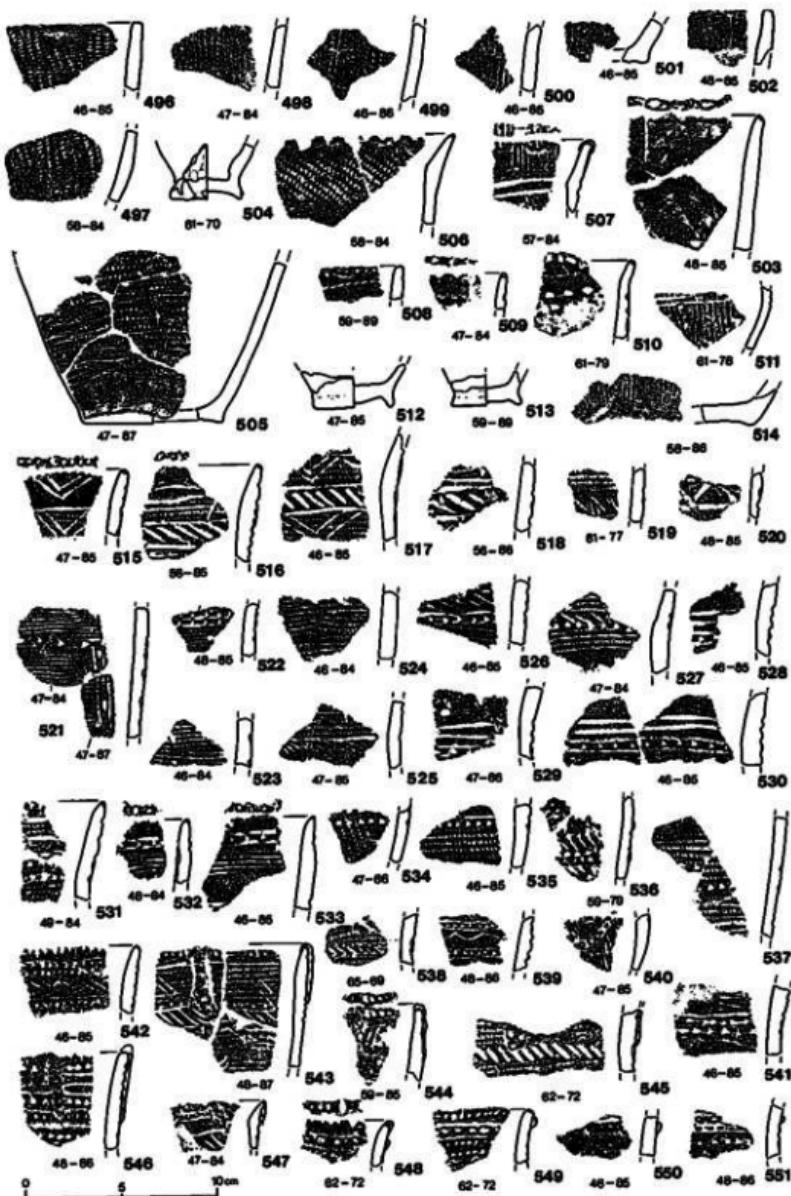


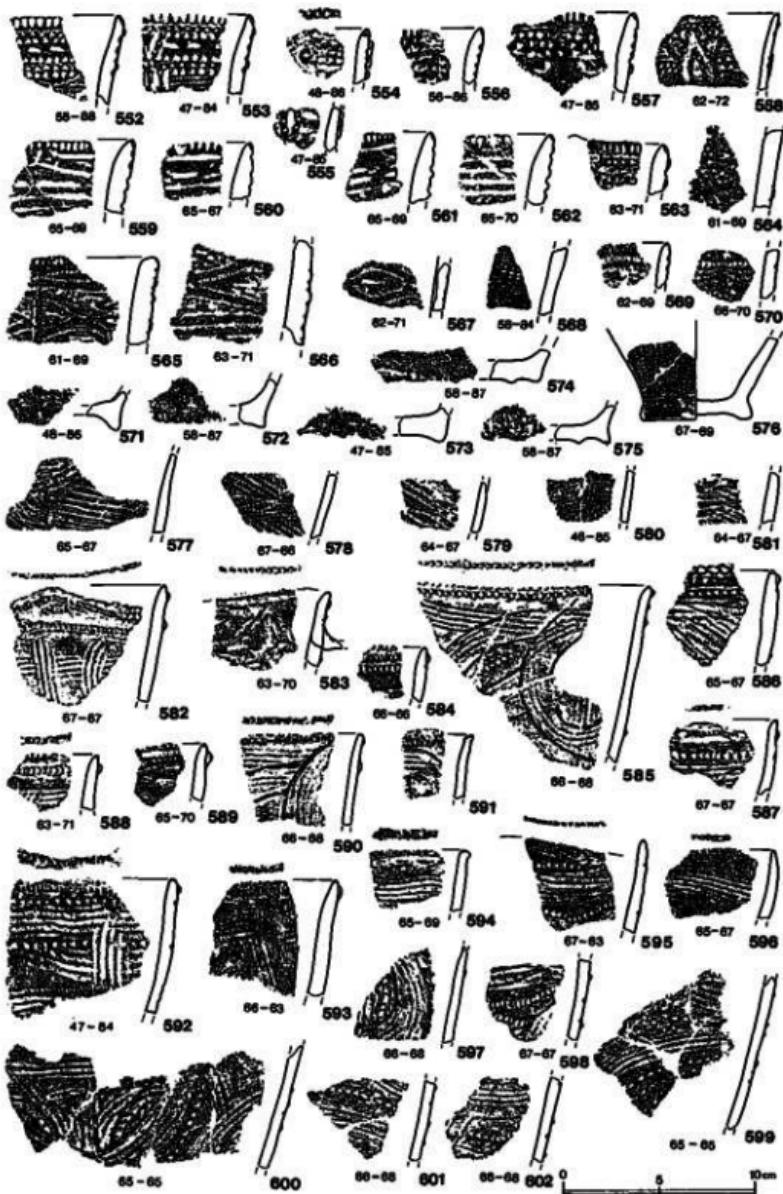


土器 494

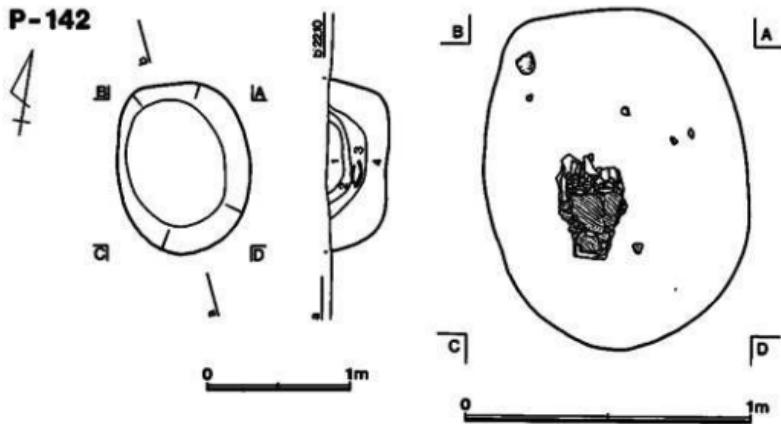


63 - 78 495

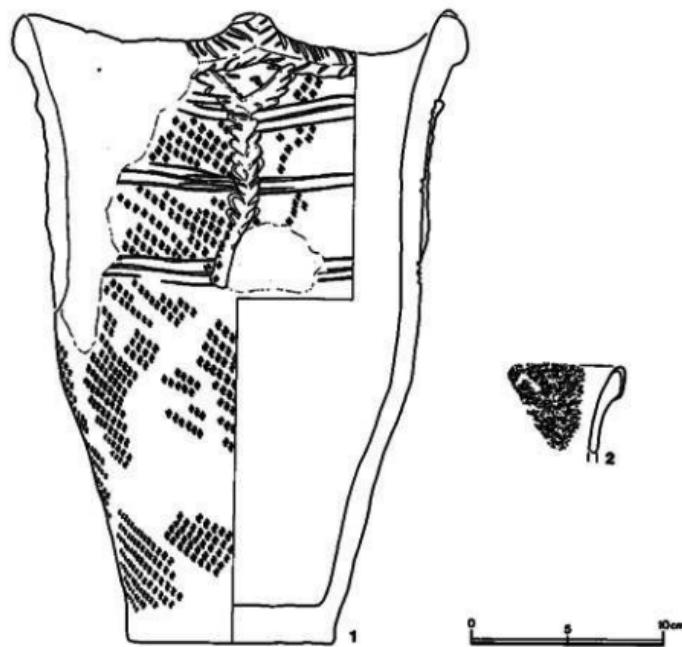




P-142



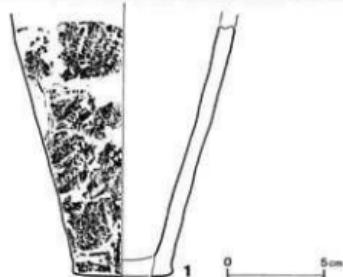
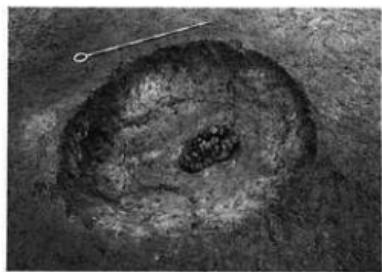
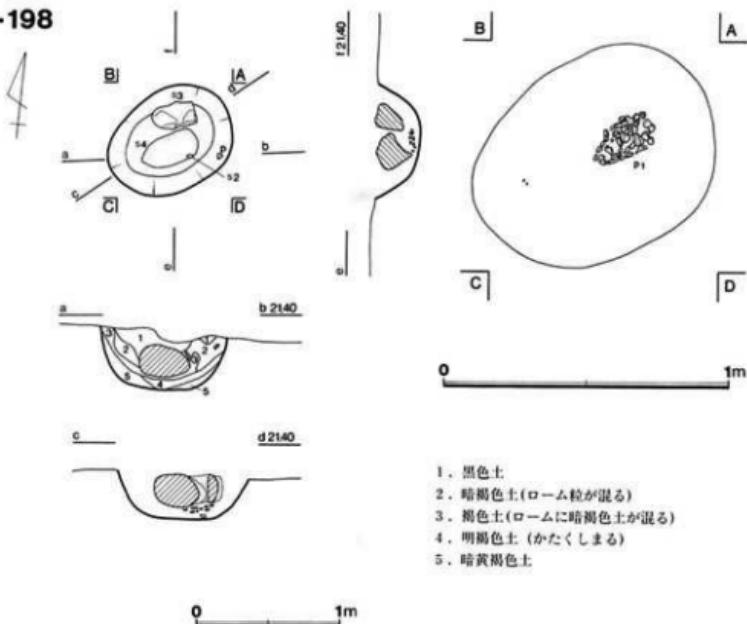
- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1. 黒色土（ローム粒を含む） | 3. 黄褐色土（ロームブロックと
黒色土の混合土） |
| 2. 黒色土（1層より塊に黑色を
呈する炭化物を含む） | 4. 黄灰色土（白色の粘土とロー
ムの混合土） |



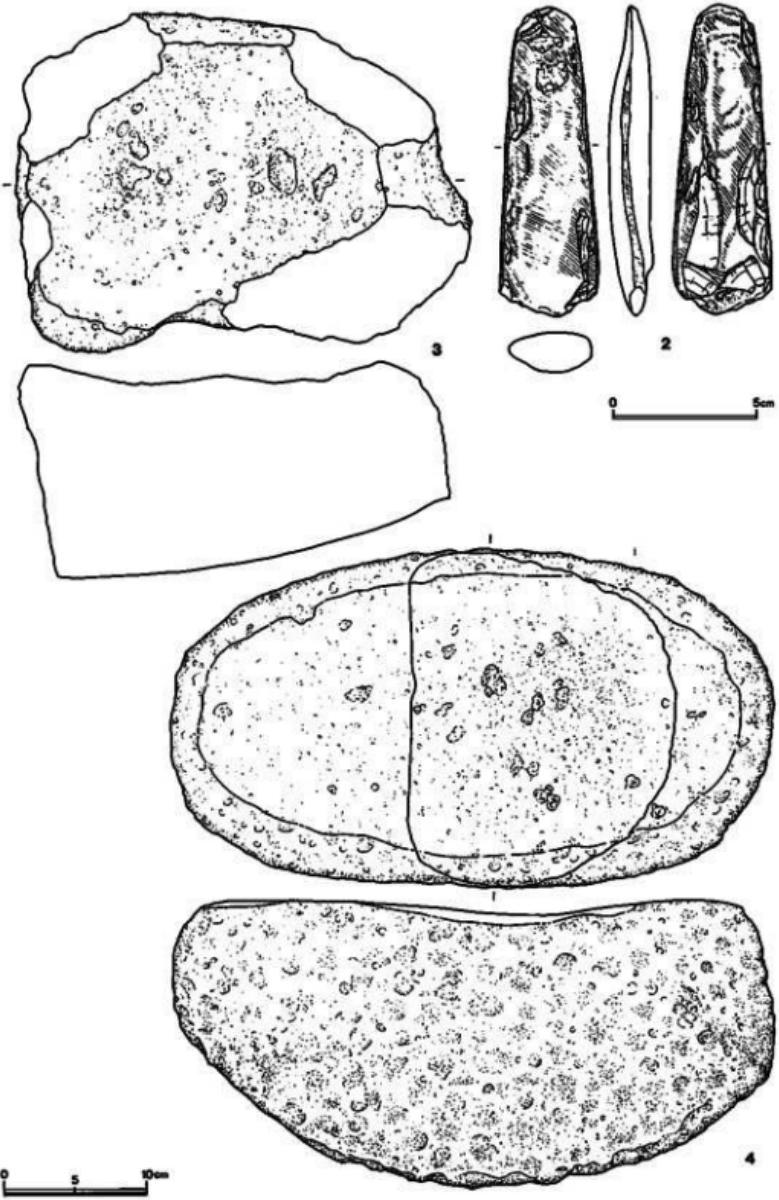
P-142



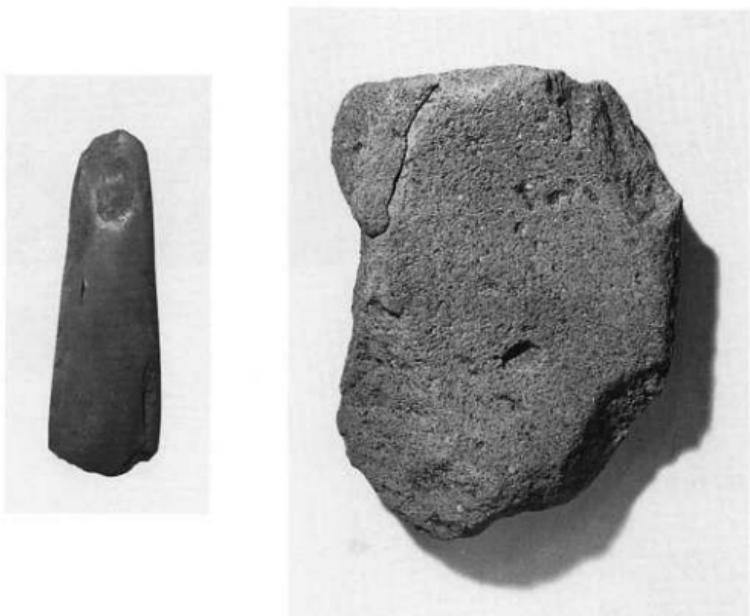
P-198



P-198

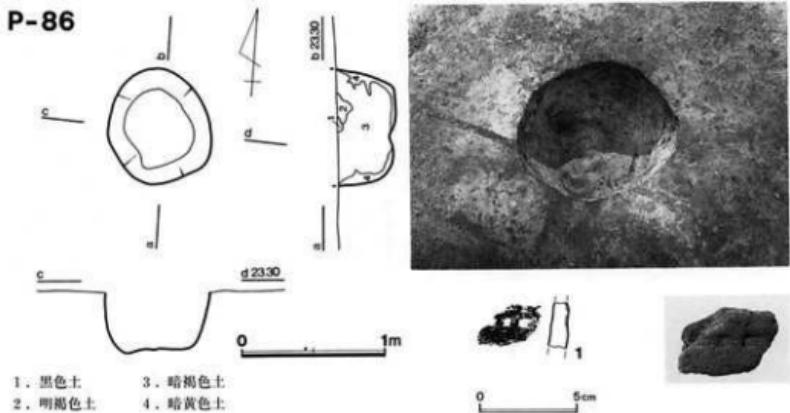


P-198の出土遺物

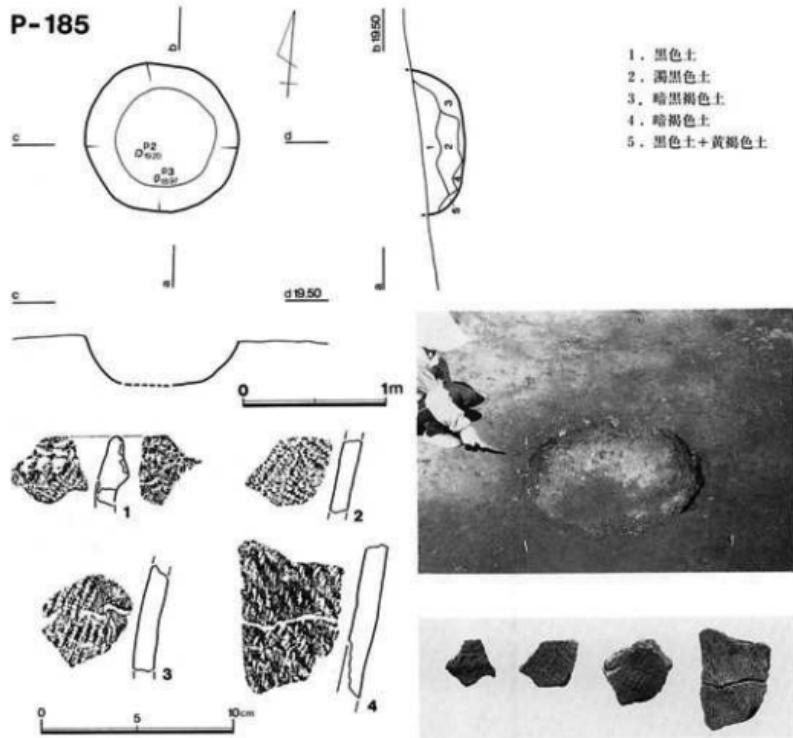


P-198の出土遺物

P-86

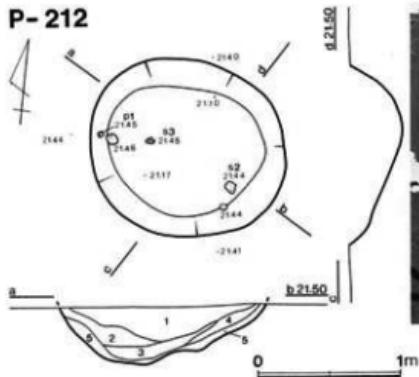


P-185

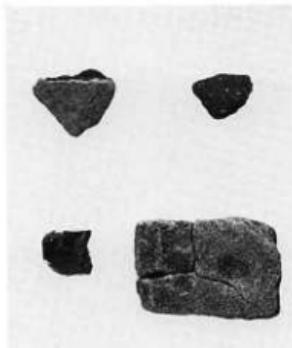
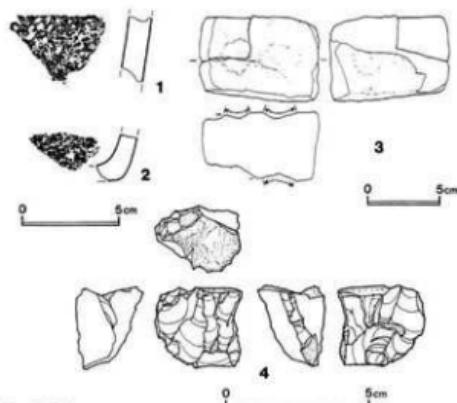


P-86 • P-185

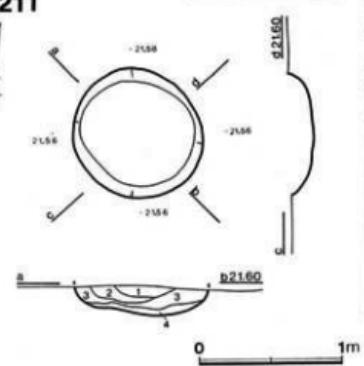
P-212



1. 黑色土
2. 暗褐色土
3. 真黑色土
4. 暗茶褐色土
5. 暗黄色土

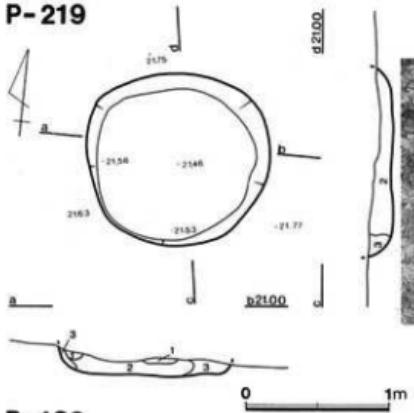


P-211

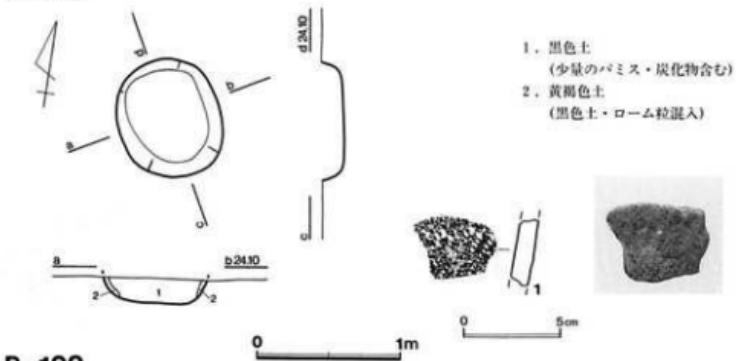


1. 黑色土
2. 暗褐色土
3. 暗黄色土
4. 暗茶褐色土

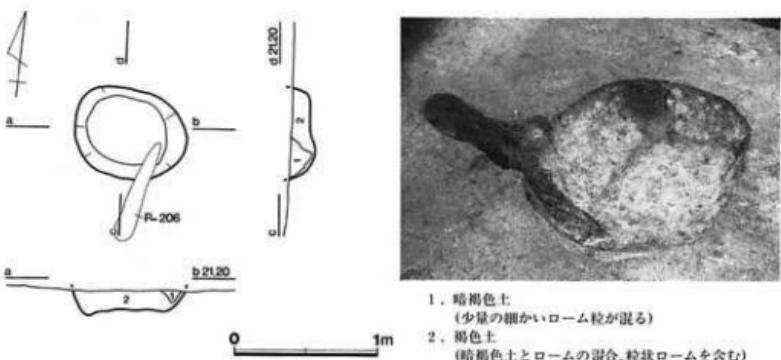
P-219



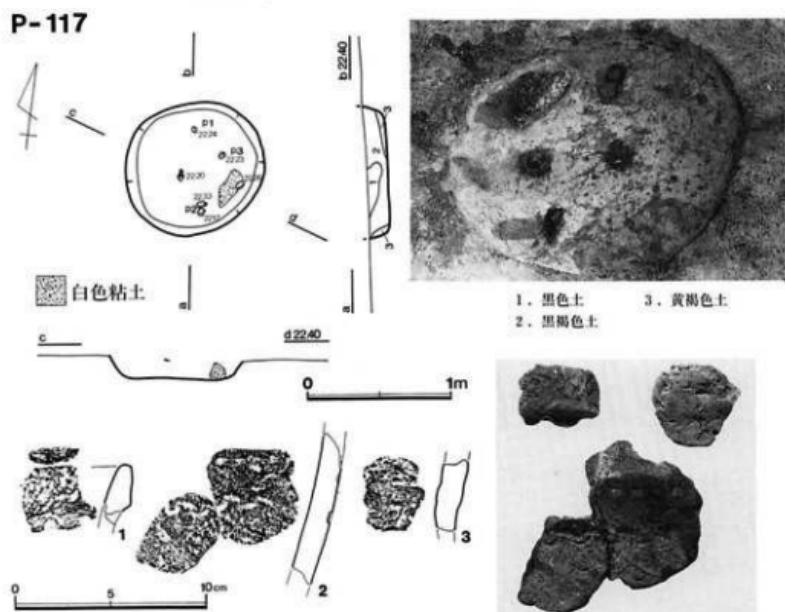
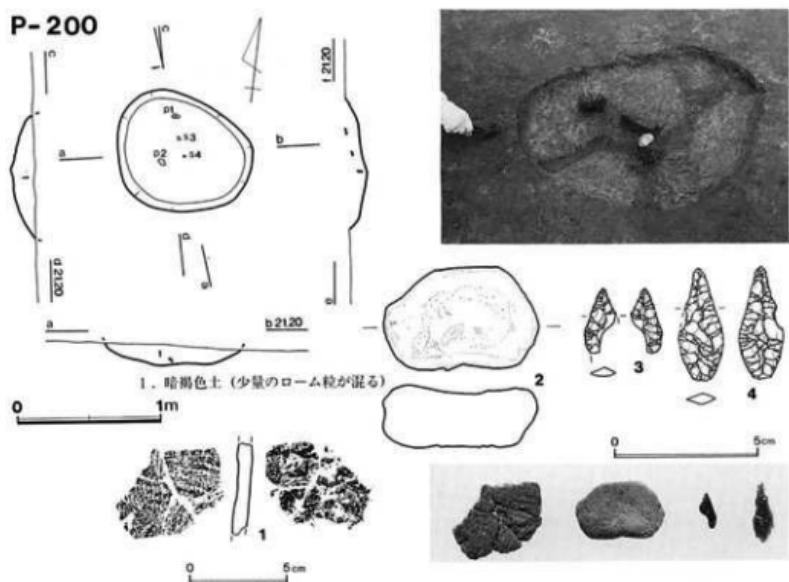
P-163

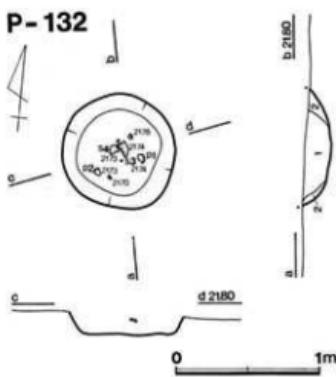


P-199



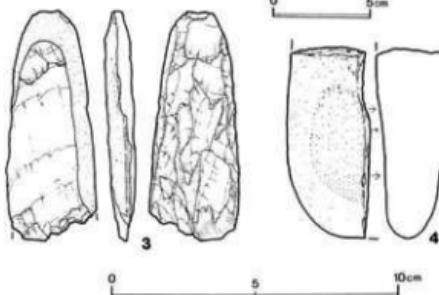
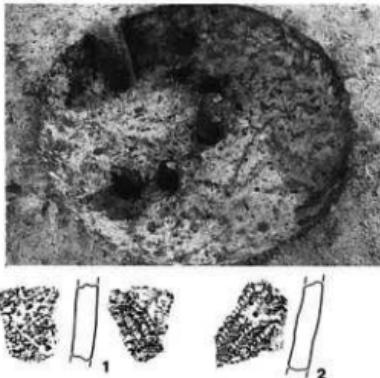
P-219 • P-163 • P-199



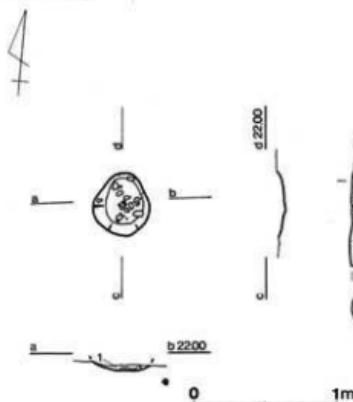


1. 黒色土（少量の褐色土を含む）

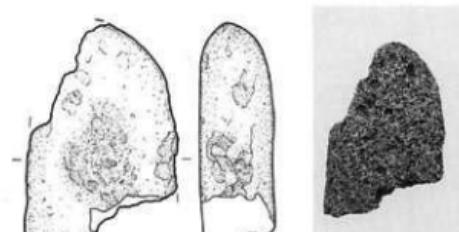
2. 湖色土



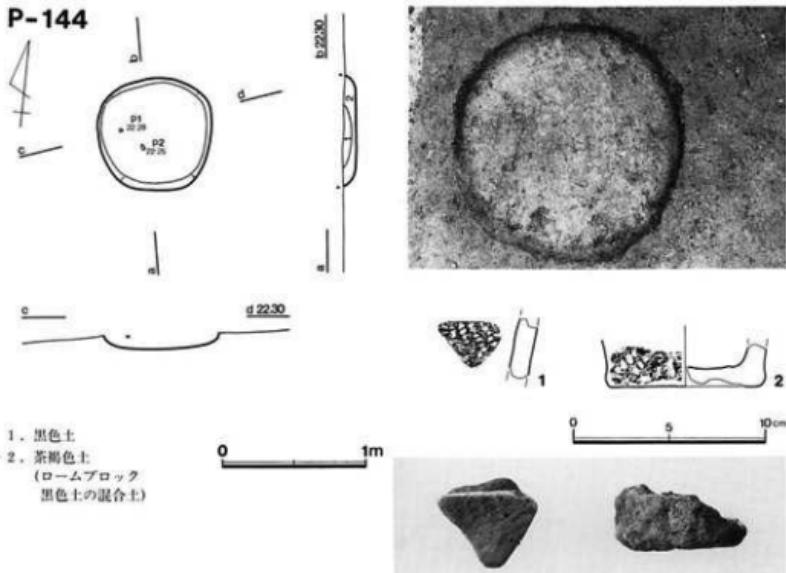
P- 188



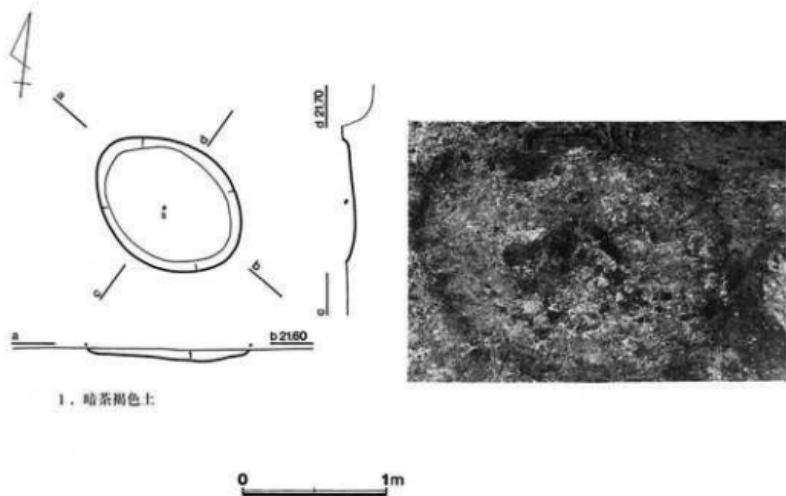
1. 褐色土(木炭粒を含む)



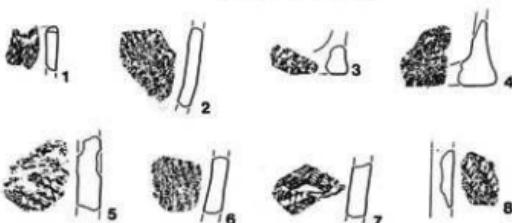
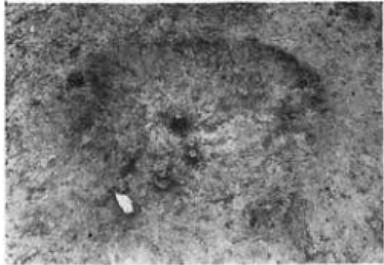
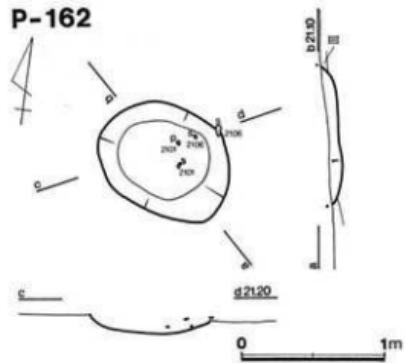
P-144



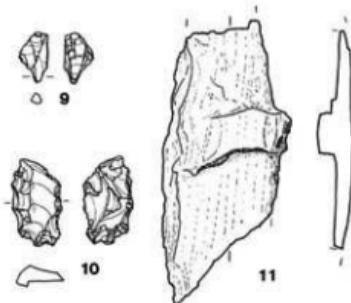
P-148



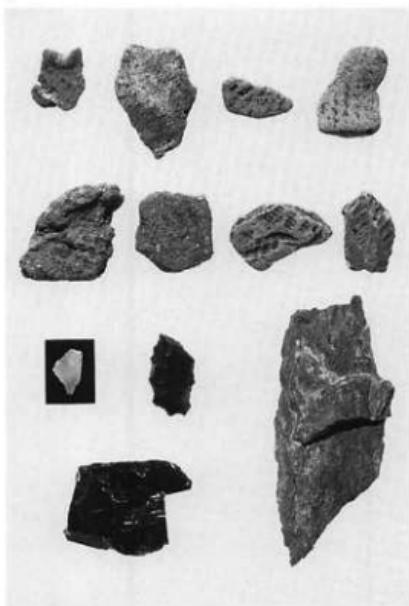
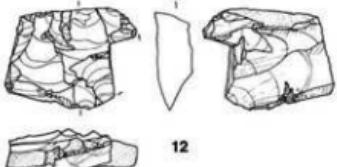
P-162



0 5 10 cm

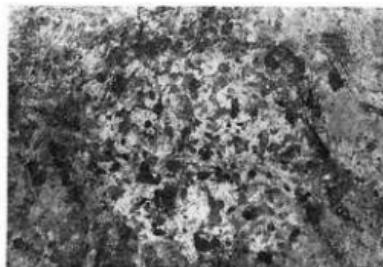
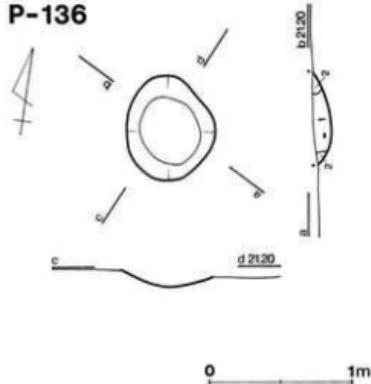


0 5 10 cm

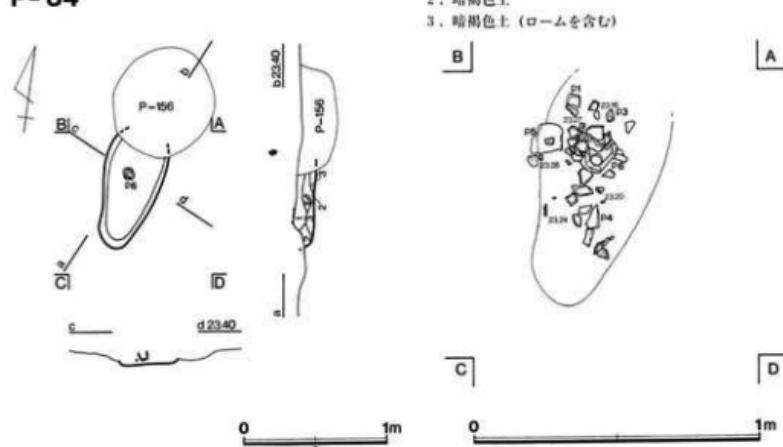


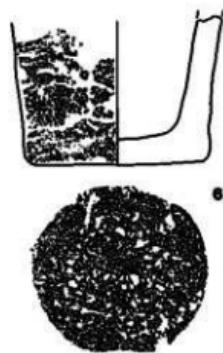
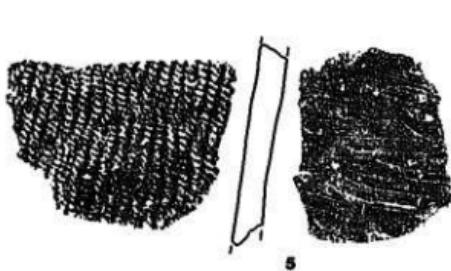
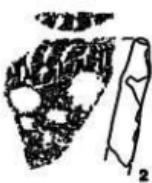
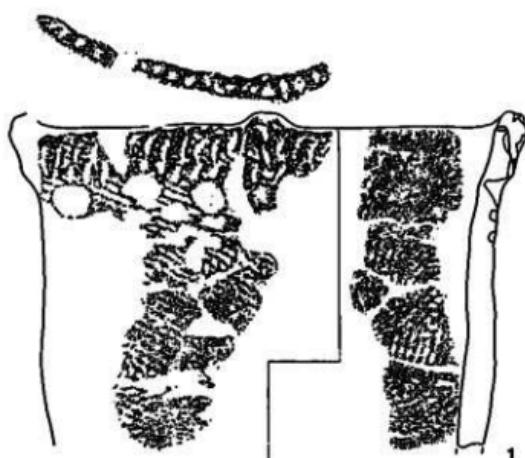
P-162

P-136



P-84





0 5 10 cm

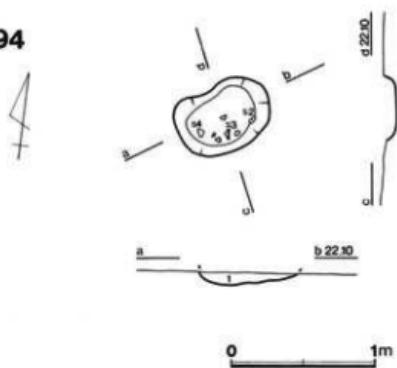
P-84の出土土器



P-84の出土土器

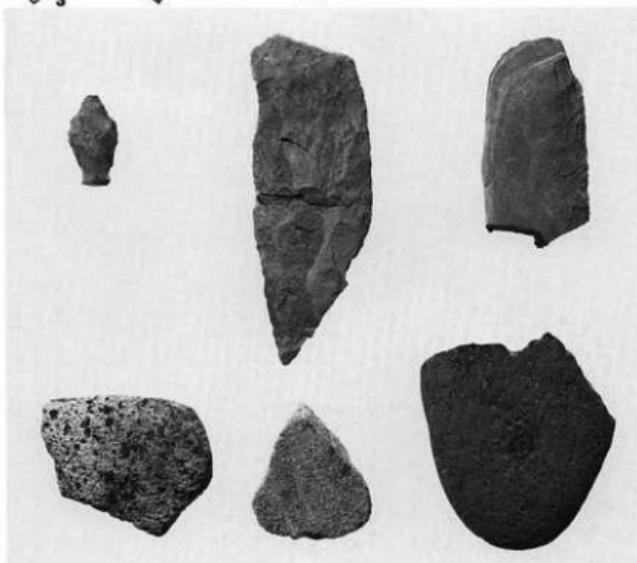
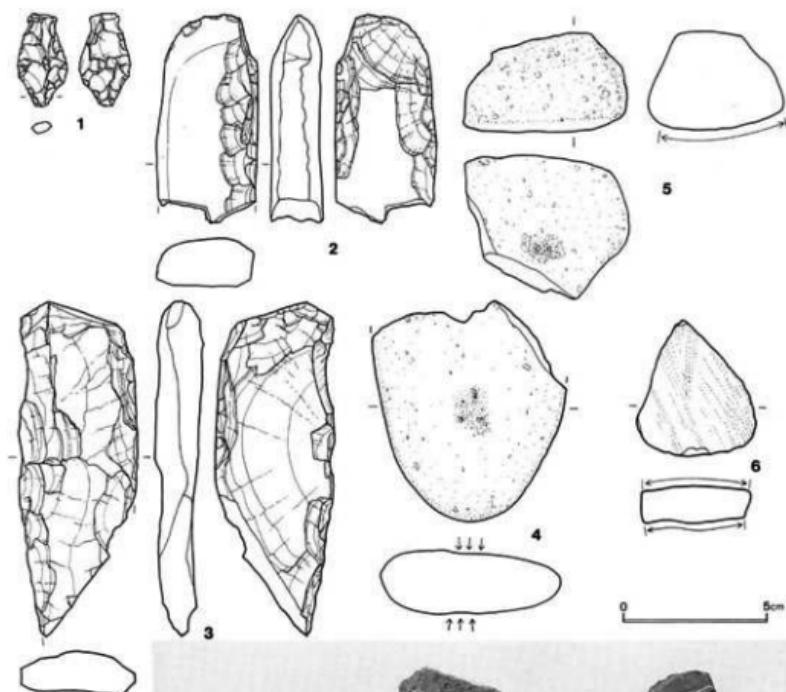


P-194



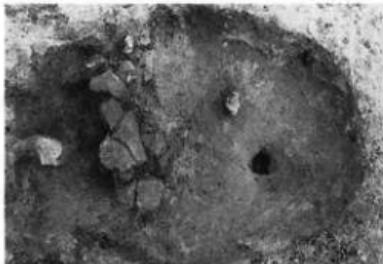
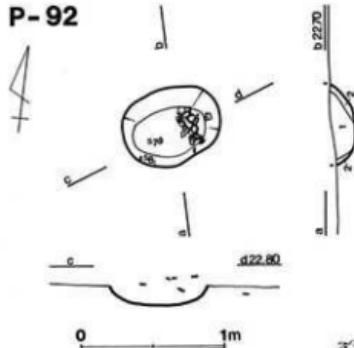
1. 暗褐色土
(木炭を含む)



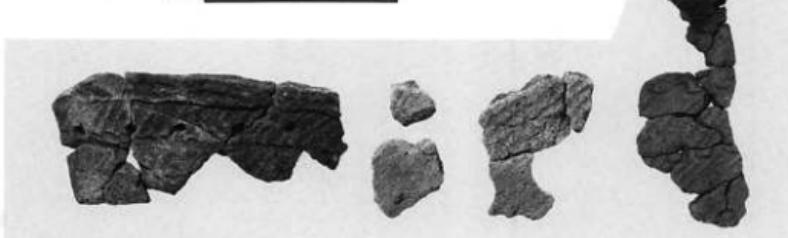
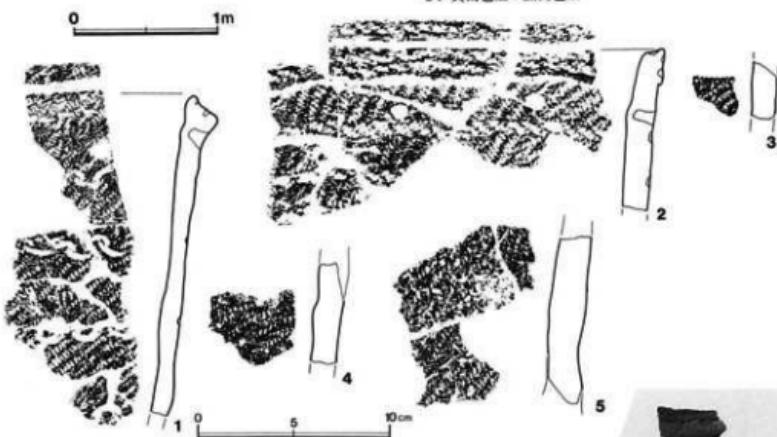


P-194の出土石器

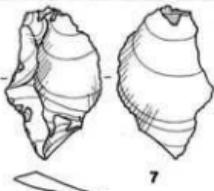
P-92



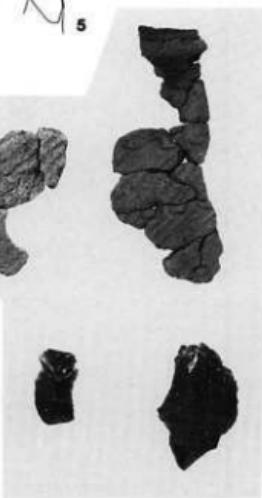
1. 黑褐色土
2. 黄褐色土+黑褐色土



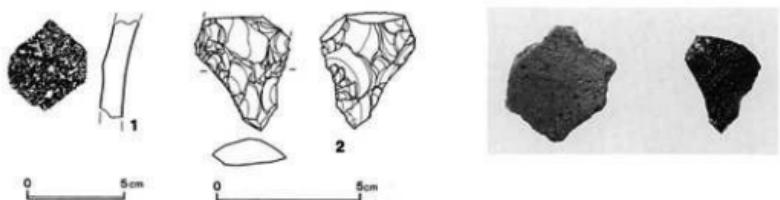
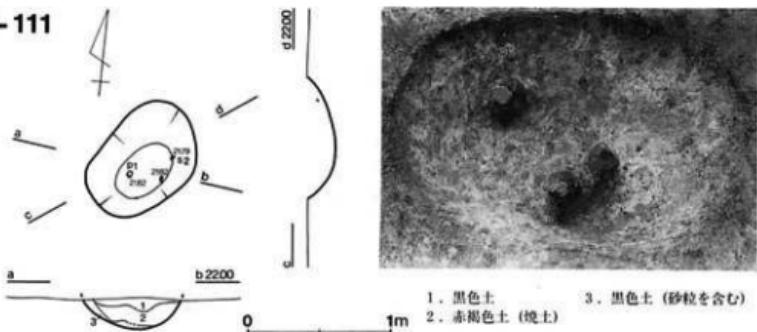
0 5cm



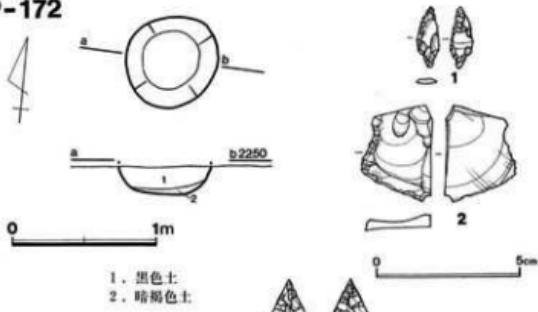
7



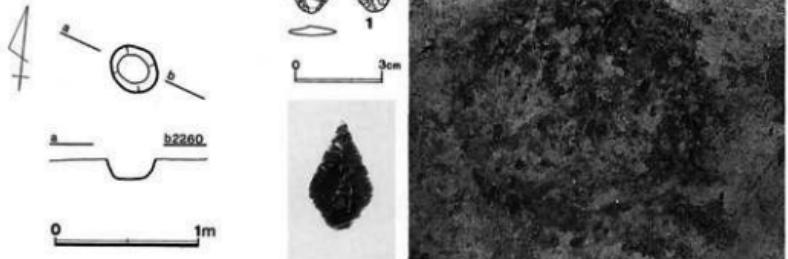
P-111



P-172

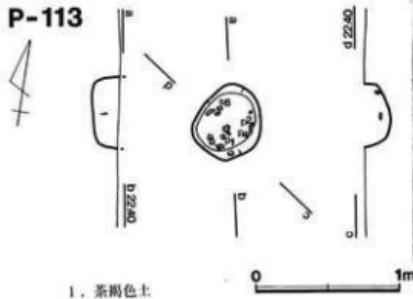


P-173



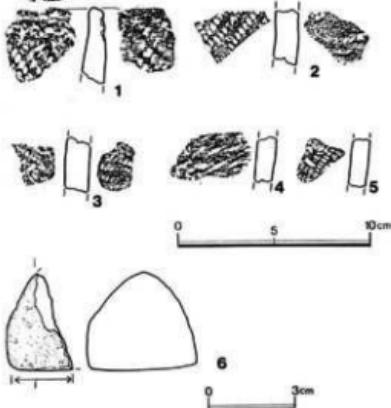
P-111 • P-172 • P-173

P-113

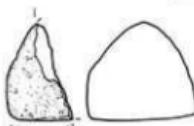


1. 茶褐色土

风化壳

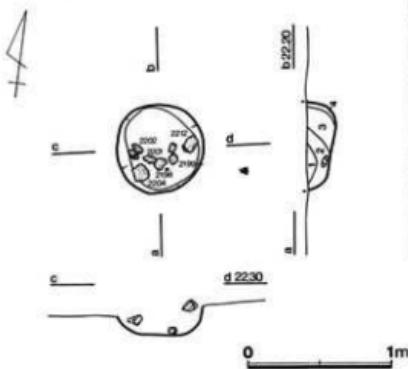


0 5 10 cm



0 3 cm

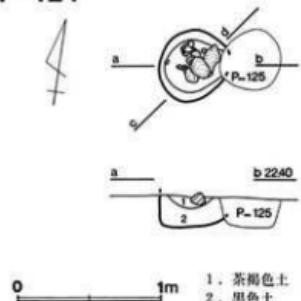
P-109



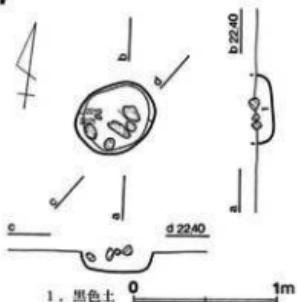
1. 褐色土
2. 黑色土
3. 茶褐色土
4. 黑色土

P-113 • P-109

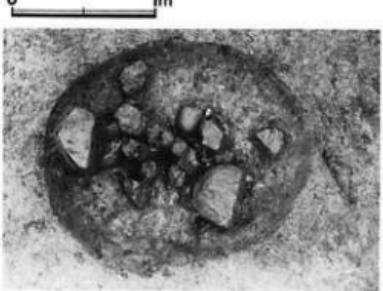
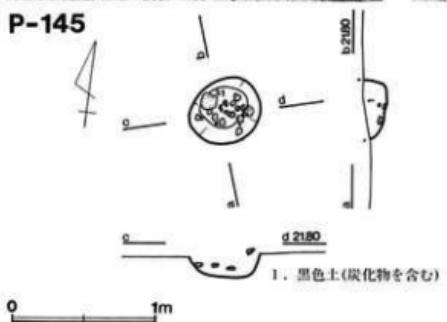
P-124



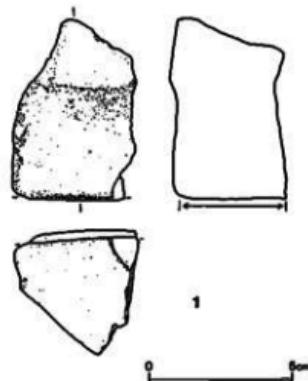
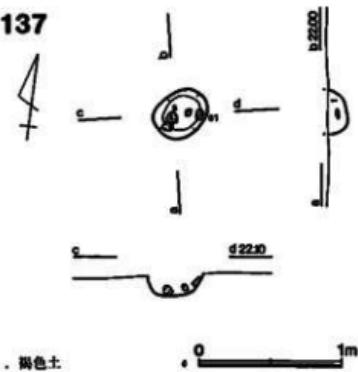
P-127



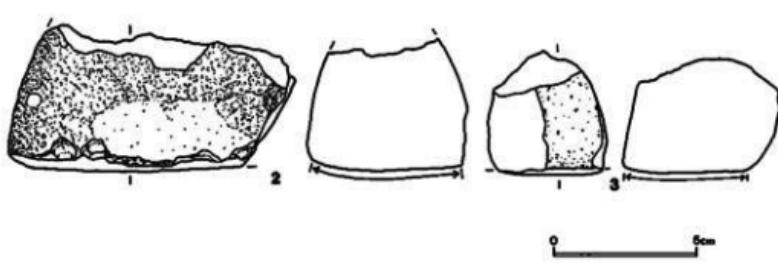
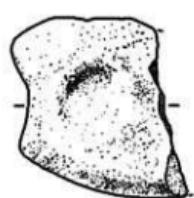
P-145



P-137



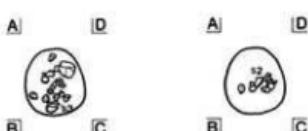
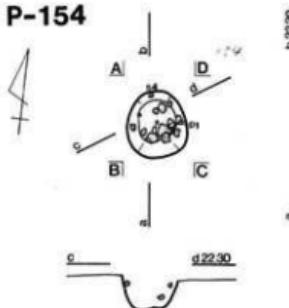
P-140



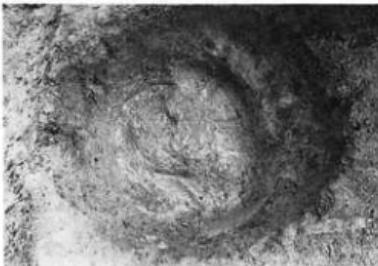
P-137 • P-140



P-154



0 1m

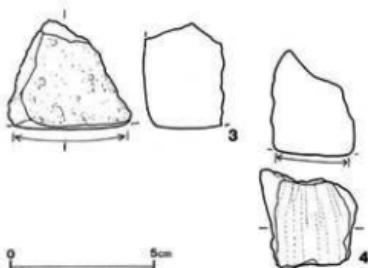
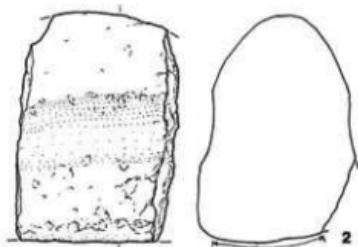


1. 黒色土

2. 茶褐色土(砂を含む、底面付近には炭化物が散在する)

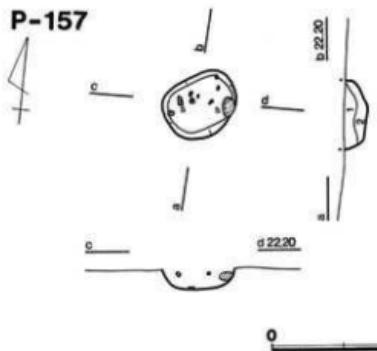


0 5cm



P-154

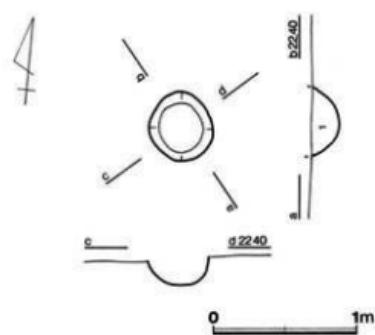
P-157



1. 茶褐色土 (ローム粒を含む)

2. 黒色土

P-159



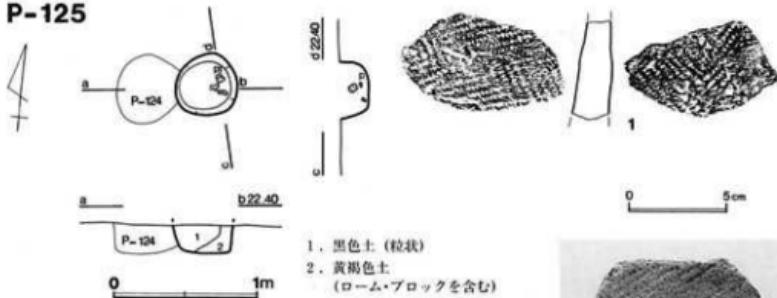
1. 黒色土 (下位に黄褐色ローム混る)



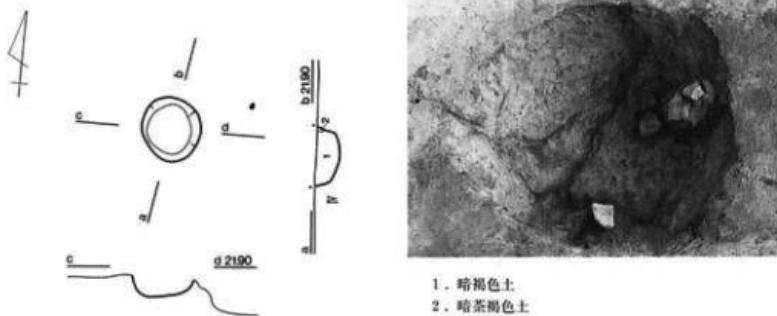
0 5cm

P-157 • P-159

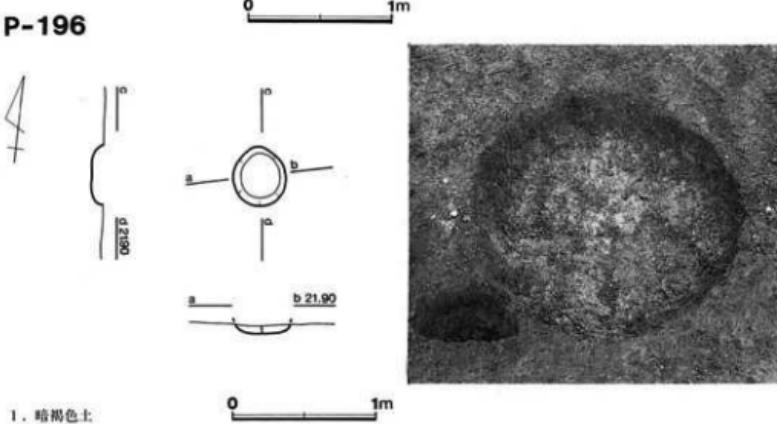
P-125



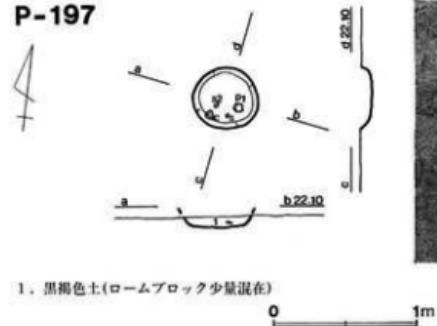
P-192



P-196

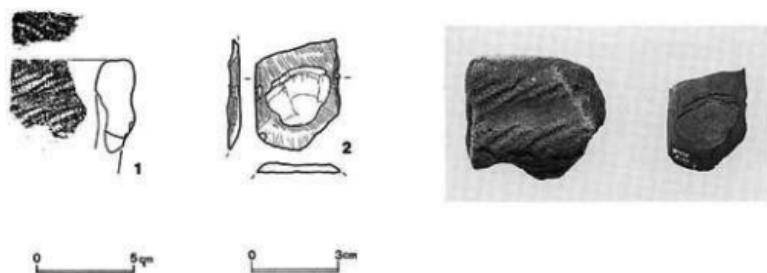


P-197



1. 黒褐色土(ロームブロック少量混在)

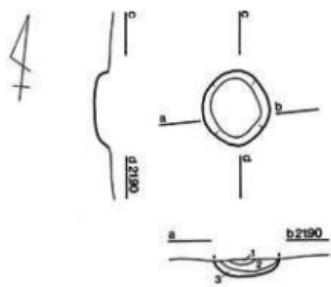
0 1m



0 5cm

0 3cm

P-195



1. 單茶褐色土
2. 黒褐色土
3. 明茶褐色土

0 1m

P-206

調査区の南東側、50-88区に位置する。小型の溝状ピットで、長軸は北を向いている。北側はP-199を切っている。遺物は検出していない。

P-204

P-206の西側に約1m離れた位置に長軸が平行して検出された。1は確認面で検出された有茎の石鐵である。黒曜石を素材にしている。重さは2.1g。

P-205

東側に1.5mと3mの距離にP-204、P-206が位置する。長軸方向は東北東を向いている。

P-207

調査区中央部の南東54-86区に位置する。長軸は北東を向く。遺物は検出していない。

P-209

P-207の北北東約6mに位置する。形態は小型のやや広がった溝状で長軸は北北東に向く。覆土上部に焼土が堆積しているなど、P-208とほぼ同時に掘られたものと推定される。

P-208

P-209の西側に約2m離れた位置に、平行して検出された。1は覆土上部から得られたⅢ群b-3類土器の胴部破片。結束第一種のある羽状縄文地に付加された、押引きの刻まれたX字状の貼付文が倒落したと判断される痕跡がみられる。他に疊1点、黒曜石剝片5点が出土した。

P-201

54-87区に位置する。長軸は北西を向き、北西端の壁はP-202に切られている。1・2は覆土から得られた、Ⅲ群b-3類土器の胴部片である。ともに摩耗が進んで、文様などは不明瞭だが、単節の斜行縄文が施されたものである。他に疊1点、黒曜石剝片8点が出土した。

P-202

長軸は東北東を向き、東側はP-201を切っている。遺物は検出していない。

P-203

P-201の南南東約0.5mの位置に検出された。長軸は西北西に向く。遺物は覆土1から検出した。1は覆土から採集された、Ⅲ群b-3類土器の破片である。摩耗が進んで、縄文が消失寸前だが、地文は羽状縄文と思われる。裏面には黒色炭化物が厚く付着している。他に黒曜石剝片1点が出土した。覆土の堆積状態などからP-201と同時期のものと推定される。

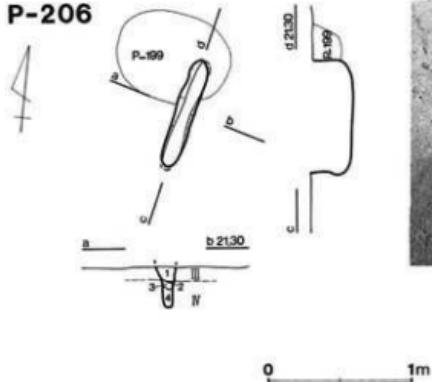
P-210

55-87区で検出された。長軸は北東を向く。遺物は検出していない。

P-213

51-88区で検出された。長軸は西北西を向く。1・2は覆土出土のⅢ群b-3類土器で、ともにかなり摩耗している。1は縫縦文と平窓による押引文がある肥厚帯片。2の地文は不明。土層観察、遺物の出土状態などから、他の溝状ピットと違い埋め戻されている。中央北側覆土1と3の間に黒曜石剝片208点がまとめて出土した。これらの剝片は廻収されたと考えられる。

P-206

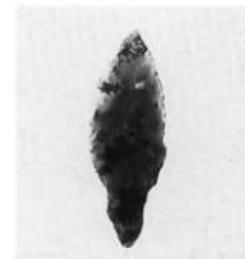
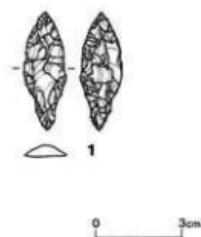


1. 黒褐色土
2. 暗褐色土
3. 黒色土
4. 困暗褐色土
(ローム細粒を少量含む黒色土)

P-204

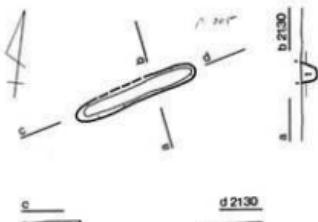


1. 黒色土(ローム粒を含む)



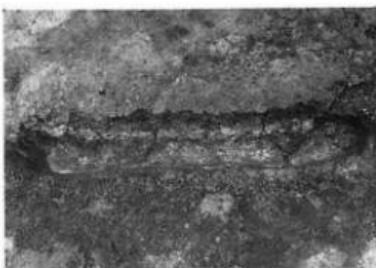
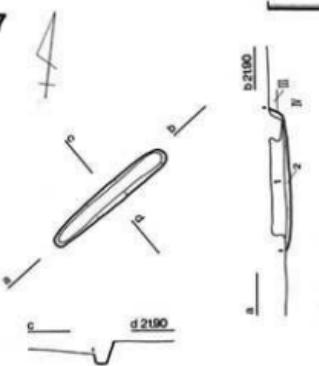
P-206 · P-204

P-205



1. 黒色土

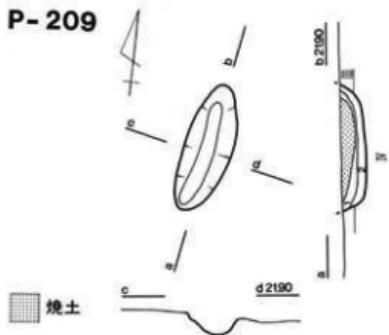
P-207



1. 茶褐色土
2. 黄茶褐色土

0 1m

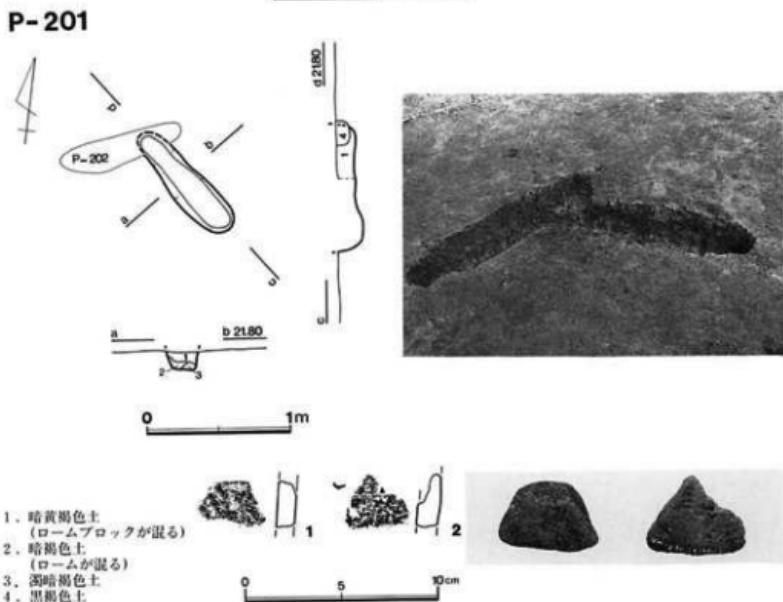
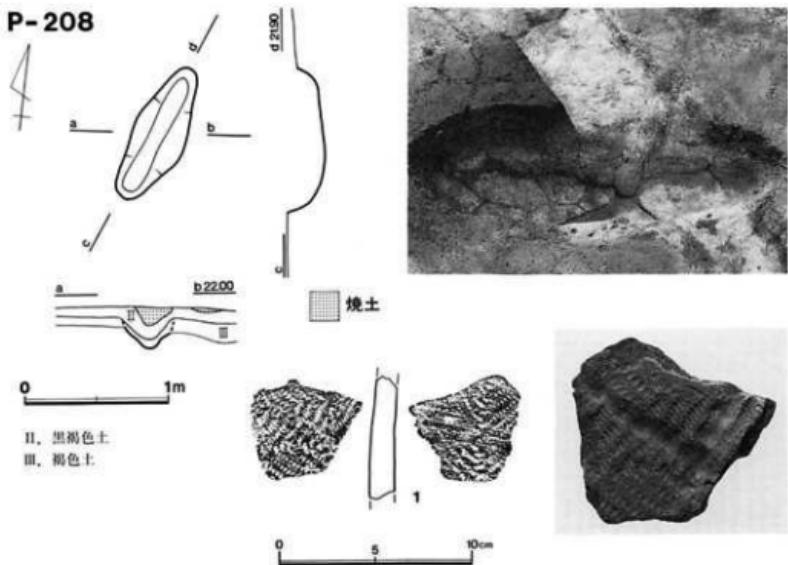
P-209



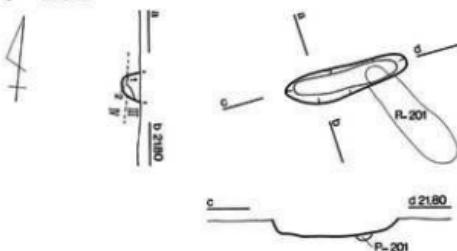
1. 黑褐色土
2. 暗茶褐色土(ローム粒混る)

0 1m

P-205 • P-207 • P-209



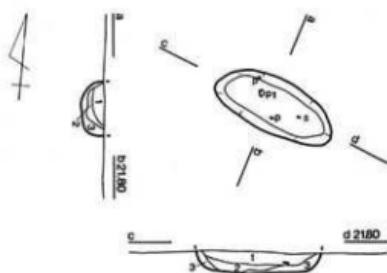
P-202



1. 黒褐色土
2. 暗褐色土
(少量のローム粒を含む)

0 1m

P-203



1. 黒褐色土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土

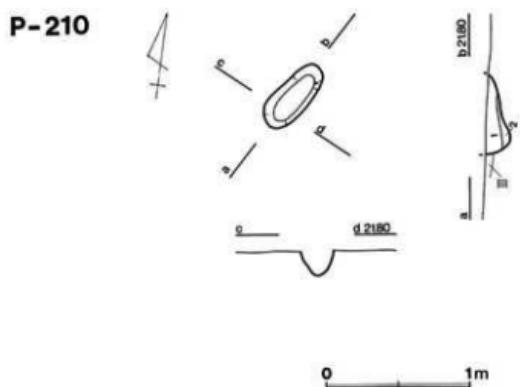
0 1m



0 5cm

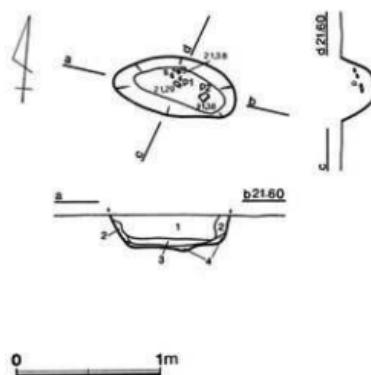
P-202 • P-203

P-210

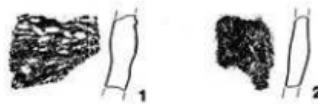


1. 茶褐色土
2. 暗褐色土

P-213

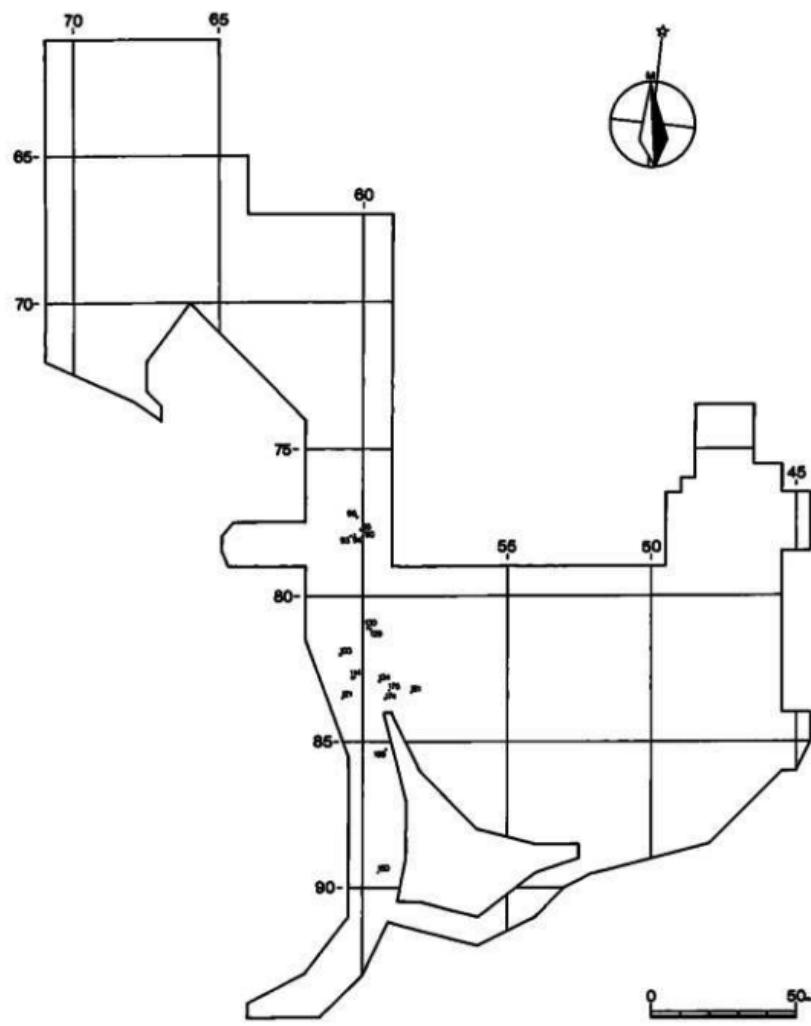


1. 黒色土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土(黄褐色土粒を含む)
4. 暗褐色土



0 5 10cm

P-210 • P-213



縄文晩期の造構位置図

3. 縄文晩期の遺構

縄文晩期の遺構には多量の礫などが入った土壌と土器片などの入った土壌がある。前者には割れた石皿の入った土壌（P-181）、石皿と礫の入った土壌（P-134・158）と、割れた礫の入った土壌（P-121・150）がある。後者にはP-94・95・175のように土器片が検出された土壌などがある。

P-181

調査区の中央部、58-83区に位置する。坡底から覆土にかけて3~5個体の石皿を54個に碎いて入れている。全て安山岩を用いている。図示したものは、それらのうち使用痕・加工痕のみられるものである。1は表裏に縄文の施された胴部片。やや厚手で焼成は堅緻、黄灰褐色を呈する。IV群a類であろう。石皿の重さは、2-1,000g、3-640g、4-87.8g、5-110.4g、6-112.6g、7-190.7g、8-665g、9-641g、10-352.6g、11-1,947g、12-293g、13-123.4g、14-268.7g、15-180.9g、16-298.1g、17-1,582g、18-489.8g、19-670g、20-268.6g、21-83.7g、22-190g、23-710g、24-816g、25-503g、26-1,207g。

P-134

59-82区に位置し、西北西に約11m離れてP-181がある。坡底から覆土にかけて割れた石皿と礫を40点検出した。1~4は石皿。全て安山岩を用いている。各々の重さは1-2.9kg、2-2.4kg、3-1.65kg、4-1.25kg。

P-158

59-85区に位置する。坡底から覆土にかけて石皿と礫を27点検出した。1は石皿。安山岩を用いている。重さは6,490g。他の礫はすべて円礫である。

P-121

P-134の西南西に約13m離れた60-83区で検出された。坡底から上部に礫を57点検出した。

P-150

調査区南側の59-89区に位置する。坡底から覆土にかけて割れた礫を32点検出した。

P-96

調査区中央の60-77区で検出された。覆土出土の1は土器片だが、表裏が剥落している。

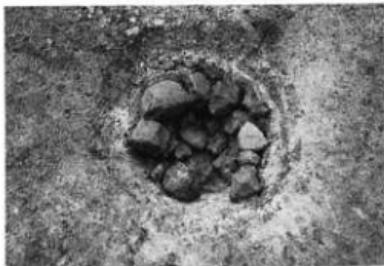
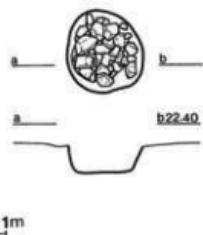
P-95

P-96の北北東約4mに位置する。坡底から土器を検出した。いずれもV群c類。1は山形の突起部が1ヶ所現存する浅鉢形土器で、突起下に楕円の窓が穿てており、口唇の内側には縄文が、外側には縄による刻みが加えられている。底はやや丸く不安定。2は沈線が描かれた薄手の口縁片。3・4は壺形土器の破片で、口唇の内外に縄による刻みがあり、半截竹管状工具を利用した平行沈線文と連続刺突文がみられる。5・6は別個の胴部片で、7はやや丸底的。

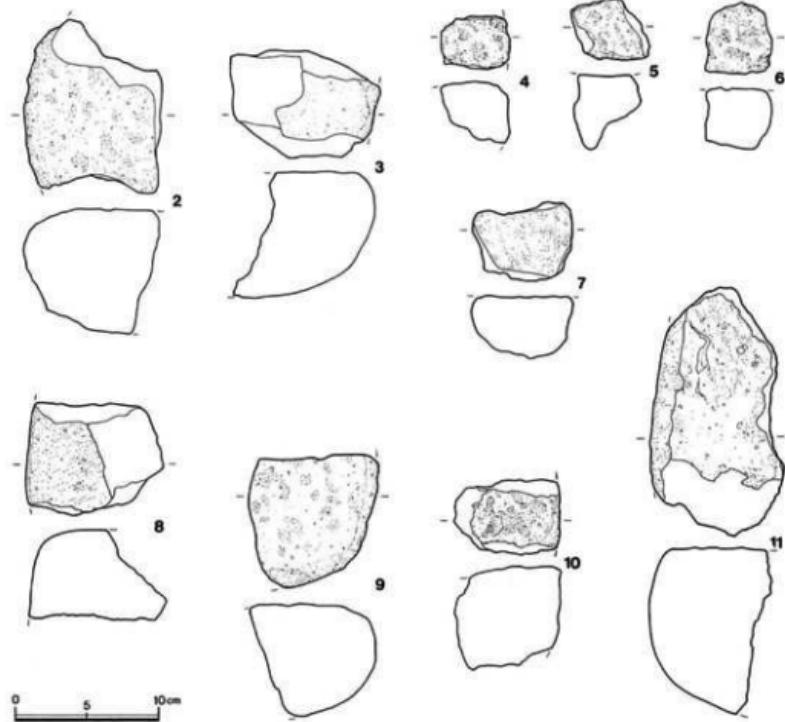
P-94

P-95から南西に約2m離れて検出された。坡底に近い覆土から土器を検出した。1は直状に開く深鉢形土器の口縁片で、4本の平行沈線文がめぐるほか、切出し状につくられた口唇内

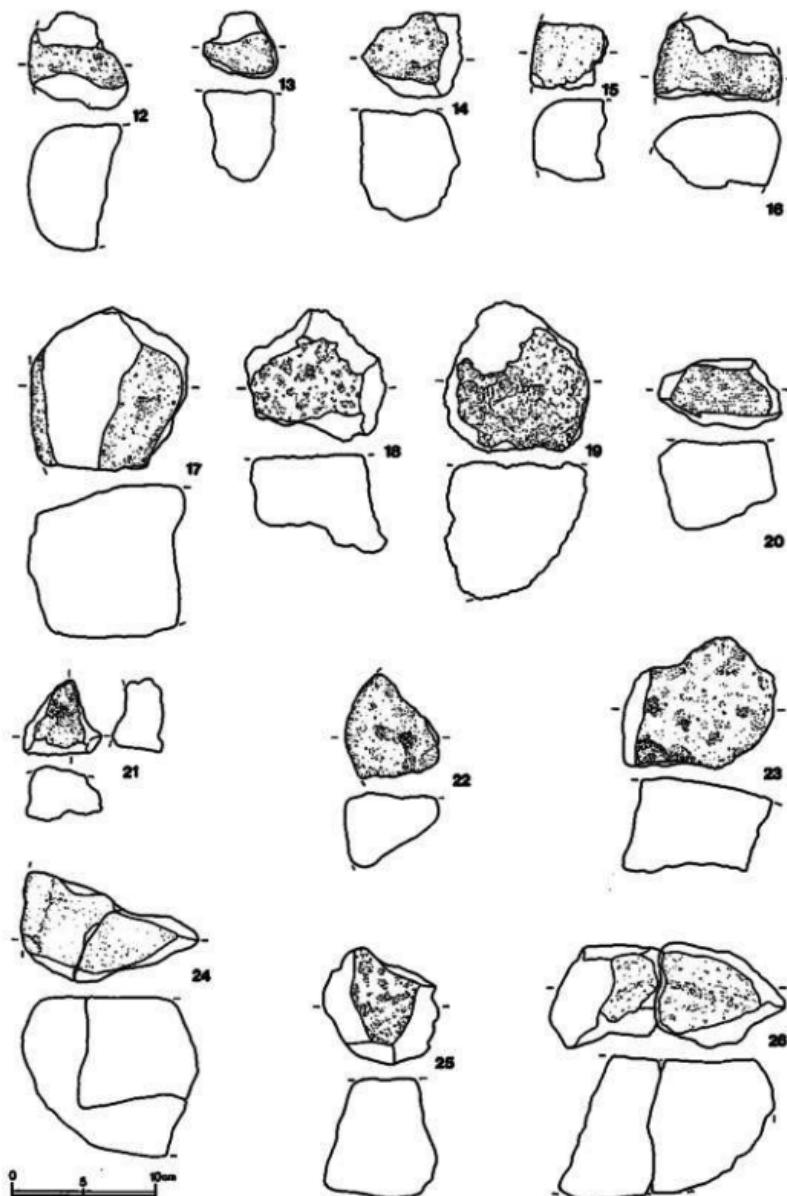
P-181



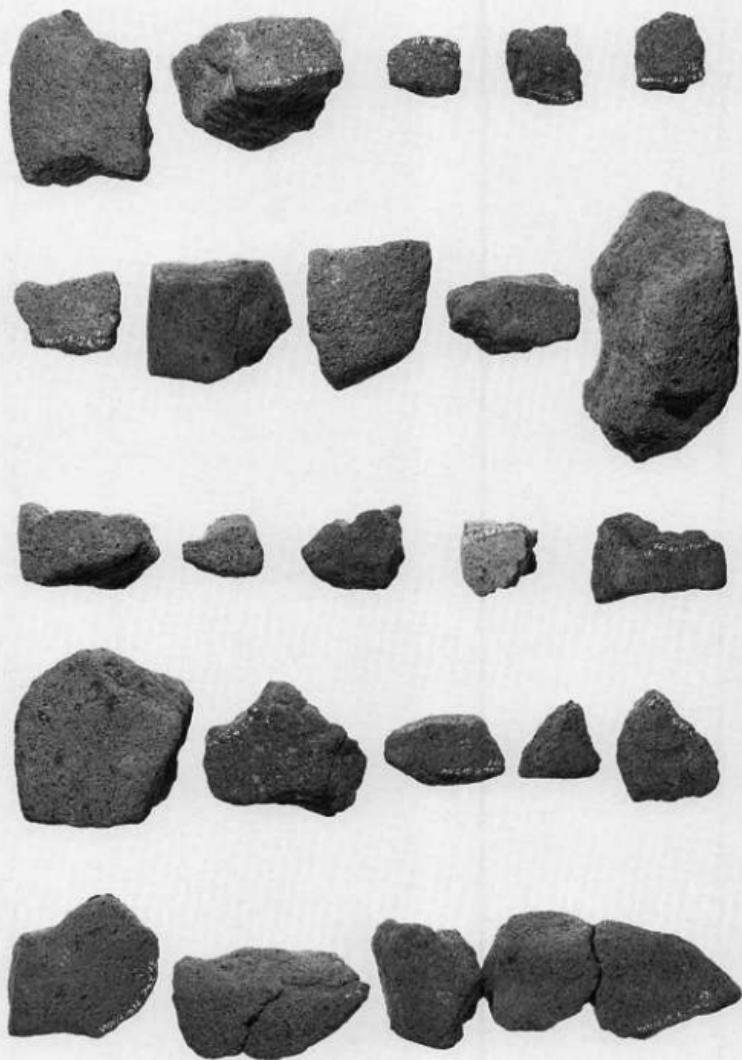
0 5 cm



P-181

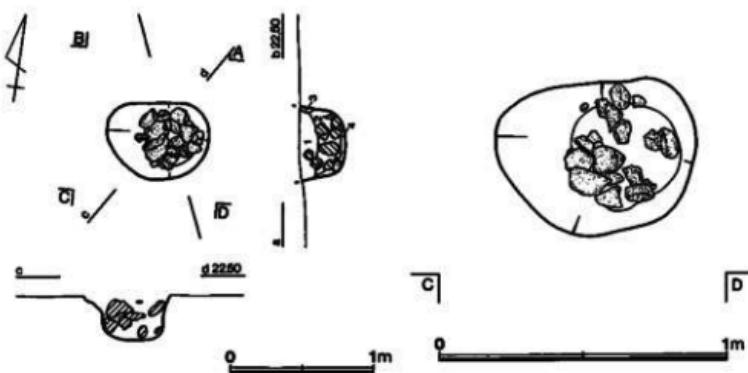


P-181の出土石器

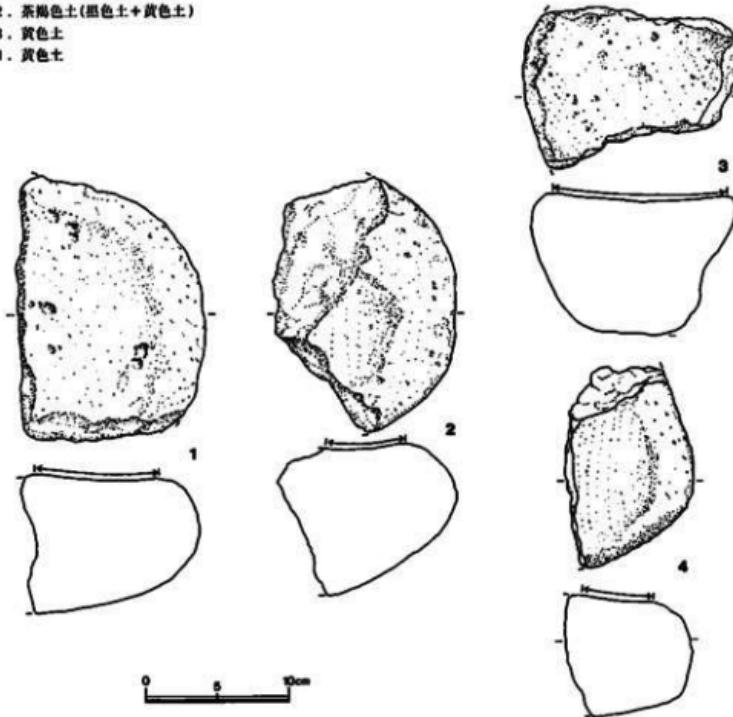


P-181の出土石器

P-134

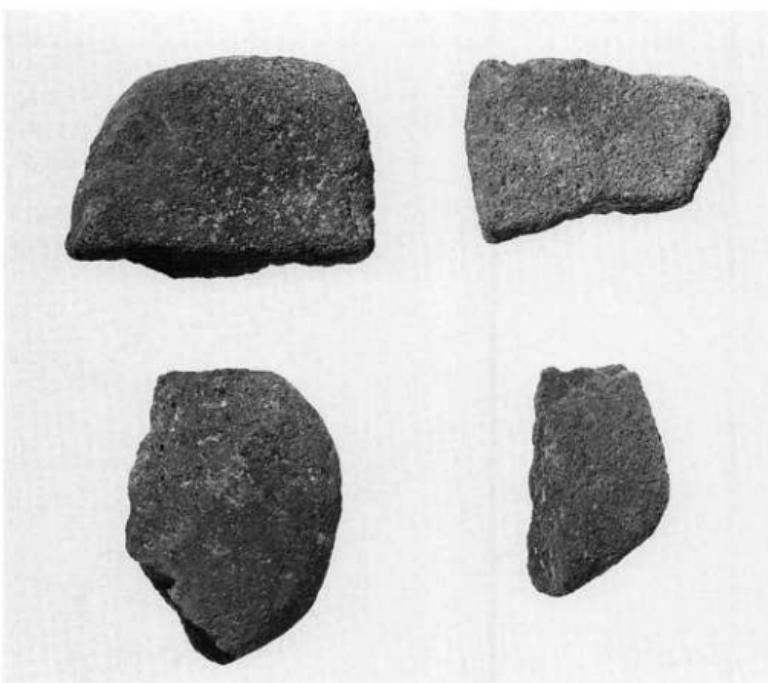


1. 黑褐色土(炭化粒を含む)
2. 茶褐色土(褐色土+黄色土)
3. 黄色土
4. 黄色土



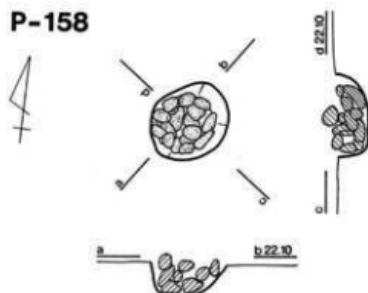
P-134

139

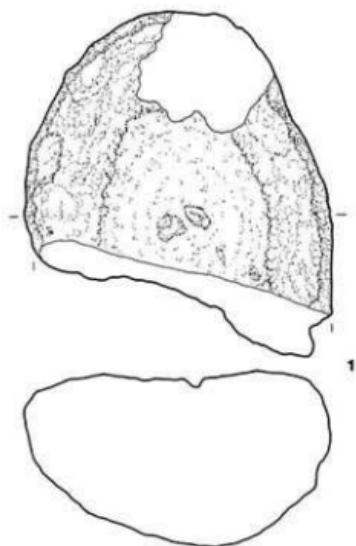


P—134

P-158



0 1m

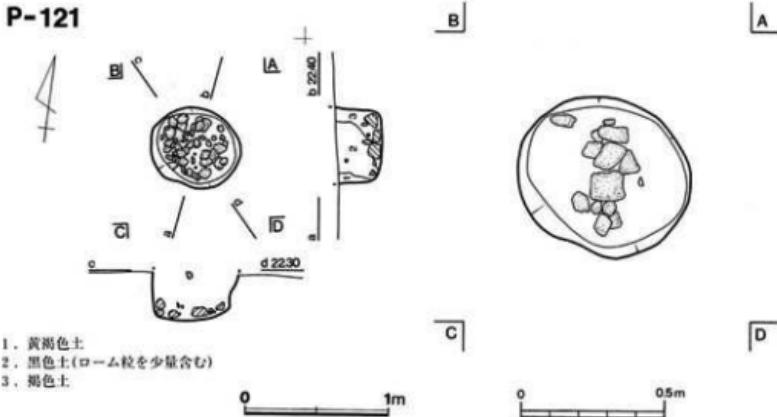


0 5 10cm

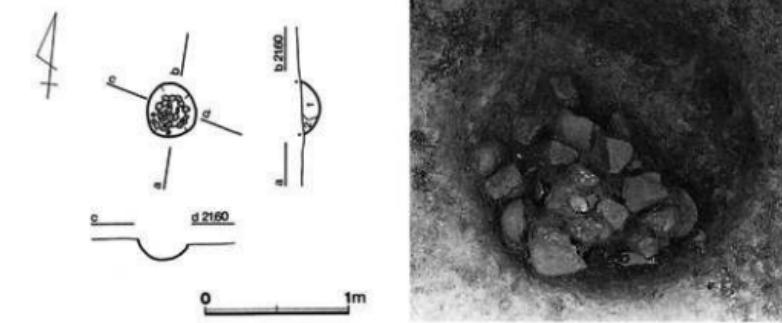


P-158

P-121



P-150



P-121 • P-150

側には縄文が、外側には丸棒状工具による刻みが施されている。2はやや厚手の口縁部の破片で、横位の沈線文と刺突文列がみられる。ともにV群c類。他に壇底から礫を2点検出した。

P-93

P-94の西南西側約1mの距離に位置する。遺物は検出していない。

P-90

P-95の南側に約8m離れた60-78区に位置する。壇底は丸味をもつ。1~5は壇底付近から検出された同一個体のV群c類土器。頂部に押圧の加えられた幅広の突起があり、平行沈線文と連続刺突文がめぐる口縁下には、連続刺突文に区画された指頭幅の無文帯がみられる。

P-129

調査区の中央59-81区に位置する。覆土1に炭化物とロームブロックが認められた。1・2は壇底近くに見出されたV群c類土器。1は浅鉢形で、口唇内側に刻みが加えられたもの。2は別個体の胴部片。3は覆土上部出土の摩耗したⅢ群b-3類土器。4は石斧。素材は泥岩を用い、打ち欠きと研磨による成・整形がみられる。刃部の欠けた綫縫は摩耗しており使い込まれたものであろう。裏面は剥落している。重さは42.5g。他に礫と黒曜石剝片各1点が出土した。

P-130

P-129の10cm西側に隣接する。覆土上部から2点のV群c類土器が検出された。1は口唇内側に5段の撓絆压痕文、刺突文そして縦位の沈線を刻む口縁片。2は単節斜縄文のある破片。

P-103

調査区中央の60-82区に位置する。1は覆土から得られたV群c類土器の口縁片で、切出し状につくられた口唇内側に撓絆压痕が継に並ぶもの。他に礫1点、黒曜石剝片2点が出土した。

P-114

P-103の北東約8mに位置する。覆土からV群c類土器の破片が検出されている。1は内面に撓絆压痕文、刺突文、刻線をもつ口縁片。2~3は口縁部の破片で、沈線による文様が描かれている。3は薄手。5・6はやや摩耗の進んだ胴部片。他に黒曜石剝片4点が出土した。

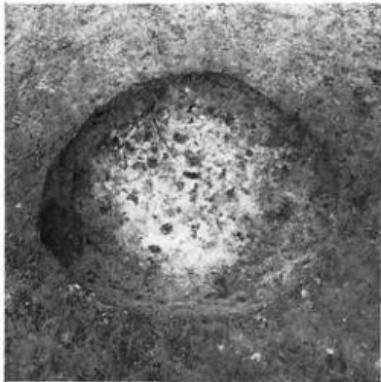
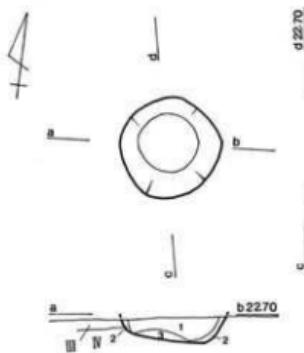
P-175

調査区の中央部59-83区で検出された。土器片が、確認面から壇底にかけて斜めに検出された。1はV群c類の口縁片。渦巻状の撓絆压痕文を付した突起があり、突起下には押圧の刻まれた綫の貼付帯が連結、貼付帯や幅広の無文帯に沿って竹管を利用した刺突文列が加えられている。2・3はⅣ群の、4はⅢ群b類の破片であろう。他に覆土から黒曜石剝片3点が出土した。

P-174

P-175の南南西に約2.5m離れて検出した。壇底には一面に炭化物がみられた。覆土から土器片23点と黒曜石剝片6点、片岩剝片1点が出土し、壇底からはめのう原石1点が出土した。1~6はV群c類の破片。1・2は幅広の沈線によって器面に鉛戸状の効果がみられる口縁片で、口唇内側にも縄文があり、口縁上部と文様帯の下端とに、平範による刻みが加えられている。6は薄手の底部片でかなり摩耗している。7~8はⅢ群b-3類の摩耗した小破片。

P-96



0 1m

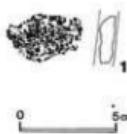
1. 黒色土

(ロームブロック少量混じる
木炭混入)

2. 黄褐色土

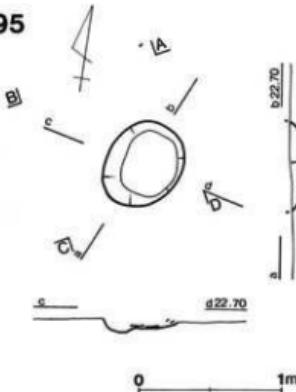
(ロームブロック、ローム粒が
多く混入上部に木炭多し)

3. 茶褐色土



0 5cm

P-95



B

A



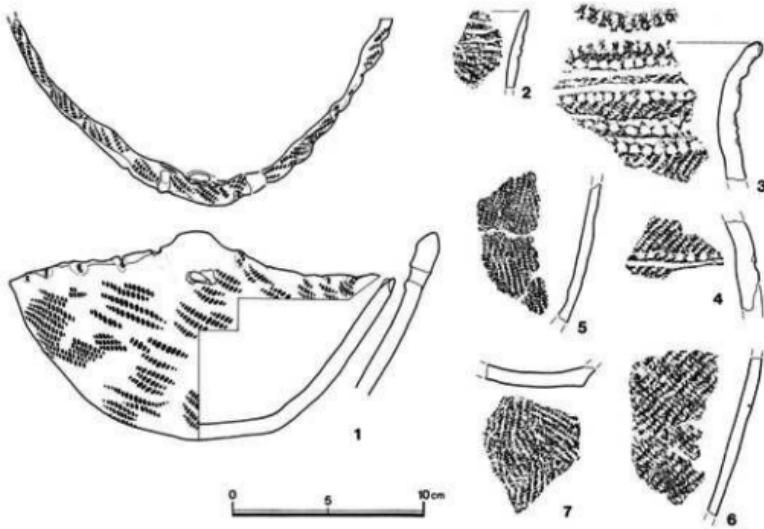
Rocks

C

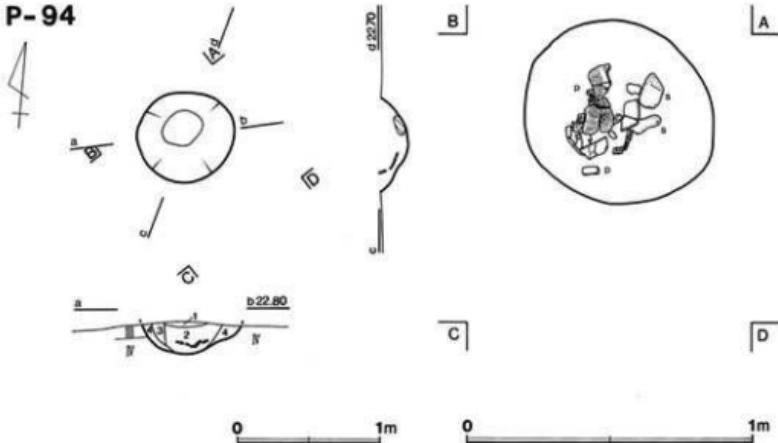
D

1. 黒色土(多少黄色味帯びる。下部は
ロームブロック、ローム粒混じる)

0 1m



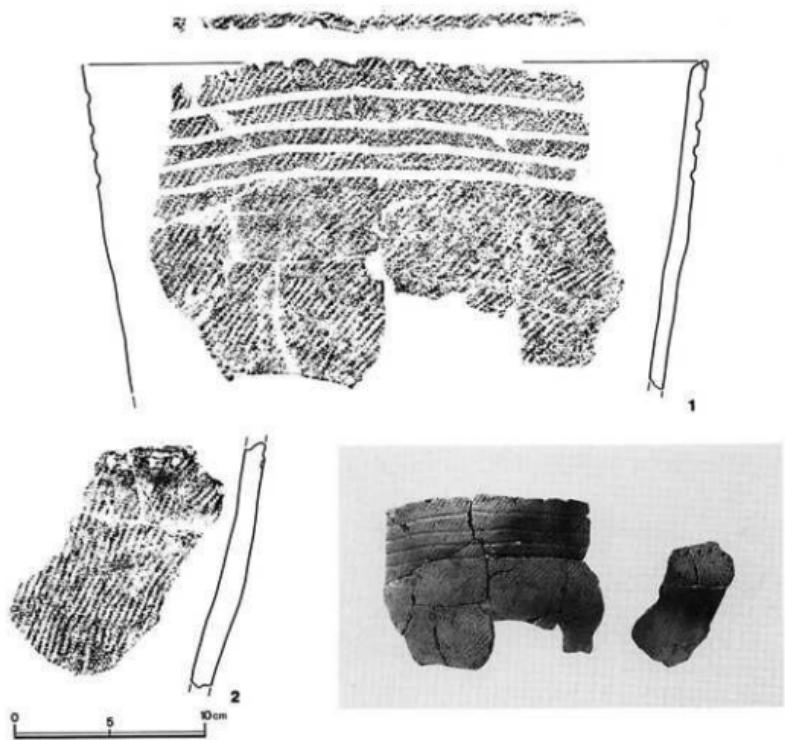
P-94



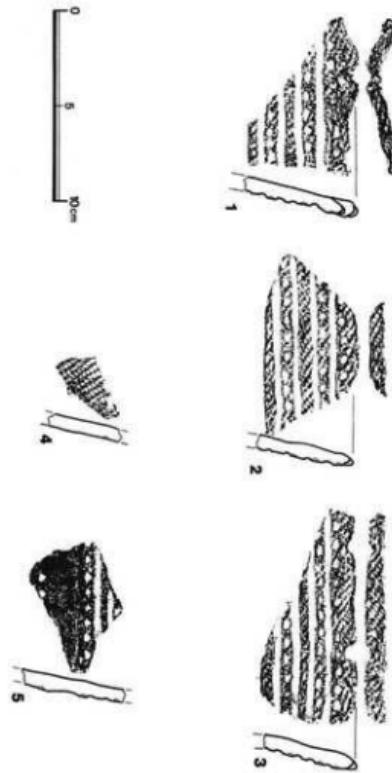
1. 黒褐色土(バラバラしている)
2. 黒褐色土(1層より明るい)
3. 暗褐色土(2層+ロームブロック
(下部にロームブロックを多く含む))
4. 黄褐色土(ロームブロック多く含む)



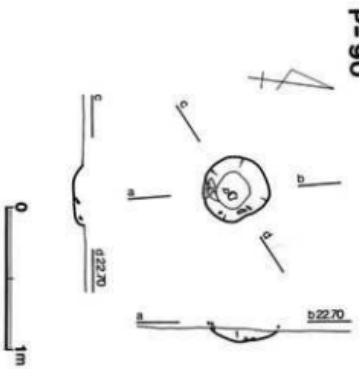
P-94



1. 黒褐色土(ローム粒少量混じる)
2. 黄褐色土(上部にオレンジ色の粒子を含む)

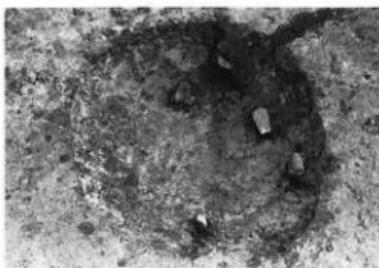
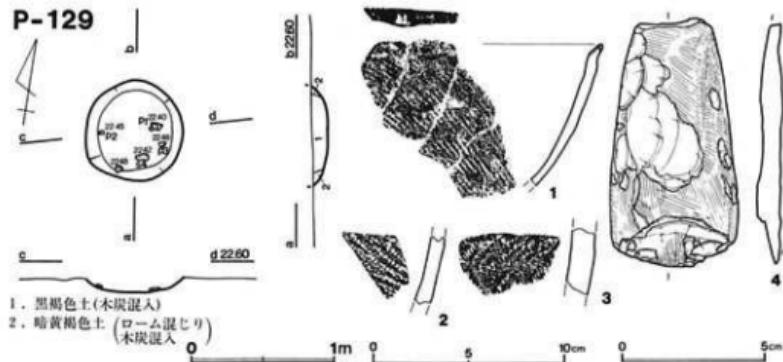


1. 黑褐色土

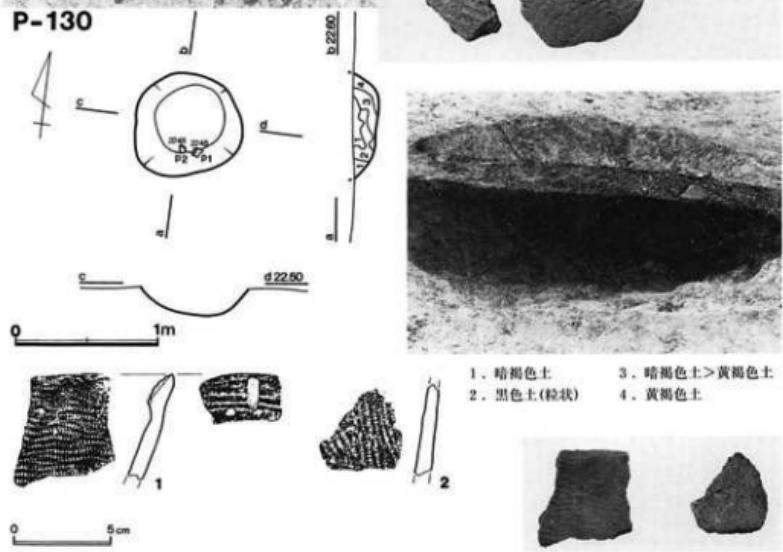


P-90

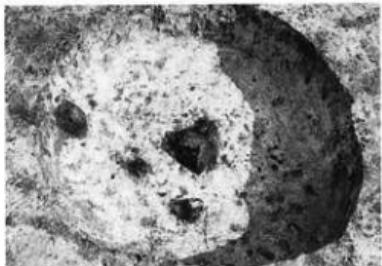
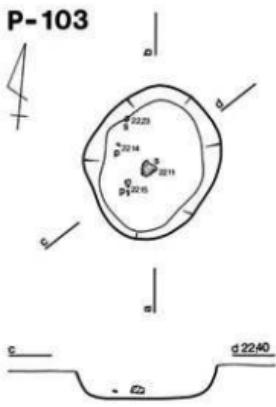
P-129



P-130

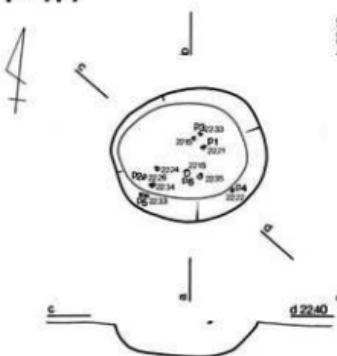


P-103



0 5cm

P-114



1. 黒色土(粒子が細い)
2. 黄色土(しま状に入る)

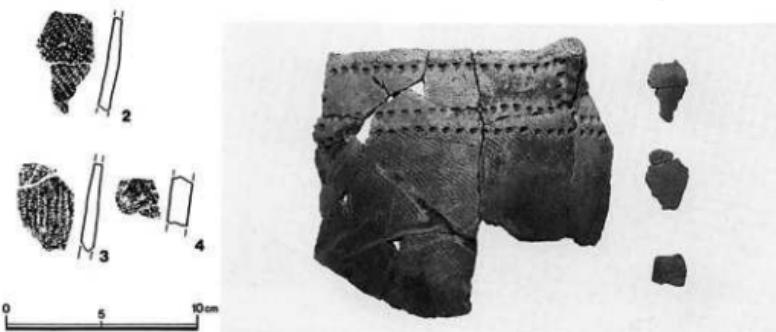
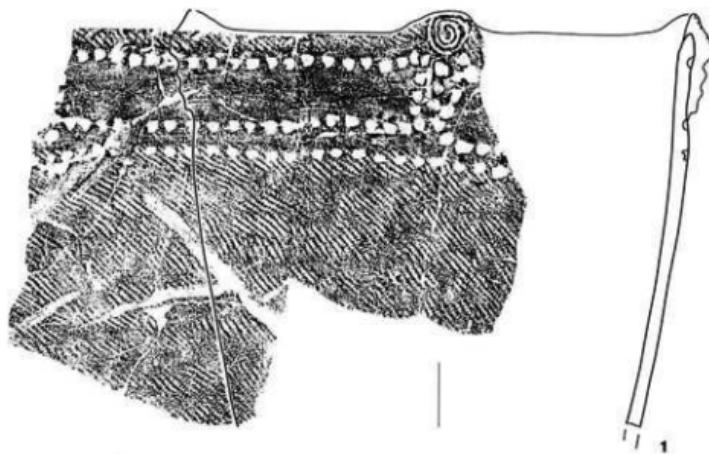
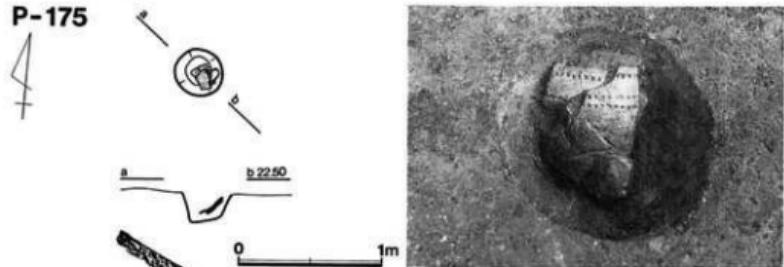
0 1m



0 5 10 cm

P-103・P-114

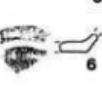
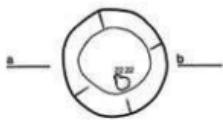
P-175



P-175

151

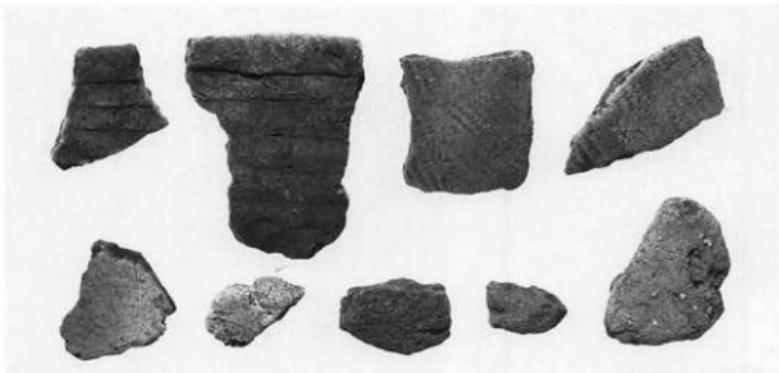
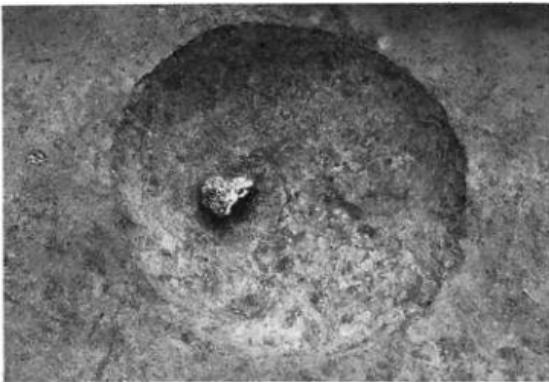
P-174



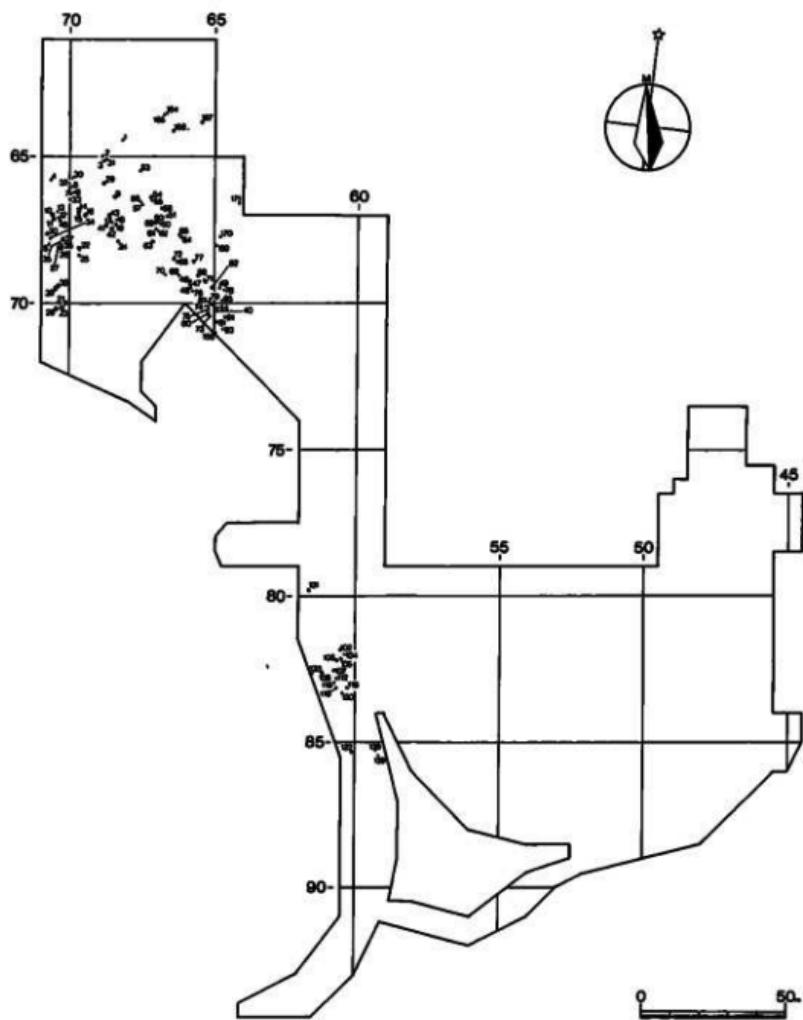
1. 黑色土
2. 炭化物>黑色土

0 1m

0 5 10cm



P-174



統縄文期の造構位置図

4. 統繩文期の遺構

統繩文期の遺構は土壙が108基検出された。これらの土壙は調査区北西部の土壙群と中央部西側に散在する土壙とが認められる。两者とも沢を見下ろす台地の縁辺部に位置している。

土壙の位置する平坦面は耕作により削平が行われていた。そのため、土壙の検出はⅠ層下のⅢ層中またはⅣ層の上面に至ってなされたものがおおい。大半の土壙の上部が削られており、なかには、僅かに壇底部のみを検出した例も多々ある。

これらの平面形は円形のものが大半を占め、橢円形を呈するものは1割程度である。深さは前述のとおり確認面からのものである。平面形の直径は0.7~1mのものが多い。

遺構内から出土した遺物は、礫を割り入れたものや大きな砾または台石など（P-166・56・60・61・169）を入れた例が多い。特に、壇底部に礫の多く伴出したもの（P-26・22・23・32・29・11・12・20・37・39・63・66・48・19）は配石を意図したものと考えられる。壇底に粘土のあるもの（P-26・50・81・22）。土器の小破片が数点から十数点入った例は多いが、復元できたもの（P-28・29・15・48・49・75）は少ない。また、覆土に焼土が堆積していたもの（P-53・60・101）もある。

以下、遺構一覧表の順に報告する。

P-26

調査区北西部の70-68区で検出した。壇底の西半部壁際2ヶ所から粘土が出土した。1~3は覆土中に見出されたVI群土器の破片で、微隆起線文に縁どられた帶繩文と、三角列点文とがみられるもの。4も覆土から採集された胴部片で、Ⅲ群b-3類に属するもの。5はたたき石。安山岩を用い、側辺と端部に敲打痕がみられる。重さは190.1g。他に円礫8点が出土した。

P-50

調査区の北西側66-67区に位置する。壇底から粘土が出土した。他に遺物は検出していない。

P-81

64-70区に位置する。壇底から粘土と礫3点が出土した。

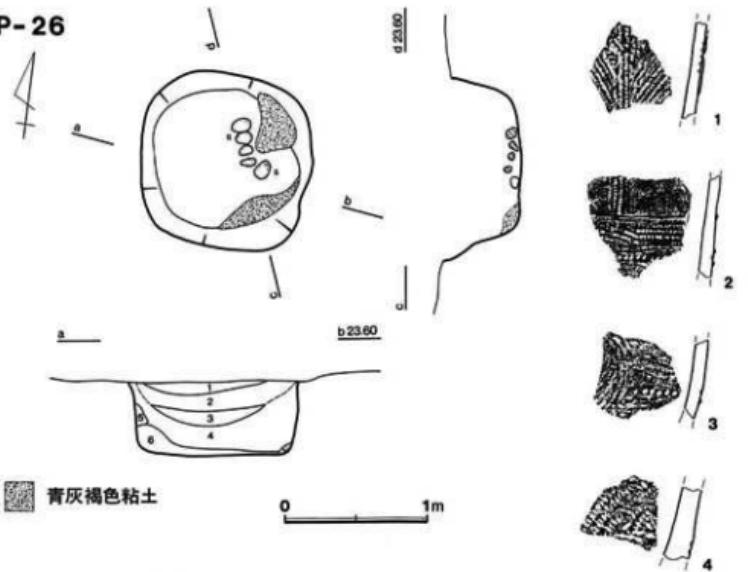
P-22

69-68に位置する。北側の壇底隅から粘土を検出した。1は覆土出土のVI群土器で、四角な口唇上にも繩文が施された口縁片。器面には、単節R L原体を斜位押捺した帶状の繩文が、横位に2段重ねられている。薄手で焼成は堅緻。2はスクレイパー。珪質頁岩を素材にしている。片面加工の欠損した、つまみ付ナイフの可能性がある。重さは4.8g。3は使用痕・加工痕のある黒曜石剝片。重さは1g。他に礫6点、黒曜石剝片5点、泥岩剝片2点が出土した。

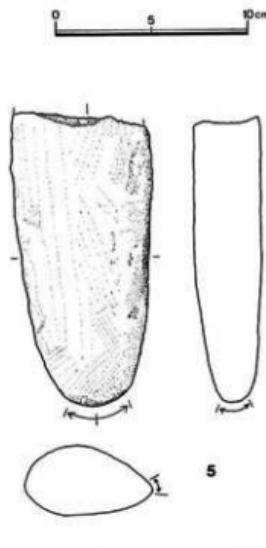
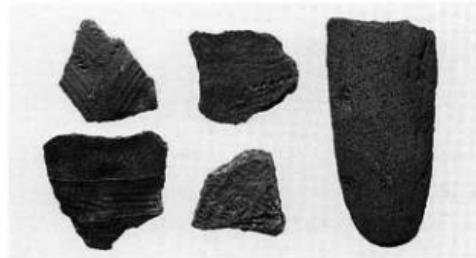
P-21

調査区西端の70-69-70区に位置した緩斜面に位置する。P-21・23・28と弧状に並んで出土した。1~3は覆土から得られたI群b-2類土器の破片。1は口唇に棒状工具による押圧が刻まれた口縁片で、2は胴部片。3は底面へ移行する屈曲部に短繩文が加えられたもの。以上のはほかはないが、VI群土器の小片が11点出土している。他に礫と黒曜石剝片各1点が出土した。

P-26



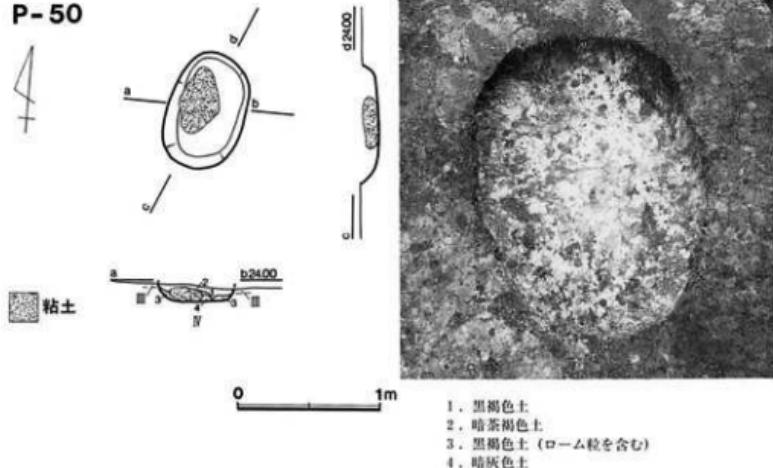
1. 黑褐色土 4. 暗黄褐色土
2. 茶褐色土 5. 黄褐色漂砾
3. 黑色土 6. 茶褐色土



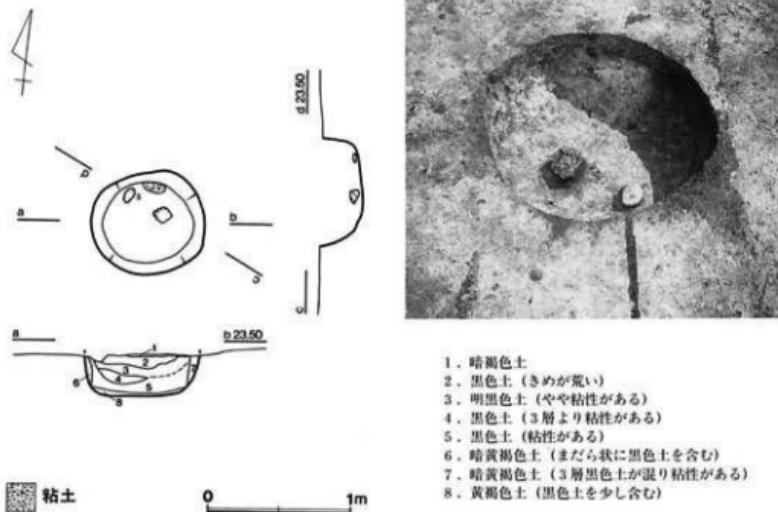
P-26

155

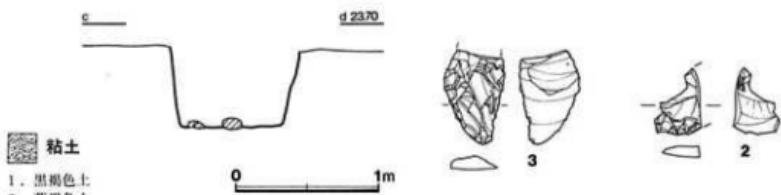
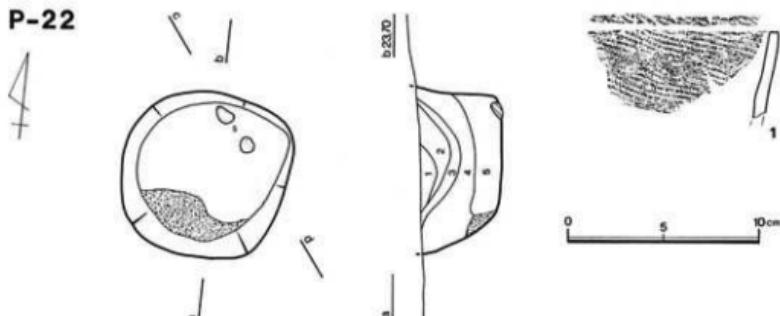
P-50



P-81

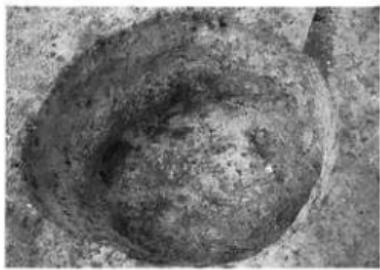


P-22

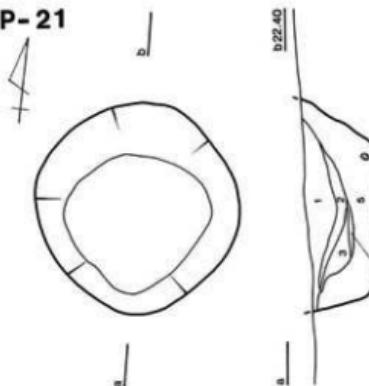


■ 粘土

- 1. 黑褐色土
- 2. 茶褐色土
- 3. 黑色土
- 4. 暗黄褐色土
- 5. 暗茶褐色土



P-21



0 1m

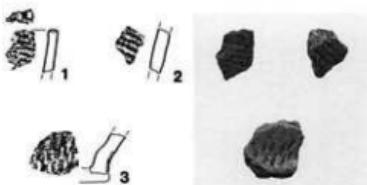
1. 茶褐色土

2. 黒褐色土

3. 喙茶褐色土

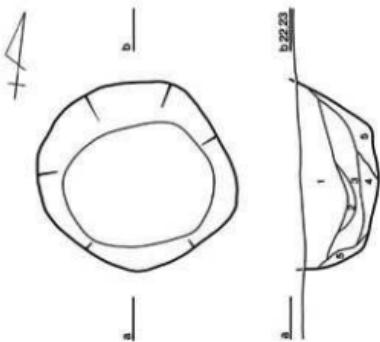
4. 黒色土(骨片を含む)

5. 黄褐色ローム



0 5 10cm

P-23



0 1m

1. 喙茶褐色土

2. 黒色土

3. 茶褐色土

4. 喙黄褐色土

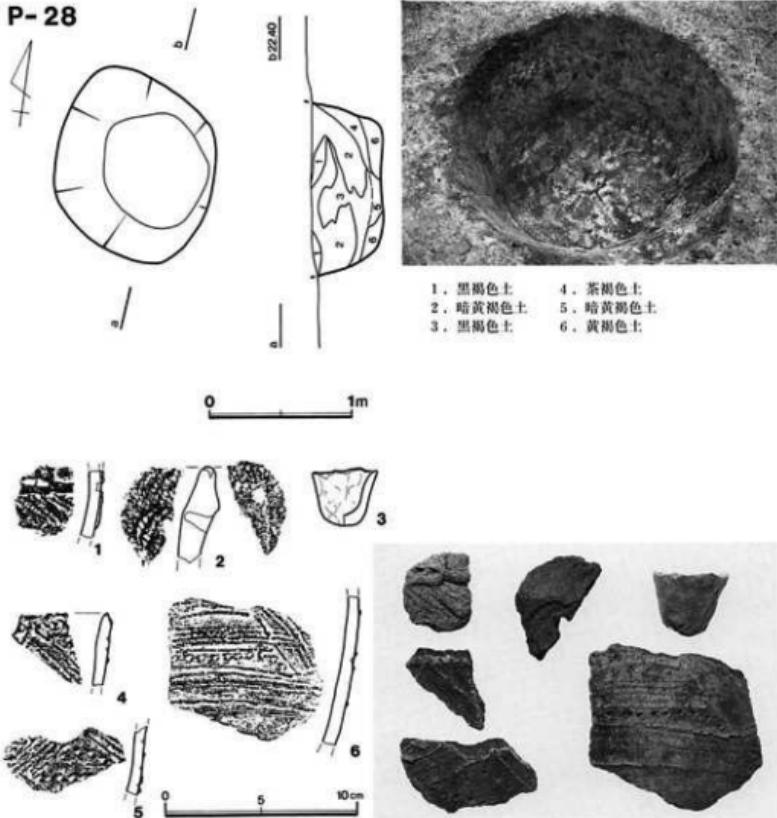
5. 黄褐色ローム



0 5cm

P-21 • P-23

P-28



P-28

P-23

P-21の南側50cmに隣接する。1は覆土から採集された土器片で、損耗のため文様などは判然としない。胎土、焼成からⅠ群b-2類と考える。他に礫21点と黒曜石剝片7点が出土した。

P-28

P-21の南西側2.5mに位置する。1は結束第一種羽状繩文に貼付文と刺突文列とが付加されたⅢ群a類土器。2はⅢ群b-3類の口縁片で、口唇に刻まれた押引きが1つ残っている。3は口唇の細い無文のミニチュア。4～6は口唇直下に貼付帯がめぐり、微隆起線を伴う帶繩文や三角列点文が特徴的なⅥ群土器。他に礫4点と黒曜石剝片6点、片岩剝片1点が出土した。

P-166

調査区の南側66-64区に位置する。墳底はやや凹凸のある皿状。南西側の墳底直上から台石が出土した。1は台石。安山岩の角の取れた礫を素材に、両面を使用している。重さは5.84kg。

P-2

調査区南側の68-65区で検出した。南西側にP-3・31がある。墳底の北と南はやや盛んである。墳底直上の西側から円礫1点が出土した。

P-32

70-65区に位置する。南北にP-5・6・7・30・33がジグザグに並ぶ。1・2は覆土出土のVI群土器で、1は口唇直下に刻みのある貼付帯を横環させた口縁片。ともに微隆起線文に縁どられた帶縄文と三角列点文がある。3はIII群b-3類の破片。他に礫7点と泥岩剥片2点が出土した。

P-29

68-65区で検出した。北側に約8.5mの距離をおいてP-2がある。墳底部から礫とともに30点を超えるVI群土器の破片が見出された。1は口唇直下に刻みのある貼付帯がめぐる口縁片で、微隆起線文はみられない。2は摩耗の進んだ胴部片で、三角列点文や帶縄文などが看取される。3は大きく接合した2つの破片から、最大径を24cm程と推定した、丸くふくらむ胴部片。微隆起線文に縁どられた帶縄文が縱、横、弧状に配されている。列点文はみられない。3はラウンドスクレイパー。素材は黒曜石。重さは6.4g。他に礫8点と黒曜石剥片2点が出土した。

P-30

P-32から北北東側に約1.5m離れた、69-65区に位置する。墳底は平坦である。礫が墳底面の北側に1点と南側に2点出土した。

P-5

69-66区に位置する。北側約2mにP-30、北西約1mにP-32がある。覆土上部に炭化物が検出された。覆土中から3点のVI群土器の破片が採集された。1は平縁の口縁片で、口唇と貼付帯とに刻みがあり、横帶縄文が施されている。2は波状の口縁片で、口縁下に刻みのある貼付帯がめぐるもの。損耗のため口唇の刻みは不明。3には横帶縄文がある。他に礫3点が出土した。

P-33

69・70-66区に位置し、北側約4.5mにP-32、同じく約1mにP-7がある。墳底はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。墳底の南壁に斜めにもたれかかる状態で、礫1点が出土した。

P-10

調査区西端の70-67区に位置する。南側にP-11が隣接する。坡底面に4点の礫が検出された。1・2に示す土器片は、覆土中に見出されたVI群土器。1は細く尖る口唇部と口縁直下をめぐる貼付帯とに、密に刻みが加えられた口縁片で、横帯繩文が施されている。2はクロスする帶繩文がみられる胴部片。ともに黄灰褐色を呈し、内面は滑らかに調整されている。3は石斧の刃部破片。片岩を素材にしている。重さは2.8g。他に黒曜石剝片1点が出土した。

P-11

P-10の南側に隣接する。坡底部北側に2個、南寄りに5個の礫がまとまっていた。1・2は覆土から得られたVI群土器の破片である。1は内窪ぎみにつくられた口縁片で、細く尖る口唇部には密に小さな刻みが加えられている。器面は無文で、貫通孔の半分程が現存している。孔は外から内へ突いたもので、内面にはリング状の器壁の高まりがある。2には交差する帶繩文がみられる。3は使用痕のある黒曜石剝片。重さは7.2g。

P-12

P-11の東側約50cmに位置する。礫をはじめ、遺物は坡底からやや浮いた状態で検出されている。1・2は黄赤褐色がちの色調を呈するIII群b-3類土器の胴部片。胎土に砂の含有が多く、纖維も含まれている。やや摩耗が進んでおり、器面には、単節の斜行繩文が施されている。2は器壁が丸くふくらむIV群土器の胴部片で、縦位、斜位そして弧状の帶繩文から成る文様が展開されている。内面には炭化物の付着がみられる。他に礫10点、黒曜石剝片1点が出土した。

P-14

調査区西側の69-66区に位置する。南側にP-15が隣接する。坡底部に2個の礫が見出されている。土器は覆土中に含まれていたもので、1は黄灰褐色を呈する、V群c類の口脣部片。地文は単節の斜行繩文で、内面に繩文が1条残されている。2~4はVI群土器の胴部片で、2には横位の帶繩文がみられ、その縁には微隆起線状の盛りあがりが認められる。3の器面は黒色で艶がある。3・4には帶繩文による文様が施されているが、微隆起線文はみられない。5は使用痕のある黒曜石剝片。重さは1.6g。他に黒曜石剝片と珪岩剝片各1点が出土した。

P-15

69-66-67区に位置し、P-14に隣接する。坡底面に礫が3点見出され、坡底から10cm程浮いて、1に示すVI群土器の大片が検出された。器形は胴上部がふくらみ、口縁部がほぼ直立する深鉢形で、推定口径25.8cm、推定期径26.2cm。口縁は平縁で口唇は細く、口縁直下をめぐる貼付帯と同様、密な刻みが加えられている。器面上半には三角列点文と横帯繩文を5段重ねて施し、下半には帶繩文を縱走させている。他に黒曜石剝片4点、片岩剝片2点が出土した。

P-16

P-15から東に約1.5m離れて位置する。壇底はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。礫4点を壇底から検出した。1は使用痕のある黒曜石剝片。重さは1.4g。

P-20

70-67区に位置する。検出した遺構の中で調査区の最も西側にある。壇底はやや丸味をもつ。南東側を除く壇底部に、26個の礫がまとまって遺存していた。意図的な配石と考えられる。覆土からは若干の遺物が検出されている。1はVI群土器の胴部破片で、黄灰褐色を呈する器面には、単節R Lの縄文原体を回転押捺した、横と継の帯縄文が重ねられている。2は石のみ。刃部を欠損している。3は小型の石斧。共に片岩を素材にしている。打ち欠きと研磨による成・整形。2の重さは2.8g。3は31.6g。他に黒曜石剝片と片岩剝片各1点が出土した。

P-34

P-10の南東約1mに位置する。壇底部の北側にまとまって、礫が5点検出されている。また、覆土には少量の遺物が点在していた。1~3は、摩耗の進んだ土器の小片で、1は2段の貼付文がめぐる口縁片。1・2はVI群、3はIII群b-3類。他に黒曜石剝片1点が出土した。

P-37

P-34の東側約3.5mに位置する。壇底からやや上で礫10点を検出した。1・2はともに摩耗が著しく、十分観察できないが、1は口縁直下に貼付文をめぐらせ、その下に連続刺突文を刻むVI群の、2は押引きと円形刺突文のあるIII群b-3類の口縁片。3はポイントまたはナイフの破片と考えられる。黒曜石を素材にしている。重さは1g。4・5は使用痕・加工痕のある黒曜石剝片。4の重さは3.1g。5は1.7g。他に黒曜石剝片2点が出土した。

P-27

70-68区に位置し、P-34から南東約3mにある。壇底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。壇底からやや浮いた位置に石斧の破片と礫4点を検出した。1は石斧破片。千枚岩を素材に、打ち欠きと研磨により成・整形している。重さは39.8g。

P-8

70-68区に位置し、北側約1mにP-34、東側約2.5mにP-27がある。断面形は丸く、ボール状を呈する。壇底の北側から礫1点と覆土から礫3点を検出した。1は覆土から採集されたVI群土器。波状口縁で口縁直下に添えられた貼付帶と、口唇部とに密に刻みが加えられ、器面には縦横の帯縄文がみられる。

P-38

調査区西側の70-69区に位置し、P-39と隣接して検出した。墳底のやや上で礫2点が出土した。

P-39

P-38の南西側に隣接して検出した。墳底近くに15個の礫が遺存していた。恐らく意図的な配石の一種と思われる。覆土からは少量の遺物が見出されている。1はVI群土器の小さな破片で、連結するほどに近接して刻まれた、三角形の刺突文列がみられる。色調は淡黄褐色を呈する。2は両面に加工痕のある黒曜石刺片。重さは2.6g。他に黒曜石刺片3点が出土した。

P-56

67-66区に位置する。南東約50cmにP-57が隣接する。墳底はやや丸味があり、壁は緩やかに立ち上がる。1は石皿。墳底から、コンケイブした使用面を上に検出した。安山岩の河床礫を用いている。重さは10.75kg。

P-63

67-67区で検出した。確認面に比べ、墳底部は東西方向で若干広く、壁はややオーバーハングする。墳底部の全面に21個の礫が配石されていた。1~4は覆土出土の土器片で、1は貼付帯と口唇に刻みをもつ口縁片。微隆起線文と現存2個の三角列点文がある。2は口唇の平坦な無文土器で、かなり摩耗している。3には帶縄文があり、4は小さな平底の底部片。1・3・4は同一個体の可能性があるVI群土器。

P-66

66-68区に位置する。北西約50cmにP-72、東約1mにP-67がある。墳底部の東側に偏在して、5個の礫が配置されていた。覆土からは6点のVI群土器の破片が見出されているが、摩耗が進んで図示に耐えない小片が多い。1は灰黄褐色を呈する薄手の胴部片で、現存部に文様はみられない。2も薄手の胴部片で、赤茶褐色を呈し、裏面には黑色炭化物が付着している。

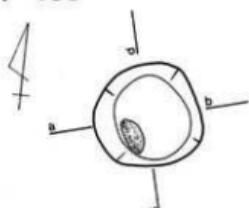
P-48

65-69区に位置する。直径約5mの円を描くようにP-46・47・69・71・76がある。墳底部に38個の礫が集積されており、主に南東壁付近の覆土3層から、接合可能な土器片が17点検出された。1は接合、復元されたVI群の鉢形土器で、全周の30%強が現存する。平底の底部から体下半部が大きくひらいて胴半部が丸味を帯び、口縁部がほぼ直立する器形を呈する。口唇と貼付帯に密な刻みがあり、円を描く帶縄文を中心に、縦、横、斜めの帶縄文が加飾されている。

P-49

P-48の東側に約9m離れて検出した。南南東約1mにP-78、西側約1.5mにP-82がある。1は墳底近くの覆土4層を主体に一括遺存していた土器片を接合、復元したものである。口縁部がほぼ直立するVI群の鉢形土器で、底は欠失している。平縁の口唇部、および貼付帯には密な刻みが加えられており、器面には横帶縄文が5段に重ねられている。貼付帯の直下には現存2ヵ所に、2個1対の補修孔が穿れている。内面には黑色炭化物が付着。他に礫3点が出土した。

P-166



a _____ b 24.0



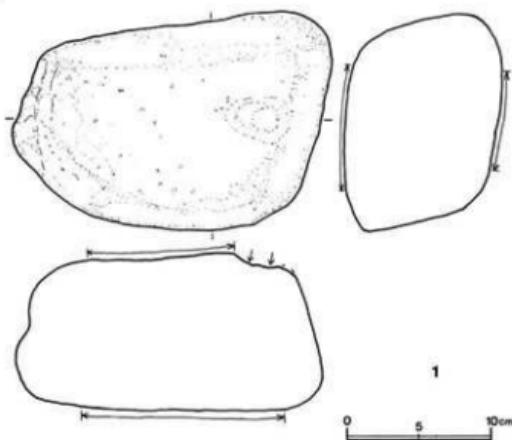
0 _____ 1m

d 24.0

u

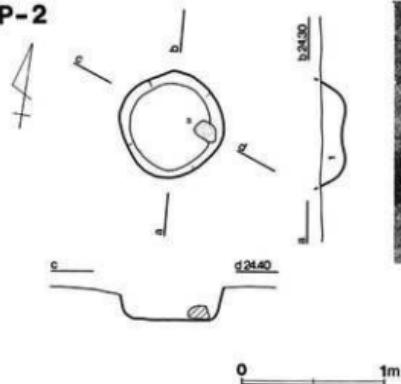


1. 黒褐色土
(ローム粒、少量の炭化物含む)



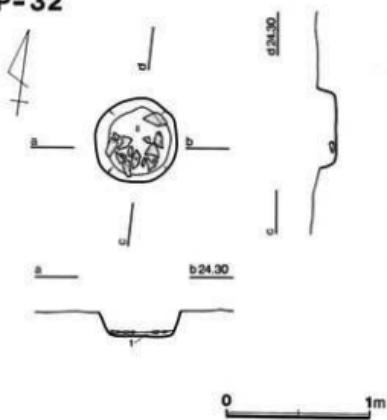
P-166

P-2

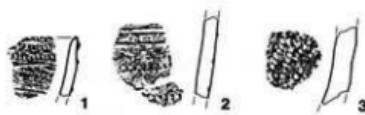


1. 黒褐色土
(ローム粒。ロームブロックを含む)

P-32

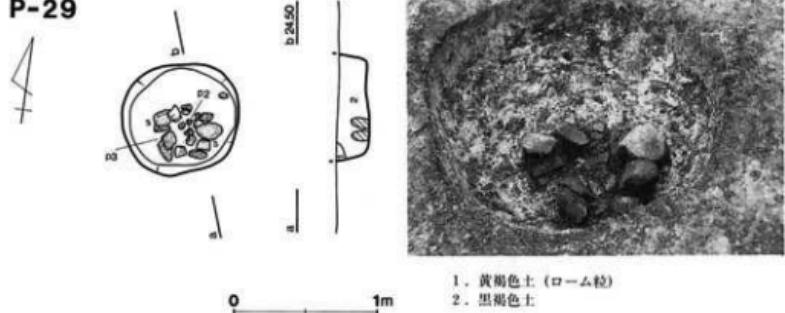


1. 黄褐色土



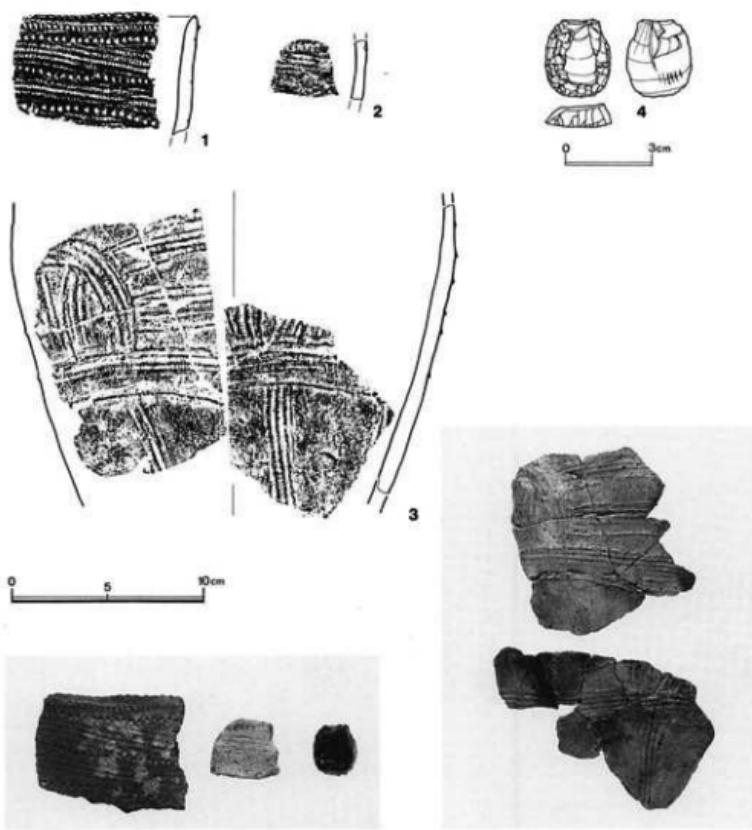
P-2 • P-32

P-29



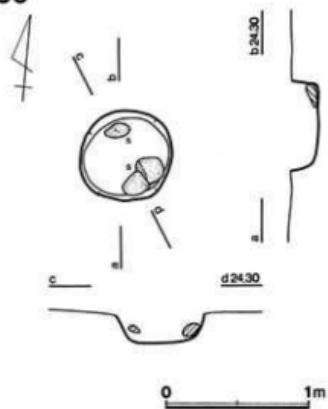
1. 黄褐色土(ローム粒)

2. 黑褐色土

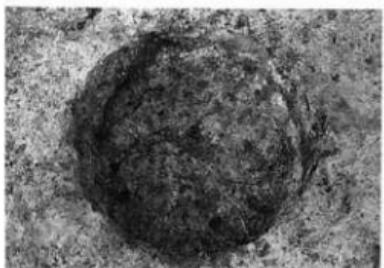
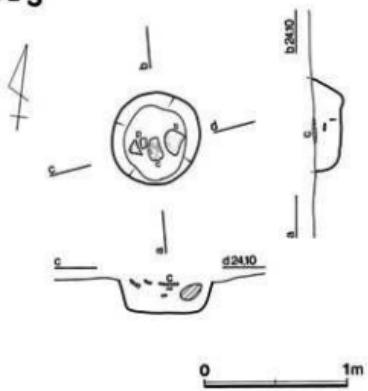


P-29

P-30



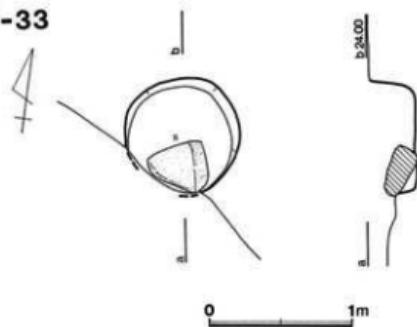
P-5



1. 黒褐色土(ロームブロックを含む)

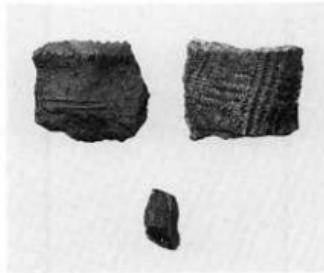
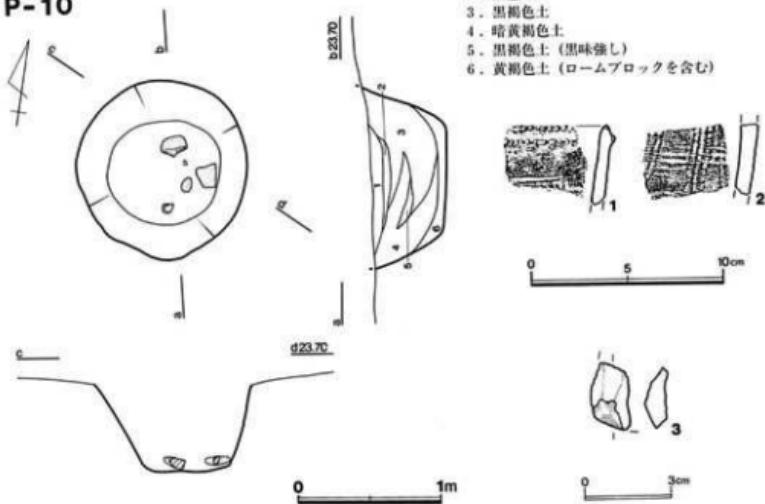


P-33



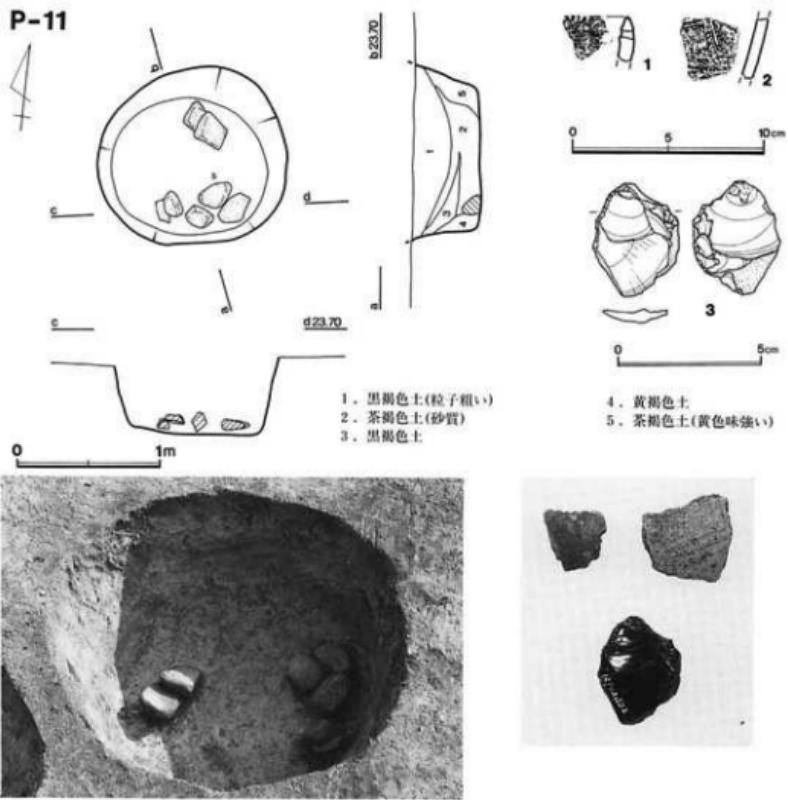
- 1. 灰褐色土
- 2. 黒色土
- 3. 黒褐色土
- 4. 哈黃褐色土
- 5. 黑褐色土（黒味強し）
- 6. 黄褐色土（ロームブロックを含む）

P-10

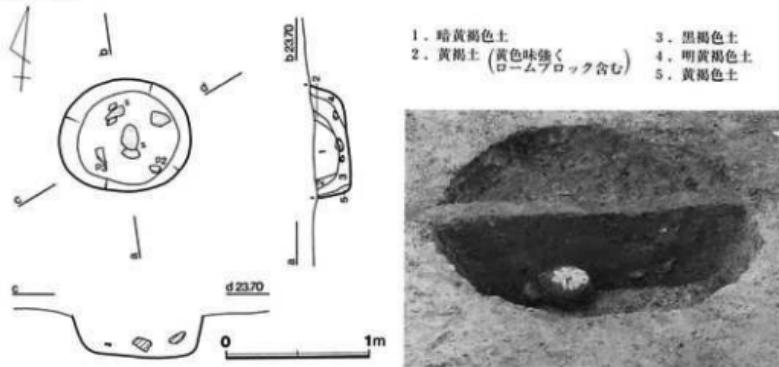


P-33 • P-10

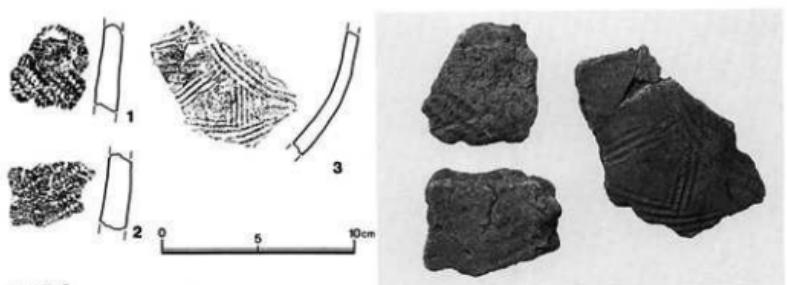
P-11



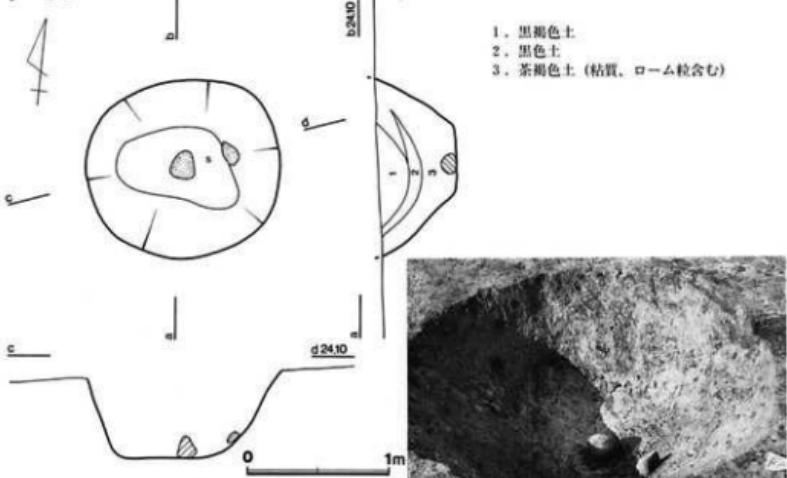
P-12



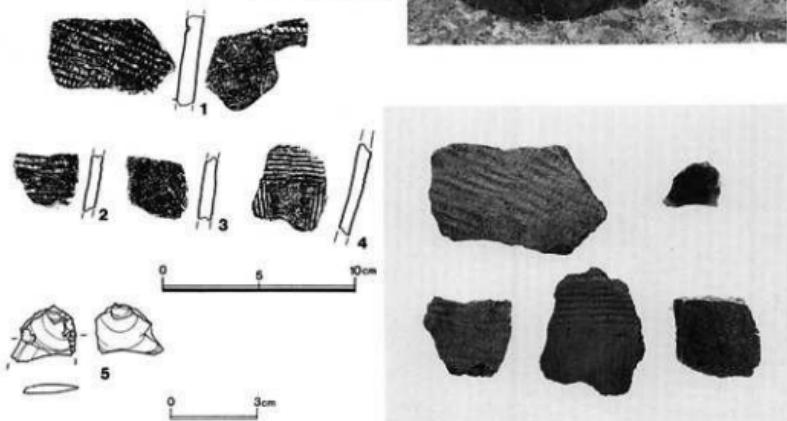
P-11・P-12



P-14

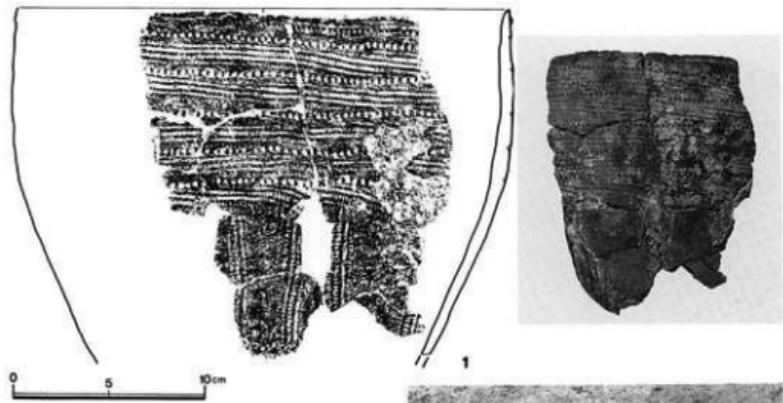
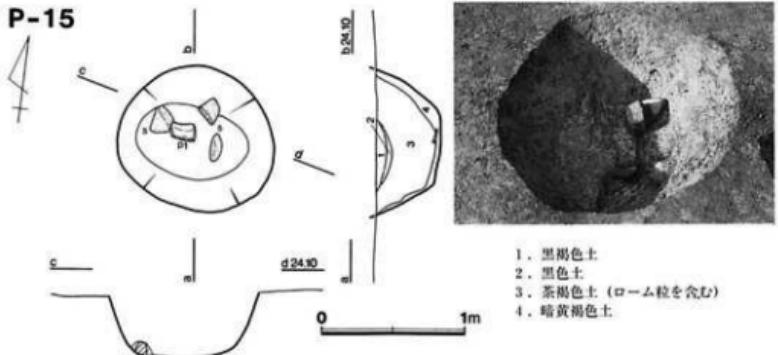


1. 黒褐色土
2. 黒色土
3. 茶褐色土 (粘質、ローム粒含む)

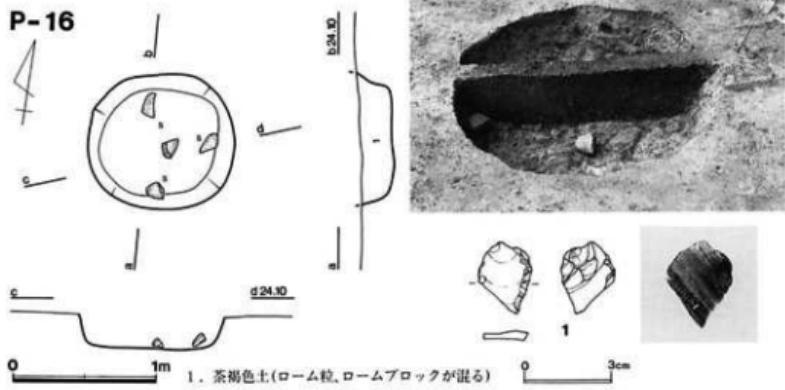


P-12の出土土器・P-14

P-15

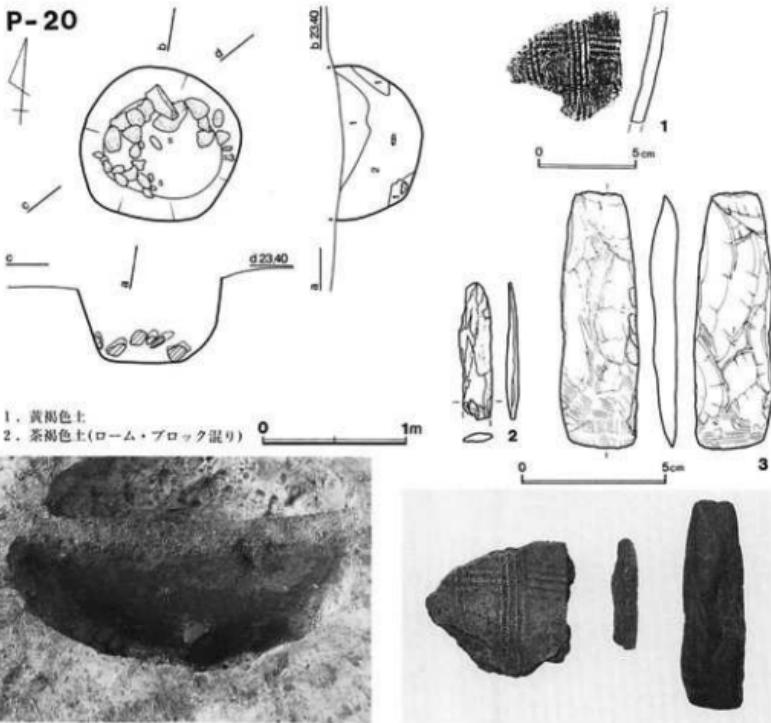


P-16

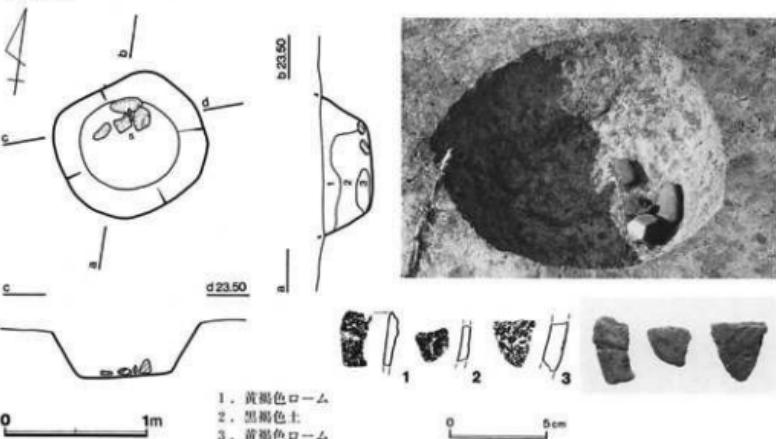


P-15 • P-16

P-20

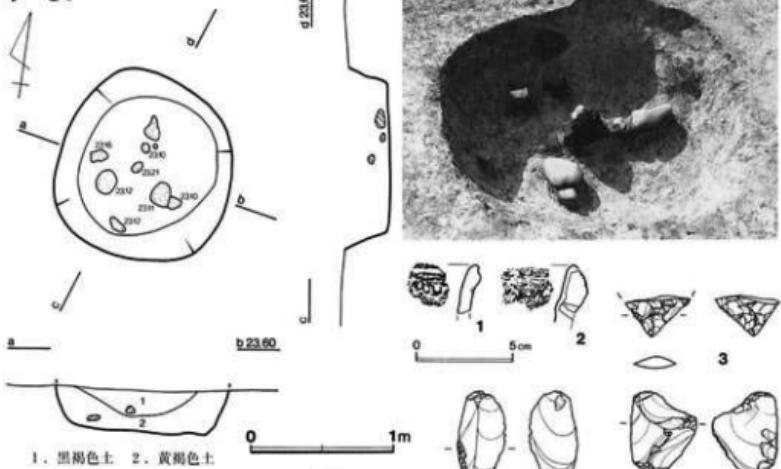


P-34

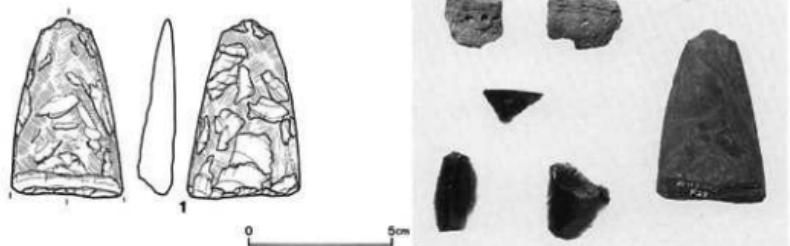


P-20 · P-34

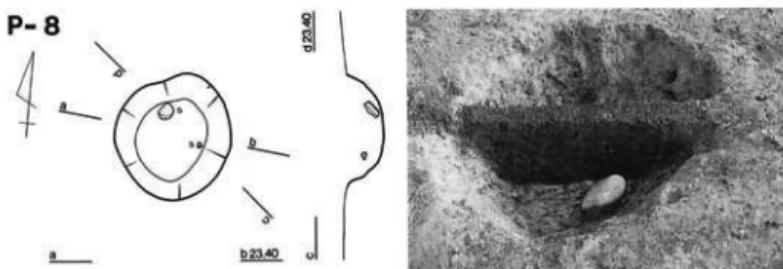
P-37



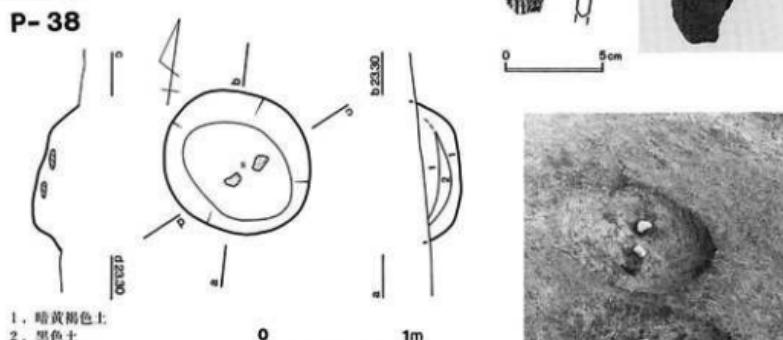
P-27



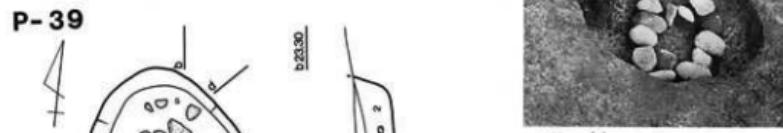
P-37 • P-27



1. 茶褐色土(ローム・ブロック
クまじり)
2. 黄褐色土

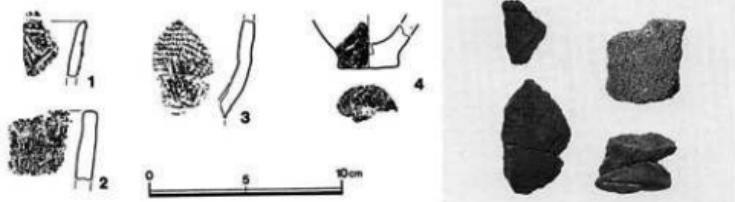
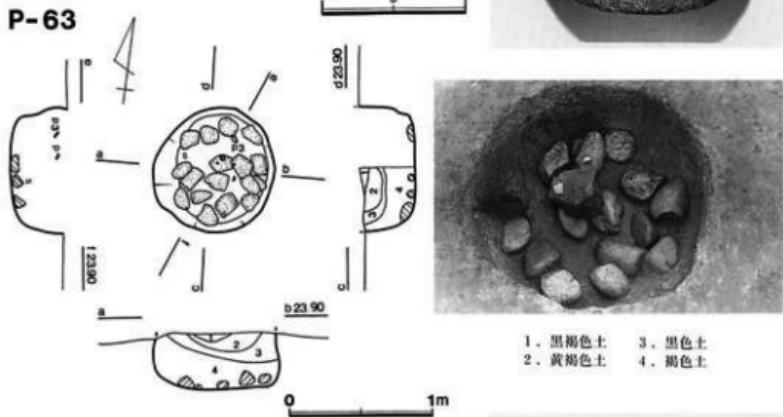
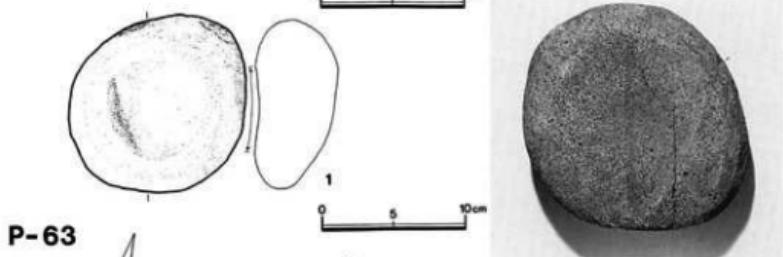
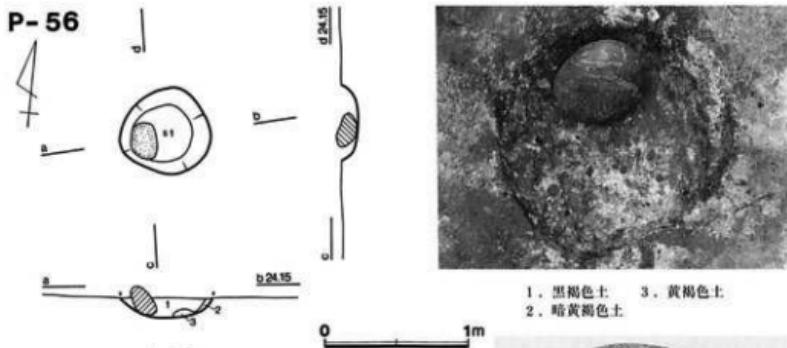


1. 暗黄褐色土
2. 黒色土



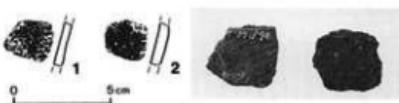
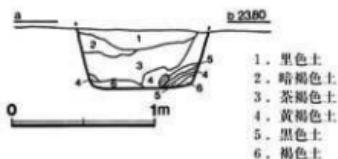
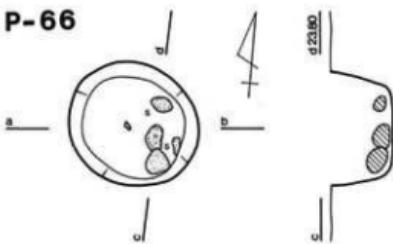
1. 黄褐色土
2. 茶褐色土(ローム粒まじり)



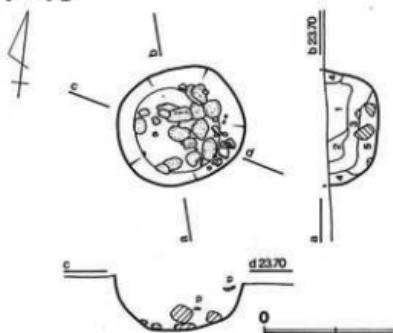


P-56 • P-63

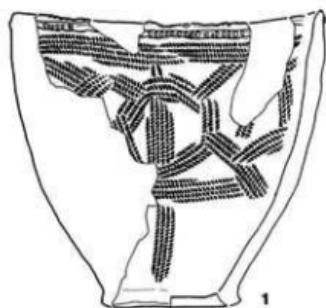
P-66



P-48

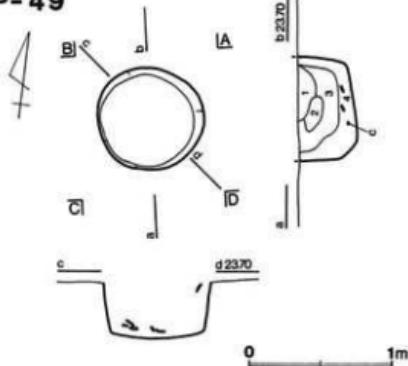


1. 黒褐色土
2. 黒褐色土(粒状)
3. 黒色土
4. 黒褐色土(ロームブロック
クを含む)
5. 褐色土



P-66 • P-48

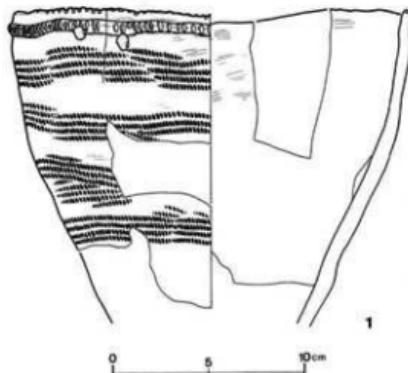
P-49



1. 黒褐色土 3. 黒褐色土
2. 黒色土 4. 黒褐色土(+粉状のローム)



0 1m



P-49

P-167

調査区北側の65-63区に位置する。北側の一部を暗渠により削られている。墳底はやや凹凸のある皿状。覆土下層からVI群の土器片が出土した。1・2は同一個体のVI群土器の胴部片。ともに黄赤褐色を呈し、器面は丁寧に調整されている。単節R L原体による横帯繩文をめぐらせた胴半部から、間隔を置いて帯繩文を縱行させる胴下半部までの破片である。

P-164

調査区北側の66-63区に位置する。検出した造構のなかでは北端部にある。P-165と隣接して検出した。墳底上から土器片がまとめて出土した。1は平坦な口唇の外側に微隆起線状の張り出しをめぐらせ、ここと口唇内側とに刻みを加えた口縁片で、三角列点文に縁どられた帯繩文が斜位に交差している。2~6は同一の口縁から胴上部にかけての破片で、いずれも摩耗しているが、帯繩文による横位、縱位の施文がみられ、5には補修孔がある。

P-165

P-164の西側約20cmに隣接している。覆土に炭化物を多く含む。覆土からVI群の土器片6点が出土した。P-164・165は、ほぼ同時に構築されたと推定される。

P-1

調査区北側の68-64区に位置する。南西約8mにP-2・3・31がある。1は覆土中に見出されたV群土器の胴部片。表裏にタール状の黒色炭化物が付着している。薄手で、胎土に砂の含有が多く、焼成は堅硬。地文などの文様は、現存部には見受けられない。他に礫3点が出土した。

P-31

68-65区に位置する。南西側にP-3が隣接し、北西約1mにP-2を検出した。墳底にやや凹凸がある。壁は緩やかに立ち上がり、浅い皿状を呈する。1はa面に原石面の残る使用痕・加工痕のある黒曜石剝片。重さは3.7g。

P-3

P-31の南西側に隣接して検出した。墳底は平坦で浅い皿状を呈する。礫1点が出土した。

P-9

69-65区に位置し、P-29から南東側に約5m離れている。墳底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。1・2は覆土から検出されたVI群土器。1は微隆起線文を伴う帯繩文と三角列点文が皿状に配された破片。2は平底の底部片で、微隆起線の施文はやや粗い。他に礫2点が出土した。

P-6

69-66区に位置し、西南西側約50cmにP-7がある。礫1点が出土した。

P-7

P-6の西南西約50cmの位置に検出した。南側約1mにP-33がある。造物は検出していない。

P-13

調査区西端の70-66区に位置する。南西にP-10・南にP-12が各々約1.2m離れて出土した。1・2は覆土から得られた土器片で、1はIII群b-3類の胴部片。結束第二種のある原体による

縦文が施されている。2は比較的薄手で、VI群土器の小さな破片。表裏にやや粗く調整痕があるが、文様はみられない。他に礫3点と黒曜石剝片、片岩剝片各2点が出土した。

P-45

P-13の南側約2mの70-67区に位置する。墳底は中央がやや深い。遺物は検出していない。

P-43

調査区北西部の68-69区に位置する。P-17・18・41・42が南側にあり、各々が1~1.5mの間隔を保っている。墳底は丸味をもち、壁は急角度に立ち上がる。1~3は覆土から検出された土器片。1は微隆起線文と帯縄文、三角列点文のみられるVI群土器。2・3はⅢ群b-3類に属する破片で、円形剝突文の一部が残る2の裏面は剥落している。3はやや厚手の胴部片。

P-17

P-43の南東約1.5mに位置する。墳底はほぼ平坦で鍋底状を呈する。礫1点が出土した。

P-18

P-43の東南東約2mに位置する。墳底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。礫1点が出土した。

P-19

P-43の南東約2.5mに位置する。墳底は平坦で、壁は垂直に近い急角度で立ち上がる。鍋底状を呈する。墳底部に22点の礫が配石されていた。1は覆土出土のVI群土器の体下部の破片で、底面への移行部がわずかに残存している。器面には縱走する帯縄文がみられる。

P-41

68-67区に位置し、北約2.5mにP-43がある。墳底はほぼ平坦で、壁は垂直に立ち上がる。1~4は覆土から検出されたVI群土器。1は口唇上と貼付帶に密に刻みが加えられた口縁片で、2段重ねの三角列点文と帯縄文が配されている。2・3は同一個体の、丸くふくらみのある胴部片。微隆起線文を伴う帯縄文と、密に連なる列点文がみられる。4は平底の底部片で、器面には光沢がある。縱走する帯縄文が施されているほか、内面にはほぼ横位に加えられた調整痕が残されている。1・4の内面には黒色炭化物が付着している。他に礫1点が出土した。

P-42

北約1mにP-17・北東約1mにP-19・北西約1.5mにP-41がある。墳底は平坦で、北側の壁は緩やかだが他は急角度に立ち上がる。礫3点が墳底から出土した。

P-24

68-67区に位置し、北側にP-42などがある。墳底は平坦で、壁は垂直な鍋底状を呈する。1は墳底から出土したポイントまたはナイフ。黒曜石を素材にしている。重さは4.7g。

P-25

調査区北西部の69-68区に位置する。北側約1.3mにP-22がある。墳底はほぼ平坦で、壁は北西側がやや緩やかであるが急角度に立ち上がる。1は覆土から得られたVI群土器の破片。薄手で、黄灰褐色を呈し、焼成堅密。胎土には砂が多く含まれ、器面調整は比較的丁寧になされている。器表には間隔を置いて縱走する帯縄文が施されている。

P-36

調査区北西側の70-68区に位置する。北・西・南側に0.5~1m離れてP-37・35・27・26がある。壇底はほぼ平坦で鍋底状を呈する。覆土から1に示すVI群の口縁片が検出されている。横位に2段めぐる貼付帯と口唇部には、密な刻みがみられる。他に黒曜石剝片1点が出土した。

P-54

67-66区に位置する。南側以外の壁に段がみられる。礫1点が覆土の下位から出土した。1は覆土から採集されたVI群土器の破片。摩耗が著しいが、微隆起線文と列点文がみられる。

P-55

P-54の南側に隣接して検出した。壇底はやや丸味のある皿状を呈する。1は壇底近くに見出されたVI群土器。推定口径7.3cm。やや不整な沈線文様があり、その下に爪痕が残されている。

P-57

67-66区に位置し、東側にP-54・55がある。壇底は平坦で浅い皿状。遺物は検出していない。

P-58

調査区北西部の66-66区に位置する。壇底は平坦で浅い皿状を呈する。覆土から10数点の土器片が検出されている。1・2はIV群c類に属する同一個体の破片。口縁上部が内寄り、口唇部に刻みがある。細く鋭い沈線文が、2~3本単位で横位および弧状に重ねられている。3は口縁直下に繩文が1条めぐるもので、複節の原体による繩文は、外切ぎみの口唇部にも施されている。内面はほぼ滑沢に調整されている。III群b-2類であろうか。4~6はVI群土器の破片。4には2本の貼付帯が付されており、6は平底の小片。他にめのう剝片1点が出土した。

P-53

調査区北西部の67-65区に位置する。壇底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。浅い皿状を呈する。土壇中央の覆土1~3で焼土を検出した。遺物は検出していない。

P-60

66-67区に位置する。南東にP-50・南西にP-59が隣接する。南側約1.5mにP-61がある。土壇中央の覆土1・2に焼土を検出した。この焼土内に土器片13点が出土した。覆土3から出土した石皿はP-61出土の石皿と接合した。1~3はいずれもVI群土器に属するものである。1にはクロスする直状、弧状の帶繩文がみられる。2はやや摩耗の進んだ破片だが、横帯繩文とそれを縁どる微隆起線文とがみられる。3は推定底径8.4cmの平底の底部片。横帯繩文と間隔をおいて縱走する帶繩文とが施されている。4は石皿。P-61出土の石皿と接合した。安山岩を用いている。接合時、約3分が現存する。重さは1.1kg。接合時2.5kgを計る。この石皿はP-61と同時期に割り入れられたと推定され、両者の構築時期も同時と考えられる。

P-101

調査区中央部の61-79区に位置する。北と西側は壁の立ち上がりが緩やかで壇底との境は不明瞭である。覆土の下位に焼土を検出した。1・2は覆土2層に見出されたII群b類土器で、口縁直下を横環する貼付帯には、繩文が加えられている。地文は結束第一種のある、独特の羽

状縄文。他にVI群の土器片16点、黒曜石剝片3点が出土したが図示に耐えないため割愛した。

P-51

調査区北西部の66-67区に位置する。墳底は平坦で浅い皿状を呈する。1~4は覆土出土のVI群土器。1・2は同一個体で、口縁が波状を呈し、胴部が丸くふくらむ器形のもの。口唇および口縁直下をめぐる2段の貼付帯には密な刻みがあり、微隆起線文に区画された、帯縄文や三角列点文による文様が、胴半部の長持円に連結するように展開されている。3・4はやや摩耗が進んだ胴下半部の破片で、帯縄文の経走がみられるもの。他に礫1点が出土した。

P-61

66-67-67区に位置する。北側半分が暗渠により削られているが平面形は円形と推定される。1・2は覆土から採集された、VI群土器片である。ともに摩耗がかなり進んでいるが、縱行する帯縄文が辛うじて観察でき、胴部下半の破片であることが窺える。内面には黒色炭化物が付着している。3は墳底から出土した石皿。P-60出土石皿と接合した。安山岩を用いている。重さは1.4kg。接合時2.5kgを計る。石皿の残り半分は暗渠により取り去られた可能性がある。

P-62

66-67区に位置し、北西側にP-61が隣接する。1~3は覆土から検出された土器片である。1はⅢ群b-3類の口縁部の内面側の剥落片である。摩耗が著しいが、結束第二種をもつ縄文原体を縦位に回転押捺させた痕跡が認められる。2・3はVI群土器。2には縱・横の帯縄文の交差がみられる。3は平底、薄手の底部片である。4はスクレイパー。黒曜石を素材にしている。a面の上部と左側に原石面を残し、b面の左側刃に刃部を作り出している。重さは5.2g。

P-170

64-67-68区に位置する。P-169を南西側約1.1mに検出した。南西側の掘込みはⅡ層中に留まっていたため、壁面は確認できなかった。遺物は検出していない。

P-169

64-67-68区に位置し、北東約1.1mにP-170がある。墳底直上から台石2点、北側の台石上に土器片が重なって出土した。1・2はともにVI群に属する弥生式系の土器片で、明るい黄灰褐色を呈し、薄手で焼成堅緻、胎土には砂礫の含有が多く、繊維も少なからず含まれている。1は現存下方に沈線状の痕跡がみられるが、摩耗のため文様が殆ど判別できない破片である。2は1段Rの原体を利用した燃糸文を、繰り返し重ねた胴部片である。3・4は台石。共に安山岩の河床礫を用いている。3は上面を使用している。重さは6.5kg。4は両面を使用している。下側部に有機物の変質したと思われる茶褐色物質が付着している。重さは7.1kg。

P-64

調査区北西部の66-67区に位置する。1~4は覆土2層中に包含されていた土器片で、1~3がⅤ群、4はⅢ群b-3類に属するものである。1~3はいずれもやや摩耗の進んだ破片であるが、3には斜行する帯縄文の一部が残されている。4も摩耗した破片で、文様はわからぬ。胎土には砂礫のほか、繊維も含まれている。

P-171

64-66区に位置する。壇底は中央部が高くなる。中央部の覆土から腐蝕の進んだ骨片が検出された。遺物は検出していない。

P-68

66-69区に位置する。壇底はやや丸味を帯びている。覆土から土器片1点が出土した。

P-72

調査区北西部の66-68区に位置する。南東約70cmにP-66がある。壇底は平坦で壁との境は丸味のある鍋底状を呈する。覆土から30点以上のVI群土器の破片が検出されているが、損耗の進んだ小片が多い。1は口唇部が細く尖る口縁片で、口唇には刻みが加えられていたようだが、摩耗のため明瞭ではない。2は微隆起線文に区画された帶繩文、および現存2段の三角列点文がみられるもの。3は弧状の微隆起線文が残るもの。4~7は文様の看取できない胴部片。8は推定底径7.8cm程の平底片。1・4・6~8は同一個体らしい。他に礫2点が出土した。

P-69

65-69区で検出した。壇底は平坦で鍋底状を呈する。覆土1から土器片3点が出土している。1~3は同一個体と思われるVI群土器。1は口縁片で、丸くゆるやかな波状縁の一部。口唇部と貼付帯には刻みが加えられ、その下に微隆起線文と帶繩文から成る文様がみられる。2・3には、さらに三角列点文が施されている。1・2の器面には黒色炭化物が付着している。

P-47

65-69区に位置し、P-46・48に南北を挟まれている。壇底に若干凹凸がみられる。1・2は覆土から検出された土器片で、1は口唇部と肥厚帯上に押引文が加えられ、内面にも繩文のあるIII群b-3類の口縁。2は微隆起線文と帶繩文がみられるVI群土器。他に礫2点が出土した。

P-76

P-46・47・48と並んだ弧の南端に位置する。礫が壇底から1点、覆土から3点出土した。

P-82

65-69区に位置する。壇底と壁の境はやや丸味がある。壇底から土器片と礫が各1点出土した。土器は1に示すVI群土器の胴部片で、横帯繩文があり、内面には黒色炭化物が付着している。

P-78

64-69区に位置する。西側約1mにP-49がある。壇底は南側が深い。遺物は検出していない。

P-85

64-69区で検出した。壇底は平坦で浅い皿状を呈する。壇底から礫1点、覆土から土器片1点が出土した。1はVI群土器の破片で、微隆起線文と帶繩文、そして三角列点文がみられる。

P-79

65-69区に位置する。南側にP-40・44・73・74・75・80・87が分布する。壇底は平坦で、壁の立ち上がりは丸味のある浅い皿状を呈する。1・2は覆土出土のVI群土器の小片である。1は縱走する繩文の施文後にも器面調整を加えたと思われる胴部片。内面には黒色炭化物が付着し

ている。2は底面へと移行する付近の破片である。他に縁2点、片岩剝片1点が出土した。

P-44

64-70区に位置し、南側約50cmにP-40がある。墻底は南東側が若干深く、傾斜している。1・2は覆土上部から検出されたVI群土器の胴部片。1には直状の、2には弧状の帯繩文が施されている。ともに内面には厚く黒色炭化物が付着している。3は黒曜石石核。約1/4に原石面が残り、円暈を用いたことがわかる。重さは35.8g。

P-40

P-44の南に位置する。中央部は東西方向に暗渠が掘られており欠失している。北側の墻底で縁1点を検出した。覆土からV群の土器6点が出土した。そのうち2点を1・2に図示した。ともに黄茶褐色を呈する器面に、帯繩文が施された胴部片で、裏面には黒色炭化物の付着がみられる。

P-75

65-70区に位置する。東側約2.5mにP-40-44があり、南北をP-74・80に挟まれている。墻底はほぼ平坦で壁の立ち上がりは不明瞭な浅い皿状を呈する。北側の覆土1層下部から、1に図示したVI群土器の下半部が検出された。底径4.4cmの平底を有するもので、捺陰起線文に区画された円形、水平のモチーフに、帯繩文と三角列点文が添えられている。

P-80

P-74の南約1mに位置し、南東にP-73が隣接する。墻底は東側がやや深く、傾斜している。覆土3に炭化物を検出した。北東側の壁は擾乱を受けている。1・2は覆土から得られた、III群b-3類土器の破片。1には結束第一種のある羽状繩文が施されている。2は損耗の著しい小片。3~5は覆土出土のVI群土器。3は断面三角状の貼付文が口唇直下をめぐる口縁片で、貼付文と口唇部には密な刻みが加えられている。器面には帯繩文の一部が残されている。4は推定底径10cm程の底部片で、平底だが、周縁部以外は接地しない。薄手で、丁寧な器面調整が施されている。5は底径7.6cmの平底片で、内面には黒色炭化物が付着している。底面には細かな圧痕様の痕跡が一面にみられるが、損耗のため十分観察できない。

P-73

65-70区に位置し、北西にP-80が隣接する。墻底は平坦で、壁の立ち上がりは北東側で緩やかだが、他は急角度である。覆土2に焼土粒及びブロックを含む。1~3は覆土出土のVI群土器の胴部片。1は2・3に比してやや厚手で、縦走する繩文が施されたもの。2はかなり摩耗しているが、薄手で帯繩文がみられるもの。3も薄手で、弧状ぎみに施文された帯繩文がある破片。他に片岩剝片1点が出土した。

P-91

調査区北西部の64-70区に位置する。墻底はやや丸味を帯び、壁との境は不明瞭な浅い皿状を呈する。1は覆土から検出されたVI群土器の胴部片。横位および縦位の帯繩文が施されている。2は使用痕のある黒曜石剝片。下部に原石面が残っている。重さは1.9g。

P-83

P-91の南側約3mに位置する。墳底は平坦で浅い皿状を呈する。遺物は検出していない。

P-156

64-70区に位置する。南側は縄文時代中期のP-84を切っている。墳底は若干丸味を帯びるが鍋底上を呈する。1・2は覆土から検出されたⅢ群b類土器の調部片。1は赤褐色がちの色調を呈し、器面に結束第一種のある羽状縄文が施されている。2は損耗のため文様が不明なもので、裏面には黒色炭化物が付着している。3は覆土出土のⅥ群土器片。全体に摩耗が進んでいるが、微隆起線に縁どられた帶縄文と三角列点文とが残されている。他に礫1点が出土した。

P-102

調査区中央部の60-81区に位置する。南側にP-104・105・106などがある。墳底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる鍋底状を呈する。1は覆土出土のⅤ群土器の口縁片。外切ぎみの口唇外側に刻みが並び、その下に爪形状の刺突文列がある。他に覆土から黒曜石剣片1点が出土した。

P-104

P-102の南東約1.5mに位置する。墳底は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。1~3は覆土から検出されたⅥ群土器の破片である。1は山形にめぐる沈線文と並列する斜位の短刻線がみられるもの。2には半截竹管状工具による爪形状の連続刺突文と横帯縄文が施されている。3は縱走する帶縄文が施されたもの。4は磁石破片。砂岩を素材にし、重さは6.4g。

P-106

60-82区に位置し、北側に約3m離れてP-102がある。東北東約1mにはP-105がある。墳底は平坦で、壁は北東側を除き垂直に立ち上がる。覆土から黒曜石剣片1点が出土。

P-107

P-106から約2.5m南側の60-82区で検出した。墳底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。遺物は全て覆土から検出した。1は覆土中に見出されたⅥ群土器の調部片。表裏ともに摩耗が進んでいるが、器面には縱走する帶縄文が残されている。2は黒曜石石核。重さは8.5g。他に礫1点、黒曜石剣片15点、片岩剣片1点が出土した。

P-108

61-82区に位置し、P-107・108・133が東から西に約3mの距離をおいて並ぶ。墳底は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。1~5は覆土出土の土器片。1は胎土にやや多量の纖維を含む口縁片で、口唇部はほぼ丸い。2は表裏に縄文が施されたもの。3は波状縁の一部で、横位の沈線文がめぐり、不明瞭だが内面にも縄文が施された痕跡がある。4は口唇部の丸い小片で、胎土や調整が3に似たもの。5は縱走する縄文がみられる調部片。1・2はⅢ群b類に、3・4はⅥ群a類に、5はⅥ群に属するものである。他に礫4点が出土した。

P-112

P-112・115・116・120が弧状に並ぶ北端の60-82区に位置する。墳底は平坦で、壁との境は丸味がある。1~4は覆土出土のⅥ群土器で、5・6はⅢ群b-3類の破片。1は口縁外側

に刻みが加えられたもので、現存部では他の文様はみられない。2は表裏ともに摩耗の進んだ胴部片である。3は縱走する帯縄文がみられるもので、裏には黒色炭化物が付着している。4は底面へと移行する直前の調下部片で、縱走する帯縄文が重ねて施文されている。5は結束第二種のある原体による縄文がみられるもの。6は器面が摩耗して縄文が不明瞭だが、結束第一種の結束部の圧痕が残されている。他に礫と黒曜石剝片、泥岩剝片、片岩剝片各2点が出土した。

P-115

P-112の北北東側約1mで検出した。墳底は北東側が深く若干傾斜する。遺物は全て覆土から検出した。1には不整な刺突や沈線状のものがみられるが、文様か否か判然としない。2は凹石。安山岩を用いている。重さは76.2g。他に礫と黒曜石剝片、片岩剝片各1点が出土した。

P-116

60-83区に位置し、南約2mにP-112がある。墳底は平坦で、壁は南北が急角度であるが東西は緩やかに立ち上がる。1~5は覆土から検出された土器片。1はやや厚手で胎土に纖維を含有し、器面には細い原体による燃糸文が施されたもの。裏には不整な燃糸の圧痕が残されている。2は胎土に砂礫の含有が多い土器片で、単節の斜行縄文を施文後、さらに器面調整を加えている。1・2はIV群a類。3~5は帯縄文の縱走がみられるVI群土器の破片で、3・4の裏面には、黒色炭化物が一面に付着している。他に黒曜石剝片2点、泥岩剝片1点が出土した。

P-120

60-83区に位置し、北西約2mにP-116がある。墳底は平坦である。遺物は全て覆土から検出した。1はVI群土器の破片で、半截竹管状の工具を利用した横位の沈線文、斜位の短刻線、横位の列点文のほか、隆起線文や横帶縄文が重ねて施文されている。2・3はⅢ群b-3類に属する胴部片で、ともに摩耗しているが、単節の斜行縄文がみられる。4は石斧破片。安山岩を用い、打ち欠きにより成形している。重さは76.6g。他に礫と片岩剝片各1点が出土した。

P-118

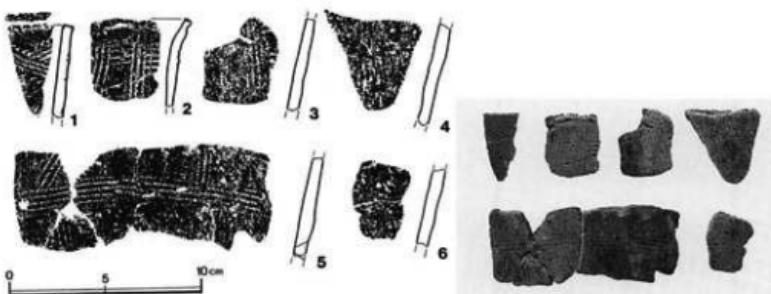
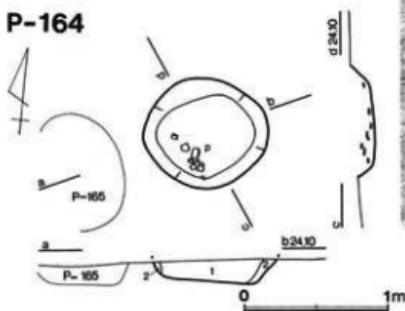
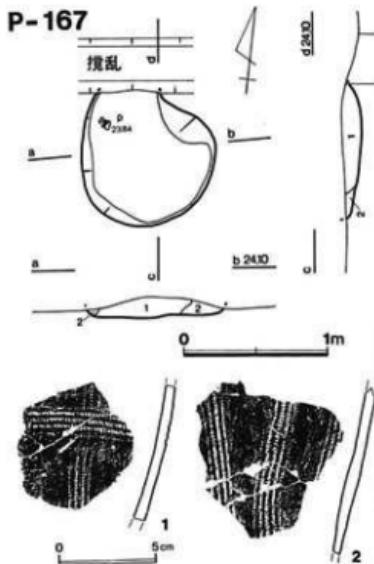
60-83区に位置する。墳底は中央がやや高く、壁の西側は緩やかで他は垂直に立ち上がる。1は刻みのある貼付帶と不整な山形にめぐる沈線文、および連続刺突文のみられる口縁片。2・4は帯縄文のほか、爪形状の刺突文列や沈線文があるもので、4の円形の穴は夾雜物の焼失痕か。以上はVI群で、3はⅢ群b類の摩耗した胴部片。他に礫2点と黒曜石剝片4点が出土した。

P-122

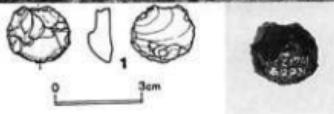
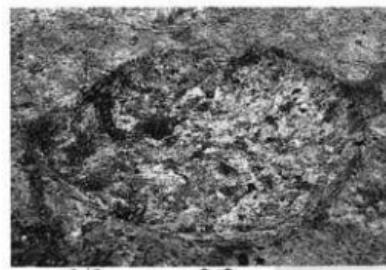
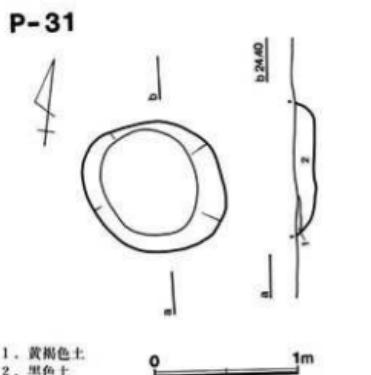
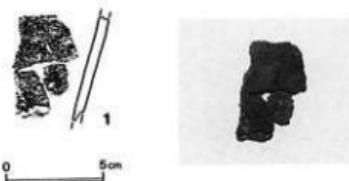
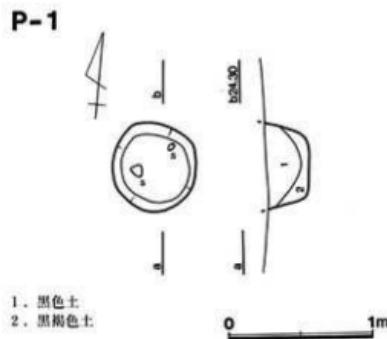
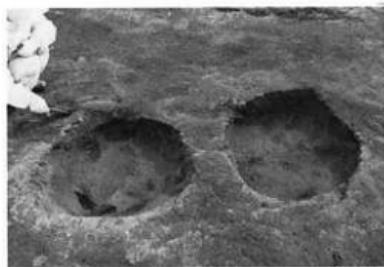
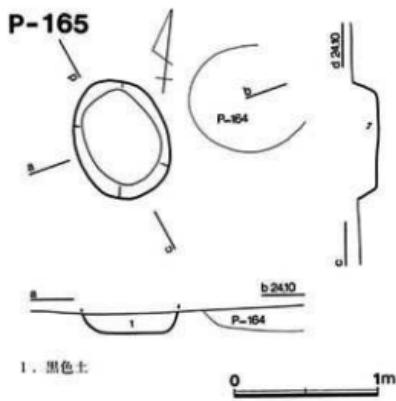
60-85区に位置する。墳底は東側が深いがボール状を呈する。遺物は全て覆土から検出した。1~5はⅢ群b-3類のものと思われる破片で、いずれもかなり摩耗している。1・3には結束第一種のある羽状縄文が、2・4には無節、単節の斜行縄文が残されている。5は平底の底部片で、胎土には砂礫のほか纖維も含まれている。他に礫3点と黒曜石剝片6点が出土した。

P-138

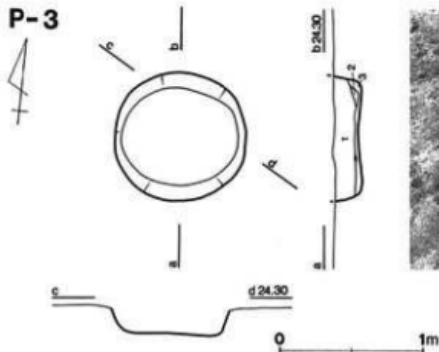
59-85区に位置する。墳底は丸味がありボール状を呈する。覆土から礫1点が出土した。



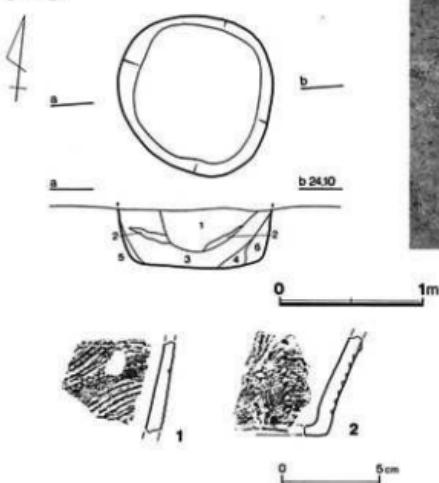
P-167 • P-164



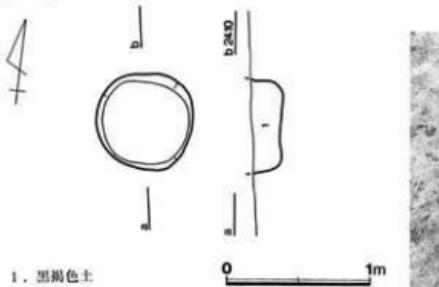
P-3



P-9

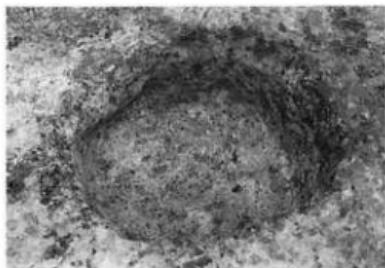
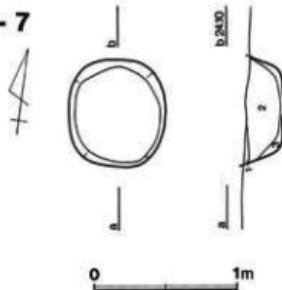


P-6



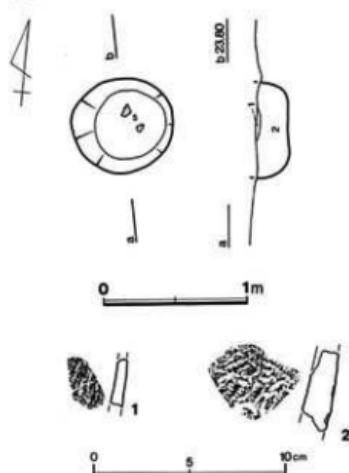
P-3 • P-9 • P-6

P-7



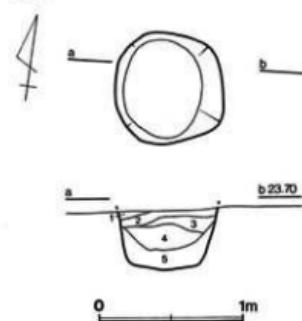
1. 黑色土 3. 褐色土
2. 黑褐色土

P-13



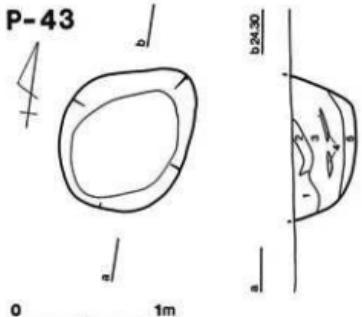
1. 黑褐色土
2. 黑色土

P-45

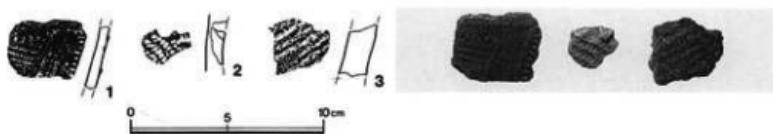


1. 黄褐色土 4. 黑褐色土
2. 黑褐色土 5. 黄褐色土
3. 暗褐色土

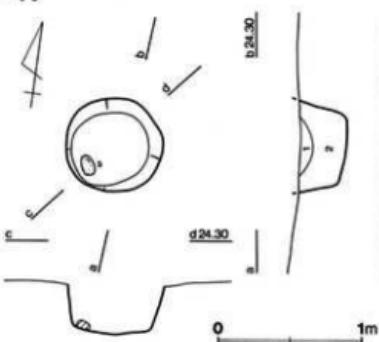
P-43



1. 黄褐色土
2. 黑褐色土
3. 茶褐色土
4. 黄褐色土
5. 黄褐色土

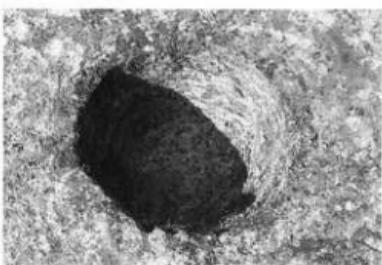
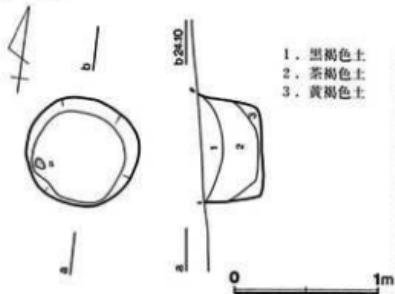


P-17



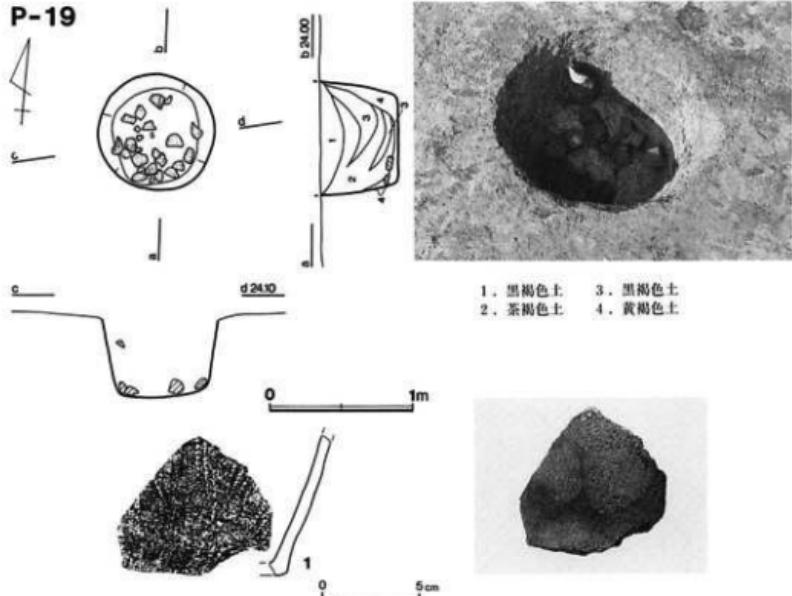
1. 黑褐色土
2. 褐色土

P-18

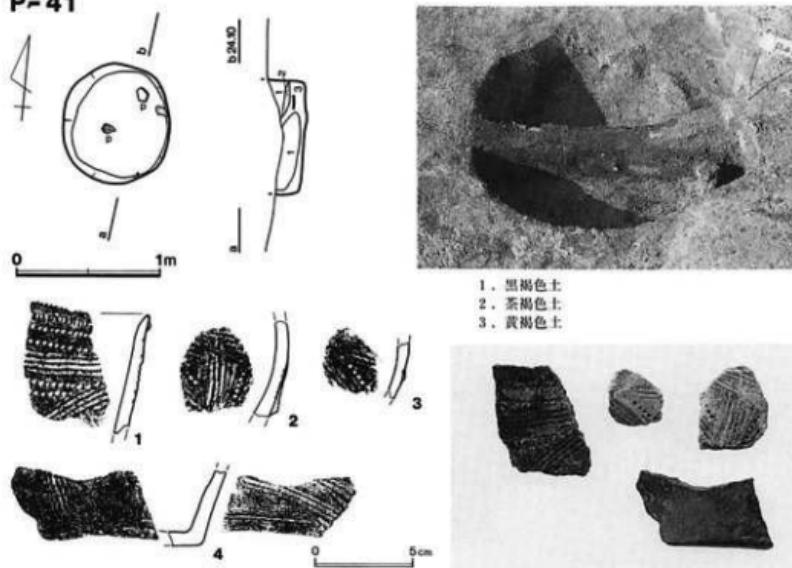


1. 黑褐色土
2. 茶褐色土
3. 黄褐色土

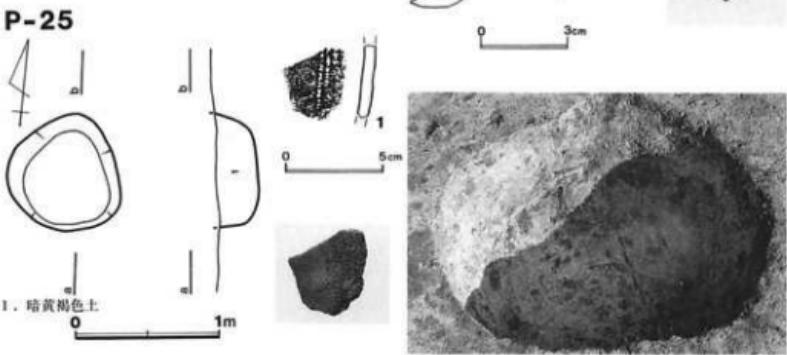
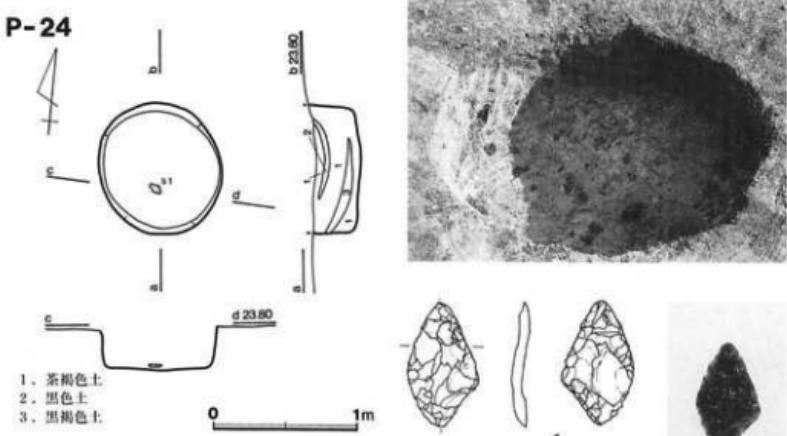
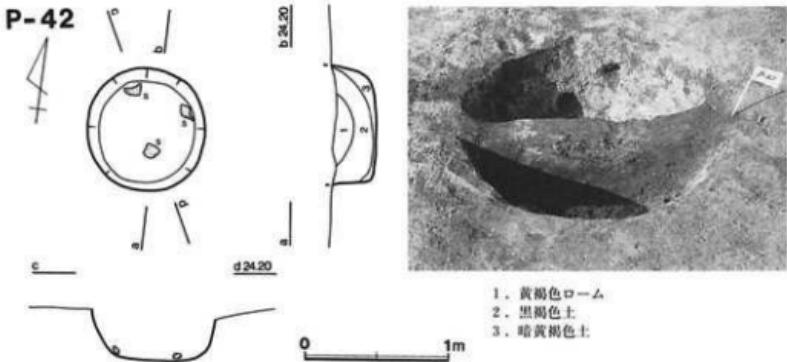
P-19



P-41

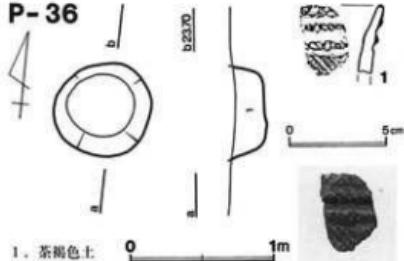


P-19 • P-41



P-42 • P-24 • P-25

P-36

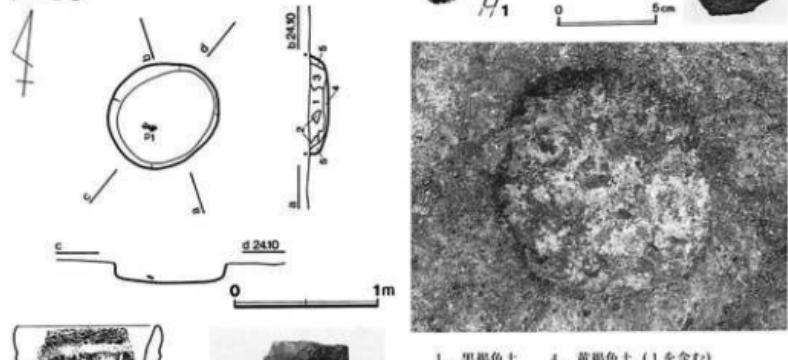


1. 茶褐色土

P-54

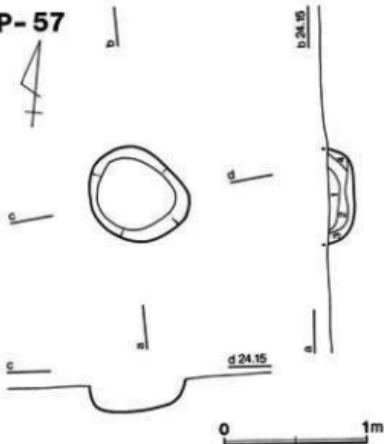


P-55

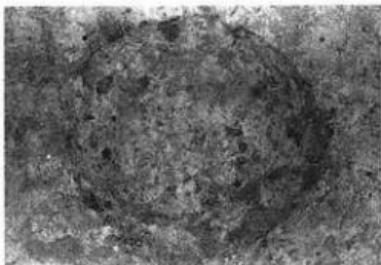


P-36 • P-54 • P-55

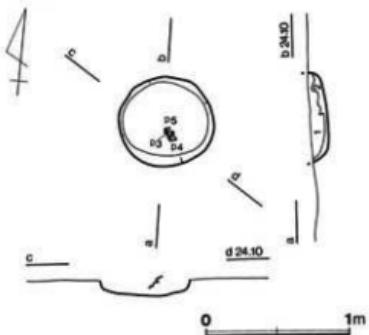
P-57



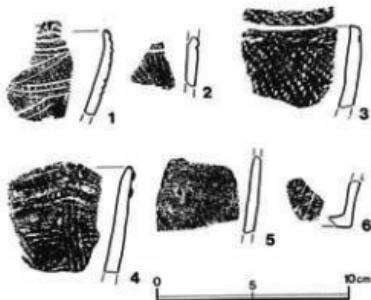
1. 褐色土
2. 黒褐色土
3. 黒褐色土（黃褐色土混入）
4. 黒褐色土（ロームブロック混入）



P-58

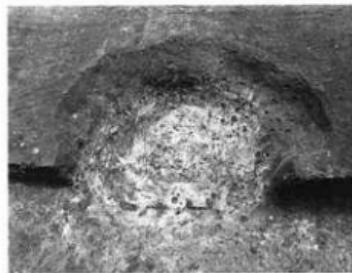
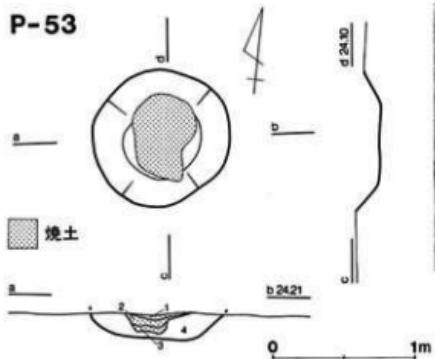


1. 黒色土
2. 黒色土（黄色土ロームを含む）



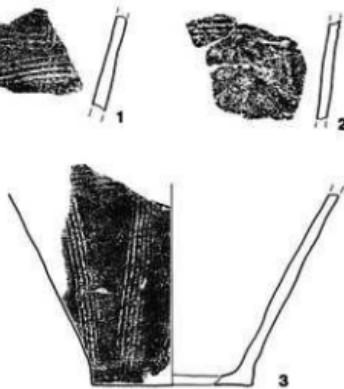
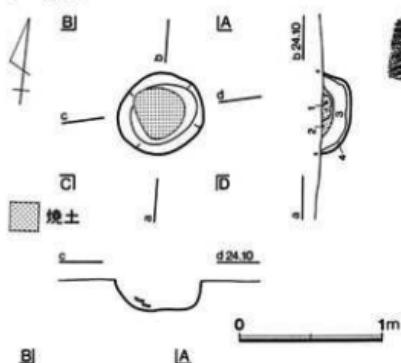
P-57 • P-58

P-53



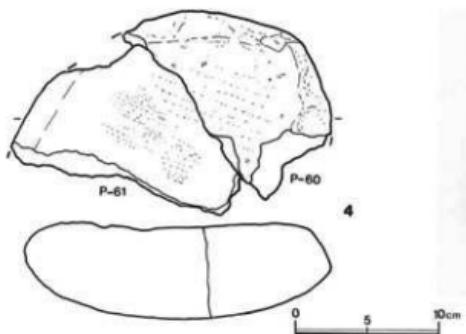
1. 赤褐色土
2. 暗赤褐色土
(燒土 > 黑色土)
3. 暗赤褐色土
(燒土 < 黑色土)
4. 黑色土

P-60

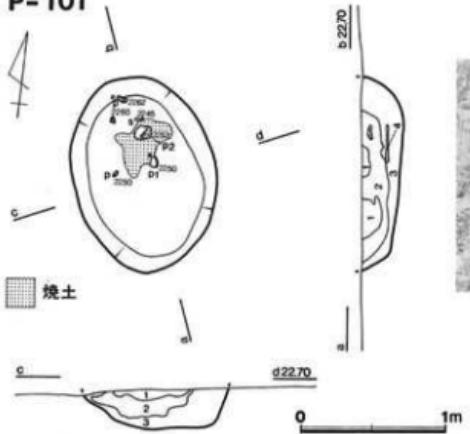


1. 赤褐色土
2. 暗赤褐色土
(燒土 > 黑褐色土)
3. 黑褐色土
4. 黑褐色土(ロームブロック混入)





P-101

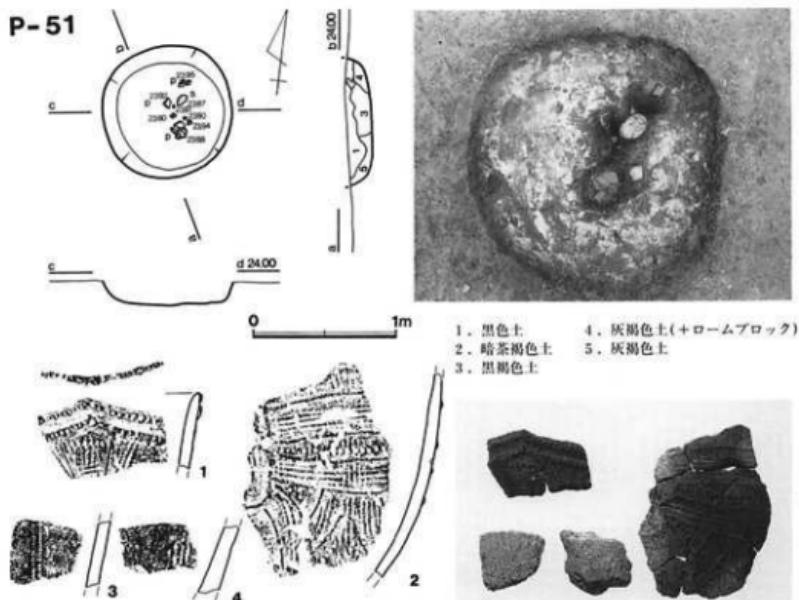


1. 暗褐色土 > 黄褐色土
2. 黑褐色土
3. 暗茶褐色土 < 黄褐色土
4. 赤褐色土 (焼土)

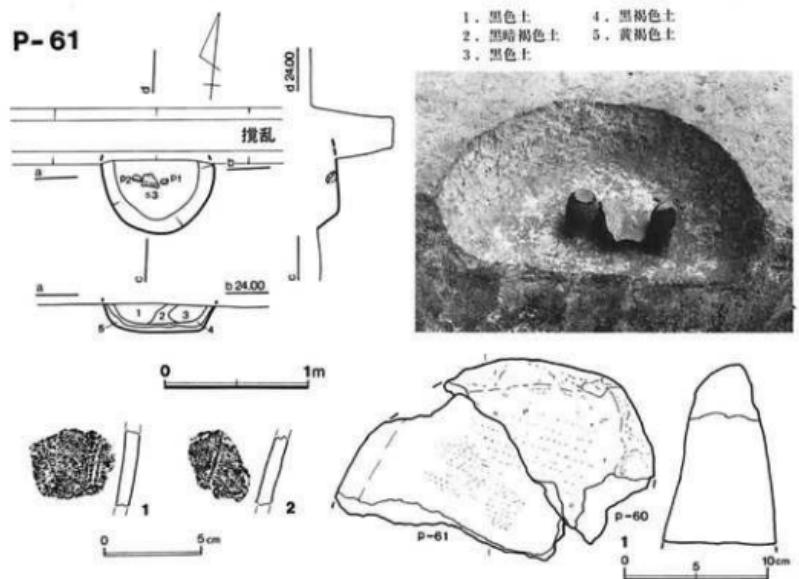


P-60の出土石器・P-101

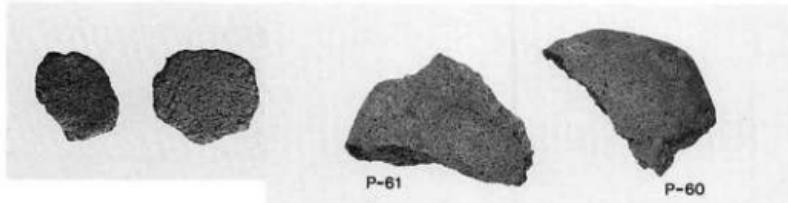
P-51



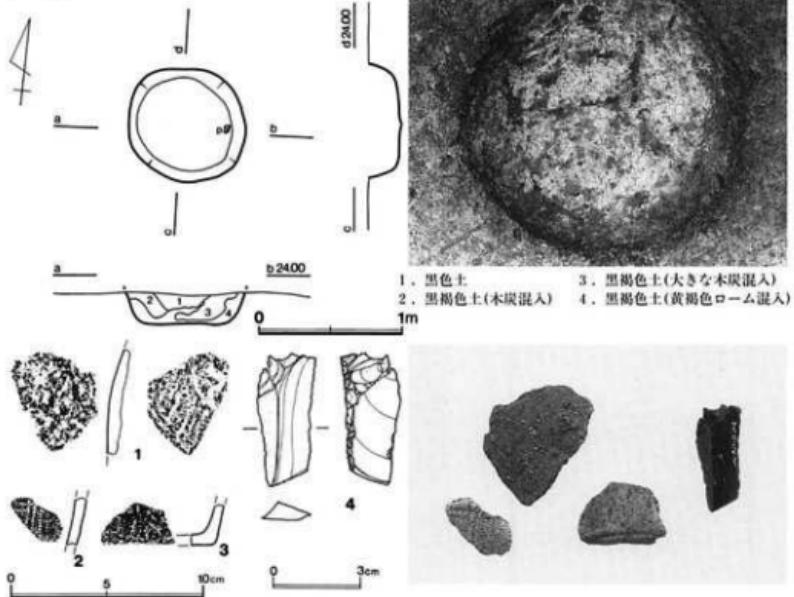
P-61



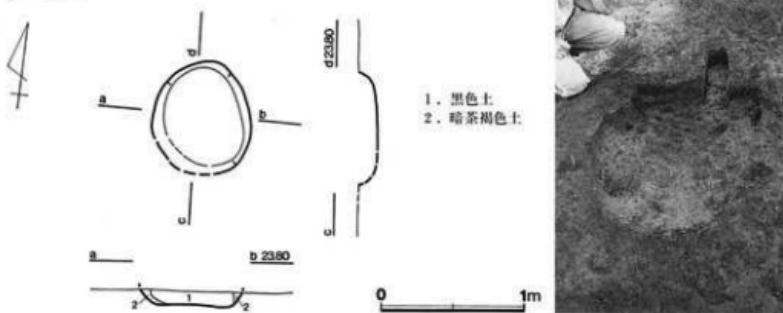
P-51 • P-61



P-62

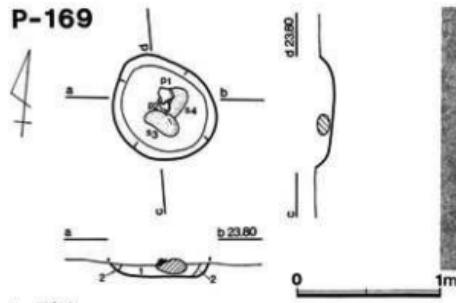


P-170

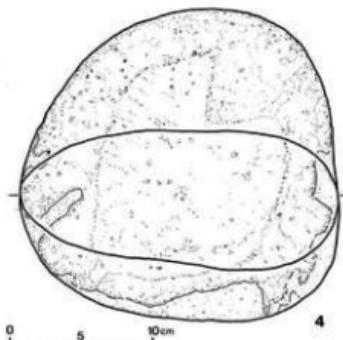
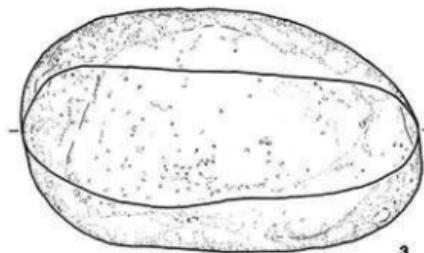
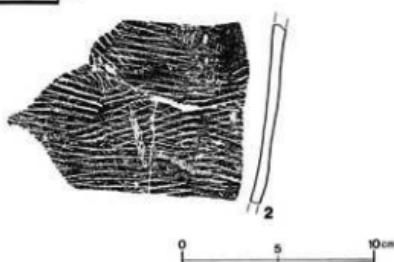


P-61の出土遺物・P-62・P-170

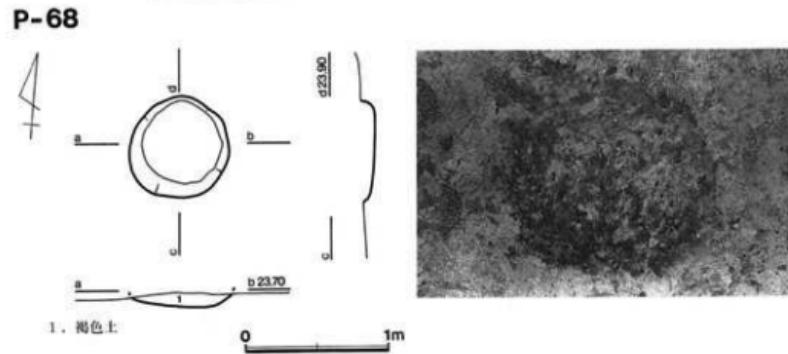
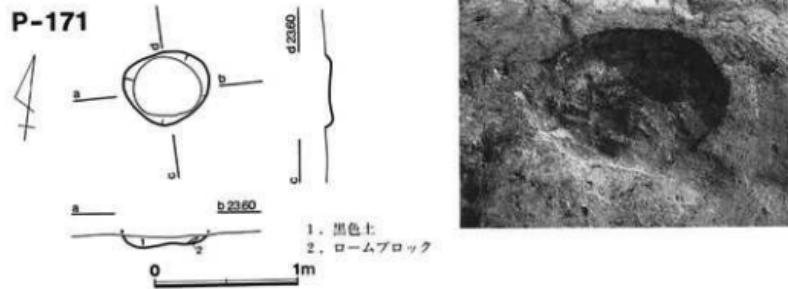
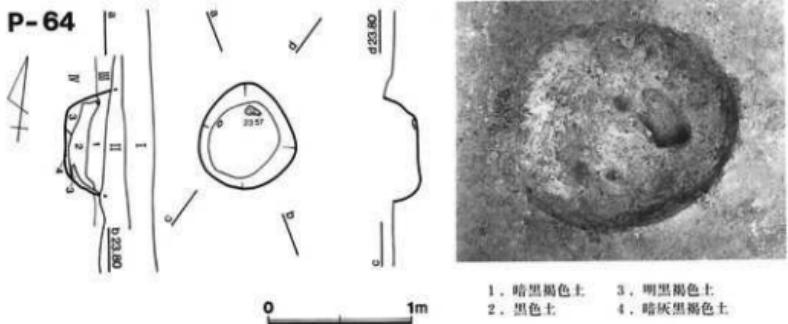
P-169



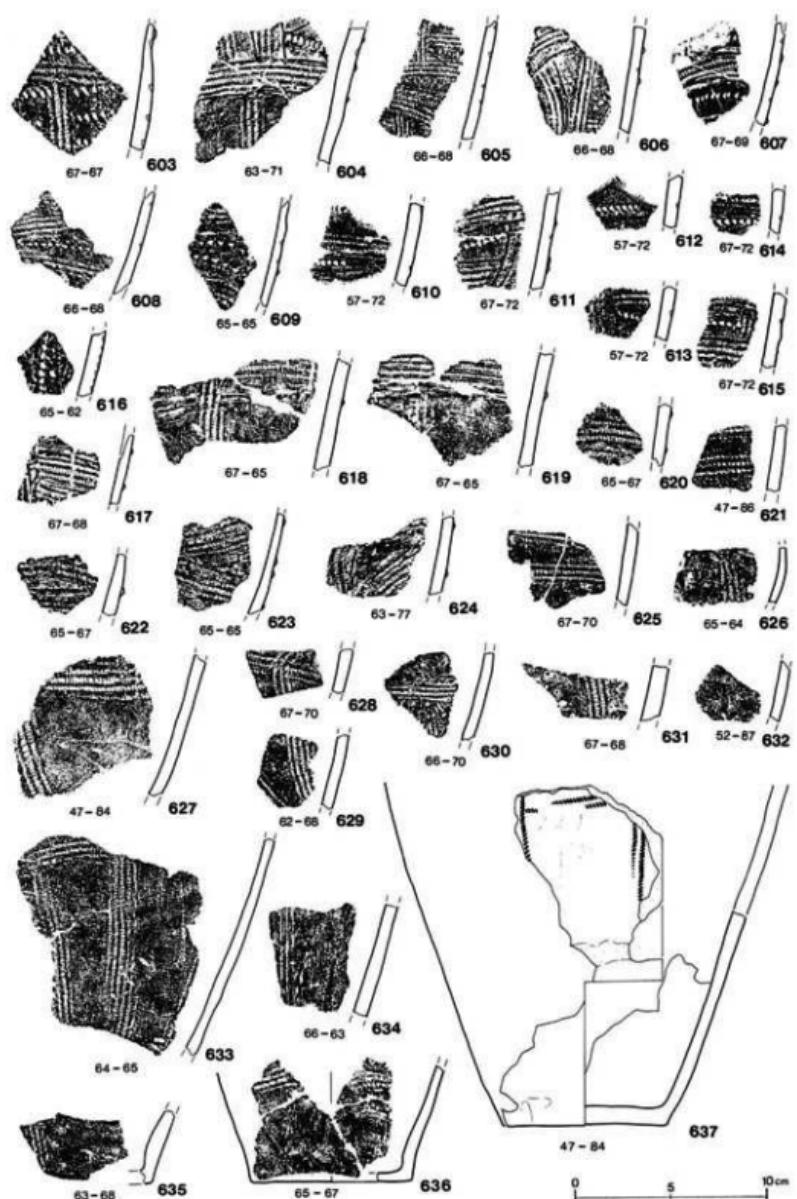
1. 黑色土
2. 暗茶褐色土

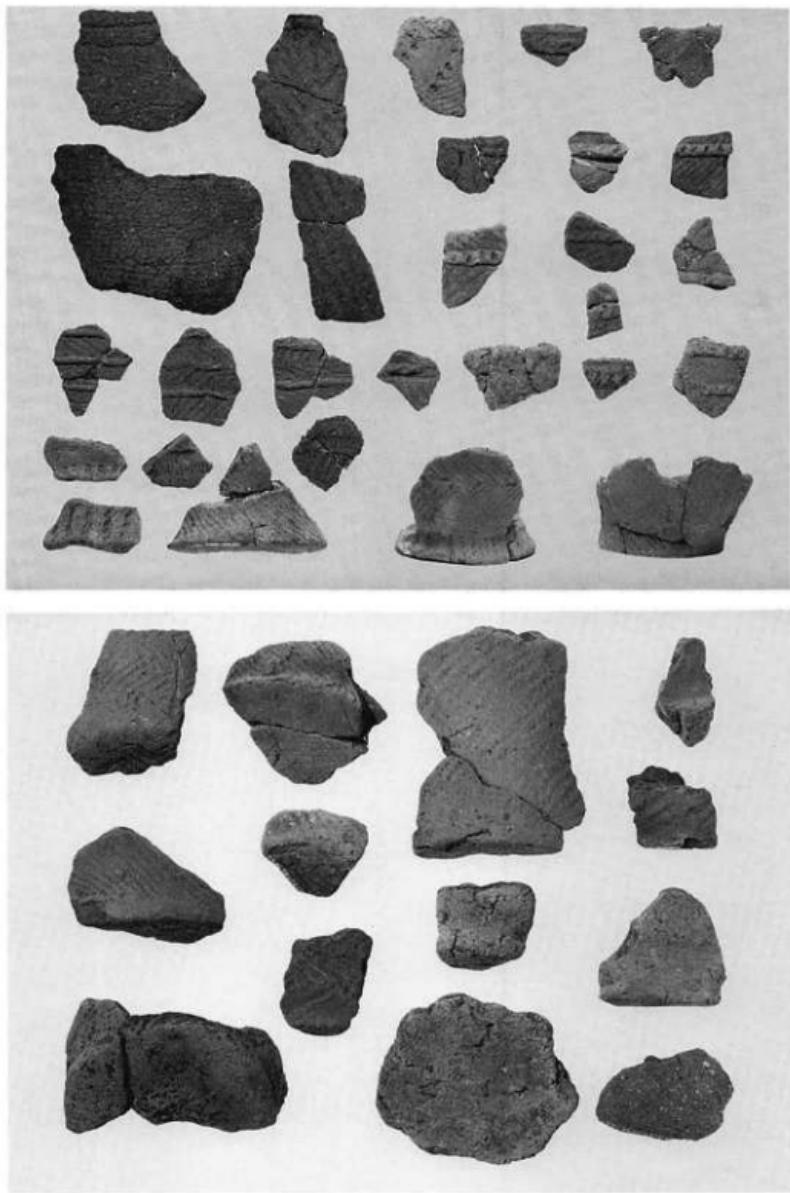


P-169

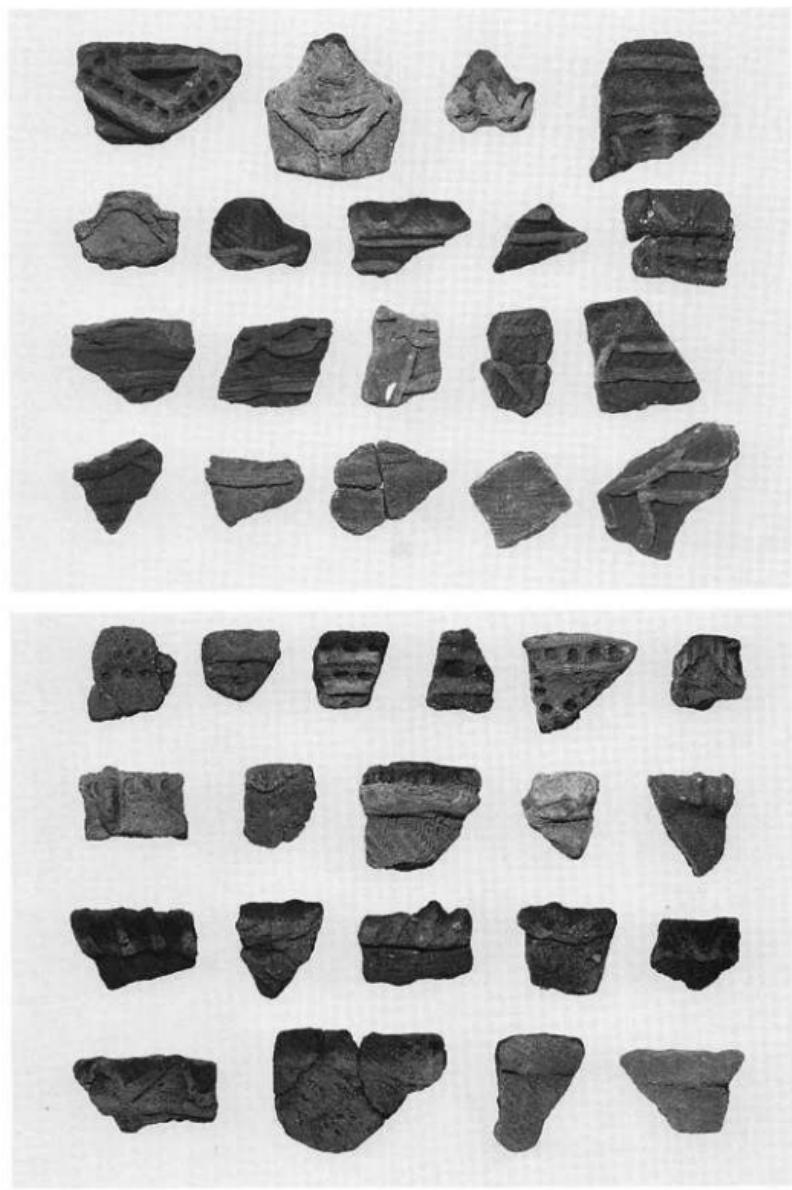


P-64 • P-171 • P-68

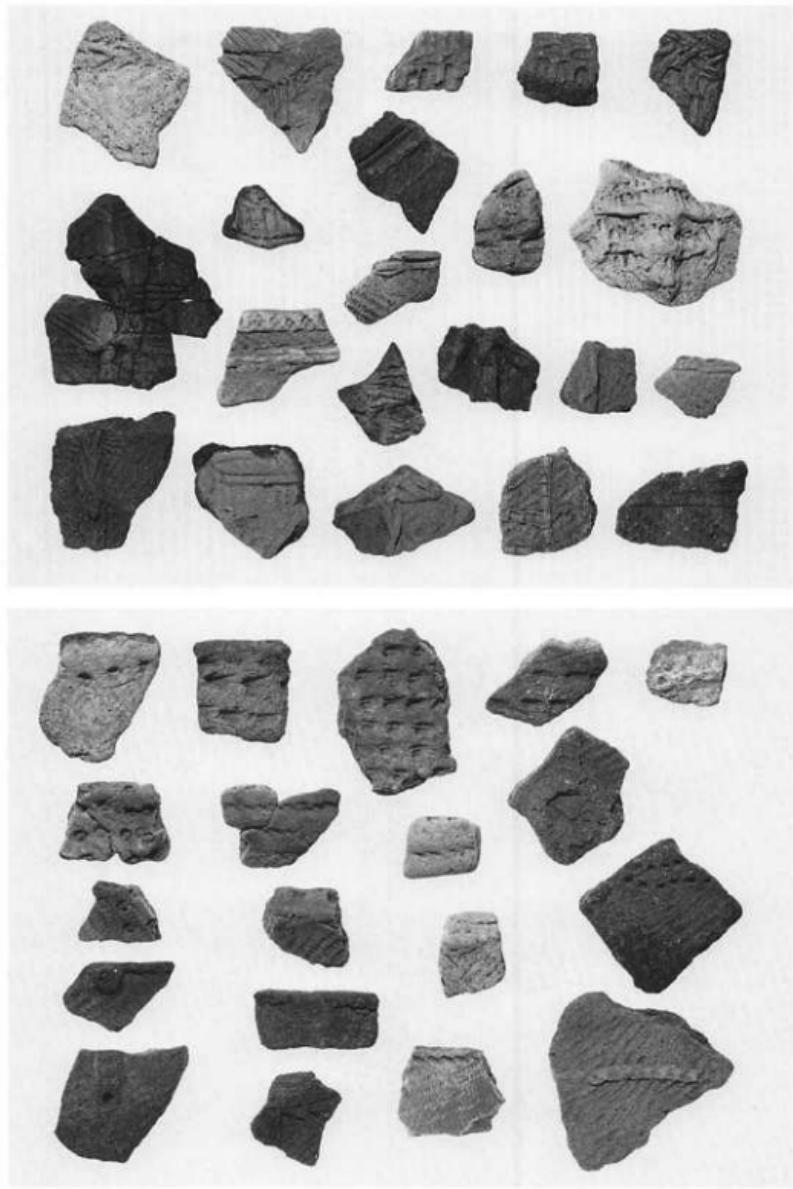




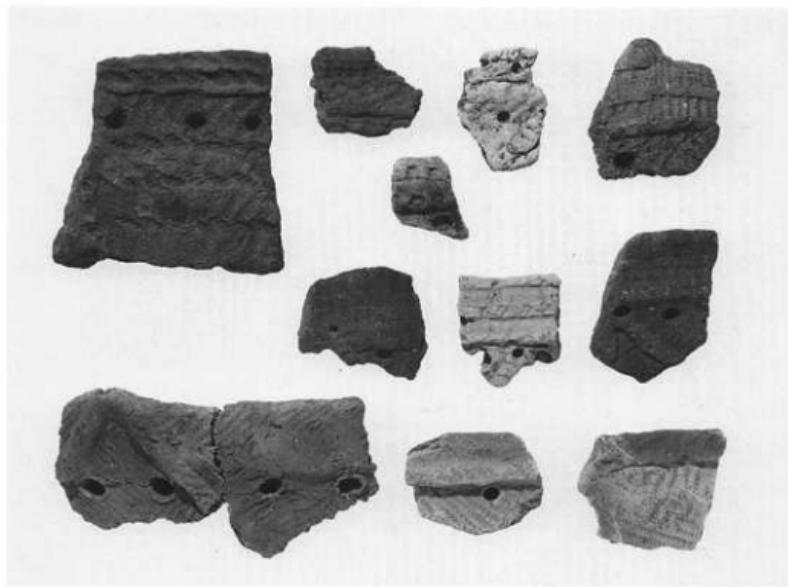
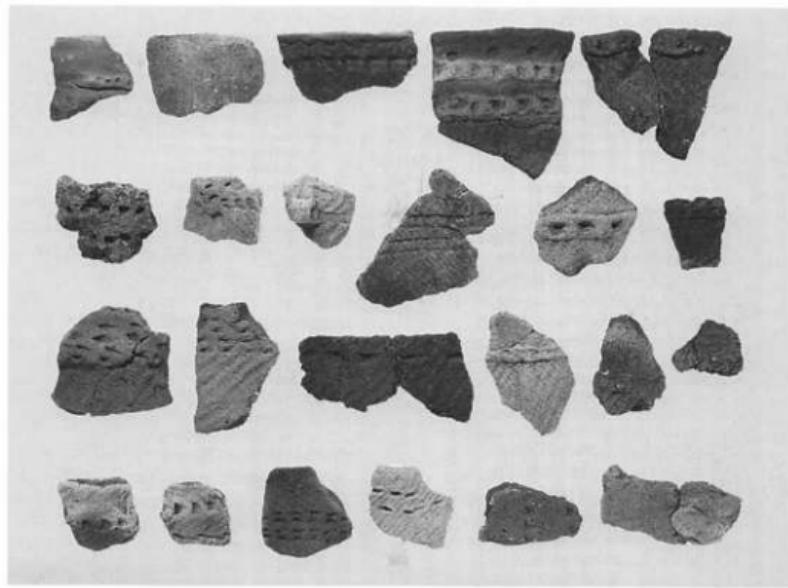
土 器 (1)



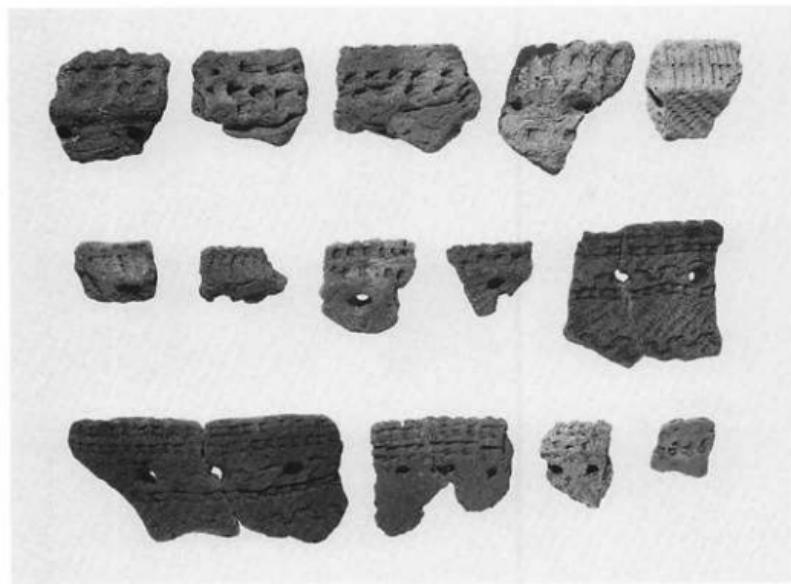
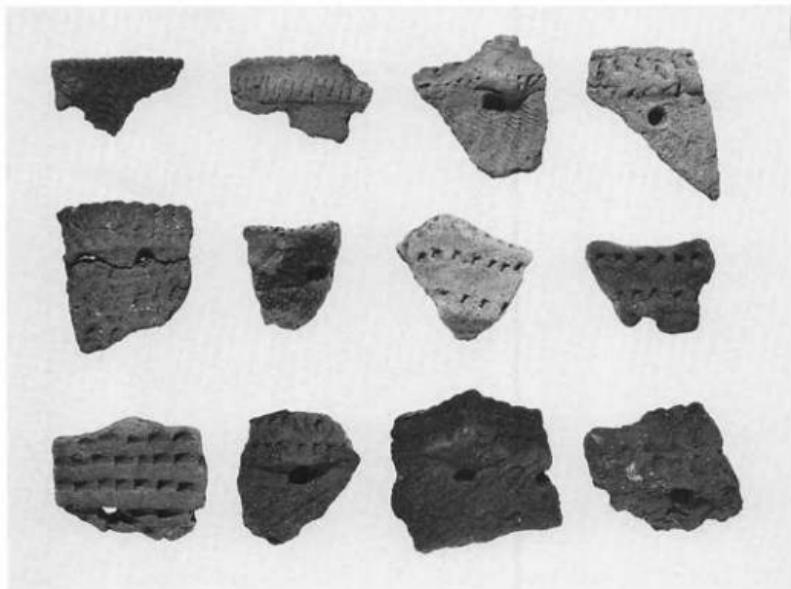
土 器 (2)



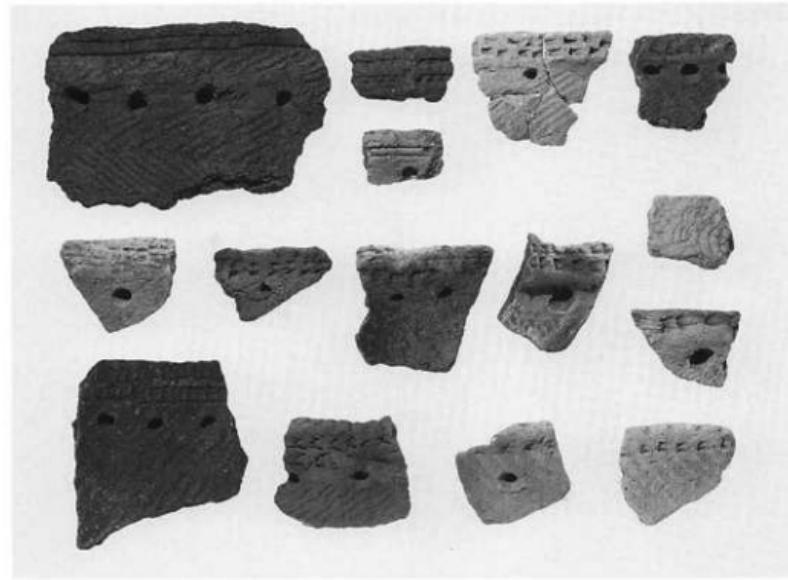
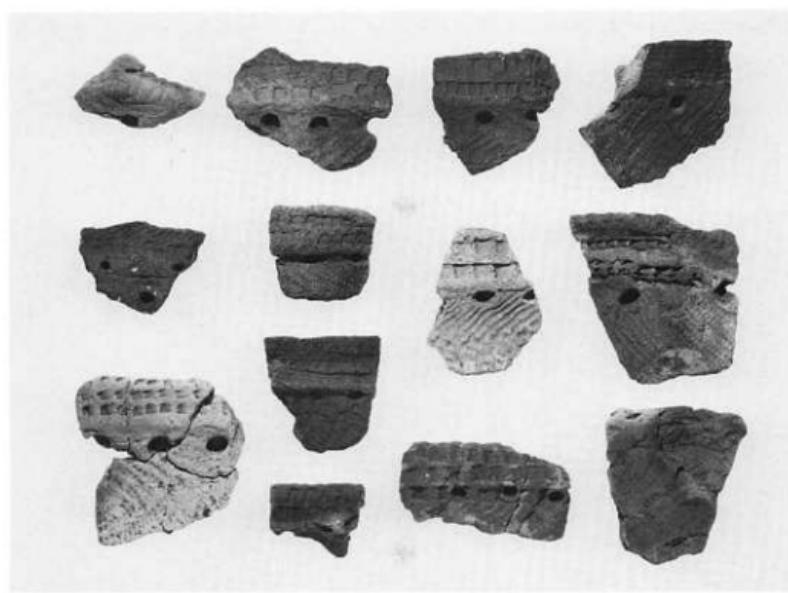
土 器 (3)

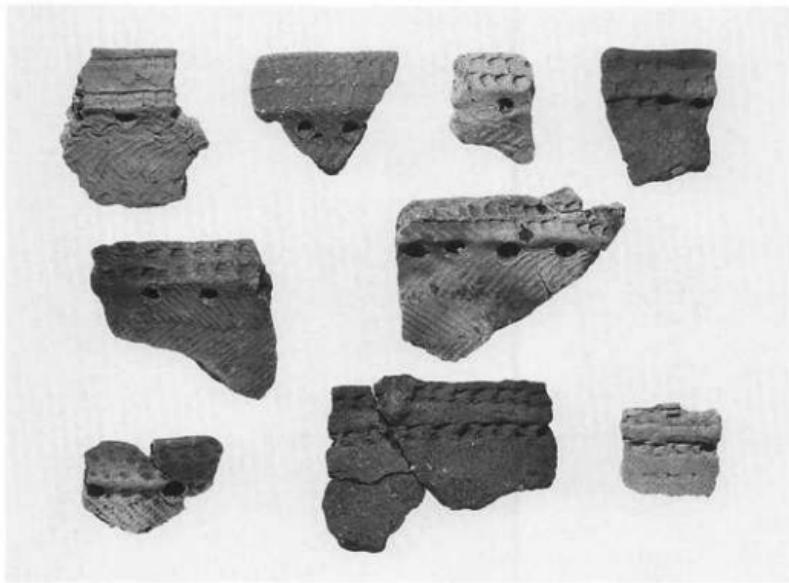
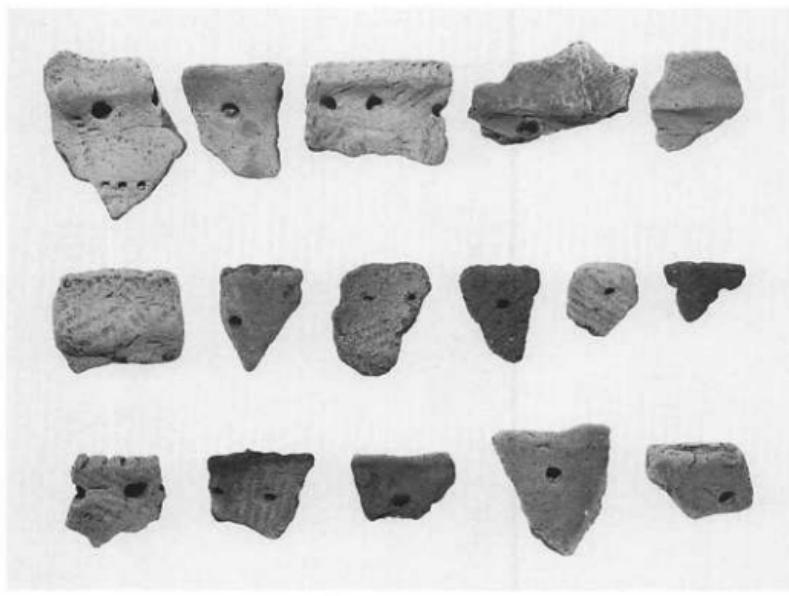


土 器 (4)

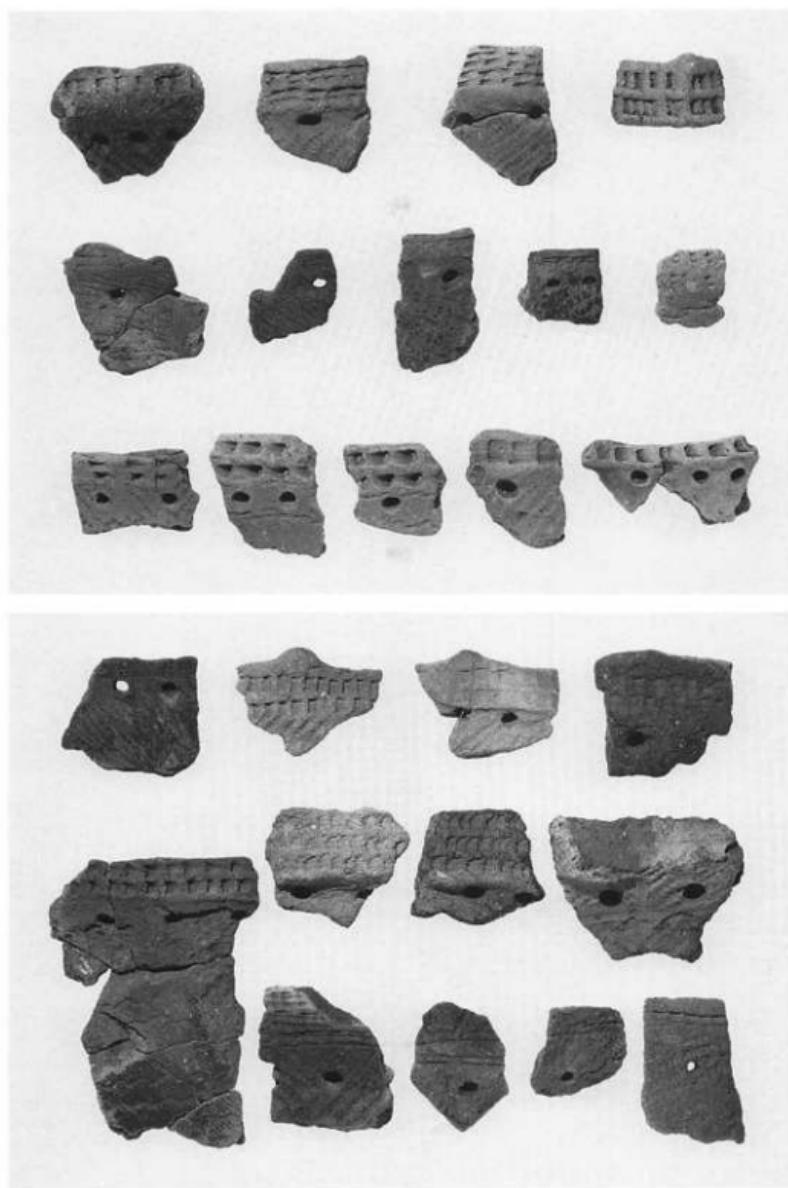


土 器 (5)

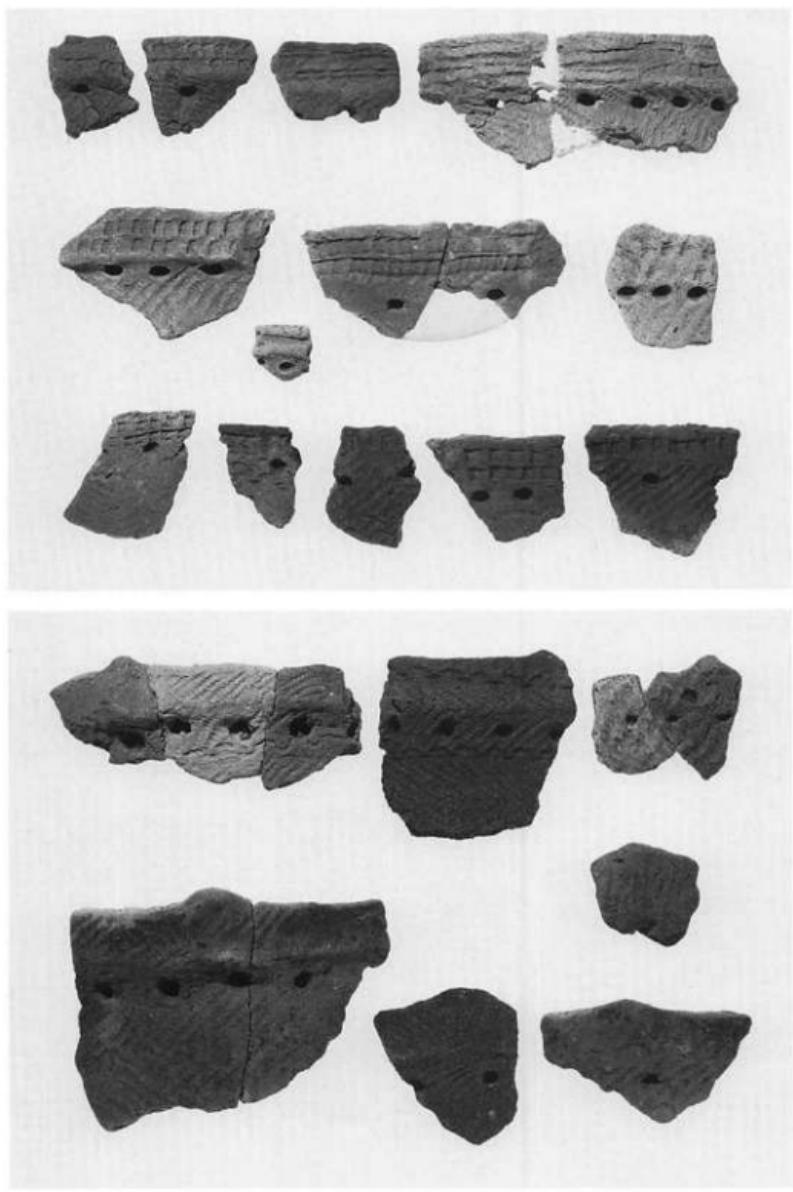




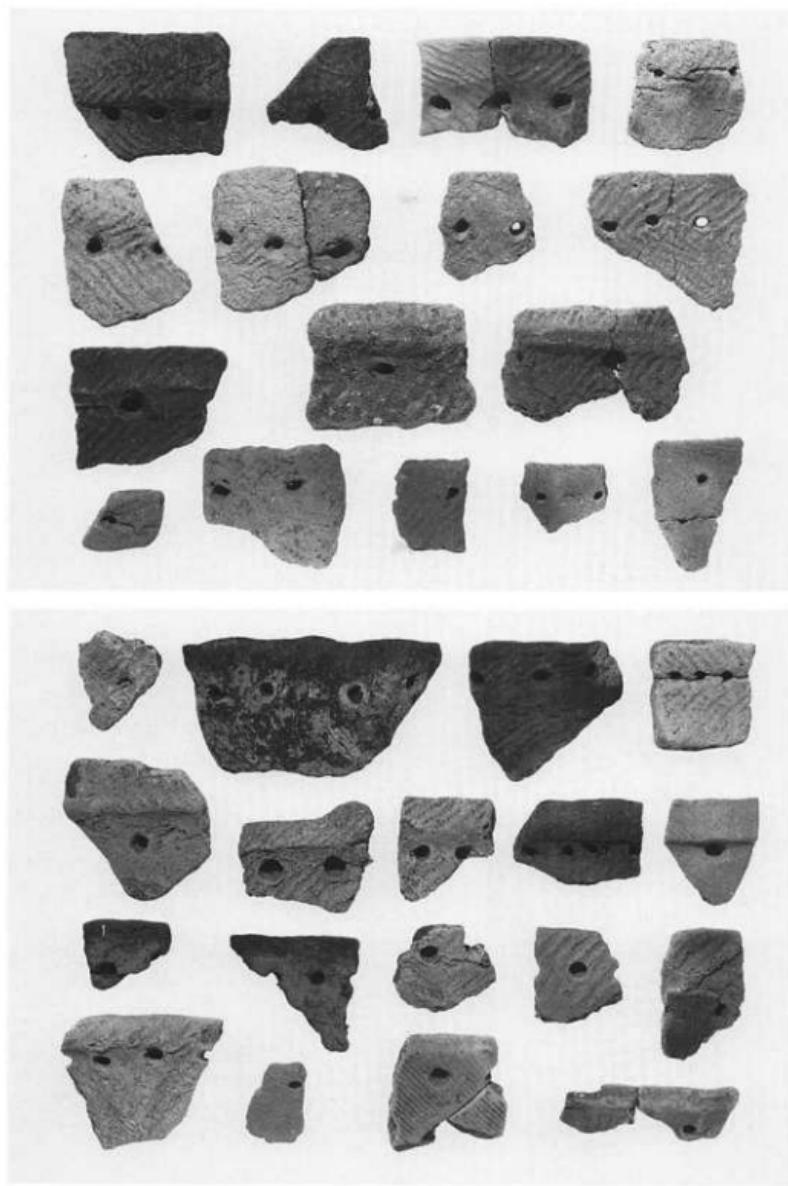
土 器 (7)

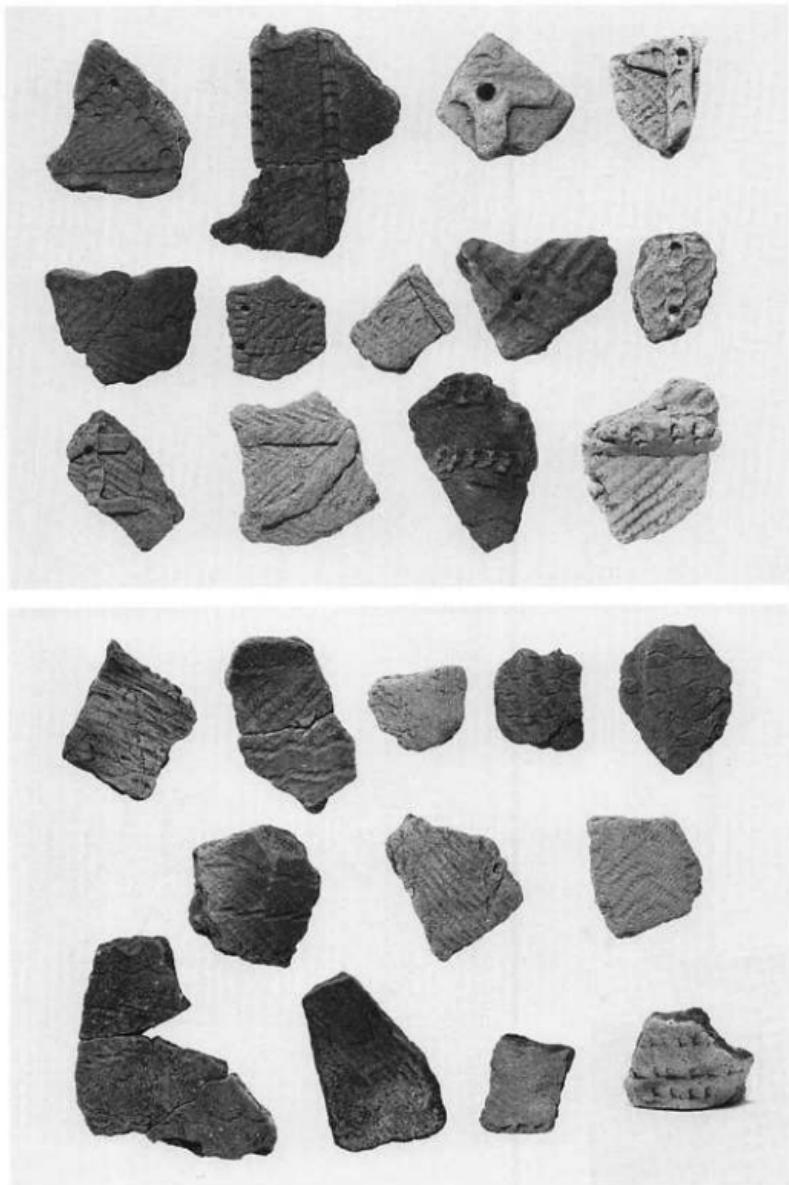


土 器 (8)



土 器 (9)



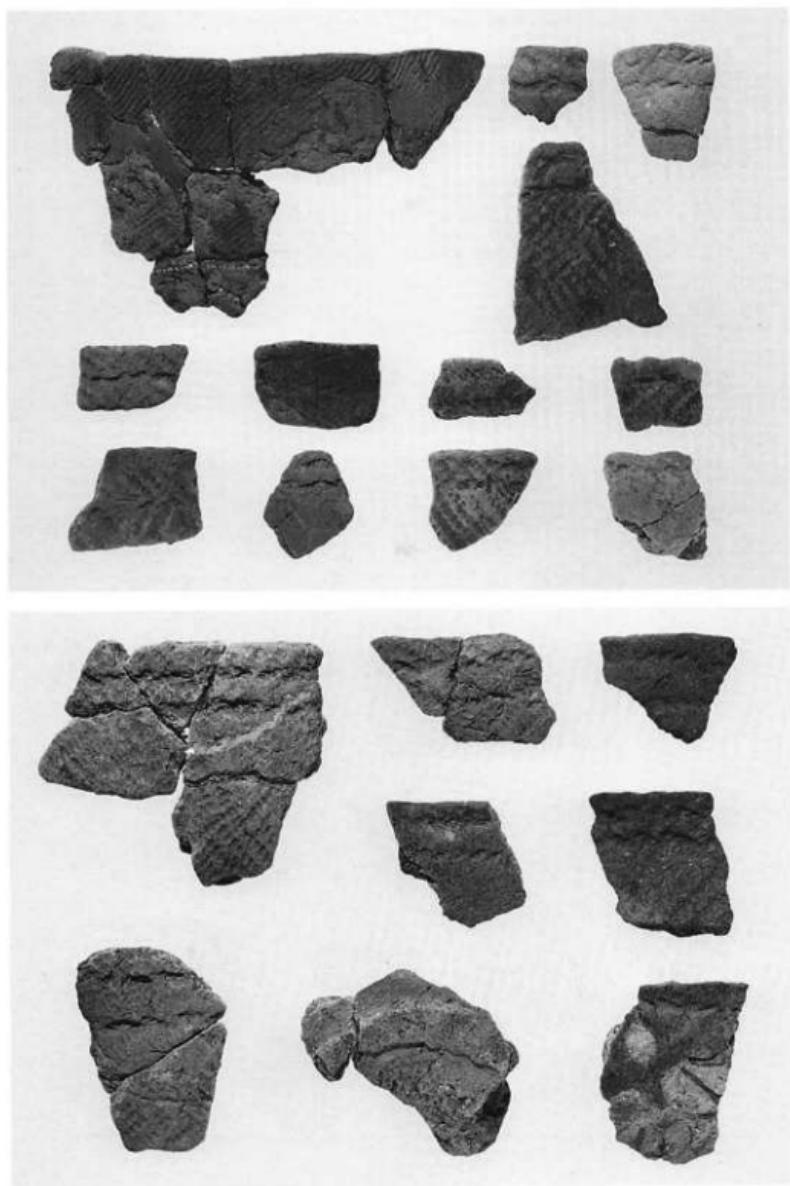


土 器 (1)

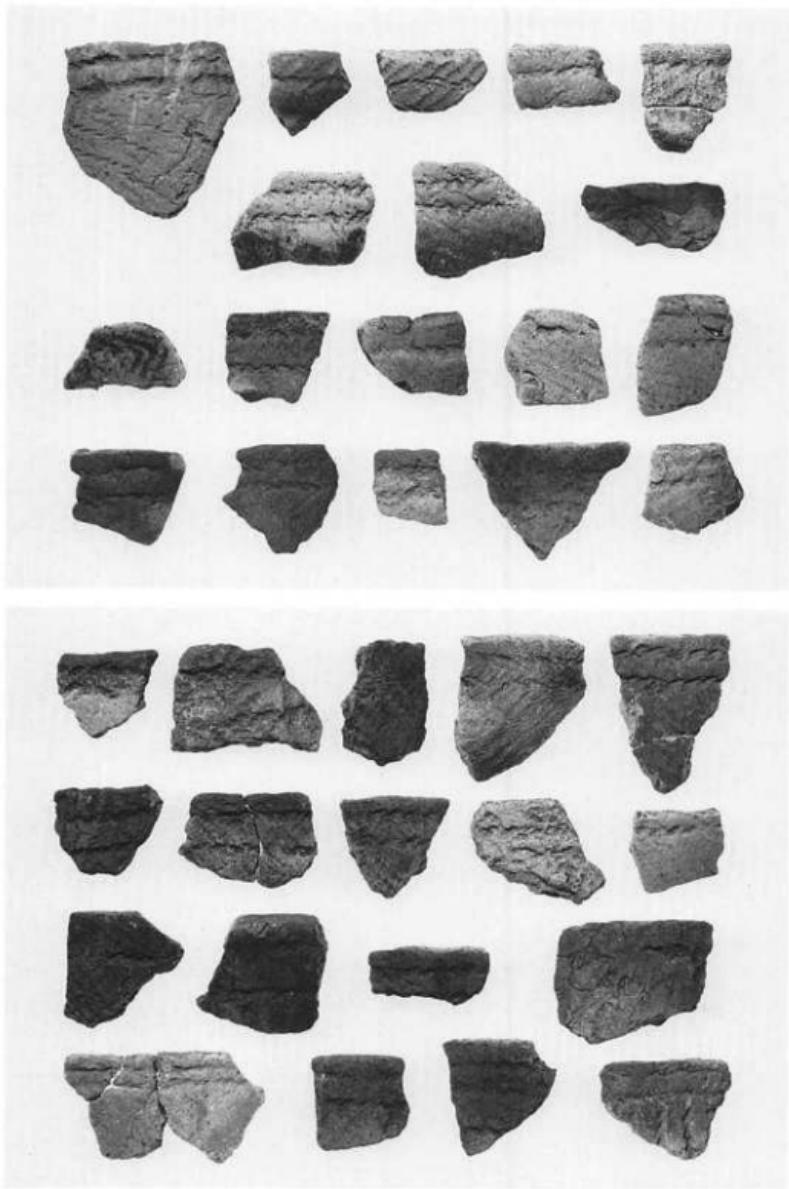




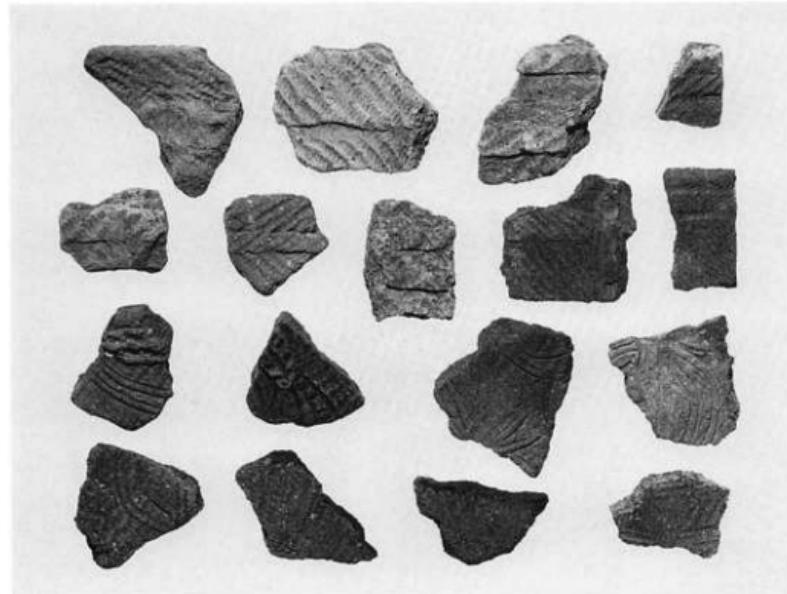
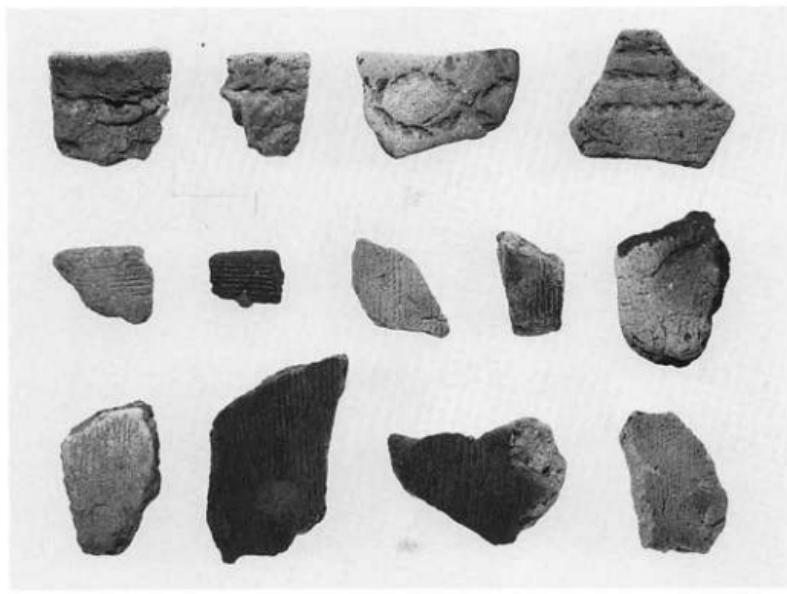
土 器 03

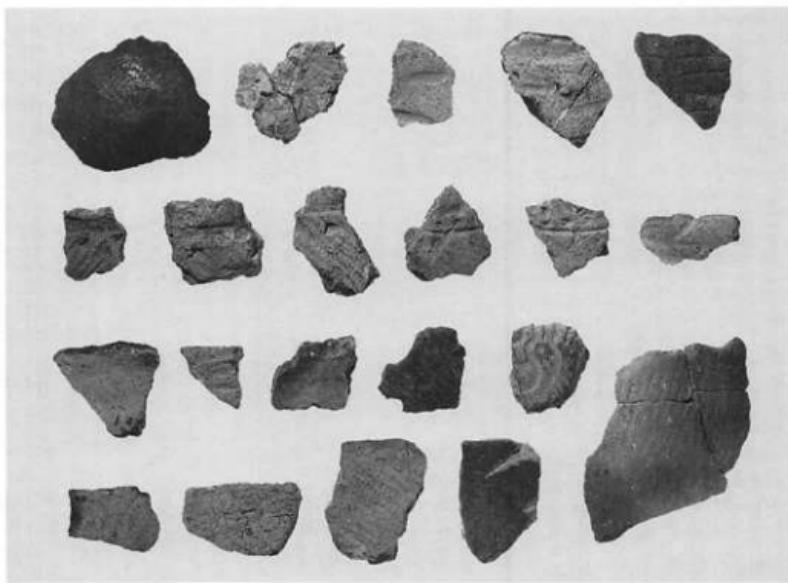
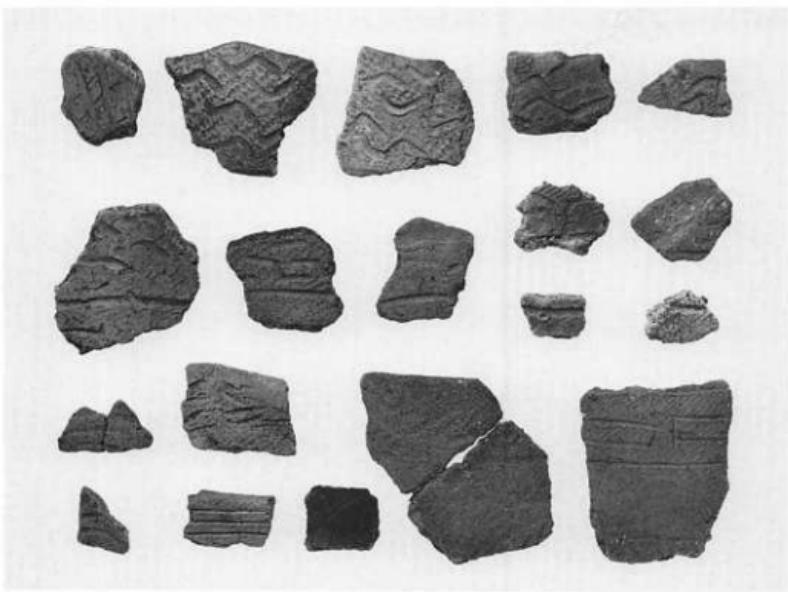


土 器 (1)

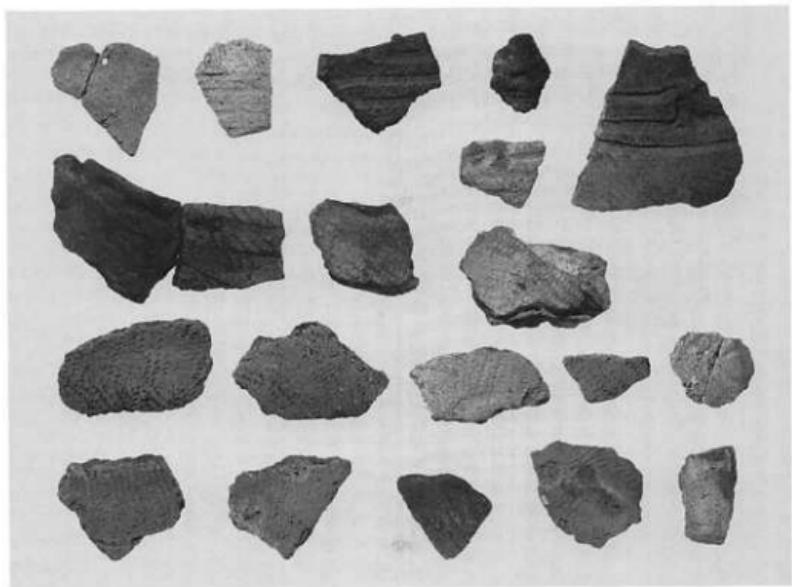


土 器 (5)

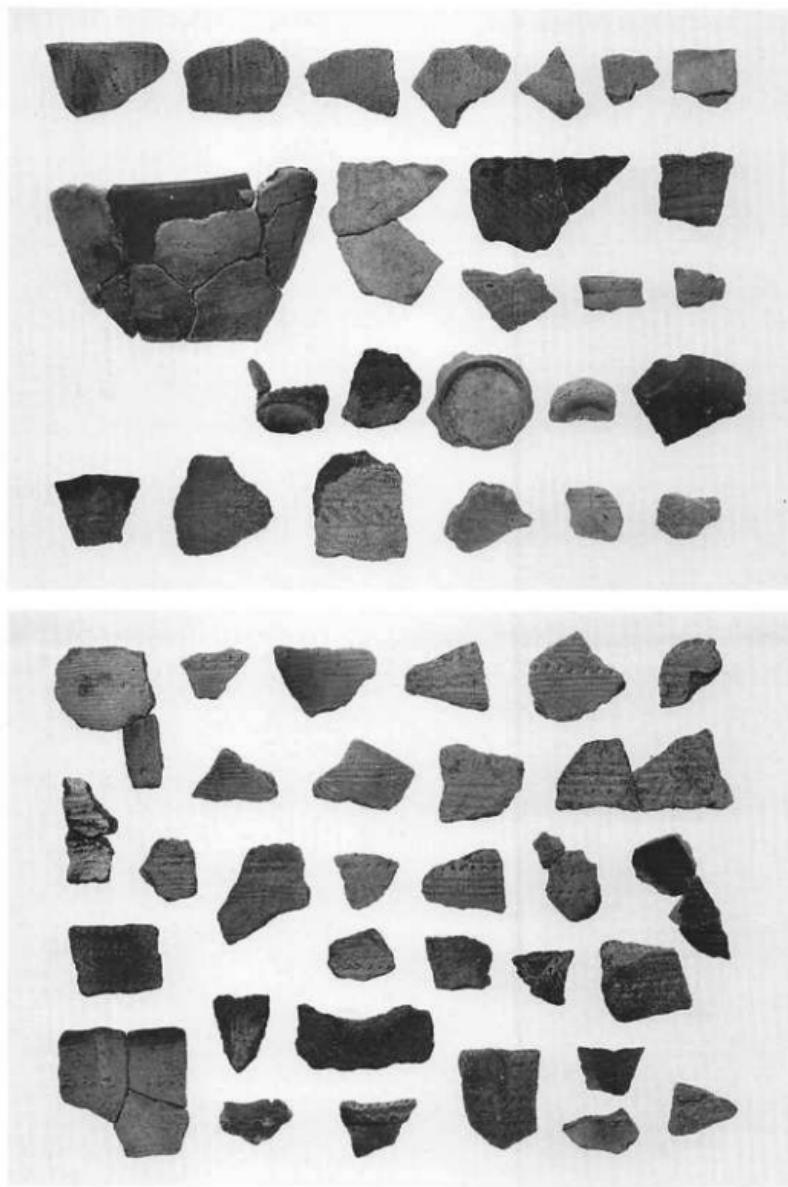


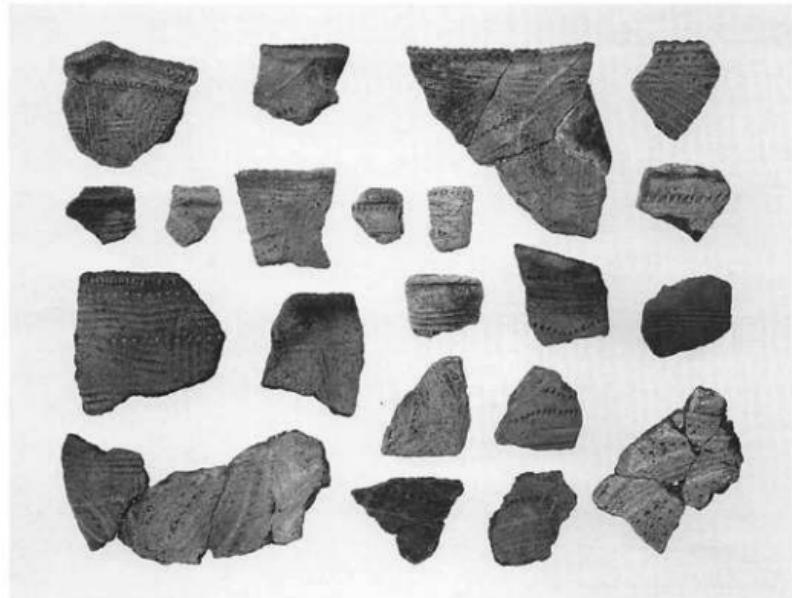
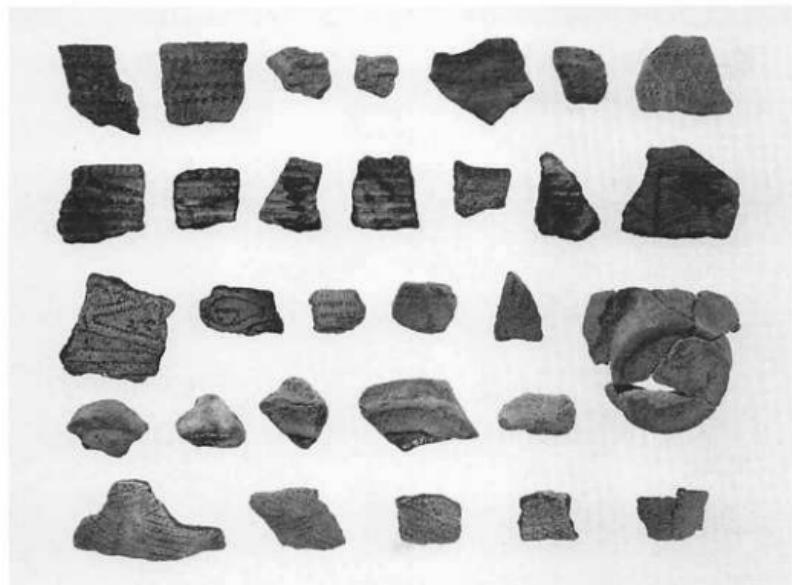


土 器 (17)

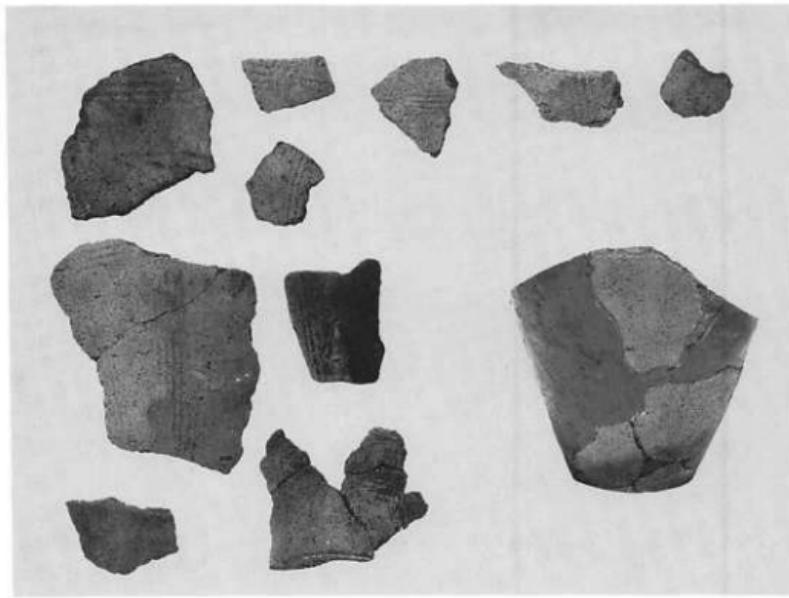
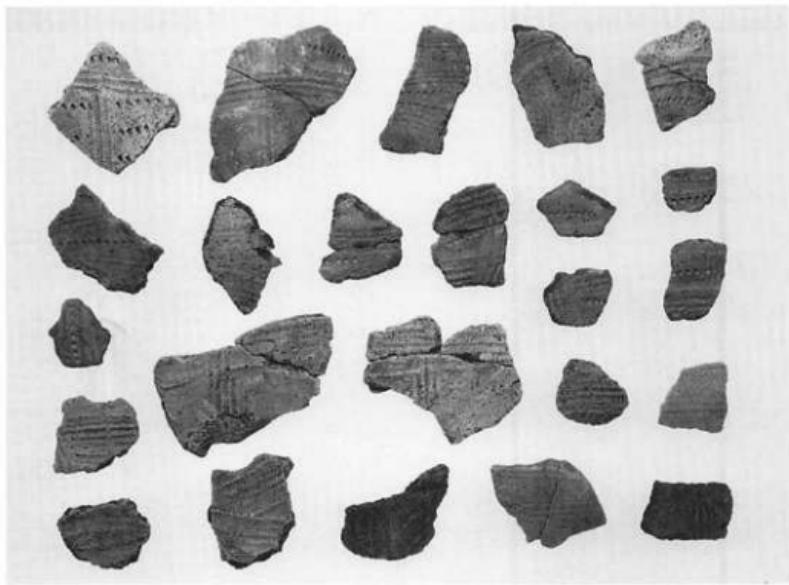


土 器 (18)





土 器 (20)



土 器 (2)

2. 石器

石器の出土総点数は10,336点である。全般的に調査区の南半に多く出土する傾向を示す。各々の石器については各器種ごとの項目で述べる。また図示したものは完形品及び破損程度の少ないものの中から器種の中で占める比率に留意して掲載した。Uフレイク、Rフレイク、ピエス・エスキューなどは図示していない。

石鏃

石鏃は717点出土した。調査区中央部の南西側で多く出土している。石鏃は無基のもの(1~164)と有基のもの(165~273)がある。無基石鏃のなかで三角形を呈するもの(1~50)は平基(1~21・33~38)と凹基(22~32・39~50)に分けられる。小型のものには一次剥離面を残すものが多くみられる。また、小型・平基の石鏃は東西62~68・南北66~70ラインに多く分布している。菱形(51~77)、木葉形(78~117)、多角形・基部が短く丸味のあるもの(118~153)、狭長なもの(154~164)がある。有基石鏃には、刃部が基部に比べて以下の短いもの(165~233)と、刃部が基部に比べて以上の狭長なもの(234~273)がある。その他、有基石槍の基部を再利用したもの(274)、中央または基部の両側辺にノッチがあるもの(275・278・276)、基の幅が広く長いもの(277)、尖頭部が狭長であるが破損により全形の判らないもの(279)がある。

ポイントまたはナイフ

931点出土している。調査区中央部の南西側と南側で特に多く、北西側ではやや多く分布している。北東部では少ない。有基のもの(280~381・449)と、基の作りが明瞭にみられないもの(383~448)に分けられる。前者は基の末端部が平らなもの(280~316)と尖頭状のもの(317~382)がある。後者は菱形のもの(383~396)、狭長のもの(397~418)、木葉形や多角形のもの(419~448)がある。292は熱を受けた後、尖頭部に調整を加えている。425・438は接合した例である。317・372・435・443・446は側辺に棒状剥離がみられる。

ドリル

ドリルは325点出土した。調査区の南西側は特に集中している。大半が頁岩・めのう・チャートなどの厚みのある剝片を利用して端部に錐部を作り出した小型のドリルである。つまみ部に調整がみられるもの(450~456)。剝片の一端に錐部を作り出したもの(457~510)。棒状の剝片を利用し錐部を作り出したもの(511~528)。棒状の剝片の両面に調整のみられるもの(529~535)。剝片の両端に錐部を作り出したもの(536~539)。

つまみ付ナイフ

つまみ付ナイフは150点出土している。調査区の中央から南西側に多く出土している。縦型のもの(540~569)と横型(572)または中間型(570・571・573~575)のものがある。前者のもので、縦長剝片を利用したものには、片面全体に調整を加えたもの(540~557・559)と周辺部に調整を加えたもの(560~562・564~569)がある。569は欠損している。558・563は横長の剝

片を素材にしている。558のb面右側刃部には、打面を残している。570・571は片面全体に調整を加えている。572は横長の剝片を素材にした横型石匙。573は刃部尖端のバルブを折り取ったと考えられる。574はバルブにつまみを作った縦型石匙。575は刃部をラウンド・スクレイバー状に加工している。

スクレイバー類

スクレイバー類は849点出土し、調査区のほぼ全域に分布しているが、南西側に多く出土する傾向を示している。576～679は半両面または両面加工の範状石器、580～595はラウンドスクレイバー、590は半両面加工である。596・598～604はエンドスクレイバー。597は原石から折り取った素材に刃部の加工を施しただけのものである。605～607は片面加工の範状石器。片面の周辺部に加工し、直刃や内・外湾する刃部を作り出したもので、608～612・617～624・632～636は縦長剝片を利用したもの、625・626・628～631は横長剝片を利用したもの。637～654は両面または半面加工のもの。654は接合した例である。上半は割れ口や側辺に再加工を施している。655～657は刺突状の刃部を持つもの。658は鋸歯縁石器。659はサイドスクレイバー。

石斧

石斧は破片を含め1,010点出土した。調査区のほぼ全域から出土しているが、中央部と南側に特に多く出土している。660～667はのみ形を呈するもの。668～685は細身で小型のもの。686～694は片刃のもの。695～709・719は中型のもの。710～718・722は大型で厚みのあるもの。大半は打ち欠きと研磨による成・整形が成されているが、660・663・696は全面磨製のもの。663は擦り切り痕がみられる。715～718・722はベッキングによる成形がみられる。720・721・723・724は石斧の未製品。打ち欠きによる成形がおこなわれている。

たたき石

たたき石は201点出土した。調査区中央から南側に多く分布する。たたき石には棒状礫の一端または両端を使用したもの(725～731)、扁平礫の側辺及び端部を使用したもの(732～734)、円礫を使用したもの(735～738)などが出土した。

くぼみ石

くぼみ石は55点出土した。調査区の南側で出土している。扁平礫の両面(739～741・743～745)、または片面(742・746)に溝状や半球状の使用痕がみられるものと大型の円礫のやや平坦な面にくぼみがみられるもの(747)がある。

すり石

448点検出されている。調査区の中央部から南側に分布する。748は礫の一辺に、749・750は側面にすり痕がみられる。751～771はいわゆる北海道式石冠と称されているものである。これらは、68-70区の1点を除き調査区の南半部でのみ検出されている。762は上部が欠損した後、ベッキングにより再加工されている。760・765・768・769は接合した例である。771は端部の上から擦り面にかけて縦に細長く割れた破片である。このように割れた破片が他に十数点出土している。

石錐

石錐は10点（772～781）出土した。各々はなれて検出されている。扁平礫を用いて長軸の両端を打ち欠いている。781は一端が欠損している。

石鋸

10点出土しており調査区の中央部から南側に分布している。782は片岩を素材に、両側縁を研磨している。取り敢えず石鋸に分類したが用途は不明である。783・785・786・788～791は一侧縁を使用したもの。784・787は両側縁を使用したものである。石鋸の数に対して、擦り切り手法を用いた石斧や、擦り切り残片などの出土は極めて少ない。

砥石

砥石は破片も含め924点出土している。調査区の中央部から南側に多く分布している。また、北東側と北西側に散布している。792～796は砥面に溝がみられるもの。797～799・804・810は1～3面の砥面がみられ角柱状のもの。800～803・814は3面に、808・809・811は両面に、815は4面に砥面がみられ扁平なもの。805～807・816～818は角柱状に4面を使用している。812・813は同一面に2方向から角度を変えて使用したもの。819は砥面に半球状のくぼみがあり、くぼみ石の機能もはたしている。820は角柱状の一端にたたき痕がみられ、たたき石としても使用している。

石核

石核は269点出土した。調査区の南側に多く分布し、中央西側と北西側でも出土している。この他、原石は154点出土し、南半部と西側で検出されている。821は棒状原石を用いたものだが、石器となるような剣片を取った痕はない。825は2面から、823・824・826～830は1面の原石面を打面に周囲に剣片剝離面がみられる。828・829は円錐形を呈する。831～844は方向性のみられない剝離の進んだ残核である。832はI層からの出土であるが、黒曜石のフレイク・チップが集中して出土した地区でフレイク・チップと一緒に検出された。このように、フレイク・チップ集中または集中区に石核の分布域はかたまっている。

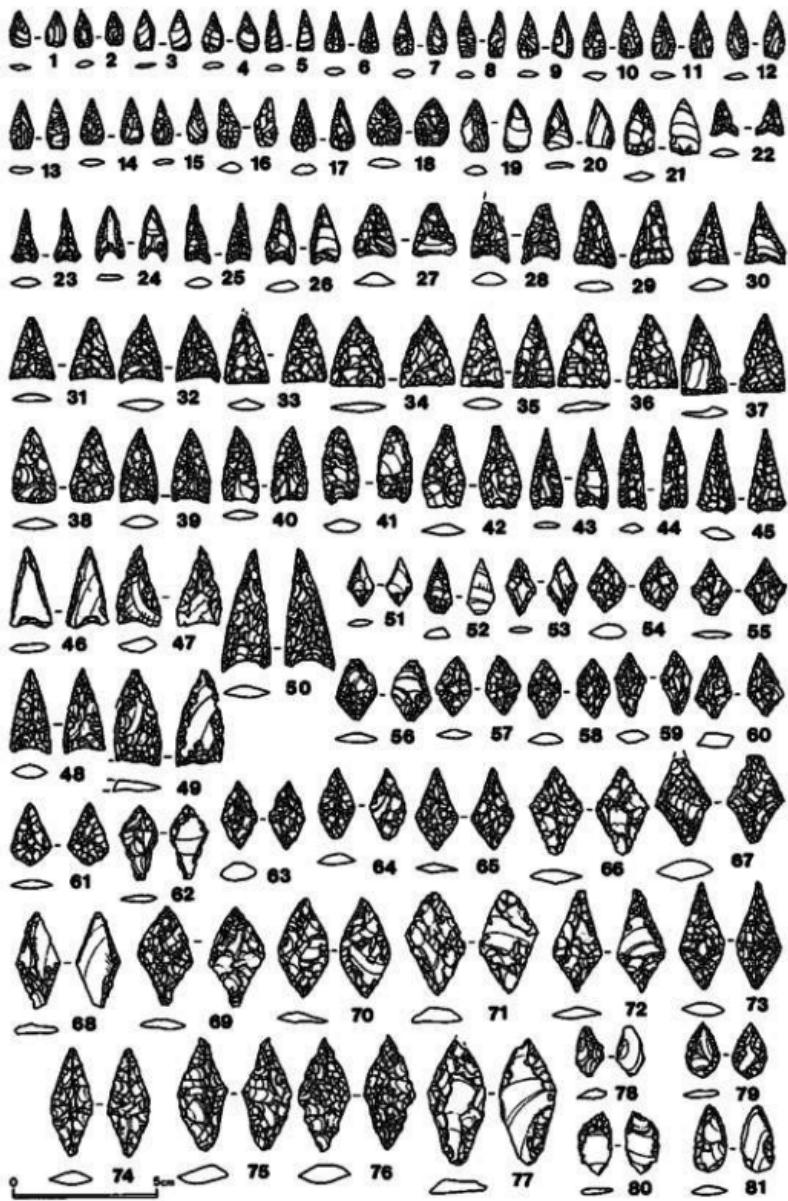
石皿

石皿は43点検出したが、すべて破損している。調査区の中央部と南側でやや多く出土した。845・846は両面を使用し、各々片面は深くコンケイブしている。847・848は片面を使用したもの。846・847は接合している。

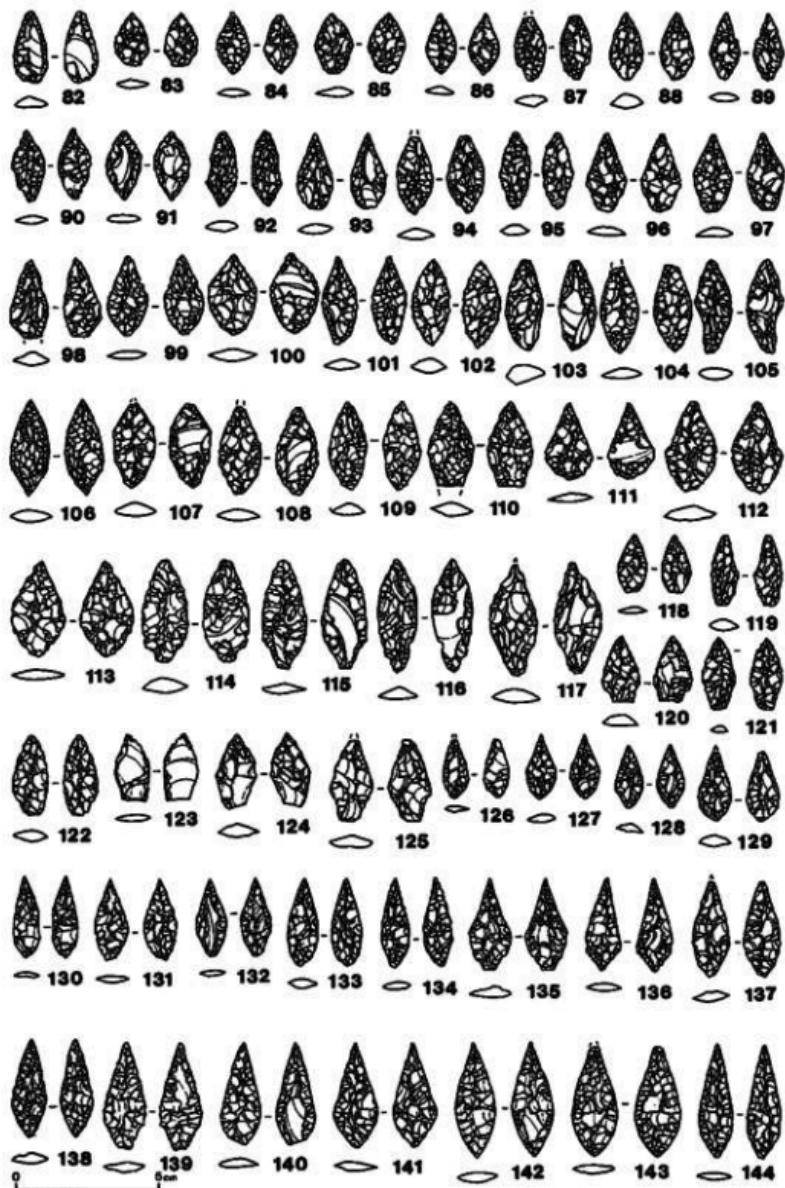
その他、図示していないものではUフレイク・Rフレイクが4,223点、ビエス・エスキューが5点出土している。前者は調査区のほぼ全域から出土しているが、特に南半部に多く分布する。

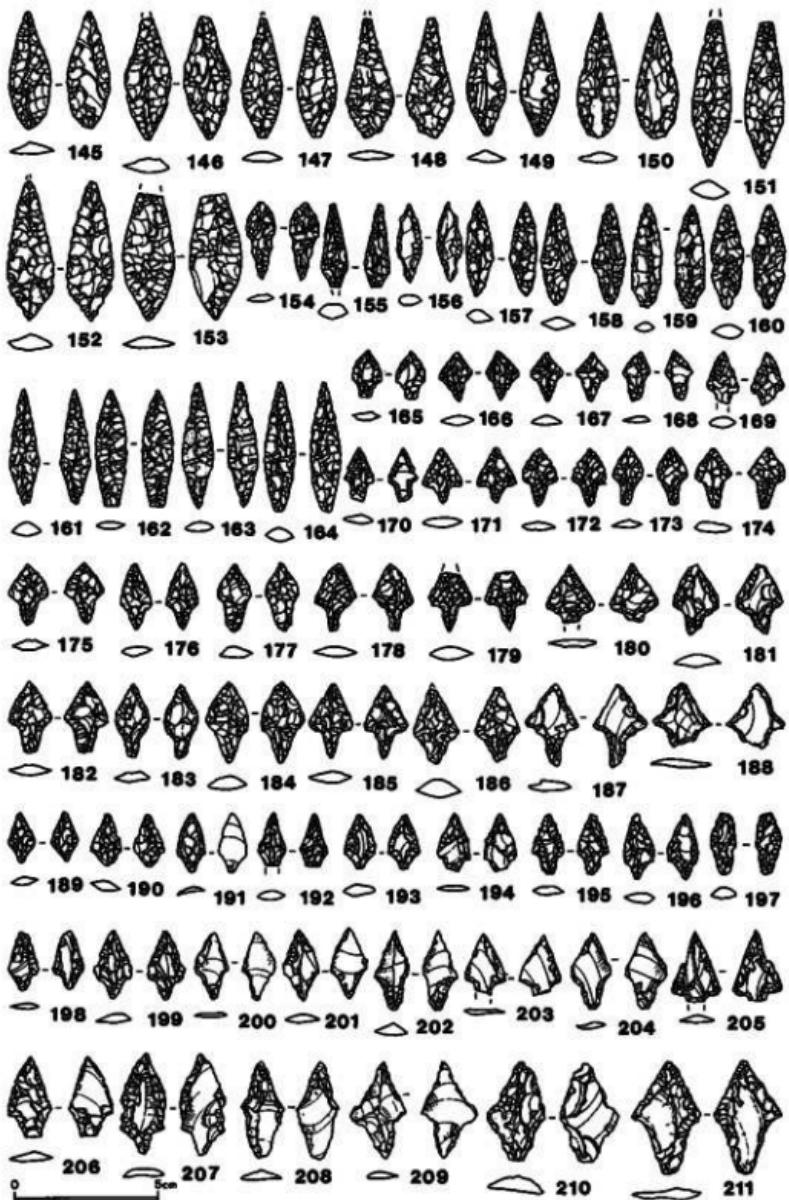
また、黒曜石・頁岩・めのうなどのフレイク・チップは約295,000点、泥岩・片岩などのフレイク・チップは約23,000点、焼けた礫などは約4,500点出土した。

石器が調査区の南半部に多く分布する理由として2つの事が考えられる。1つは、台地の先端部に近く土層の層厚があり耕作が及んでいないこと。もう一つは、堅穴住居跡やフレイク・チップ集中など居住域・作業域になっていたと推定されることなどによる。

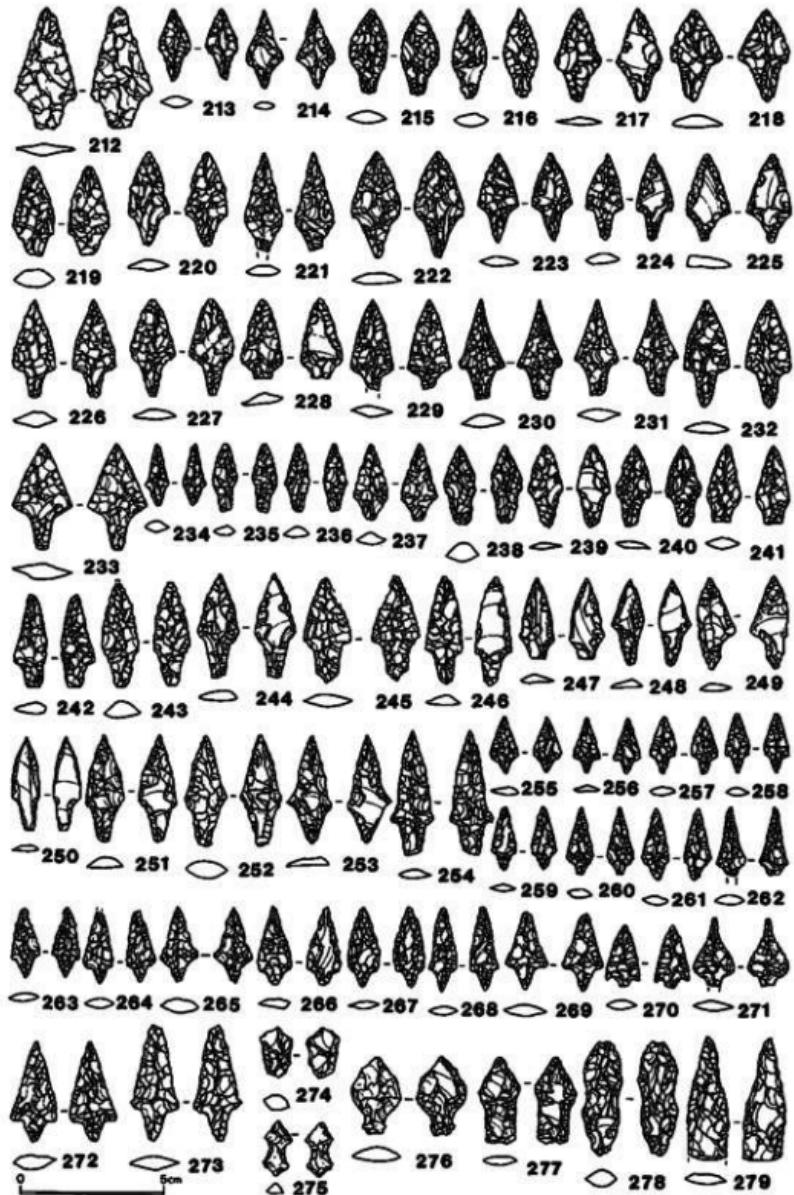


石器 (1)

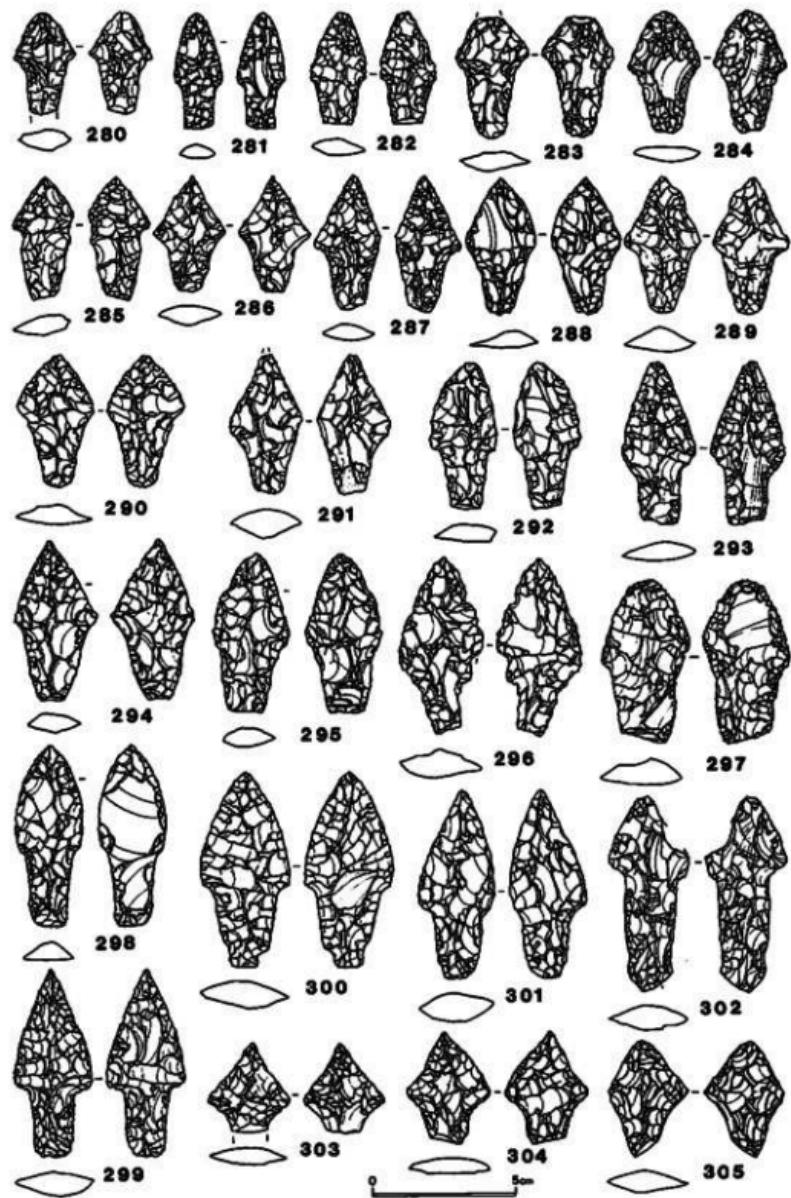




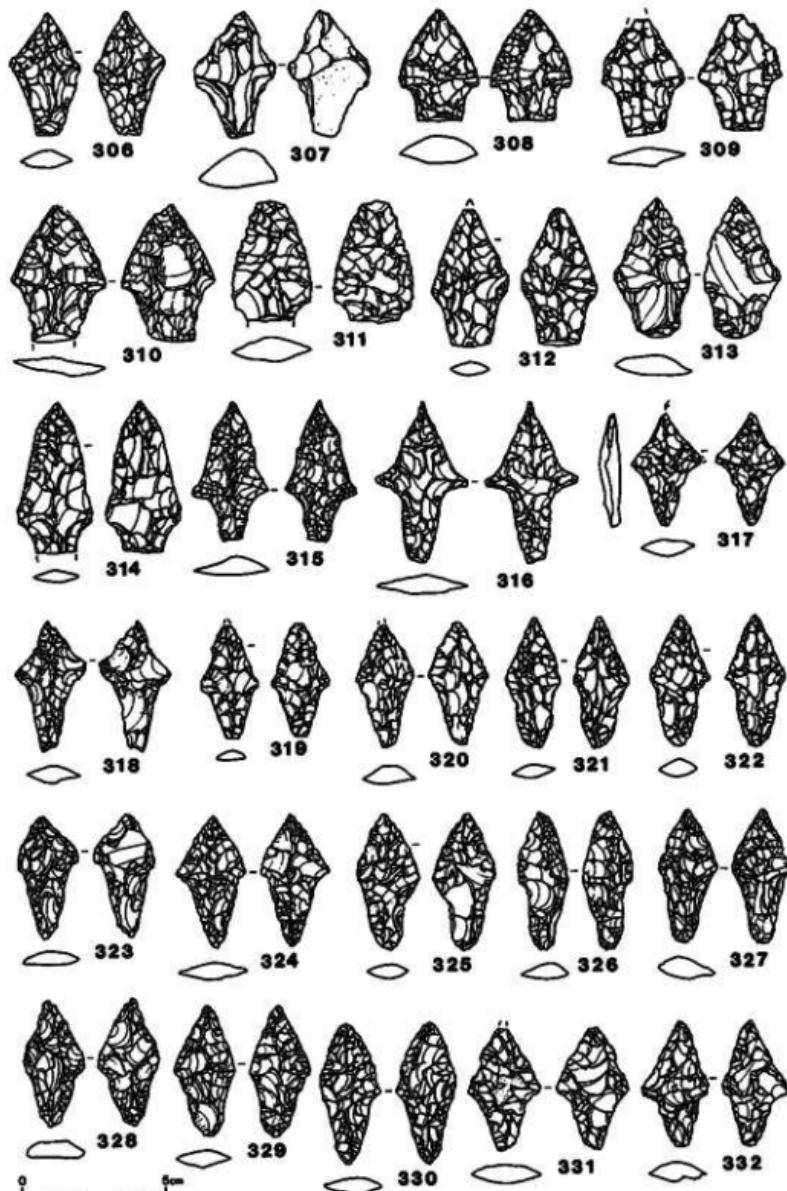
石器 (3)

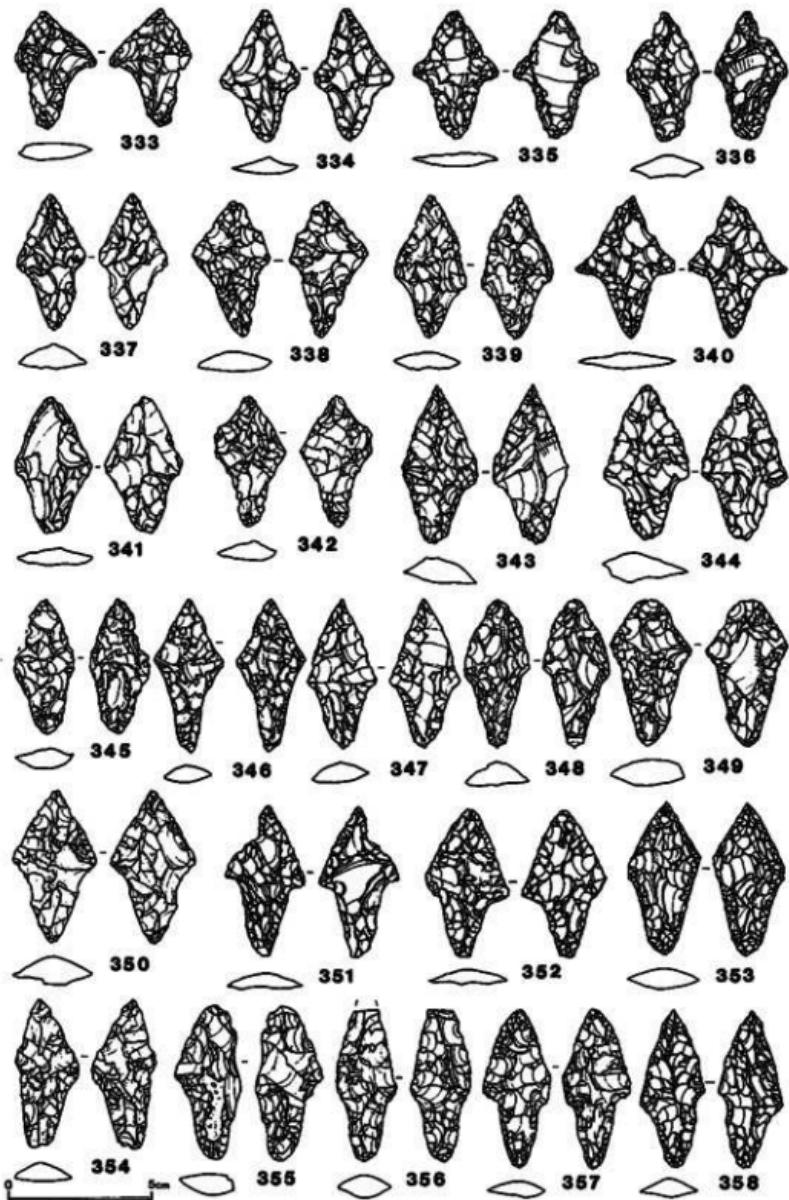


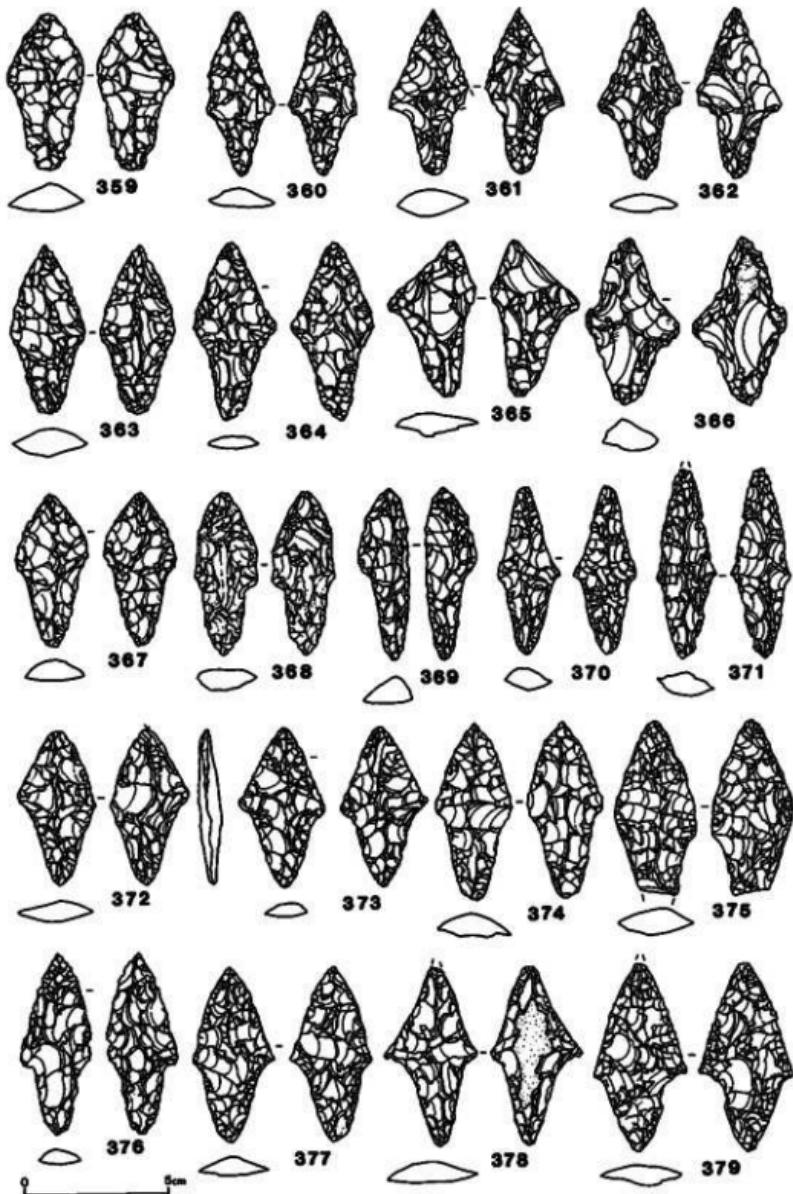
石器 (4)



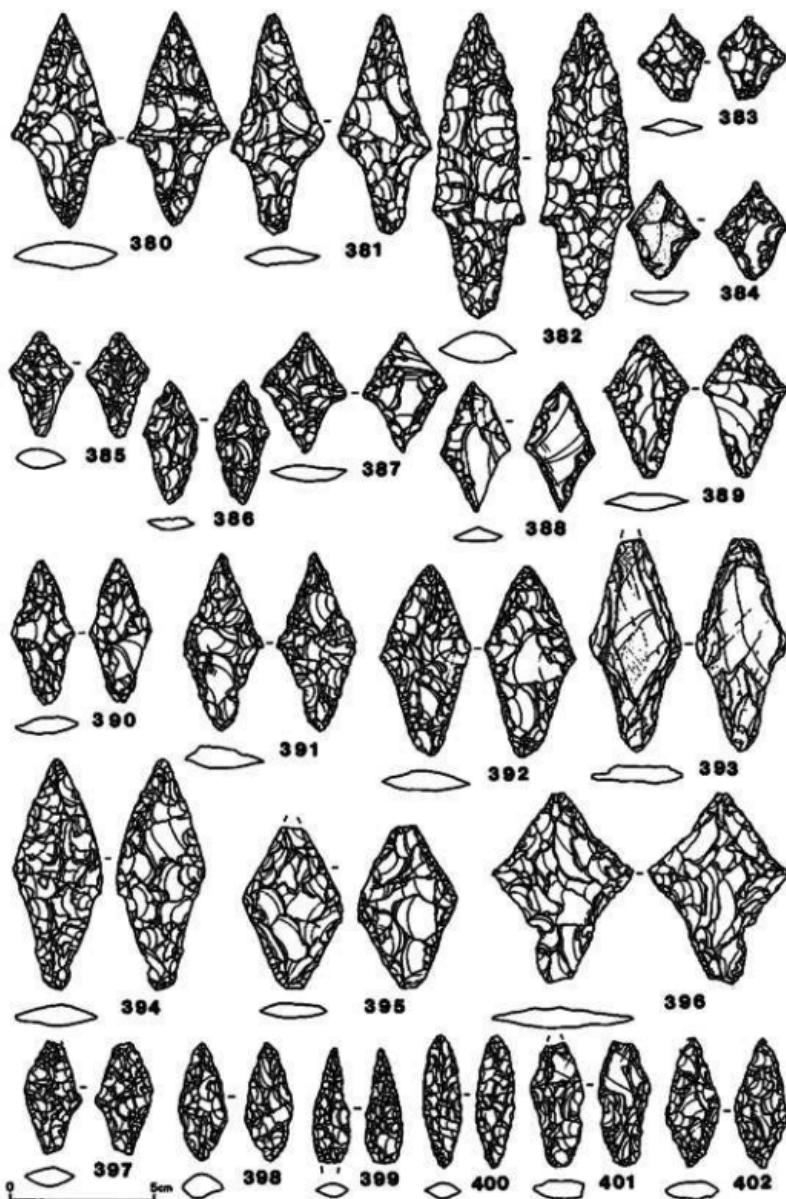
石器 (5)

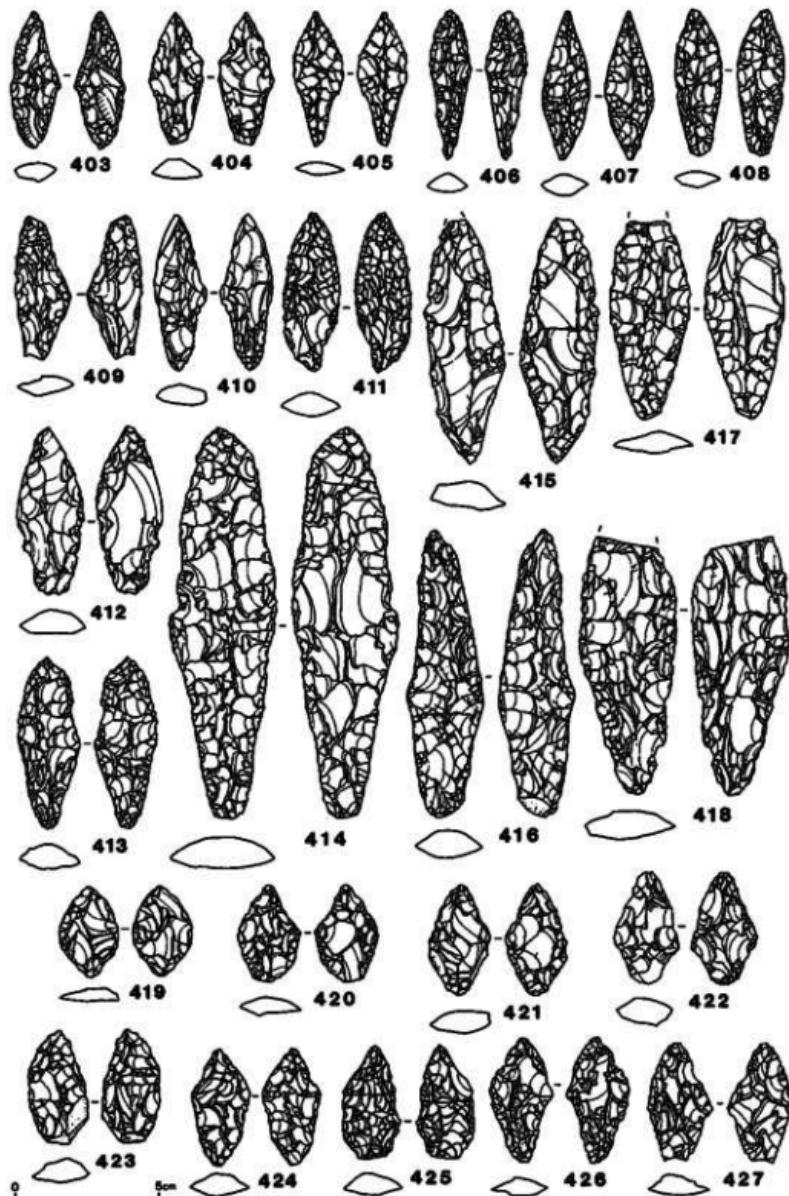


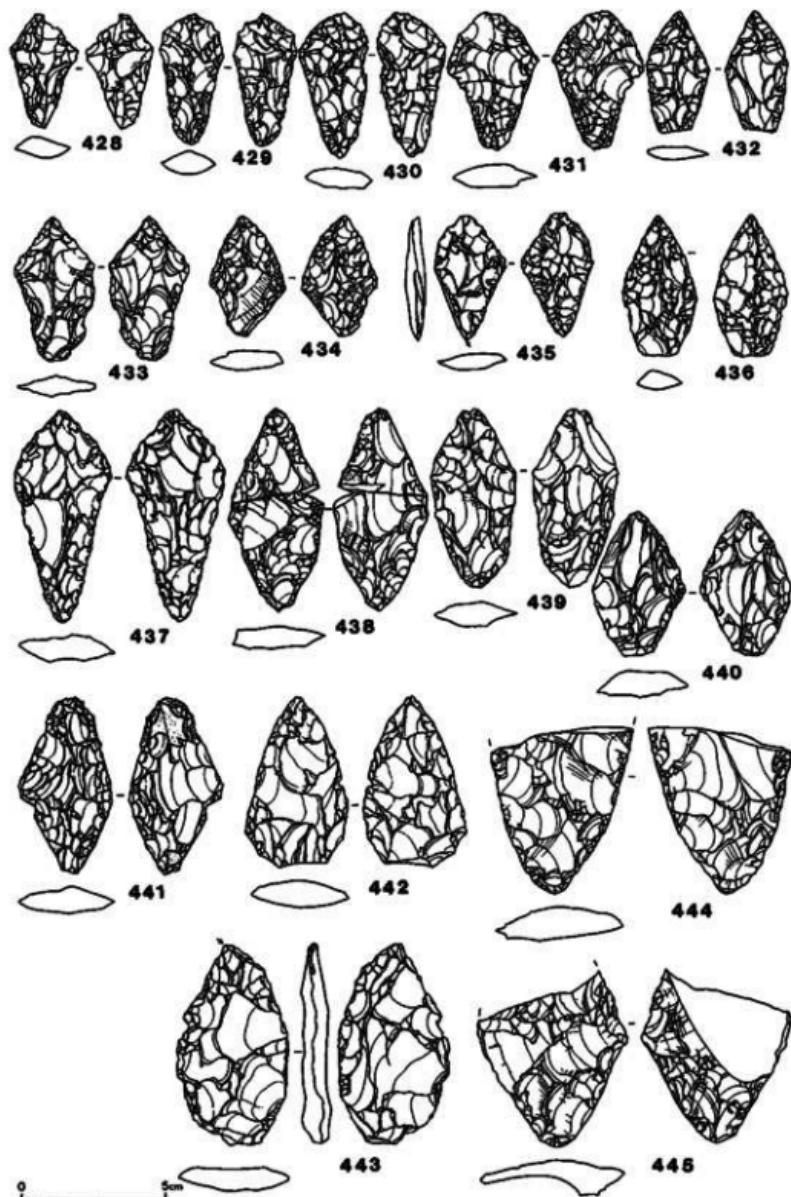


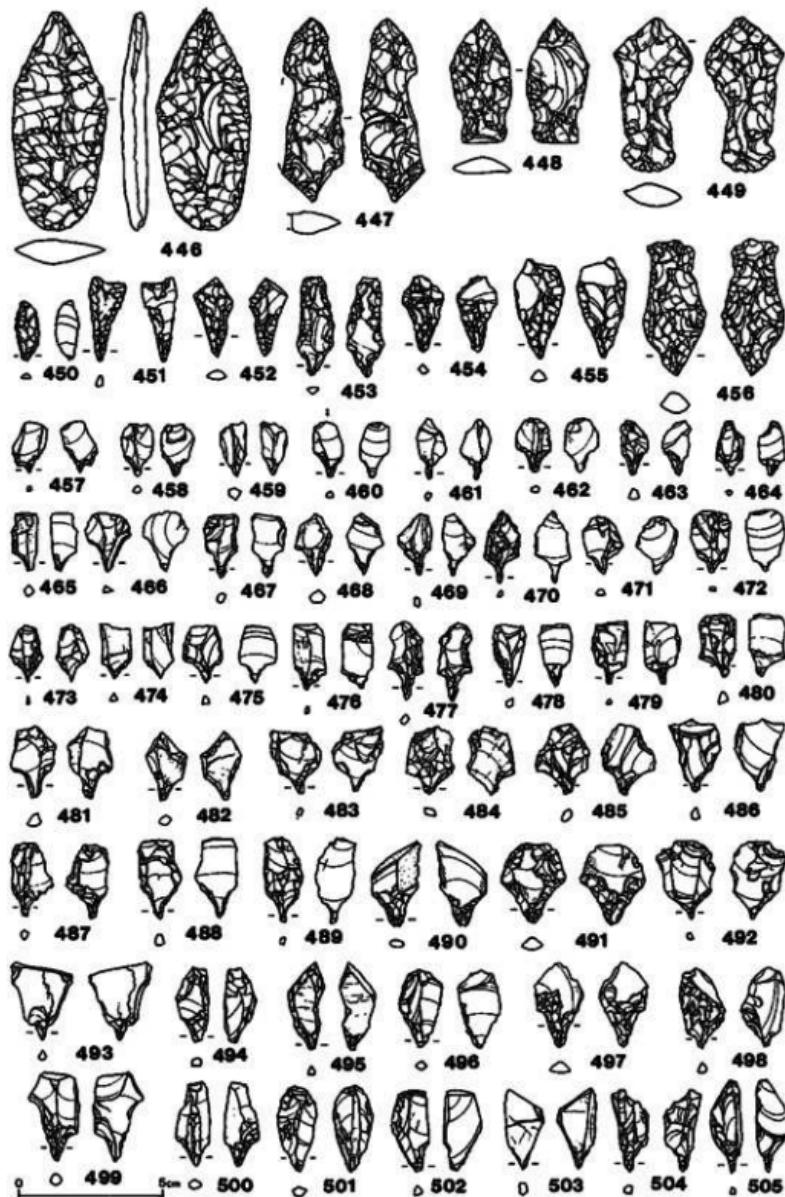


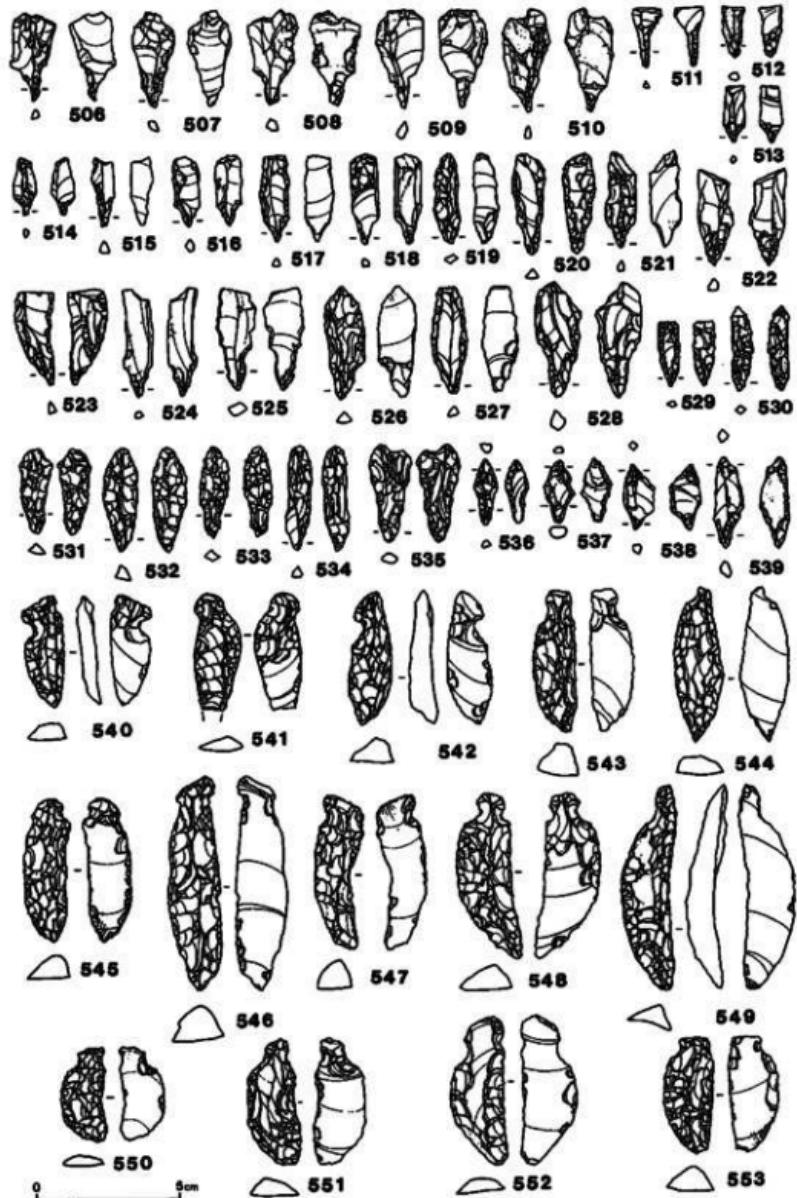
石器 (8)



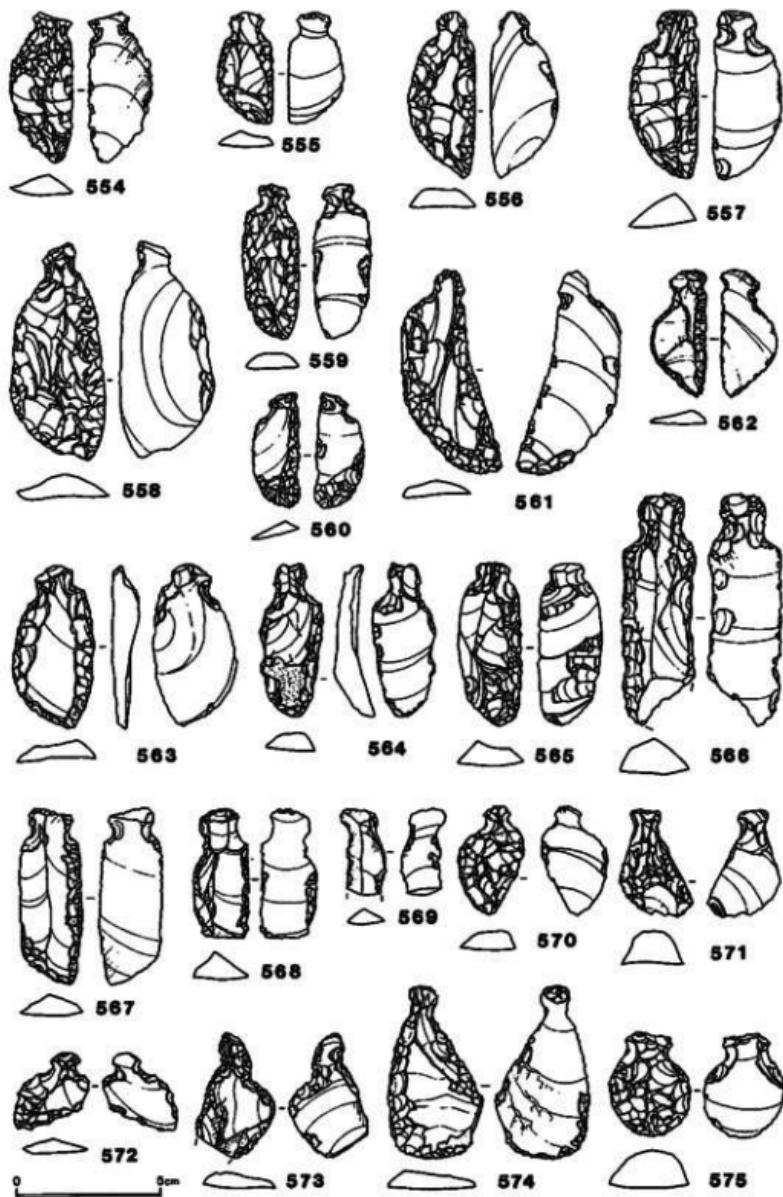


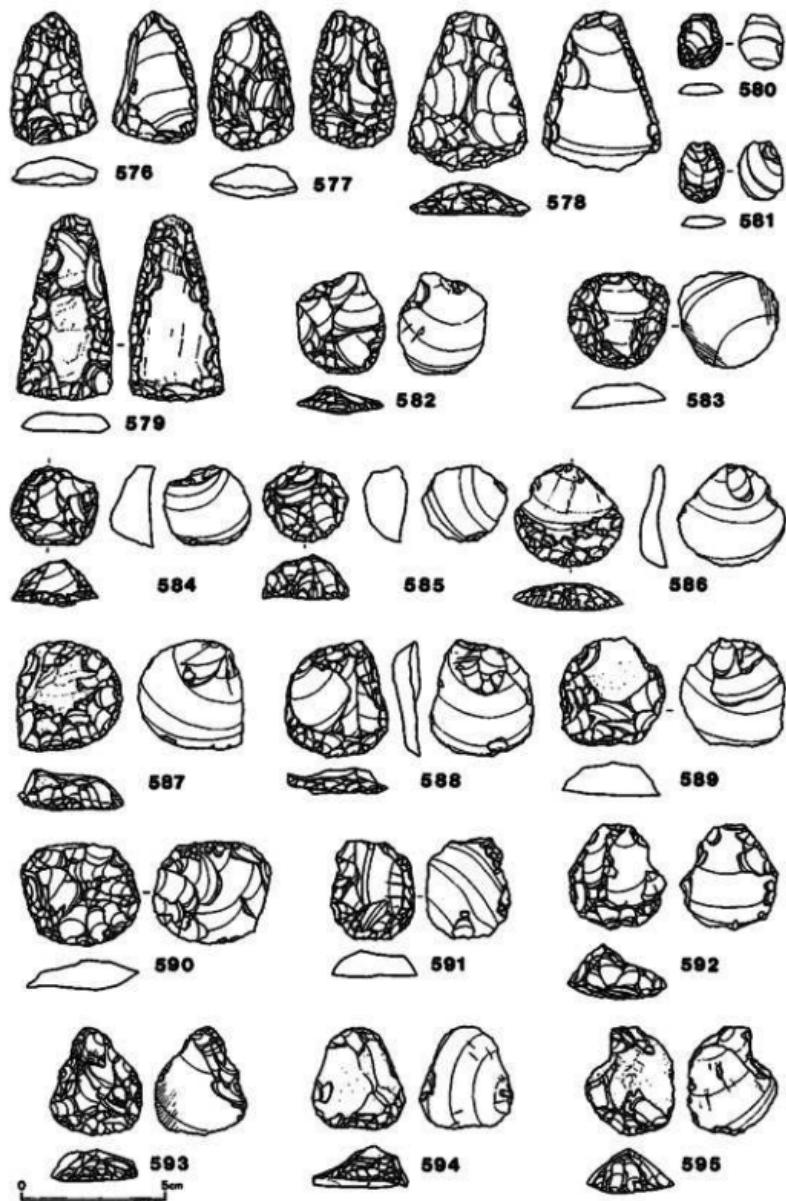


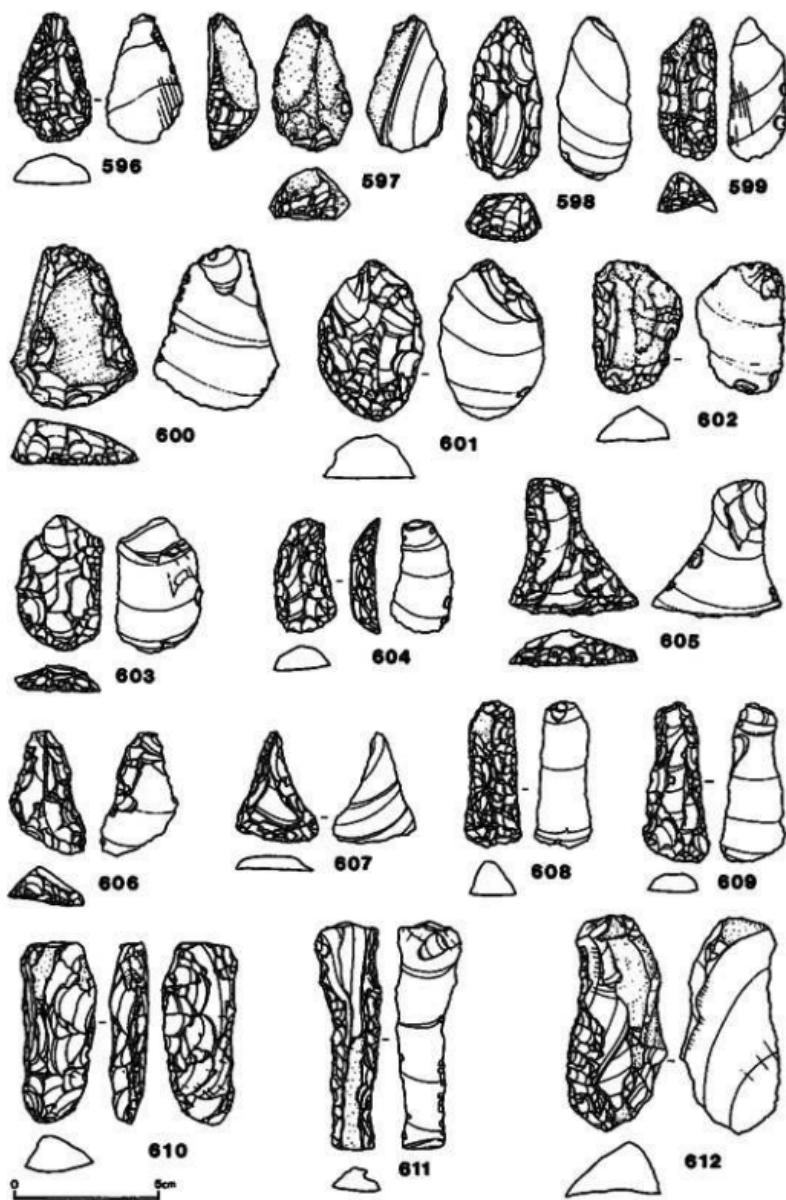


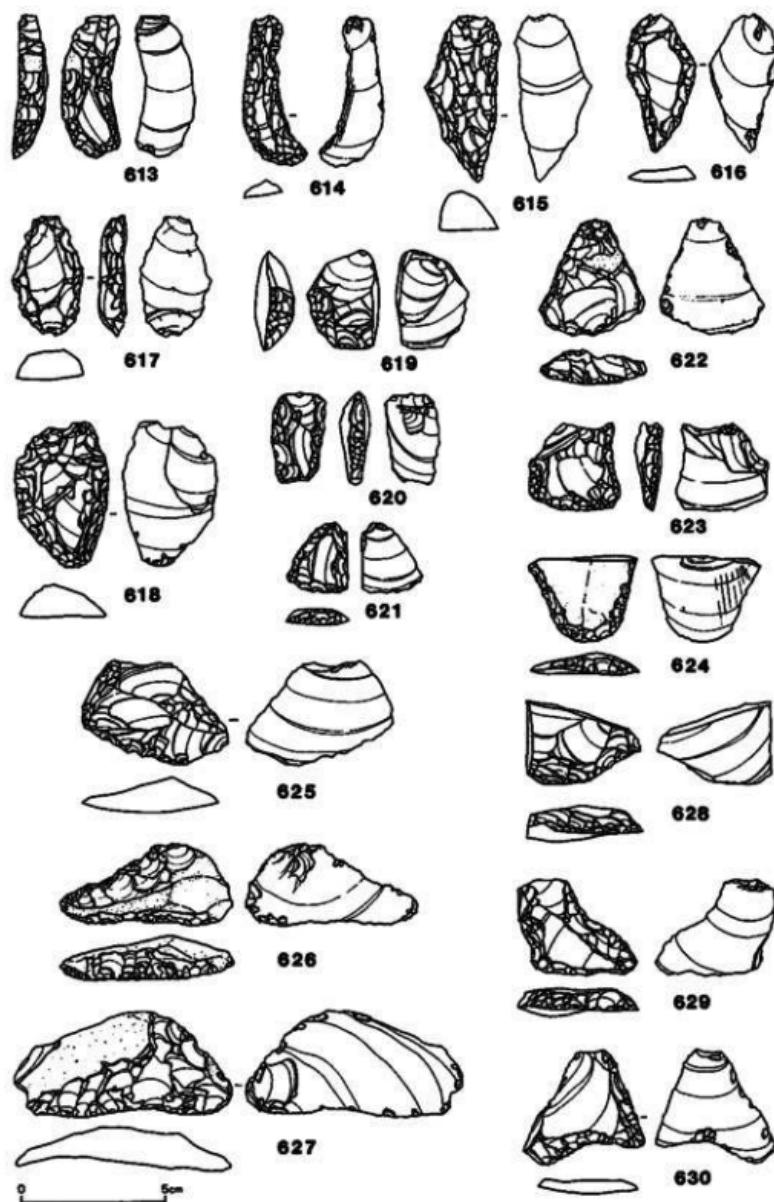


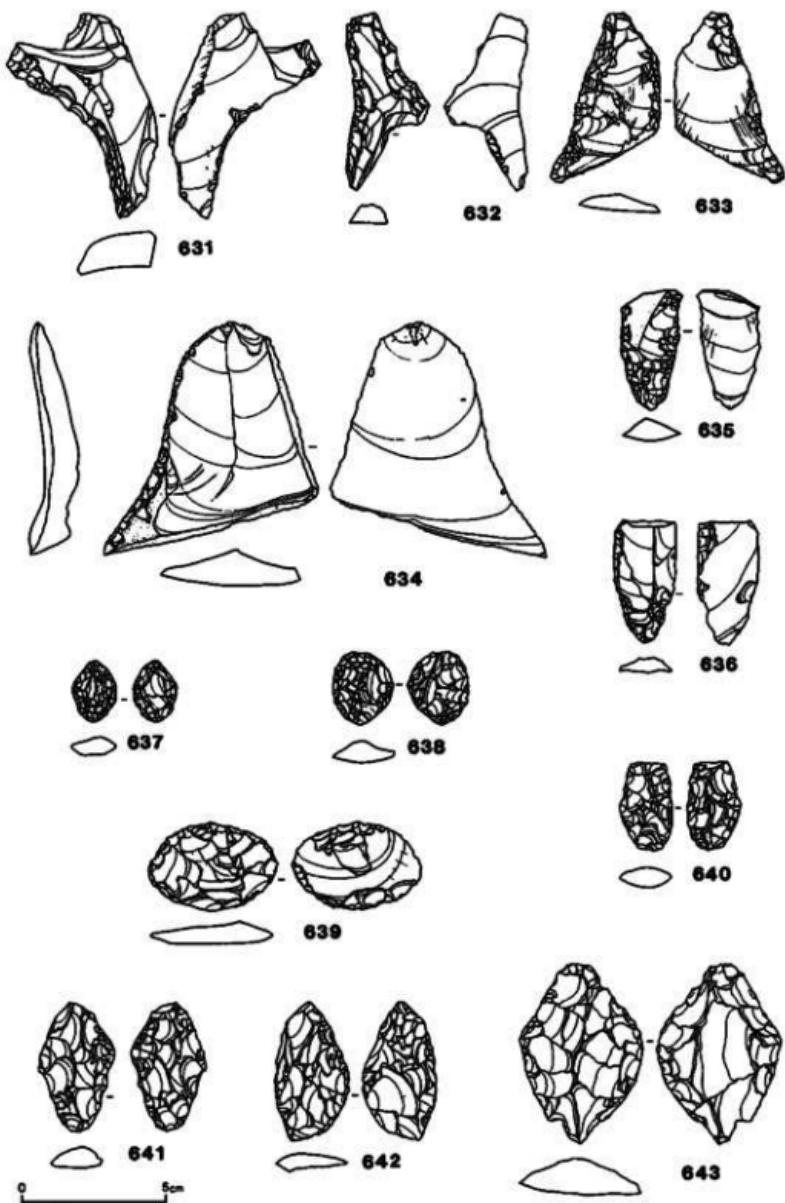
石器 03



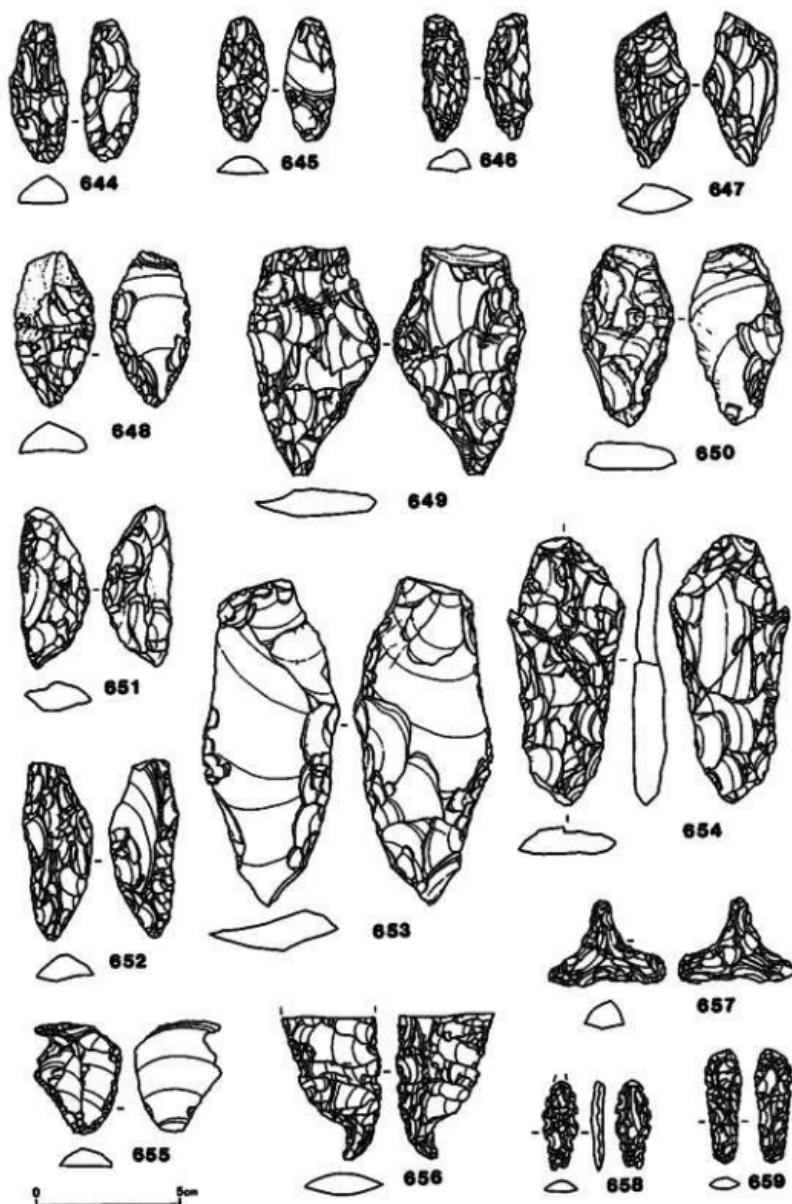




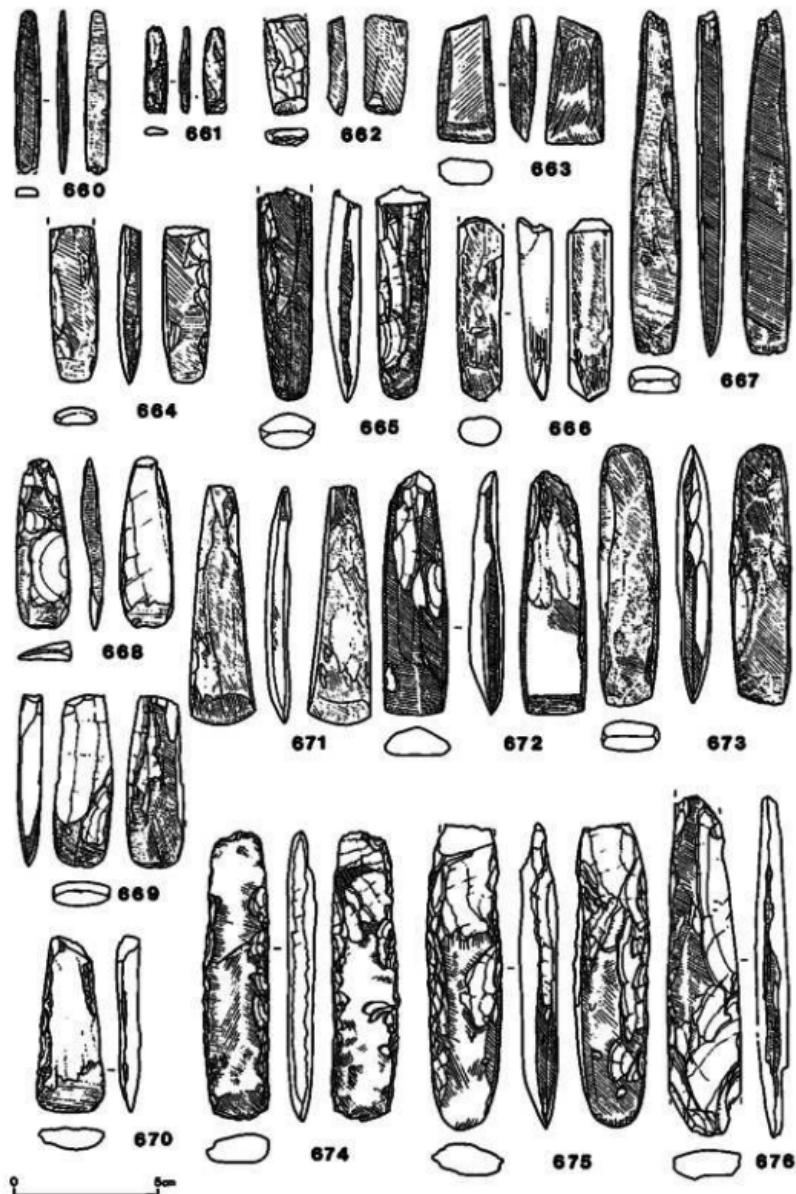


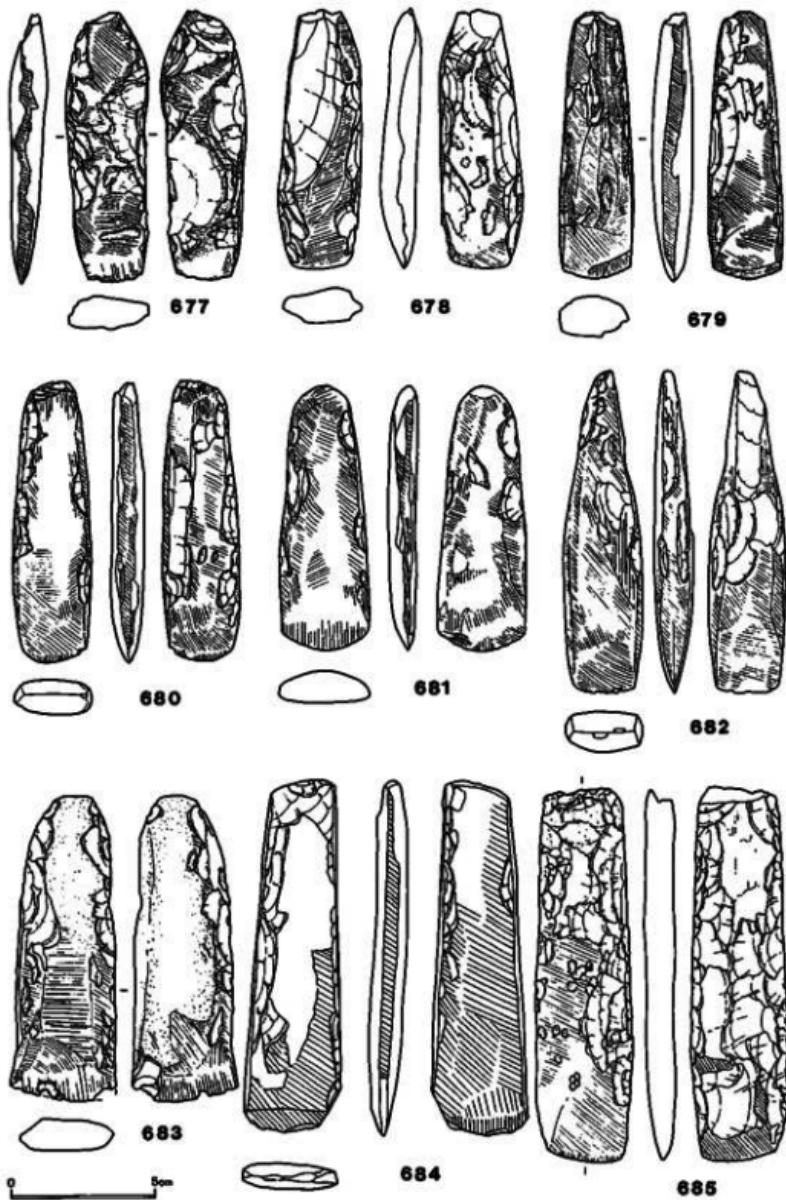


石器 (1)

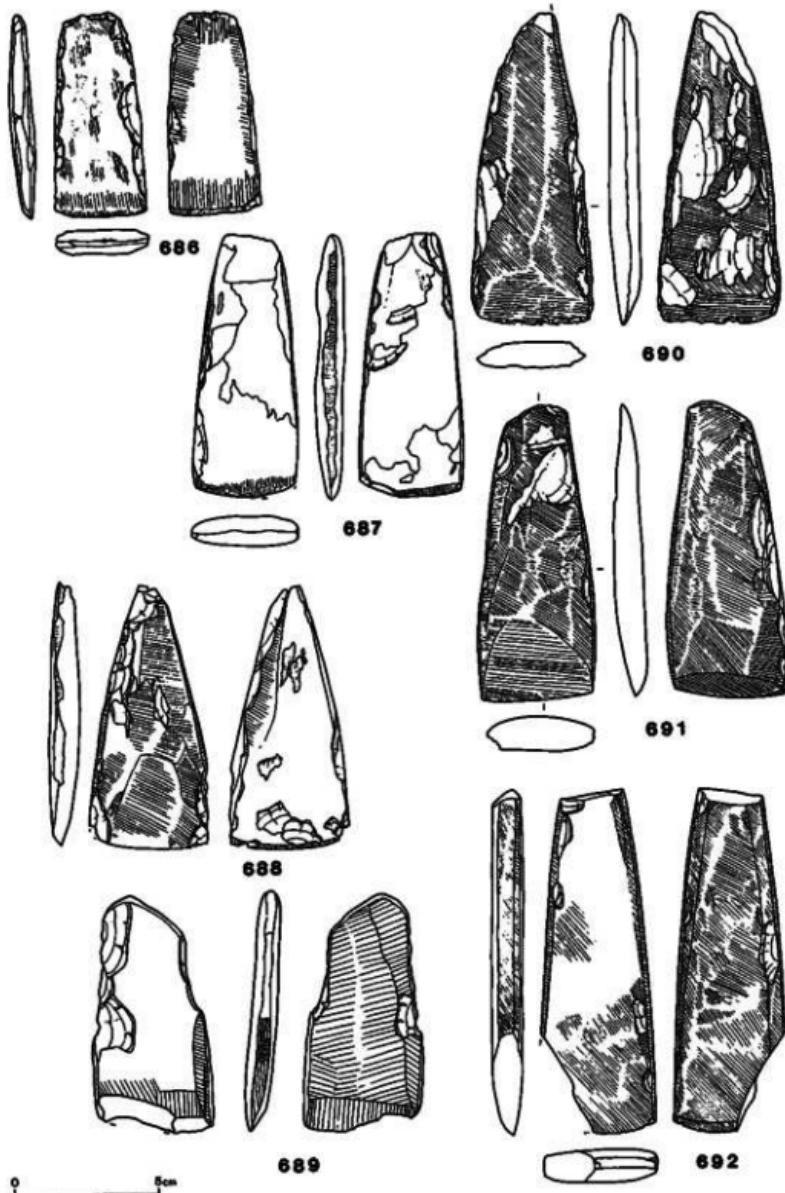


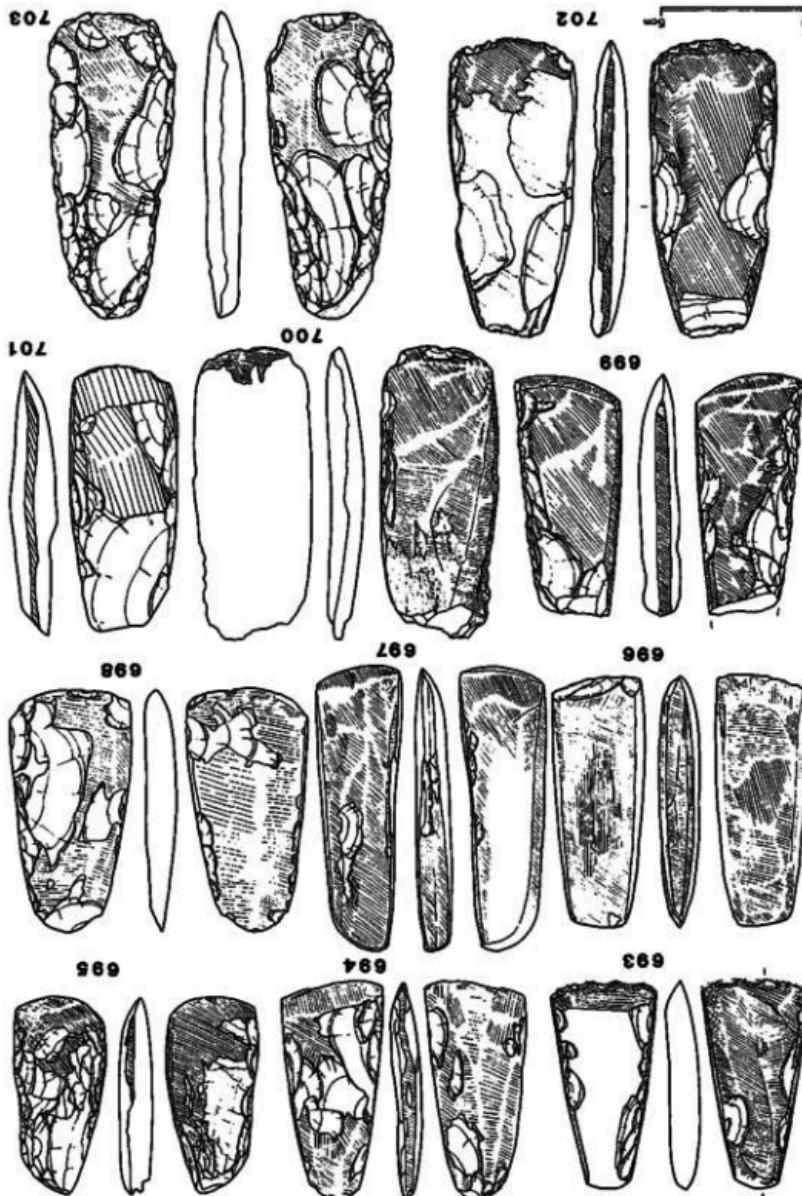
石器 (1)

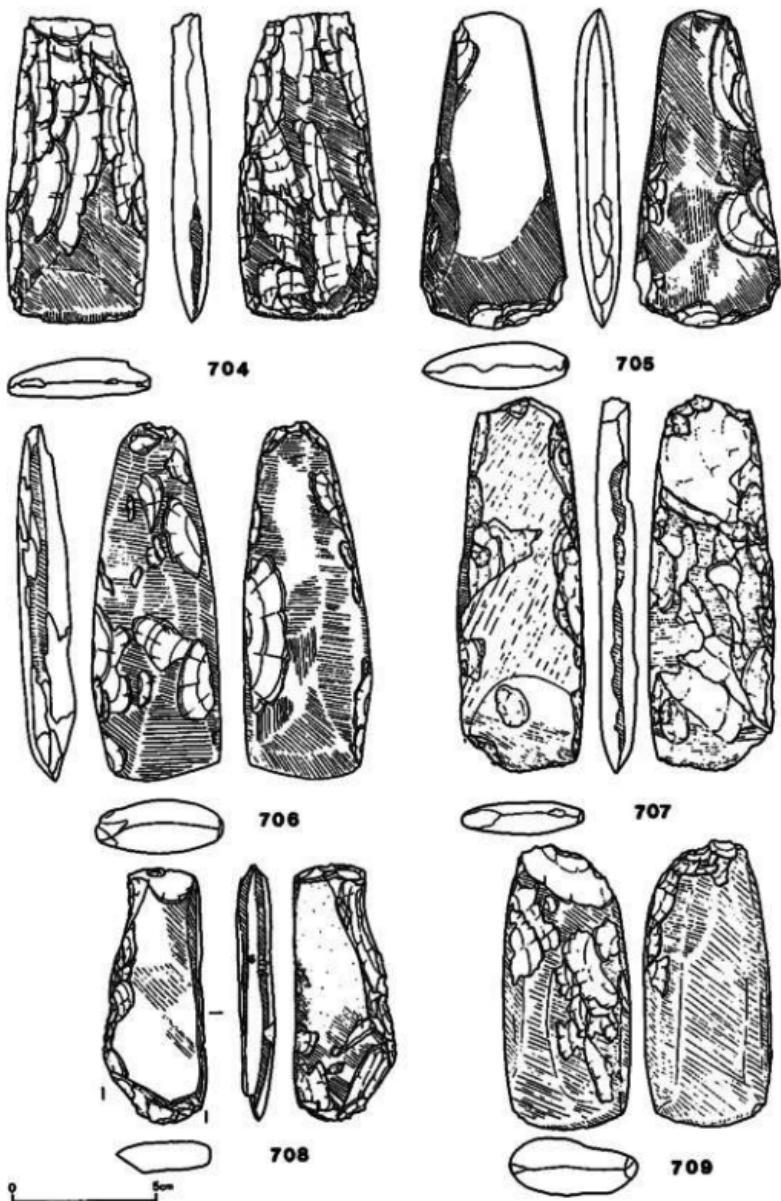


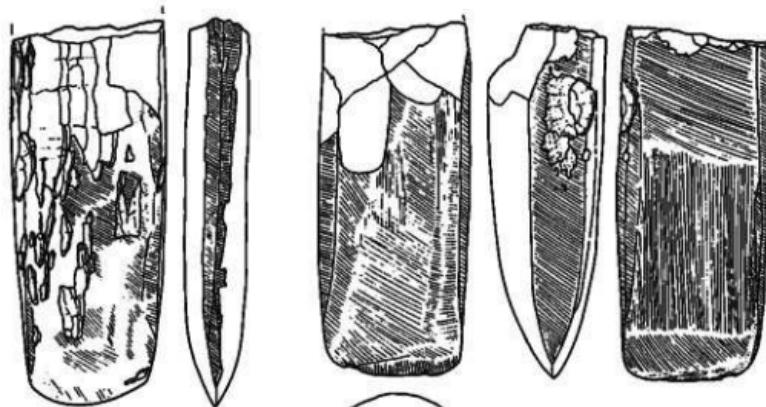


石器 (2)



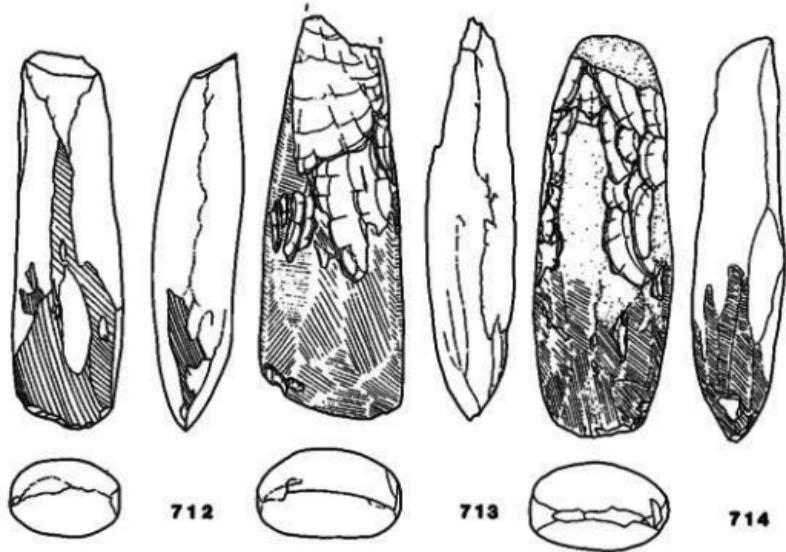






710

711



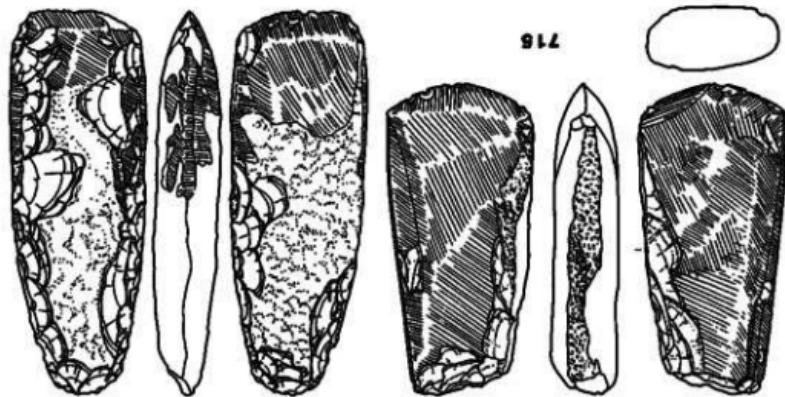
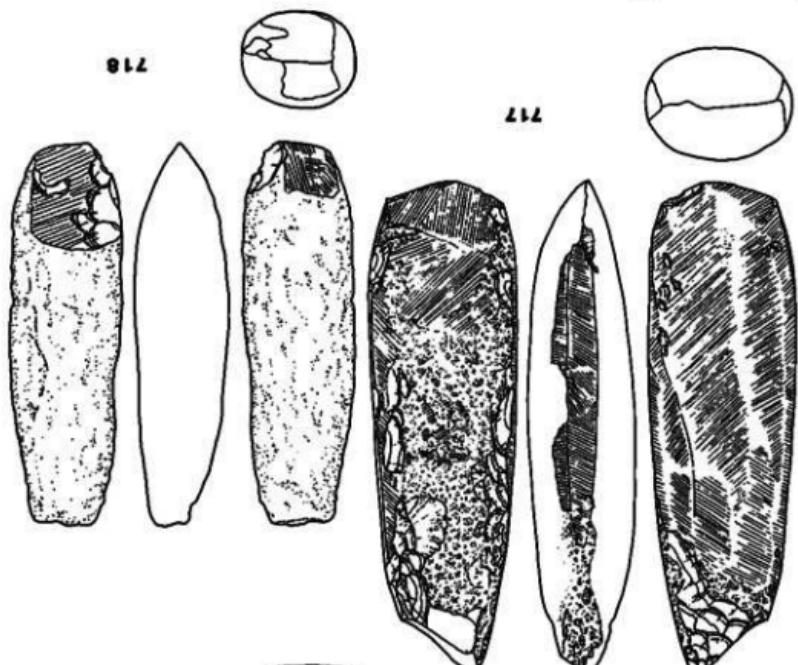
712

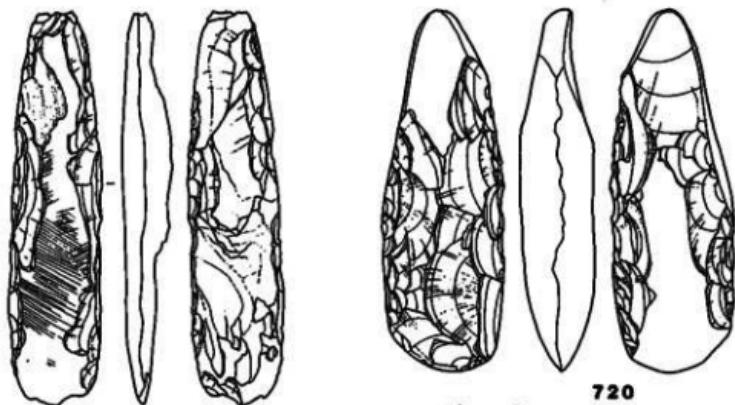
713

714

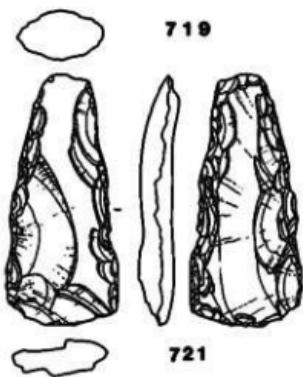
0 5cm

-5 0

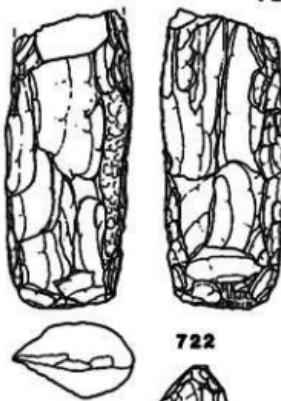




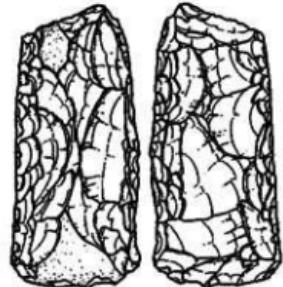
720



721

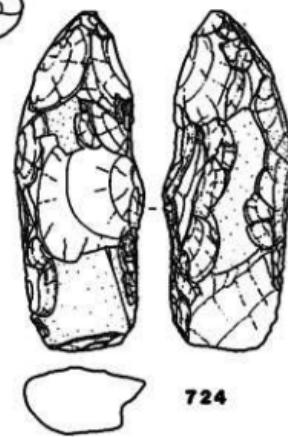


722



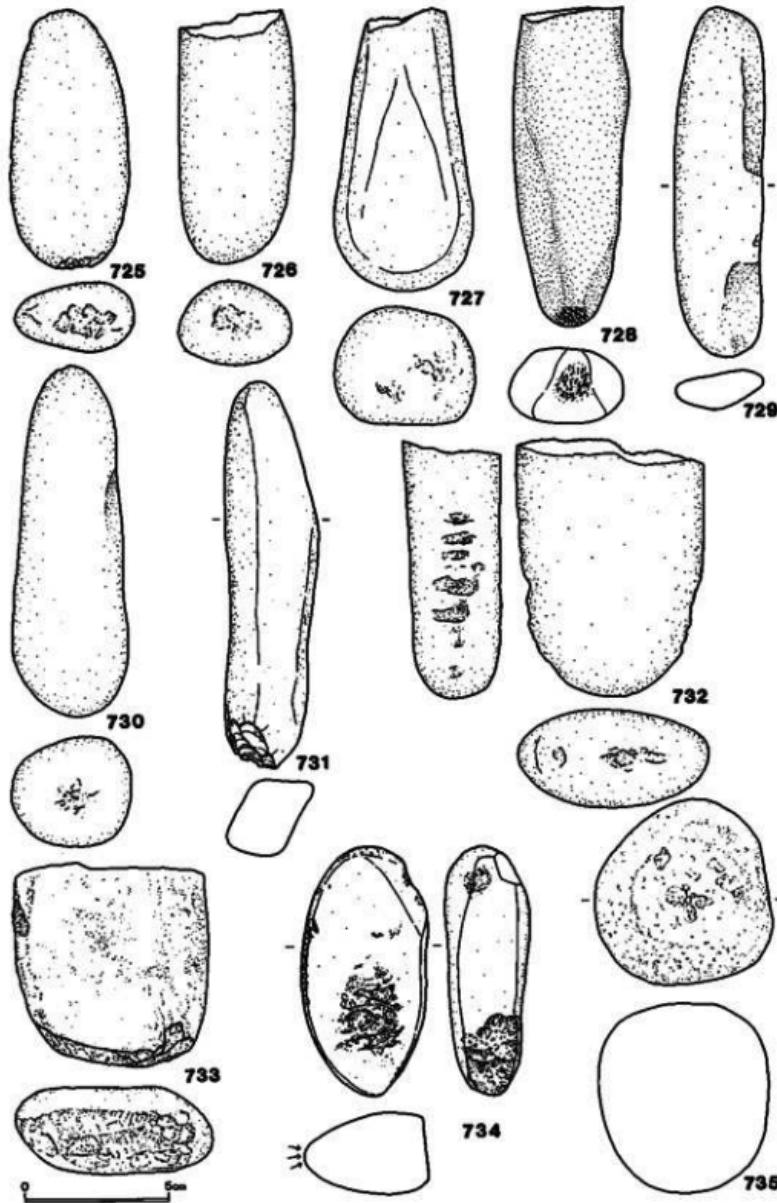
723

0 5cm

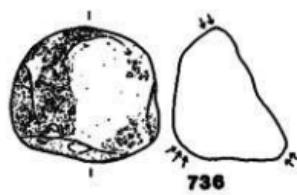


724

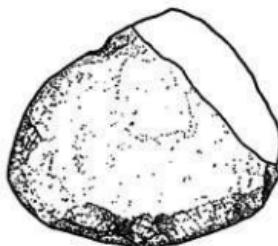
石器 (1)



石器 18



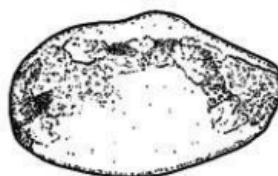
736



738



737



739



740

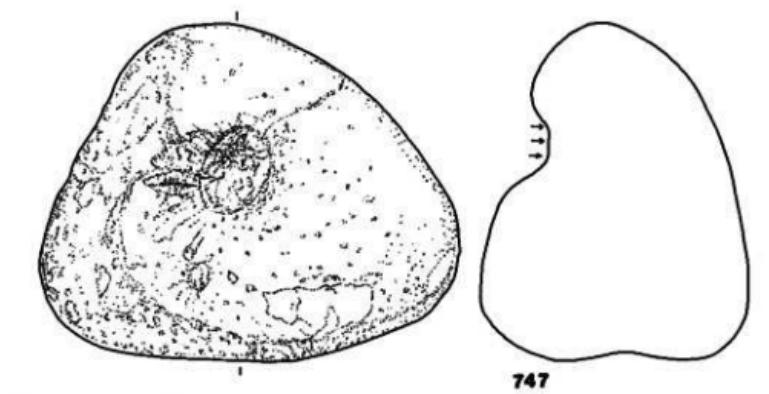
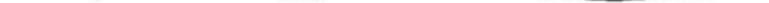
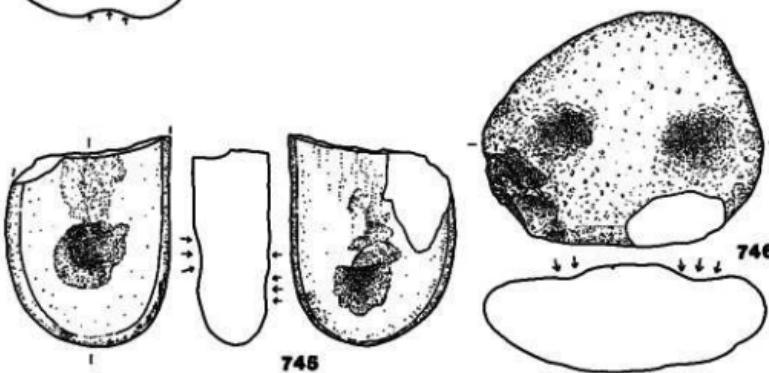
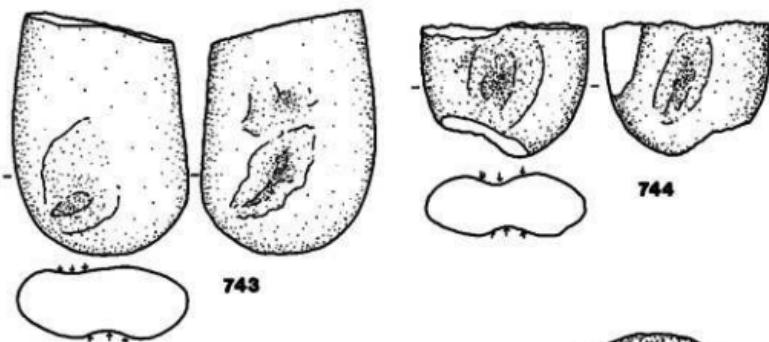


741

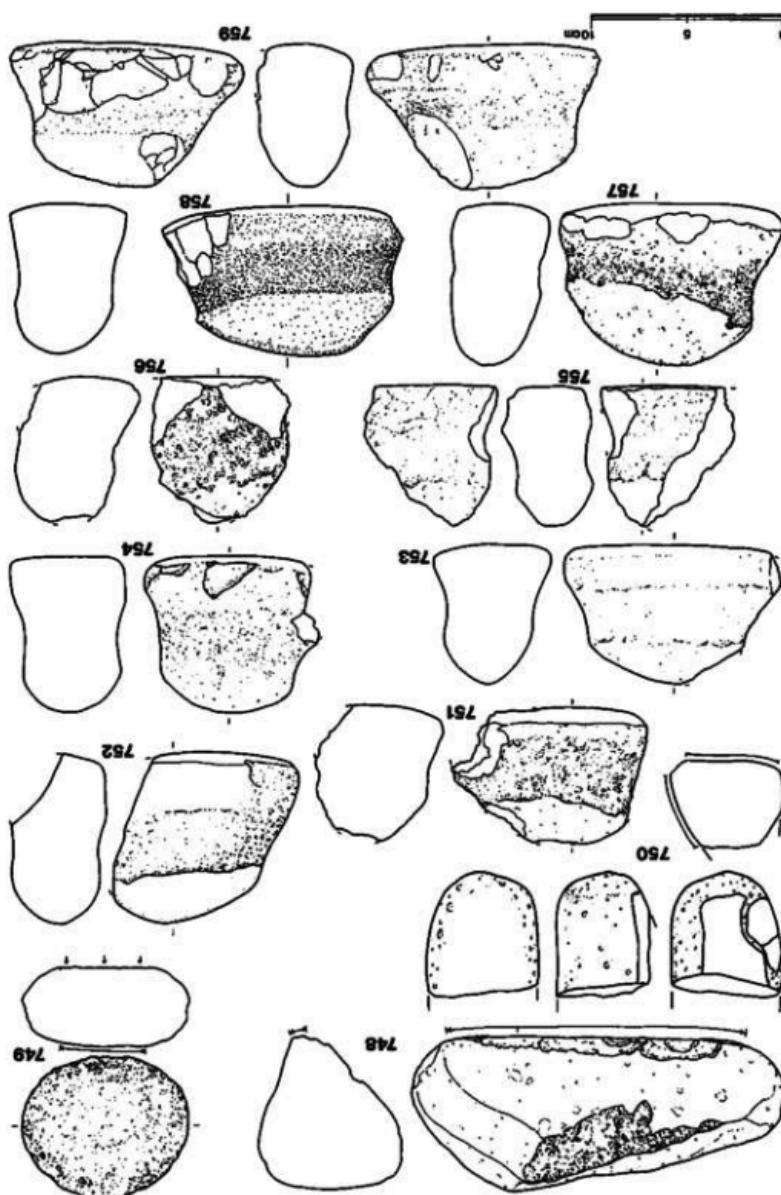


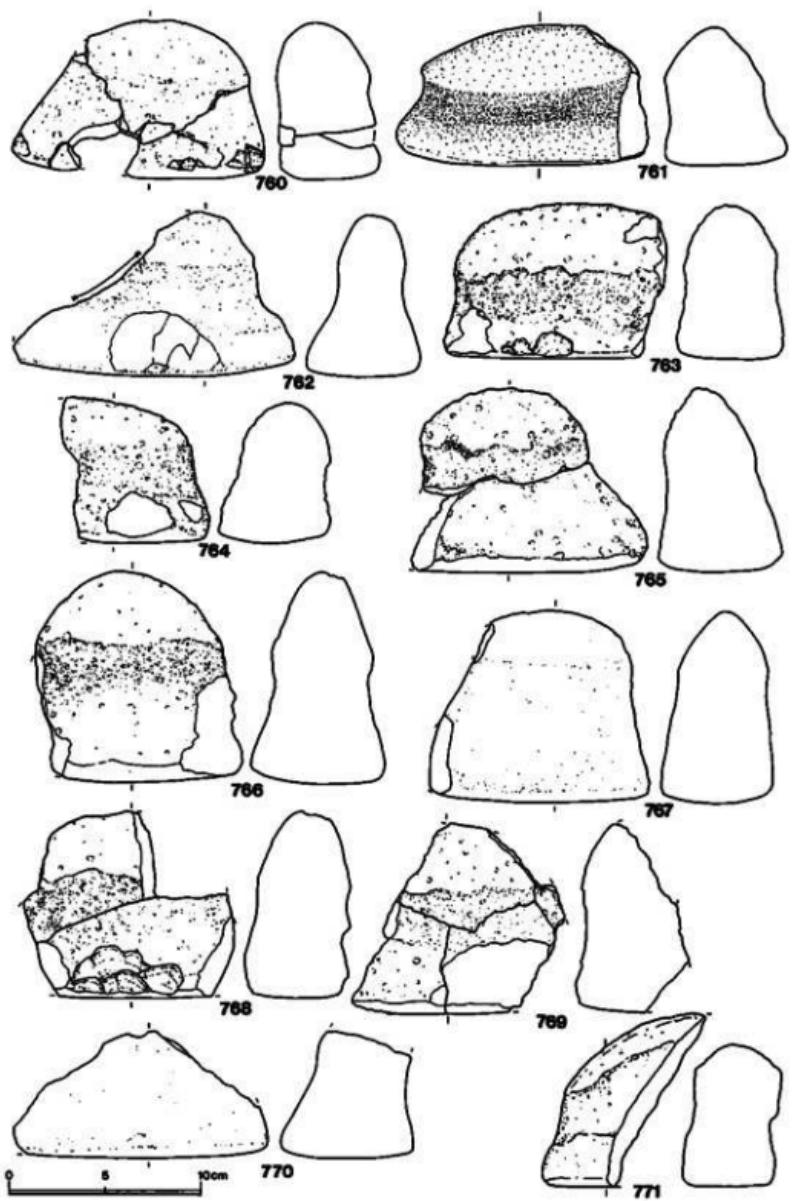
742



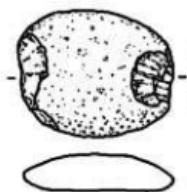


0 5mm

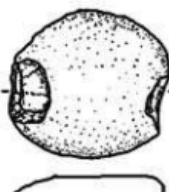
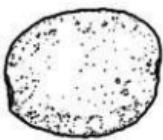




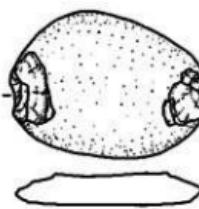
石器類



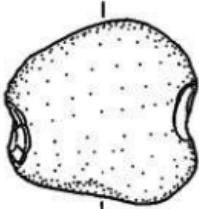
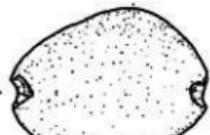
772



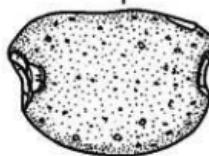
773



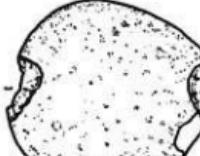
774



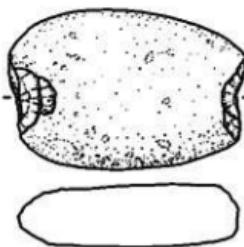
775



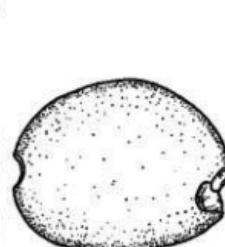
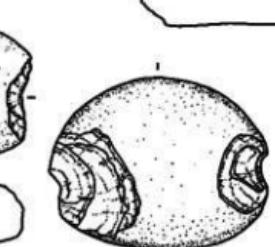
776



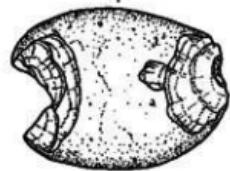
777



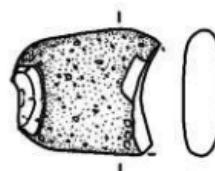
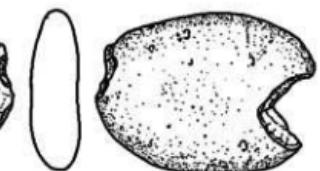
778



779



780

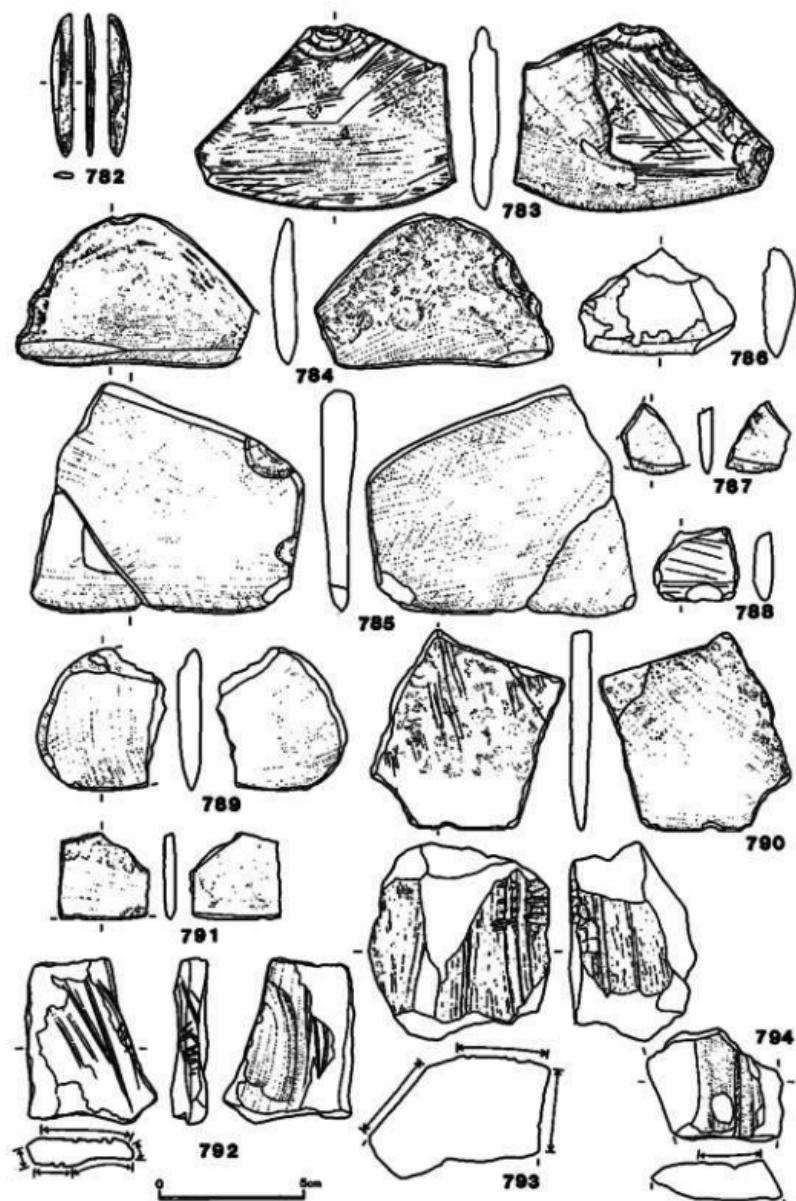


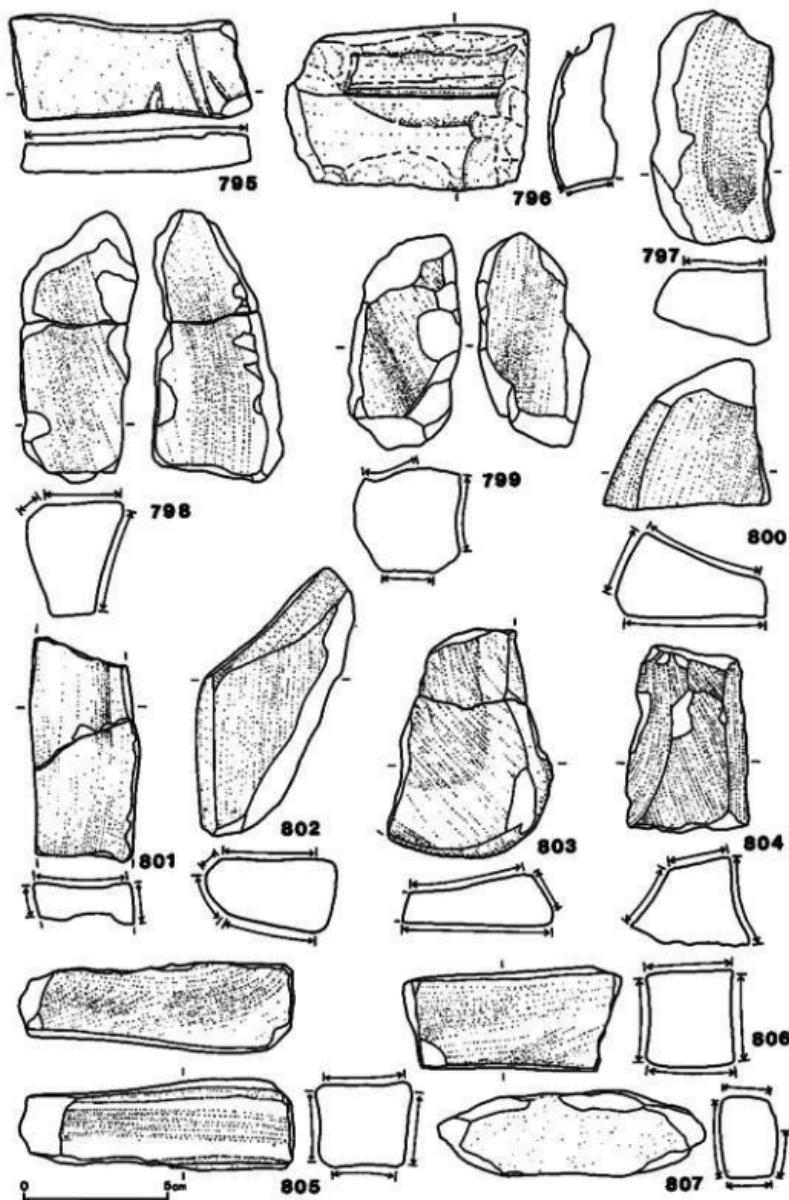
781



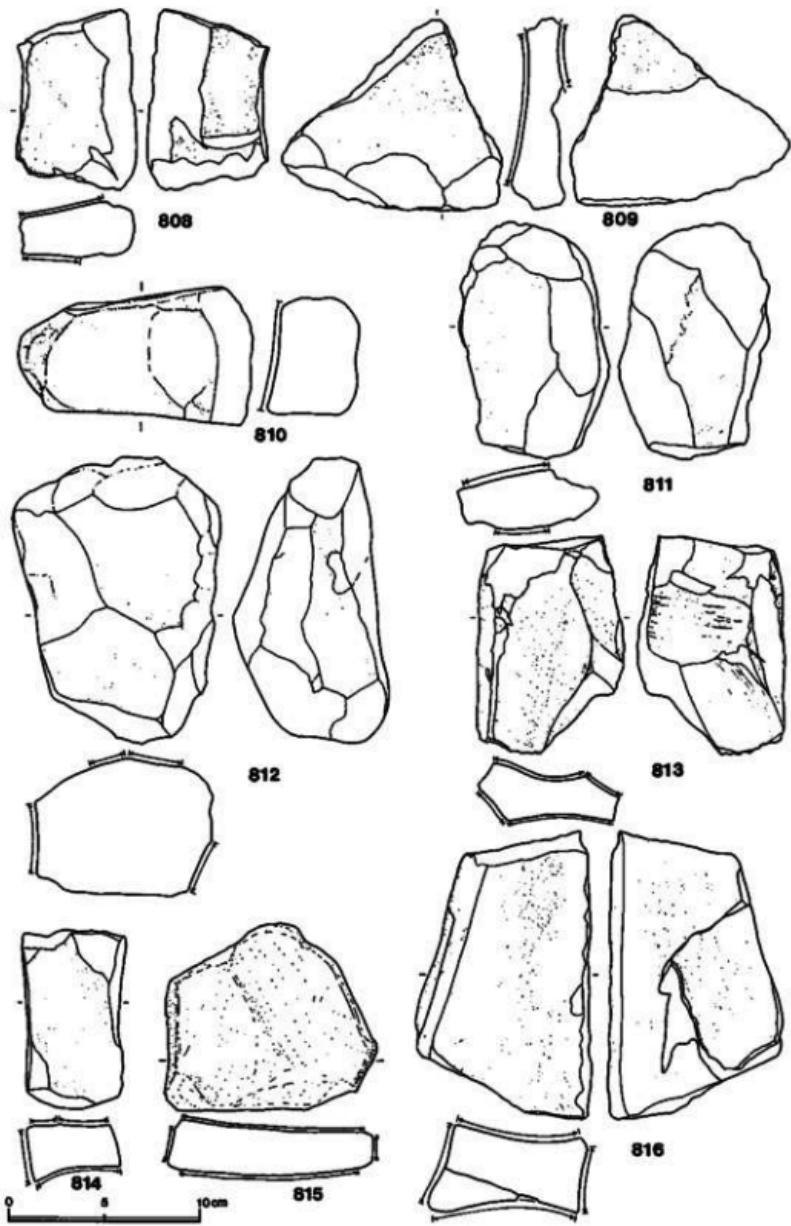
0

5cm

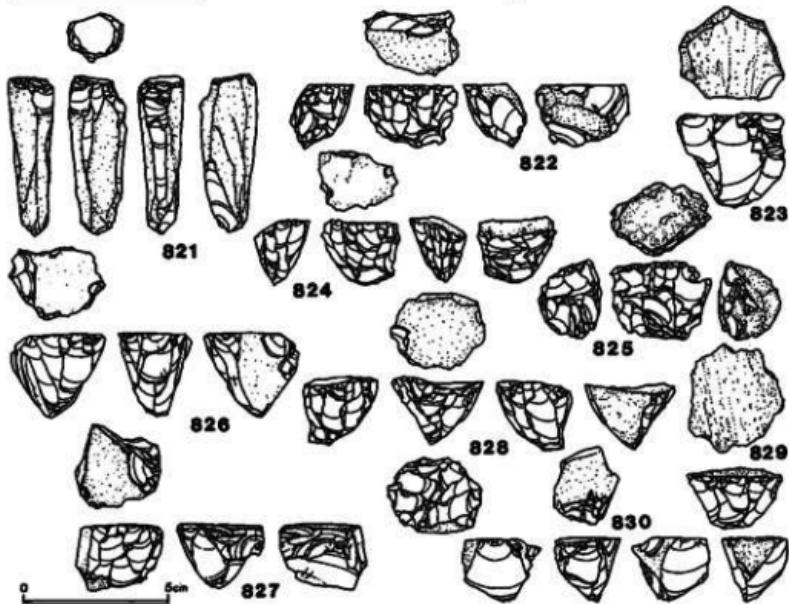
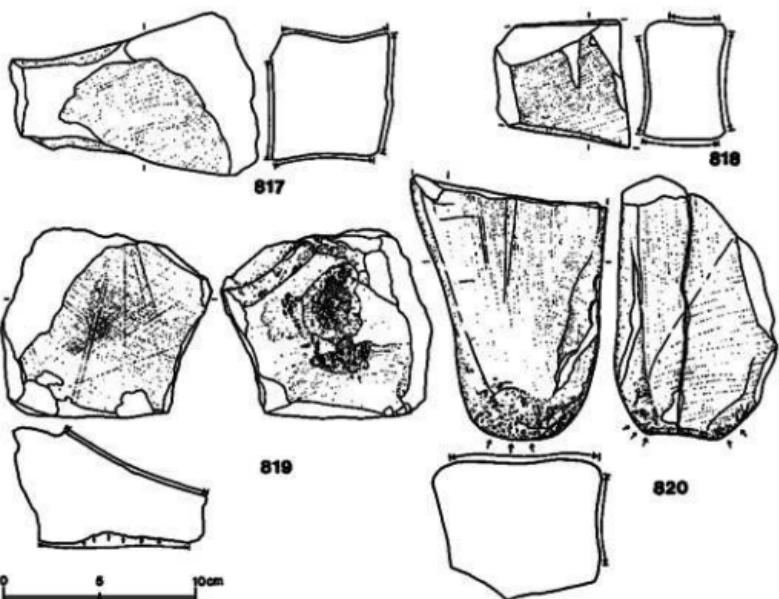


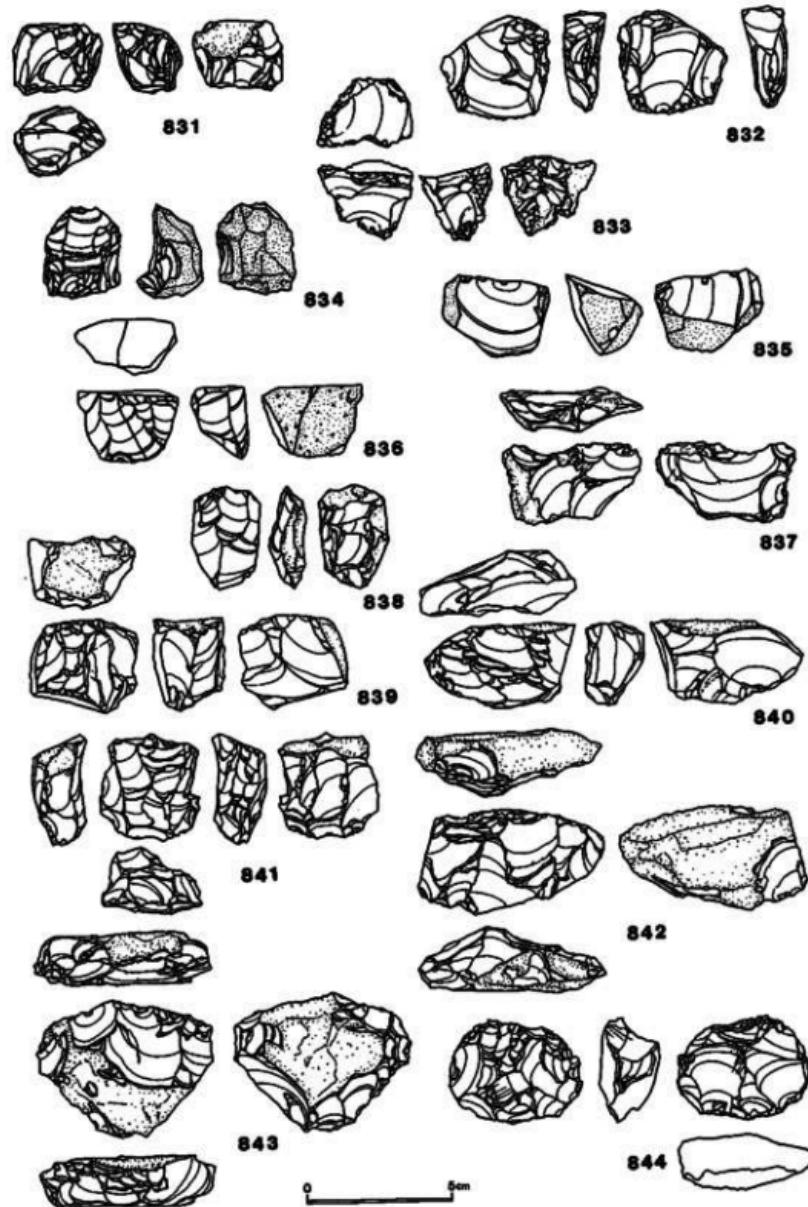


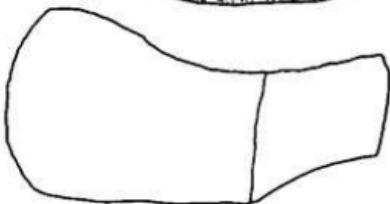
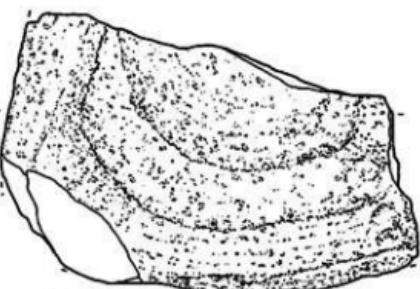
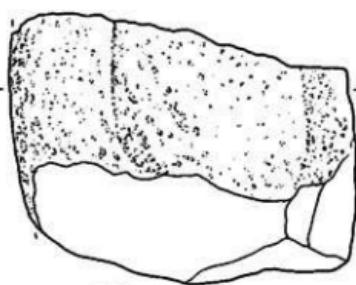
石器 35



石器 06

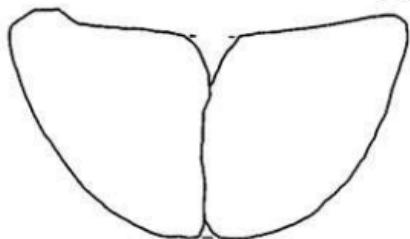
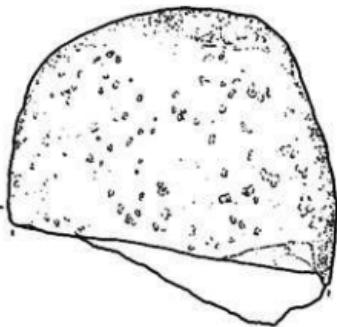
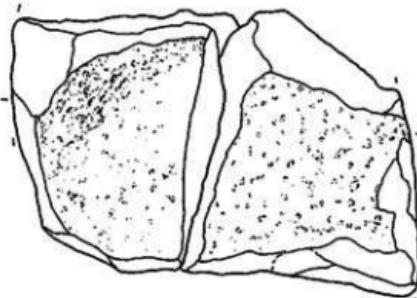






845

846

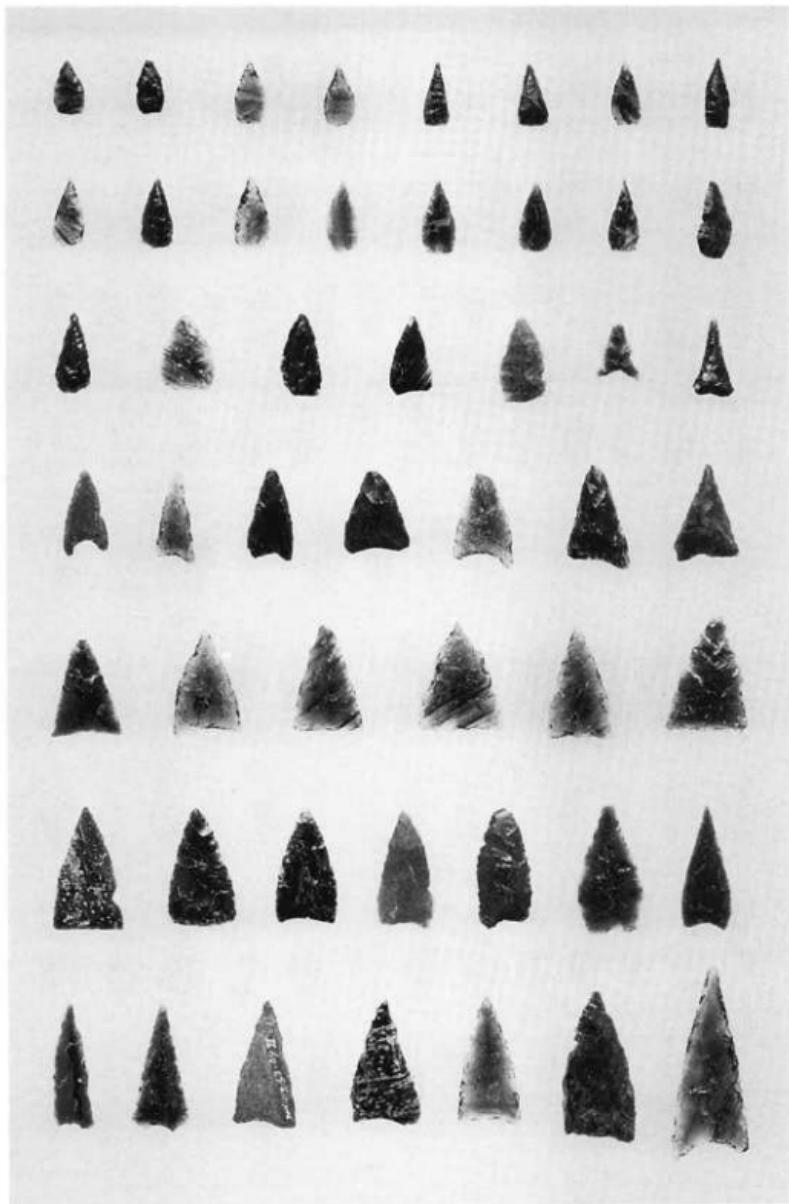


847



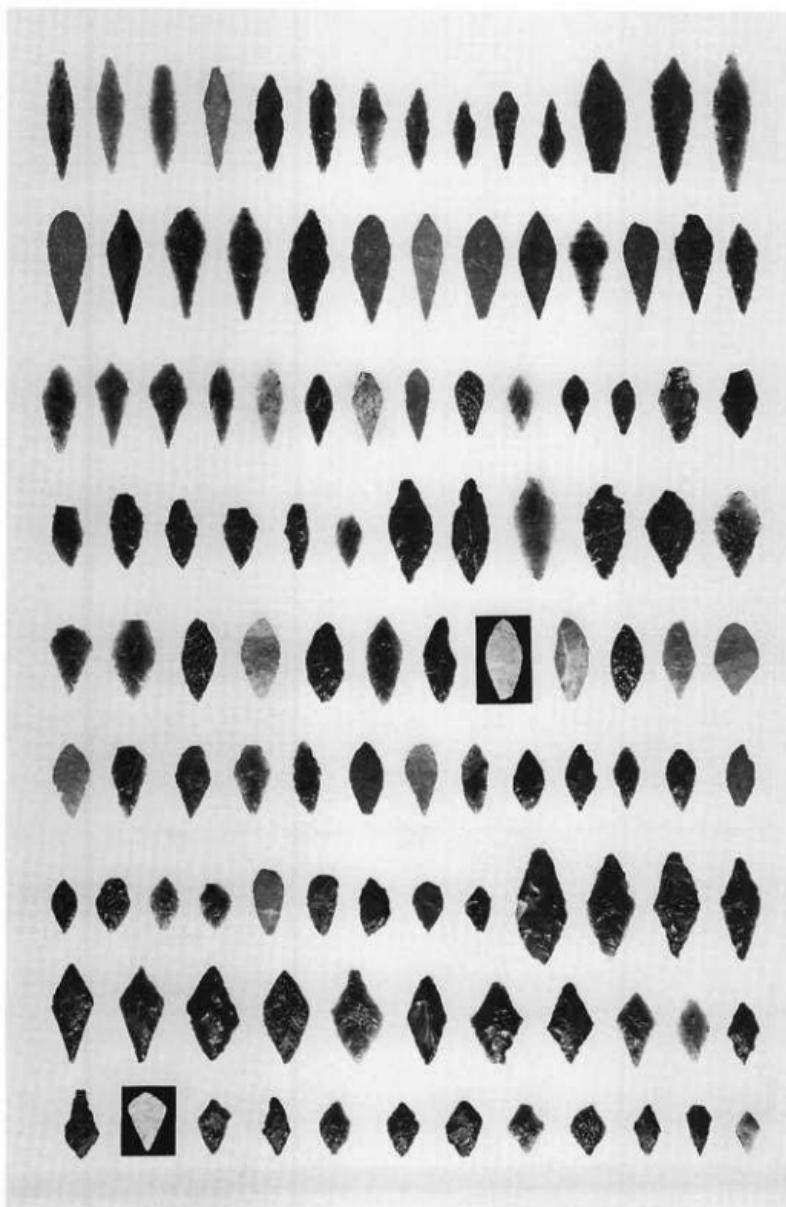
848

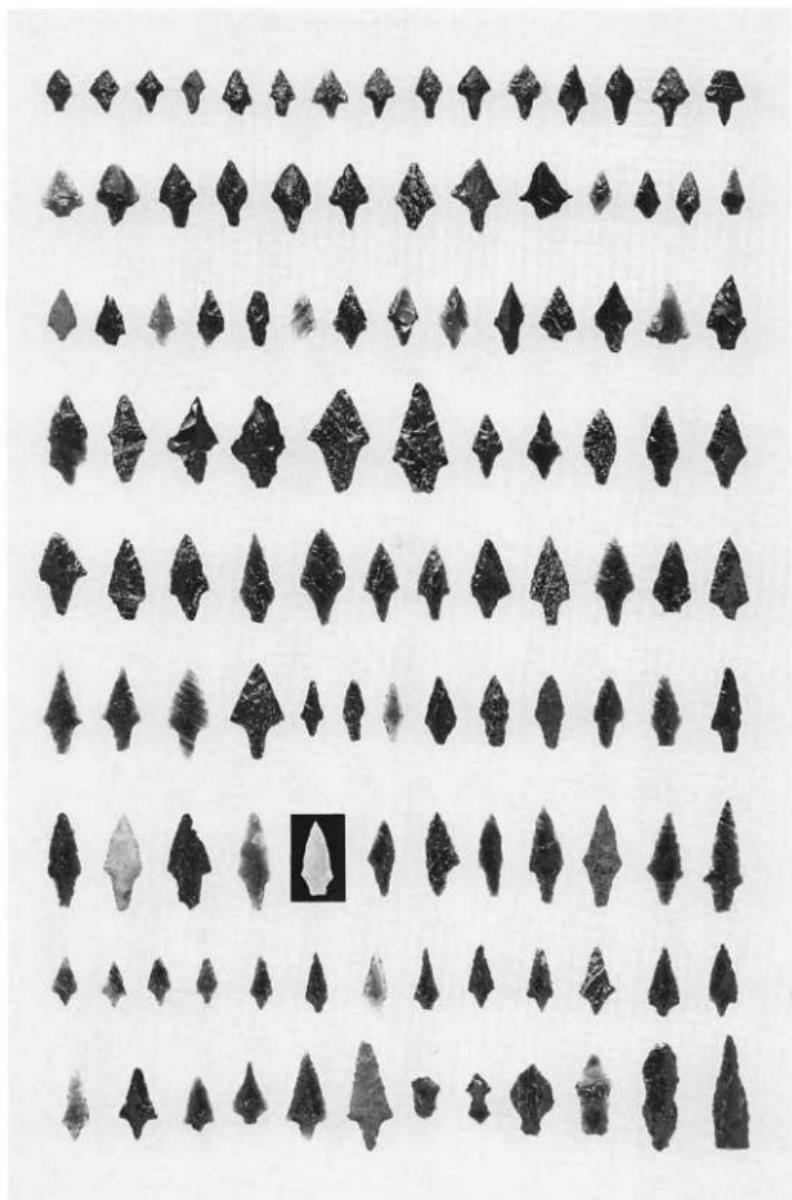
0 5 10cm



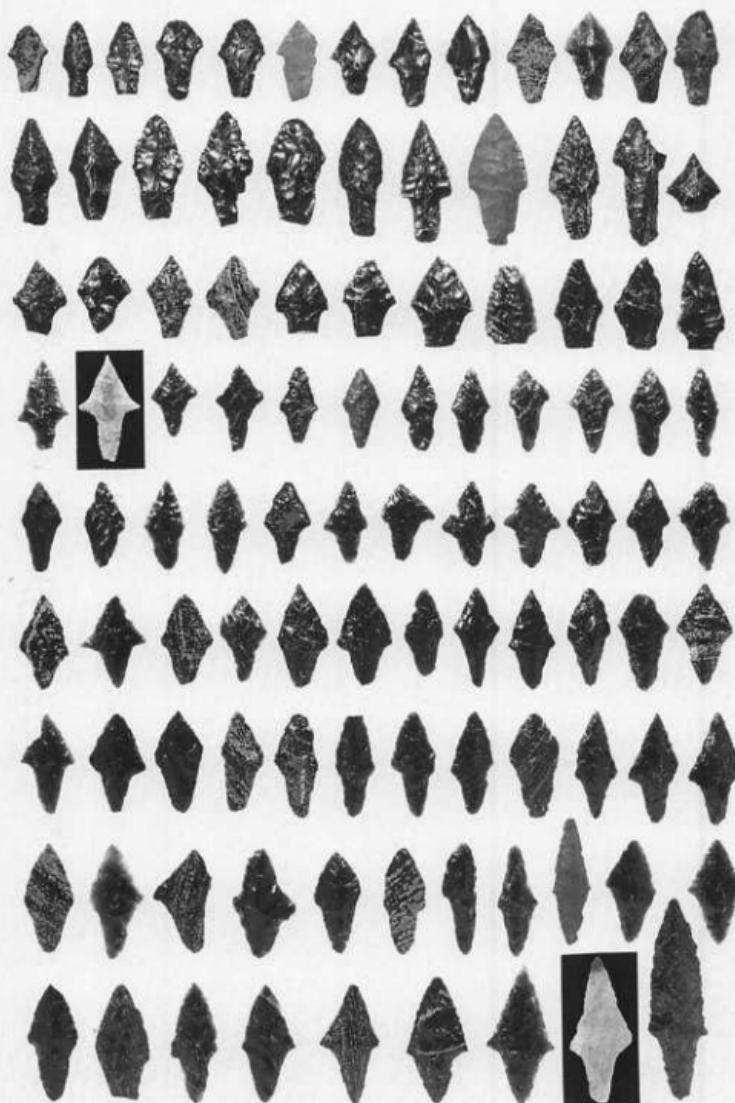
石 器 (1)

石器 (2)

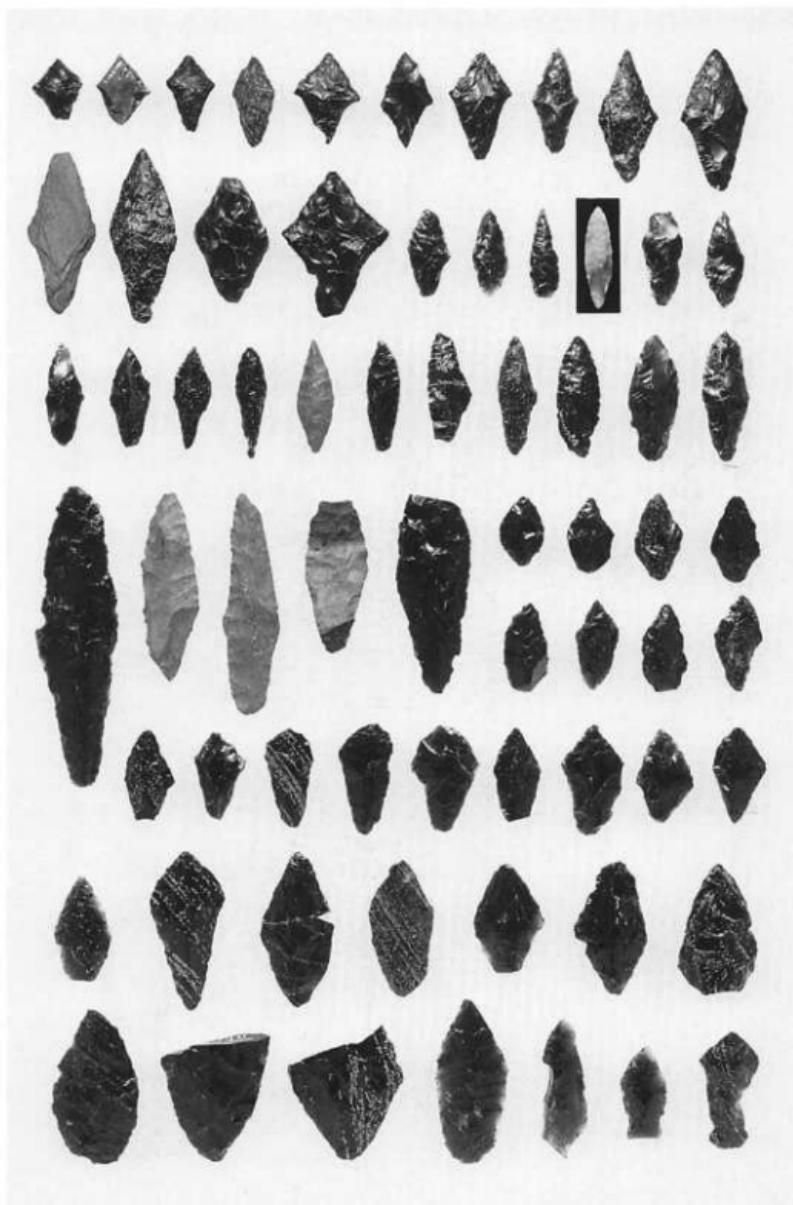




石器 (3)

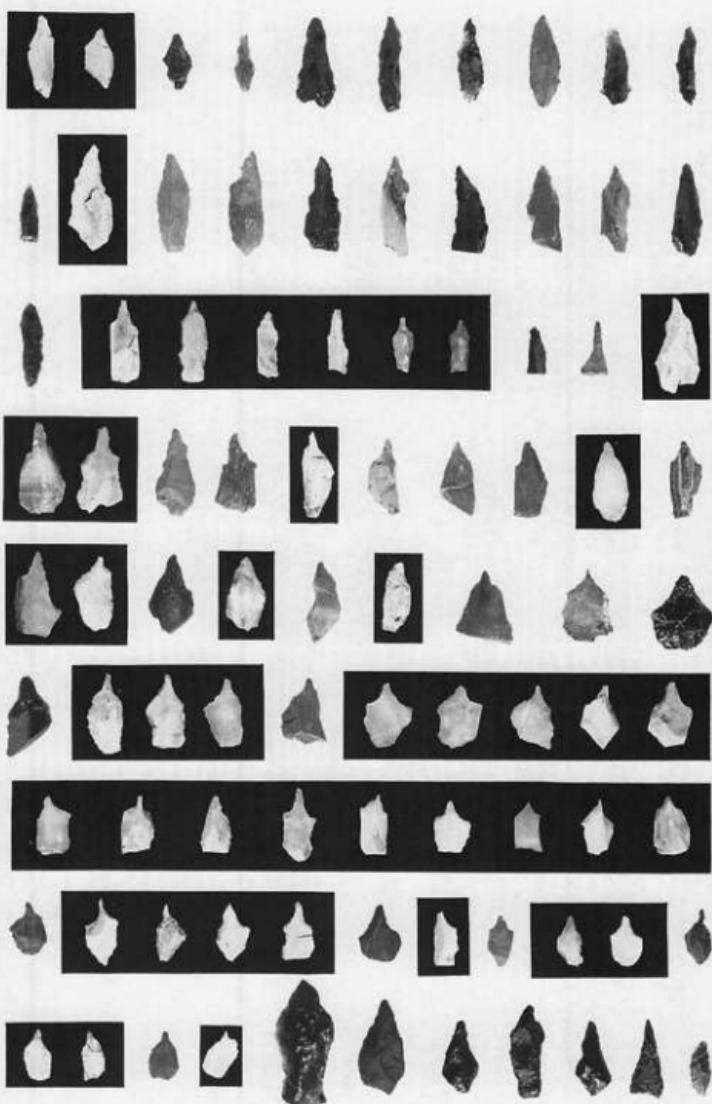


石 器 (4)



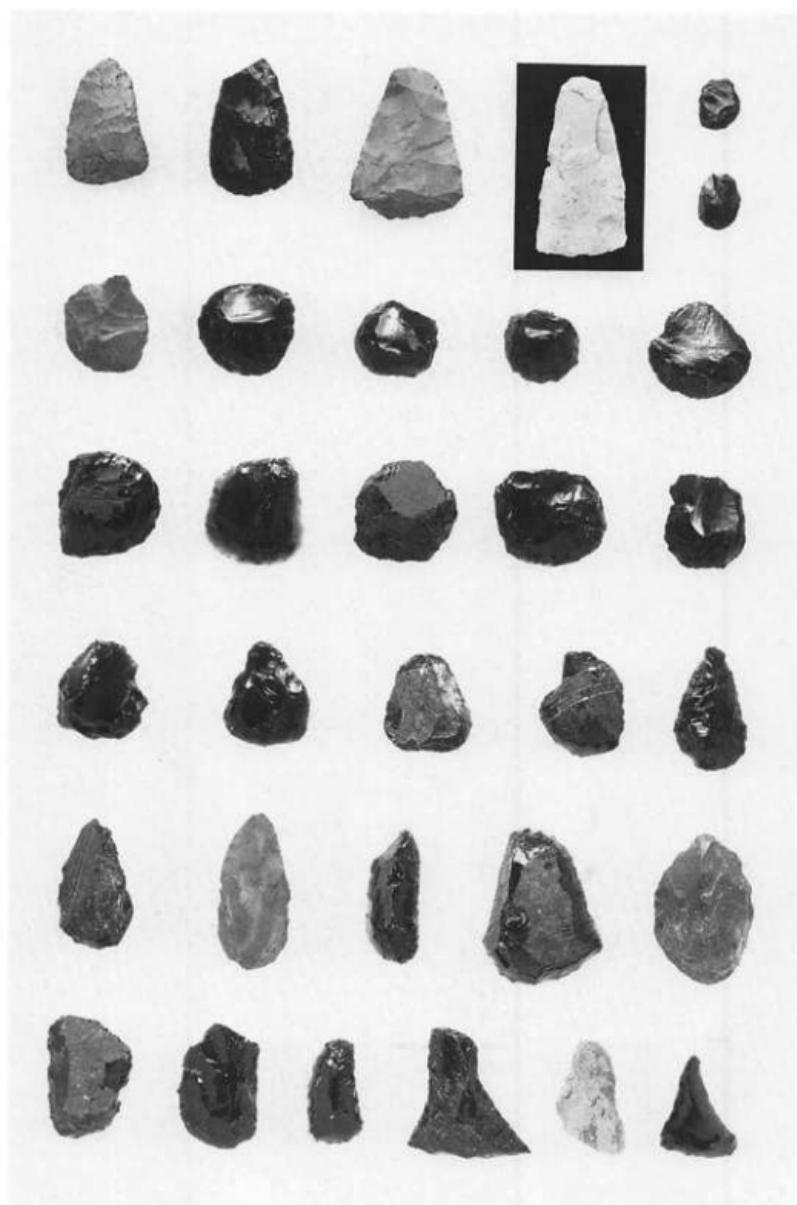
石 器 (5)

石 器 (6)

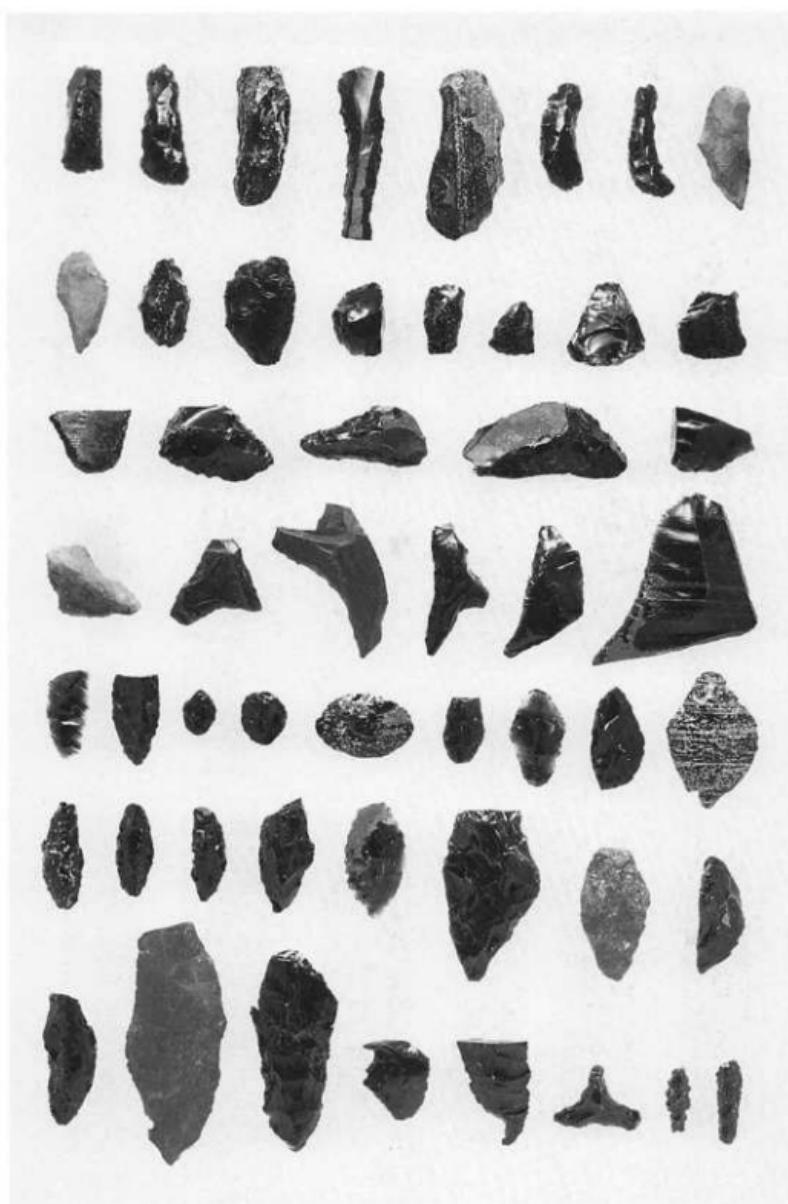




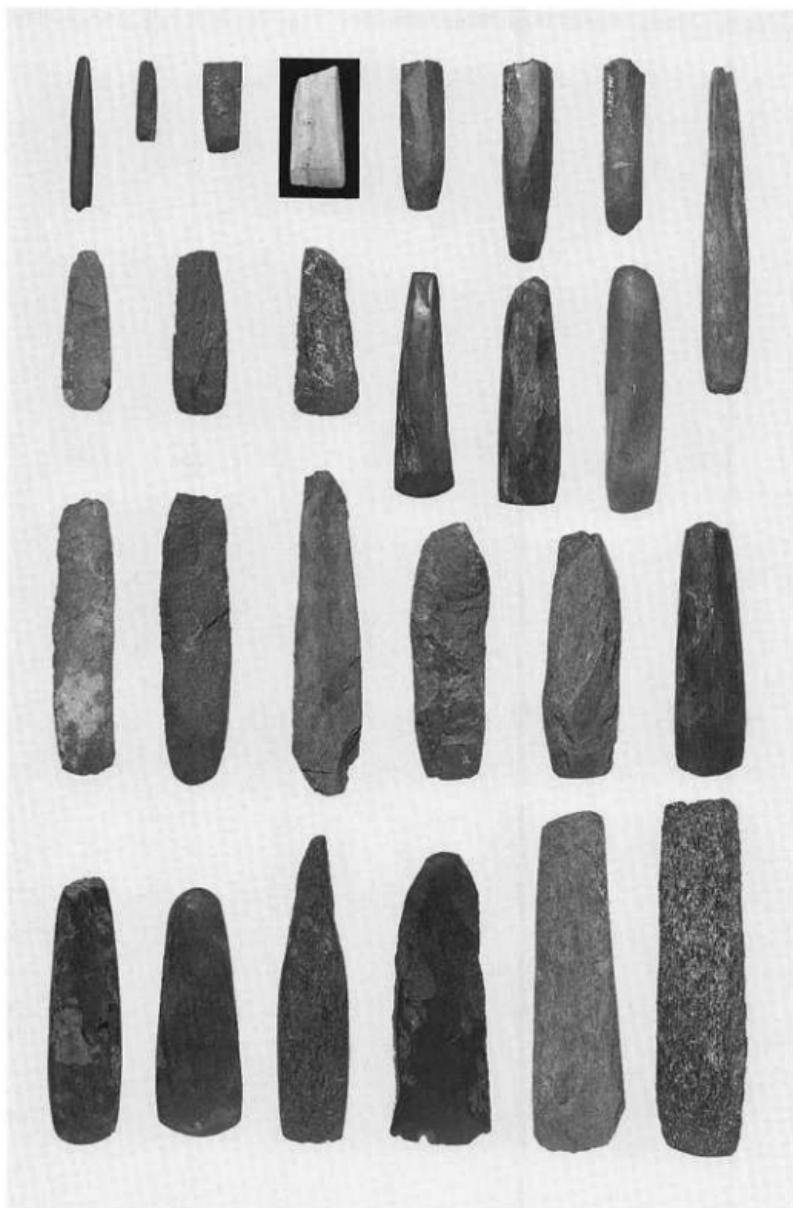
石 器 (7)



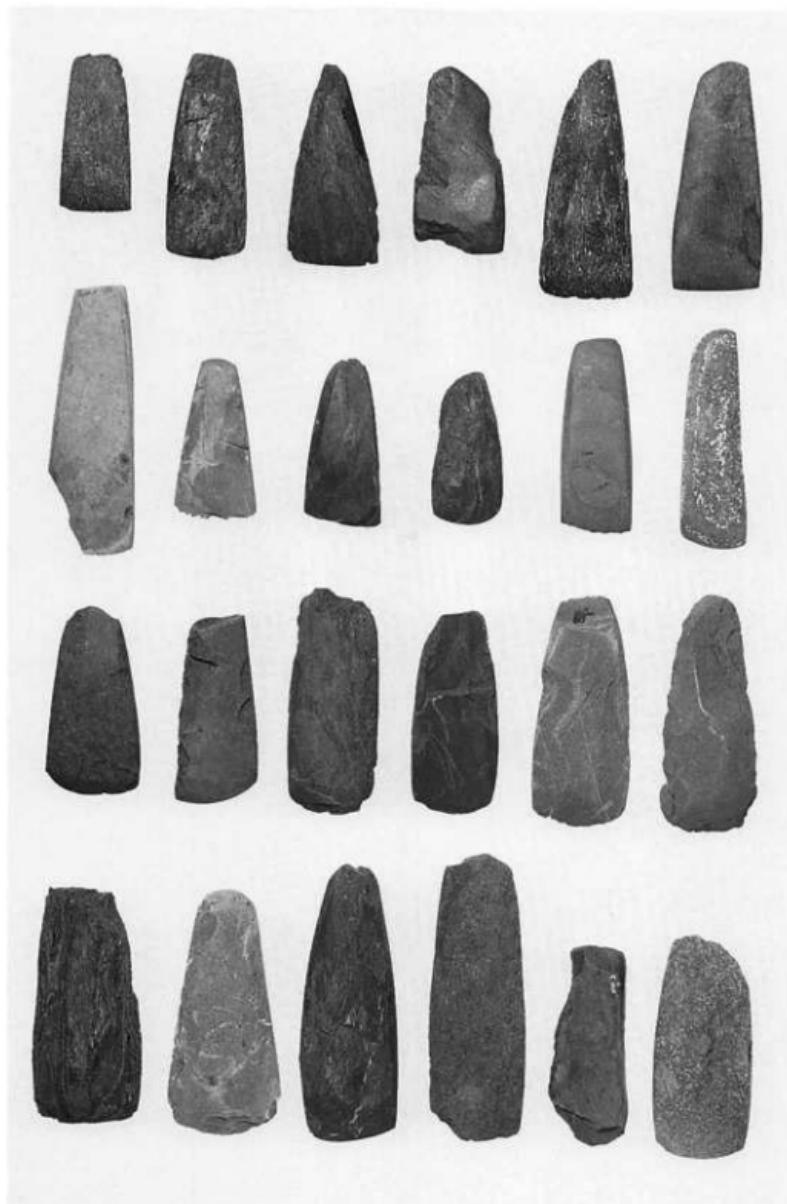
石 器 (8)



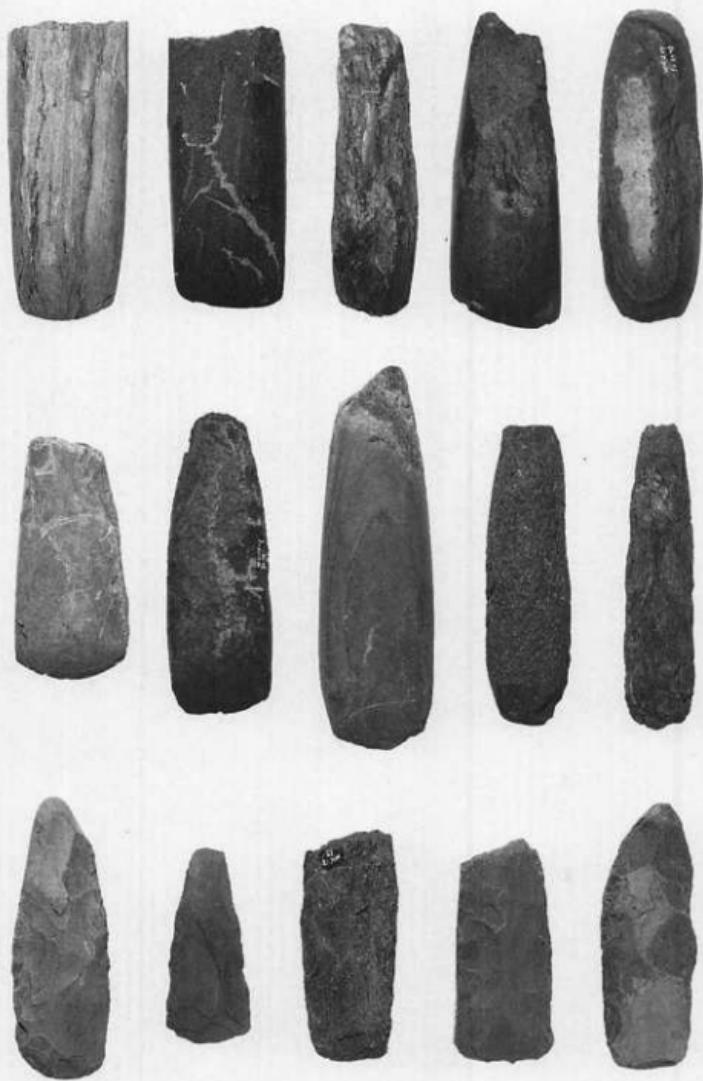
石 器 (9)



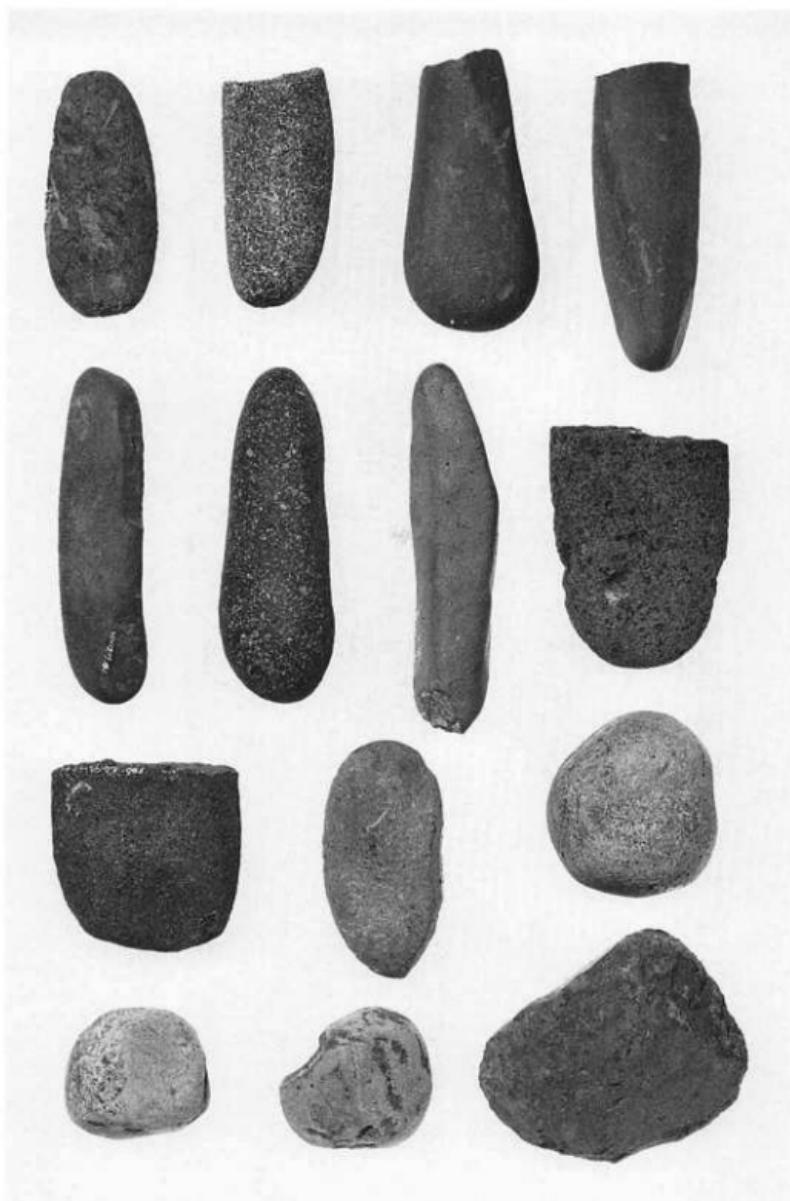
石 器 (10)



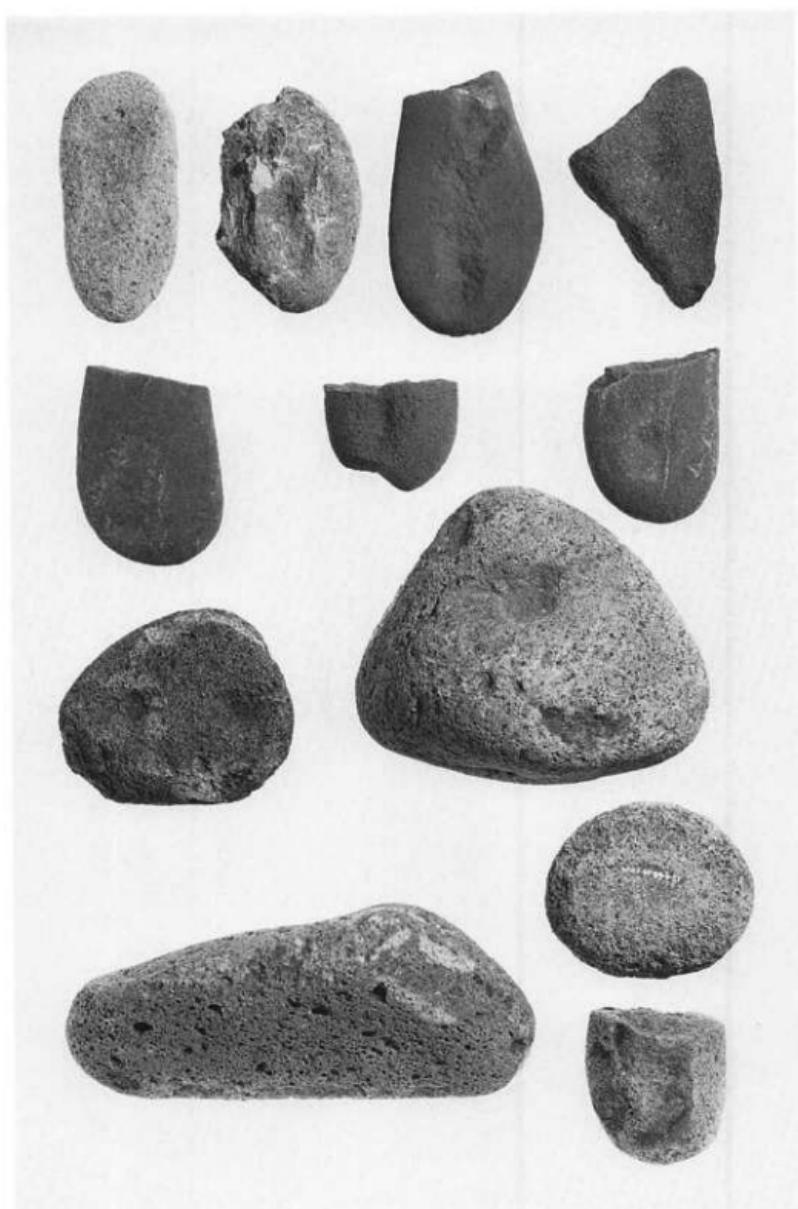
石 器 (1)



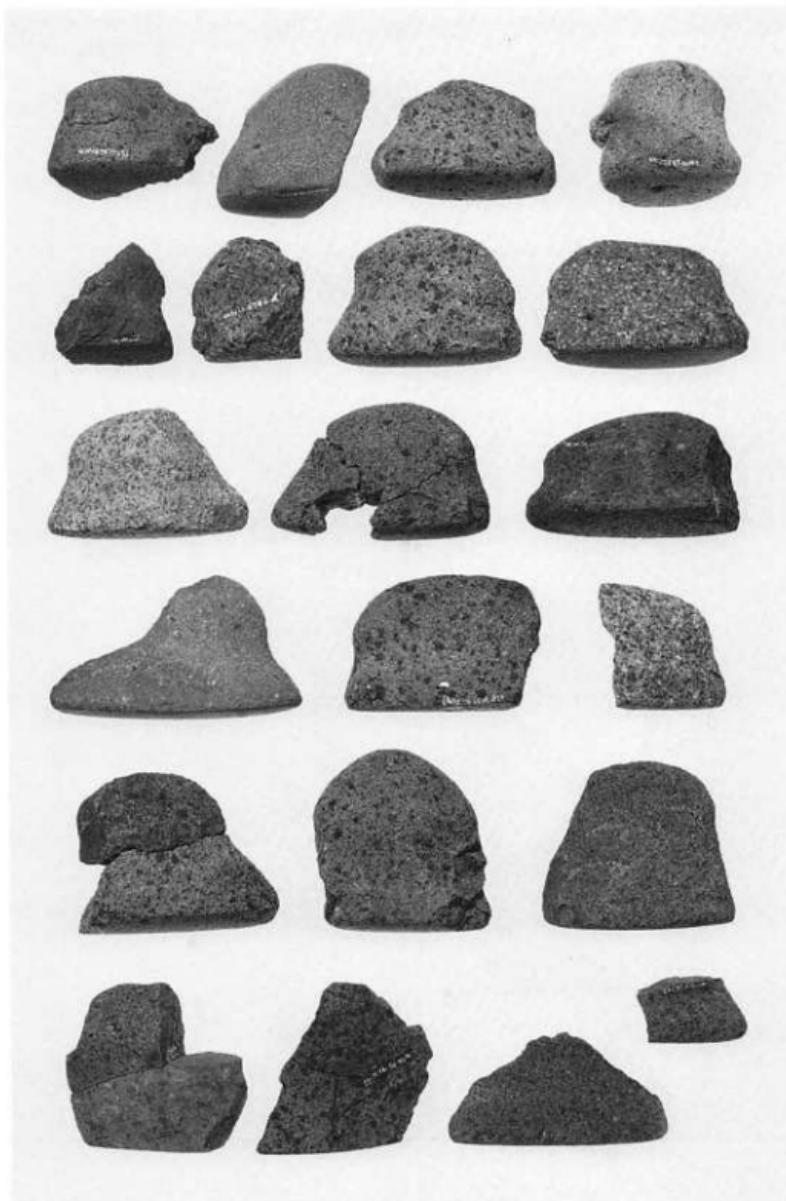
石 器 (12)



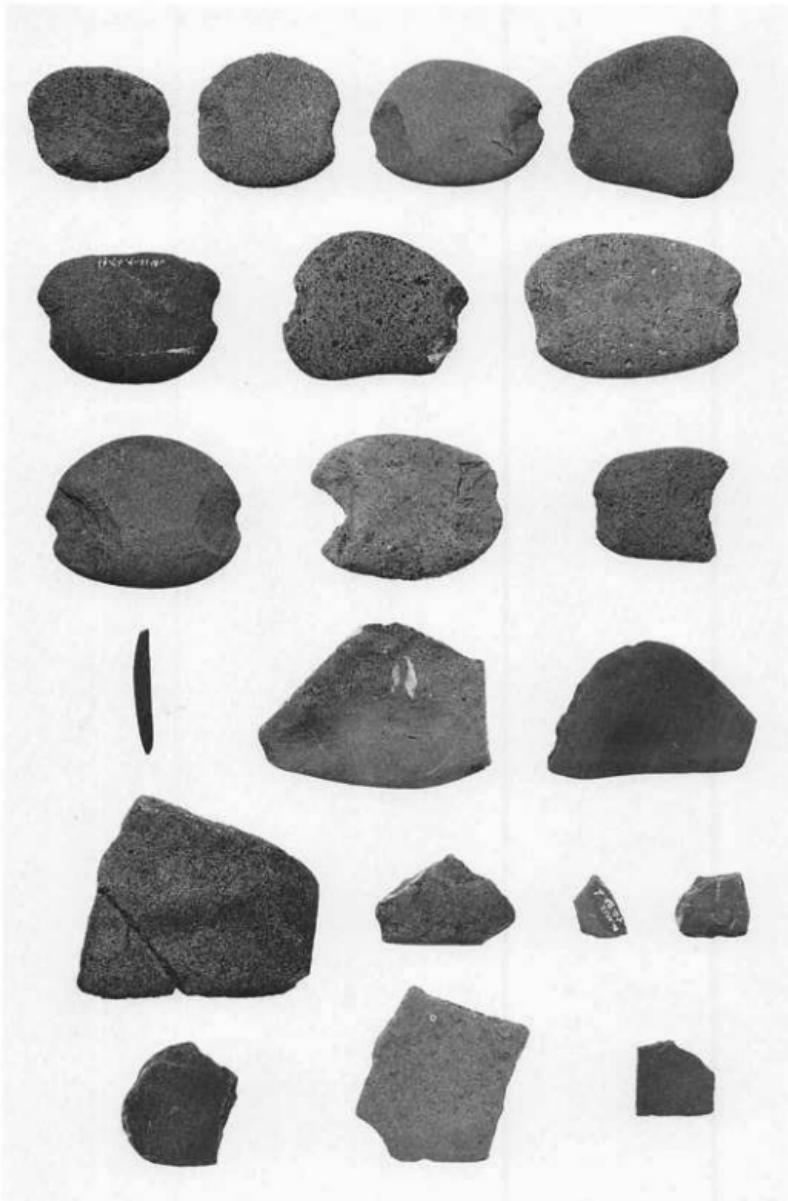
石 器 (1)



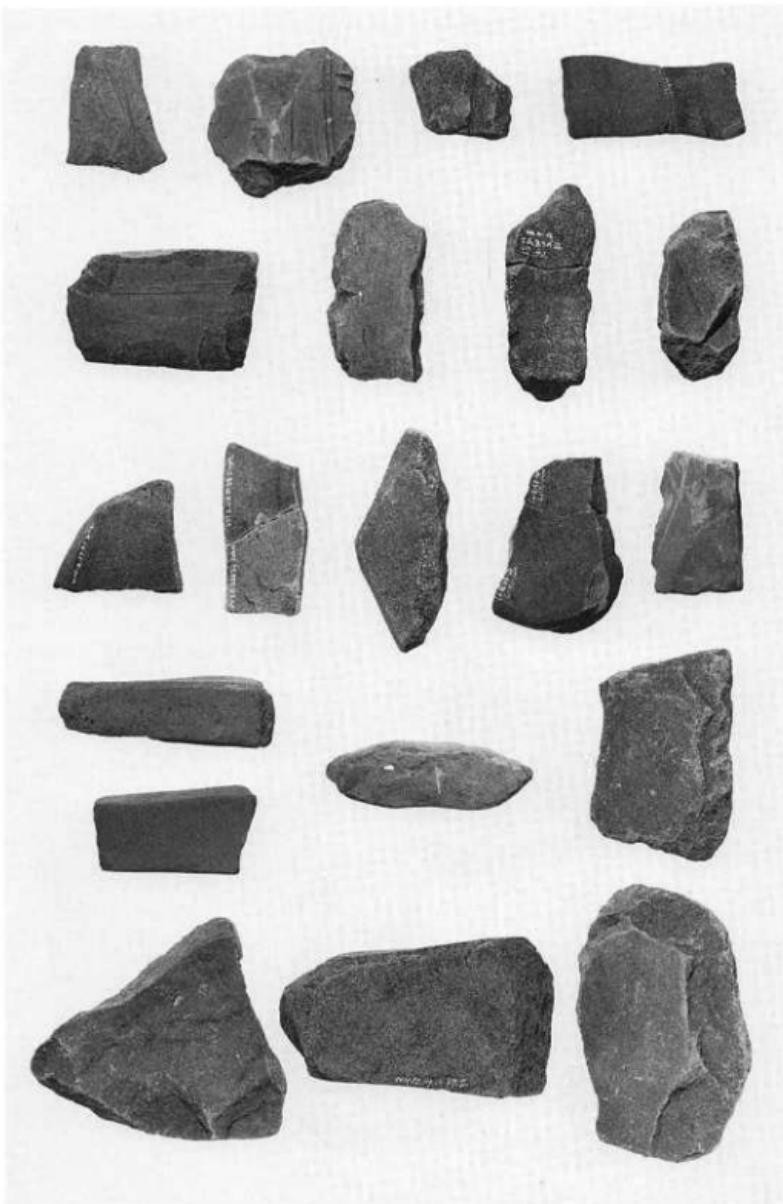
石 器 (14)



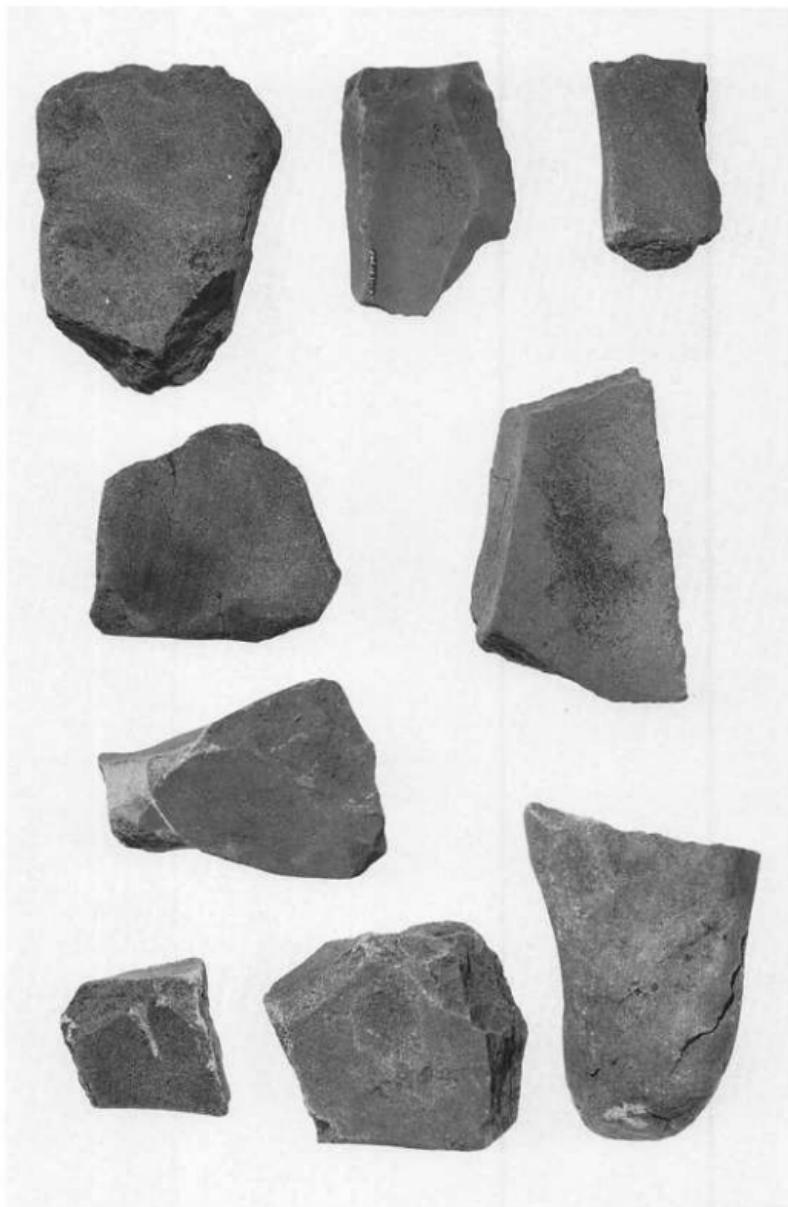
石器 (15)



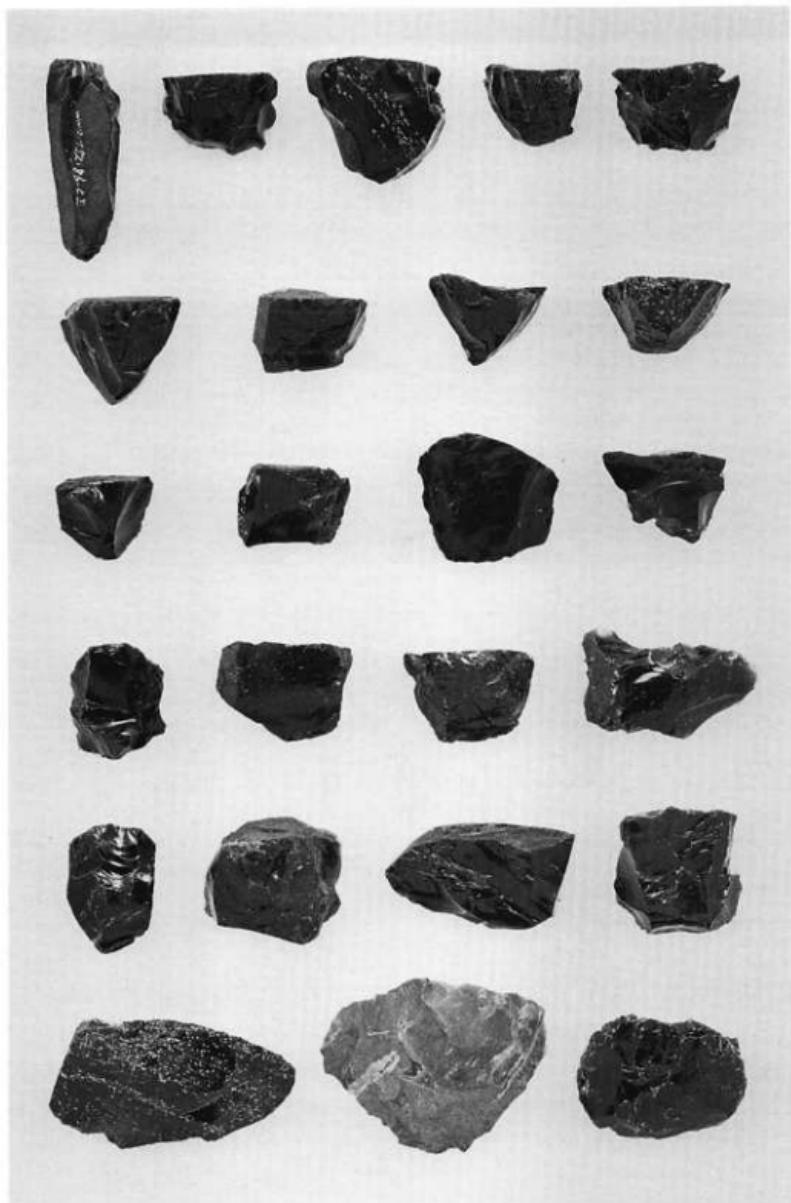
石 器 (16)



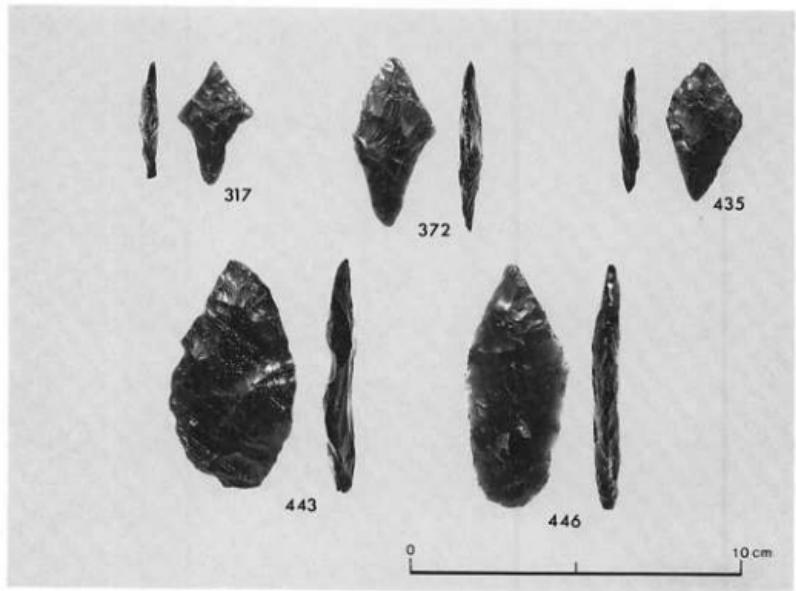
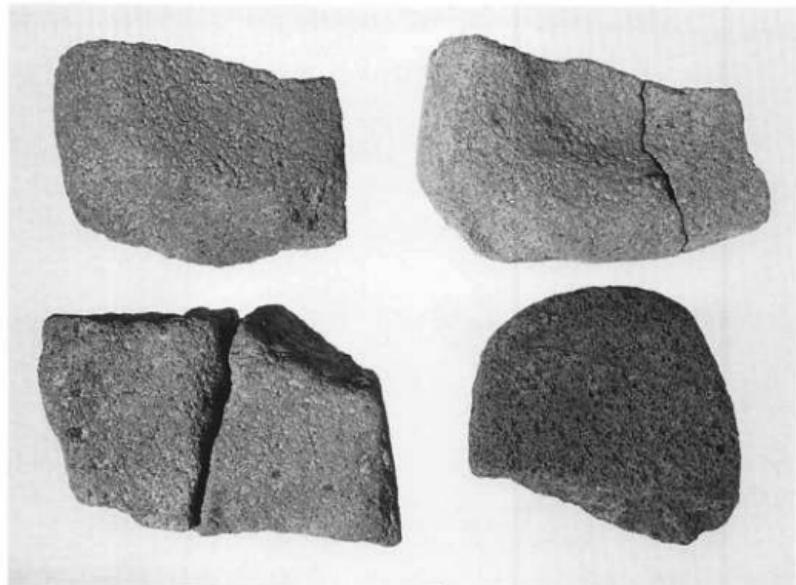
石 器 (17)



石 器 (18)



石 器 (19)



石器一覽表(1)

番号	位置	器種名	重量(g)	石質	番号	位置	器種名	重量(g)	石質	番号	位置	器種名	重量(g)	石質
1	62-69	I 石 錐	0.2	Obs.	58	59-80	I 石 錐	0.7	Obs.	115	59-81	I 石 錐	1.6	Obs.
2	67-66	I 石 錐	0.2	Obs.	59	60-88	I 石 錐	0.8	Obs.	116	56-86	II 石 錐	1.9	Obs.
3	64-67	I 石 錐	0.1	Obs.	60	58-83	I 石 錐	1.0	Obs.	117	60-91	I 石 錐	2.6	Obs.
4	65-67	I 石 錐	0.1	Obs.	61	54-83	I 石 錐	0.6	Rhy.	118	61-79	I 石 錐	0.4	Obs.
5	64-67	I 石 錐	0.1	Obs.	62	56-87	I 石 錐	0.8	Obs.	119	60-90	II 石 錐	0.8	Obs.
6	61-81	II 石 錐	0.2	Obs.	63	59-75	I 石 錐	1.3	Obs.	120	58-85	I 石 錐	0.8	Obs.
7	65-68	I 石 錐	0.2	Obs.	64	59-79	I 石 錐	0.8	Obs.	121	60-85	I 石 錐	1.0	Obs.
8	67-64	I 石 錐	0.1	Obs.	65	61-81	I 石 錐	0.9	Obs.	122	59-84	I 石 錐	1.2	Obs.
9	65-68	I 石 錐	0.2	Obs.	66	52-85	II B 石 錐	1.8	Obs.	123	53-85	II 石 錐	0.5	Obs.
10	64-68	I 石 錐	0.2	Obs.	67	65-67	I 石 錐	(2.8)	Obs.	124	59-90	II 石 錐	1.2	Obs.
11	64-67	I 石 錐	0.2	Obs.	68	51-87	I 石 錐	1.1	Obs.	125	60-78	I 石 錐	(1.5)	Obs.
12	65-67	I 石 錐	0.2	Obs.	69	54-87	II 石 錐	2.0	Obs.	126	56-83	I 石 錐	(0.4) Ha-Sh.	
13	64-68	I 石 錐	0.2	Obs.	70	61-82	I 石 錐	1.7	Obs.	127	52-79	II 石 錐	0.4	Obs.
14	64-68	I 石 錐	0.2	Obs.	71	50-86	I 石 錐	3.2	Obs.	128	58-87	I 石 錐	0.5	Obs.
15	66-67	I 石 錐	0.2	Obs.	72	58-81	I 石 錐	1.5	Obs.	129	59-84	I 石 錐	0.8	Obs.
16	64-67	I 石 錐	0.2	Obs.	73	56-87	I 石 錐	1.6	Obs.	130	56-86	II 石 錐	(0.6) Si-Sh.	
17	65-68	I 石 錐	0.4	Obs.	74	54-84	I 石 錐	1.8	Obs.	131	61-82	I 石 錐	0.7	Si-Sh.
18	54-86	I 石 錐	0.5	Obs.	75	59-83	I 石 錐	2.9	Obs.	132	57-84	I 石 錐	0.6	Obs.
19	54-86	I 石 錐	0.4	Obs.	76	48-73	I 石 錐	2.9	Obs.	133	59-79	I 石 錐	0.8	Si-Sh.
20	60-80	I 石 錐	0.3	Obs.	77	59-90	I 石 錐	(3.4)	Obs.	134	59-77	I 石 錐	0.8	Obs.
21	吉野	石 錐	0.4	Obs.	78	46-79	I 石 錐	0.3	Obs.	135	56-86	II 石 錐	1.0	Obs.
22	58-79	I 石 錐	0.1	Obs.	79	54-85	I 石 錐	0.4	Si-Sh.	136	54-82	I 石 錐	0.8	Obs.
23	59-81	I 石 錐	0.3	Obs.	80	60-90	II 石 錐	0.6	Obs.	137	59-86	I 石 錐	1.2	Obs.
24	58-84	I 石 錐	0.3	Obs.	81	59-81	I 石 錐	0.7	Obs.	138	47-81	I 石 錐	1.1	Obs.
25	55-84	I 石 錐	0.3	Obs.	82	60-84	II 石 錐	1.0	Si-Sh.	139	56-85	I 石 錐	1.4	Si-Sh.
26	59-69	I 石 錐	0.4	Obs.	83	60-92	I 石 錐	0.6	Obs.	140	61-76	I 石 錐	1.4	He-Sh.
27	59-81	I 石 錐	1.0	Obs.	84	61-82	I 石 錐	0.6	Obs.	141	61-82	I 石 錐	1.4	Obs.
28	56-87	I 石 錐	(0.8)	Obs.	85	58-82	II 石 錐	0.6	Obs.	142	57-85	凌亂 石 錐	1.6	Si-Sh.
29	59-87	I 石 錐	1.0	Obs.	86	55-85	I 石 錐	0.6	Obs.	143	58-85	II 石 錐	1.7	Si-Sh.
30	58-83	I 石 錐	0.7	Obs.	87	58-82	I 石 錐	(0.8) Ha-Sh.		144	60-90	II 石 錐	1.2	Si-Sh.
31	52-82	I 石 錐	0.7	Obs.	88	60-84	I 石 錐	1.2	Obs.	145	56-84	I 石 錐	1.8	Si-Sh.
32	66-62	I 石 錐	1.0	Obs.	89	56-85	I 石 錐	0.6	Obs.	146	60-82	I 石 錐	2.9	Obs.
33	49-82	II 石 錐	(1.0)	Obs.	90	55-83	I 石 錐	0.6	Obs.	147	60-85	II 石 錐	(1.7)	Obs.
34	67-73	I 石 錐	1.2	Obs.	91	56-85	I 石 錐	0.8	Obs.	148	55-85	I 石 錐	(1.4)	Obs.
35	54-86	II 石 錐	0.8	Obs.	92	67-62	I 石 錐	1.0	Obs.	149	54-81	I 石 錐	1.6	Obs.
36	66-68	I 石 錐	1.4	Obs.	93	55-83	I 石 錐	0.9	Si-Sh.	150	58-90	II 石 錐	1.7	Ha-Sh.
37	66-64	I 石 錐	1.0	Obs.	94	58-82	I 石 錐	(1)	Si-Sh.	151	59-79	II 石 錐	(3.0)	Obs.
38	54-79	I 石 錐	1.2	Obs.	95	56-85	I 石 錐	0.8	Obs.	152	56-85	II C 石 錐	2.8	Obs.
39	47-85	I 石 錐	0.9	Obs.	96	59-83	I 石 錐	1.0	Obs.	153	59-83	I 石 錐	3.1	Obs.
40	55-85	I 石 錐	1.0	Si-Sh.	97	59-83	I 石 錐	0.8	Obs.	154	58-84	II 石 錐	0.5	Obs.
41	51-81	I 石 錐	1.2	Obs.	98	60-91	I 石 錐	1.4	Obs.	155	65-87	I 石 錐	(1.2)	Obs.
42	59-78	I 石 錐	1.1	Obs.	99	59-92	II 石 錐	1.0	Si-Sh.	156	56-86	I 石 錐	0.7	Obs.
43	51-89	I 石 錐	0.6	Obs.	100	59-82	I 石 錐	1.4	Ha-Sh.	157	58-86	I 石 錐	1.0	Obs.
44	57-81	凌亂 石 錐	0.7	Obs.	101	59-79	I 石 錐	1.2	Si-Sh.	158	55-86	I 石 錐	1.2	Obs.
45	59-85	II 石 錐	1.0	Obs.	102	56-85	I 石 錐	1.6	Obs.	159	61-81	I 石 錐	1.7	Obs.
46	63-69	II 石 錐	1.2	Si-Sh.	103	63-77	I 石 錐	2.2	Si-Sh.	160	56-87	I 石 錐	1.6	Obs.
47	58-90	I 石 錐	1.3	Obs.	104	59-78	I 石 錐	(1.2)	Si-Sh.	161	58-81	I 石 錐	1.5	Si-Sh.
48	52-85	I 石 錐	1.2	Obs.	105	60-90	I 石 錐	1.4	Obs.	162	50-86	II 石 錐	1.1	Obs.
49	65-66	I 石 錐	1.4	Obs.	106	62-70	I 石 錐	1.6	Obs.	163	57-85	II 石 錐	1.1	Obs.
50	66-64	I 石 錐	2.4	Obs.	107	60-81	I 石 錐	(1.4)	Obs.	164	58-86	I 石 錐	1.8	Obs.
51	53-85	II 石 錐	0.1	Obs.	108	59-83	I 石 錐	(1.4)	Si-Sh.	165	59-90	II 石 錐	0.4	Obs.
52	60-83	I 石 錐	0.6	Obs.	109	58-85	I 石 錐	1.7	Obs.	166	60-85	II 石 錐	0.4	Obs.
53	58-85	I 石 錐	0.5	Obs.	110	48-82	II 石 錐	1.8	Obs.	167	50-82	I 石 錐	0.4	Obs.
54	58-79	I 石 錐	0.9	Obs.	111	59-91	II 石 錐	1.0	Obs.	168	59-91	I 石 錐	0.2	Obs.
55	50-86	I 石 錐	0.5	Obs.	112	60-77	II 石 錐	1.9	Obs.	169	52-87	I 石 錐	0.6	Obs.
56	66-66	I 石 錐	0.8	Obs.	113	59-84	I 石 錐	1.5	Obs.	170	60-91	I 石 錐	0.3	Obs.
57	59-82	I 石 錐	0.5	Obs.	114	60-90	II 石 錐	2.2	Obs.	171	63-70	I 石 錐	0.6	Obs.

石器一覧表(2)

番号	伝数	層位	器種名	重量(g)	石質	番号	伝数	層位	器種名	重量(g)	石質	番号	伝数	層位	器種名	重量(g)	石質
172	61-81	I	石 錠	0.4	Obs.	229	59-90	I	石 錠	(1.3)	Obs.	286	55-67	II C	ポイント・ナイフ	4.0	Obs.
173	59-90	I	石 錠	0.6	Obs.	230	48-79	I	石 錠	1.1	Obs.	287	46-55	I	ポイント・ナイフ	5.0	Obs.
174	59-90	I	石 錠	0.6	Obs.	231	49-82	I	石 錠	1.2	Obs.	288	58-85	I	ポイント・ナイフ	4.7	Obs.
175	59-90	II	石 錠	0.6	Obs.	232	50-88	I	石 錠	1.4	Obs.	289	57-85	II	ポイント・ナイフ	6.5	Obs.
176	59-90	I	石 錠	0.5	Obs.	233	60-74	I	石 錠	2.2	Obs.	290	56-81	I	ポイント・ナイフ	6.6	Obs.
177	59-95	I	石 錠	0.7	Obs.	234	59-79	I	石 錠	0.4	Obs.	291	50-61	II	ポイント・ナイフ	8.3	Obs.
178	62-70	I	石 錠	1.0	Obs.	235	57-85	II	石 錠	0.6	Obs.	292	58-96	I	ポイント・ナイフ	7.7	Obs.
179	65-62	I	石 錠	(0.9)	Obs.	236	58-83	I	石 錠	0.5	Obs.	293	58-94	II	ポイント・ナイフ	6.5	Obs.
180	59-90	I	石 錠	0.8	Obs.	237	55-87	II	石 錠	0.9	Obs.	294	59-90	II	ポイント・ナイフ	8.3	Obs.
181	67-70	I	石 錠	1.0	Obs.	238	66-54	I	石 錠	1.4	Obs.	295	61-93	I	ポイント・ナイフ	9.2	Obs.
182	53-96	I	石 錠	0.9	Obs.	239	61-80	I	石 錠	0.8	Obs.	296	59-90	I	ポイント・ナイフ	11.3	Obs.
183	61-61	I	石 錠	1.0	Obs.	240	59-82	I	石 錠	0.8	Obs.	297	56-85	I	ポイント・ナイフ	12.5	Obs.
184	55-86	II	石 錠	1.4	Obe.	241	60-78	I	石 錠	1.0	Obe.	298	58-86	II	ポイント・ナイフ	9.7	Obe.
185	60-83	I	石 錠	1.0	Obe.	242	58-85	I	石 錠	1.2	Obe.	299	58-82	II	ポイント・ナイフ	9.7	Obe.
186	61-93	I	石 錠	(1.6)	Obe.	243	60-83	I	石 錠	1.9	Obe.	300	59-84	I	ポイント・ナイフ	16.8	Obe.
187	52-87	I	石 錠	1.0	Obe.	244	53-88	II	石 錠	1.7	Ha-Sh.	301	59-83	I	ポイント・ナイフ	13.6	Obe.
188	52-86	I	石 錠	0.9	Obe.	245	50-80	I	石 錠	(1.8)	Obe.	302	57-84	II	ポイント・ナイフ	(13.0)	Obe.
189	60-85	I	石 錠	0.8	Obe.	246	52-86	I	石 錠	1.2	Obe.	303	59-90	II	ポイント・ナイフ	(3.9)	Obe.
190	59-82	I	石 錠	0.4	Obe.	247	59-91	II	石 錠	0.8	Si-Sh.	304	55-91	II	ポイント・ナイフ	4.9	Obe.
191	60-79	I	石 錠	0.4	Obe.	248	54-86	II C	石 錠	0.6	Obe.	305	63-67	I	ポイント・ナイフ	5.6	Obe.
192	表掲	石 錠	0.4	Obe.	249	58-85	I	石 錠	0.9	Obe.	306	53-87	II C	ポイント・ナイフ	4.8	Obe.	
193	59-81	I	石 錠	0.6	Ha-Sh.	250	54-86	複数	石 錠	0.6	Obe.	307	59-85	I	ポイント・ナイフ	10.8	Obe.
194	60-79	I	石 錠	0.4	Obe.	251	55-86	I	石 錠	1.3	Obe.	308	56-85	I	ポイント・ナイフ	8.0	Obe.
195	54-79	I	石 錠	0.5	Obe.	252	56-86	II	石 錠	2.3	Obe.	309	56-91	II	ポイント・ナイフ	(5.7)	Obe.
196	60-78	I	石 錠	0.5	Obe.	253	55-86	II	石 錠	1.0	Obe.	310	53-87	I	ポイント・ナイフ	(7.8)	Obe.
197	58-83	I	石 錠	0.6	Obe.	254	49-68	I	石 錠	1.5	Obe.	311	58-83	I	ポイント・ナイフ	(9.0)	Obe.
198	60-80	I	石 錠	0.4	Obe.	255	59-77	I	石 錠	0.3	Obe.	312	60-86	I	ポイント・ナイフ	(7.2)	Obe.
199	59-80	I	石 錠	0.8	Obe.	256	60-74	I	石 錠	0.2	Obe.	313	55-86	II	ポイント・ナイフ	6.8	Obe.
200	53-87	I	石 錠	0.5	Obe.	257	60-79	I	石 錠	0.4	Obe.	314	60-86	I	ポイント・ナイフ	(5.6)	Obe.
201	57-84	I	石 錠	0.6	Obe.	258	59-85	II	石 錠	0.3	Obe.	315	48-76	I	ポイント・ナイフ	4.2	Obe.
202	55-87	II	石 錠	0.8	Obe.	259	59-80	I	石 錠	0.3	Obe.	316	56-85	II	ポイント・ナイフ	5.7	Si-Sh.
203	60-83	I	石 錠	(0.5)	Obe.	260	59-77	I	石 錠	0.5	Obe.	317	55-86	I	ポイント・ナイフ	3.5	Obe.
204	55-86	I	石 錠	1.0	Obe.	261	59-83	I	石 錠	0.5	Obe.	318	54-87	I	ポイント・ナイフ	4.5	Obe.
205	54-87	I	石 錠	0.8	Obe.	262	64-68	I	石 錠	(0.6)	Obe.	319	60-85	I	ポイント・ナイフ	(2.7)	Obe.
206	52-86	I	石 錠	1.1	Obe.	263	59-81	I	石 錠	0.5	Obe.	320	52-86	I	ポイント・ナイフ	4.1	Obe.
207	52-87	II A	石 錠	1.5	Obe.	264	58-82	I	石 錠	(0.6)	Obe.	321	59-90	I	ポイント・ナイフ	4.6	Obe.
208	55-86	II	石 錠	1.4	Obe.	265	46-85	I	石 錠	0.9	Obe.	322	59-86	I	ポイント・ナイフ	4.5	Obe.
209	54-86	複数	石 錠	1.3	Obe.	266	60-75	I	石 錠	1.0	Obe.	323	54-87	I	ポイント・ナイフ	4.0	Obe.
210	58-88	I	石 錠	3.2	Obe.	267	59-78	I	石 錠	0.7	Obe.	324	57-84	I	ポイント・ナイフ	4.5	Obe.
211	55-85	I	石 錠	2.7	Obe.	268	58-82	I	石 錠	0.6	Obe.	325	59-83	I	ポイント・ナイフ	4.4	Obe.
212	53-86	I	石 錠	2.7	Obe.	269	54-82	I	石 錠	0.8	Obe.	326	54-86	I	ポイント・ナイフ	3.8	Obe.
213	55-82	I	石 錠	0.7	Obe.	270	57-79	I	石 錠	0.7	Obe.	327	55-87	II	ポイント・ナイフ	5.2	Obe.
214	58-84	I	石 錠	0.8	Obe.	271	49-86	II	石 錠	(0.8)	Obe.	328	54-87	II	ポイント・ナイフ	4.0	Obe.
215	67-69	I	石 錠	1.1	Obe.	272	59-86	I	石 錠	1.6	Obe.	329	55-86	II	ポイント・ナイフ	3.9	Obe.
216	59-89	II	石 錠	1.3	Obe.	273	54-84	複数	石 錠	2.0	Si-Sh.	330	59-89	II	ポイント・ナイフ	3.8	Obe.
217	58-85	I	石 錠	1.0	Obe.	274	52-86	I	石 錠	0.8	Obe.	331	59-81	I	ポイント・ナイフ	(5.1)	Obe.
218	60-90	I	石 錠	1.4	Obe.	275	59-91	I	石 錠	0.6	Obe.	332	58-86	I	ポイント・ナイフ	4.2	Obe.
219	59-91	I	石 錠	2.1	Obe.	276	51-82	II	石 錠	1.4	Obe.	333	51-87	I	ポイント・ナイフ	4.4	Obe.
220	58-85	I	石 錠	1.4	Obe.	277	53-87	II	石 錠	1.4	Obe.	334	60-83	I	ポイント・ナイフ	4.7	Obe.
221	53-87	I	石 錠	1.3	Obe.	278	49-86	I	石 錠	2.9	Obe.	335	54-86	I	ポイント・ナイフ	4.0	Obe.
222	53-87	I	石 錠	2.0	Obe.	279	67-66	II	石 錠	2.4	Obe.	336	49-77	I	ポイント・ナイフ	1.4	Obe.
223	60-92	I	石 錠	0.8	Obe.	280	48-86	I	ポイント・ナイフ	4.2	Obe.	337	55-85	I	ポイント・ナイフ	6.0	Obe.
224	53-87	I	石 錠	1.0	Obe.	281	60-83	II	ポイント・ナイフ	2.8	Obe.	338	54-86	I	ポイント・ナイフ	5.2	Obe.
225	55-86	II A	石 錠	1.3	Obe.	282	53-87	I	ポイント・ナイフ	4.1	Obe.	339	51-87	I	ポイント・ナイフ	5.3	Obe.
226	59-90	II	石 錠	1.4	Obe.	283	56-85	I	ポイント・ナイフ	(5.8)	Obe.	340	60-86	I	ポイント・ナイフ	4.5	Obe.
227	59-91	II	石 錠	1.2	Obe.	284	56-86	II C	ポイント・ナイフ	5.0	Obe.	341	56-85	I	ポイント・ナイフ	6.0	Obe.
228	60-93	I	石 錠	1.2	Obe.	285	55-87	II	ポイント・ナイフ	5.4	Ha-Sh.	342	57-85	I	ポイント・ナイフ	5.0	Obe.

石器一覧表(3)

番号	位置	層位	器種名	重量(g)	石質	番号	位置	層位	器種名	重量(g)	石質	番号	位置	層位	器種名	重量(g)	石質
343	50-88	I	ポイントナイフ	7.6	Obs.	400	58-81	I	ポイントナイフ	3.0	Aga.	457	55-85	I	ドリル	0.4	Si-Sh.
344	53-86	I	ポイントナイフ	7.7	Obs.	401	55-86	II A	ポイントナイフ	(4.8)	Obs.	458	58-85	I	ドリル	0.5	Si-Sh.
345	52-85	I	ポイントナイフ	(4.6)	Obs.	402	49-88	I	ポイントナイフ	4.2	Obs.	459	55-85	I	ドリル	0.6	Si-Sh.
346	58-89	I	ポイントナイフ	5.1	Obs.	403	57-85	I	ポイントナイフ	4.0	Obs.	460	59-85	I	ドリル	0.6	Si-Sh.
347	59-90	I	ポイントナイフ	5.4	Obs.	404	57-91	II	ポイントナイフ	5.0	Obs.	461	55-85	I	ドリル	0.7	Si-Sh.
348	54-86	I	ポイントナイフ	7.0	Obs.	405	60-83	I	ポイントナイフ	2.2	Obs.	462	55-85	I	ドリル	0.8	Si-Sh.
349	53-87	II	ポイントナイフ	8.3	Obs.	406	57-85	II	ポイントナイフ	3.8	Obs.	463	53-87	I	ドリル	0.8	Aga.
350	51-87	II	ポイントナイフ	9.0	Obs.	407	55-84	I	ポイントナイフ	5.0	Ha-Sh.	464	60-90	I	ドリル	0.8	Si-Sh.
351	60-90	I	ポイントナイフ	5.5	Obs.	408	56-82	I	ポイントナイフ	3.9	Obs.	465	52-87	I	ドリル	0.8	Si-Sh.
352	60-84	I	ポイントナイフ	6.2	Obs.	409	46-79	I	ポイントナイフ	5.6	Obs.	466	52-88	I	ドリル	0.8	Na-Sh.
353	66-63	I	ポイントナイフ	7.2	Obs.	410	56-86	I	ポイントナイフ	5.0	Obs.	467	55-85	I	ドリル	0.8	Si-Sh.
354	57-85	漫乳	ポイントナイフ	6.3	Obs.	411	嘉保	I	ポイントナイフ	7.3	Obs.	468	56-86	I	ドリル	1.0	Si-Sh.
355	58-85	I	ポイントナイフ	7.4	Obs.	412	56-83	I	ポイントナイフ	10.5	Obs.	469	58-85	I	ドリル	1.0	Si-Sh.
356	56-86	I	ポイントナイフ	(6.3)	Obs.	413	56-86	I	ポイントナイフ	8.2	Obs.	470	59-90	II	ドリル	1.0	Na-Sh.
357	51-88	I	ポイントナイフ	5.0	Obs.	414	56-85	I	ポイントナイフ	47.4	Obs.	471	55-85	I	ドリル	1.1	Si-Sh.
358	60-86	I	ポイントナイフ	5.3	Obs.	415	55-85	I	ポイントナイフ	(22.0)	Ha-Sh.	472	59-90	I	ドリル	1.6	Na-Sh.
359	59-82	I	ポイントナイフ	10.3	Obs.	416	50-88	I	ポイントナイフ	20.7	Ha-Sh.	473	52-87	I	ドリル	1.1	Si-Sh.
360	51-85	I	ポイントナイフ	5.9	Obs.	417	58-85	I	ポイントナイフ	(12.5)	Ha-Sh.	474	56-85	I	ドリル	1.2	Aga.
361	50-88	II	ポイントナイフ	8.2	Obs.	418	60-76	I	ポイントナイフ	(30.3)	Obs.	475	59-90	I	ドリル	1.2	Na-Sh.
362	52-86	I	ポイントナイフ	6.9	Obs.	419	60-79	I	ポイントナイフ	2.8	Obs.	476	59-90	II	ドリル	1.4	Ha-Sh.
363	59-80	I	ポイントナイフ	11.2	Obs.	420	60-77	I	ポイントナイフ	3.8	Obs.	477	54-87	I	ドリル	1.5	Aga.
364	59-87	I	ポイントナイフ	6.8	Obs.	421	59-85	I	ポイントナイフ	6.1	Obs.	478	51-88	I	ドリル	1.9	Si-Sh.
365	59-90	I	ポイントナイフ	9.2	Obs.	422	53-87	I	ポイントナイフ	5.6	Obs.	479	60-90	I	ドリル	1.6	Si-Sh.
366	51-87	II	ポイントナイフ	13.8	Obs.	423	61-92	I	ポイントナイフ	6.6	Obs.	480	56-85	I	ドリル	1.9	Aga.
367	60-79	I	ポイントナイフ	8.2	Obs.	424	62-93	I	ポイントナイフ	4.9	Obs.	481	58-85	I	ドリル	1.6	Si-Sh.
368	58-84	II	ポイントナイフ	8.0	Obs.	425	65-61	I	ポイントナイフ	5.8	Obs.	482	51-87	I	ドリル	1.6	Si-Sh.
369	59-89	II	ポイントナイフ	7.2	Obs.	426	56-86	II	ポイントナイフ	5.0	Obs.	483	57-91	I	ドリル	2.7	Aga.
370	51-88	I	ポイントナイフ	6.3	Obs.	427	55-87	I	ポイントナイフ	4.6	Obs.	484	52-88	I	ドリル	1.7	Aga.
371	56-86	I	ポイントナイフ	(8.6)	Ha-Sh.	428	54-87	I	ポイントナイフ	5.0	Obs.	485	56-85	I	ドリル	2.4	Aga.
372	56-85	I	ポイントナイフ	7.5	Obs.	429	51-88	II	ポイントナイフ	5.9	Obs.	486	60-90	I	ドリル	2.4	Si-Sh.
373	59-83	I	ポイントナイフ	7.0	Obs.	430	59-79	I	ポイントナイフ	8.5	Obs.	487	55-85	I	ドリル	2.5	Aga.
374	59-90	I	ポイントナイフ	9.2	Obs.	431	57-84	I	ポイントナイフ	9.0	Obs.	488	60-90	I	ドリル	2.0	Na-Sh.
375	58-84	II	ポイントナイフ	(14.3)	Obs.	432	59-92	II	ポイントナイフ	(4.1)	Obs.	489	59-87	I	ドリル	2.0	Na-Sh.
376	59-86	I	ポイントナイフ	6.5	Obs.	433	55-86	I	ポイントナイフ	9.0	Obs.	490	54-86	I	ドリル	1.5	Obs.
377	55-91	II	ポイントナイフ	7.2	Obs.	434	55-86	I	ポイントナイフ	5.7	Obs.	491	52-87	I	ドリル	2.3	Osa.
378	56-85	I	ポイントナイフ	(8.0)	Obs.	435	52-86	I	ポイントナイフ	5.1	Obs.	492	59-90	I	ドリル	3.0	Si-Sh.
379	46-86	II	ポイントナイフ	(9.8)	Obs.	436	61-78	I	ポイントナイフ	(9.2)	Obs.	493	57-90	I	ドリル	4.6	Che.
380	55-86	I	ポイントナイフ	11.3	Obs.	437	61-85	I	ポイントナイフ	17.8	Obs.	494	59-85	I	ドリル	1.7	Ha-Sh.
381	60-84	I	ポイントナイフ	12.2	Ha-Sh.	438	47-79	I	ポイントナイフ	(15.0)	Obs.	495	60-90	II	ドリル	4.6	Si-Sh.
382	58-84	II	ポイントナイフ	23.7	Obs.	439	54-87	I	ポイントナイフ	14.8	Obs.	496	59-85	II	ドリル	2.0	Aga.
383	51-84	I	ポイントナイフ	2.6	Obs.	440	52-88	I	ポイントナイフ	11.8	Obs.	497	56-86	II A	ドリル	1.8	Obs.
384	57-85	I	ポイントナイフ	3.6	Obs.	441	67-63	I	ポイントナイフ	13.9	Obs.	498	55-85	I	ドリル	3.1	Si-Sh.
385	55-86	I	ポイントナイフ	3.6	Obs.	442	58-83	I	ポイントナイフ	18.0	Obs.	499	53-87	I	ドリル	3.2	Aga.
386	56-86	II	ポイントナイフ	4.0	Obs.	443	50-83	II	ポイントナイフ	24.2	Obs.	500	56-85	I	ドリル	1.4	Si-Sh.
387	57-83	I	ポイントナイフ	4.8	Obs.	444	54-86	I	ポイントナイフ	(29.4)	Obs.	501	59-78	I	ドリル	3.0	Aga.
388	60-85	I	ポイントナイフ	3.3	Obs.	445	53-87	II	ポイントナイフ	(22.6)	Obs.	502	59-91	II	ドリル	2.0	Che.
389	56-91	I	ポイントナイフ	5.5	Obs.	446	60-91	I	ポイントナイフ	20.5	Obs.	503	52-88	I	ドリル	2.1	Si-Sh.
390	59-91	II	ポイントナイフ	4.7	Obs.	447	57-85	I	ポイントナイフ	(9.0)	Obs.	504	52-88	I	ドリル	1.8	Si-Sh.
391	50-87	I	ポイントナイフ	7.7	Obs.	448	57-84	I	ポイントナイフ	6.3	Obs.	505	59-86	I	ドリル	2.7	Ha-Sh.
392	56-91	I	ポイントナイフ	9.8	Obs.	449	59-83	I	ポイントナイフ	11.4	Obs.	506	58-85	I	ドリル	4.0	Aga.
393	50-85	II	ポイントナイフ	(13.2)	Phy.	450	59-85	I	ドリル	0.4	Obs.	507	52-87	I	ドリル	2.1	Ha-Sh.
394	53-89	漫乳	ポイントナイフ	14.7	Obs.	451	58-85	I	ドリル	1.2	Obs.	508	56-91	I	ドリル	2.6	Si-Sh.
395	60-90	I	ポイントナイフ	(12.0)	Obs.	452	66-66	I	ドリル	1.5	Obs.	509	60-90	II	ドリル	4.5	Aga.
396	56-85	I	ポイントナイフ	15.3	Obs.	453	54-87	I	ドリル	1.7	Obs.	510	60-90	II	ドリル	4.9	Ha-Sh.
397	51-88	II A	ポイントナイフ	(4.0)	Obs.	454	66-69	I	ドリル	1.6	Obs.	511	57-91	I	ドリル	0.6	Si-Sh.
398	58-85	II	ポイントナイフ	4.1	Obs.	455	59-85	I	ドリル	3.3	Ha-Sh.	512	56-85	I	ドリル	0.6	Obs.
399	57-83	I	ポイントナイフ	(2.2)	Obs.	456	59-70	I	ドリル	9.0	Obs.	513	51-89	I	ドリル	0.6	Aga.

石器一覧表(4)

番号	位置	部位	器種名	重量(g)	石質	番号	位置	部位	器種名	重量(g)	石質	番号	位置	部位	器種名	重量(g)	石質
514	52-89	I	ドリル	0.8	Si-Sh.	571	59-84	II	つまみ付ナイフ	8.2	Ha-Sh.	628	65-68	I	スクレイパー	14.6	O.S.
515	53-87	II	ドリル	0.7	Si-Sh.	572	55-82	I	つまみ付ナイフ	2.9	Si-Sh.	629	58-66	I	スクレイパー	11.6	Si-Sh.
516	53-88	I	ドリル	1.0	Si-Sh.	573	54-87	I	つまみ付ナイフ	(6.0)	Obs.	630	50-82	I	スクレイパー	5.7	Obs.
517	50-91	II	ドリル	2.0	Si-Sh.	574	67-73	I	つまみ付ナイフ	13.3	Si-Sh.	631	55-86	I	スクレイパー	36.2	Si-Sh.
518	60-90	II	ドリル	4.0	Ha-Sh.	575	58-82	I	つまみ付ナイフ	12.1	Ha-Sh.	632	59-91	I	スクレイパー	9.0	Obs.
519	59-87	I	ドリル	1.4	Obs.	576	59-82	I	スクレイパー	12.4	Ha-Sh.	633	58-84	I	スクレイパー	12.2	Obs.
520	59-89	II	ドリル	1.6	Obs.	577	61-92	I	スクレイパー	15.6	Obs.	634	51-82	I	スクレイパー	46.6	Obs.
521	53-86	I	ドリル	2.7	Si-Sh.	578	58-85	I	スクレイパー	20.9	Ha-Sh.	635	45-85	I	スクレイパー	4.8	Obs.
522	57-91	I	ドリル	4.5	Che.	579	59-86	I	スクレイパー	14.6	Ha-Sh.	636	57-86	I	スクレイパー	5.3	Obs.
523	60-90	I	ドリル	2.4	Obs.	580	67-64	I	スクレイパー	1.3	Obs.	637	66-66	I	スクレイパー	1.9	Obs.
524	55-85	I	ドリル	2.0	Ha-Sh.	581	66-66	I	スクレイパー	1.4	Obs.	638	65-67	I	スクレイパー	3.5	Obs.
525	52-87	I	ドリル	1.7	Obs.	582	55-91	I	スクレイパー	6.1	Ha-Sh.	639	59-96	I	スクレイパー	10.0	Obs.
526	55-85	I	ドリル	3.0	Si-Sh.	583	52-87	II	スクレイパー	10.7	Obs.	640	58-85	I	スクレイパー	4.1	Obs.
527	67-68	I	ドリル	3.3	Si-Sh.	584	59-90	I	スクレイパー	11.6	Obs.	641	54-87	II	スクレイパー	7.3	Obs.
528	59-86	I	ドリル	5.2	Ha-Sh.	585	60-91	I	スクレイパー	9.6	Obs.	642	60-90	I	スクレイパー	7.9	Obs.
529	59-83	I	ドリル	0.6	Obs.	586	58-79	I	スクレイパー	8.1	Obs.	643	51-83	I	スクレイパー	27.6	Obs.
530	59-79	I	ドリル	0.9	Obs.	587	59-85	I	スクレイパー	18.3	Obs.	644	59-80	I	スクレイパー	7.8	Obs.
531	58-83	I	ドリル	1.6	Obs.	588	59-85	I	スクレイパー	9.0	Obs.	645	59-86	I	スクレイパー	4.6	Obs.
532	59-88	I	ドリル	3.0	Ha-Sh.	589	59-98	I	スクレイパー	13.9	Obs.	646	59-86	I	スクレイパー	4.8	Obs.
533	59-81	I	ドリル	1.2	Obs.	590	56-86	II	スクレイパー	15.3	Obs.	647	66-61	I	スクレイパー	11.8	Obs.
534	59-89	II	ドリル	1.8	Obs.	591	59-83	I	スクレイパー	9.1	Obs.	648	60-90	II	スクレイパー	15.1	Obs.
535	58-85	I	ドリル	2.4	Obs.	592	59-86	I	スクレイパー	16.0	Obs.	649	57-84	II	阮乱	32.3	Obs.
536	59-86	II	ドリル	0.5	Obs.	593	55-87	II	スクレイパー	9.1	Obs.	650	58-84	I	スクレイパー	21.2	Si-Sh.
537	60-91	I	ドリル	1.0	Obs.	594	57-91	I	スクレイパー	12.6	Obs.	651	52-82	I	スクレイパー	11.7	Obs.
538	51-89	I	ドリル	1.2	Si-Sh.	595	58-81	I	スクレイパー	13.0	Obs.	652	60-85	I	スクレイパー	11.1	Obs.
539	51-88	I	ドリル	2.3	Si-Sh.	596	57-91	I	スクレイパー	9.1	Obs.	653	51-89	I	スクレイパー	69.3	Eas.
540	60-83	II	つまみ付ナイフ	3.6	Ags.	597	56-85	I	スクレイパー	17.8	Obs.	654	54-59	I	スクレイパー	(33.2)	Obs.
541	63-77	II	つまみ付ナイフ	(3.7)	Si-Sh.	598	65-70	I	スクレイパー	19.9	Ha-Sh.	655	59-86	I	スクレイパー	6.2	Obs.
542	59-89	II	つまみ付ナイフ	5.8	Si-Sh.	599	58-84	I	スクレイパー	10.4	Obs.	656	58-84	I	スクレイパー	11.1	Obs.
543	57-84	I	つまみ付ナイフ	7.5	Ha-Sh.	600	56-84	I	スクレイパー	38.0	Obs.	657	51-87	I	スクレイパー	6.2	Obs.
544	50-86	I	つまみ付ナイフ	8.1	Ha-Sh.	601	59-96	I	スクレイパー	30.5	Obs.	658	48-87	I	磨曲形石器	1.4	Obs.
545	58-80	II	つまみ付ナイフ	7.5	Si-Sh.	602	53-96	I	スクレイパー	16.7	Obs.	659	57-84	II	ナガクルタリヤー	2.2	Obs.
546	54-82	I	つまみ付ナイフ	14.1	Si-Sh.	603	51-88	I	スクレイパー	10.0	Obs.	660	50-86	I	石斧	(3.0)	Med.
547	56-85	I	つまみ付ナイフ	4.6	Ha-Sh.	604	59-90	I	スクレイパー	6.8	Obs.	661	55-86	I	石斧	(1.2)	Sch.
548	55-84	I	つまみ付ナイフ	10.0	Ha-Sh.	605	50-85	I	スクレイパー	12.8	Obs.	662	56-84	I	石斧	(5.7)	Med.
549	59-85	II	つまみ付ナイフ	11.8	Si-Sh.	606	54-96	I	スクレイパー	11.2	Ha-Sh.	663	60-90	II	石斧	13.4	Med.
550	55-85	I	つまみ付ナイフ	1.6	Ha-Sh.	607	58-80	I	スクレイパー	5.1	Obs.	664	47-84	II	石斧	(10.0)	Sch.
551	58-83	I	つまみ付ナイフ	5.5	Obs.	608	60-96	I	スクレイパー	10.5	Obs.	665	55-86	I	石斧	34.4	Med.
552	58-83	I	つまみ付ナイフ	5.8	Ha-Sh.	609	55-95	I	スクレイパー	9.6	Obs.	666	61-81	I	石斧	(19.6)	Sch.
553	58-85	I	つまみ付ナイフ	5.8	Si-Sh.	610	51-89	I	スクレイパー	23.5	Obs.	667	46-86	I	石斧	34.5	Sch.
554	58-85	I	つまみ付ナイフ	7.9	Ha-Sh.	611	56-95	I	スクレイパー	14.0	Obs.	668	56-86	II	石斧	8.0	Med.
555	52-88	I	つまみ付ナイフ	4.5	Rhy.	612	57-91	I	スクレイパー	46.2	Obs.	669	56-96	I	石斧	(15.8)	Sch.
556	49-84	II	つまみ付ナイフ	9.6	Ha-Sh.	613	66-93	I	スクレイパー	9.4	Obs.	670	53-87	I	石斧	16.9	Sch.
557	59-82	I	つまみ付ナイフ	14.2	Ha-Sh.	614	56-96	I	スクレイパー	5.5	Obs.	671	59-83	I	石斧	23.4	Sch.
558	50-84	II	つまみ付ナイフ	16.8	Ha-Sh.	615	59-93	I	スクレイパー	16.1	Si-Sh.	672	58-85	II	石斧	34.8	Sch.
559	57-80	I	つまみ付ナイフ	8.0	Si-Sh.	616	58-83	I	スクレイパー	6.5	Ha-Sh.	673	54-87	I	石斧	(35.8)	Sch.
560	58-85	I	つまみ付ナイフ	3.3	Si-Sh.	617	57-91	I	スクレイパー	10.2	Obs.	674	59-77	I	石斧	35.3	Med.
561	58-83	I	つまみ付ナイフ	12.0	Ha-Sh.	618	59-92	I	スクレイパー	18.2	Obs.	675	57-91	I	石斧	(59.4)	Med.
562	56-85	I	つまみ付ナイフ	3.7	Si-Sh.	619	67-99	I	スクレイパー	10.9	Obs.	676	57-85	I	石斧	(44.2)	Phy.
563	60-84	I	つまみ付ナイフ	11.6	Ha-Sh.	620	65-87	I	スクレイパー	5.9	Obs.	677	52-87	I	石斧	53.7	Sch.
564	59-90	II	つまみ付ナイフ	9.6	Obs.	621	65-96	I	スクレイパー	3.7	Obs.	678	58-84	I	石斧	49.3	Sch.
565	66-70	I	つまみ付ナイフ	12.0	Ags.	622	55-94	I	スクレイパー	9.5	Obs.	679	54-86	I	石斧	58.7	Sch.
566	50-80	I	つまみ付ナイフ	(28.7)	Ha-Sh.	623	66-66	I	スクレイパー	8.1	Obs.	680	67-72	I	石斧	53.8	Sch.
567	53-83	I	つまみ付ナイフ	10.0	Ha-Sh.	624	46-95	I	スクレイパー	7.8	Obs.	681	53-85	I	石斧	45.7	Med.
568	55-85	I	つまみ付ナイフ	8.4	Obs.	625	64-78	I	スクレイパー	18.5	Obs.	682	49-86	I	石斧	62.3	Sch.
569	54-87	I	つまみ付ナイフ	(2.2)	Obs.	626	53-96	I	スクレイパー	17.0	Obs.	683	52-86	I	石斧	84.4	Med.
570	59-83	I	つまみ付ナイフ	6.0	Ha-Sh.	627	57-83	II	スクレイパー	28.0	Obs.	684	67-63	I	石斧	77.1	Sch.

石器一覧表(5)

番号	位置	部位	器種名	重量(g)	石質	番号	位置	部位	器種名	重量(g)	石質	
685	59-85	II	石斧	78.3	Sch.	742	55-87	I	くぼみ石	152.3	Sa.	
686	56-85	I	石斧	31.6	Sch.	743	50-86	I	くぼみ石	175.0	Sa.	
687	58-84	I	石斧	51.0	Sch.	744	56-85	I	くぼみ石	72.9	Sa.	
688	58-84	II	石斧	55.5	Sch.	745	51-87	I	くぼみ石	152.6	Sa.	
689	65-67	I	石斧	(50.7)	Sch.	746	56-85	I	くぼみ石	339.4	And.	
690	59-90	II	石斧	70.0	Sch.	747	50-90	II	くぼみ石	1880.0	And.	
691	59-85	II	石斧	79.2	Sch.	748	54-96	I	ナリ石	1350.0	And.	
692	54-86	II	石斧	(92.2)	Mud.	749	57-84	I	ナリ石	364.0	And.	
693	58-87	I	石斧	42.0	Mud.	750	65-67	I	ナリ石	255.0	And.	
694	55-82	I	石斧	34.8	Sch.	751	57-85	II	北海道式石斧	(510.0)	Por.	
695	49-87	I	石斧	38.2	Sch.	752	58-81	II	北海道式石斧	(510.0)	Sa.	
696	59-86	II	石斧	67.2	Mud.	753	55-91	II	C	北海道式石斧	562.0	Por.
697	57-85	I	石斧	59.6	Mud.	754	55-87	I	北海道式石斧	585.0	Tu.	
698	51-85	I	石斧	71.4	Gne.	755	59-90	II	北海道式石斧	(260.0)	And.	
699	57-85	II	石斧	60.3	Mud.	756	57-96	II	B	北海道式石斧	(462.5)	Por.
700	53-87	I	石斧	75.2	Sch.	757	51-98	II	北海道式石斧	680.0	Por.	
701	61-68	B	石斧	77.2	Phy.	758	48-64	II	北海道式石斧	755.0	Gr.Pa.	
702	61-71	I	石斧	78.8	Mud.	759	58-96	II	北海道式石斧	521.0	And.	
703	55-85	I	石斧	81.0	Mud.	760	54-87	I	北海道式石斧	(543.5)	Por.	
704	55-85	I	石斧	111.3	Sch.	761	47-82	I	北海道式石斧	(790.0)	And.	
705	55-86	I	石斧	110.8	Mud.	762	60-83	I	北海道式石斧	750.0	Por.	
706	53-82	II	石斧	144.8	Mud.	763	56-96	II	北海道式石斧	(800.0)	Por.	
707	48-82	I	石斧	110.0	Sch.	764	55-96	II	北海道式石斧	(381.5)	Por.	
708	48-84	II	石斧	(55.0)	Mud.	765	54-96	I	北海道式石斧	(850.0)	Por.	
709	56-85	I	石斧	160.5	Mud.	766	54-96	II	北海道式石斧	1036.0	Por.	
710	55-86	II	石斧	(301.1)	Sch.	767	51-86	I	北海道式石斧	893.0	And.	
711	51-87	I	石斧	(425.0)	Sch.	768	58-89	I	北海道式石斧	(725.0)	And.	
712	64-66	I	石斧	229.0	Sch.	769	54-96	II	北海道式石斧	(625.0)	Por.	
713	56-85	I	石斧	321.0	Sch.	770	58-83	I	北海道式石斧	(697.0)	And.	
714	50-80	I	石斧	330.0	Mud.	771	56-96	II	北海道式石斧	(307.5)	Sa.	
715	59-77	I	石斧	200.0	Mud.	772	59-74	I	石斧	46.8	Sa.	
716	50-85	II	石斧	245.0	Mud.	773	61-81	I	石斧	46.0	Sa.	
717	55-87	I	石斧	510.0	Mud.	774	58-96	I	石斧	54.4	Sa.	
718	50-80	I	石斧	282.0	Mud.	775	45-82	II	石斧	100.0	Sa.	
719	53-87	II	石斧	92.7	Sch.	776	67-63	I	石斧	67.5	Sa.	
720	57-85	II	石斧	166.6	Mud.	777	51-89	I	石斧	94.8	And.	
721	56-86	II	A 石斧	49.5	Mud.	778	58-85	I	石斧	155.9	Sa.	
722	45-83	I	石斧	(170.0)	Sch.	779	50-83	I	石斧	90.1	And.	
723	55-85	I	石斧	145.0	Mud.	780	58-81	I	石斧	95.0	Sa.	
724	46-82	I	石斧	155.0	Mud.	781	66-70	I	石斧	(42.6)	And.	
725	52-63	I	たたき石	124.1	And.	782	59-96	I	石磨	1.4	Cla.	
726	56-85	I	たたき石	146.8	Sa.	783	52-87	I	石磨	46.0	Sa.	
727	57-82	I	たたき石	310.0	Sa.	784	59-96	I	石磨	41.2	Sa.	
728	64-71	I	たたき石	182.5	Sa.	785	51-80	I	石磨	80.4	Sa.	
729	56-84	II	たたき石	119.2	Sa.	786	52-88	I	石磨	(25.1)	Sa.	
730	56-85	I	たたき石	290.0	Sa.	787	54-96	I	石磨	(2.8)	Sa.	
731	58-82	II	たたき石	150.0	And.	788	53-88	I	石磨	(7.3)	Sa.	
732	50-86	II	たたき石	270.0	And.	789	52-87	I	石磨	(9.3)	Sa.	
733	60-90	II	たたき石	202.0	Sa.	790	59-89	I	石磨	(40.0)	Sa.	
734	56-86	I	たたき石	146.9	Qwa.	791	55-85	I	石磨	(5.9)	Sa.	
735	59-86	II	たたき石	434.6	Per.	792	52-87	I	砥石	36.0	Sa.	
736	58-84	I	たたき石	140.0	Per.	793	51-88	I	砥石	183.1	Sa.	
737	57-91	II	たたき石	189.2	Per.	794	57-85	I	砥石	(28.6)	Sa.	
738	55-87	II	たたき石	590.0	Per.	795	56-86	I	砥石	55.6	Sa.	
739	52-87	II	くぼみ石	171.5	Tu.	796	45-83	I	砥石	135.0	Sa.	
740	56-85	I	くぼみ石	150.8	Tu.	797	51-87	I	砥石	(184.9)	Sa.	
741	55-87	I	くぼみ石	254.6	Sa.	798	54-87	I	砥石	(157.0)	Sa.	

3. 土製品・石製品

西野模12遺跡からは19点の石製品、41点の土製品が出土している。石製品は、垂飾、石棒、環石、浮子など、土製品には、円盤状土製品、土版、土玉、棒状土製品、オロシガネ状土製品、焼成粘土塊などが出土している。以下、石製品、土製品の順に遺物の特徴を述べる。

石製品

1～14は、垂飾である。1は、 $\frac{1}{2}$ を欠いているが隅丸方形に近い形をなすと思われ、片面が削られ、貫通孔が穿たれている。淡い緑色の滑石製。2は、円形をなし、両側からの貫通孔が中央からややずれた位置にあけられている。明緑色の蛇紋岩製である。3は、円形で中央が穿孔されている。茶褐色の凝灰砂岩製。4は、隅丸の三角形をなし一部欠けている。5は、ほぼ円形をなし、表面に磨いた目が残っている。6は、 $\frac{1}{2}$ を欠くがほぼ円形をなすと思われる。中央にやや斜めに貫通孔があけられており、全面がつややかに磨かれ明緑色の中に茶褐色のしまが入っている。7は、葉巻型をしており、長軸の両端から穿孔されているが貫通しておらず未製品と思われる。石質は、緑褐色に褐色のしまが入る蛇紋岩である。8は、断面が四角ないしカマボコ形を呈する柱状で長軸の両端および側面から穿孔され、L字形の貫通孔があけられている。貫通孔は、側縁につけられたり、幅2mm深さ1mm程の溝から両端に向って斜めにつけられており、内面にはドリルによると思われる段と角度がみられる。両端部からは、4～3mmの孔が穿たれ貫通孔となっている。9は、8と同様の葉巻形で長軸の両端及び側縁に穿孔されているが貫通していない。未製品であろう。10は台形をなし、片面がややふくらむ。両面から穿孔されているが貫通していない。11も台形で、珪化した凝灰岩が用いられている。12は、半円形をなし、側縁に未調整の部分が残っている。また片面から穿孔されているが、貫通していないため未製品と思われる。13は、不等辺の七角形をなし、側縁の中央に部分的に縫がみられる。14は、緑色凝灰岩を用いており、両端が細くなる短筒形をなす。丁寧に調整されているが、穿孔などされていないことから装飾品とすれば未製品であろうが、小型石斧の未製品とも考えられる。15は、灰褐色の蛇紋岩製で片面に敲打されたくぼみがある。横に磨きがかけられている。反対側の面には、鋭角な断面をもつ溝がつけられている。16は、四角柱の石製品で、緑色凝灰岩を用いている。長軸の一端に敲打痕がみられ、一部を欠く。17は、断面が卵形の棒状石製品で両端を欠いている。橄欖岩製で表面は摩り滑らかに調整されている。18は、環状をなすと思われる石製品であるが $\frac{1}{2}$ を欠いている。断面は、円に近いが、内側に縫がある。両端の割れ口の大きさが違っていることから、太さは一様ではないと推測される。19は、軽石でつくられ卵形を呈する。側縁の一部が切ったように鋭利なタッヂで削られている。

土製品

1～12は、土製円盤である。12は、三角形であるが、便宜上ここに含めておく。1～6は、精円形、7～11は円形で、12は三角形をなす。ほとんど全点の表面が摩滅しており、6には結束

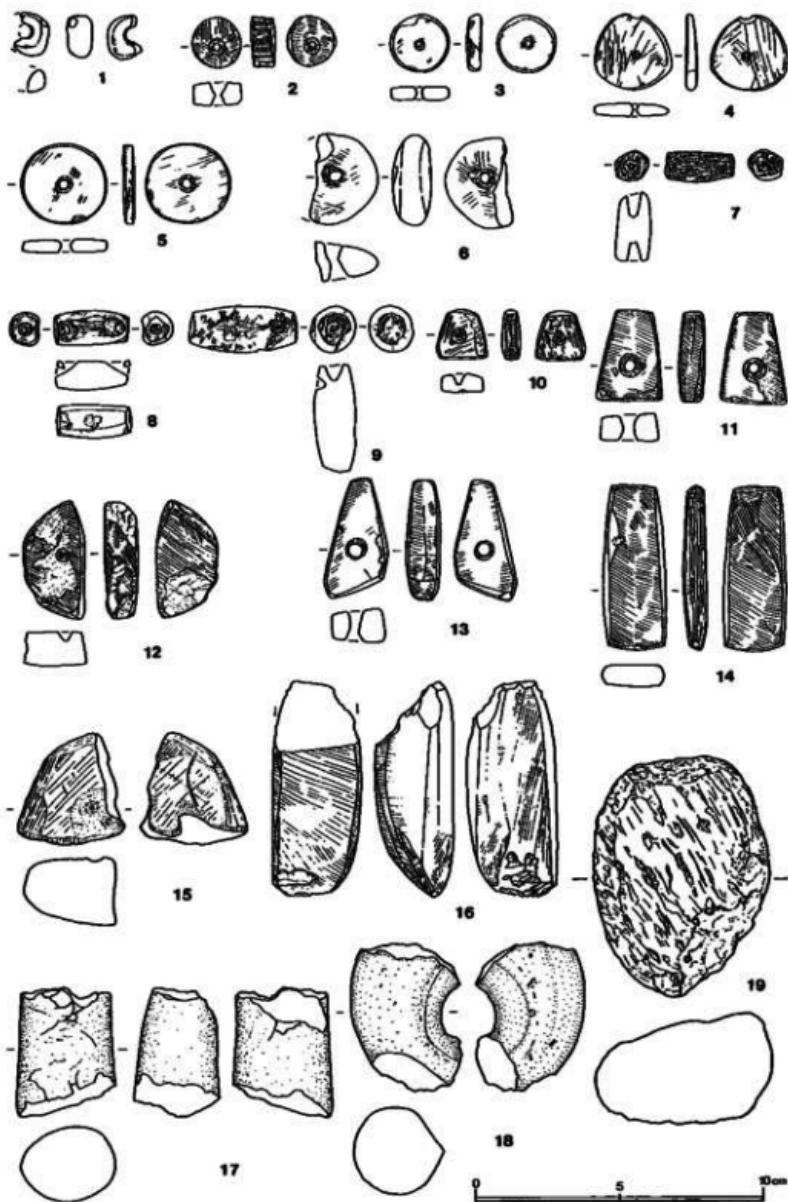
羽状繩文が施されている。

13は、土版である。小判形をなすと思われるが $\frac{1}{2}$ を欠く。両面とも無文で、指頭による調整痕がみられる。14・15は土玉で、12は焼成前に穿孔されている。13は、葉巻形の土製品で、長軸上に焼成前に孔があけられている。

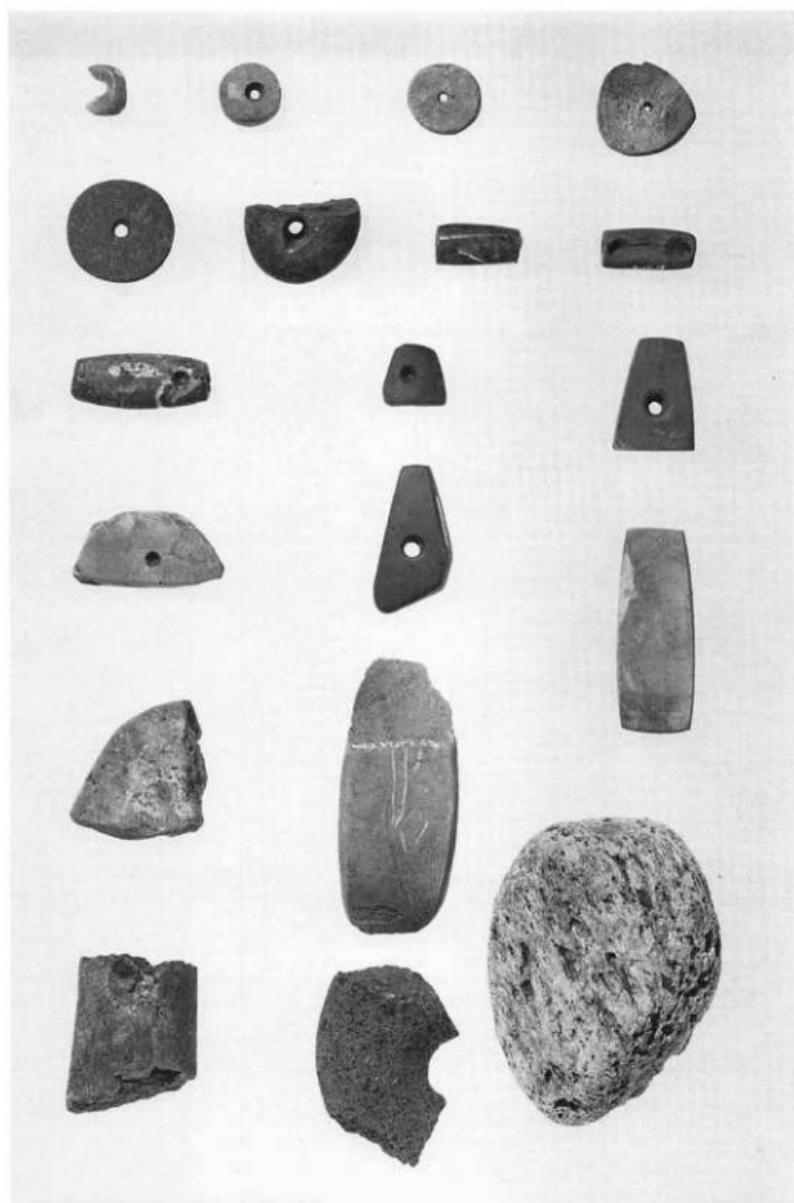
17～21は、棒状土製品である。17は、端がやや尖るようにすぼまり、径11mm前後の貫通孔が、穿たれている。断面は、隅丸四角形ないし不整円形で長軸方向に60mmほどの長さの刻線がみられる。18も17と非常に良く似ており同一個体かもしれない。21は、スタンプ形土製品の一部かもしれない。22は、スタンプ形土製品の版部と思われる。無文で指頭による調整痕がみられ、円形をなすと思われるが、約 $\frac{1}{2}$ を欠いている。版面は、ほぼ平坦である。

23は、脚状の突起をもつ板状の土製品である。梢円形をなし、片面に径が約24mmの突起をもち、先端を欠いている。表面は黄褐色を呈し、R L繩文が施文されている。胎土には小礫を含む。24は、表面に指頭による調整痕が見られ、やや磨滅している。25は、指頭による調整痕がみられる。23の脚の一部である可能性もある。

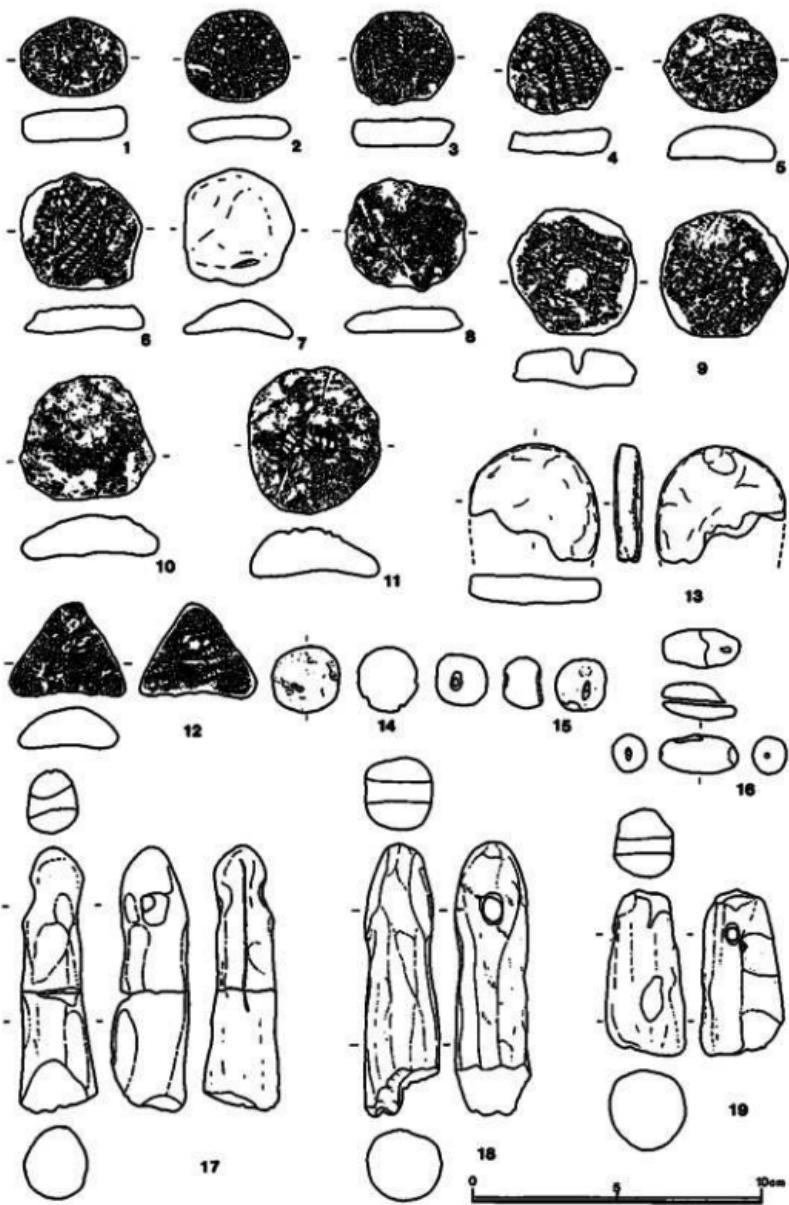
26～32は、いわゆる焼成粘土塊である。26は、梢円形で版状をなすと思われる。黄褐色を呈し、胎土は粒子が細かくやや粉っぽい印象を受ける。28は、やや粒の大きい石英、垂鉱物を含み、棒状工具による刺突、押圧などが加えられており、今年度行った胎土分析試料の19に酷似している。31は、平たい粘土を指で丸めたような土製品である。



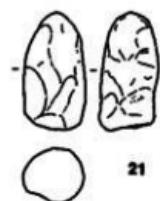
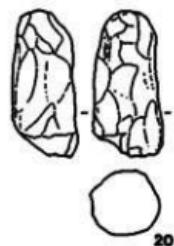
石製品



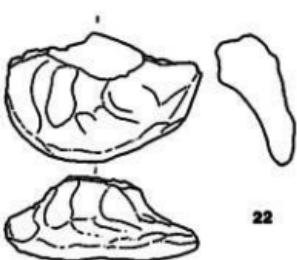
石 製 品



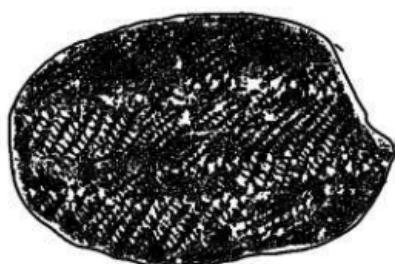
土 製 品 (1)



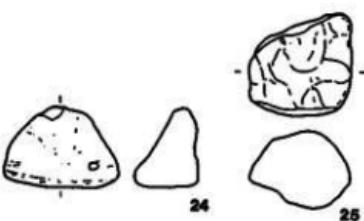
21



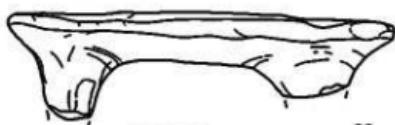
22



23



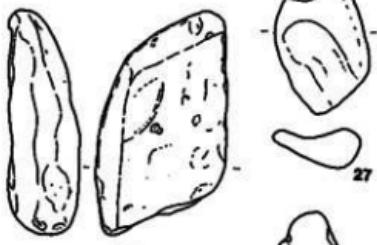
24



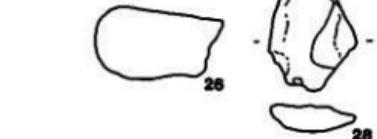
25



26



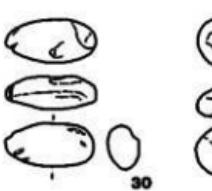
27



28



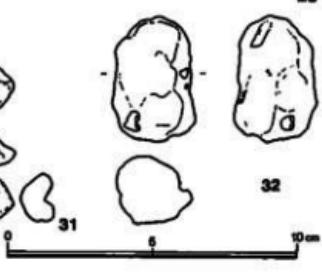
29



30



31



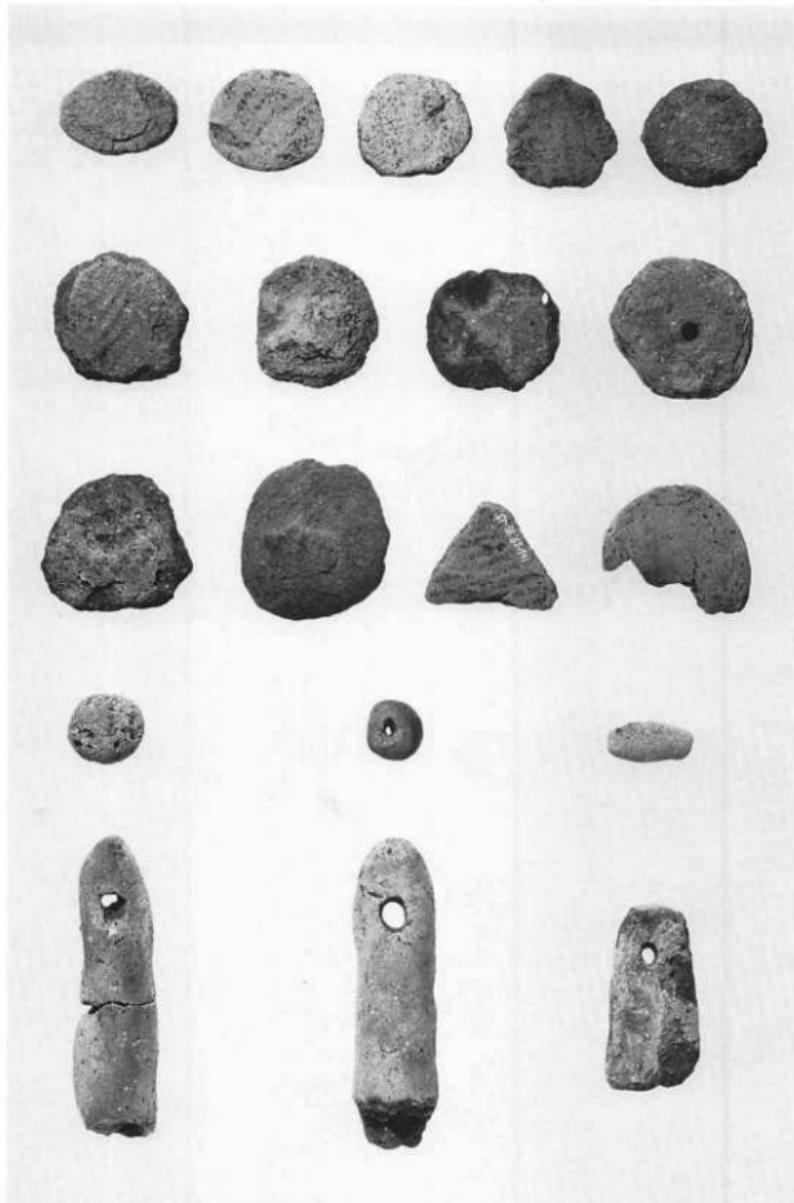
32

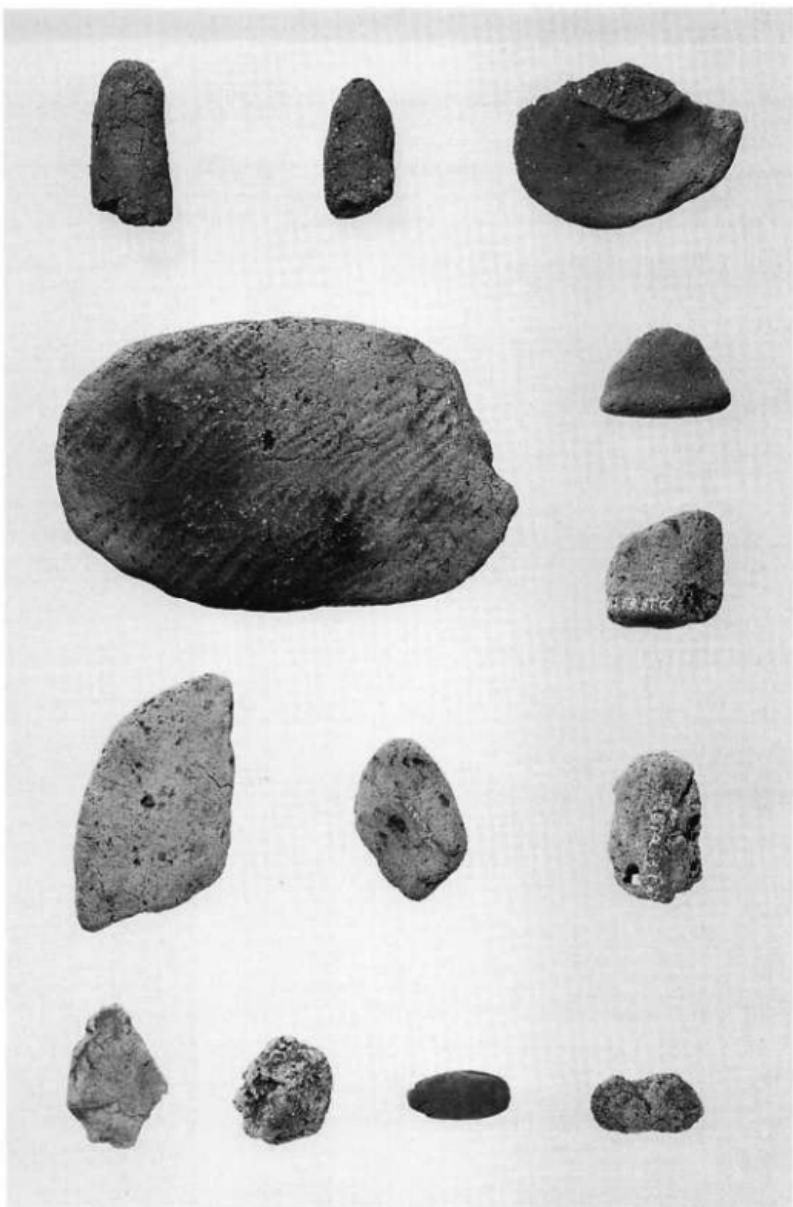


1

5

10 mm





土 製 品 (2)

西野幌12遺跡石製品一覧

No	號No	名 称	グリッド	層位	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	備 考
1	05	鐵鋸	57-78-4	I	1.5	(1.2)	0.6	1.7	滑石	兩丸形・1/3欠
2	03	鐵鋸	56-85-c	I	1.7	1.7	0.8	3.3	蛇紋岩	未製品
3	14	鐵鋸	59-85-30	II	1.9	2.0	0.5	2.3	滑灰質砂岩	唯円形・中央穿孔
4	12	鐵鋸	54-87-d	I	2.6	2.7	0.5	3.5	鐵灰岩?	兩丸三角形・側縁一部欠
5	06	鐵鋸	60-85-06	I	2.7	3.0	0.4	4.5	滑灰質砂岩	唯円形・中央穿孔
6	11	鐵鋸	56-85-a	III	3.2	(2.3)	1.3	12.1	鐵灰岩?	唯円形・半欠
7	02	管玉	56-85-c	I	2.4	1.1	1.2	4.9	紅紋岩	未製品
8	13	鐵鋸	56-84-b	I	2.6	1.2	1.0	4.4	鐵灰岩?	圓錐形
9	04	鐵鋸	55-85-b	I	3.7	1.6	1.5	13.3	蛇紋岩	圓錐形・未製品
10	08	鐵鋸	57-85-a	II	1.7	1.8	0.6	2.6	鐵灰岩	台形・未製品
11	10	鐵鋸	57-85-a	III	3.1	2.3	1.0	9.0	鐵灰岩(他化)	台形
12	09	鐵鋸	55-86-b	I	4.0	2.1	1.2	18.4	鐵灰岩	半円形・未製品
13	01	鐵鋸	59-84-10	I	4.1	2.0	1.2	11.6	鐵灰岩?	不等邊三角形
14	07	鐵鋸	54-87-a	I	5.7	2.2	0.8	14.1	綠色鐵灰岩	未製品
15	19	鐵鋸	54-87-a	II	3.8	3.7	2.4	42.2	蛇紋岩	敲打痕・未製品?
16	17	石斧未製品?	57-85-c	II	(7.4)	(3.1)	2.7	72.1	綠色鐵灰岩	
17	15	石斧?	59-86-4	I	(4.5)	(3.4)	2.6	63.6	綠鐵岩	斷面卵型・周端欠
18	18	觀石	55-91-73	II	(5.2)	(3.6)	3.2	77.4	安山岩	3/4欠
19	16	浮子?	59-90-b	II	8.3	6.1	3.6	38.9	鈣石	

西野幌12遺跡土製品一覧

No	號No	名 称	グリッド	層位	長さ	幅	厚さ	重量	備 考
1	1	土製円盤	58-58	II	3.7	2.7	1.1	9.6	表面磨滅。中期後半の土器か。
2	6	土製円盤	54-87-a		3.6	3.1	0.8	8.0	表面磨滅。
3	2	土製円盤	52-87-c		3.6	3.2	0.9	11.3	表面磨滅。中期後半の土器か。
4	3	土製円盤	57-85-d		3.5	3.5	0.9	9.6	結節羽状縞文。
5	5	土製円盤	52-88-a		3.9	3.4	1.2	11.6	表面磨滅。
6	7	土製円盤	57-85-c		4.2	4.0	0.9	15.8	結節羽状縞文。
7	36	土製円盤	49-88-48	I	4.0	3.8	1.0	13.9	表面刻溝。
8	4	土製円盤	51-88-b		4.1	3.7	0.9	14.7	無文。
9	8	土製円盤	57-85-c	II	4.4	4.3	1.3	23.8	中央部に穿孔。未貫通。
10	43	土製円盤	56-91-d		4.2	4.7	1.3	33.6	
11	44	土製円盤	51-86-d	I	4.9	4.5	1.5	27.2	
12	10	土製円盤	59-85-35	I	4.0	3.1	1.3	9.4	三角形。裏面に範文。
13	23	土 砺	58-90-85	III	(3.6)	4.4	1.0	14.3	無文。
14	13	土 玉	58-84-b	II F	2.3	2.3	2.3	8.0	無文。
15	12	土 玉	55-86-a	I	1.7	1.7	1.6	3.2	一部欠。
16	21	土 玉	57-91-b	I	(2.7)	1.3	1.3	3.2	貫通孔。
17	16	棒状土製品	56-91-d		(9.2)	2.6	2.2	46.5	断面不整円形。刻縞。
18	15	棒状土製品	52-87-a	I	(9.3)	2.5	2.5	55.3	
19	30	棒状土製品	53-86-d	I	6.5	2.7	2.7	39.2	
20	29	棒状土製品	50-87-a	III	(5.0)	2.4	2.4	42.3	
21	17	棒状土製品	51-88-78	I	(4.0)	2.1	2.1	13.6	
22	27	スランプ土製品?	56-85		(4.4)	(6.6)	(2.2)	25.2	
23	31	セロシガルビ土製品	59-89-24		13.4	8.5	1.8	198.4	輪廓範文。二脚付き。
24	11	脚状土製品	52-87-d	II	2.6	4.0	2.2	14.3	
25	32	脚状土製品	53-87-d		(3.2)	3.5	3.5	25.0	23の脚部か。
26	28	焼成粘土地	58-81	I	(6.3)	(4.5)	2.4	56.0	
27	33	焼成粘土地	55-91-96	II上	4.8	3.1	1.4	10.8	
28	38	焼成粘土地	52-87-a		4.4	2.8	2.3	21.0	
29	40	焼成粘土地	54-86-d		4.3	3.0	0.9	7.2	
30	39	焼成粘土地	54-86-a		3.3	2.8	1.3	10.5	
31	19	焼成粘土地	55-91-77		3.1	1.5	1.1	3.8	
32	25	焼成粘土地	57-91-b	I	3.4	1.8	0.9	5.9	

明赤褐色土について

1.はじめに

野幌丘陵一帯の諸遺跡では、縄文時代の焼土と考えられる明赤褐色土の広範囲な分布が見られるケースが少なくない。この明赤褐色土は、表土層の下の、主要な遺物包含層である黒色土層中に認められ、江別市萩ヶ岡遺跡で指摘されたように「遺物と多少の炭化物を含むほかは、単一の焼土で、ピットなどの遺構や他の人為的な痕跡はない」(高橋・野中1982、161頁)ようだ。沢地形に沿って特に厚く堆積する傾向があるが、前章に報告した本遺跡の例のように、ほぼ平坦地でも濃密な分布を示す場合がある。その成因については、縄文中期末頃における森林の伐採、或は山火事等による陽地性の草本群落のひろがりと、それに伴う多量の焼土の生成を説く、江別市吉井の沢1遺跡や萩ヶ岡遺跡などの花粉分析結果に裏付けられた山田悟郎氏らの見解があり(山田・北川1982、山田1982)、支持を得てきたが、一部には明赤褐色土が焼土ではなく、火山灰ではないかと疑う動きもあった。最近では、旧石器時代からの焼持の伝統を受け継ぐ、野焼きを生業の手段とする黒ボク土文化の提唱があり(阪口1987)、新たな局面を迎えた観がある。本節では、この明赤褐色土の成因を明らかにするために、明赤褐色土及びその上・下の層準の土壤の一次鉱物組成を調べ、土壤母材上の相異があるか否かを検討した。

2. 試料の処理

土壤試料はグリッド50-88-cから得た(P.262、2・3・5・7)。各試料は次の手順で処理し検鏡した。水洗→6%H₂O₂・10%HCl処理→超音波洗浄→水洗→乾燥→簡分け→粒径1/4-1/8mmについてカナダパルサムで封入したプレパラートを作成→偏光顕微鏡下で350粒前後検鏡→一次鉱物・その他の粒子量比を粒数%で表わす。粒径1/4mm<については实体顕微鏡下で観察した。

なお、各試料とも、水洗中に炭化植物片が浮上するのが認められた。

3. 結果

土壤中の一次鉱物組成を表1に示す。各試料の主要な構成鉱物は、石英、斜長石、角閃石、斜方輝石、單斜輝石、不透明(鉄)鉱物、及び火山ガラスである。

2:鉱物量は、斜長石>火山ガラス>斜方輝石>石英>不透明(鉄)鉱物>角閃石>單斜輝石。單斜輝石比(單斜輝石量/全輝石量)0.20。粒径1/4mm<では、角状の灰褐色岩片を多く含む。亜円~円状のチャートを含む。

3:鉱物量は、火山ガラス>斜長石>石英=斜方輝石>角閃石>不透明(鉄)鉱物>單斜輝石。黑雲母を僅量含む。單斜輝石比0.04。粒径1/4mm<では、角~円状の白・褐灰・黒色岩片を多く含む。黒曜石石器のチップと海綿骨針が認められた。

5:鉱物量は、斜長石>火山ガラス>斜方輝石>角閃石>石英=單斜輝石>不透明(鉄)鉱

物。単斜輝石比0.32。粒径1/4mmでは角状の白色岩片を多く含む。亜円～円状のチャートを含む。

7：鉱物量は、火山ガラス>斜長石>斜方輝石>石英>角閃石>単斜輝石>不透明（鉄）鉱物。クリストバライトを僅量含む。単斜輝石比0.24。粒径1/4mm<では、角～円状の白・灰色岩片を多く含む。円状のチャートを含む。黒曜石石器のチップが認められた。

各試料とも岩片が多く、角状のものから円状のものまでを含んでいる。一般に、火山ガラスの形態はL-C型（仮称。気泡が破碎し、泡壁がridgeをなして直線～曲線状に走るもの。）が多く、粒径1/4mm<では、2を除いてF型（仮称。気泡が纖維状に細長く平行に伸びているもの。）も多く含まれる。前述のように、各試料とも炭化植物片を含んでいる。

4. 議論と結論

明赤褐色土の主体は、II b層とした層位の下半部であって、試料5に相当する。II c層とした層位はII b層の直下にあって、試料7に相当する。試料5と7では、粒径1/4-1/8mmの一次鉱物組成と粒径1/4mm<の粒子の特徴には差異を認め難い。したがってII b層下半部はII c層を母材とする土壤であり、II b層下半部の明赤褐色の色調は焼土化によるものと考えられる。

II b層上半部は、本遺跡における造物包含層の主体である。野外観察では、本層準はII b層下半部が土壤化したものと考えられるが、下位の層準より重鉱物量が少なく、単斜輝石比も小さい。このことは、人為的影響下での表層物質の移動・集積を示していると思われる。

II a層から得た試料2は、II b層上半部の試料3と比較すると、重鉱物量がやや多く、火山ガラスが少ない。II b層との境は非常に明瞭である。これらのことから、II a層の土壤母材はII b層上半部ではない（少なくともin situなII b層上半部ではない）と考えられる。

以上、土壤母材の一次鉱物組成から土壤層の成因を考察した。その結果、明赤褐色土は焼土と考えられる。また、明赤褐色土の上方の土壤も人為的な影響を受けていることが推定される。

（花岡正光・高橋和樹・谷島由貴）

表1 土壤中の一次鉱物組成

（粒径1/4-1/8mm、粒数%）

試 料	2	3	5	7	単 斜 輝 石	1.8	0.3	2.6	2.2
重 鉱 物	14.2	8.9	13.2	12.8	不透明（鉄）鉱物	2.9	0.5	1.6	1.1
石 英	5.3	5.6	2.6	2.7	火 山 ガ ラ ス	18.3	33.2	28.0	30.6
クリストバライト	0	0	0	0.5	輕 石	0	0.3	0	0
斜 長 石	27.1	26.0	30.9	27.9	ス コ リ ャ	1.8	1.0	1.1	0.5
黒 曜 母	0	0.3	0	0	岩 片 ・ 風 化 粒	33.3	24.5	24.3	24.9
角 閃 石	2.4	2.3	3.4	2.5	炭 化 植 物 片	0	0.5	0	0
斜 方 輝 石	7.1	5.6	5.5	7.1	單 斜 輝 石 比	0.20	0.04	0.32	0.24

西野幌12遺跡の白色火山灰について

1.はじめに

本遺跡では、昭和63年度調査時に表土直下から、島状に薄く堆積した白色の火山灰が検出され、少量の試料を採取した。本遺跡のみならず野幌丘陵では、遺跡の発掘調査のおり表土直下に白色の火山灰がごく薄く見られることがある。この火山灰は、経験的に樽前a火山灰と考えられてきたが報告書などで言及されることはない。わずかに江別市吉井の沢1遺跡でこの火山灰を含む層の直下から擦文土器が出土したことが報告されている（北埋文、1981）ほか、同萩ヶ岡遺跡では、水道部庁舎用地の東側斜面に「灰白色火山灰層（Ta-a）」が3~5cmの厚さで継続的に残っていたり、統繩文時代の土壤層の上部にも見られた（江別市教育委員会、1982）とされている。

この火山灰が樽前a火山灰とされる根拠は外見的特徴のみであったが、ここでは本遺跡で採取された試料の岩石記載学的な特徴を調べることによってその起源を明らかにしようとするものである。

2. 試料の処理

節分け法によって粒度分析を行い、Folk and Ward (1957) の式による中央粒径・平均粒径・分級度・歪度・尖度を求めた。節分けによって得られた細粒砂分（粒径 $1/4 - 1/8$ mm）について次の処理を行い検査した。10% HCl処理（湯煎、60°C）→水洗→乾燥→カナダバルサムを封入剤としてプレパラート作成→約500粒を偏光顕微鏡下で検査→各鉱物の量比を粒数%として求める。

3. 結果

火山灰の粒度分布を図1に示す。この累積曲線から、中央粒径 $M_d \phi = 1.12 \phi$ (≈ 0.460 mm)、平均粒径 $M_z = 1.11 \phi$ (≈ 0.463 mm)、分級度 $\sigma_i = 0.842$ ("moderately sorted")、歪度 $S_k = -0.138$ ("negative-skewed")、尖度 $K_G = 1.531$ ("very leptokurtic") である。粒度は粗砂分と中粒砂分でほとんどを占められ、粗粒側に偏している。

鉱物組成は、斜長石43.3%、斜方輝石15.6%、単斜輝石4.9%、不透明（鉄）鉱物10.4%、火

山ガラス19.8%、岩片・風化粒6.0%である。火山ガラスは、漿果状のものと泡壁のつくる模様が網目状のものが多い。鉱物粒は新鮮で、自形を示すものや火山ガラスに取り囲まれたものが多い。重鉱物量は30.9%である。単斜輝石比（単斜輝石量/全輝石量）は0.24である。軽石粒は灰白色を呈し、発泡度良く、重鉱物の斑晶を含む。

4. 火山灰の対比

北海道火山灰命名委員会（1979）によれば、本遺跡周辺には樽前起源のTa-a(1739 A.D.)が分布する可能性

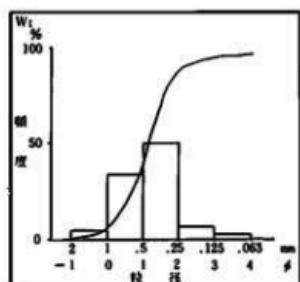


図1 火山灰の粒度分布

が大きい(図2)。そこで、模式地附近(苫小牧市美沢)のTa-aと本遺跡の火山灰を比較する。美沢でのTa-aの特徴は次の通りである(筆者未公表資料)。

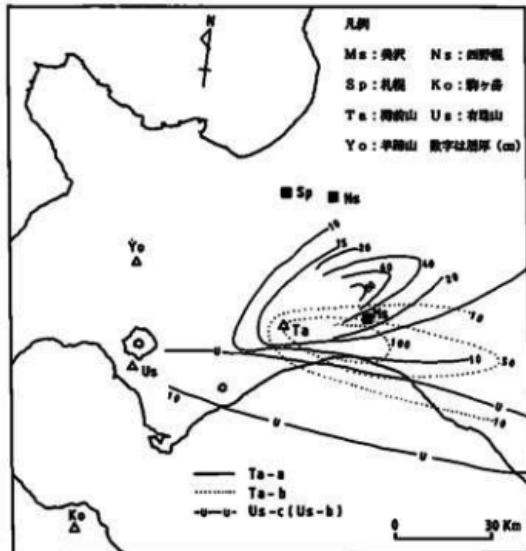
Ta-aは少なくとも七つのフォールユニットから成る。各ユニットとも、単粒結晶は斜長石・斜方輝石・单斜輝石・不透明(鉄)鉱物から成る(粒径1/4-1/8mm)。結晶粒は新鮮である。重鉱物量が多く、ほとんどのユニットで40%を超し、斜方輝石>不透明(鉄)鉱物>单斜輝石である。单斜輝石比0.25-0.36である。火山ガラス量は少なく、主に漿果状・網目状形態のものが認められる。軽石粒は白色を呈し、発泡度良、重鉱物の斑晶を含む。

本遺跡の火山灰と美沢附近のTa-aとは、鉱物組成・火山ガラスの形態・軽石粒の特徴から同じ火山灰と考えて良いであろう。さらに詳しくは、野外における連続性や鉱物の屈折率・化学組成等を調べることが必要であるが、現段階ではTa-aに対比されるものと考える。

(花岡正光・工藤義衛)

引用文献

- 江別市教育委員会(1982): 萩ヶ岡遺跡。
Folk, R. L. and Ward, W. C. (1957): Brazos river bar: A study in the significance of grain size parameters. Jour. Sedimentary Petrology, Vol. 27, pp. 3-26.
北海道火山灰命名委員会(1979): 北海道の火山灰分布。
北海道埋蔵文化財センター(1981): 吉井の沢の遺跡。



西野幌12遺跡の土器の胎土分析

1.はじめに

西野幌12遺跡の土器、土製品等の胎土分析を行った。野幌丘陵では先年、西野幌14遺跡（北埋文、1988）で胎土分析が行われており、このような限定された地域において継続的に胎土に含まれる鉱物組成の記述が行われることは、各時代、各地域との比較を行う場合、興味深いデータを提供すると思われる。

分析試料は、出来るだけ広く各時代からとったが、本遺跡のみでは良好な試料が得られない時期については、近接する西野幌11遺跡の土器を使用した。また縄文晩期後半については、先に述べた西野幌14遺跡で行っているため、除外した。土製品は、いわゆる焼成粘土塊である。分析に供した試料は、すべて拓本及び実測図で示している。以下に各試料について記述する。

図1は、P-141から出土したⅠ群b-2類土器の破片で、細い貼付帯が付せられている。表面、割れ口とも摩滅し、粉っぽい印象を受ける。2~10は、縄文時代中期の土器である。2・3は、Ⅲ群a類土器で、2点ともよく磨かれており、やや硬質な感じがする。4は、P-142出土のⅢ群b-2類の破片である（実測図A）。表面は、全体にザラザラしている。5・6は、Ⅲ群b-2類で貼付帯に刺突や突起文が加えられている。7・8は、Ⅲ群b-3類で、7は口唇部、貼付帯状に平たい工具による突起文が加えられており、Ⅲ群b-2類に含まれる可能性もある。8は先に包含層の土器の項で実測図を示した遺物である（実測図B）。9・10は、時期未詳であるが、その出土状況から極めてⅢ群b-3類と近い関係にあると推測される土器で、いずれも口唇部に2条の縦線文を巡らし胎土に纖維を含む。口唇部はやや細くなり、内面にも縦文が施文される11はⅣ群a類土器である。やや長い沈線で弧線文が描かれている。12はⅣ群b類で頸部に無文帯をもち、口唇部文様帯には船底状沈線文が描かれる。13は、西野幌11遺跡P-1から出土した土器と同一個体で胴部の磨消縦文の部分である。14・15は、統縄文時代のVI群土器である。14は後北式前半の土器で、硬質で口唇に刻みが施されている（実測図C）。15は、後北式後半のC式と思われる。器面に縱走する線縦文が加えられている。

16~20は土製品である。16・17は表面調整が非常に粗く、16には棒状工具による刺突押圧が加えられている。18・19は表面が比較的滑らかで指でひねったような形をしている。20は、P-217出土の遺物と同様の白色の礫である。表面はやわらかく、爪でも傷がつくほどである。凝灰岩の可能性もあるが遺跡周辺の地層にこうした礫は認められない。

2. 試料の処理

上條（1983）の方法に準じ、以下の手順で処理した。

土器片の採取→写真・拓本等による記録→肉眼や実体顕微鏡による土器表面の観察→乾燥→約10gを鉄製乳鉢にて粉碎→1NのHC1中で超音波洗浄→クエン酸ナトリウム・ハイドロサルファイトナトリウム・炭酸水素ナトリウムによる脱鉄処理→乾燥→節分け→極細粒砂分（粒径1/8~1/16mm）についてカナダパルサムを封入剤としてプレパラート作成→偏光顕微鏡下で

No.	地名	分類名	層位	時代	空気式	鋼版	文種	用さか	空	空	空	空	空	空	
					厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	
07	1	05-51 P-141	第三段階層	第四段階式	角	粘土質に角石	7~8	10PR/4	7.5PR/2	A	中粒-粗粒砂岩, moderately sorted angular な良石, 砂粒を多く含むangular な良石を含む, 鋼色の 底質を含む。層厚: 0.2m±0.1m程度。				
13	2	岸	岸	I	第三段階層	円錐上層式	円錐 谷	粘土質に角石	7~10	7.SYR5/8	7.5PR/4	B	粗粒-粗粒砂岩, poorly sorted angular な良石を多く含むangular な良石, 大理ガラスを含む, 厚さ: 0.2m± 0.1m程度。		
14	3	52-87-4	第三段階層	円錐上層式	円錐 谷	粘土質に角石	9~11	2.5SYR5/8	2.5PR/5	A	中粒-粗粒砂岩, moderately sorted angular な良石, 良石, 亂れ物, 白色岩片を多く含み, roundedなチャーフ を含む, 滑面斜面に於ける, 層厚: 0.1m±0.05m程度。				
06	4	52-85-92 P-142	風土	第三段階層	元錐式	角	竹葉文	7~9	2.5SYR4/8	2.5PR/2/1	A	粗粒-粗粒砂岩, poorly sorted angular な良石, 砂粒を多く含み, angular な良石を含む, 鋼色の 底質を含む, 層厚: 0.2m±0.1m程度。			
11	5	51-87-21	I	第三段階層	帆柱式	圓 X	粘土質に角石	6~7	10PR/4	10YSR5/2	A	粗粒-粗粒砂岩, poorly sorted angular な良石, 砂粒を多く含み, angular な良石, 亂れ物を含む, 鋼色の 底質を含む, 層厚: 0.2m±0.1m程度。			
10	6	59-87-5	第三段階層	帆柱式	圓 X	粘土質に角石	9~10	7.SYR2/2	10PR/2/1	A	中粒-粗粒砂岩, poorly sorted angular な良石を多く含む, 粗粒なangular な良石, 砂粒を含む, 厚さ: 0.3m± 0.1m程度。				
18	7	56-91-95	I	第三段階層	北錐式	円錐	粘土質に角石	10~12	7.SYR7/4	7.5PR/5	A	中粒-粗粒砂岩, poorly sorted angular な良石, 砂粒を多く含み, angular な良石, 亂れ物を含む, 鋼色の 底質を含む, 層厚: 0.2m±0.1m程度。			
05	8	54-86-4	I	第三段階層	北錐式	圓 X	粘土質に角石	6~12	10PR/3	7.5PR/4	A	中粒-粗粒砂岩, poorly sorted angular な良石, 砂粒を多く含み, angular な良石, 亂れ物を含む, 鋼色の 底質を含む, 層厚: 0.2m±0.1m程度。			
12	9	54-86-4	第三段階層	北錐式?	圓 X	二重の輪郭文	8~9	10PR/2	10PR/2/2	A	粗粒-中粒砂岩, poorly sorted angular な良石を多く含み, angular な良石, 砂粒を含む, sub-angular- sub-roundedなチャーフを含む, 層厚: 0.2m±0.1m程度。				
15	10	55-91-91	I	第三段階層	北錐式?	圓 X	二重の輪郭文	11~13	10PR/2/3	10PR/5/1	A	粗粒-中粒砂岩, poorly sorted angular な良石を多く含む, angular な良石, 砂粒を含む, roundedなチャーフを多く 含む, 層厚: 0.2m±0.1m程度。			
19	11	57-91-4	風土	第三段階層	手錐状式	圓 X	帆柱状文	11~10	SYR2/1	7.5PR/1	A	粗粒-中粒砂岩, poorly sorted angular な良石を多く含む, angular な良石を含む, 層厚: 0.2m±0.1m 程度。			
20	12														
13	13	56-91-94	風土	第三段階層	帆柱状式	第 II	粗粒-帆柱文	6	7.SYR1/2	粗面砂岩	A	粗粒-中粒砂岩, angular な白色岩片を多く含む, angular な良石, 砂粒を多く含む, angular な良石, 亂れ物を含む, 鋼色の 底質を含む, 層厚: 0.2m±0.1m程度。			
14	14	54-85-4	I	第三段階層	帆柱状式	圓 X	粗粒-帆柱文	7~9	10PR/1	7.5PR/2	A	粗粒-中粒砂岩, poorly sorted angular な白色岩片, angular な良石, 砂粒を含む, angular な良石, 亂れ物を含む, 鋼色の 底質を含む, 層厚: 0.2m±0.1m程度。			
24	15	65-86-9	風土	第三段階層	帆柱式	圓 X		6~7	7.SYR6/4	7.5PR/6	A	中粒-粗粒砂岩, moderately sorted angular な良石, 砂粒を多く含む, sub-roundedなチャーフを含む, 鋼色 の底質を含む, 層厚: 0.2m±0.1m程度。			
04	16	52-87-13	I	未	岸	未	岸	14~20	10PR/4	10PR/7/4	A	粗粒-中粒砂岩, moderately sorted angular な良石, 砂粒, 亂れ物を含む, sub-roundedな白色 の底質を含む, 層厚: 0.2m±0.1m程度。			
01	17	51-88-96	I	未	岸	未	岸	5~13	2.5PR/3	2.5PR/7/3	A	粗粒-中粒砂岩, poorly sorted angular な良石, 砂粒を多く含む, angular な良石, 砂粒を含む, angular な良石, 亂れ物を含む, sub-roundedなチャーフを含む, 鋼色の底質を含む, 層厚: 0.2m±0.1m程度。			
03	18	58-91-10	未	岸	未	岸	岸	12~25	10PR/7/6	10PR/7/6	A	粗粒-中粒砂岩, angular な白色岩片を多く含む, angular な良石, 砂粒を含む, 鋼色の底質を含む, 層厚: 0.2m± 0.1m程度。			
02	19	57-91-91	I	未	岸	未	岸	9~10	7.SYR7/4	7.5PR/4	A	粗粒-中粒砂岩, poorly sorted angular な白色岩片を多く含む, 砂粒, 砂粒を含む, 鋼色の底質を含む, 層厚: 0.2m± 0.1m程度。			
09	20	56-91-27	I	未	岸	未	岸	24~31	2.5SYR/1	2.5PR/1	A	粗粒-中粒砂岩, poorly sorted angular な白色岩片を多く含む, angular な良石を含む, 砂粒を含む, 鋼色の底質を含む, 層厚: 0.2m± 0.1m程度。			

* * 僧都士色粘(小山・竹原, 1976)による。
** 上條(1983)による。

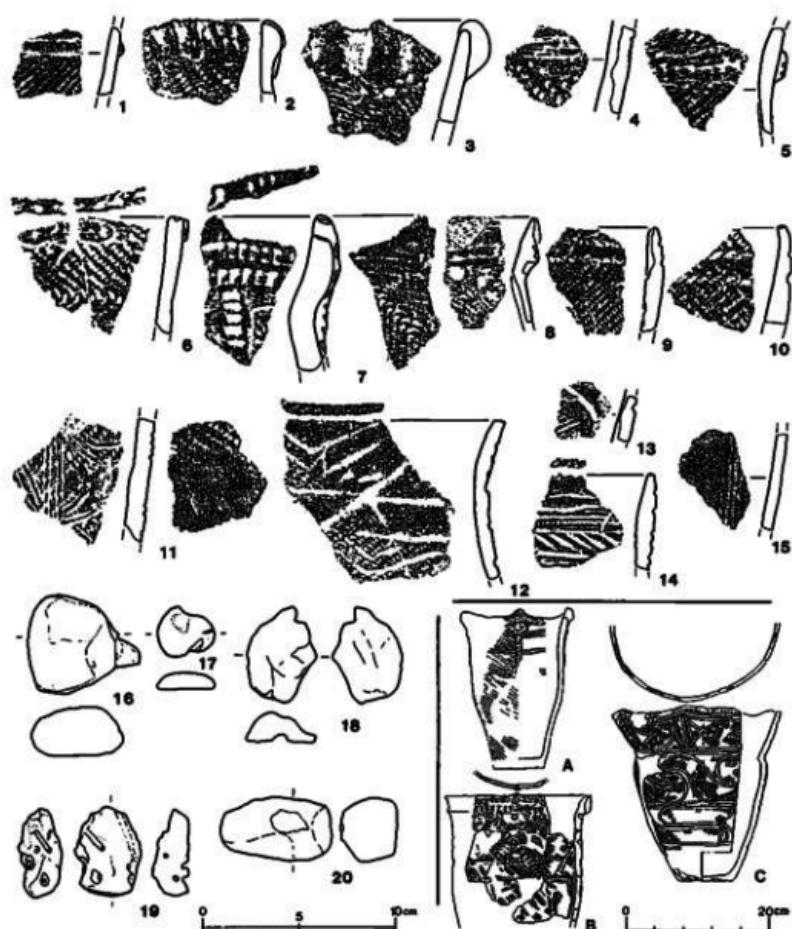
表1 土分析試料一覧

雲母類を除き約350粒を検鏡→各鉱物・生物起源粒の粒数%を求める。雲母類については検鏡粒数（約350）に含めず、その粒数が検鏡粒数の1%以上のとき「まれ」、1-10%のとき「少ない」と表現した。

火山ガラスについては形態分類を行い、各型の粒数%を求めた。形態は、主に気泡と泡壁の形状によって以下のように分類した。

F型：扁平で、気泡が繊維状に細長く平行に伸びているもの。

L-C型：気泡が破碎し、泡壁がridgeをなして直線-曲線状に走るもの。



西野幌胎土分析試料

M型：気泡と泡壁がつくる模様が網目状にみえるもの。

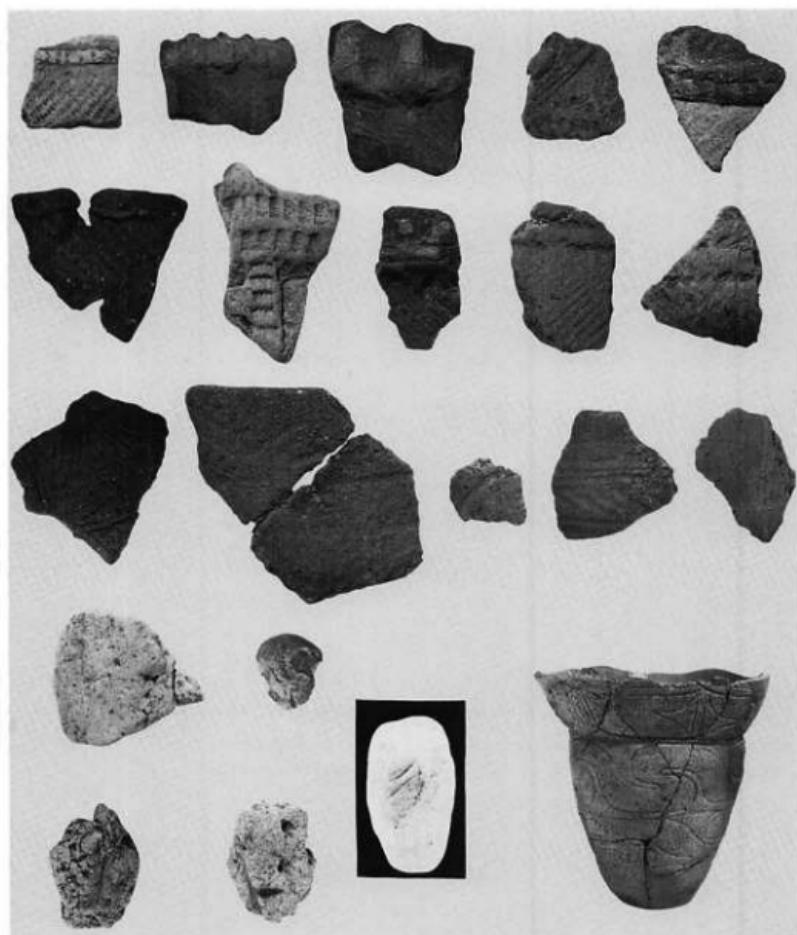
N型：扁平または塊状で、針状の気泡・条線があるもの。

P型：薄い平板状。

U T：未分類。上記の型に属さないものを一括する。ほとんどはL-C型様であるが、ridgeの形状が異なる点でL-C型とは区別する。

3. 結 果

土器の表面観察結果を表1に、胎土・焼成粘土塊・礫の極細粒砂分の一次鉱物組成を図2に



写真図版 胎土分析試料

HM: 墓物 L.M: 鮎類 BF: 生物起源物 Mc: 魚類
 Am: 角閃石 G1: 灰岩
 Opq: 不透明(鈣) 鮎類 Px: 鋼方輝石 O.Px: 鋼方輝石
 F等は火山ガラスの型 本文参照 Zr: 単斜輝石
 Po: 植物起源物 CPP: 極化顕微鏡 Diat: 球藻

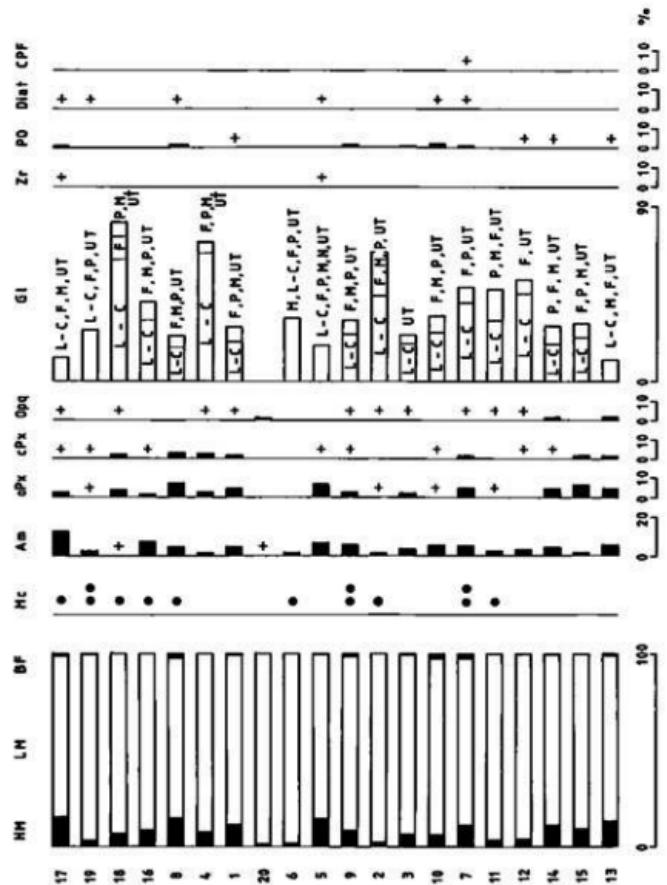


図2. 土器胎土・焼成粘土壤・礫の一次鉱物組成

凡例

示す。各試料の一次鉱物組成上の特徴は以下の通りである（試料No.は図No.に同じ）。

試料1：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は比較的多く、角閃石>斜方輝石>单斜輝石>不透明（鉄）鉱物である。角閃石は褐色種が多い。火山ガラスはL-C型が多く、次いでF型が多い。植物珪酸体を含む。

試料2：主に火山ガラスから成る。重鉱物量は少なく、角閃石>不透明（鉄）鉱物>斜方輝石である。角閃石は緑色種のみである。角閃石・斜方輝石はかなり変質している。雲母類をまれに含む。火山ガラスはL-C型が多く、次いでUTが多い。

試料3：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は比較的少なく、角閃石>斜方輝石>不透明（鉄）鉱物である。角閃石は褐色種がやや多い。火山ガラスはL-C型とUTから成り、L-C型が多い。植物珪酸体を含む。

試料4：主に火山ガラスから成る。重鉱物量は比較的多く、单斜輝石>斜方輝石>角閃石>不透明（鉄）鉱物である。角閃石は緑色種が多い。火山ガラスはほとんどL-C型から成る。

試料5：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は多く、角閃石>斜方輝石>单斜輝石>ジルコンである。角閃石はほとんど緑色種である。火山ガラスは主にL-C型から成り、次いでF型が多い。羽状目の珪藻破片を含む。

試料6：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は少なく、緑色種の角閃石を少量含む。雲母類をまれに含む。火山ガラスは主にUTから成り、次いでM型が多い。

試料7：主に火山ガラスから成る。石英を含む。重鉱物量は比較的多く、角閃石>斜方輝石>单斜輝石>不透明（鉄）鉱物である。角閃石は緑色種のみである。雲母類は少ない。火山ガラスはほとんどL-C型から成る。植物珪酸体・羽状目珪藻破片・炭化植物片を含む。

試料8：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は多く、斜方輝石>角閃石>单斜輝石である。角閃石はほとんど緑色種である。雲母類をまれに含む。火山ガラスはほとんどL-C型から成る。植物珪酸体・羽状目珪藻破片を含む。

試料9：主に斜長石から成る。石英・クリストバライトを含む。重鉱物は比較的多く、角閃石>斜方輝石>不透明（鉄）鉱物と单斜輝石である。角閃石は緑色種のみである。雲母類は少ない。火山ガラスはほとんどL-C型から成る。植物珪酸体を含む。

試料10：主に斜長石から成る。重鉱物量は比較的少なく、角閃石>斜方輝石>单斜輝石である。角閃石は緑色種のみである。火山ガラスはほとんどL-C型から成る。植物珪酸体・羽状目珪藻破片を含む。

試料11：主に斜長石と火山ガラスから成り、両者はほぼ等量である。重鉱物量は少なく、角閃石>斜方輝石>不透明（鉄）鉱物である。角閃石は緑色種のみである。雲母類をまれに含む。火山ガラスは主にL-C型から成り、次いでUTが多い。

試料12：主に火山ガラスと斜長石から成る。火山ガラス量が斜長石量をやや上回る。石英を含む。重鉱物量は少なく、角閃石>不透明（鉄）鉱物>单斜輝石である。角閃石は緑色種のみで、自形一半自形を呈し新鮮である。火山ガラスはほとんどL-C型から成る。植物珪酸体を

含む。

試料13：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は多く、角閃石>斜方輝石>不透明（鉄）鉱物=単斜輝石である。角閃石はほとんど緑色種である。火山ガラスはL-C型が多く、次いでUTが多い。植物珪酸体を含む。

試料14：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は比較的多く、斜方輝石=角閃石>不透明（鉄）鉱物>単斜輝石である。角閃石は緑色種が多い。火山ガラスはL-C型が多く、次いでP型が多い。植物珪酸体を含む。

試料15：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は比較的多く、斜方輝石>角閃石=単斜輝石である。角閃石は緑色種と褐色種がほぼ等量である。火山ガラスはL-C型が多く、次いでUTが多い。

試料16：主に斜長石と火山ガラスから成る。斜長石量が火山ガラス量をやや上回る。重鉱物量は比較的多く、角閃石>斜方輝石=単斜輝石である。角閃石は緑色種のみである。雲母類をまれに含む。火山ガラスはL-C型が多く、次いでF型が多い。

試料17：主に斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は多く、角閃石>斜方輝石>単斜輝石=不透明（鉄）鉱物=ジルコンである。角閃石はほとんど緑色種である。雲母類をまれに含む。火山ガラスはほとんどL-C型から成る。植物珪酸体・羽状目珪藻破片を含む。

試料18：ほとんど火山ガラスから成る。重鉱物量は比較的多く、斜方輝石>単斜輝石>角閃石=不透明（鉄）鉱物である。雲母類をまれに含む。火山ガラスはL-C型が多く、次いでF型が多い。植物珪酸体を含む。

試料19：主に斜長石から成る。石英・クリストバライトを含む。重鉱物量は少なく、角閃石>斜方輝石>単斜輝石である。角閃石は、褐色種が多い。雲母類は少ない。火山ガラスはL-C型が多く、次いでUTが多い。円心目珪藻破片を含む。

試料20：ほとんど全て斜長石から成る。石英を含む。重鉱物量は少なく、不透明（鉄）鉱物>角閃石である。ガラス質の粘土塊を多く含む。

4.まとめ

極細粒砂分の一次鉱物組成上の類似性から、試料を以下のように分類した。

I：重鉱物量が多く、角閃石と斜方輝石がほぼ等量で、角閃石は緑色種が多いもの。試料5・8・13・14（縄文時代中期後葉柏木川式・同北筒式・同後期中葉船泊上層式・統縄文時代後北A式）。

II：重鉱物量は少ないものから比較的多いものまである。重鉱物は主に角閃石から成り、緑色種のみである。試料9・10・12・16（縄文時代中期後葉北筒式？・同北筒式？・同後期中葉船泊上層式・焼成粘土塊）。

III：重鉱物量は比較的少ないものと比較的多いものがある。重鉱物は主に角閃石と斜方輝石から成り、角閃石は褐色種が多い。試料1・3（縄文時代早期後葉東鋼路Ⅱ式・同中期前葉円筒上層式）。

- IV：火山ガラス量が多い。重鉱物量は比較的多く、主に斜方輝石と単斜輝石から成るもの。
試料4・18（縄文時代中期後葉天神山式・焼成粘土塊）。
- V：火山ガラス量が多く、重鉱物量は少ない。重鉱物は主に角閃石から成り、緑色種のみである。試料2・11（縄文時代中期前葉円筒上層式・同後期前葉手幅砂山式）。
- VI：重鉱物量が少なく、火山ガラス型にUTとともにM型ガラスを多く含むもの。重鉱物は少量の緑色角閃石から成る。試料6（縄文時代中期後葉柏木川式）。
- VII：重鉱物量が比較的多く、主に角閃石と斜方輝石から成り、角閃石は緑色種のみのもの。
試料7（縄文時代中期後葉北筒式）。
- VIII：重鉱物量は比較的多く、主に斜方輝石から成るものの。試料15（統縄文時代後北C式）。
- IX：重鉱物量が多く、主に角閃石から成るものの。角閃石は緑色種が多い。試料17（焼成粘土塊）。
- X：重鉱物量は少ない。重鉱物は主に角閃石から成り、褐色種が多い。試料19（焼成粘土塊）。
- XI：重鉱物量が少なく、ほとんど斜長石から成るもの。試料20（砾）。
- 試料数が少ないためもあるであろうが、試料の時代・時期・型式と上記の分類型との間にはほとんど相関が認められない。ただし、試料9・10は同一原材料を使用したと推定される。また、試料16の焼成粘土塊は試料9・10・12の、試料18の粘土塊は試料4の材料となった可能性がある。
- 西野幌14遺跡出土の土器（V群c類 一縄文時代晚期後葉タンネトウL式一）の胎土分析が行われている（北埋文、1988）。西野幌14遺跡と本遺跡の試料を比較すると、西野幌14遺跡の試料No. 51・70は本報告のIに、No. 58はVに属するとみなすことができる。両遺跡を合わせるとIに属する試料が最も多い。
- 今回の分析においては、試料と胎土物質との相間が一部を除いて不明瞭であった。今後、試料数を増やすことによって、この問題が解決されるであろう。

引用文献

- 北海道埋蔵文化財センター（1988）：江別市西野幌11遺跡・西野幌13遺跡・西野幌14遺跡・下学田遺跡。186pp.
- 上條朝宏（1983）：胎土分析 I. 加藤晋平・小林達雄・藤本 強編「縄文文化の研究 5」、270 pp., 雄山閣出版: pp. 47-67.
- 小山正忠・竹原秀雄（1976）：新版標準土色帖（5版）。日本色研事業。

（花岡正光・工藤義衛）

結語

前章までに西野幌12遺跡の7年間に及ぶ発掘調査の結果を報告してきたが、遺構や遺物の個々について説明が簡略にすぎるという批判を免れえないであろう。長い間に積み残されてきた仕事量は予想をはるかに上回り、このような形に纏集するだけで多大の労力を必要とした。単年度毎に力を尽くして報告書をまとめなければ、事実関係すら曖昧なままに、記録が風化してしまう危険性の大きいことを、肝に銘じたい。

調査結果を簡単に振り返ると、調査区内最古の資料は、縄文時代早期中葉の貝殻文土器である。僅か2点と出土量は少ない。早期後葉のコッタロ式の段階では堅穴住居（H-3）がつくれられ、集落が営まれるようになる。P-141とした土壇も、住居内の一施設であった可能性が残る。H-3とほぼ同時期の堅穴住居跡は、西野幌13遺跡（北垣文1988）にも見出されている。

縄文前期では、P-101の覆土や包含層から若干の大麻V式土器の破片が得られている。

縄文中期の遺物は円筒上層式からあり、堅穴住居跡（H-1）が残された天神山式の段階で漸増、北筒式に至るや遺構や遺物が激増する。検出された住居や土壇は、比較的簡単な構造で、季節的な経済活動や一時的な作業に伴うものが多いと推定される。広範囲に分布する焼土や柱穴も、この時期のものが少なくないであろう。焼土は、花岡の分析によって、火山灰などではなく焼土と確認された。出土した北筒式土器には、器形や文様にさまざまな変化がみられ、ごく初期のものから最終段階のものまで、幅のあることが知られる。個々の出土状態や他遺跡でのセット関係などを勘案して、型式学的な序列をきわめるべきところであるが、現状では困難であり、今後の課題としたい。石器も豊富で各器種があり、黒曜石のチップや石斧を調整した片岩の剝片なども多い。ここでは道具類の加工も盛んに行われたのである。

縄文後期では、初頭から中葉にかけての資料が見出された。特に余市式系の新しい段階に位置づけられる、縄線文をもつ土器群の存在が目につく。高砂貝塚（大島1987）などでも注意されたように、結束部など節目をもつ縄文原体が多用されるようだ。

縄文晚期では、末葉のタンネトウJ式土器を伴出する土壇が検出されている。それらは、西野幌14遺跡（北垣文1988）の類例と、時間や性格をほぼ一にするものと思われる。

統縄文期の資料は初頭から後葉のものまであり、特に後北A式期のものと、後北C・D式期のものが多い。後北A式期の所産らしいビットは、調査区の中央部西側にまとまっており、東へ150m程離れた南東部でも、該期の遺物の分布が濃く、空間利用の一端が窺われる。後北C・D式期の墓壙は、北西部に80基以上集中していた。配石を伴う例が多く、土器の伴出例はそう多くない。ただし、上部に獻供された土器が、耕作によって攪乱された例もあるようだ。

その他、溝状8基、楕円形3基のTビットなどが検出されている。また、黒色土上部に残存する白色火山灰が、樽前火山灰a層に対比されることなども、花岡によって明らかとなった。

最後に、7年間に亘って御指導、御協力いただいた高橋正勝、直井孝一、園部真幸の三氏はじめ江別市教育委員会の皆様や、調査を手伝ってくれた方々に深く感謝申し上げる次第です。

（高橋 和樹）

引用・参考文献

- 石川 徹 1967 「札幌都手船の山出土の土器について」『北海道考古学』3
- 石川正夫・曾慶典 1980 20万分の1地質図紙「札幌」 北海道立地下資源開発所
- 上野秀一・羽賀寛二・高橋和樹 1975 「S256遺跡 S257遺跡 S258遺跡」札幌市文化財調査報告書ⅩⅠ
- 上野秀一・加藤邦雄 1987 「K125遺跡」札幌市文化財調査報告書ⅩⅡ
- 道原龍哉 1978 「富ヶ岡遺跡」広島町教育委員会
- 大島直行 1979 「函館内浦城の縄文時代遺跡」知内町教育委員会
- 大島直行・湘川祐郎 1982 「札幌内台地の縄文時代墓葬址」豊別市教育委員会
- 大島直行 1987 「追跡外古石の遺物」『高砂貝塚』札幌医科大学解剖学第二講座
- 大谷徳三・田村俊之 1982 「東広島遺跡における考古学的調査(下)」千歳市教育委員会
- 大沼忠春 1981 「北海道中央部の縄文中期から後期初期の編年について」『考古学雑誌』66—4
- 大沼忠春 1982 「桃北式土器」『縄文土器大成 5 縄文篇』麻績社
- 大沼忠春ほか 1983 「北海道5遺跡」北海道文化財保護協会
- 大沼忠春 1986 「追跡の現文前原土器群の編年について(Ⅱ)」『北海道考古学』22
- 大島利一・石川 徹 1956 「手稻遺跡」手稻町教育委員会
- 加藤邦雄・上野秀一・高橋和樹・土田恵佐子 1976 「T210遺跡」札幌市文化財調査報告書ⅩⅢ
- 加藤邦雄・上野秀一・羽賀寛二 1982 「S45遺跡 S320遺跡 S456遺跡」札幌市文化財調査報告書ⅩⅣ
- 加藤邦雄・上野秀一・山村英吾子 1982 「S153遺跡」札幌市文化財調査報告書ⅩⅤ
- 加藤邦雄・上野秀一・羽賀寛二・田部 淳 1983 「S356遺跡」札幌市文化財調査報告書ⅩⅥ
- 加藤邦雄・上野秀一・羽賀寛二・田部淳・山村英吾子 1983 「T151遺跡」札幌市文化財調査報告書ⅩⅦ
- 加藤邦雄・上野秀一・羽賀寛二 1984 「T464遺跡 T465遺跡 T466遺跡」札幌市文化財調査報告書ⅩⅧ
- 加藤邦雄 1987 「S270遺跡」札幌市文化財調査報告書ⅩⅨ
- 加藤邦雄・上野秀一・羽賀寛二 1987 「N295遺跡」札幌市文化財調査報告書ⅩⅩ
- 北川芳男・中村俊之 1974 「野幌丘陵周辺の第四紀に関する調査」北海道開拓記念館研究年報 第3号
- 北川芳男・矢野牧久ほか 1975 「野幌丘陵の地質と古生物」北海道開拓記念館調査報告書 第9号
- 森藤 健はか 1968 「山形遺跡」嵐山遺跡調査会
- 森藤 健・氏江敏文 1974 「松前町大河遺跡発掘報告書」松前町教育委員会
- 森藤 健はか 1981 「東室琴町武田の沢遺跡発掘報告書」東室琴町教育委員会
- 西邊守輔・田村俊之 1979 「ウサクマイ遺跡群とその周辺における考古学的調査」千歳市埋蔵文化財調査報告書Ⅺ
- 阪口 重 1987 「但馬ク文化」『考古』57—6
- 佐藤一夫・工藤 雄・宮尖矯 1976 「植苗貝塚」苫小牧市教育委員会
- 佐藤一夫・工藤 翔 1980 「苫小牧東部工業地区 埋蔵文化財調査調査報告書」苫小牧市教育委員会
- 佐藤一夫・宮尖矯 1984 「タコツコ」苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 佐藤一夫 1987 「苫小牧東部工業地区の遺跡群」苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 佐藤一夫 1981 「但馬4・元江別3」江別市文化財調査報告書ⅩⅡ
- 佐藤義範 1983 「複別C遺跡の考古学的研究」幕別町教育委員会
- 佐藤義範・北沢 実編 1985 「厚志・寒道、暖道跡」帯広市教育委員会
- 佐藤忠雄はか 1987 「霞原2」春更町教育委員会
- 岡谷アリ子 1974 (1947) 「野幌町歴史(復刊)」国書刊行会
- 岡部真幸・中村聰也 1986 「大麻15遺跡」江別市文化財調査報告書ⅩⅢ
- 岡部真幸 1987 「高砂遺跡」江別市文化財調査報告書ⅩⅣ
- 高桥正勝・加藤真志郎 1954 「北海道駅名の起源」札幌鉄道管理局
- 高橋正勝・武井孝一・園部真幸・土田恵佐子 1979 「江別大遺跡」北海道先史学協会
- 高橋正勝・直井孝一ほか 1981 「元江別遺跡群」江別市文化財調査報告書ⅩⅢ
- 高橋正勝・野中一宏ほか 1982 「蘇ヶ岡遺跡」江別市文化財調査報告書ⅩⅤ
- 高橋正勝・園部真幸 1984 「豊平河畔 七丁目沢7」江別市文化財調査報告書ⅩⅥ
- 高橋正勝・園部真幸 1985 「日置平河畔」江別市文化財調査報告書ⅩⅦ
- 高橋正勝・園部真幸 1986 「火麻3遺跡」江別市文化財調査報告書ⅩⅧ
- 高橋正勝・園部真幸・中村聰也 1986 「高砂遺跡」江別市文化財調査報告書ⅩⅨ
- 高橋正勝・園部真幸 1986 「日置平河畔V」江別市文化財調査報告書ⅩⅩ
- 高橋正勝・園部真幸 1987 「大麻21遺跡」江別市文化財調査報告書ⅩⅪ
- 田部 淳・山村リカ子・今田昭恵 1987 「T361遺跡」札幌市文化財調査報告書ⅩⅫ
- 豊原龍司 1981 「北海道東部の土器」『南洋文化の研究』4 嶺山閣
- 直井孝一編 1982 「大麻6」江別市文化財調査報告書ⅩⅩ
- 直井孝一編 1983 「大麻4」江別市文化財調査報告書ⅩⅪ
- 直井孝一編 1988 「高砂遺跡(4)」江別市文化財調査報告書ⅩⅩ
- 木川方正 1981 (1984) 「北海道駅名地名(復刻)」卓風館
- 中村 喜・芦 康彦 1970 「江別市大麻第V追跡発掘調査報告書」江別市教育委員会

- 中村 素・松下 夏 1975 「小島の汎跡」江別市教育委員会
- 野村 勝 1977 「長沼町境内タシネトク遺跡の発掘調査」空知地方史研究協議会
- 羽賀賀二郎 1988 「K482遺跡」札幌市文化財調査報告書ⅩⅩⅤ
- 長谷川 駿 1987 「エサンヌップ遺跡」門別市教育委員会
- 北海道開拓記念館 1981 「野幌丘陵とその周辺の自然と歴史」北海道開拓記念館研究報告 第6号
- 北海道教育委員会 1978 「美沢川流域の遺跡群」
- (原) 北海道埋蔵文化財センター 1980 「大麻1遺跡・内野幌1遺跡・内野幌3遺跡・東野幌3遺跡」
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1981 「大麻1遺跡」北埋調報2
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1982 「吉井の沢の遺跡」北埋調報5
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1982 「ママチ遺跡」北埋調報9
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1983 「千歳5遺跡」北埋調報12
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1983 「川上B遺跡」北埋調報13
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1984 「美沢川流域の遺跡群」北埋調報14
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1985 「千歳5遺跡」北埋調報21
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1986 「美沢川流域の遺跡群」北埋調報24
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1985 「西野幌11遺跡」北埋調報25
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1986 「川上B遺跡・C地区」北埋調報27
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1986 「小岱遺跡」北埋調報30
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1987 「ママチ遺跡」北埋調報36
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1986 「西野幌3遺跡」北埋調報39
- (原) 北海道埋蔵文化財センター 1986 「空知火2遺跡」北埋調報41
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1987 「施川2・新道4遺跡」北埋調報43
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1988 「西野幌11遺跡・西野幌13遺跡・西野幌14遺跡・下学田遺跡」北埋調報48
- (附) 北海道埋蔵文化財センター 1988 「新道4遺跡」北埋調報52
- 松下勝秀 1971 5万分の1地質図版「江別」および説明書(札幌第一第22号) 北海道地下資源調査所
- 三浦幸一 1983 「栗沢」八雲町教育委員会
- 森田知志 1981 「北海道」(純文土器大成 3 後期) 黒旗社
- 矢野牧夫・山田悟郎 1982 「北海道野幌丘陵に分布する最終承認堆植物の粘土層」北海道開拓記念館研究年報 第10号
- 山田悟郎・北川芳男 1982 「吉井の沢1遺跡における古植生の変化と埋積谷について」「吉井の沢の遺跡」北埋調報5
- 山田悟郎 1982 「萩ヶ岡遺跡の古植生について」「萩ヶ岡遺跡」江別市文化財調査報告書ⅩⅤ
- 山田秀三 1984 「北海道の地名」北海道新聞社
- 渡邊達一・佐藤一夫・工藤 敏はか 1984 「若小牧東部工業地帯 埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅵ」若小牧市教育委員会



財團法人 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第54集

西野幌12遺跡

—道立野幌総合運動公園用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成元年3月31日 発行

編集・発行 財團法人 北海道埋蔵文化財センター

〒064 札幌市中央区南26条西11丁目

TEL (011)561-3131

印 刷 中西印刷株式会社

〒065 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号

TEL (011)781-7501
